

かな や 金 屋 遺 跡 群

児玉町第2次農業構造改善事業に伴う調査報告書

1981

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

## 序

我町の歴史は古く、住民の歴史への関心も高いよう  
でございます。「かの歴史学者塙保己一を生んだ風土が、  
この町に脈々と生き続けている」そう言えるような社会  
教育がひとつの目標でございます。現在、町に残された  
多くの文化財を後世に継承することが我々の責務と考え  
その保護と活用に日々努めてまいりました。このたびの  
児玉町第二次農業構造改善の事業に係る埋蔵文化財につ  
きましても、その保存措置について、関係諸機関と再三  
の協議を重ね、現状で保存できるよう要望してまいりま  
した。しかし、どうしても現状で保存できない区域があ  
るとのこと、やむおえず万全の調査をもって記録保存と  
いう形で後世に伝えることになり調査に至ったものです。

この圃場整備に係る発掘調査は、その対象が耕作地で  
ある都合上、農作物の収穫後から年度末迄という短期間  
しかも厳冬中に行なわれたもので、調査員ならびに作  
業員の御苦勞は大変なものでした。また、この厳しい発  
掘調査がどうにか実施できましたのは、文化財の保護と  
歴史研究への情熱をもった坂本和俊先生ならびに学生諸  
氏の献身的な御協力の賜であったことも聞き及んでおり  
ます。こうした苦勞が実り、本報告書が刊行できました  
ことは、調査関係者各位の御協力とともに、国、県、町  
当局さらに住民の皆様の深い御理解と御協力の賜と存じ  
心より感謝申しあげる次第でございます。

本報告書が、広く町民の皆様や、今後の学術研究なら  
びに教育にたずさわる皆様の御参考になれば幸甚に存じ  
ます。

昭和56年 3 月

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

教育長 海 北 堅 太 郎

## 例 言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字金屋・塩谷・田端および八幡山に所在するミカド遺跡、ミカド<sup>にし</sup>西遺跡<sup>むかい</sup>・向遺跡<sup>つぶら おか</sup>・円良岡遺跡<sup>いっしょうだ</sup>・一町田遺跡<sup>かみいちのせき</sup>・上一ノ堰遺跡<sup>おつなかのせき</sup>・乙中ノ堰遺跡<sup>じゅうにてん</sup>・十二天遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、児玉町第2次農業構造改善事業に伴い、昭和52年度から昭和54年度まで、児玉町教育委員会が実施したものである。
3. 各遺跡の発掘調査年度は下記のとおりである。  
昭和52年度（ミカド遺跡、ミカド西遺跡）  
昭和53年度（向遺跡、円良岡遺跡、一町田遺跡、上一ノ堰遺跡）  
昭和54年度（乙中ノ堰遺跡、十二天遺跡）
4. 発掘調査および整理・報告書作成に要した経費は、町費・国庫補助金（文化庁）および県費補助金（埼玉県教育委員会）である。
5. 本書の編集は、坂本和俊の助言をえて鈴木徳雄があたり、飛田正美・笠原信男の協力をえた。
6. 本書の平面図に示した方位は、すべて座標北であり、断面図に示した数字は標高(m)である。また、土層の番号には、基本土層にローマ数字、遺構覆土層にはアラビア数字を用い、必要に応じてアルファベットを併用した。
7. 発掘調査および本書作成にあたって下記の方々の御助言、御協力を賜わった。記して感謝の意を表わしたい。（順不同、敬称略）  
浅野晴樹、安藤文一、石井克己、石岡憲雄、磯崎一、井上尚明、今井宏、梅沢太久夫、岡本幸男、柿沼幹夫、金子章、栗原文蔵、駒宮史郎、小茂田糸枝、笹森健一、佐藤忠雄、志村哲、菅谷浩之、鈴木純、外尾常人、高橋一夫、田口一郎、田島三郎、田辺昭三、利根川章彦、中島宏、中村倉司、中村浩、長谷川勇、早川智明、福島基継、細野雅男、増田逸朗、森田秀策、守屋幸一、山形洋一、山崎武、横川好富。
8. 本書刊行のための整理事業は、調査担当者のほか下記のものがあった。  
赤熊浩一、飯島富枝、井田富江、市川淳子、荻野喜久江、小野安司、笠原信男、雉岡恵一、雉岡泰子、栗島義明、恋河内昭彦、小泉信吾、阪本曜子、真尾とみ子、篠崎潔、住谷昭洋、田口照代、武田敦、千装智、林和代、飛田正美、福島園江、藤井尚志、森山栄一、山口逸弘、渡辺宏之。
9. 本書は、図版を中心に編集したもので、本文は別途刊行の予定である。

## 発掘参加者氏名

伊藤直吉、内田タケ子、梅沢トモ子、奥原ハツ、奥原美津子、倉村とき、倉林富江、倉林英夫、倉林正子、倉林やす子、小林歌子、小林八重子、小林陽子、柴崎のり子、渋谷いく、渋谷ひろ子、渋谷よし、島野浩、鈴木いね子、高橋和枝、竹内初代、伊達鈴子、中島トミ、中林とも子、中村福江、藤野林二、森田あき子、森本きみ子、山田松江。

赤熊浩一、市川淳子、伊庭彰一、小俣悟、笠原信男、亀井泰彦、川邨裕明、城戸剛、雉岡恵一、恋河内昭彦、小泉信吾、小暮広史、鈴木徹、住谷昭洋、関根慎二、高野義明、武田恭彰、丹野雅人、千装智、築根由起乃、角田修、出牛光弘、西口正純、樋口誠司、飛田正美、深谷敬次、福留和子、藤井尚志、堀長一郎、増山恵子、森山栄一、矢野和久、山口逸弘、吉田忠司、渡辺司。

なお、調査担当には、ミカド遺跡、ミカド西遺跡を坂本和俊が、それ以外を鈴木徳雄があたった。

### 凡 例(住居址内ドット)

- 甕
- ▲ 坏
- 高 坏
- 埴
- 手 捏
- △ 甗
- ★ 須恵器
- ☆ その他の遺物

# 目 次

## 序

第1章	発掘調査に至る経過	1
第2章	発掘調査と期間	2
第3章	金屋遺跡群の位置と環境	3
第4章	ミカド遺跡の概要	5
第5章	ミカド西遺跡の概要	141
第6章	向遺跡の概要	150
第7章	円良岡遺跡の概要	164
第8章	一町田遺跡の概要	185
第9章	上一ノ堰遺跡の概要	200
第10章	乙中ノ堰遺跡の概要	226
第11章	十二天遺跡の概要	233
第12章	金屋遺跡群の提起する問題	354

## 写真図版

# 挿 図 目 次

第1図	金屋遺跡群位置図	4
第2図	ミカド遺跡住居址及び円形特殊遺構(SZ)配置図	7
第3図	ミカド遺跡土壇及び溝配置図	8
第4図	ミカド遺跡古墳時代遺構配置図	9
第5図	ミカド遺跡平安時代以後遺構配置図	10
第6図	第1号住居址	11
第7図	第1号住居址出土土器	11
第8図	第2号住居址出土土器	12
第9図	第2号住居址及び出土土器	13
第10図	第3号住居址	14
第11図	第3号住居址出土土器	15
第12図	第4号住居址	16
第13図	第4号住居址出土土器	17
第14図	第5号住居址出土土器	18
第15図	第5、6号住居址	19
第16図	第6号住居址出土土器	20
第17図	第7号住居址	21
第18図	第7号住居址出土土器	22
第19図	第7号住居址出土土器	23
第20図	第8号住居址	24
第21図	第8号住居址出土土器	24
第22図	第9号住居址	25
第23図	第9号住居址出土土器	26
第24図	第10号住居址	27
第25図	第10号住居址出土土器	28
第26図	第11号住居址	29
第27図	第11号住居址出土土器	29
第28図	第12号住居址	31
第29図	第12号住居址出土土器	32
第30図	第13号住居址及び出土土器	33
第31図	第14号住居址及び出土土器	34
第32図	第15号住居址及び出土土器	35

第33図	第16号住居址	37
第34図	第16号住居址出土土器	38
第35図	第16号住居址出土土器	39
第36図	第17号住居址	40
第37図	第17号住居址出土土器	41
第38図	第17号住居址出土土器	42
第39図	第18号住居址出土土器	42
第40図	第18号住居址	43
第41図	第19号住居址	44
第42図	第19号住居址出土土器	45
第43図	第20、21号住居址	46
第44図	第20号住居址出土土器	47
第45図	第22号住居址	49
第46図	第22号住居址出土土器	50
第47図	第23号住居址	51
第48図	第23号住居址カマド	52
第49図	第23号住居址出土土器	53
第50図	第24号住居址	54
第51図	第24号住居址出土土器	55
第52図	第24号住居址出土土器	56
第53図	第25号住居址	57
第54図	第25号住居址出土土器	58
第55図	第26号住居址	59
第56図	第26号住居址出土土器	60
第57図	第27号a、b住居址	61
第58図	第27号a、b住居址出土土器	62
第59図	第27号a、b住居址出土土器	63
第60図	第28号住居址及び出土土器	64
第61図	第29号住居址出土土器	65
第62図	第29号住居址出土土器	66
第63図	第30号住居址	67
第64図	第30号住居址出土土器	68
第65図	第31号住居址	69
第66図	第31号住居址出土土器	70
第67図	第32号住居址	71

第68図	第32号住居址出土土器	72
第69図	第33号住居址	74
第70図	第33号住居址出土土器	75
第71図	第34号住居址	76
第72図	第34号住居址出土土器	77
第73図	第35号住居址	78
第74図	第35号住居址出土土器	79
第75図	第36号住居址	80
第76図	第36号住居址出土土器	81
第77図	第37号住居址	82
第78図	第37号住居址出土土器	83
第79図	第38号住居址	84
第80図	第38号住居址出土土器	85
第81図	第39号住居址	86
第82図	第39号住居址カマド	87
第83図	第39号住居址出土土器	87
第84図	第40号住居址	88
第85図	第40号住居址出土土器	88
第86図	第41号住居址	90
第87図	第42、43号住居址	91
第88図	第45号住居址	91
第89図	第44号住居址	92
第90図	第41号住居址出土土器	93
第91図	第42号住居址出土土器	93
第92図	第43号住居址出土土器	93
第93図	第44号住居址出土土器	94
第94図	第45号住居址出土土器	94
第95図	第47号住居址出土土器	95
第96図	第48号住居址出土土器	96
第97図	第46号住居址及び出土土器	96
第98回	第47号住居址	97
第99図	第48号住居址	98
第100図	第49号住居址及び出土土器	99
第101図	第50号住居址	100
第102図	第50号住居址出土土器	101



第103図	第50号住居址出土土器	102
第104図	第53号住居址出土土器	102
第105図	第51、53号住居址	103
第106図	第52、54号住居址	104
第107図	第55、56号住居址	104
第108図	第52図住居址出土土器	105
第109図	第54号住居址出土土器	105
第110図	第55号住居址出土土器	105
第111図	第57号住居址	106
第112図	第1号掘立柱建物址	108
第113図	第2号掘立柱建物址	109
第114図	第3号掘立柱建物址	110
第115図	第4号掘立柱建物址	111
第116図	第5号掘立柱建物址	112
第117図	第6号掘立柱建物址	113
第118図	第7、8号掘立柱建物址	114
第119図	第10号掘立柱建物址	115
第120図	第11号掘立柱建物址	116
第121図	上 第3 円形特殊遺構 下 第1 円形特殊遺構	117
第122図	上 第4 円形特殊遺構 下 第2 円形特殊遺構	118
第123図	土 壇	119
第124図	土 壇	120
第125図	土 壇	121
第126図	第31号土壇	122
第127図	第1、2号溝	123
第128図	第3、4号溝	124
第129図	第4、5、6、7号溝	125
第130図	第5号溝出土土器	127
第131回	第1号集石遺構	128
第132図	第2号集石遺構	129
第133図	その他の遺構出土土器	130
第134図	その他の遺構出土土器	131
第135図	第19号住居址内土壇出土土器	131
第136図	ミカド遺跡出土須恵器	132

第137図	ミカド遺跡出土須恵器	133
第138図	ミカド遺跡出土土器	134
第139図	ミカド遺跡出土手捏土器	135
第140図	ミカド遺跡出土手捏土器	136
第141図	SD-5 出土の灰釉陶器	137
第142図	SD-6 出土の古瀬戸	138
第143図	SB-2 柱穴覆土出土	138
第144図	集石SX-1 出土	139
第145図	包含層出土の常滑焼	140
第146図	ミカド西遺跡全測図	142
第147図	第1号住居址	143
第148図	第2、3号住居址	144
第149図	第4・5a・5b号住居址及び4号住カマド	145
第150図	第6号住居址	147
第151図	第6号住居址土層断面	148
第152図	SK-1	148
第153図	ミカド西遺跡出土土器	149
第154図	SD-3・4・5・6・7 土層断面	151
第155図	向遺跡全測図	152
第156図	(W-E) 土層断面(1)	153
第157図	(W-E) 土層断面(2)	154
第158図	(W-E) 土層断面(3)	155
第159図	(N-S) 土層断面	156
第160図	SD-1 土層断面	157
第161図	SD-2 土層断面	158
第162図	SK-3・4	160
第163図	SK-5・6	161
第164図	井戸SE-1	162
第165図	向遺跡出土土器	163
第166図	M-8-a層出土土錘	166
第167図	円良岡遺跡調査対象区と調査層位	165
第168図	円良岡遺跡全測図	166
第169図	西壁(a-a')土層断面	167
第170図	南壁(c-c')土層断面	168
第171図	南壁(b-b')土層断面	169

第172図	円良岡遺跡基本層序	171
第173図	中央発掘区(D~J-18~21区)	172
第174図	東側発掘区(F~K-21~25区)	173
第175図	西側発掘区(H~I-12~14区)	174
第176図	中央北(E~F-18~21区)水田跡	175
第177回	中央区(G~H-18~21区)水田跡	176
第178図	中央南(I~J-18~20)水田跡	177
第179図	西側発掘区(D~J-15~17)水田跡	178
第180図	S D - 1	179
第181図	中央発掘区水田跡東西断面	180
第182図	中央発掘区水田跡南北断面	181
第183図	S K - 1	182
第184図	S K - 2	183
第185図	S K - 3	184
第186図	一町田遺跡全測図(1)	186
第187図	一町田遺跡全測図(2)	187
第188図	S B - 1	188
第189図	S B - 2	189
第190図	S B - 3	190
第191図	S B - 4	191
第192図	S B - 5	192
第193図	S K - 1 S K - 7 S K - 2	193
第194図	S K - 3 S K - 4 S K - 8 S K - 9	194
第195図	S K - 5 S K - 6	195
第196図	S D - 1・2・3	197
第197図	一町田遺跡出土土器	199
第198図	上一ノ堰遺跡試掘トレンチ配置図	201
第199図	上一ノ堰遺跡全測図	202
第200図	上一ノ堰遺跡F列南側土層断面図	203
第201図	上一ノ堰遺跡F列北側土層断面図	204
第202図	上一ノ堰遺跡P列南側土層断面図	205
第203図	S B - 1	207
第204図	S B - 2 a、b	208
第205図	S B - 3	209
第206図	S B - 4	210

第207図	S B—5	211
第208図	S B—6 (S=1/40, a・bは1/20)	212
第209図	S B—7	213
第210図	S B—8	214
第211図	S B—9	215
第212図	S B—10	216
第213図	S B—11	217
第214図	S B—2a 南西隅柱・S B—5 北西隅柱穴	218
第215図	S K—1、2、4、10、11	219
第216図	S K—9、S Z—1	220
第217図	S D—1 S D—2a・b・c	221
第218図	S X—1 A・B・C	222
第219図	上一ノ堰遺跡出土土器(1)	223
第220図	上一ノ堰遺跡出土土器(2)	224
第221図	D—トレンチ西壁上層断面	227
第222図	K—トレンチ西壁上層断面(1)	228
第223図	K—トレンチ西壁上層断面(2)	229
第224図	S D—1	230
第225図	S D—1(上)およびS D—2(左)	231
第226図	乙中ノ堰遺跡全測図	232
第227図	十二天遺跡全測図(1)	234
第228図	十二天遺跡全測図(2)	235
第229図	十二天遺跡全測図(3)	236
第230図	十二天遺跡基本層序	237
第231図	第1a号住居址	238
第232図	第1a号住居址カマド	239
第233図	第1b号住居址	240
第234図	第1b号住居址カマド	241
第235図	第1号住居址出土土器	241
第236図	第2a号住居址	242
第237図	第2b・2c・2d号住居址	243
第238図	第2e・2f号住居址	244
第239図	第2f号住居址カマド	245
第240図	第2号住居址出土土器	246
第241図	第3a号住居址	247

第242図	第3a号住居址カマド	248
第243図	第3a号住居址出土土器	249
第244図	第3b号住居址	250
第245図	第3b号住居址カマド	251
第246図	第3b号住居址柱穴	252
第247図	第3b号住居址出土土器	252
第248図	第3d号住居址	254
第249図	第4号住居址	255
第250図	第4号住居址カマド・貯蔵穴	256
第251図	第4号住居址カマド・貯蔵穴断面	257
第252図	第4号住居址出土土器	258
第253図	第4a号住居址出土土器	259
第254図	第5a号住居址	260
第255図	第5a号住居址カマド	261
第256図	第5b号住居址	262
第257図	第5b号住居址カマド	263
第258図	第5c号住居址カマド	264
第259図	第5d・e号住居址・SK-40・41・42号址	265
第260図	第5号住居址出土土器	266
第261図	第6号住居址出土土器	269
第262図	第6ab号住居址	269
第263図	第7a号住居址	270
第264図	第7a号住居址カマド	271
第265図	第7b号住居址・第7b号住居址カマド	272
第266図	第7c・d号住居址・第7c号住居址カマド	273
第267図	第7号住居址出土土器	275
第268図	第8a号住居址	276
第269図	第8b号住居址	277
第270図	第8b号住居址カマド	278
第271図	第8号住居址出土土器	278
第272図	第9a1・9a3号住居址	279
第273図	第9a2・9b号住居址	280
第274図	第9b号住居址カマド	281
第275図	第9号住居址出土土器	281
第276図	第10号住居址	282

第277図	第10号住居址カマド	283
第278図	第10号住居址出土土器	283
第279図	第11号住居址・S K -46	284
第280図	第11号住居址出土土器	285
第281図	第12a・b・c住居址	286
第282図	第12e・12b号住居址	287
第283図	第12f・12g・12h号住居址	288
第284図	第12i・12j・12k号住居址	289
第285図	第12号住居址出土土器	290
第286図	S K -13号址群	291
第287図	第15号住居址出土土器	292
第288図	第13・14号住居址	293
第289図	第15a・15b号住居址	294
第290図	第16c1・16b号住居址・第16b号住居址	295
第291図	第16c2・16d・16e号住居址・16c2号住居址カマド	296
第292図	第16号住居址断面	297
第293図	S K -47・49・50・51	298
第294図	第16号住居址出土土器	299
第295図	第17号住居址カマド	300
第296図	第18a号住居址・カマド	301
第297図	第18c・18d1・18d2・18n・18o号住居址	302
第298図	第18c(上)・18b(下)号住居址カマド	303
第299図	第18e・18f・18g・18h号住居址	304
第300図	第18i・18j・18k・18l号住居址	305
第301図	第18m号住居址	306
第302図	第18d2号住居址カマド	307
第303図	第18号住居址出土土器	308
第304図	第18a・18b2号住居址間ピット内出土土器	308
第305図	S B -1(第1号建物址)	309
第306図	S B -1柱穴土層断面(1)	310
第307図	S B -1柱穴土層断面(2)	311
第308図	S D -2	312
第309図	S D -3・4・5	313
第310図	S D -3上層出土土器(須恵器)	314
第311図	S D -3出土土器(土師器)	315

第312図	S D-5 出土土器	316
第313図	S D-6・S K-16	318
第314図	S D-7	319
第315図	S D-8	320
第316図	S D-9・S K-18・19	321
第317図	S D-10	322
第318図	S E-1	323
第319図	S E-2・S D-12	324
第320図	S E-2 出土土器	324
第321図	S D-9 出土土器	325
第322図	S K-14 出土土器	325
第323図	S D-10 出土土器	325
第324図	S K-1・6・7・14	326
第325図	S K-10・30・34・35	328
第326図	S K-24・27・29・36	329
第327図	S K-11・22・25・26・31・32	331
第328図	S K-3・4・5・12・17・43・44・45	332
第329図	S K-2・8・15・20・33a・33c	333
第330図	S K-39・40・48・53	334
第331図	S K-38	337
第332図	S K-21a・21b・21c	338
第333図	S K-37a・37b	340
第334図	S K-52・S X-1	341
第335図	柱穴群(1)・S K-23a・23b・28	342
第336図	柱穴群(2)・S K-33b	344
第337図	柱穴群(3)	345
第338図	柱穴群(4)	346
第339図	柱穴群(5)	347
第340図	柱穴群(6)	348
第341図	十二天遺跡遺構外出土土器	349
第342図	第2号住居址附近出土土器	350
第343図	十二天遺跡出土の土錘	350
第344図	十二天遺跡出土の火鉢	350
第345図	十二天遺跡遺構出土の施釉陶器	352
第346図	S D-3出土の長頸壺	353
第347図	十二天遺跡出土の緑釉陶器	354

# 図 版 目 次

- 図版 1 1. ミカド遺跡より西南の丘陵を望む  
2. ミカド遺跡全景 (南より)
- 図版 2 1. ミカド遺跡西半部 (南より)  
2. ミカド遺跡西半部 (南より)
- 図版 3 1. ミカド遺跡中央部 (南より)  
2. ミカド遺跡東半部 (南より)
- 図版 4 1. ミカド遺跡東部 (南より)  
2. ミカド遺跡東端部 (南より)
- 図版 5 1. ミカド遺跡西南部 (東より)  
2. ミカド遺跡中央南半部 (北より)
- 図版 6 1. ミカド遺跡西中央部 (東より)  
2. ミカド遺跡西半部 (北より)
- 図版 7 1. ミカド遺跡第 1 号住居址遺物出土状態 (南より)  
2. ミカド遺跡第 2 号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版 8 1. ミカド遺跡第 2 号住居址貯蔵穴出土の甕  
2. ミカド遺跡第 3 号住居址遺物出土状態 (東より)
- 図版 9 1. ミカド遺跡第 3 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 3 号住居址カマド
- 図版 10 1. ミカド遺跡第 4 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 4 号住居址 (南より)
- 図版 11 1. ミカド遺跡第 5 号住居址遺物出土状態 (南より)  
2. ミカド遺跡第 5 号住居址壺出土状態
- 図版 12 1. ミカド遺跡第 5 号住居址甕・甗出土状態  
2. ミカド遺跡第 6 号住居址 (東より)
- 図版 13 1. ミカド遺跡第 7 号住居址遺物出土状態 (東より)  
2. ミカド遺跡第 7 号住居址 (西より)
- 図版 14 1. ミカド遺跡第 7 号住居址東南コーナー遺物出土  
状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 7 号住居址甗出土状態
- 図版 15 1. ミカド遺跡第 7 号住居址貯蔵穴  
2. ミカド遺跡第 8 号住居址 (東より)
- 図版 16 1. ミカド遺跡第 9 号住居址 (東より)  
2. ミカド遺跡第 9 号住居址西南コーナー遺物出土  
状態 (東より)
- 図版 17 1. ミカド遺跡第 10 号住居址 (東より)  
2. ミカド遺跡第 10 号住居址西北コーナー遺物出土  
状態 (西南より)
- 図版 18 1. ミカド遺跡第 10 号住居址埴出土状態  
2. ミカド遺跡第 11 号住居址 (西より)
- 図版 19 1. ミカド遺跡第 12 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 12 号住居址カマド
- 図版 20 1. ミカド遺跡第 13 号住居址 (西より)  
2. 児玉中学校見学風景
- 図版 21 1. ミカド遺跡第 14 号住居址遺物出土状態 (南より)  
2. ミカド遺跡第 15 号住居址 (西より)
- 図版 22 1. ミカド遺跡第 16 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 16 号住居址 (西より)
- 図版 23 1. ミカド遺跡第 17 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 17 号住居址東南コーナー遺物出土  
状態 (西北より)
- 図版 24 1. ミカド遺跡第 17 号住居址東南コーナー遺物出土  
状態 (北より)  
2. ミカド遺跡第 17 号住居址西壁寄石製模造品出土  
状態 (東より)
- 図版 25 1. ミカド遺跡第 18 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 18 号住居址 (西より)
- 図版 26 1. ミカド遺跡第 19 号住居址 (南より)  
2. ミカド遺跡第 19 号住居址石製勾玉出土状態
- 図版 27 1. ミカド遺跡第 20 号住居址 (北より)  
2. ミカド遺跡第 22 号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版 28 1. ミカド遺跡第 22 号住居址 (西より)  
2. ミカド遺跡第 22 号住居址遺物出土状態
- 図版 29 1. ミカド遺跡第 23 号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第 24 号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版 30 1. ミカド遺跡第 24 号住居址 (西より)  
2. ミカド遺跡第 24 号住居址西南コーナー遺物出土  
状態
- 図版 31 1. ミカド遺跡第 24 号住居址遺物出土状態



2. ミカド遺跡第25号住居址遺物出土状態 (東より)
- 図版32 1. ミカド遺跡第26号住居址遺物出土状態 (南より)  
2. ミカド遺跡第27号住居址東壁周辺遺物出土状態 (西より)
- 図版33 1. ミカド遺跡第28号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第29号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版34 1. ミカド遺跡第30号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第30号住居址貯蔵穴
- 図版35 1. ミカド遺跡第31号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第31号住居址 (西より)
- 図版36 1. ミカド遺跡第31号住居址東南コーナー遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第31号住居址西北コーナー遺物出土状態
- 図版37 1. ミカド遺跡第32号住居址 (西より)  
2. ミカド遺跡第33号住居址 (西より)
- 図版38 1. ミカド遺跡第34号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第35号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版39 1. ミカド遺跡第36号住居址 (南より)  
2. ミカド遺跡奥から第35、36、37号住居址 (西より)
- 図版40 1. ミカド遺跡第37号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡奥から第37、38、39号住居址 (南より)
- 図版41 1. ミカド遺跡第38号住居址 (南より)  
2. ミカド遺跡第39号住居址遺物出土状態 (西より)
- 図版42 1. ミカド遺跡第39号住居址遺物出土状態  
2. ミカド遺跡第40号住居址 (南より)
- 図版43 1. ミカド遺跡第41号住居址 (西より)  
2. ミカド遺跡第44号住居址 (西より)
- 図版44 1. ミカド遺跡第45号住居址遺物出土状態 (西より)  
2. ミカド遺跡第47号住居址 (北西より)
- 図版45 1. ミカド遺跡第48号住居址 (南より)  
2. ミカド遺跡第49号住居址 (東より)
- 図版46 1. ミカド遺跡第50号住居址 (北より)  
2. ミカド遺跡第52号住居址 (東より)
- 図版47 1. ミカド遺跡手前より第53、54号住居址 (北西より)  
2. ミカド遺跡第55号住居址 (東より)
- 図版48 1. ミカド遺跡第1特殊遺構 (南西より)  
2. ミカド遺跡第2特殊遺構 (南より)
- 図版48 1. ミカド遺跡第1特殊遺構 (南西より)  
2. ミカド遺跡第2特殊遺構 (南より)
- 図版49 1. ミカド遺跡第3特殊遺構 (東より)  
2. ミカド遺跡第3特殊遺構 (南西より)
- 図版50 1. ミカド遺跡第4特殊遺構 (南より)  
2. ミカド遺跡第38号土坑甕出土状態 (南西より)
- 図版51 1. ミカド遺跡第33号土坑須恵器甕出土状態  
2. ミカド遺跡第43土坑遺物出土状態 (西より)
- 図版52 1. ミカド遺跡第9号掘立遺構 (北より)  
2. ミカド遺跡第10号掘立遺構 (東より)
- 図版53 1. ミカド遺跡第5号溝C・D—8区周辺 (東より)  
2. ミカド遺跡第2号溝B、C—4.5区周辺 (西より)
- 図版54 1. ミカド遺跡第1、2号溝 (南より)  
2. ミカド遺跡第3号溝 (西より)  
3. ミカド遺跡第2号溝断面 (南より)
- 図版55 1. ミカド遺跡A、B、C、D—1.2.3区の遺構 (南より)  
2. ミカド遺跡D—3区周辺の柱穴
- 図版56 1. ミカド遺跡SB—3柱穴上面中世陶器出土状態  
2. ミカド遺跡SB—3柱穴下面中世陶器出土状態
- 図版57 1. ミカド遺跡第31号土坑 (西より)  
2. ミカド遺跡第47号土坑遺物出土状態 (南より)
- 図版58 1. ミカド遺跡第1号集石遺構 (西より)  
2. ミカド遺跡第1号集石遺構 (北より)
- 図版59 1. ミカド遺跡第2号集石遺構 (南より)  
2. ミカド遺跡第2号集石遺構 (北より)
- 図版60 1. ミカド西遺跡全景 (南より)  
2. ミカド西遺跡第1号住居址 (北より)
- 図版61 1. ミカド西遺跡第1号住居址鉢出土状態  
2. ミカド西遺跡第1号住居址甕出土状態  
3. ミカド西遺跡第1号住居址炉址 (北より)
- 図版62 1. ミカド西遺跡第2号住居址土器出土状態  
2. ミカド西遺跡第3号住居址土器出土状態
- 図版63 1. ミカド西遺跡第4号住居址 (北西より)  
2. ミカド西遺跡第4号住居址カマド断面

- 図版64 1. ミカド西遺跡第4号住居址カマド断面  
2. ミカド西遺跡第4号住居址カマド掘方
- 図版65 1. ミカド西遺跡第6号住居址(東南より)  
2. ミカド西遺跡第6号住居址(西北より)  
3. ミカド西遺跡第6号住居址炉址
- 図版66 1. 向遺跡全景(西より)  
2. 向遺跡全景(東より)
- 図版67 1. 向遺跡SD-1(右)SE-1(左)(南より)  
2. 向遺跡SD-2(手前)SD-3(南より)
- 図版68 1. 向遺跡SD-4・5・6(西より)  
2. 向遺跡SD-4・5・6交差部(東より)
- 図版69 1. 向遺跡SD-4・5交差部(南より)  
2. 向遺跡SE-1(南より)
- 図版70 1. 向遺跡SK-1(西より)  
2. 向遺跡SK-2(西より)
- 図版71 1. 円良岡遺跡全景(西より)  
2. 円良岡遺跡全景(北より)
- 図版72 1. 円良岡遺跡西側調査区全景(西より)  
2. 円良岡遺跡東側調査区全景(南より)
- 図版73 1. 円良岡遺跡南側水田址(北より)  
2. 円良岡遺跡中央水田址(北より)  
3. 円良岡遺跡北側水田址(北より)
- 図版74 1. 円良岡遺跡畦畔検出状態(西より)  
2. 円良岡遺跡畦畔検出状態(東より)
- 図版75 1. 円良岡遺跡東側調査区畦畔検出状態(西より)  
2. 円良岡遺跡中央調査区畦畔検出状態(北より)
- 図版76 1. 円良岡遺跡畦畔の痕跡および水田面の状態(北より)  
2. 円良岡遺跡SK-1(北より)
- 図版77 1. 円良岡遺跡SK-2(東より)  
2. 円良岡遺跡SK-3(北より)
- 図版78 1. 一町田遺跡幹線排水路部全景(北より)  
2. 一町田遺跡調査区全景(西より)
- 図版79 1. 一町田遺跡調査区全景(東より)  
2. 一町田遺跡柱穴群(東より)
- 図版80 1. 一町田遺跡SK-2(北より)  
2. 一町田遺跡SK-5(下)、SK-6(上)(西より)  
3. 一町田遺跡SB-3柱穴
- 図版81 1. 上一ノ堰遺跡試掘トレンチ全景(北より)  
2. 上一ノ堰遺跡調査区全景(北より)
- 図版82 1. 上一ノ堰遺跡建物遺構柱穴検出状態(東より)
- 図版83 1. 上一ノ堰遺跡SE-1(南より)  
2. 上一ノ堰遺跡SB-1(南より)  
3. 上一ノ堰遺跡SB-1柱穴(西より)
- 図版84 1. 乙中ノ堰遺跡調査区全景(北より)  
2. 乙中ノ堰遺跡調査区(西より)
- 図版85 1. 乙中ノ堰遺跡SD-1土層(西より)  
2. 乙中ノ堰遺跡基本土層Kトレンチ(西より)
- 図版86 1. 乙中ノ堰SD-1Kトレンチ(北より)  
2. 乙中ノ堰SD-1Eトレンチ(北より)  
3. 乙中ノ堰SD-1Gトレンチ(北より)  
4. 乙中ノ堰SD-1Cトレンチ(北より)
- 図版87 1. 十二天遺跡遠景(北東より)  
2. 十二天遺跡遠景 円良岡遺跡を望む(西より)
- 図版88 1. 十二天遺跡南側グリッド区全景(東より)  
2. 十二天遺跡南側グリッド区発掘風景(北より)
- 図版89 1. 十二天遺跡北側調査区全景(西より)  
2. 十二天遺跡北側調査区全景(西より)
- 図版90 1. 十二天遺跡第1a号住居址(西より)  
2. 十二天遺跡第2号住居址群(西より)
- 図版91 1. 十二天遺跡第3a(上)、3b(下)号住居址(西より)  
2. 十二天遺跡第3b号住居址(西より)
- 図版92 1. 十二天遺跡第3号住居址群(西より)  
2. 十二天遺跡第3号住居址群遺物出土状態(西より)
- 図版93 1. 十二天遺跡第3a号住居址カマド(西より)  
2. 十二天遺跡第3b号住居址カマド(西より)
- 図版94 1. 十二天遺跡第4号住居址(西より)  
2. 十二天遺跡第4号住居址カマド(西より)
- 図版95 1. 十二天遺跡第4号住居址紡垂車出土状態  
2. 十二天遺跡第4号住居址貯蔵穴上部遺物出土状態(西より)

3. 十二天遺跡第4号住居址貯蔵穴内遺物出土状態  
(西より)(左同住カマド)
- 図版96 1. 十二天遺跡第5a号住居址(西より)  
2. 十二天遺跡第5b号住居址(西より)
- 図版97 1. 十二天遺跡第5b号住居址カマド内遺物出土状態  
(西より)  
2. 十二天遺跡第5d号住居址カマド(西より)
- 図版98 1. 十二天遺跡第6号住居址(北より)  
2. 十二天遺跡第7号住居址群(中央)第8号住居址  
(下)とSD-8(左)
- 図版99 1. 十二天遺跡第7a(右)7b(左)号住居址(北より)  
2. 十二天遺跡7c、d号住居址(東より)
- 図版100 1. 十二天遺跡第7号住居址群(東より)  
2. 十二天遺跡第7a号住居址カマド内遺物出土状態  
(北より)
- 図版101 1. 十二天遺跡第11号住居址(北より)  
2. 十二天遺跡第11号住居址カマド(西より)
- 図版102 2. 十二天遺跡SD-1(東より)  
2. 十二天遺跡SD-8(東より)  
3. 十二天遺跡SD-3(上)、SD-5(下)遺物出土状態  
(北より)
- 図版103 1. 十二天遺跡(下から)SD-13(下)SD-14、15(上)  
(北より)  
2. 十二天遺跡SD-4(上)、3(中)、5(下)、(北より)
- 図版104 1. 十二天遺跡SD-5(西より)  
2. 十二天遺跡SD-14(東より)
- 図版105 1. 十二天遺跡SK-1(北より)  
2. 十二天遺跡SK-52(西より)  
3. 十二天遺跡SK-7(北より)
- 図版106 1. 十二天遺跡SK-6(北より)  
2. 十二天遺跡SK-35(東より)
- 図版107 1. 十二天遺跡SK-2(北より)  
2. 十二天遺跡SK-4(東より)  
3. 十二天遺跡SK-10(西より)
- 図版108 1. 十二天遺跡SK-11(北より)  
2. 十二天遺跡SK-12(北より)
- 図版109 1. 十二天遺跡SK-9(西より)  
2. 十二天遺跡SK-52(左)、SK-16(右)(西より)
- 図版110 1. 十二天遺跡SK-38(北より)  
2. 十二天遺跡SK-38(西より)  
3. 十二天遺跡SK-35(左)、SK-37ab(東より)
- 図版111 ミカド遺跡第1・2号住居址出土土器
- 図版112 ミカド遺跡第2号住居址出土土器
- 図版113 ミカド遺跡第2・3号住居址出土土器
- 図版114 ミカド遺跡第3・4号住居址出土土器
- 図版115 ミカド遺跡第4・5・7号住居址出土土器
- 図版116 ミカド遺跡第6・8・9号住居址出土土器
- 図版117 ミカド遺跡第10号住居址出土土器
- 図版118 ミカド遺跡第11・12・13・14・15号住居址出土土器
- 図版119 ミカド遺跡第15・16・17号住居址出土土器
- 図版120 ミカド遺跡第16・17号住居址出土土器
- 図版121 ミカド遺跡第17号住居址出土土器
- 図版122 ミカド遺跡第17・18号住居址出土土器
- 図版123 ミカド遺跡第17・18・19号住居址出土土器
- 図版124 ミカド遺跡第19・20号住居址出土土器
- 図版125 ミカド遺跡第22号住居址出土土器
- 図版126 ミカド遺跡第23号住居址出土土器
- 図版127 ミカド遺跡第23号住居址出土土器
- 図版128 ミカド遺跡第24号住居址出土土器
- 図版129 ミカド遺跡第24・25号住居址出土土器
- 図版130 ミカド遺跡第26号住居址出土土器
- 図版131 ミカド遺跡第26・27・28号住居址出土土器
- 図版132 ミカド遺跡第27号住居址出土土器
- 図版133 ミカド遺跡第27・28・29号住居址出土土器
- 図版134 ミカド遺跡第29・30号住居址出土土器
- 図版135 ミカド遺跡第30・31号住居址出土土器
- 図版136 ミカド遺跡第31・32号住居址出土土器
- 図版137 ミカド遺跡第31・32・33・34号住居址出土土器
- 図版138 ミカド遺跡第32・34号住居址出土土器
- 図版139 ミカド遺跡第35号住居址出土土器
- 図版140 ミカド遺跡第36・37・38号住居址出土土器
- 図版141 ミカド遺跡第38号住居址出土土器

- 図版142 ミカド遺跡第38・39号住居址出土土器
- 図版143 ミカド遺跡第39・40号住居址出土土器
- 図版144 ミカド遺跡第41・42号住居址出土土器
- 図版145 ミカド遺跡第43・44・45・46号住居址出土土器
- 図版146 ミカド遺跡第47号住居址出土土器
- 図版147 ミカド遺跡第47・48号住居址出土土器
- 図版148 ミカド遺跡第48・49・50号住居址出土土器
- 図版149 ミカド遺跡第50・51号住居址出土土器
- 図版150 ミカド遺跡第52・53号住居址出土土器
- 図版151 ミカド遺跡第53・55号住居址出土土器
- 図版152 ミカド遺跡出土土器
- 図版153 ミカド遺跡出土須恵器
- 図版154 ミカド遺跡出土須恵器

# 第1章 発掘調査に至る経過

## 調査の原因

児玉町第2次農業構造改善事業に伴う児玉町金屋南部・北部区域圃場整備事業の実施計画が、町教育委員会に連絡されたのは昭和51年秋であった。この事業計画は、施工対象面積約113.9haの規模をもち、昭和52年度から昭和55年度までの4ケ年で実施しようとするものであった。

文化財保護の本格的な調整に入ったのは、工事実施計画が打ち出された昭和52年度からである。

町教育委員会は、この工事実施計画を検討し、昭和52年8月17日付、児教第290号をもって「文化財の所在および取扱いについて」の照会文書を県教育長宛に提出した。同年9月県教育局文化財保護課柿沼幹夫主事が現地の遺跡範囲の確認を行い、その結果をもとに教文第650号をもって、次のような回答があった。

1. 文化財の所在、別紙7ヶ所。
2. 上記文化財包蔵地については、現状保存できるような計画を立案することが望ましい。
3. やむをえず現状変更する場合には、文化財保護法第57条の3の規定により文化庁長官に通知し、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。
4. 昭和52年度工事区域において、発掘調査を要する区域は、別添図面のとおりである。
5. 昭和52年度発掘調査に要する経費は、国庫補助事業として、4,000,000円である。
6. 条里跡については、現状測量図（縮尺1,000分の1）の原図（マイラーベース）を教育局文化財保護課へ提出されたい。
7. 昭和53年度以降の実施区域には、規模の大きい遺跡が多数所在している。現在の埋蔵文化財発掘調査体制を考慮の上、極力遺跡が現状保存できるような設計とするよう配慮されたい。

## 調査担当者

町教育委員会は、以上の回答に基き協議した結果、昭和52年度の発掘調査は担当者を坂本和俊氏（県立本庄高校定時制教諭）に依頼し、昭和53年度以降については、教育委員会に専門職員を配置し調査を担当することとした。昭和52年度の発掘調査は1月6日より開始された。

## 調 整

昭和53年5月の現地踏査の結果、周知の遺跡に加えて、新たに3ヶ所の遺跡が発見された。調整は、以上の成果をふまえ県文化財保護課の指導のもとに遺跡ごとの遺構確認面のレベルと工事の切り盛り計画のレベルをチェックし、遺跡範囲内の「表土扱い」に注意して行なった。調査対象区は、工事あるいは施工後の耕作によって遺構確認面の現状が変更される区域に限定された。

（教育委員会事務局）

## 第2章 調査の経過と期間

金屋遺跡群の発掘調査は、〈1、調査対象区の設定 2、遺構確認面の検出と基本層序把握のための試掘調査（トレンチの設定は、a、地形にもとづく任意の設定 b、圃場整備の工区にもとづく任意の設定 c、6のグリッドにもとづく設定）3、基本層序の記録 4、重機による表土および遺構確認面被覆土層の除去 5、人力による遺構確認面被覆土層の排除と遺構の検出 6、国土地理座標にもとづくグリッドの設定（ミカド遺跡は10×10m、他の遺跡は、4×4mのグリッドを用いた） 7、遺構の調査と記録〉の7段階を、遺跡の現状や期間に応じて、下記のように実施した。

### 調査の経過

ミカド遺跡 2 a（放射状トレンチ）→1→4→5→6→7  
 ミカド西遺跡 1→4（耕作土直下が確認面と予想されたため）→5→6→7  
 向遺跡 1→2 b→4（Ⅲ層中位まで）→5→3→6→7  
 円良岡遺跡 1→2 b→3→4→5→6→7（圃場整備計画の変更のため）→7  
 一町田遺跡 1→2 b（第8章に示した過去の開発の時期と規模をつかむため）→1→3→4→5→6→7  
 上一ノ堰遺跡 1→2 C→3→6（遺物分布の概要を把握するため）→5→7  
 乙中、堰遺跡 1→2 C→3→7（遺構確認面が深く工事が及ばないため）  
 十二天遺跡 1→6（表土が浅く軟質のため）→5→3→7

### 調査の期間

以上の遺跡の発掘調査は、昭和52年～54年度3ヶ年で実施したもので、期間は第一表に示したとおりである。  
 （鈴木徳雄）

年度	52			53												54												
月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調査期間	6 MDI II			1 31 I			30 MK TR 8						17 5 KM 10 IC 30 30 20						20 JN 7 10 30 OT									
凡例	MDI:ミカド遺跡			MK:向遺跡						KM:上一ノ堰遺跡						JN:十二天遺跡												
例	MDII:ミカド西遺跡			TR:円良岡遺跡						IC:一町田遺跡						OT:乙中ノ堰遺跡												

第1表 発掘調査の実施期間

### 第3章 金屋遺跡群の位置と環境

#### 位 置

金屋遺跡群の所在する埼玉県児玉郡児玉町は、埼玉県の北西部に位置し、東は美里村、南は秩父郡長瀬町および皆野町、西は神川村と神泉村、北は上里町と本庄市に接している。児玉町は、総面積の26%が山林、約32%が耕作地である。耕作地面積のうち水田の占める割合は低く畑地との比はほぼ3：7である。水田は、小河川に沿った帯状の低地に展開し、金屋遺跡群（圃場整備地区内遺跡）も赤根川に沿った低地帯に相当している。圃場整備前の地区内の地目の割合は、水田29%、普通畑が38%、桑園が32%でやはり畑地、桑園の占める比率が高い。

#### 地 形

この遺跡群の主要部を構成する低地の西側には、武蔵野面に相当する台地があり出し、それらは西側で新第三紀層の砂岩、泥岩等を基盤とする児玉丘陵に接している。更に児玉丘陵は、八王子-高崎構造線の一部をなす断層崖を境に上武山地に連なり、本遺跡群の中央を流れる赤根川は、その断層崖下より流れ出している。本遺跡群の周辺は、この赤根川によって開析された低地が発達し、低地内の微高地には、この川によって運ばれた鉄分の多い砂礫層が堆積している。また、開析の及ばなかった、武蔵野面相当の台地に接する地点では、立川面相当の低い台地が残存しており、これに接して低地内微高地の発達が認められることも多い。現在、立川面相当の台地と低地との比高差は非常に小さく、50～100cm程である。しかし、立川面相当の台地上に存在する十二天遺跡に隣接する円良岡遺跡では、古代の面が現表より80～100cm程下位にあり、また他の金屋遺跡群内の低地に存在する遺跡の多くが、古代以来50～120cmの堆積を示していることから、古代においては立川面相当の台地と低地の比高差は現在よりも大きく、1.5～2m程であったと考えられる。

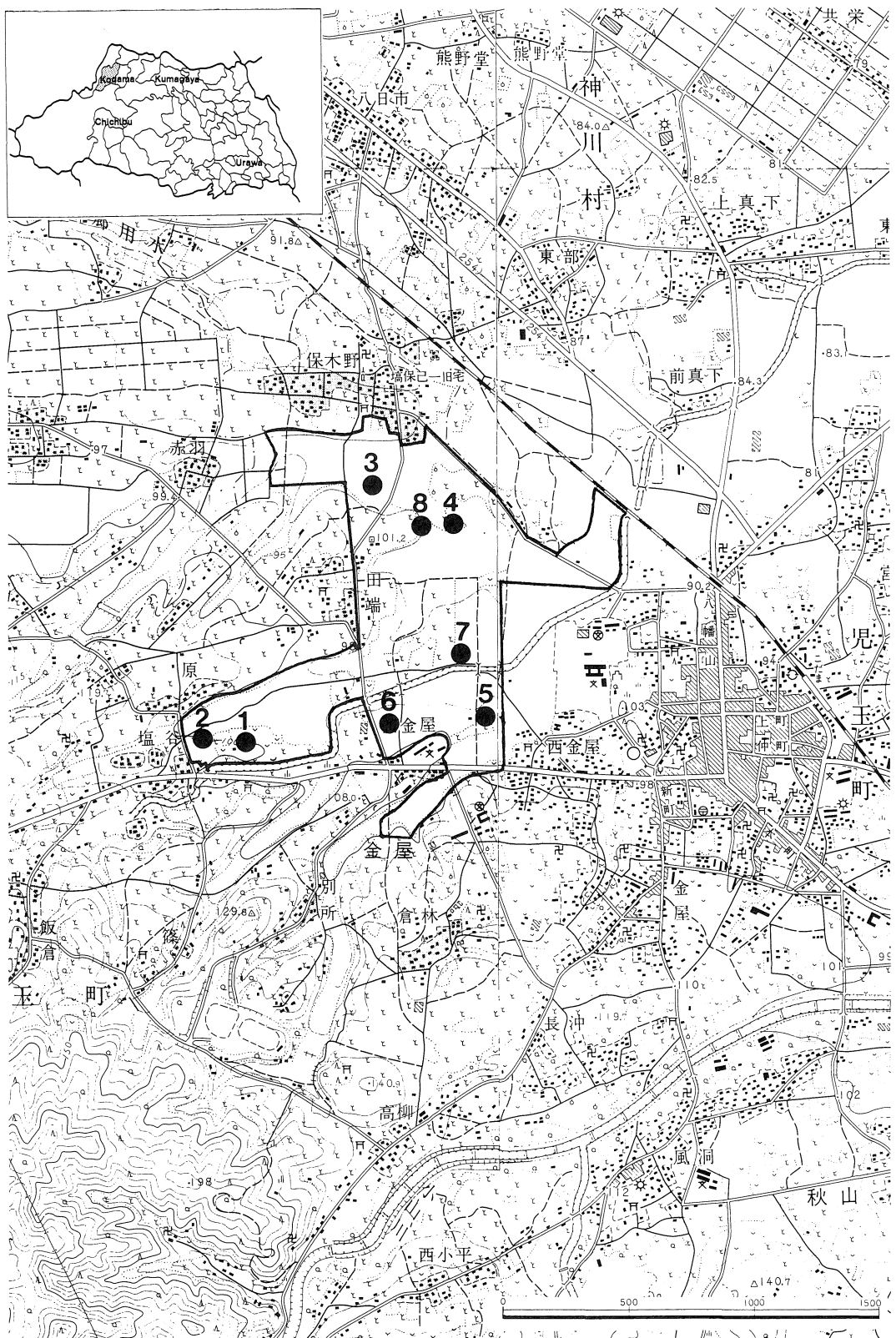
#### 遺跡の占地

この立川面相当の台地上に<sup>(注1)</sup>占地する遺跡には、ミカド西遺跡（第1図2）、向遺跡（3）、十二天遺跡（8）がある。また低地内微高地に存在する遺跡には、ミカド遺跡（1）、一町田遺跡（5）、上一ノ堰遺跡があり、低地上に存在する遺跡に円良岡遺跡（4）、乙中ノ堰遺跡（7）がある。

金屋遺跡群周辺の遺跡の占地は、縄文～弥生の各時期の遺跡が、武蔵面相当の台地や丘陵部に偏しているのに対し、古墳期に入ると立川面相当の台地や低地内微高地上に占地するものも増加する傾向を示している。これは用排水技術の画期を示すものと考えられ、何らかの形で赤根川の治水を意味しているよう。本遺跡群より赤根川を遡ると飯倉古墳群が存在し、更に上流には延喜式内社金鑽神社の旧社地に<sup>(注2)</sup>比定されるという、若宮神社がある。（鈴木徳雄）

（注1）堀口万吉（1978）「埼玉県の地形と地質」埼玉県市町村誌第20巻を参考にした。

（注2）坂井久能（1976）「武蔵国金鑽神社の研究」国学院雑誌第77巻8号



第1図 金屋遺跡群位置図



ミカド遺跡

## 第4章 ミカド遺跡の概要

### 遺跡の名称

ミカド遺跡の名称は、第2次農業構造改善事業南部地区圃場整備昭和52年度事業に伴って調査した2地点の遺跡に、所在地の小字名三角からつけたものである。しかし、遺跡の形成時期や地形などを調査後に検討した結果、2地点の遺跡は別なものと捉えることが妥当であると判明したので、今後は従来のミカド遺跡第1地点にミカド遺跡の呼称を使用することにする。なお、地元では小字三角の地域をミカド及びミスミと呼んでいるようであるが、郡衙所在推定地に多い地名であるミカドを遺跡名としたのは、圃場整備施行後には失われてしまうであろう歴史的地名を記録保存することも配慮したからである。

本遺跡は、ミカド西遺跡の調査担当者を依頼された坂本和俊が調査範囲確認のために現地踏査を行なって、大幅な土の削平計画がある区域にも遺跡の存在が予測されると指摘するまで、県文化財保護課の指導で立てられた圃場整備に伴う発掘調査計画に入っていなかったものである。そのため、調査はミカド西遺跡に用意された費用と期間を調整して行なうということになった。こうした中で、圃場整備の設計変更を行ない、削平面積を減らすことによって、調査区の調整も行なわれたが、圃場整備後の現地をみると調査区よりも現状保存区域のレベルが低くて、未調査区域での遺跡破壊がかなり行なわれてしまった。

### 遺跡の範囲

遺跡の範囲は、全測図（第2図）に示したA線より東へ30m・I線より西へ50m・10線より南へ30m・1線より北へ30m以上広がるのが工事中に破壊された竪穴住居址や地形から考えられるので、東西160m・南北150m以上の規模で、面積16,000㎡以上に達すると推定される。発掘調査区域は、設計変更による調整が困難で削平によって遺跡が消滅する範囲の中でも、竪穴住居址の分布密度が高い約6,500㎡を対象にした。

検出された遺構は、五領期の竪穴住居址1軒（21号住）、鬼高期の竪穴住居址57軒、同期の円形特殊遺構4基、同期の土壇24基、国分期の竪穴住居址3軒（43・46・54号住）、同期と思われる掘立柱建物址2棟、同期の溝状遺構1本（SD-5）、中世の集石遺構2基、同基の土壇9基、同期の掘立柱建物址9棟、同期の柱穴784ヶ所、同期及びそれ以降と思われる溝状遺構8本、中世以降の畝状遺構4本、時期不明の土壇48基などである。

### 鬼高期の住居址

鬼高期の竪穴住居址は、A線の東側及びI線の北側の調査区域外にも存在したが、全体的にみて地形が低い東部及び北部に分布密度が低く、地形が高い西南部及び、トレンチで遺構確認を行なった10線より南側が分布密度が高いと考えられる。従って、今回の発掘調査は集落の中心部分の一部に当たったが、集落全体の半分弱を検出したに過ぎないと推定される。住居址の規模は、長辺6.5

m前後の大型のもの、5 m前後の中型のもの、4 m以下の小型のものに分類されるが、中型のものが半数以上である。平面プランは、規模にかかわらず、四辺がほぼ等しい正方形のものが少なく、長方形気味で、コーナーが直角をなさないものが多い。柱穴の配置は、検出されないものもあったが、小規模のものを除くと、基本的には4本の支柱穴からなるものと考えられる。カマドは、一辺約3 m以下で長方形の傾向が強いことから通常の竪穴住居址とは別の機能が考えられるものを除いては、いずれも付設されていたと考えられる。その付設方向は、圧倒的に東壁に多いが、北壁及び西壁のものも存在し、時期的な問題も考える必要がある。貯蔵穴は、カマドの右側にあるものが多いが、西壁及び北壁にカマドがあるものは左側にあるものが多く、別の位置にあるものや存在しないものもある。いずれにしろ、貯蔵穴とカマドの位置には関係がある。

#### 円形特殊遺構

円形特殊遺構は、円形溝と報告したもので、形態や規模に差が見られる。第1遺構と第2遺構は円形溝の一部が切れるもの、第3遺構は円形溝が二重に廻るものであるが重複の可能性もあり、第4遺構は円形溝の切れる所に直線溝が存在するものである。規模は、第1遺構が長径約4 m、第2遺構が長径約5.1 m、第3遺構が外側の溝の長径約5.3 m、内側の溝の長径約4.3 m、第4遺構が長径約5.6 mである。溝の断面形は、竪穴住居址の壁溝のようなU字形で、幅30 cm前後、深さ5～10 cm位である。これらの遺構は、溝及び周辺から鬼高式土器を出土すること、竪穴住居址の存在しない空間に位置する傾向があることなどから、集落と密接な関係にあると考えられる。また、第4遺構の中にある第42号土壇から石製模造品20点が出土したこと、遺構の周辺に土器と炭化物混じりの有機物層の多いことなどは遺構の機能を考える上で重要である。

#### 土壇

土壇は検出された遺構の中では、柱穴について数の多いもので、形態も様々であり、時期も一様でない。その上、調査期間に制約があったので、土層の観察が十分でなく、時期や機能を捉えられたものが少ない。遺物から鬼高期と捉えられたものは、33号土壇（須恵器甕出土）、38号土壇（土師器甕出土）、42号土壇（石製模造品出土）などで、径60 cm前後の円形に近いもので、底部が丸底に近い。これらは、集落祭祀に関係すると思われる。かわらけの出土から、中世と捉えられたものは、44号土壇、47号土壇、48号土壇、50号土壇などで、周辺に石が存在し墓でないかと考えられる。31号土壇も類例から中世と考えられるもので、煙道を持ち、周壁が焼け、骨片を出土するものである。

#### 掘立柱建物址

掘立柱建物址は、国分期のものと中世のものに分類したが、後者は図上復原によるもので問題が無いわけではない。第1、11掘立柱建物址などは、古墳時代の可能性も残る。また、柱穴の多くは、掘立柱建物址であったろう。

#### 溝状遺構

溝状遺構は、時期と礫層の堆積の有無で分類される。SD-5やSD-7は底に砂礫層が堆積し水の流れが想定されるが、他は粘土質の堆積である。

(坂本和俊)



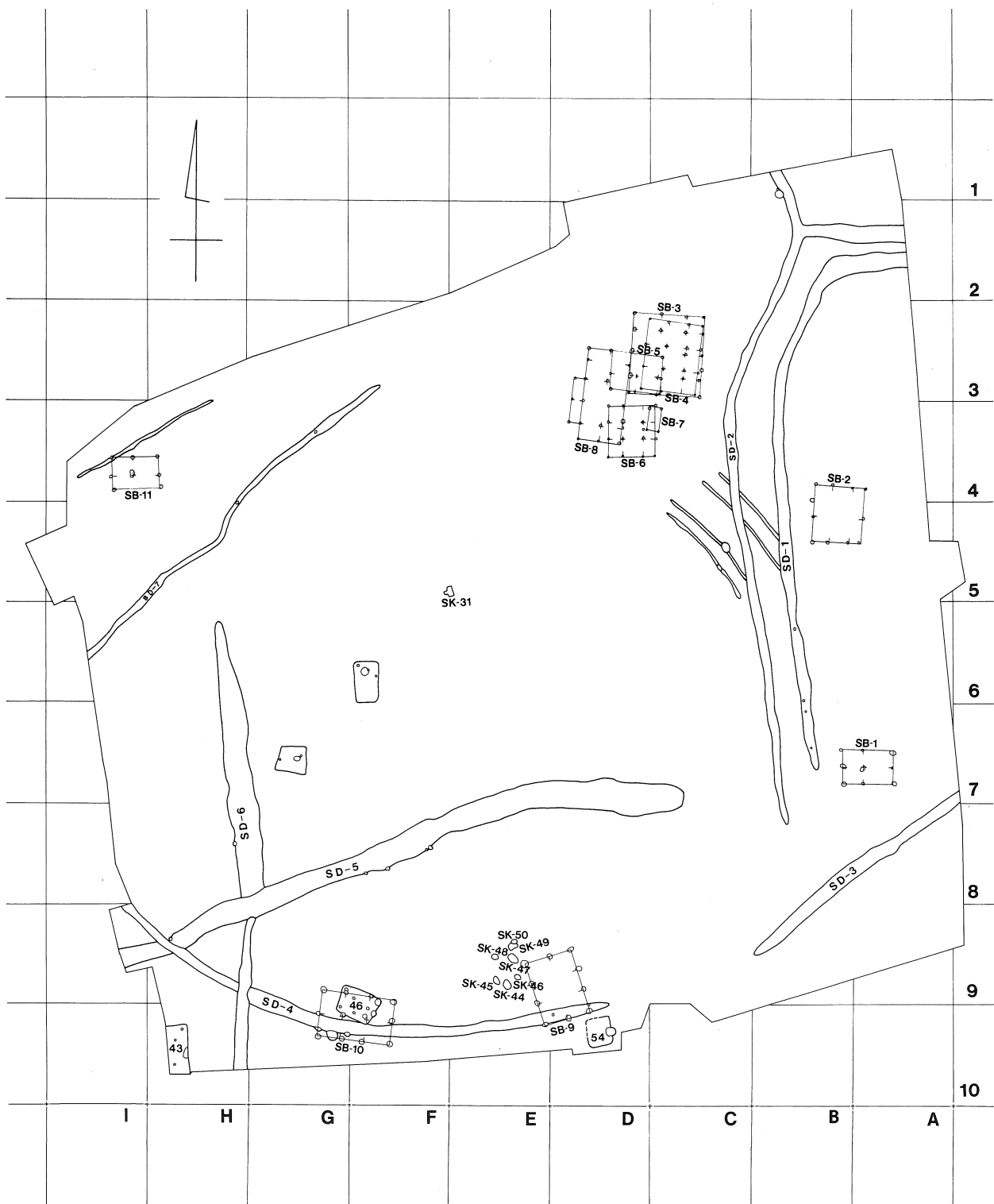
第2図 ミカド遺跡住居址及び円形特殊遺構（SZ）配置図



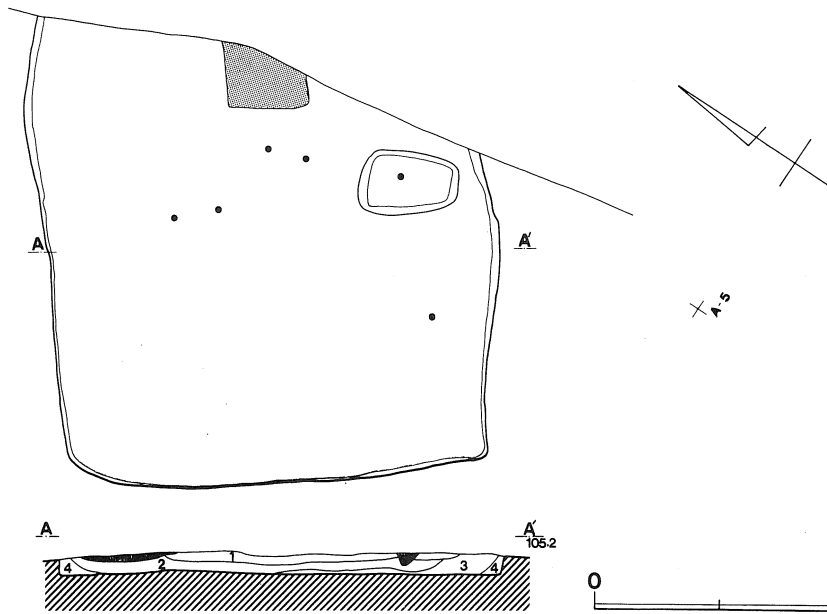
第3図 ミカド遺跡土壇及び溝配置図



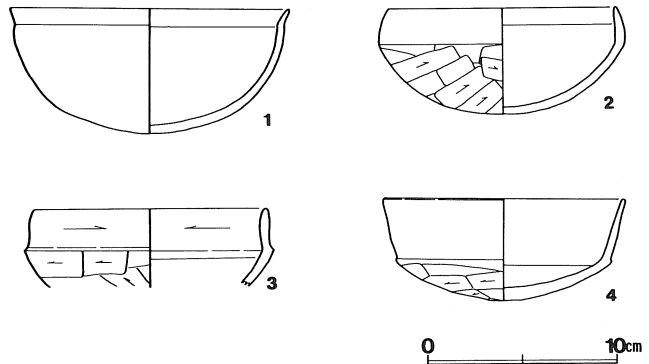
第4図 ミカド遺跡古墳時代遺構配置図



第5図 ミカド遺跡平安時代以後遺構配置図



第6図 第1号住居址



第7図 第1号住居址出土土器

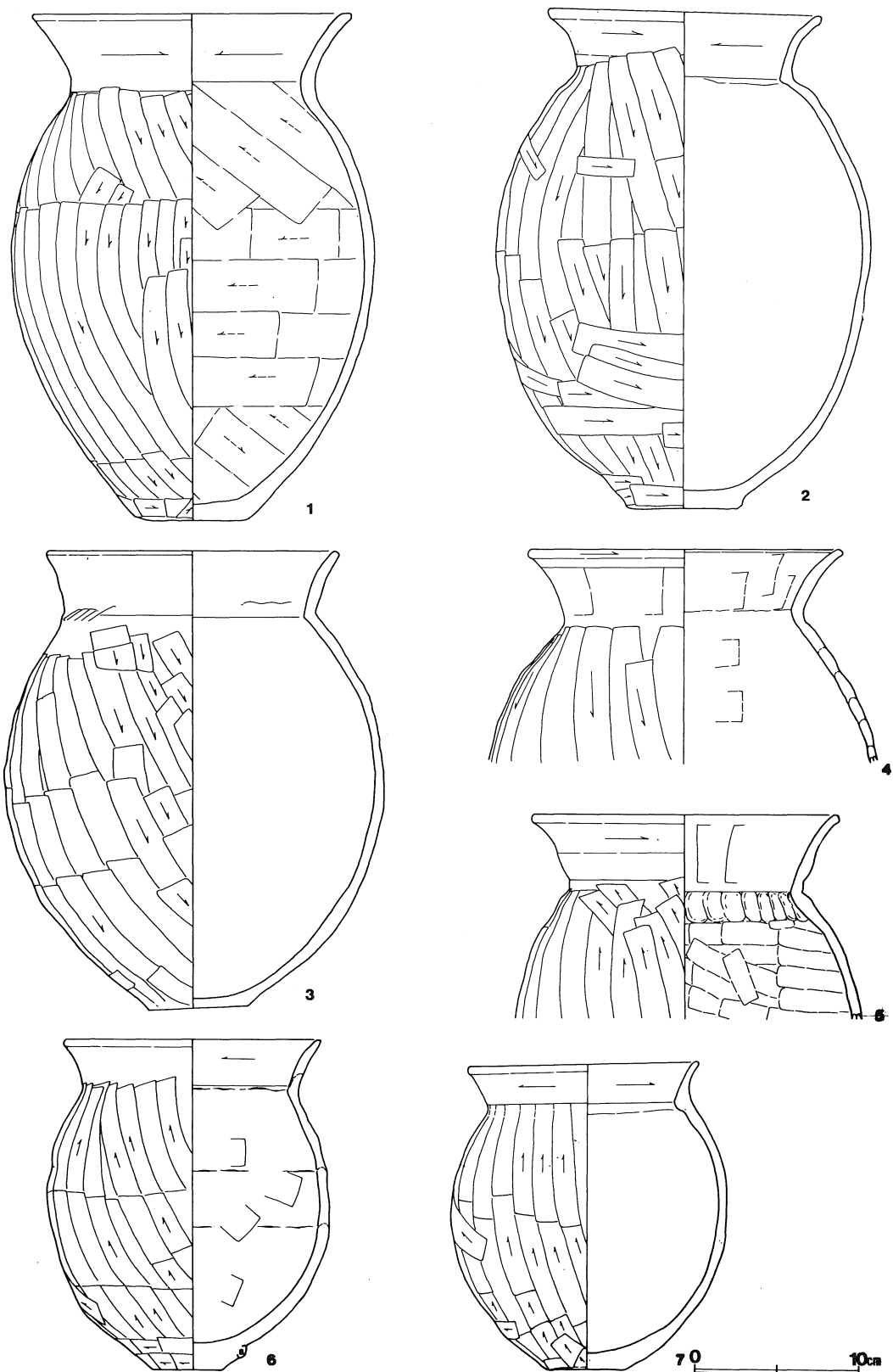
第1号住居址土層註

- 1層 黒褐色土層（焼土粒、0.1～2mmの砂を少量含む。）
- 2層 黒褐色土層（焼土粒、0.1～2mmの砂を少量含むが、1層より少なく粘性が強い。）
- 3層 暗褐色土層（焼土粒を多く含む、粒子が細かい。）
- 4層 暗褐色土層（地山土を多く含む、粘性が強い。）
- 地山 褐色土層（粘土と砂でしまっている。）
- 明度 1 > 2 > 3 > 4 > 地山

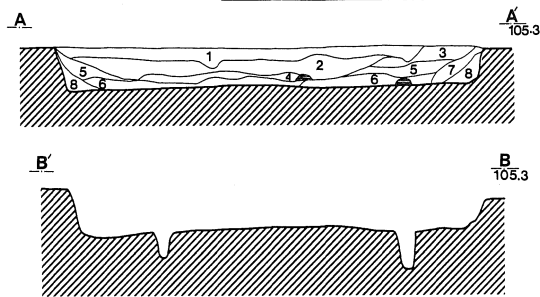
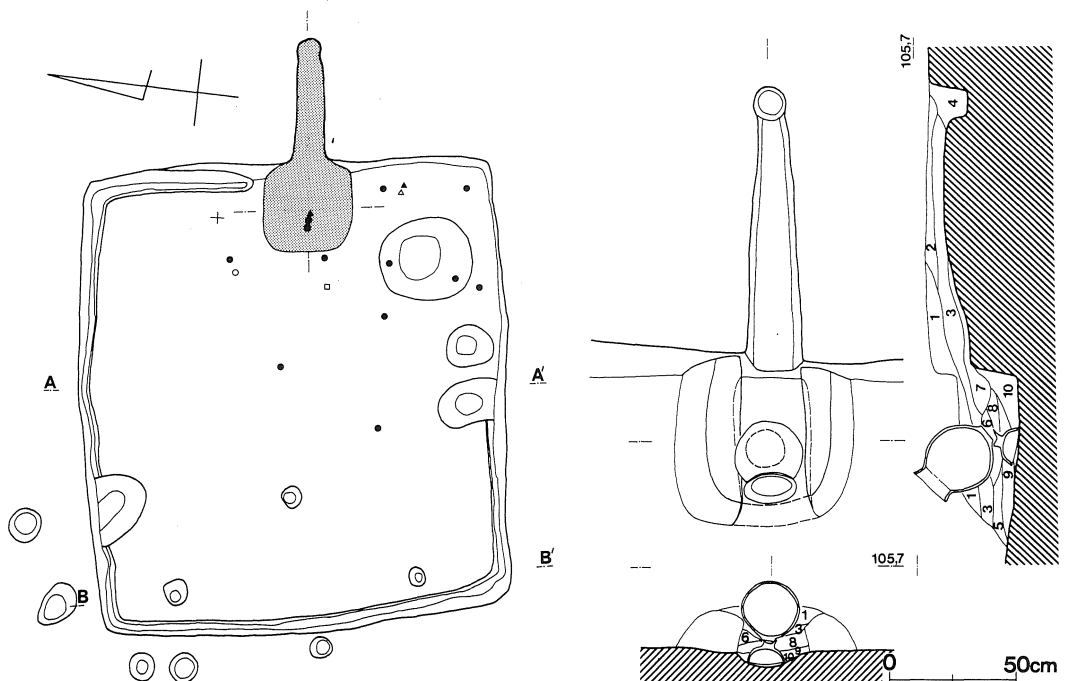
第2号住居址土層註

- 1層 暗褐色土層（砂粒、粘土粒子を含み、しまっている。）
- 2層 黒褐色土層（3～5mm程の砂を少量含む、比較的軟かい。上下層と不連続な境界を示す。）
- 3層 暗褐色土層（0.5～1cm程の砂を少量含む、2層より砂質である。）
- 4層 灰褐色土層（細かい砂粒、粘土粒を含み、しまっている。5層より暗い色調である。）
- 5層 灰褐色土層（細かい砂粒、粘土粒を含み、しまっている。）
- 6層 暗褐色土層（粘土を多量に含む、遺物を多量に包含する。）
- 7層 黒褐色土層（5層より粘土多く、しまっている。）
- 8層 黒褐色土層（粘土、炭化物、焼土を多く含む。）



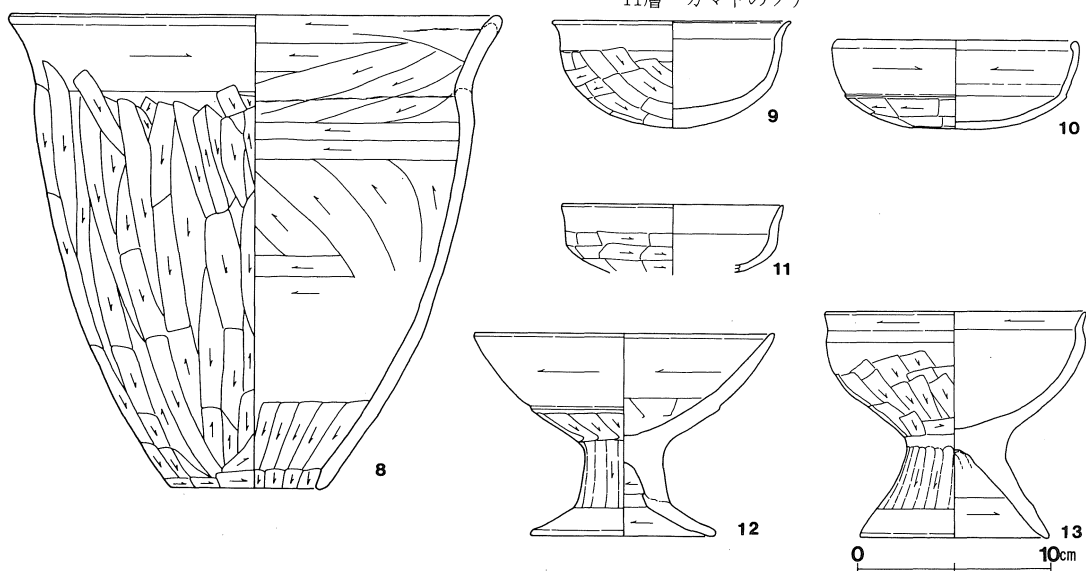


第8图 第2号住居址出土土器

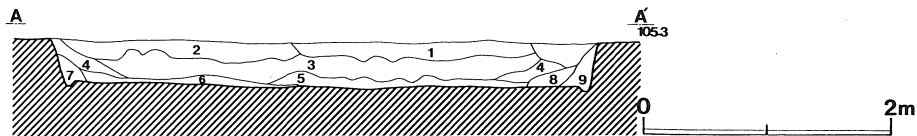
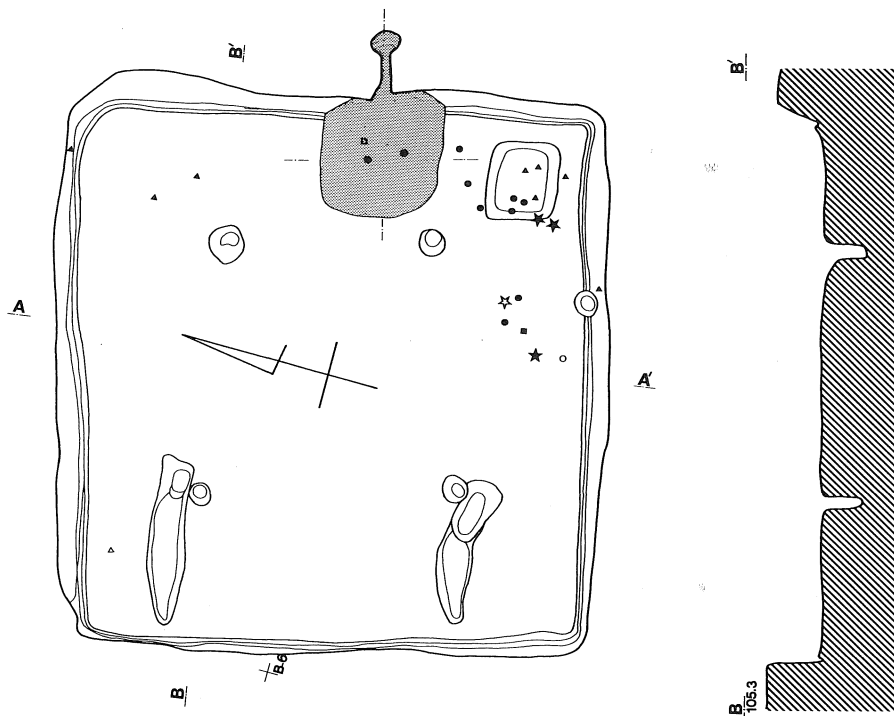


第2号住居址カマド土層註

- 1層 褐色砂泥（粘土に住居址覆土を含む。）
- 2層 褐色砂泥（1層に類似するが焼土粒を含む。）
- 3層 黄褐色砂質粘土（焼土粒を含む。天井部。）
- 4層 暗褐色砂泥（砂、粘土、焼土粒子を含む。）
- 5層 黄褐色砂質粘土（多量の焼土粒子を含む。）
- 6層 灰層（多量の焼土粒子を含む。）
- 7層 暗褐色砂泥（粘土および多量の焼土粒子を含む。）
- 8層 灰層（焼土ブロックを多く含む。）
- 9層 焼土層（砂質粘土のやけたもの。）
- 10層 黄褐色砂質粘土（焼土粒子を少量含む。）
- 11層 カマドのソデ



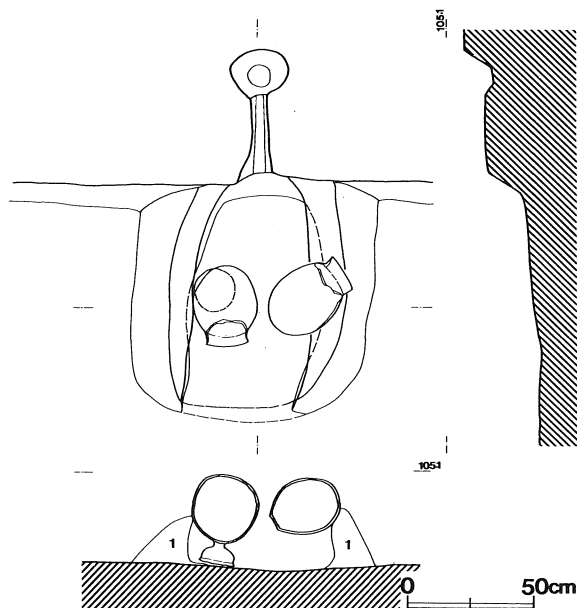
第9図 第2号住居址及び出土土器



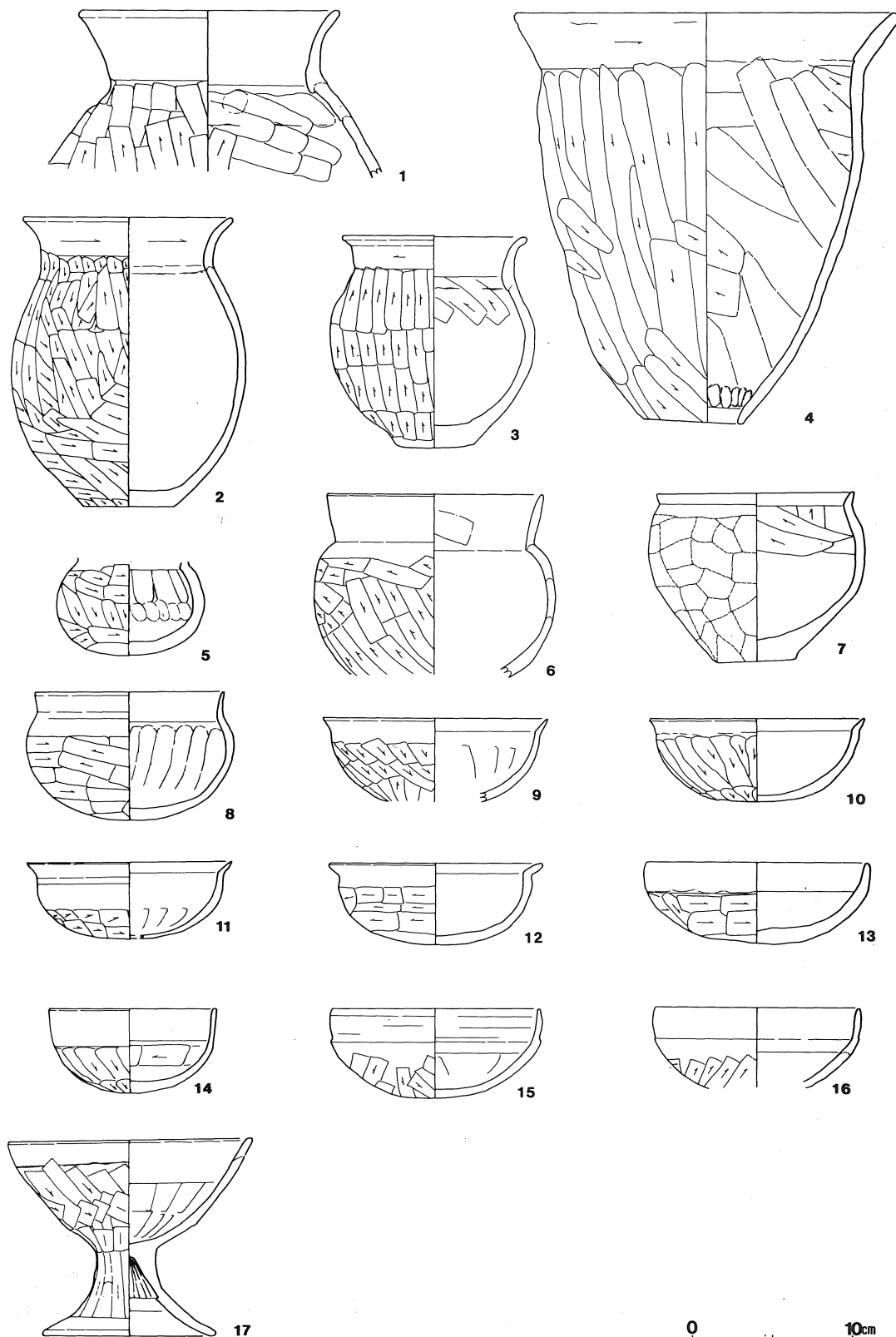
第3号住居址土層註

- 1層 暗褐色土層 (0.1~1cm程の砂礫を含む。砂質。)
- 2層 暗褐色土層 (1層に比して明るく粘性も強い。)
- 3層 黒褐色土層 (0.1~1cm程の砂礫を含み、砂質。)
- 4層 黒褐色土層 (粘土を多く含む。3層より暗い。)
- 5層 黒褐色土層 (4層より粘土は少なく暗い。)
- 6層 灰褐色土層 (細かい砂と、粘土の混合土層である。)
- 7層 褐色土層 (粘性あり。)
- 8層 暗褐色土層 (茶褐色粘土ブロックを含む。)
- 9層 褐色土層 (茶褐色粘土ブロックを多量に含む。)

明度 5 > 4 > 3 > 8 > 1 > 2 > 6 > 7 > 9

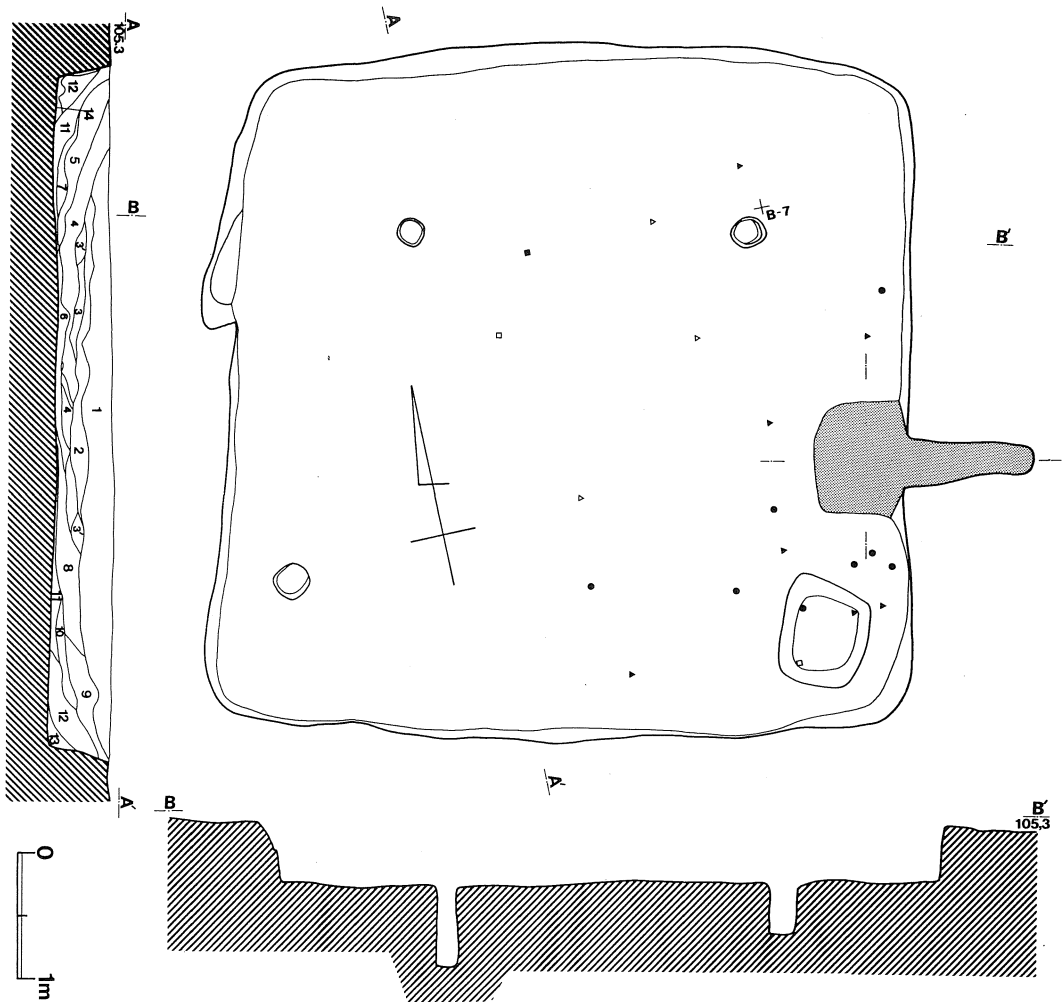


第10図 第3号住居址



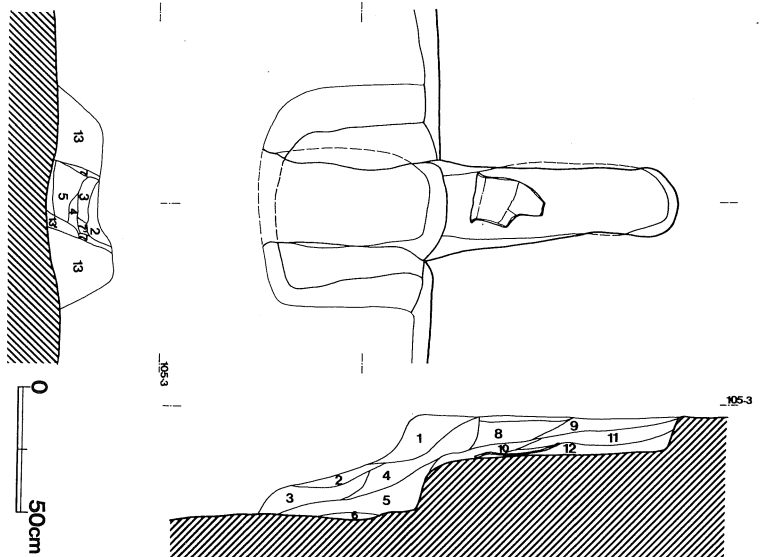
第11图 第3号住居址出土土器

0 10cm

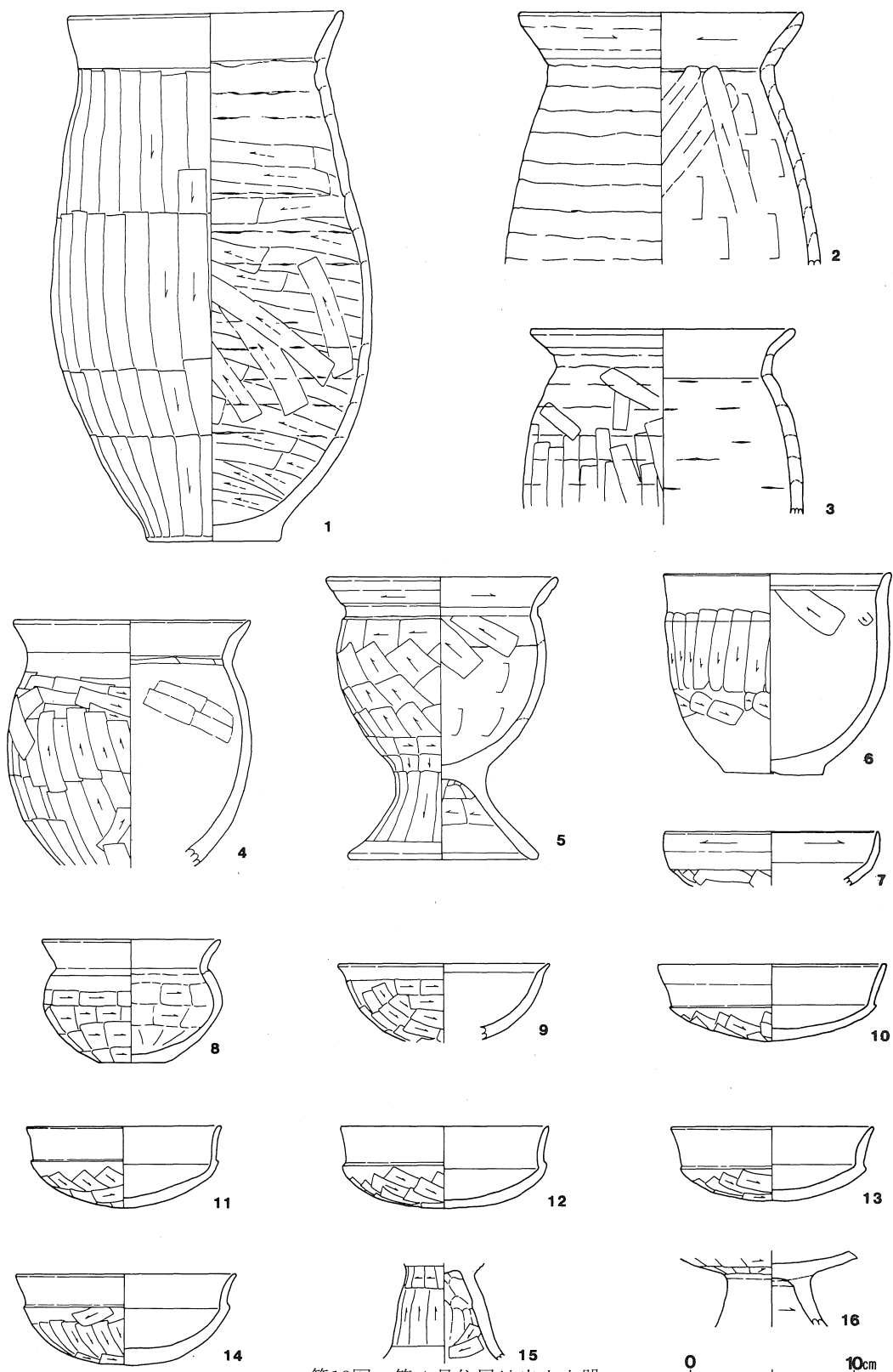


第4号住居址カマド土層註

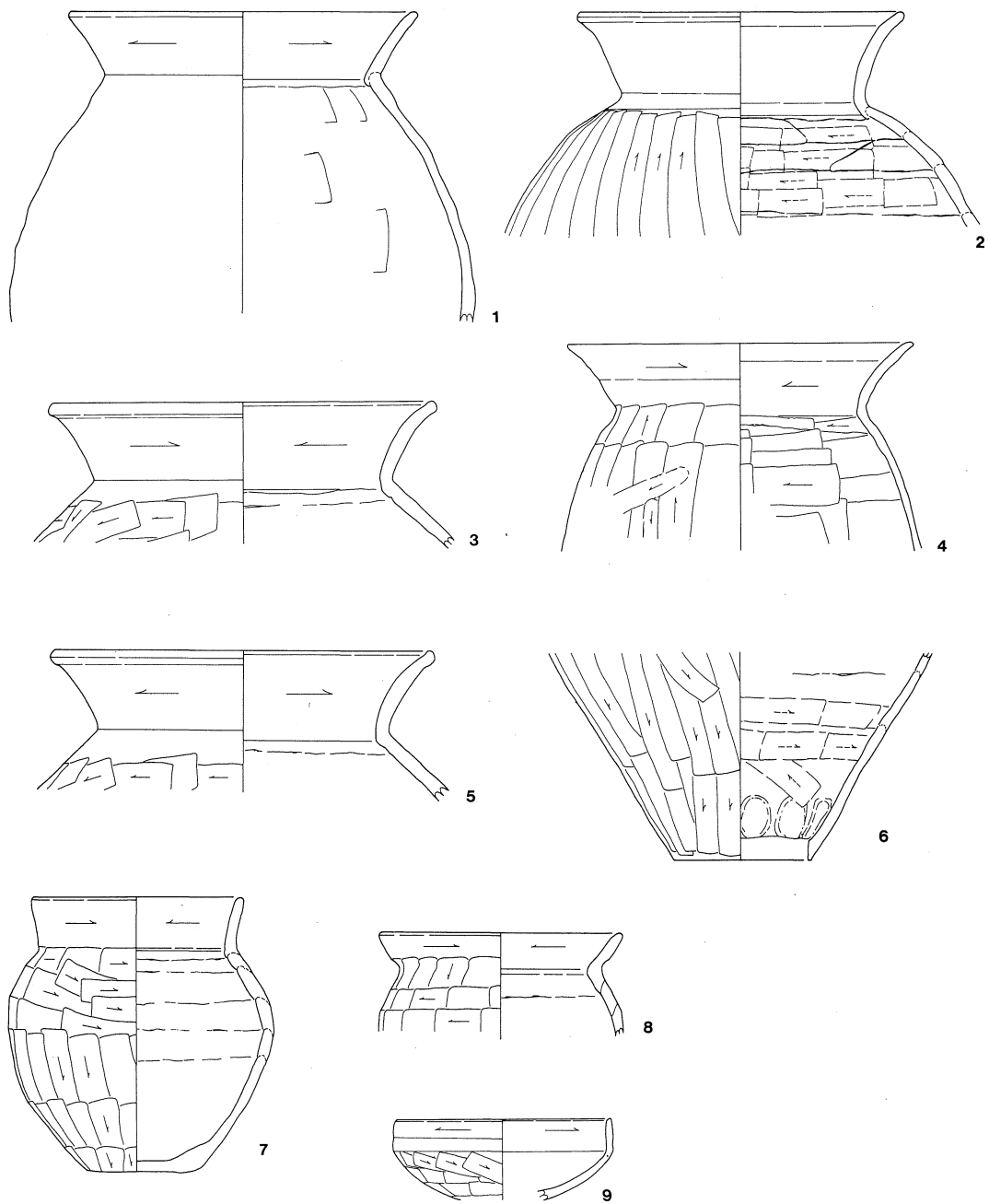
- 1層 暗褐色砂泥（砂粒、焼土粒を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（焼土ブロックを含む。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（焼土を含む、粘質。）
- 4層 暗茶褐色砂泥（微量の焼土を含む。）
- 5層 暗褐色砂泥（多量の焼土粒を含む。）
- 6層 黒褐色砂泥（焼土、炭化物粒を含む。）
- 7層 焼土A（13層の焼結したもの。）
- 7'層 焼土A（天井部。）
- 8層 暗褐色砂泥（1層に類似、やや明るい。）
- 9層 暗褐色砂泥（8層に類似、砂粒多い。）
- 10層 焼土B（地山土と斑状をなす。）
- 11層 暗褐色砂泥（ロームブロックを含む。）
- 12層 暗褐色砂泥（ローム粒子を含む、粘質。）
- 13層 褐色粘土層（均質でしまっている。）
- 13層 褐色粘土層（13層の二次堆積。）



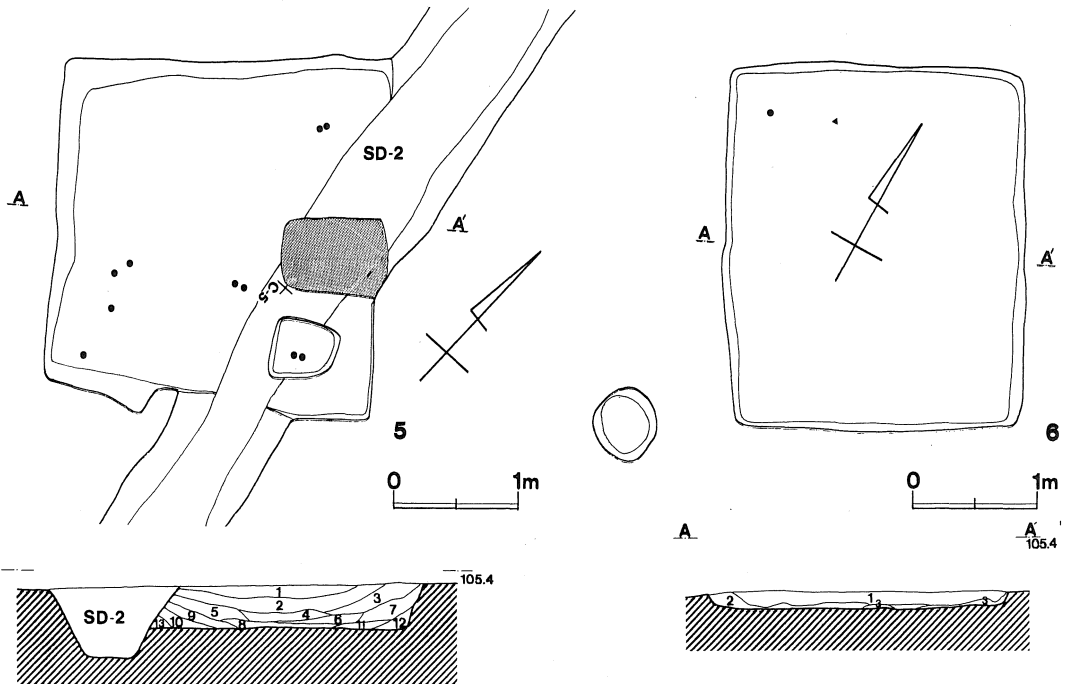
第12図 第4号住居址



第13图 第4号住居址出土土器



第14图 第5号住居址出土土器

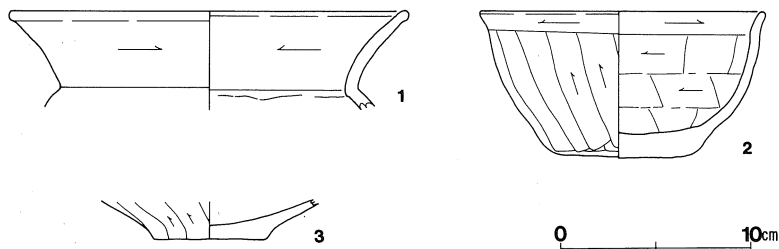


第15図 第5、6号住居址

第4号住居址土層註

- 1層 暗褐色土層（地山ブロック 0.1～1mm程の砂粒、炭化物および焼土を含み、しまっている。）
  - 2層 黒褐色土層（1～2mmの砂粒を含み、粘性に富み、しまっている。）
  - 3層 暗褐色土層（褐色の微細な砂粒を多量に含む。4'層より砂粒が多い。）
  - 4層 暗褐色土層（1層に類似するが、粒子が少ない。粘性は、1層より強く、3層より明るい。）
  - 5層 暗褐色土層（4層より暗く、地山土と、0.5～2mm程度の砂粒を含み、しまっている。遺物を比較的多く含む。）
  - 6層 黒褐色土層（4層より暗く、地山土と 0.5～2mm程度の砂粒を含み、しまっている。遺物を比較的多く含む。）
  - 7層 黒褐色土層（1～2mmの砂を含み、他は細かい砂粒と地山土の混合。2層に比して砂質である。）
  - 8層 黒褐色土層（1～5mm程の砂粒を含み、また、少量の炭化物、焼土粒子を含み、遺物も含む。砂質でしまっている。）
  - 9層 暗褐色土層（8層に類似するが、0.5cm程の砂粒が多い。）
  - 10層 黒褐色土層（12層に類似するが、地山土の入る割合が多い。）
  - 11層 暗褐色土層（地山土の1cm程のブロックを斑状に含む、焼土粒子少量を含む。）
  - 12層 黒褐色土層（焼土炭化物と細かい砂粒を含み、粘性が強い。）
  - 13層 黒褐色土層（12層に類似するが、粒子少なく、粘性が強い。2層より暗い。）
  - 14層 褐色土層（地山土に、少量の黒褐色土を含む。壁崩壊土。）
  - 地山 褐色粘土層（北側につれ、細かい砂粒が多い。）
- 明度 6 > 2 > 7 > 13 > 12 > 10 > 8 > 9 > 3 > 5 > 4 > 11 > 1 > 14





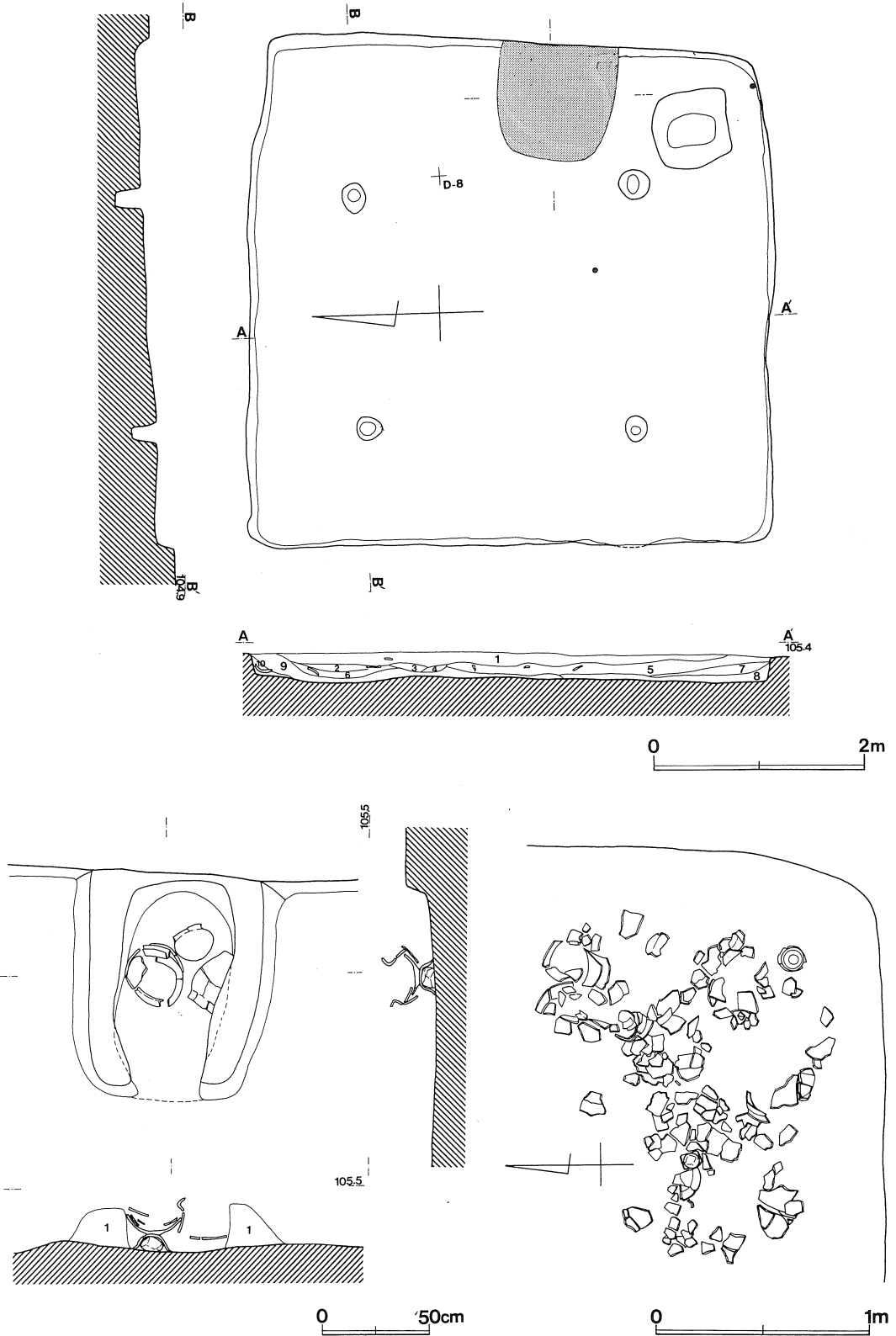
第16図 第6号住居址出土土器

第5号住居址土層註

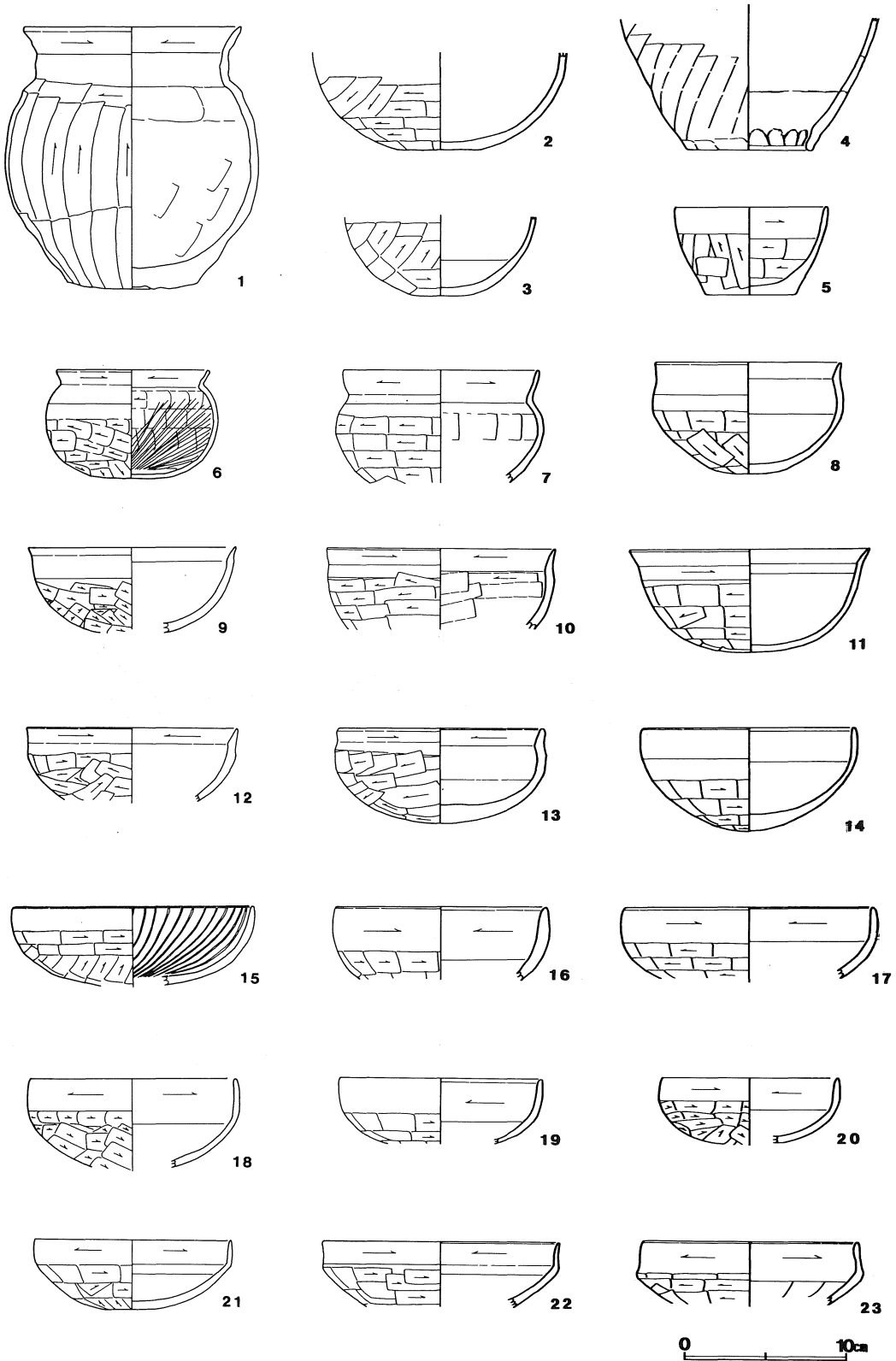
- 1層 黒褐色土層 (0.1~1 cmの砂粒を多く含み、砂質である。)
  - 2層 暗褐色土層 (0.5~1 cmの砂粒を含み、また粘土ブロックを含む。)
  - 3層 暗褐色土層 (2層より砂質で暗い。遺物を含む。)
  - 4層 黒褐色土層 (0.1~0.5cmの砂粒を含む。微細な砂土を中心とする。)
  - 5層 褐色土層 (褐色粘土質層に、0.5cm程の砂と、微細な砂を含む。)
  - 6層 褐色土層 (5層に類似しているが、粘土がより茶色味を帯びている。)
  - 7層 暗褐色土層 (0.1~2 mm程の砂を多量に含む。)
  - 8層 黒褐色土層 (微細な砂粒によって構成され、まれに0.2cm程の砂粒を含む。)
  - 9層 褐色土層 (粘土を主体とし、焼土粒を含む。カマド崩壊土層。)
  - 10層 暗褐色土層 (9層より粘土、焼土を含む。)
  - 11層 黒褐色土層 (砂粒、焼土粒子含み、しまっている。)
  - 12層 黒褐色土層 (砂粒少なく、地山ブロックを含む。)
  - 13層 褐色粒土層 (カマド、ソデ。)
- 明度 8 > 11 > 2 > 1 > 4 > 12 > 3 > 2 > 7 > 10 > 6 > 9 > 5 > 13

第6号住居址土層註

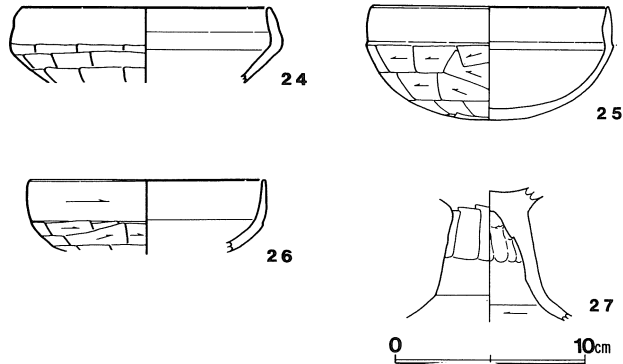
- 1層 暗褐色砂泥 (微砂を少量含む。)
- 2層 黒褐色砂泥 (炭化物を含む。1層より暗い。)
- 3層 褐色砂泥 (砂粒少なく、地山ブロックを含む。)



第17图 第7号住居址



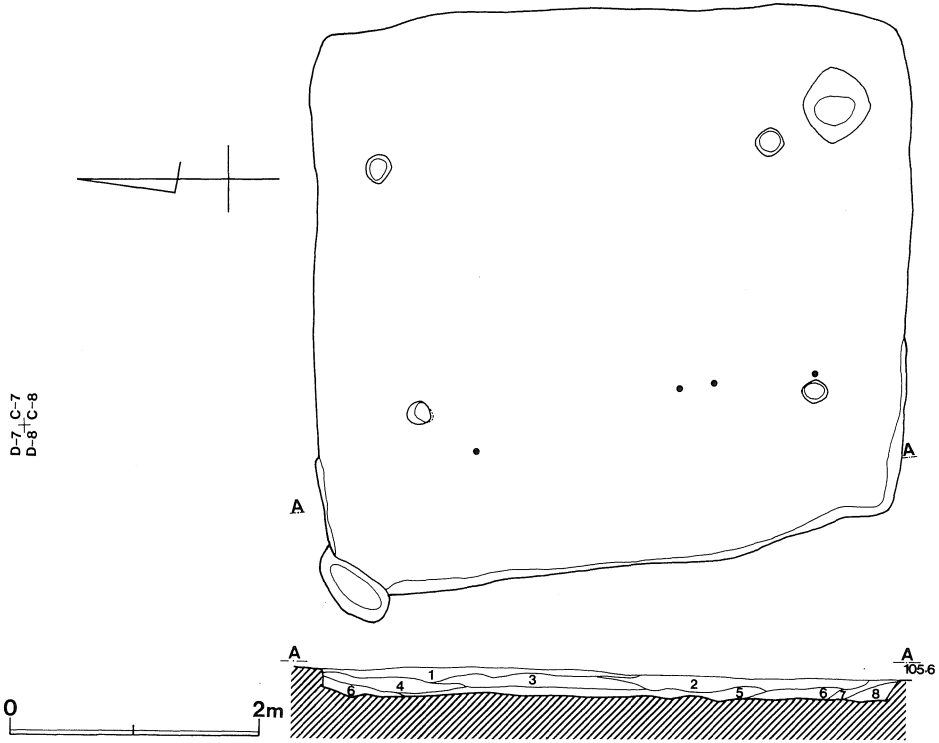
第18图 第7号住居址出土土器



第19図 第7号住居址出土土器

第7号住居址土層註

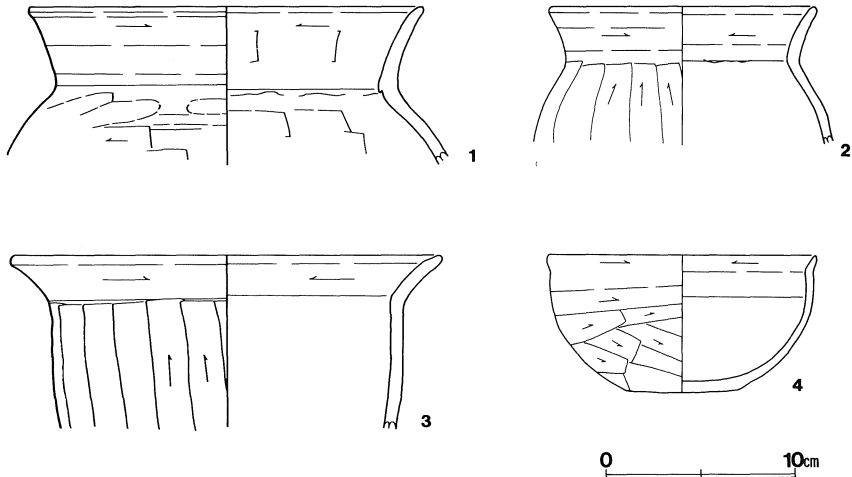
- 1層 暗褐色泥砂（地山ブロック0.2～1 cm程の砂粒を含み、全体にあらい。）
  - 2層 暗褐色泥砂（1層より粒子細かく、暗い色調を呈する。）
  - 3層 暗褐色泥砂（2層に類似するが、泥土が多い。）
  - 4層 暗褐色砂泥（多量の焼土、小ブロックが混入し、炭化物を含む。）
  - 5層 黒褐色砂泥（多量の炭化物、焼土ブロックを含み、北側にそれが、漸次減少傾向にある。）
  - 6層 黒褐色砂泥（5層に類似するが、炭化物多く、全層の $\frac{1}{2}$ 程度をしめる。）
  - 7層 暗褐色砂泥（少量の焼土粒、地山ブロックを含み、しばしば2 cmの角礫を含む。）
  - 8層 褐色砂泥（8層より粒子細かく、0.2～1 cm大の砂粒を少量含む。）
  - 9層 褐色砂泥（地山土を多量に含み、しまっている。）
  - 10層 褐色砂泥（地山土を多量に含み、9層より暗い。）
  - 地山 褐色砂泥（砂粒子細かく、粘土質。）
- 明度 6 > 5 > 2 > 3 > 1 > 4 > 7 > 8 > 10 > 9



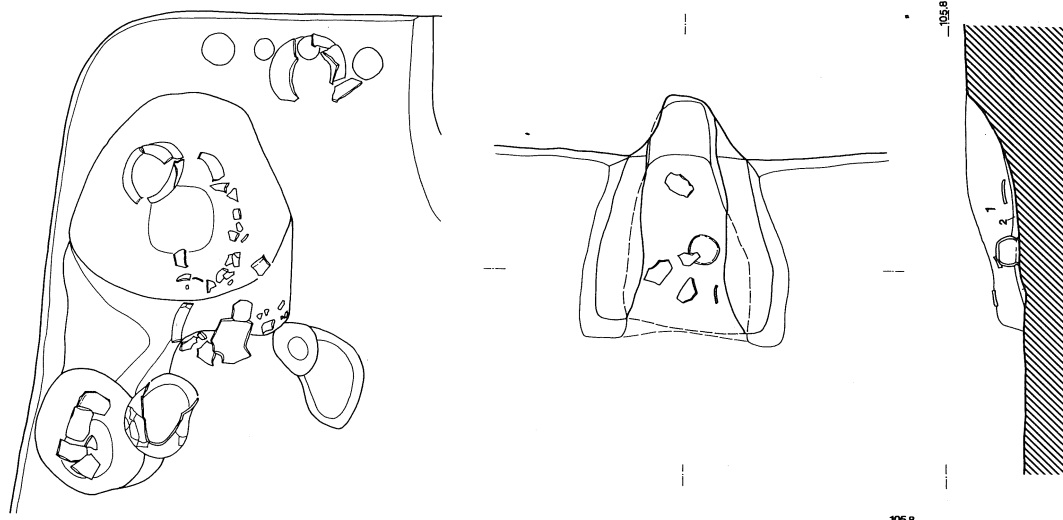
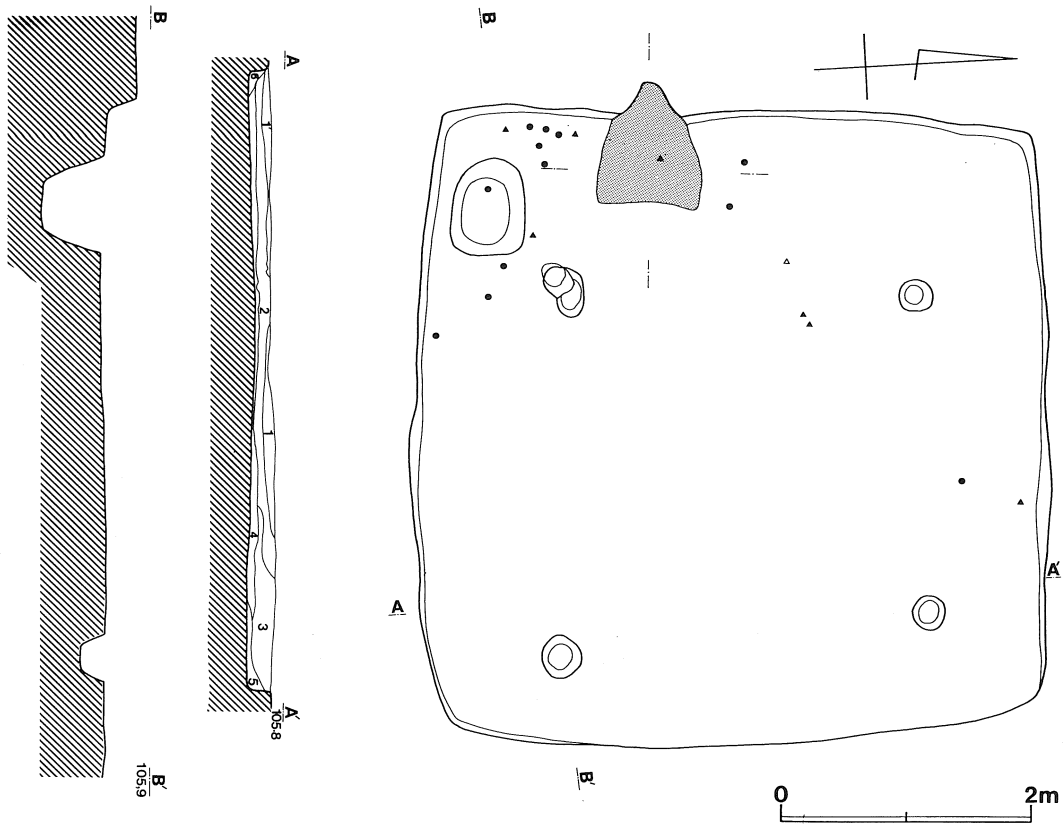
第20図 第8号住居址

第8号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（褐色粘土と細かい砂が混合しており、均質である。）
- 2層 黒褐色砂泥（粘土めだたず、0.2～1cm程の砂粒含む。）
- 3層 黒褐色砂泥（2層に類似するが、やや明るく、粘土粒を含む。）
- 4層 暗褐色砂泥（3層より砂粒が多く、また4層より粒子は大である。）
- 5層 黒褐色砂泥（2～3層より、砂粒細かく2mm大のもので主に構成される。）
- 6層 褐色砂泥（2～3mmの砂粒含み、しまっている。）
- 7層 暗褐色泥砂（地山Aに類似するが、やや暗い。壁崩壊土層。）
- 8層 褐色泥砂（地山Bに類似するが、地山Aも混合している。壁崩壊土層。）



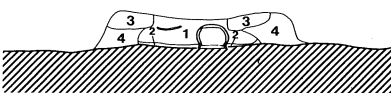
第21図 第8号住居址出土土器



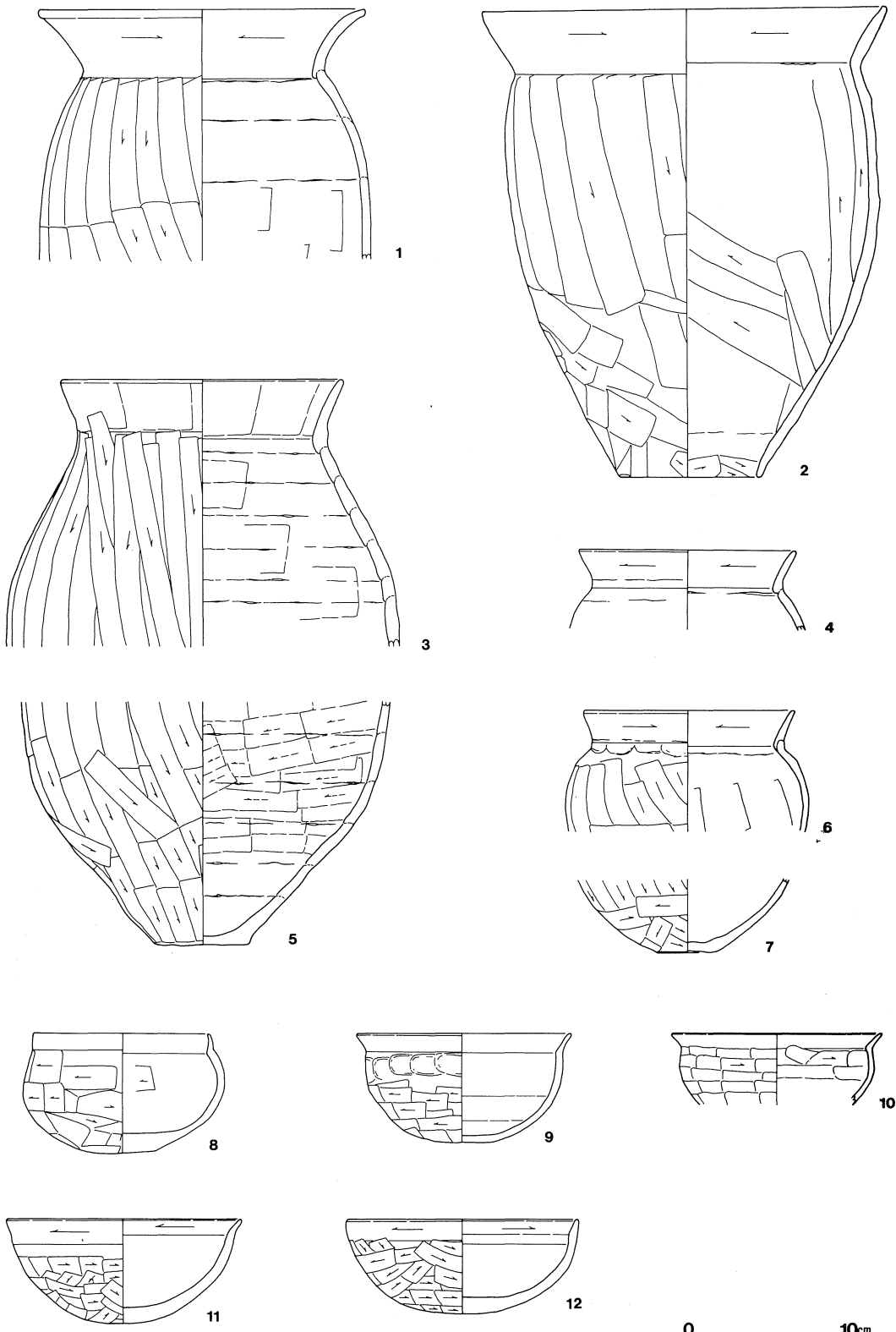
第9号住居址カマド土層註

- 1層 炭、灰まじりの砂利層
- 2層 砂層
- 3層 砂利と焼土のまざった層、ソデ部。)
- 4層 粘質土まじりの砂利層、ソデ部。)

第22図 第9号住居址

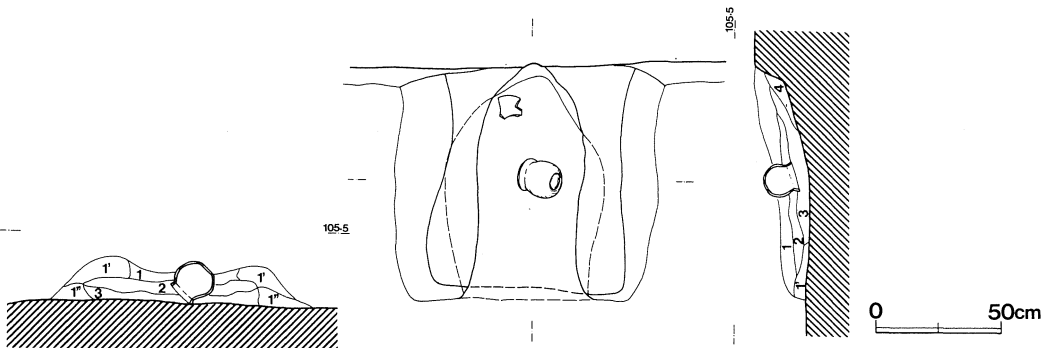
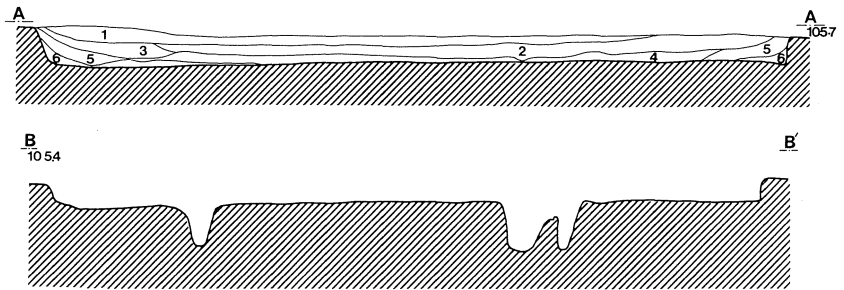
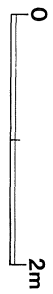
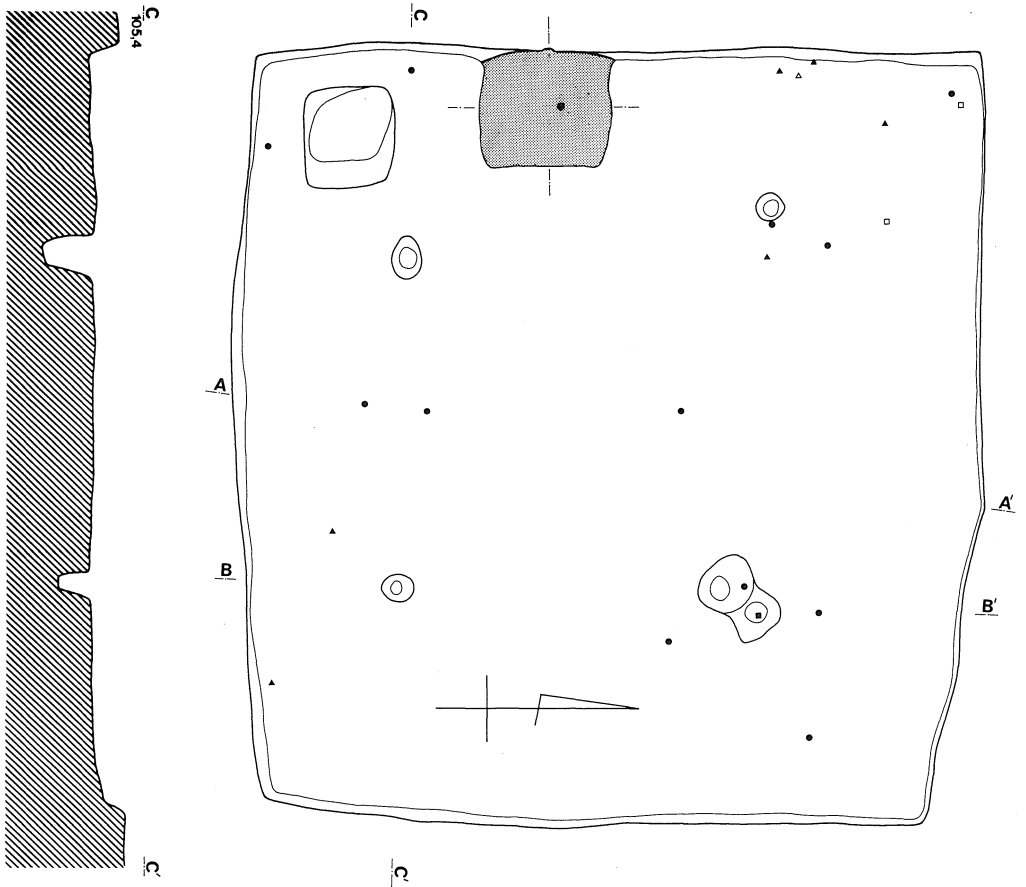


0 50cm



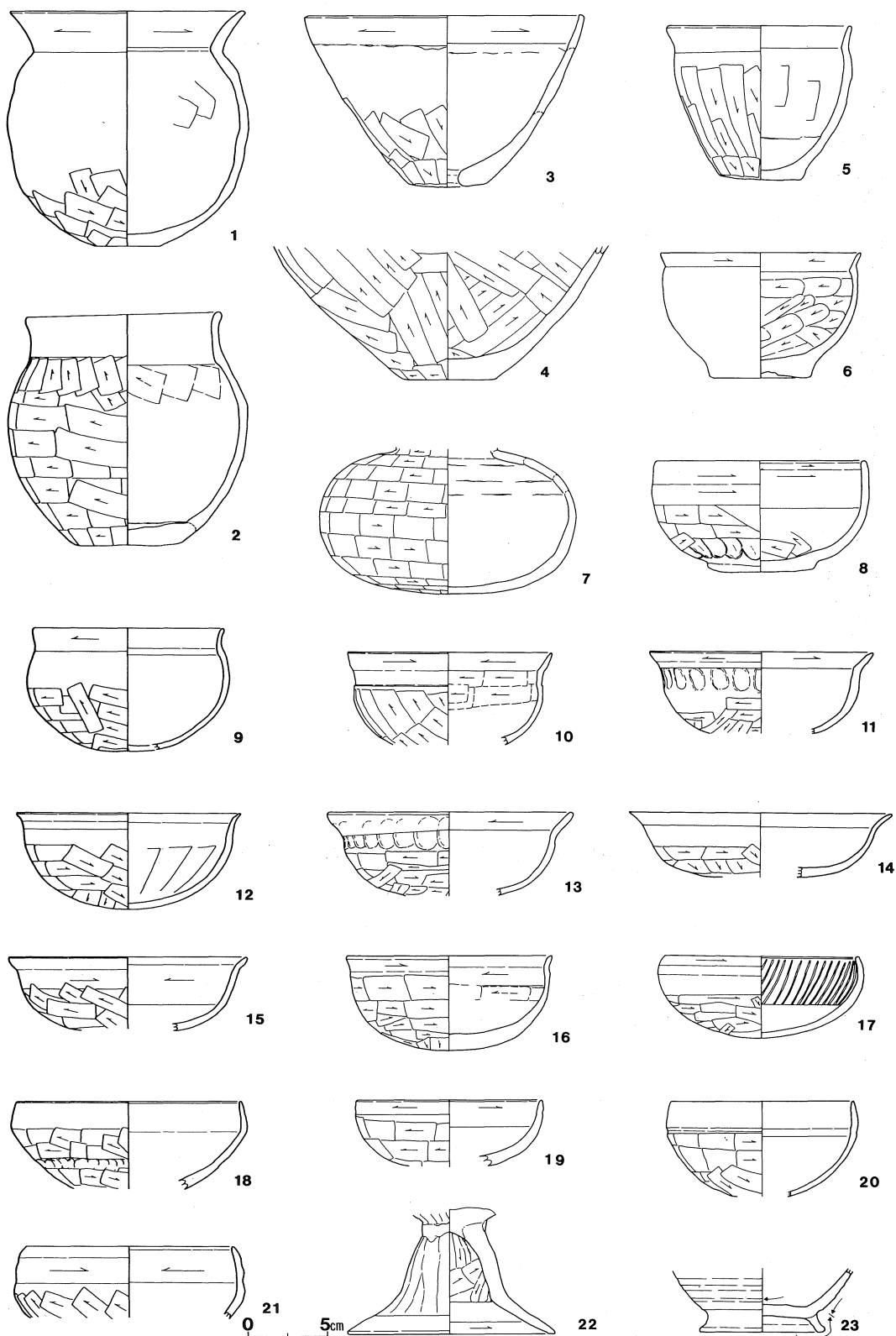
第23图 第9号住居址出土土器

0 10cm

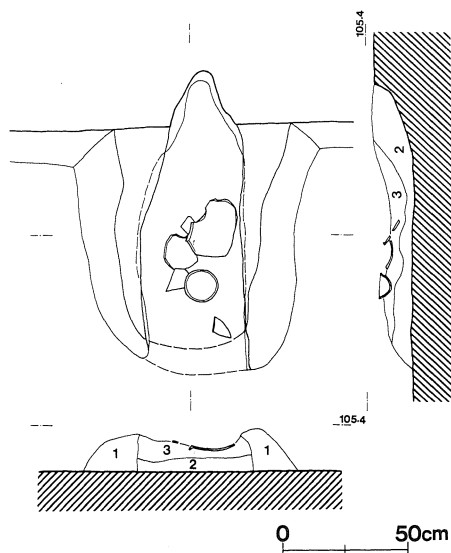
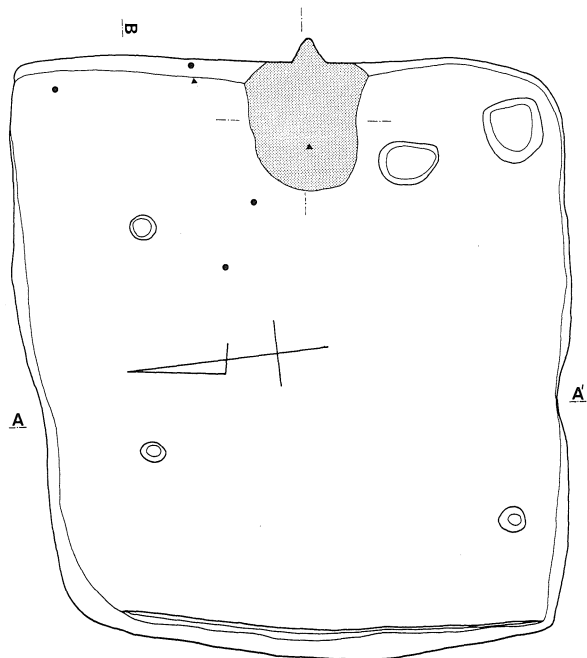


第24图 第10号住居址



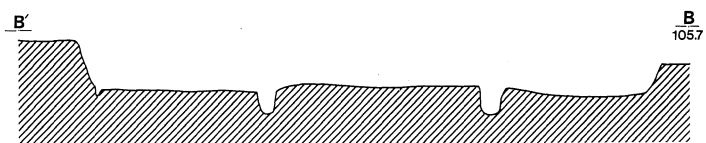
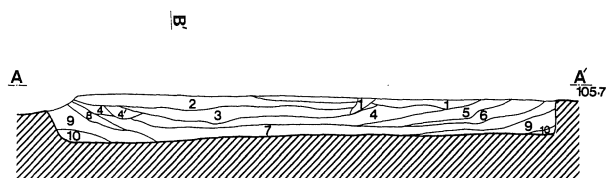


第25图 第10号住居址出土土器

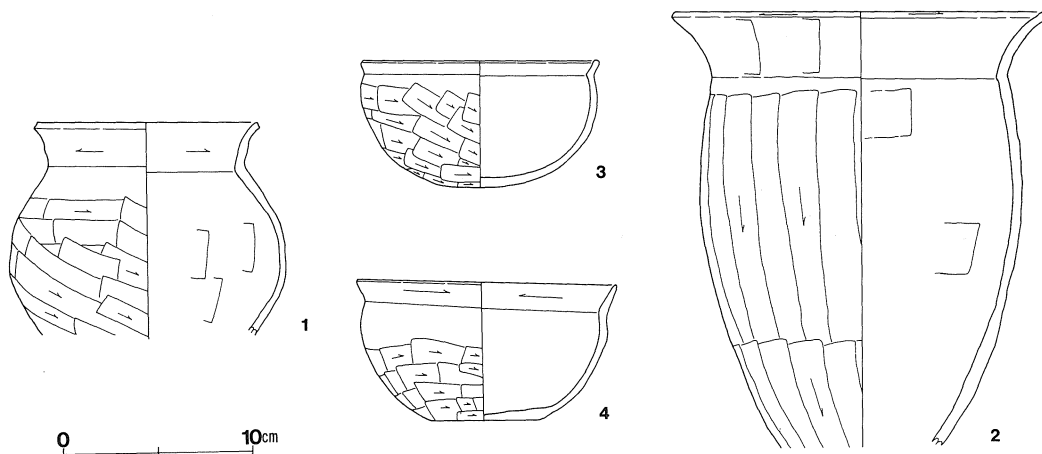


第11号住居址カマド土層註

- 1層 焼土（砂礫層と焼土の混り）
- 2層 砂礫
- 3層 褐色砂泥



第26図 第11号住居址



第27図 第11号住居址出土土器

第9号住居址土層註

- 1層 黒褐色砂泥（焼土粒、地山粒0.1～0.5cmの砂粒を含み、粒子全体に粗いが均質である。）
- 1'層 褐色砂泥（均質で、微細な砂粒によって構成される。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層よりやや明るく、均質であるが、焼土を含まない。）
- 3層 暗褐色砂泥（0.2～2cmの砂礫、地山A土の混合である。）
- 4層 黒褐色砂泥（微細な砂粒によって構成され、部分的に地山ブロックを含む。）
- 5層 黒褐色砂泥（微細な砂粒によって構成され、4層より粒子が細かい。）
- 6層 褐色砂泥（地山Aに類似するが、やや暗く、軟らかい。）
- 地山 黄褐色砂泥（均質でしまっている。）
- 明度 4 > 5 > 1 > 2 > 3 > 6 > 地山A

第10号住居址土層註

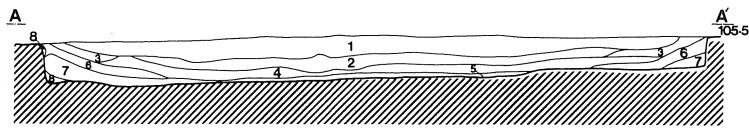
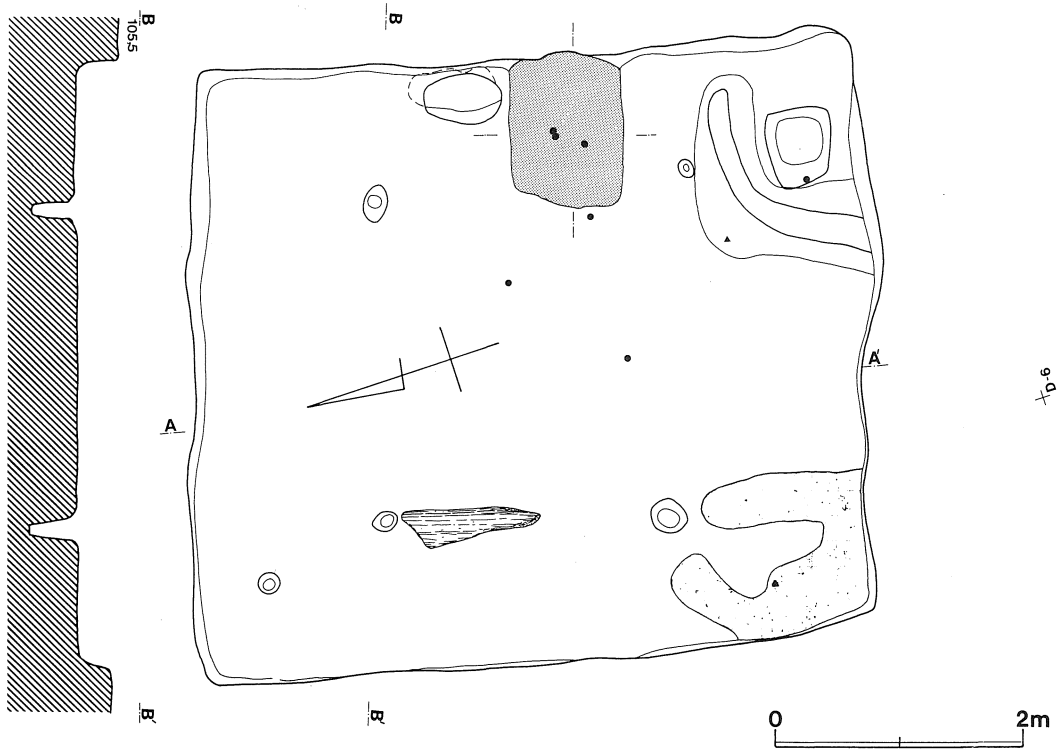
- 1層 暗褐色泥砂（地山の小ブロック、土器小片、0.5～1cmの礫を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（0.1～0.5cmの礫を含み、1層と比して均質である。）
- 3層 黒褐色砂泥（0.2～0.8cmの礫を含む。土器小片も含み、全体が粗い。）
- 4層 褐色砂泥（0.1～0.5cmまた1cm程の礫を含み、地山の割合も多い。）
- 5層 黒褐色砂泥（0.2～1cmの礫を含み、3層と比して粒子あらく、やや明るい。）
- 6層 暗褐色砂泥（地山土を多く含み、それよりやや暗い。）
- 明度 3 > 5 > 2 > 1 > 6 > 4

第10号住居址カマド土層註

- 1層 赤褐色焼土層（砂礫が混入した砂泥質の層、カマドのブリッジを構成する。）
- 1'層 赤褐色焼土層（1層にくらべ、焼土の割合が大きい土層、非常に硬くしまっている。）
- 1''層 暗褐色粘土層（1層及び1'層に対し礫を含まない粘土質の層。）
- 2層 暗褐色泥土層（炭化物、焼土粒を含む粘性の大きな層、灰層に近い。）
- 3層 暗褐色泥砂層（炭化物、焼土粒を若干含み粘性の弱い砂質の層。）
- 4層 黒褐色泥土層（炭化物主体の層、焼土もみられる灰層。）
- 明度 4 > 2 > 3 > 1'' > 1 > 1'

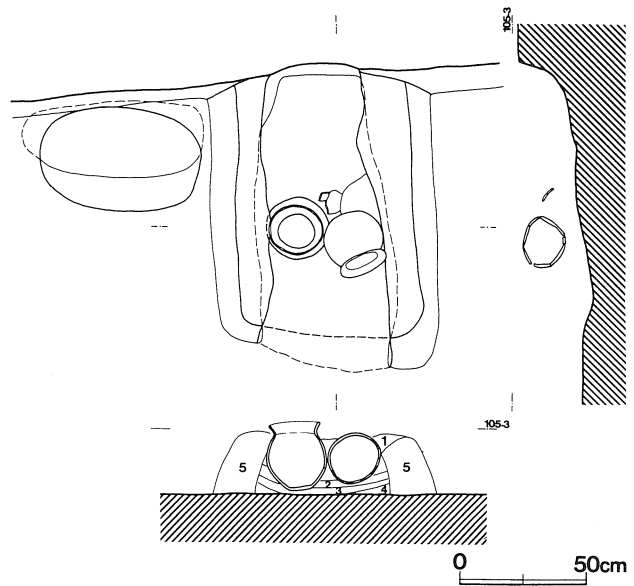
第11号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（0.5cm程の礫を多量に含み、暗茶褐色砂粒を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層に比して均質で、より細かい砂粒を中心に構成される。）
- 3層 褐色砂泥（2層に比して更に均質で、粒子が細かい。地山Aを中心に構成される。）
- 4層 暗褐色砂泥（2層に類似しているが、微量の焼土粒を含む。）
- 5層 黒褐色砂泥（2～4層に類似するが、暗茶褐色の砂粒を含む。）
- 6層 褐色泥砂（0.2～0.5mmの砂粒で構成され、まれに地山A類似のブロックが混じる。）
- 7層 黒褐色砂泥（地山Aに微細な砂土が混入、比較的軟かい。）
- 8層 褐色砂泥（地山Aに0.2～1cmの砂粒が混入、砂の比率は3層より高い。）
- 9層 暗褐色砂泥（微細な砂粒と、地山Aに、少量の砂礫0.1～2cmを含む。）
- 10層 褐色破泥（地山Aに少量の砂礫0.1～2cmを含む。）
- 地山A 褐色砂泥（やや粘土質で、茶褐色砂粒がブロック状に混じる。）
- 地山B 灰褐色砂礫（0.2～2cmの砂礫を中心に構成される。）
- 明度 7 > 5 > 4、2、3 > 9 > 1 > 6 > 8 > 10

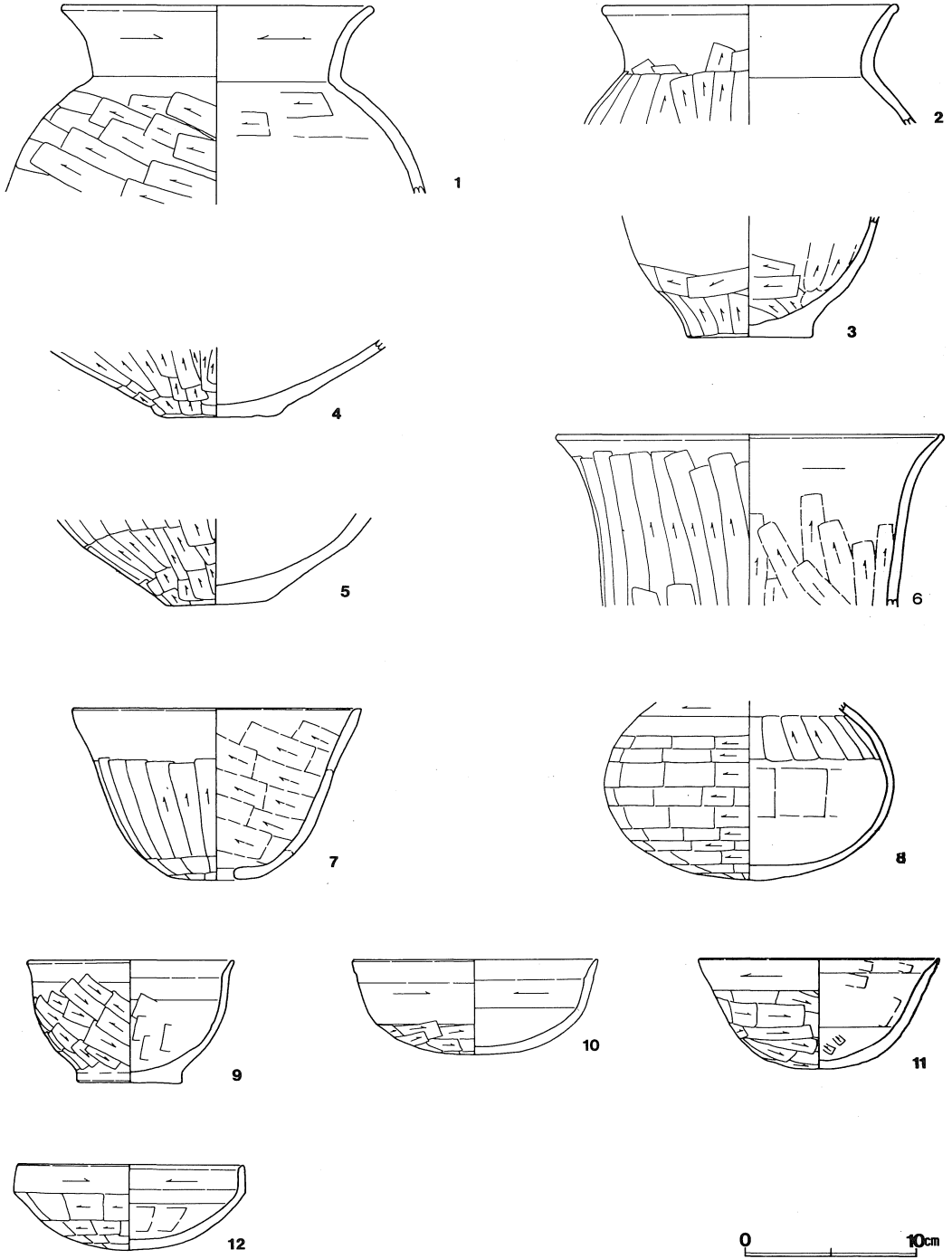


第12号住居址カマド土層註

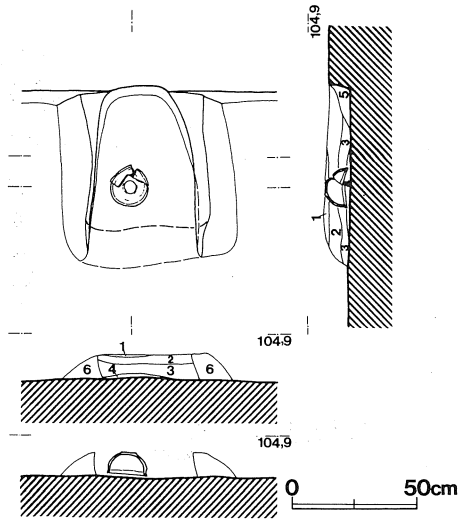
- 1層 茶褐色土（焼土粒、木炭粒混入。）
- 2層 焼土層
- 3層 木炭層
- 4層 暗茶褐色土
- 5層 ソデ部



第28図 第12号住居址

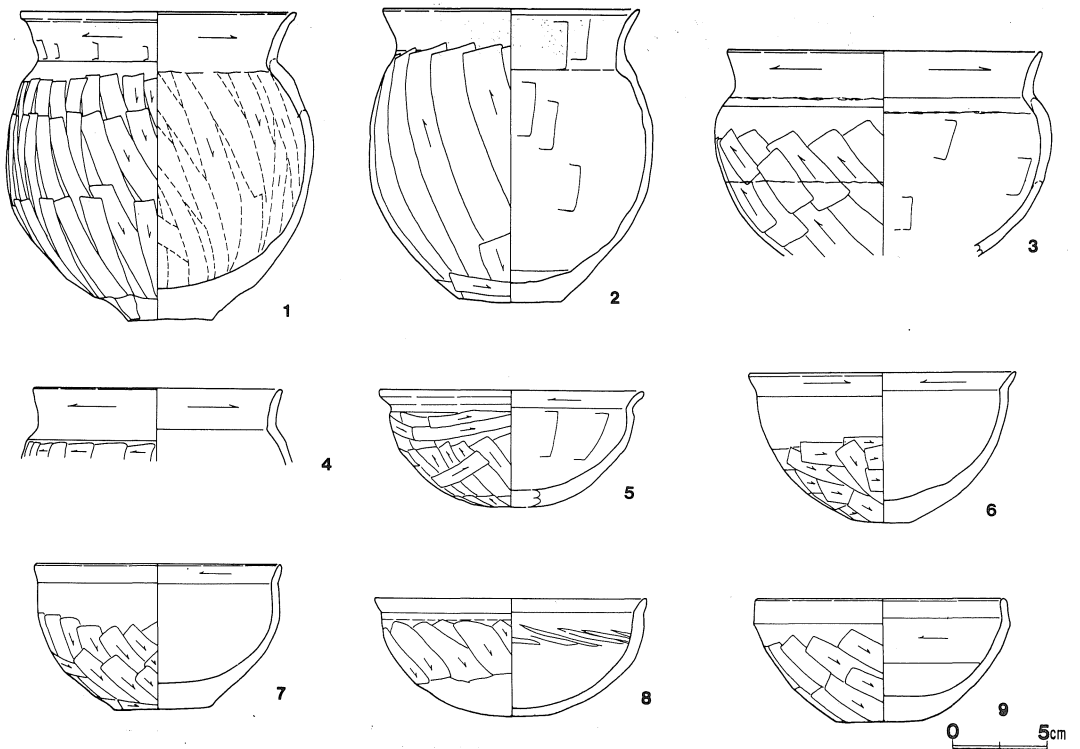
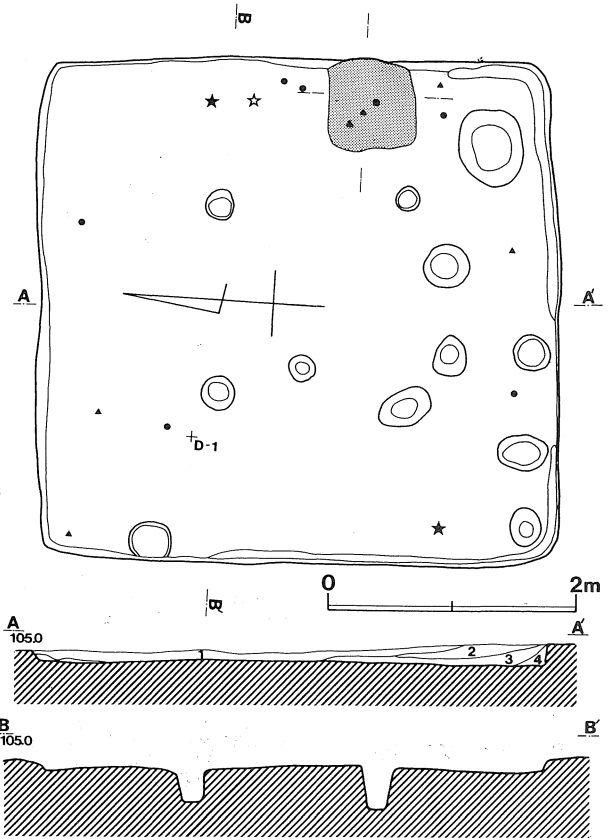


第29图 第12号住居址出土土器

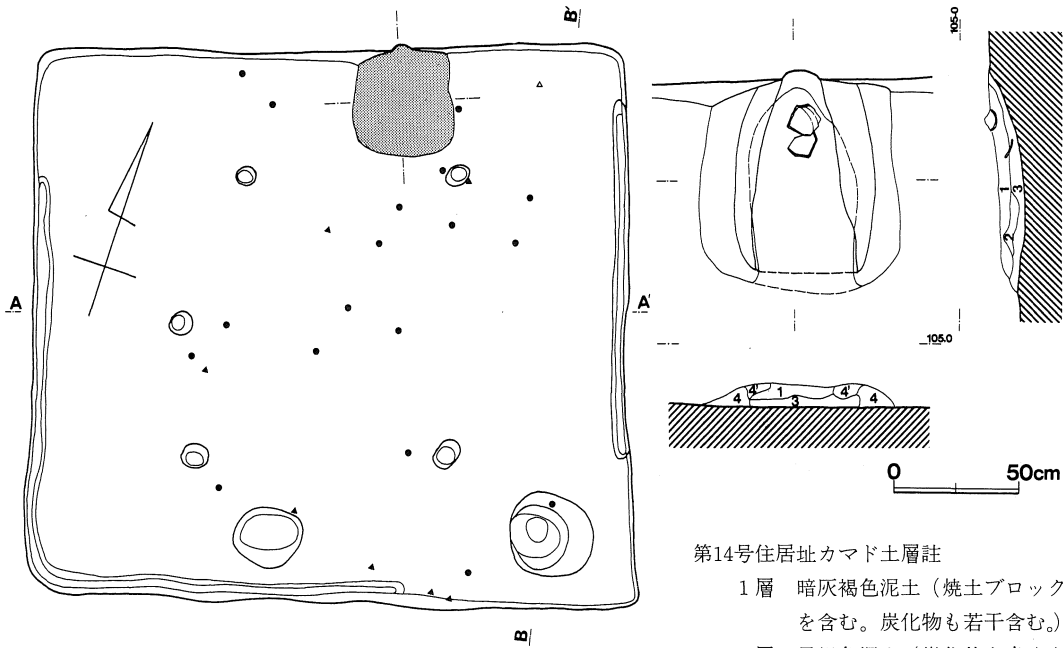


第13号住居址カマド土層註

- 1層 褐色砂泥（微量の焼土粒子を含む。）
- 2層 焼土（焼土ブロックを含む。）
- 3層 暗褐色砂泥（焼土、炭化物を含む。）
- 4層 暗褐色砂泥（焼土、炭化物が3層より少なく硬い。）
- 5層 黒褐色砂泥（均質でしまっている。）
- 6層 褐色砂泥（粘質で均質、ソデ）
- 地山 褐色砂泥（微砂が主体となる。）



第30図 第13号住居址及び出土土器

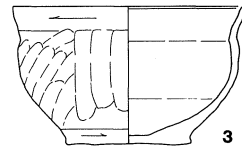
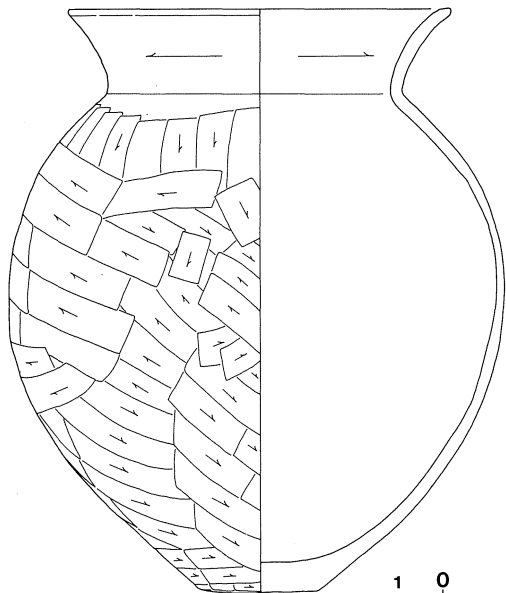
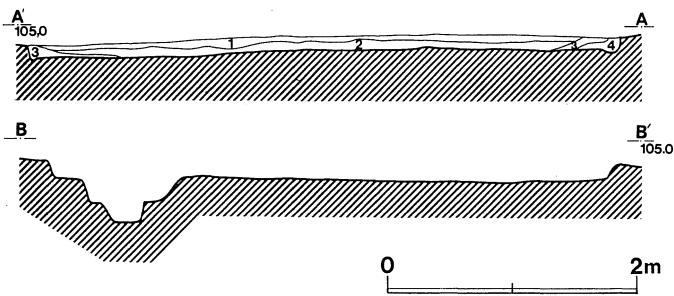


第14号住居址カマド土層註

- 1層 暗灰褐色泥土（焼土ブロックを含む。炭化物も若干含む。）
- 2層 黒褐色泥土（炭化物を多く含む層。粘性は強い。）
- 3層 暗褐色泥砂（粘性の弱い炭化物がみられる層。）
- 4層 暗灰白色粘土（粘土、壁面は若干焼土化している。）
- 4'層 暗灰白色粘土（4層より若干暗く礫が含まれる。）

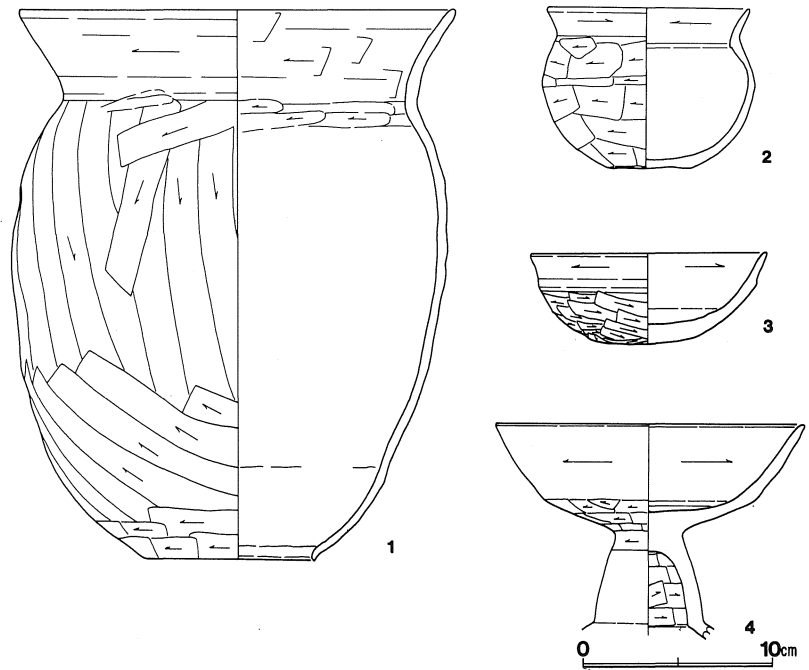
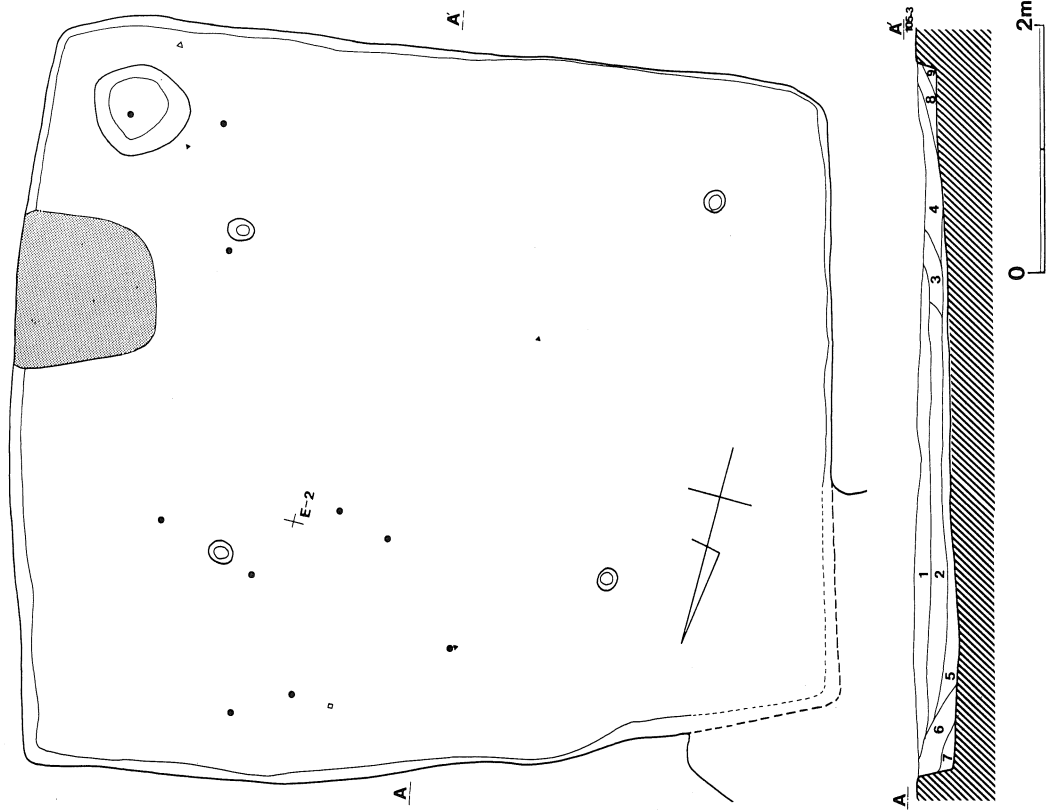
暗←

明度 2 > 3 > 1 > 4' > 4



1 0 10cm

第31図 第14号住居址及び出土土器



第32図 第15号住居址及び出土土器



第12号住居址土層註

- 1層 灰褐色砂泥（1mm以下の砂粒が多く、まれに2mm大の砂粒を含む。焼土、炭化物、土器片を含む。）
  - 2層 暗褐色砂泥（地山土を多量に含み、焼土、土器等をほとんど含まない。砂は微砂を中心とする。）
  - 3層 暗褐色砂泥（他層に比して粒子粗く、地山土ブロックを含む。0.2～0.5cm砂粒。）
  - 4層 黒褐色砂泥（地山土、炭化物粒子と微量の2mm砂を含み、主体は粘質土と微砂である。）
  - 5層 黒褐色砂泥（多量の炭化物、焼土を含み、上面に遺物が多い。4層より粘土質である。）
  - 6層 黒褐色泥土（地山土を斑状に含み、少量の0.1～1cmの砂を含む。）
  - 7層 褐色砂泥（地山土を主体に0.5cm程の砂粒を含む。）
  - 8層 黒褐色泥土（均質で、茶色味を帯び、しまっている。微砂を少量混入する。）
- 地山 灰色粘土を含む褐色砂泥  
明度 6 > 5 > 8 > 4 > 1 > 2 > 3 > 7 > 地山

第13号住居址土層註

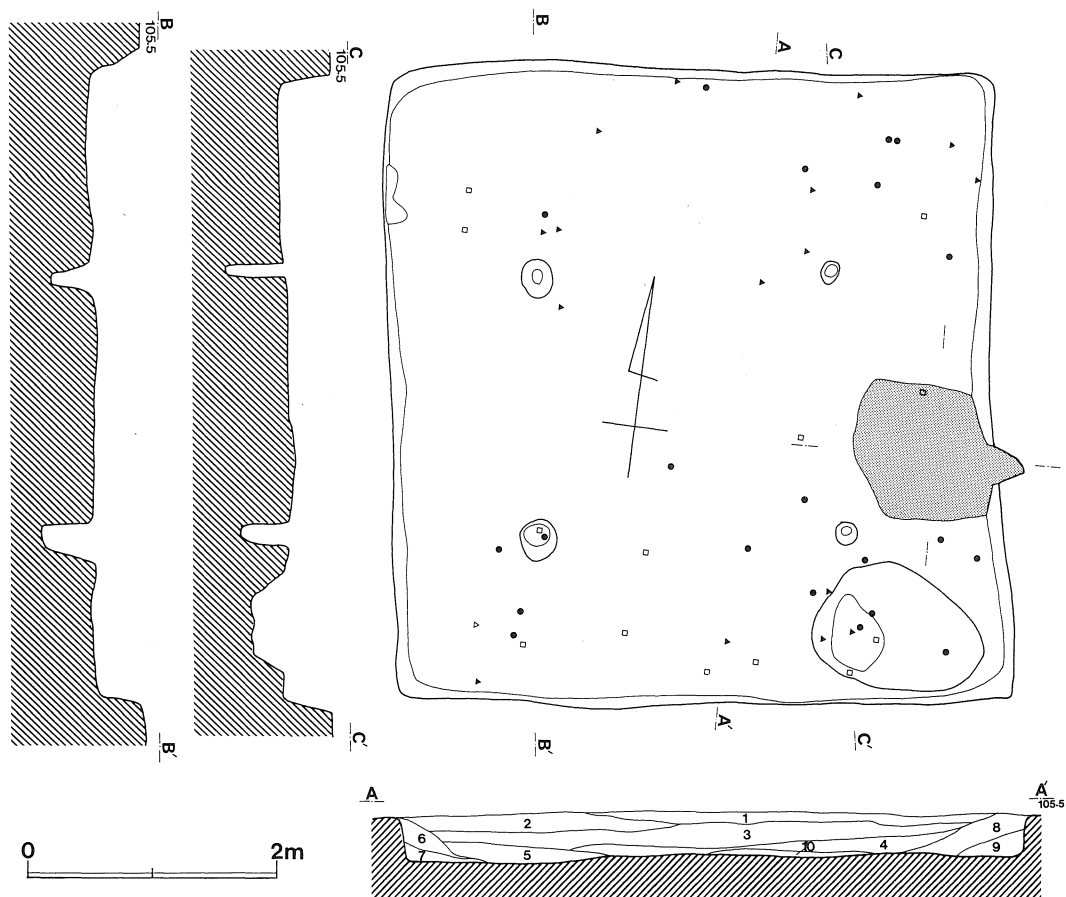
- 1層 暗褐色砂泥（少量の小礫を含む。）
- 2層 褐色砂泥（礫少なく、地山土が多い。）
- 3層 黒褐色砂泥（炭化物を多く含み、少量の焼土粒子混入。）
- 4層 黒褐色砂泥（地山土に地山土ブロックを含む。均質で軟かい。）

第14号住居址土層註

- 1層 黒色砂泥（微砂と、少量の円礫を含む。）
  - 2層 暗茶褐色砂泥（炭化物、土器を含み、1層より粒子があらいい。）
  - 3層 褐色砂泥（地山土を多く含み、やや暗い。）
  - 4層 暗褐色砂泥（微砂が多く、やや粘質の泥土が多い。）
- 地山 褐色微砂（微砂を中心に粘土を多く含む。）  
明度 1 > 2 > 4 > 3 > 地山

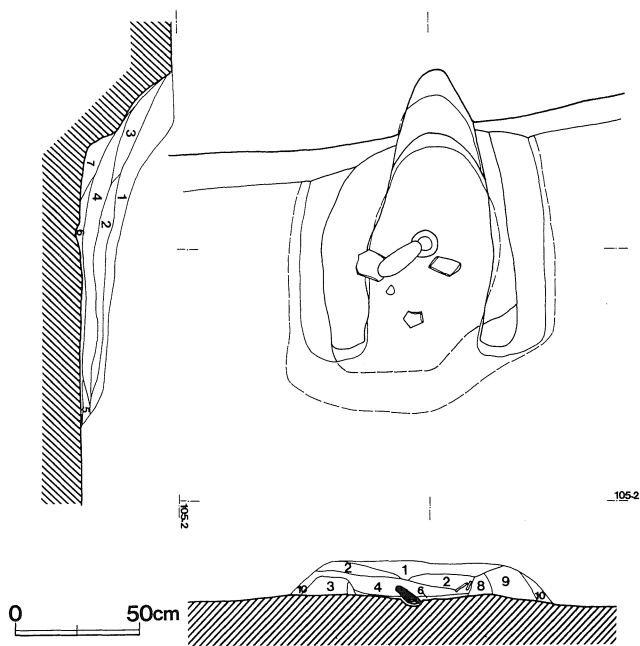
第15号住居址土層註

- 1層 黒褐色泥砂（0.1～1cm大の砂粒を多く含む。）
  - 2層 暗褐色砂泥（地山土を多く含み、0.2～0.5cmの砂礫を含む。）
  - 3層 暗茶褐色泥土（微砂と0.5～2cm大の粒子によって構成され、土器片を含む。）
  - 4層 黒褐色砂泥（少量の地山土と、微砂を多く含み、0.5cm大のものはごく少量しか含まない。）
  - 5層 黒褐色砂泥（地山土を多く含むし、砂礫土も多く、土器を含む。）
  - 6層 暗褐色砂泥（地山土、土器を多く含む。）
  - 7層 暗褐色砂泥（6層より砂少なく、より地山土が多い。土器を含まない。）
  - 8層 暗褐色砂泥（地山を斑状に含み、7層より砂が少ない。）
  - 9層 黒色泥土（少量の砂粒を含む。）
- 地山 澄褐色泥砂（微砂と2cm大の砂礫を含み、淡褐色からやや明るい褐色である。）  
明度 9 > 5 > 1 > 4 > 6 > 7 > 3 > 8 > 2  
砂礫 1 > 5 > 2

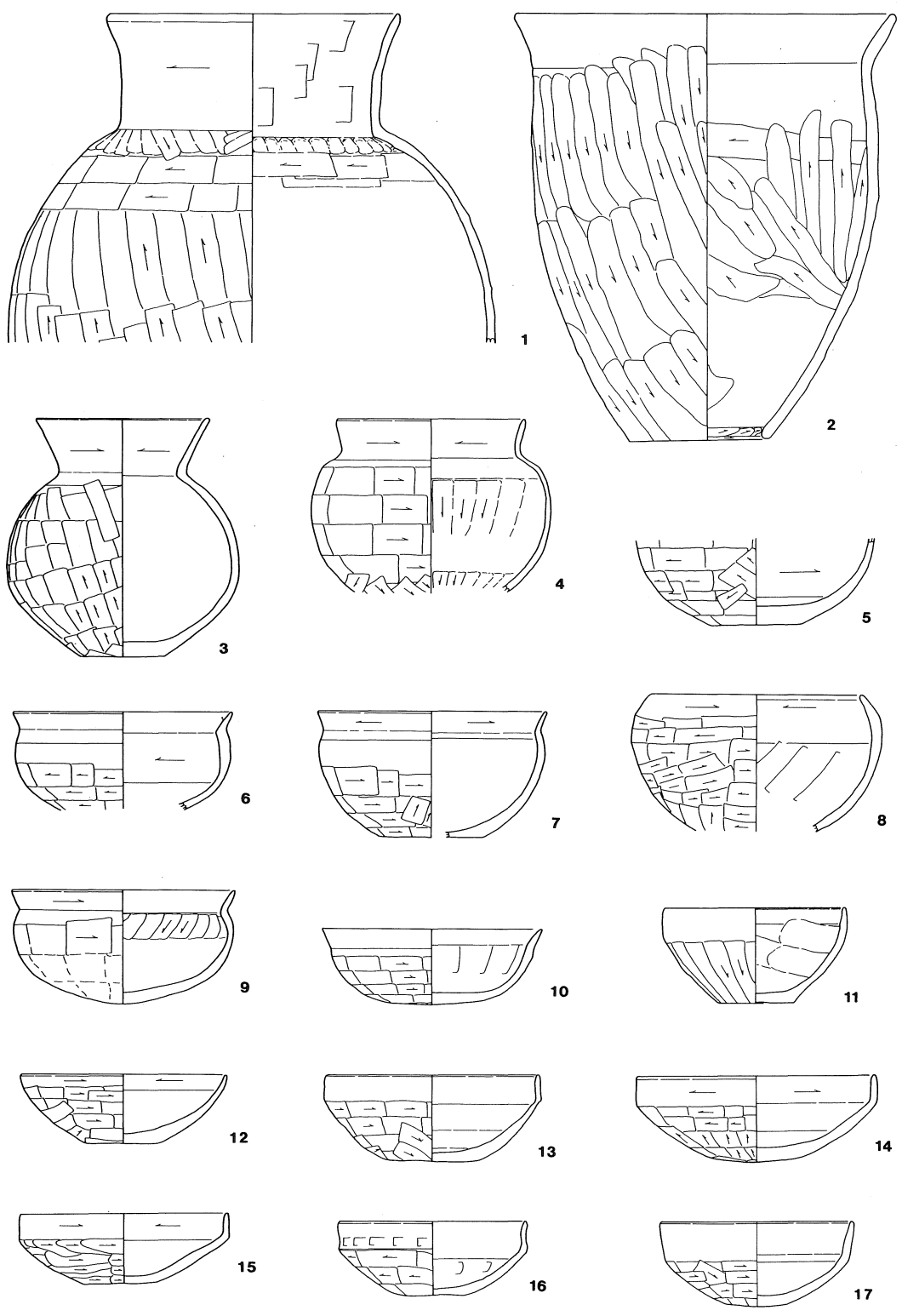


第16号住居址カマド土層註

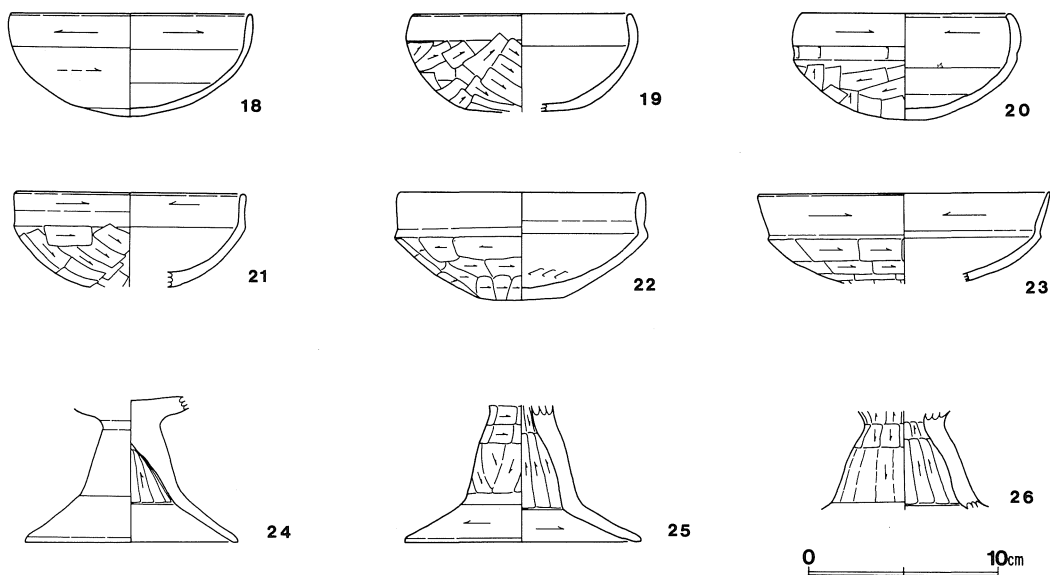
- 1層 暗褐色砂泥（0.2~0.5mmの砂礫を多く含み、ザラザラしている。）
- 2層 褐色砂泥（粘質で微量の焼土粒を含む。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（少量の淡い焼土粒を含み、粒子は細かい。）
- 4層 暗茶褐色砂泥（多量の焼土ブロック、炭化物粒子を含む。）
- 5層 黒褐色砂泥（多量の炭化物、焼土を含み、4層より炭化物が多い。）
- 6層 淡赤褐色砂泥（微砂を中心に、淡く焼けた焼土層。）
- 7層 褐色砂泥（地山に類似し軟かい。）
- 8層 焼土（焼土ブロック中に若干の黒褐色泥土を含む。）
- 9層 褐色粘土（均質でしまっている。）
- 10層 褐色砂泥（少量の炭化物、焼土を含む。）



第33図 第16号住居址



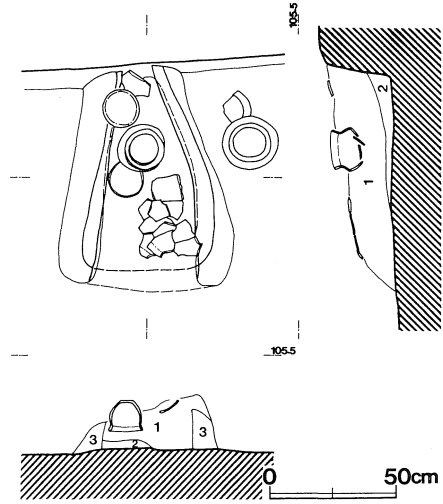
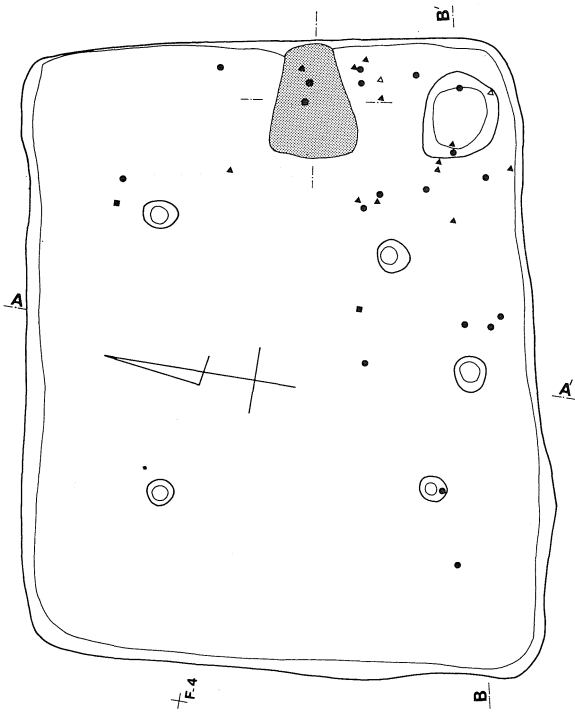
第34图 第16号住居址出土土器



第35図 第16号住居址出土土器

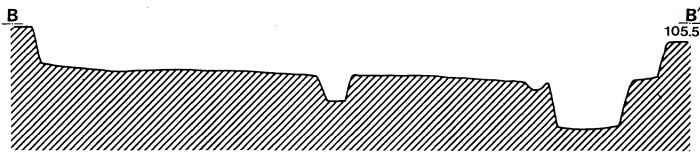
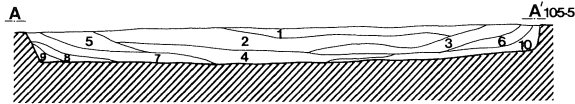
第16号住居址土層註

- 1層 暗褐色泥砂（2層より明るく、泥土の量多く、やや粘質である。）
  - 2層 暗褐色泥砂（0.2～1 cm程の砂礫を含む。）
  - 3層 黒褐色泥砂（2層と同様の礫を含む、その量少なく、土器片を多く含む。）
  - 4層 暗茶褐色泥砂（多量の炭化物、焼土を含み、礫は少量しか含まない。）
  - 5層 褐色泥砂（0.5～2 cm程の礫を多量に含む。）
  - 6層 暗褐色泥砂（5層に類似するが、2 cm大の礫は少なく、やや地山Aに近い。）
  - 7層 褐色砂礫（地山A'に類似し、0.3～2 cm程度の礫と、少量の暗褐色泥土を含む。）
  - 8層 黒褐色砂泥（0.3～2 cm大の砂礫、土器片を多く含み、地山Bブロックを含む。）
  - 9層 暗褐色砂泥（地山Bに類似するが、やや褐色味を帯び、土器を含む。）
  - 10層 褐色砂土（2 cm大の礫を少量含み、土器をほとんど含まない。）
  - 地山A 黒褐色砂礫（0.2～1 cm大の粘土を含む。）
  - 地山A' 褐色砂礫（0.2～3 cm大の微砂を含む。）
  - 地山B 暗褐色砂泥（粘土質の土と微砂を主体とし、0.2～3 cm大の礫を含む。）
- 明度 3 > A > 8 > 4 > 2 > 6 > 1 > B > 9 > 5 > 10



第17号住居址カマド土層註

- 1層 粘土層（礫を多く含む。内側は焼けている。）
- 2層 砂礫層（焼土、炭化物、灰を含む。よくしまっている。）
- 3層 ソデ部



第17号住居址土層註

第36図 第17号住居址

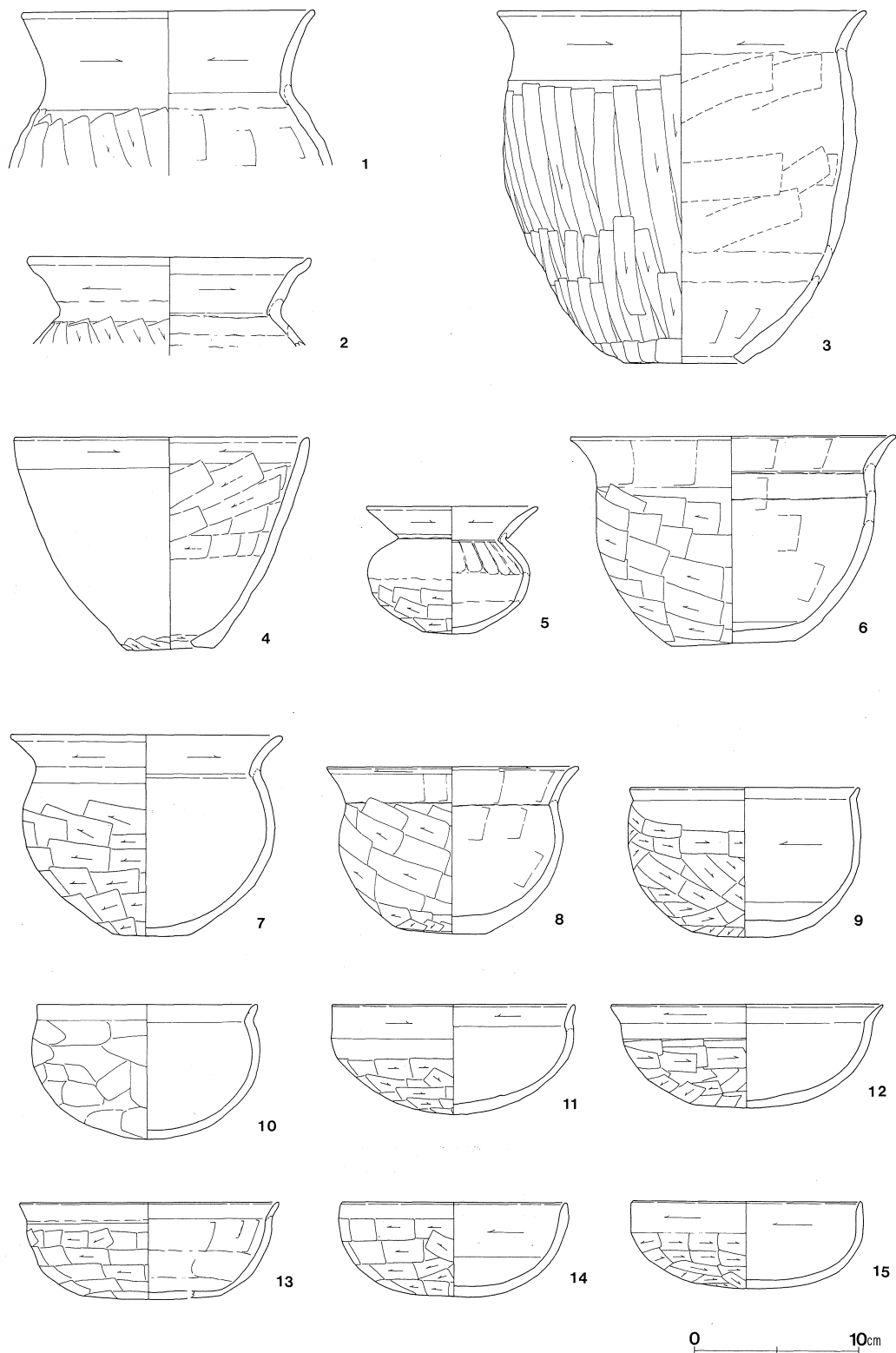
- 1層 暗褐色砂泥（1mm大の砂粒を少量含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（0.1～2cmの砂礫を含み、また、地山Bの小ブロックを混入する。）
- 3層 黒褐色砂泥（2層に類似するが、砂礫の量多く、暗い。）
- 4層 黒褐色泥砂（地山Aに類似し、多量の砂礫を5割程度含む。）
- 5層 暗褐色砂泥（4層に類似するが、砂礫少なく、地山Aの粒子を含む。）
- 6層 暗茶褐色砂泥（0.5mm程度の砂粒に粘土質土が混じる。）
- 7層 黒褐色泥砂（4層に類似するが、砂礫やや少なく、色調もやや暗い。）
- 8層 暗褐色泥土（7層の砂礫を含まないもの。）
- 9層 褐色砂泥（地山B+A。Bが多い。）
- 10層 褐色微砂（地山A下層の赤～黄褐色の砂粒を主体とし、若干の炭化物も混じる。）

地山A 黒褐色砂礫泥土

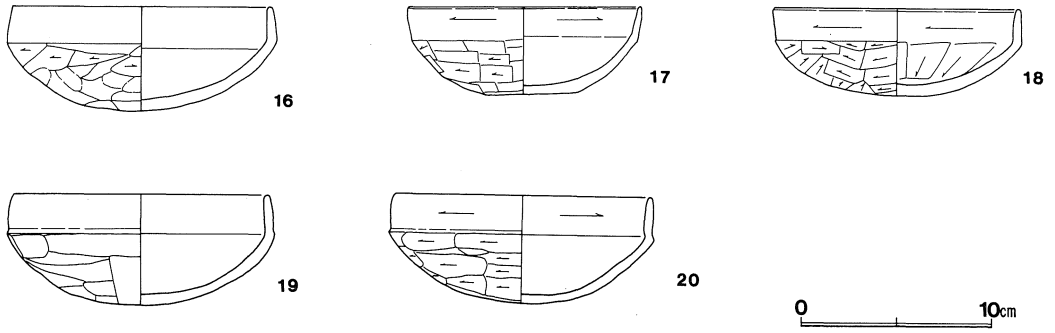
地山B 黄～赤褐色泥砂

砂礫の量比 10 > 4 > 7 > 5 > 8 > 6 > 3 > 2 > 1

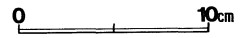
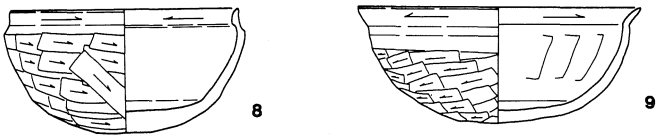
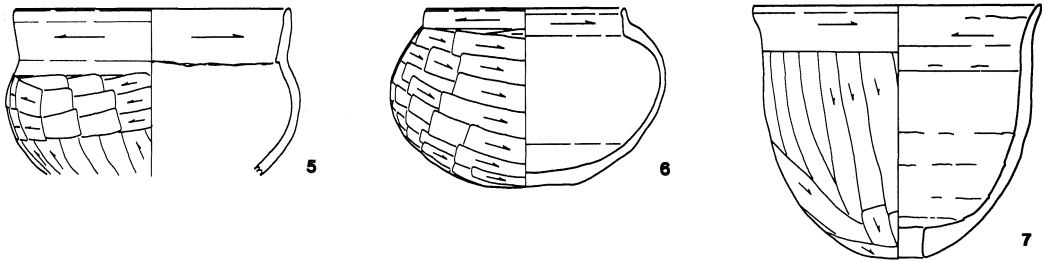
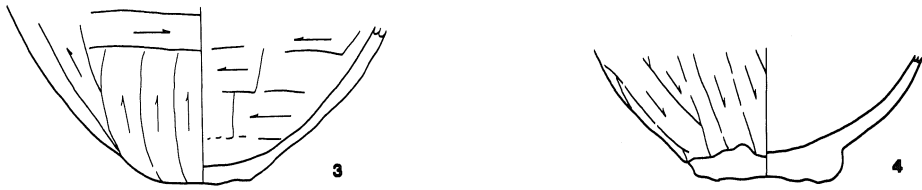
明度 7 > 4 > 地A > 3 > 5 > 1、2 > 6 > 8 > 10 > 9 > 地B



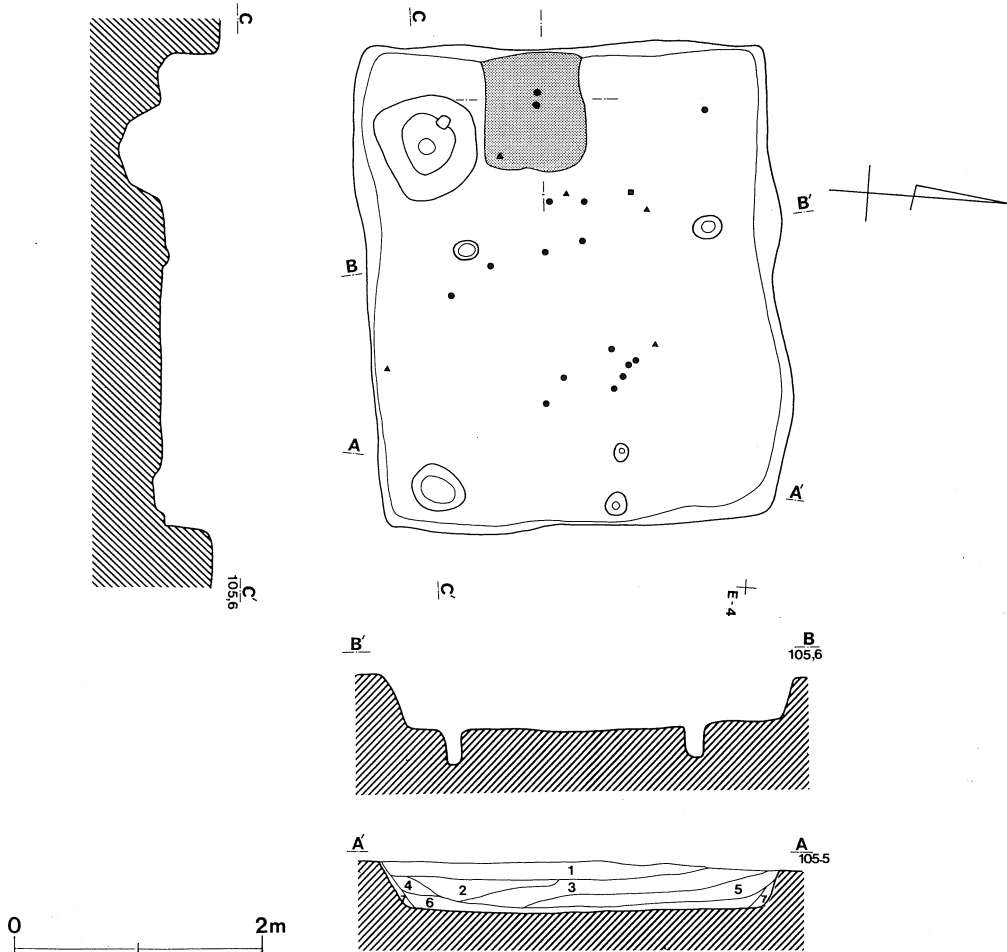
第37图 第17号住居址出土土器



第38图 第17号住居址出土土器

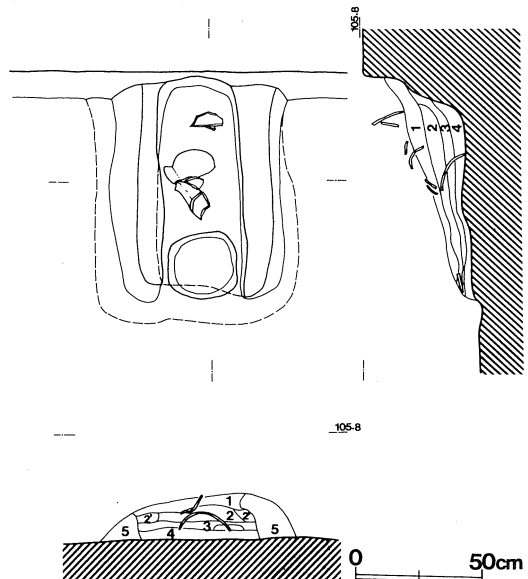


第39图 第18号住居址出土土器



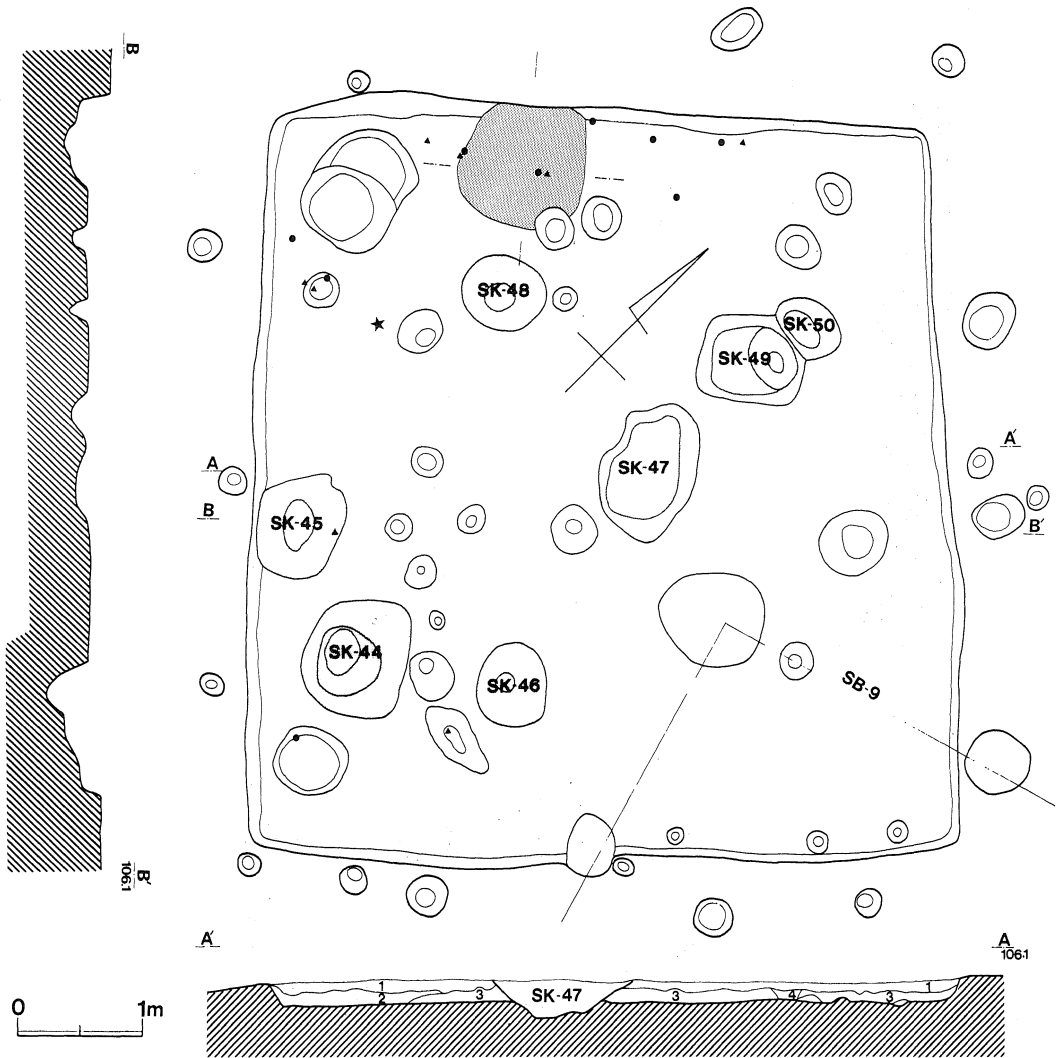
第18号住居址カマド土層註

- 1層 黄暗色砂泥（砂質が強く粘性がないがよくしまっている。天井部の補強材と思われる土器片を含む層である。赤色粒子を若干含む。）
- 2層 赤褐色砂泥（最もよく焼けた層で天井部表面の層。）
- 2'層 基本的には2層と同じ。天井部及びソデ部が剥落したもので黒色砂泥を多量に含む層。）
- 3層 黒色砂泥層（炭化物を多量に含む層であり赤褐色ブロックを若干含む、若干粘性あり。）
- 4層 灰褐色砂泥層（粘性があり、炭化物も含む層であり、若干のしまりがある。）
- 5層 ソデ部



第40図 第18号住居址

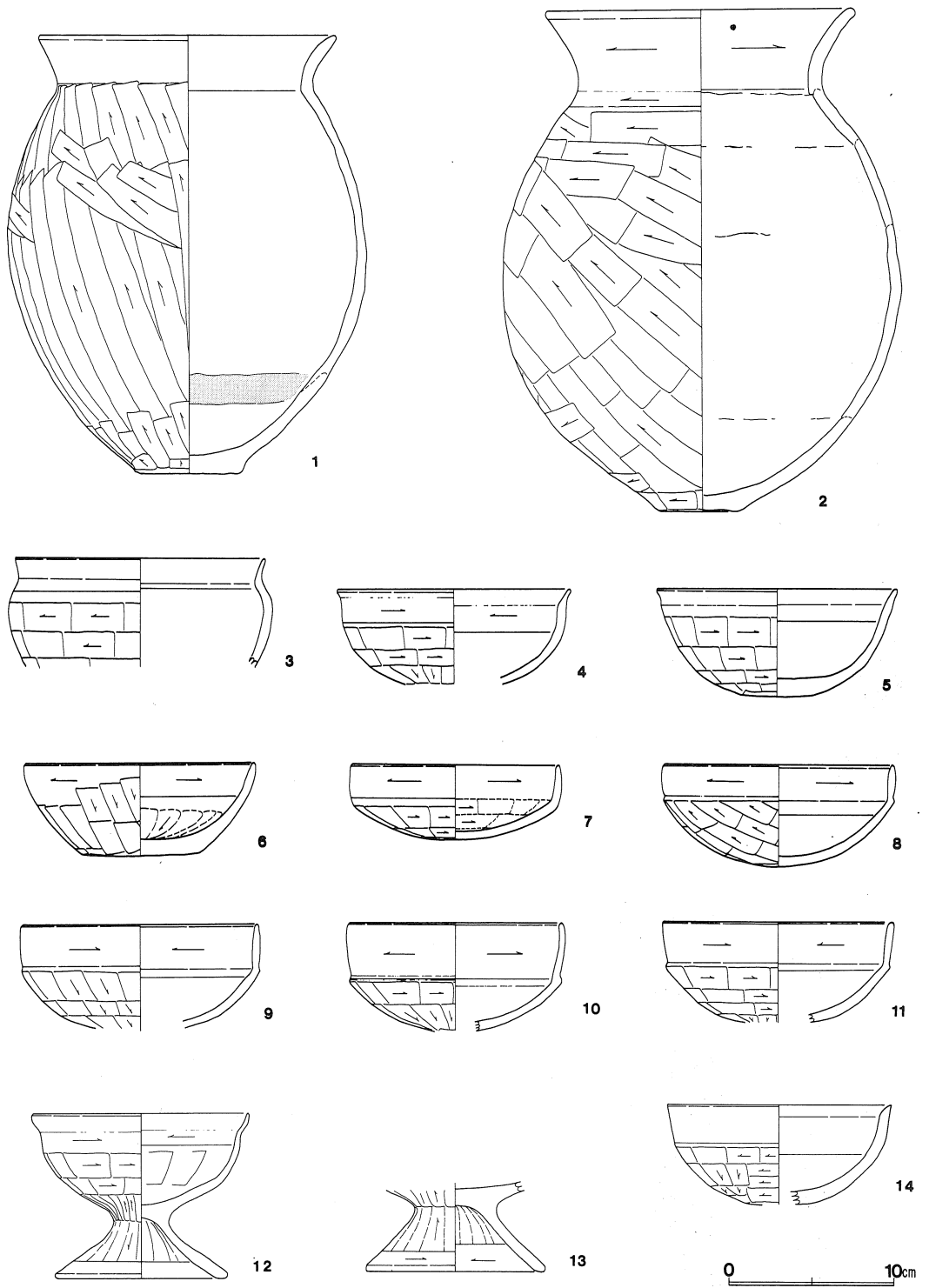




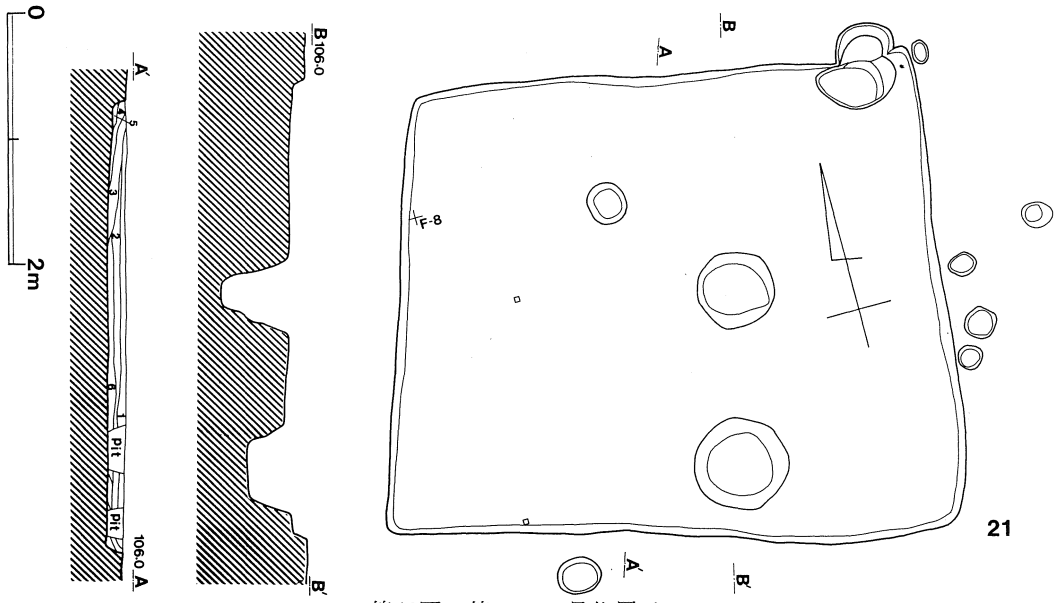
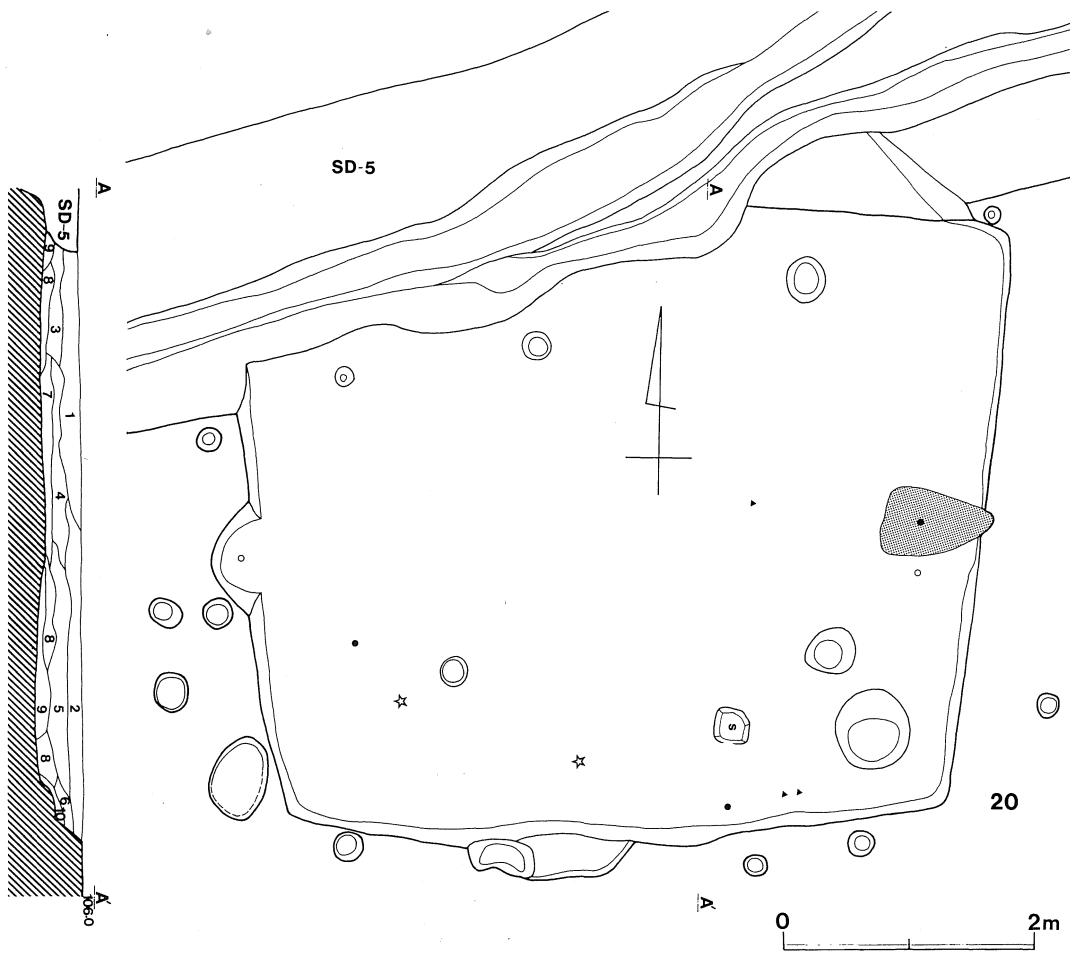
第19号住居址カマド土層註

- 1層 黒褐色砂泥（炭化物、焼土粒を含む。）
  - 2層 褐色砂泥（炭化物、焼土を含む。）
  - 3層 暗茶褐色砂泥（焼土を含み粘性強い。）
  - 4層 赤褐色土（焼土層。）
  - 5層 暗茶褐色砂泥（3層より焼土やや少ない。）
  - 6層 暗褐色砂泥（炭化物及び焼土ブロックを含む。）
  - 7層 淡赤褐色砂泥（焼土B、しまっており少量の炭化物が混入。）
  - 8層 暗茶褐色砂泥（多量の焼土ブロックを含み、斑状をなす。）
  - 9層 褐色砂泥（粘性が強く、しまっている。）
  - 10層 暗褐色砂泥（微量の焼土粒子を含む。）
- 明度 1 > 6 > 3 > 5 > 10 > 8 > 9 > 2

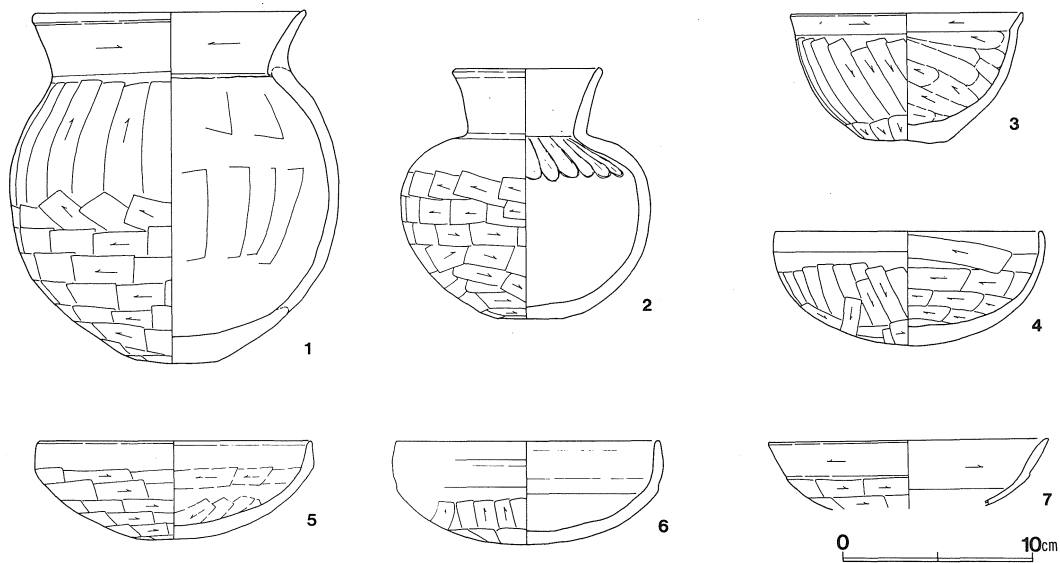
第41図 第19号住居址



第42图 第19号住居址出土土器



第43图 第20、21号住居址



第44図 第20号住居址出土土器



第18号住居址土層註

- 1層 黒褐色砂泥（1～2mmの砂粒、1～3cm大の礫を少量含む。）
- 2層 黒褐色砂泥（1層に類似するが、やや茶色味を帯びる。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（1～2mmの砂粒を含み礫はほとんど含まない。）
- 4層 暗茶褐色砂泥（まれに、2cm大の礫を含む。他に地山様の微砂を含む。）
- 5層 暗茶褐色砂泥（3層に類似するが、地山土の比率高く、粘性が強い。）
- 6層 茶褐色泥土（少量の微砂を含む。粘質大、地山より軟かい。）
- 7層 暗茶褐色砂泥（地山に類似するが、やや暗く、しまっていない。）
- 地山 暗茶褐色砂泥（粘性が強い。）
- 明度 1> 2> 3> 5> 4> 7> 6> 地山

第19号住居址土層註

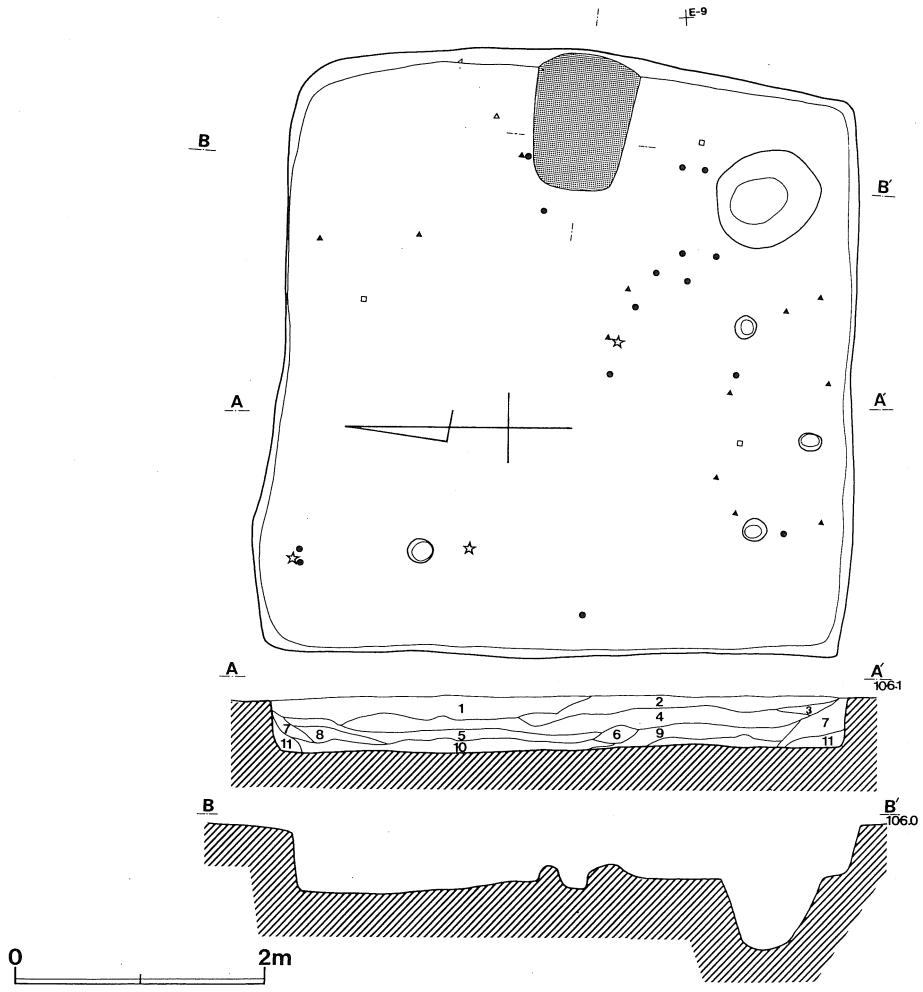
- 1層 暗褐色砂泥（2cmの礫を多く含み、炭化物、遺物も多く含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（小礫を多く含まない。1層より若干暗い色を呈す。）
- 3層 褐色砂泥（1、2層に比べ粘性に乏しい。1.2～1.5cmの礫が密といかないまでもみられる。焼土粒も若干であるが、点在する。）
- 4層 黒褐色泥砂（礫粒子をほとんど含まず粘性もさほどない。）
- 地山A 暗褐色砂泥（1、2層より数段明るい色を呈す。褐色に近い。）
- 地山B 褐色砂泥（5層とよく似ており、粘性も強くなる。）
- 地山C 黒褐色砂泥（シミ状に落ち込んでいる。未掘。）

第20号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（0.5～1.0mmの礫が主体であるが、焼土、炭化物を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層より暗い色調を呈す。焼土粒子が大型になる。礫は0.3mm平均である。）
- 3層 暗褐色砂泥（2層より明るい色を呈す。0.3mmの礫を含むが、密ではない。）
- 4層 暗褐色砂泥（2cm以上の礫を多く含む。3層と同じ色調である。炭化物、焼土粒及びフク土層中の遺物を多く含む。）
- 5層 暗褐色砂泥（4層とほぼ同じ色調だが、礫が1cm大であり、密である。焼土粒も多くなる。）
- 6層 暗褐色砂泥（3層と同じ様な性格を呈す。）
- 7層 茶褐色砂泥（礫をほとんど含まず、粘性は強く、地山ブロックも点在する。）
- 8層 暗褐色砂泥（3層より明るい色調を呈し、1.5cm位の礫を多く含む。）
- 9層 茶褐色砂泥（7層より暗い色を呈す。焼土粒、炭化物を多く含み、礫も7層より密である。）
- 10層 黒褐色砂泥（地山ブロックを多く含み、0.5mm位の礫を含む。）
- 地山A 黒色砂泥
- 地山B 黒褐色砂泥
- 地山C 茶褐色砂泥
- 明度 10> 2> 1> 3> 8> 6> 4 ≧ 5> 9> 7

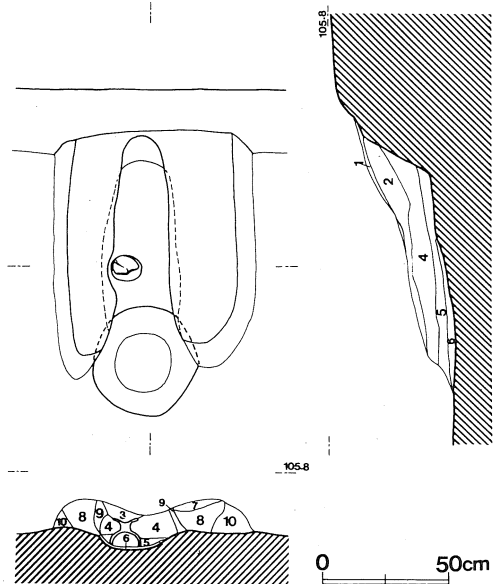
第21号住居址土層註

- 1層 黒褐色泥砂（小礫をたくさん混入し、色調はもっとも暗く、密度も低い。）
- 2層 黒褐色砂泥（礫を混入し、1～3層への移行過程的層である。）
- 3層 暗褐色砂泥（小礫の混入がほとんどなくなり、色調も1、2層に比べ比較的明るくなり、粒子、密度とも細かく、高くなる。）
- 4層 暗褐色砂泥（小礫を3層より多少多く含み、色調は、明るくなっている。）
- 5層 黒褐色砂泥（小礫を多少含み、3層と2層の中間ぐらいで、色調も比較的暗い。）
- 6層 暗褐色砂泥（3層よりは小礫が少なくなり、炭化物粒が多少見られる。）
- 明度 5 ≧ 6> 3> 5> 2> 1

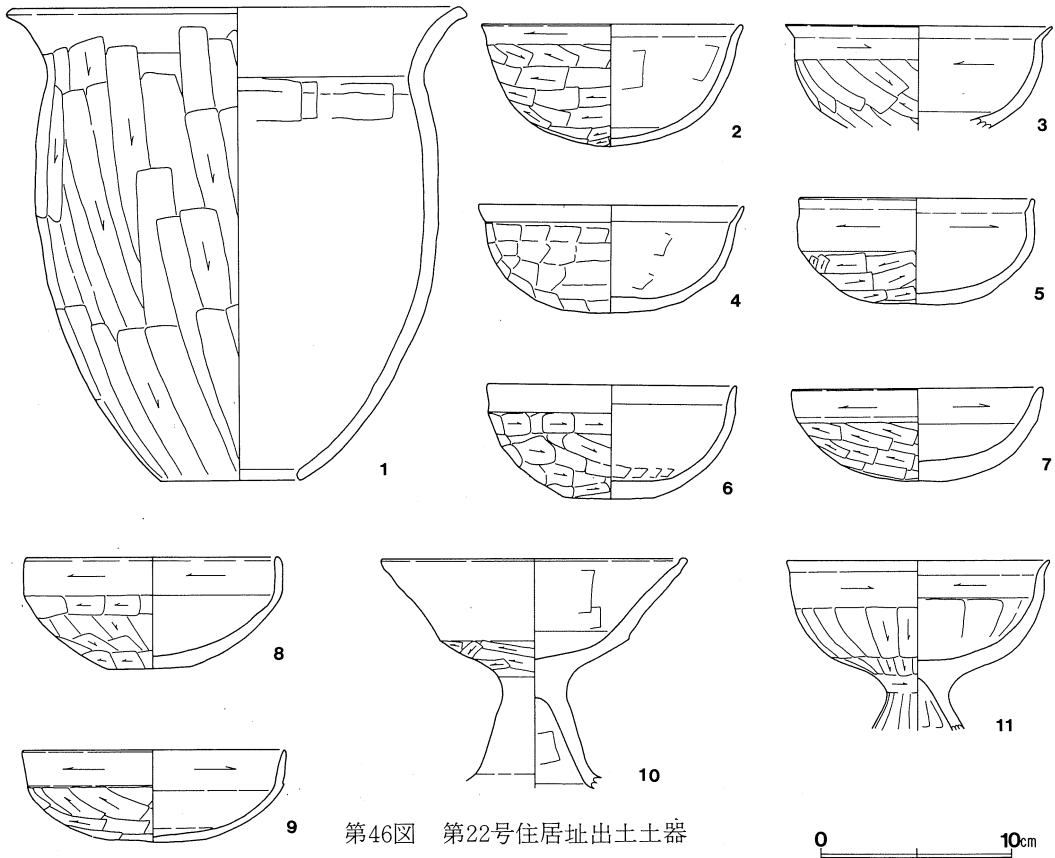


第22号住居址カマド土層註

- 1層 淡褐色砂礫層（小礫径1.5~1.2cm前後を多く含む。）
- 2層 淡褐色泥砂層（小礫及び小さな焼土ブロックがわずかながら見られる。）
- 3層 暗褐色土層（大きな焼土ブロックや灰、炭化物を含む。）
- 4層 赤色粘土層（焼土ブロックにより構成されており炭化物、灰を含む。）
- 5層 黒色土層（炭化物層で、灰、焼土粒子を含む。）
- 6層 赤褐色砂礫層（小さな焼土ブロック、及び礫が火を受けている。地山層が焼化されたもの。）
- 7層 淡赤褐色砂層（焼土ブロックの他に全体的にうす赤く焼けているソデ部。）
- 8層 9層に近い所に小さな焼土ブロック化が見られ -- 10層近くでは粒子となるソデ部。）
- 9層 焼土化したソデ部。
- 10層 淡褐色泥砂層（所々に焼土粒子を認めるソデ部。）



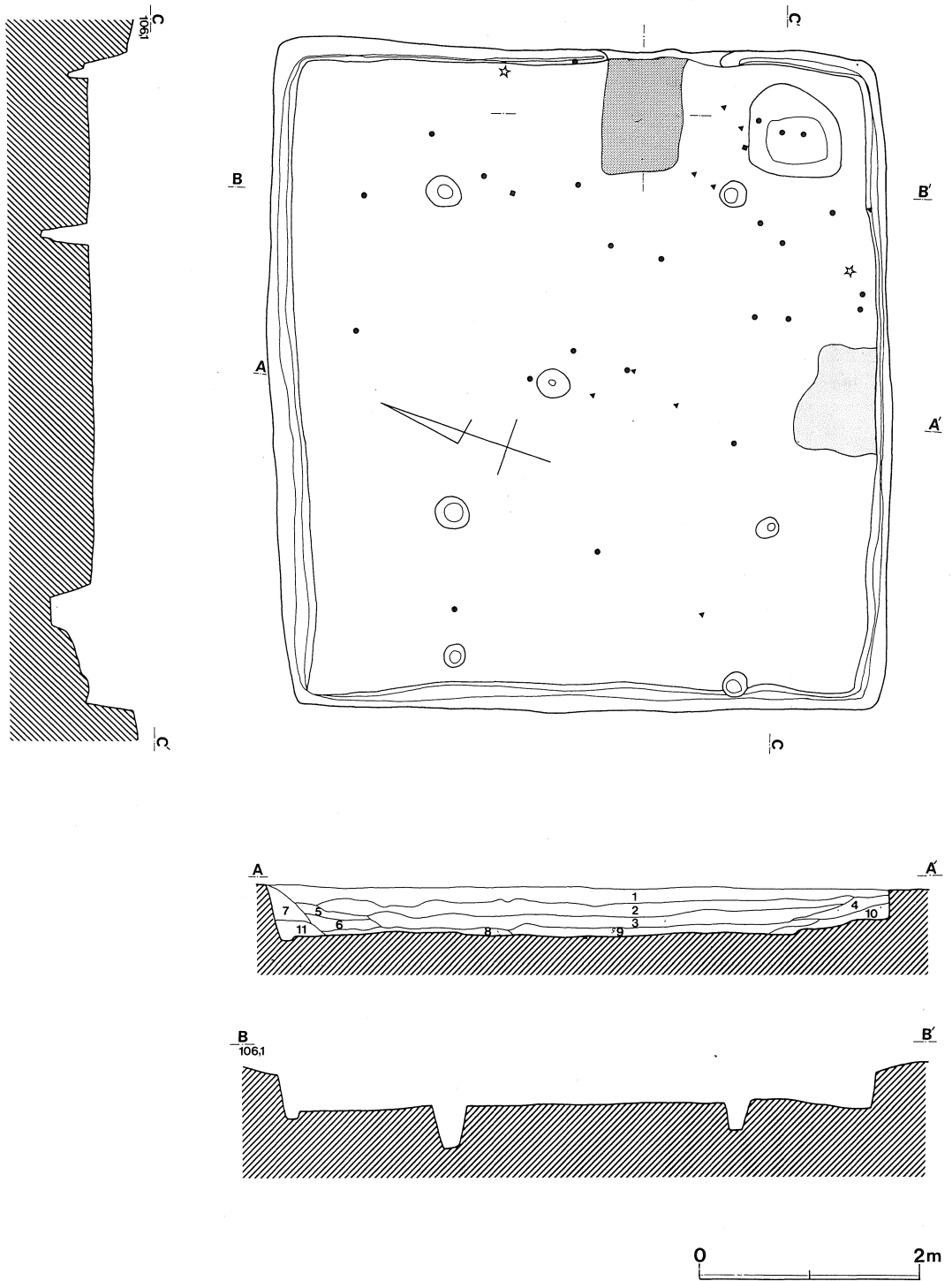
第45図 第22号住居址



第46図 第22号住居址出土土器

第22号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥 (0.5~1.2cmの礫が主体で、各住居の上面を覆う層と同じである。焼土粒が多く、遺物も若干含む。)
  - 2層 暗褐色砂泥 (1.0~1.5の礫が主体で、1層よりも明るい色を呈す。焼土粒も大型化する。遺物を含む。)
  - 3層 暗褐色砂泥 (0.3~0.5cmの礫が主体で、1層よりも明るい色、2層より暗い。焼土、炭化粒はみられない。遺物もさほど多くない。)
  - 4層 暗褐色砂泥 (1.5~2.0cmの礫が主体で、礫砂としてもよいくらいの密度で礫が堆積する層。焼土粒、炭化物、ともに全体的に分布し、遺物もみられる。)
  - 5層 褐色砂泥 (0.5~0.8cmの礫が主体で、まれに1.5cm大の礫が混入する。焼土粒がめだち、遺物、炭化粒もみられる。)
  - 6層 黒褐色砂泥 (1.0~1.3cmの礫が主体ではあるが、密ではない。炭化物が多くみられ粘性は弱い。)
  - 7層 暗褐色砂泥 (1.0cm程の礫が主体で、比較的暗い色を呈し、焼土粒がまれにみられる。壁近くの遺物が含まれることもある。)
  - 8層 黒褐色砂泥 (0.7~1.0cmの礫が主体で比較的明るい黒褐色である。7層に近いが、若干暗く、礫粒子が少なくなる。)
  - 9層 褐色砂泥 (0.5cm程の礫が主体で、5層より暗い色を呈し、焼土粒もみられない。遺物は多く含む。)
  - 10層 黒褐色砂泥 (0.7~1.0cmの礫が混入するが、粗である。床直の遺物を含み、焼土粒、炭化物を含む。5層より暗い。)
  - 11層 暗褐色砂泥 (1.0cm程の礫が主体で、地山ブロックが、多く混入し、粒子は多くない。)
- 地山A 褐色砂泥
- 明度 10 > 6 > 8 > 7 > 1 > 3 > 2 > 4 > 11 > 9 > 5 > 地A

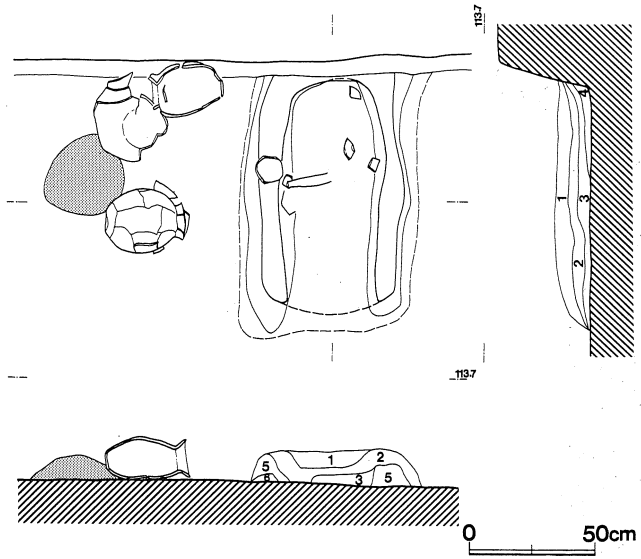


第47图 第23号住居址



第23号住居址カマド土層註

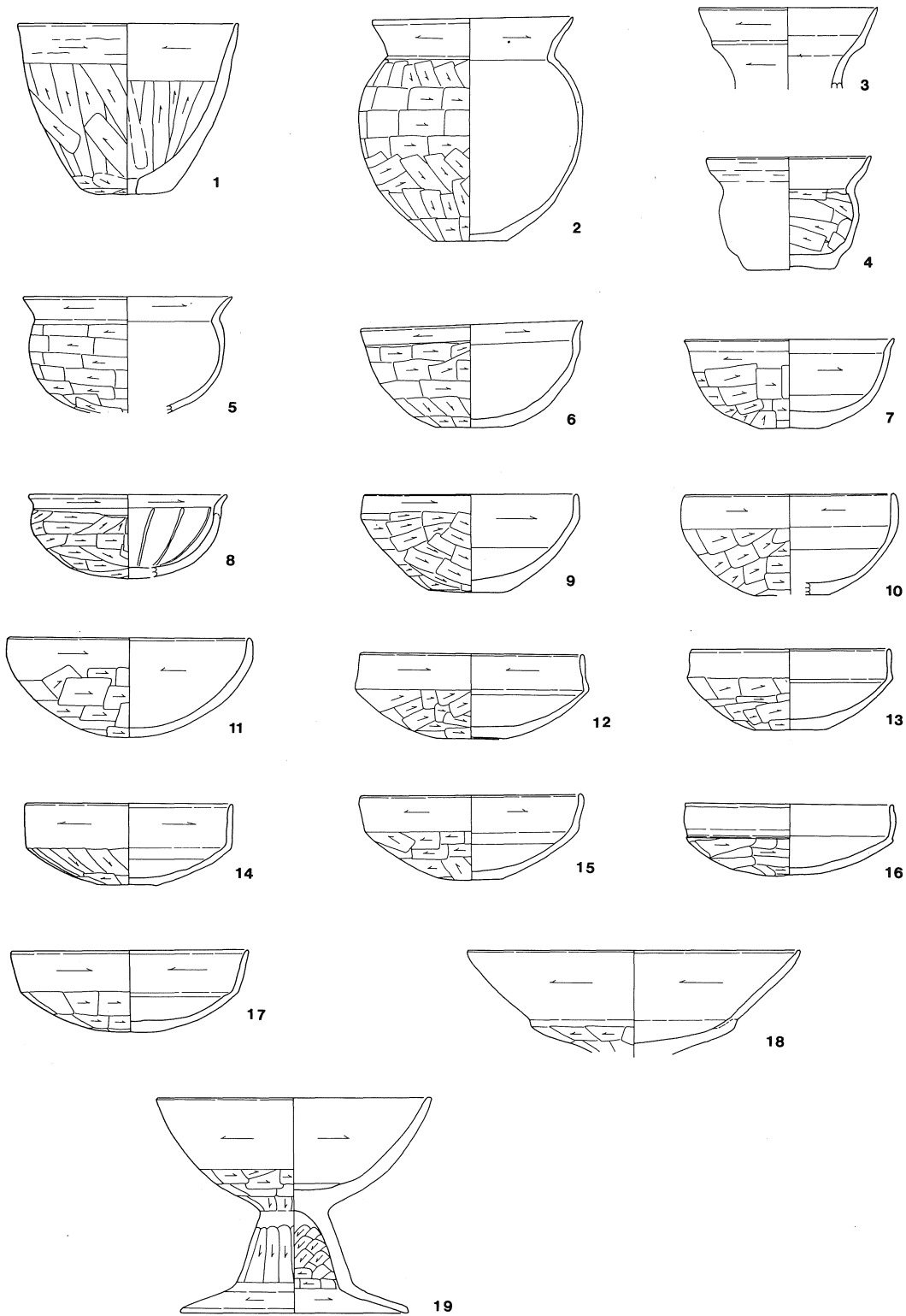
- 1層 砂礫を多く含み、しまっていて硬い。(泥砂質。)
- 2層 本来天井のもので1層にくらべ粘性をもちしまりがあがる。(泥砂質。)
- 3層 焼土、灰炭化物を含み2層より粘質、しまりが強い。
- 4層 炭化物を多く含み、しまりのない層。
- 5層 若干の焼土小石を含み粘性、しまりがあがる。
- 6層 焼土を含まない層でソデ部を作る時人為的に入れられたものと思われる。



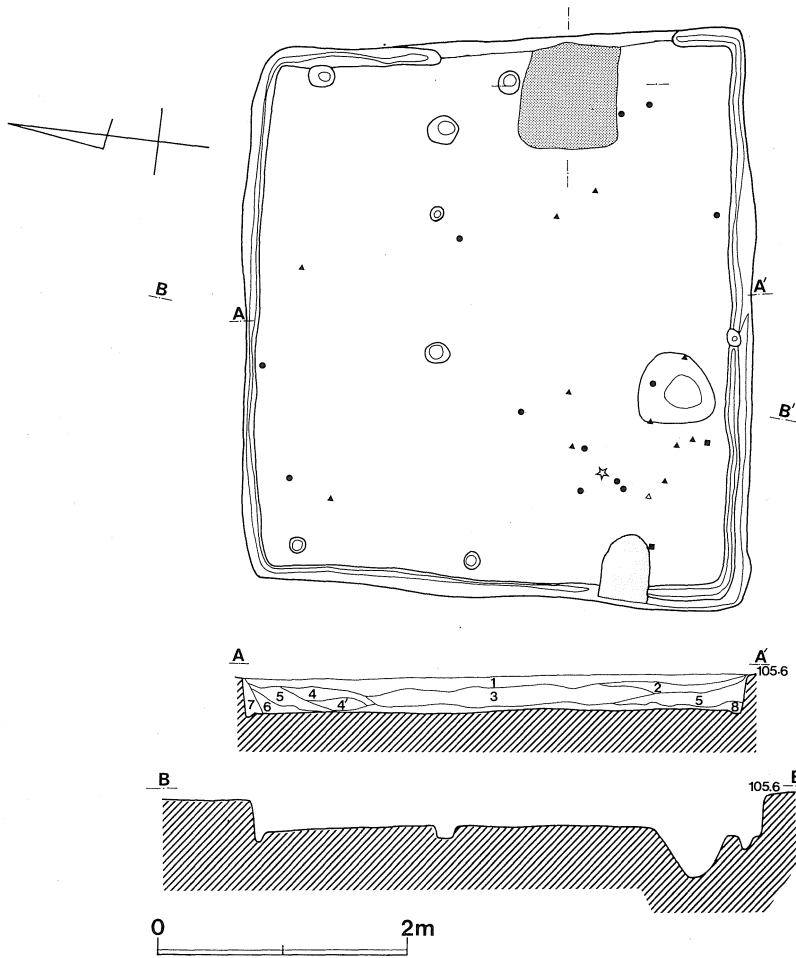
第48図 第23号住居址カマド

第23号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥 (上面を覆う土層で、2~3mmの小礫を含み、少量ではあがるが、土器片を含む。粘性はあがる。)
  - 2層 暗褐色砂泥 (1層より暗い色を呈す。8~10mmの小礫を含み、带状に堆積し、若干の炭化物を含む。粘性は1層より強い。)
  - 3層 黒褐色砂泥 (1~1.2cmの礫を含む。密度は2層より小さく、粘性もない。土器片を含み、炭化物、スコリア粒もみられるが、多くはない。)
  - 4層 黒褐色泥土 (6層に類似するが、若干の小礫を含み、粘性は6層より弱い。)
  - 5層 暗褐色砂泥 (テフラ粒がみられ、2層より暗く、1層より明るい色を呈す。粘性は2層と同等である。)
  - 6層 暗褐色砂泥 (2層と良く似ており、8~10mmの小礫を含む。若干2層より明るく、粘性がある。)
  - 7層 暗褐色砂泥 (1、2層より暗い色を呈す。2~3cmの小礫を含むが、密ではない。)
  - 8層 暗褐色砂泥 (礫をあまり含まず、5層よりも暗い色を呈す。粘性は強い。)
  - 9層 黒褐色砂泥 (1~1.2cm程の礫を含むが、中型2~3cmの礫が点在する。遺物、炭化物を多く含み、焼土粒もみられる。粘性は2層より強い。明度は3層より暗い。)
  - 10層 暗褐色砂泥 (5層に類似するが、色調は、やや明るい。焼土粒を含む。)
  - 11層 黒褐色泥土 (3層より明るい色を呈す。粘性は非常に強く、礫粒子は含まない。)
- 地山A 暗褐色砂泥  
 地山B 暗黄褐色泥砂  
 地山C 灰白色泥土  
 地山D 暗褐色砂土
- 明度 9 > 3 > 4 ≥ 11 > 8 > 7 > 10 > 6 > 5 > 2 > 1

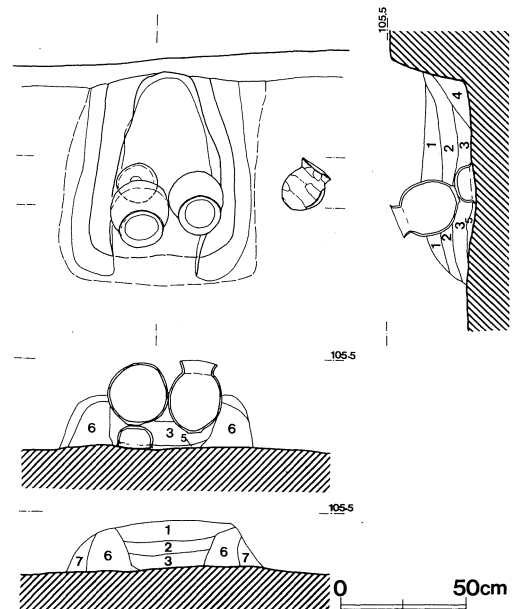


第49图 第23号住居址出土土器

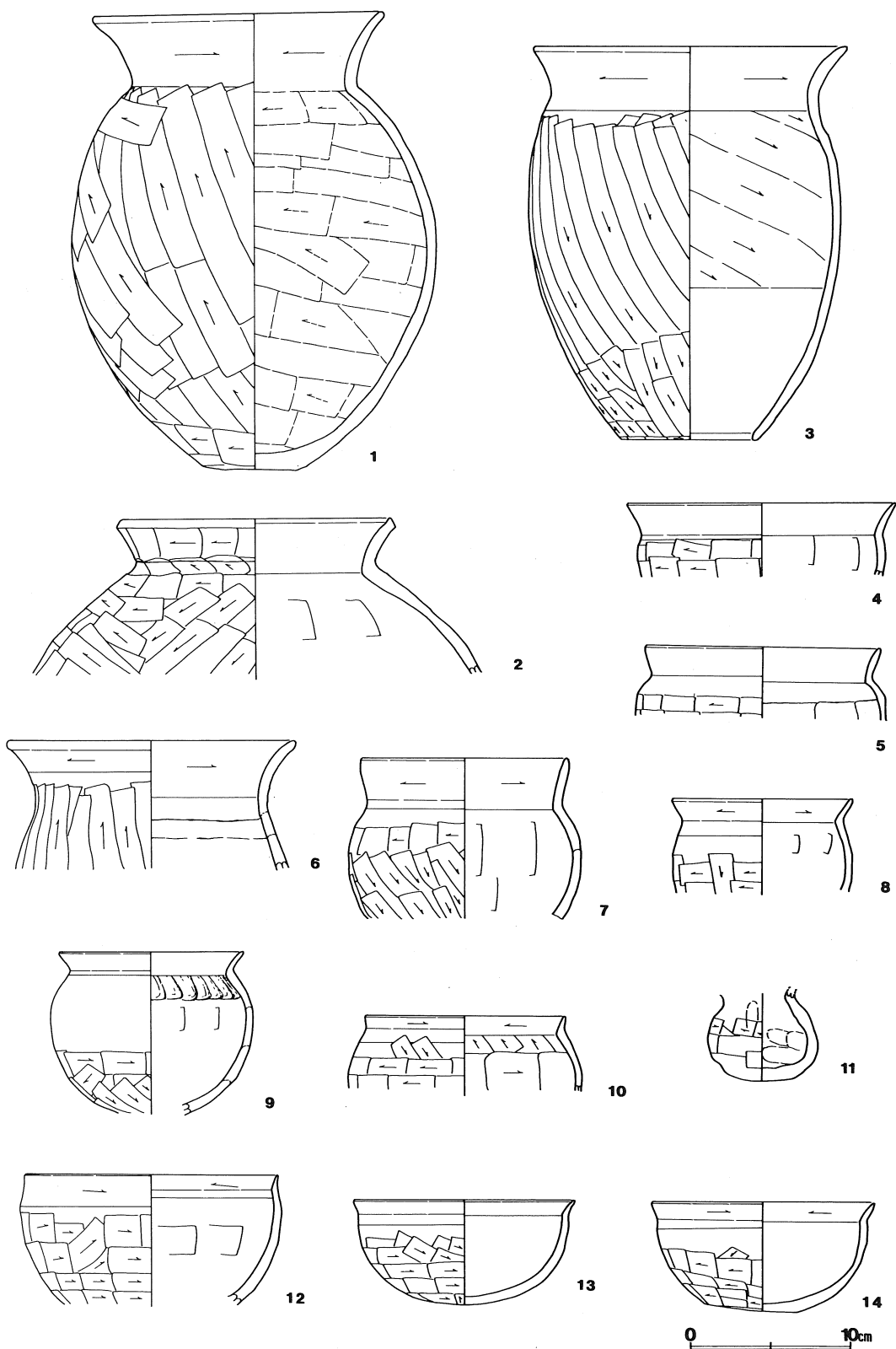


第24号住居址カマド土層註

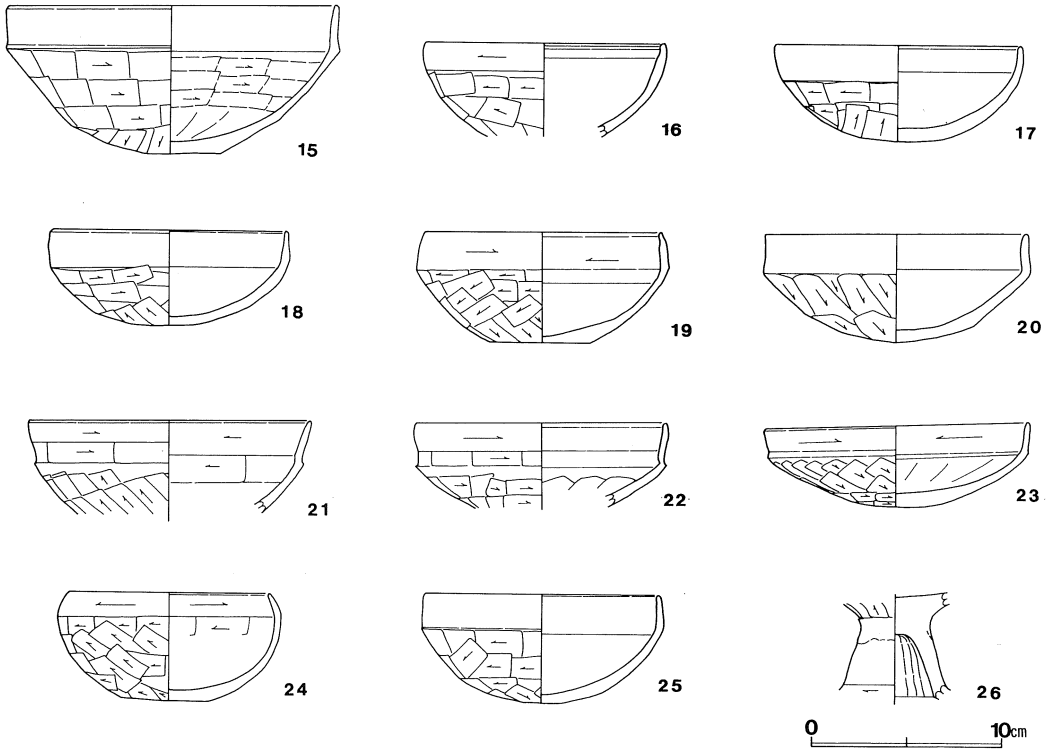
- 1層 褐色砂泥（少量の焼土粒、炭化粒を含み、2層より砂が多いか粘性は強い。）
- 2層 暗褐色砂泥（焼土粒子を多く含み、焼土は淡赤褐色である。）
- 3層 暗褐色砂泥（多量の焼土ブロック、炭化粒を含み斑状をなす。）
- 4層 暗茶褐色砂泥（地山土に淡赤褐色焼土粒子を含む。）
- 5層 暗赤褐色砂泥（地山が淡赤褐色に変化したものと思われ、少量の炭化物を含む。）
- 6層 灰褐色砂泥（粘質であるが微砂が多く、軟かい。）
- 7層 黒褐色砂泥（炭化物、焼土粒を多く含む。）



第50図 第24号住居址



第51图 第24号住居址出土土器

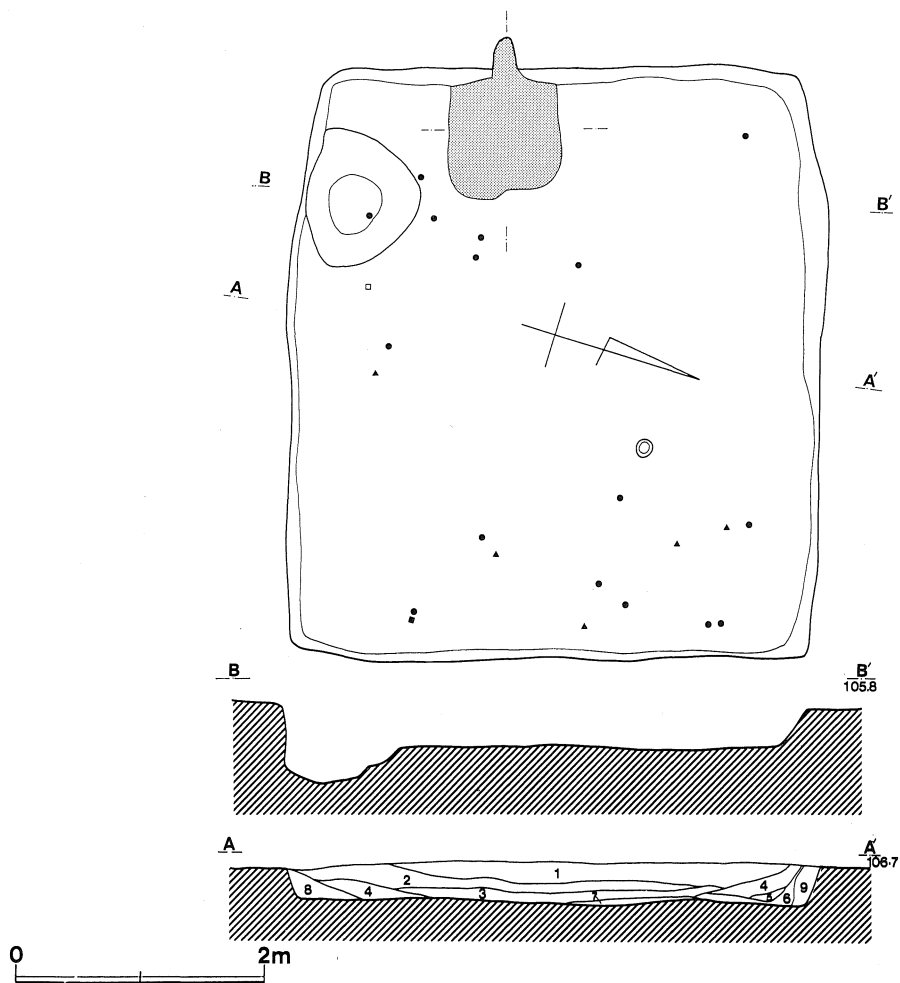


第52図 第24号住居址出土土器

第24号住居址土層註

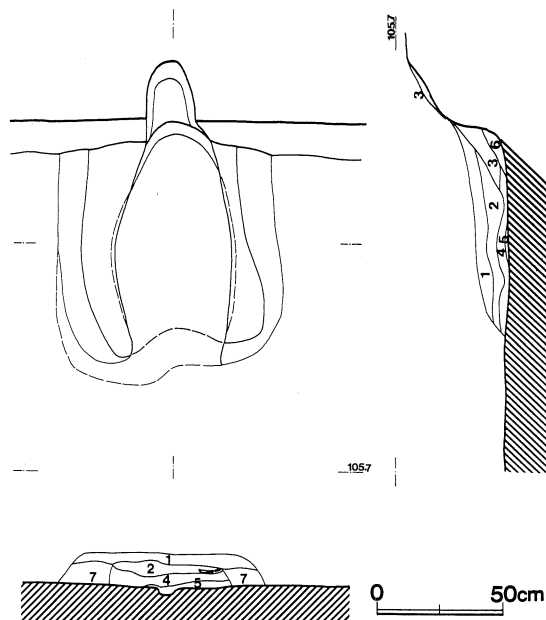
- 1層 暗褐色砂泥 (1.5~2.0cm程の礫粒子が、主体であり、遺物も含む。)
- 2層 暗褐色砂泥 (礫の密度が粗であり、粘性は少ない。全体的にバサバサしている。1層より暗い色調を呈す。)
- 3層 暗褐色砂泥 (2.0~3.0cm程の礫粒子が主体であり、覆土層内出土の土器はこの層からが多い。)
- 4層 暗褐色砂泥 (3.0~4.0mmの砂礫粒子が主体である。少々ではあるが、焼土粒がみられる。3層より明るい。)
- 4'層 暗褐色砂泥 (炭化物を多く含み、暗い色調を呈す。礫粒子はあまり含まず、軟弱な層である。)
- 5層 暗褐色砂泥 (地山ブロックが混入し、礫粒子は少ない。削るとサクサクしている。4層より暗い。)
- 6層 暗黄褐色砂泥 (地山の混入がみられるが、粘性がある。)
- 7層 暗黄褐色砂泥 (地山土のしめる比率が多い。壁の崩壊土か。)
- 8層 黒褐色砂泥 (7~8mmの礫粒子がみられるが全体的に粗である。粘性があり炭化物、床直の遺物を含む。)

明度 8 > 4' > 5 > 3 > 4 > 2 > 1 > 6 > 7

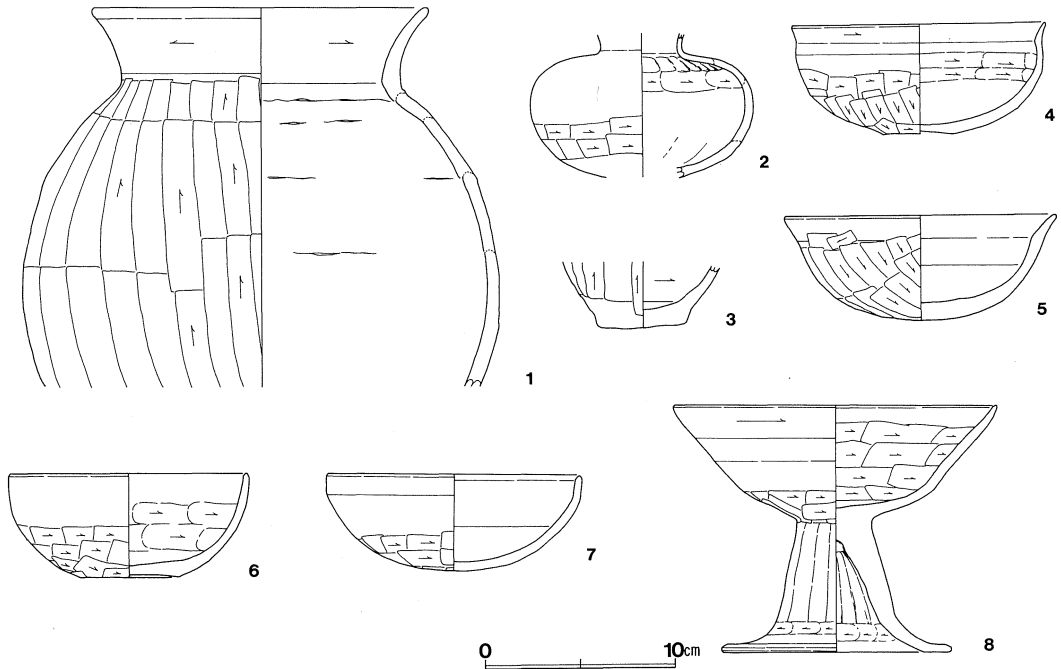


第25号住居址カマド土層註

- 1層 灰褐色砂泥～粘土（少量の焼土炭化物を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層＋多量の焼土、炭化物粒子。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（焼土粒子を多く含み、全体に粒子細かく、礫を含まない。）
- 4層 黒褐色砂泥（多量の炭化物を含み、比較的焼土は少ない。）
- 5層 暗褐色砂泥（地山に類似するが小礫多く、炭化物少量混入。）
- 6層 暗茶褐色砂泥（3層に類似するが地山土の割合多い。）
- 7層 暗褐色砂泥（1層より暗く、粘土質であるが、純粋な粘土ではない。）



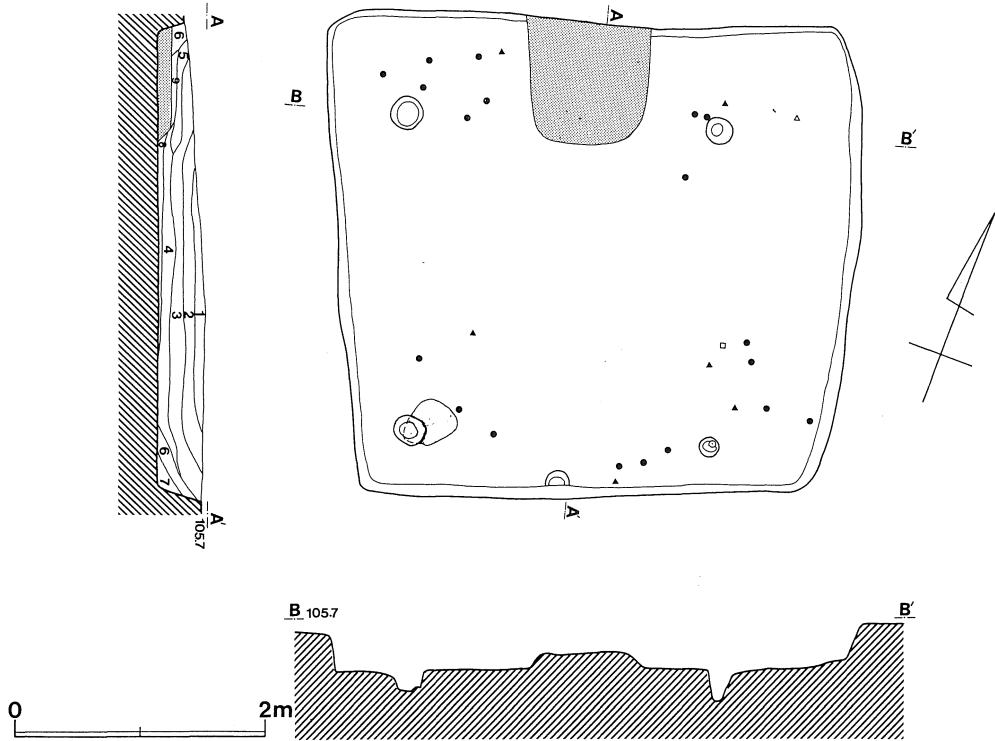
第53図 第25号住居址



第54図 第25号住居址出土土器

第25号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（1.0～1.5cm大の礫が点在するが、密ではない。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層よりも暗い色調を呈し、礫も2～3cm大きさのものが多くなり、密となる。）
- 3層 黒褐色砂泥（1.2～1.5cm大の礫が密となって堆積し、炭化物、遺物も含む、黒色砂泥といってもよい。）
- 4層 暗褐色砂泥（0.7～1.0cmの礫がみられる。密ではないが、1、2層よりも暗い色を呈し、焼土粒も若干みられる。）
- 5層 黒褐色砂泥（焼土粒がみられ、炭化物も点在する。礫粒子はみられない。3層より明るい色を呈す。）
- 6層 黒褐色砂泥（3層より暗い色調を呈す。焼土粒もみられるが、5層程ではない。）
- 7層 暗褐色砂泥（地山土が多く混入し、1.2cm程の礫粒子がみられる。1層よりも明るい色調を呈す。）
- 8層 暗褐色砂泥（1.2～1.5cmの礫がみられるが、密ではない。地山ブロックが混入し、7層よりも暗い。）
- 9層 褐色砂泥（地山土である。上面がAで下面がBである。）
- 地山A 暗褐色砂泥
- 地山B 暗黄褐色砂泥
- 明度 9 > 7 > 8 > 1 > 2 > 4 > 5 > 3 > 6

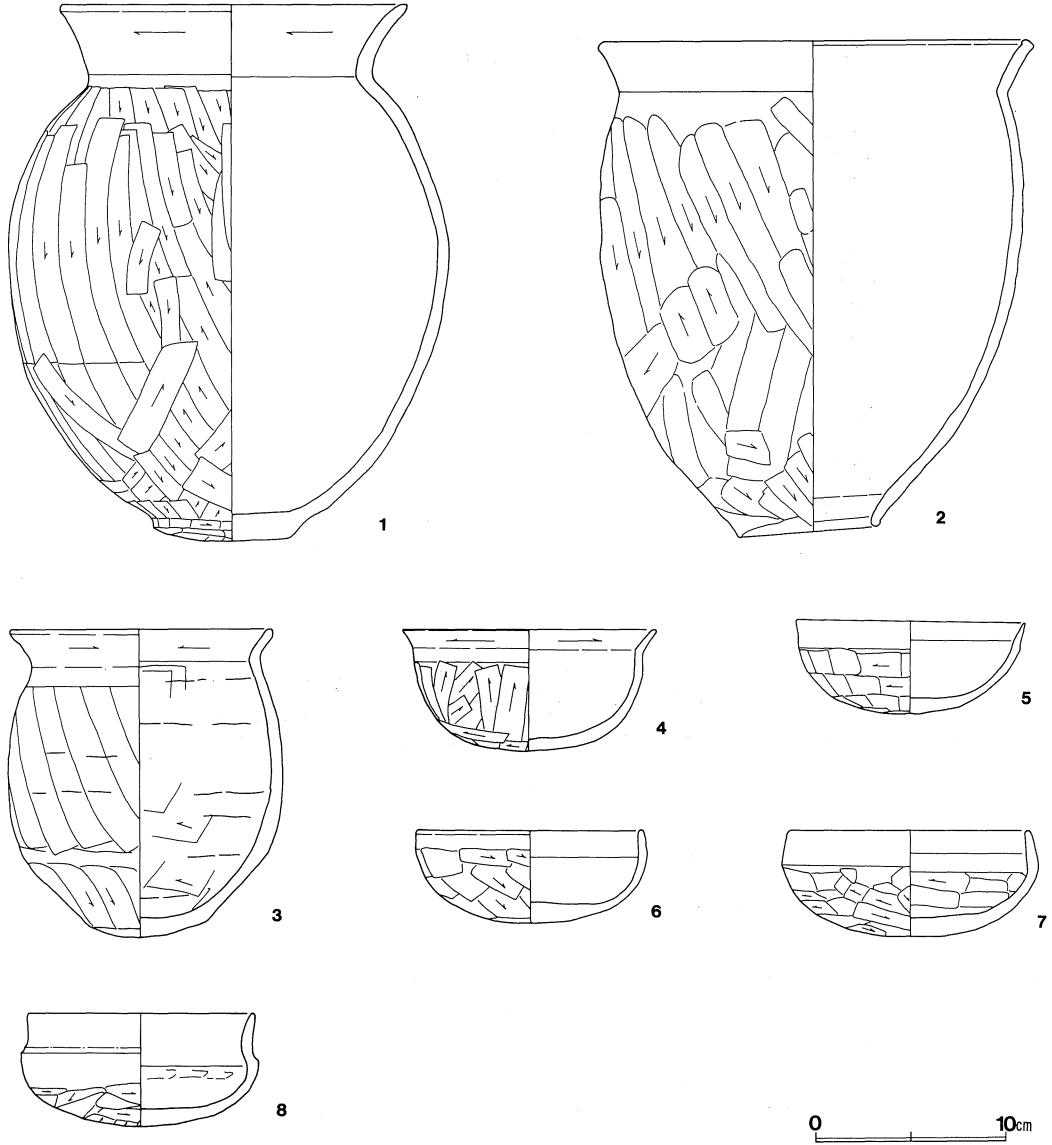


第55図 第26号住居址

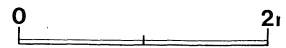
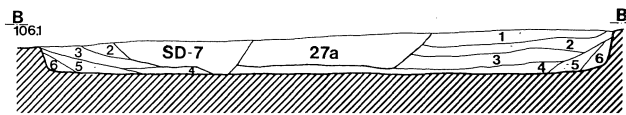
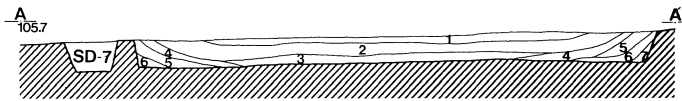
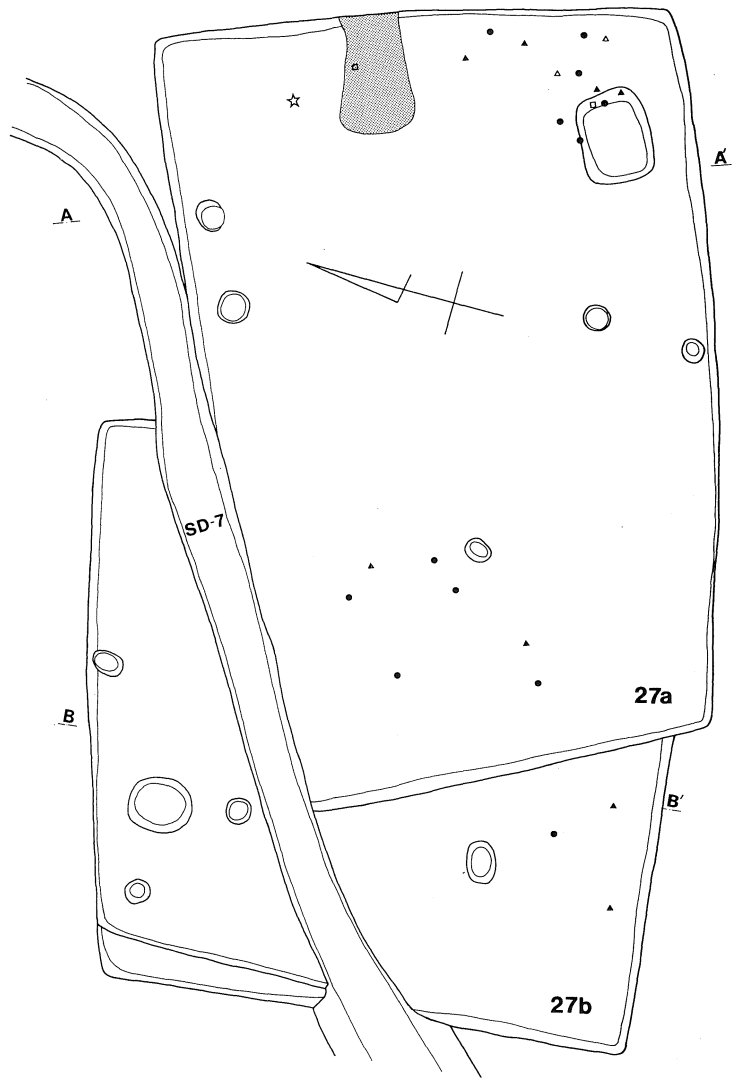
第26号住居址土層註

- 1層 黒褐色砂泥（小礫をほとんど含まず、若干の焼土粒が見られる。泥の多い層である。）
  - 2層 暗褐色砂泥（小礫、砂が増加し、焼土粒、炭化物も点在している。土器の見られる層である。）
  - 3層 暗黄褐色砂泥（2層に比べ小礫、砂はほとんど変わらないが、ローム粒子の混在が見られる。）
  - 4層 暗褐色砂泥（3層に比べ明度が低くなり、小礫と砂が増加している。比較的粗である。）
  - 5層 灰褐色砂礫（小礫とカマドの粘土、若干の砂と焼土粒で成っており、粗な層である。）
  - 6層 暗褐色砂泥（3、4、5層に比べ明度は低く、砂泥を中心とした密な層で、若干の焼土粒とローム粒を含む。）
  - 7層 暗黄褐色砂泥（比較的明度は高く、多少大形のロームブロックを含み、壁の崩壊土と思われる。）
  - 8層 暗褐色砂泥（床直の層であり、焼土、炭化物を多量に含み、小礫が比較的多い。3層と同等である。）
  - 9層 灰褐色砂泥（カマドの粘土と、砂を中心に、炭化物、焼土を含んでいる。）
- 明度 9 > 5 > 3 > 7 > 2 > 8 > 4 > 6 > 1

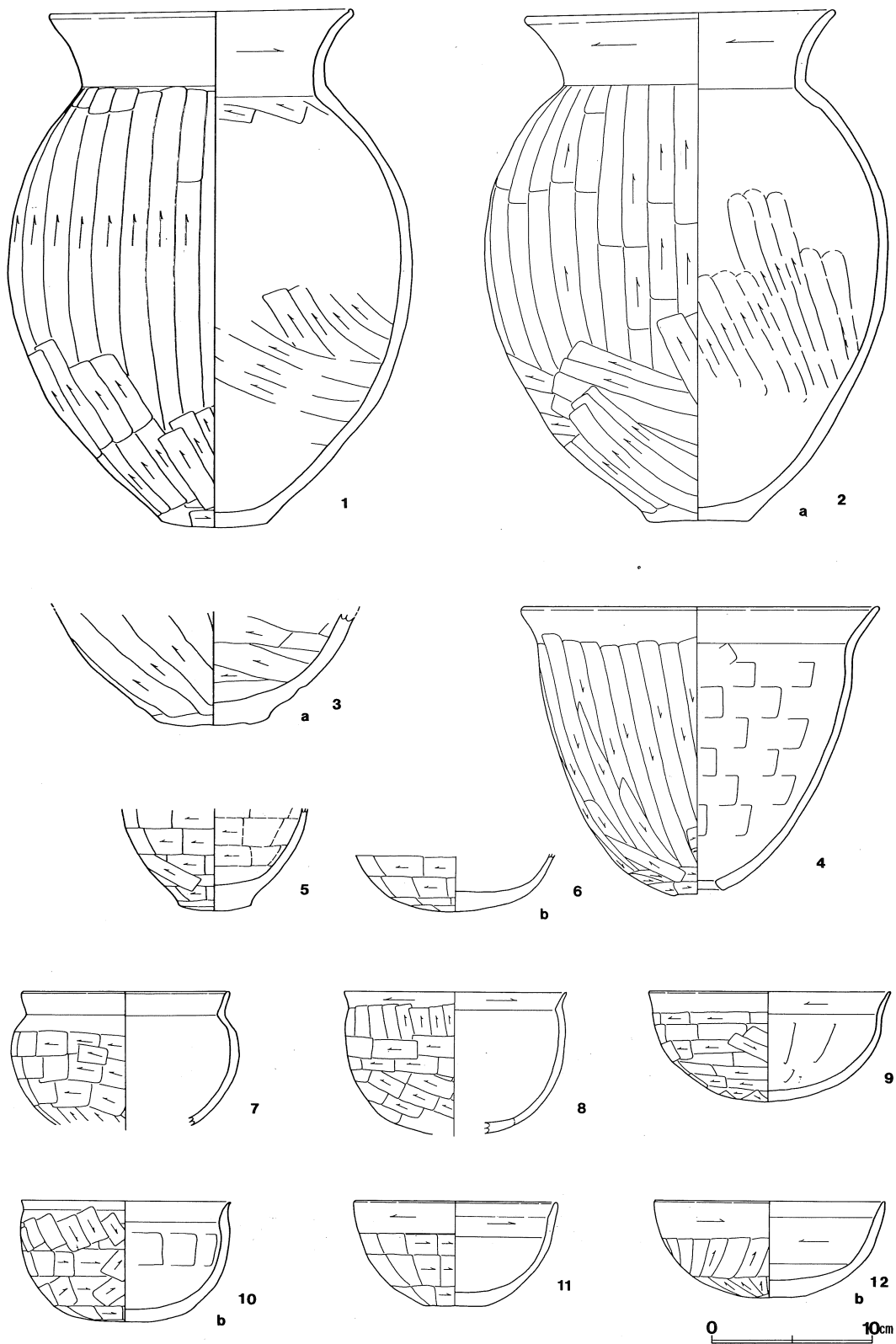




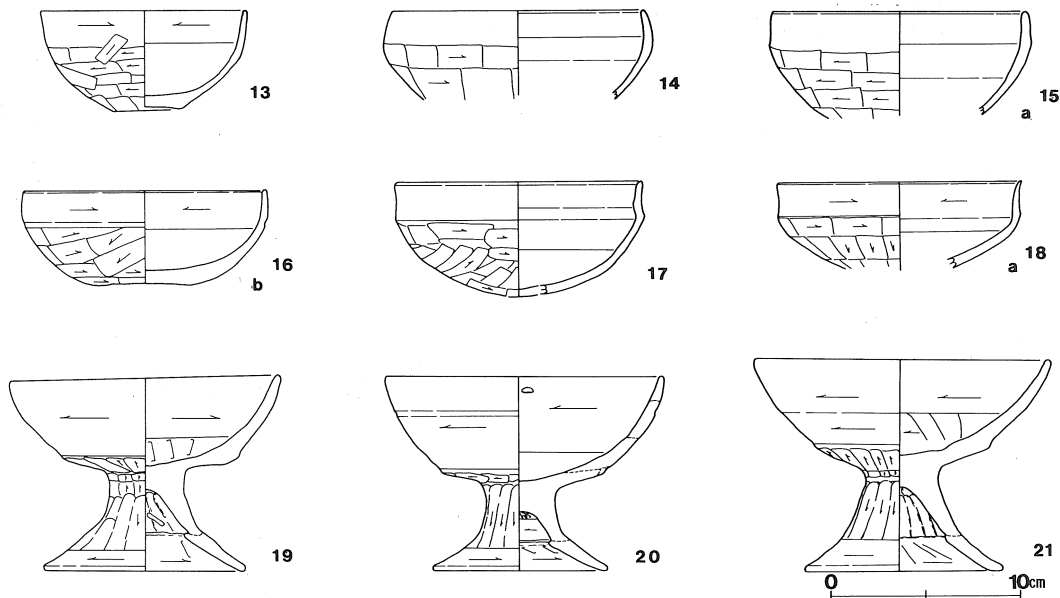
第56図 第26号住居址出土土器



第57図 第27号a・b住居址



第58图 第27a·b号住居址出土土器



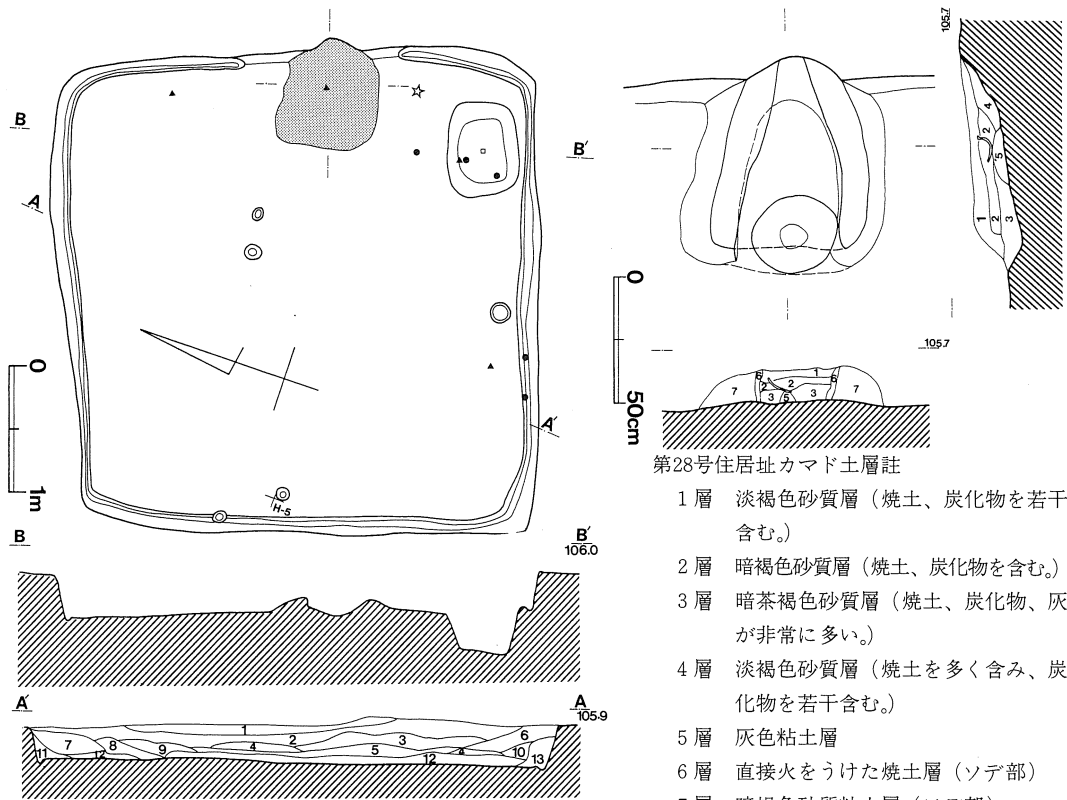
第59図 第27a・b号住居址出土土器

第27 a 号住居址土層註

- 1層 黒褐色砂泥（多少の小礫と、若干の焼土、炭化物を含み、砂泥の多い層であり、多少粗である。）
  - 2層 暗褐色砂泥（小礫は1層よりも増加し、焼土、炭化物も増加し、粗な層になる。）
  - 3層 暗褐色砂泥（小礫は2層よりも増加し、砂礫層に近くなっている。焼土、炭化物は2層と同等である。）
  - 4層 暗褐色砂泥（小礫は1層と同じぐらい含み、砂が増加している。焼土粒は余りなく、炭化物も余りない。）
  - 5層 黒褐色砂泥（小礫は1層より減少し、砂泥が増加し、ローム粒、焼土粒、炭化物は余りない。）
  - 6層 暗褐色砂泥（若干砂礫が増加し、焼土粒子、炭化物粒、ローム粒とも増加している。2層に近い。）
  - 7層 暗褐色砂泥（地山の崩壊土と思われ、ローム粒が増加し、若干の焼土を含む。）
- 明度 7 > 6 > 4 > 3 > 2 > 1 > 5

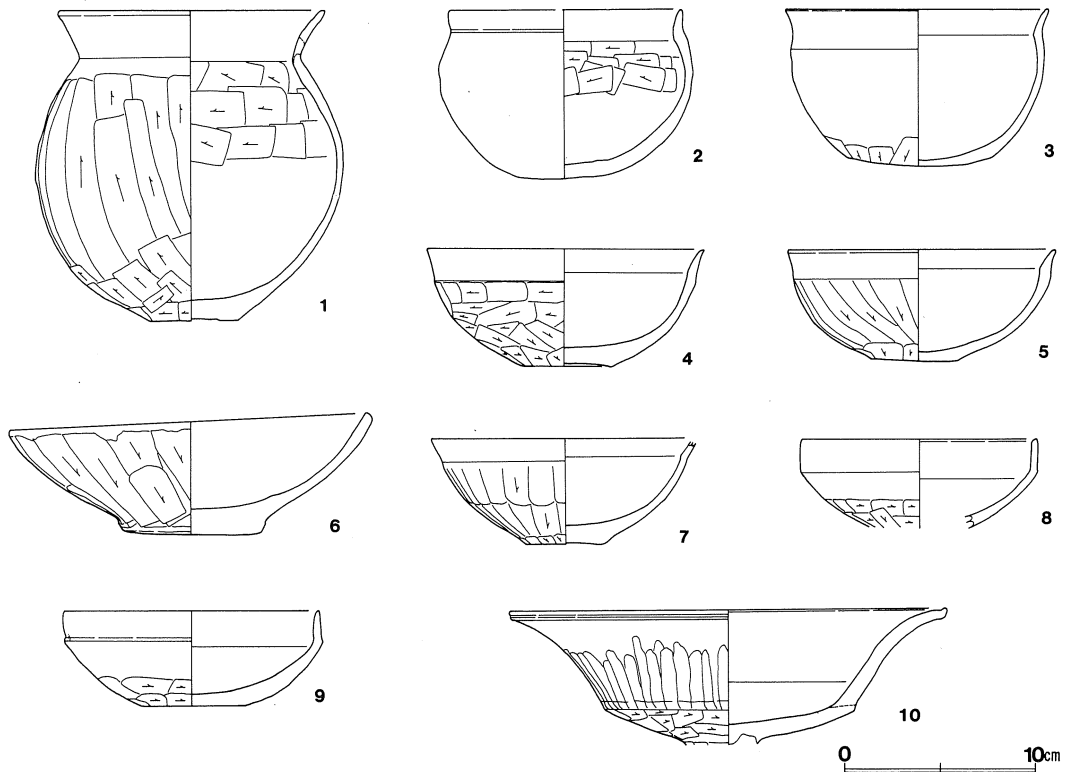
第27 b 号住居址土層註

- 1層 黒褐色砂泥（若干の小礫と多少の焼土粒が点在する。）
  - 2層 暗褐色砂泥（小礫は余り含まず、焼土粒が細かく分布する。）
  - 3層 暗褐色砂泥（焼土粒、炭化物が増加し、小礫は多少入っている。）
  - 4層 暗褐色砂泥（焼土粒、炭化物が広く分布する。）
  - 5層 暗褐色砂泥（砂泥が中心であるが、多少の焼土粒と炭化物を含み、ローム粒は余り含まない。）
  - 6層 暗黄褐色砂泥（ローム粒子を多く含み砂泥中心で密な層である。）
- 明度 6 > 5 > 3 > 4 > 2 > 1

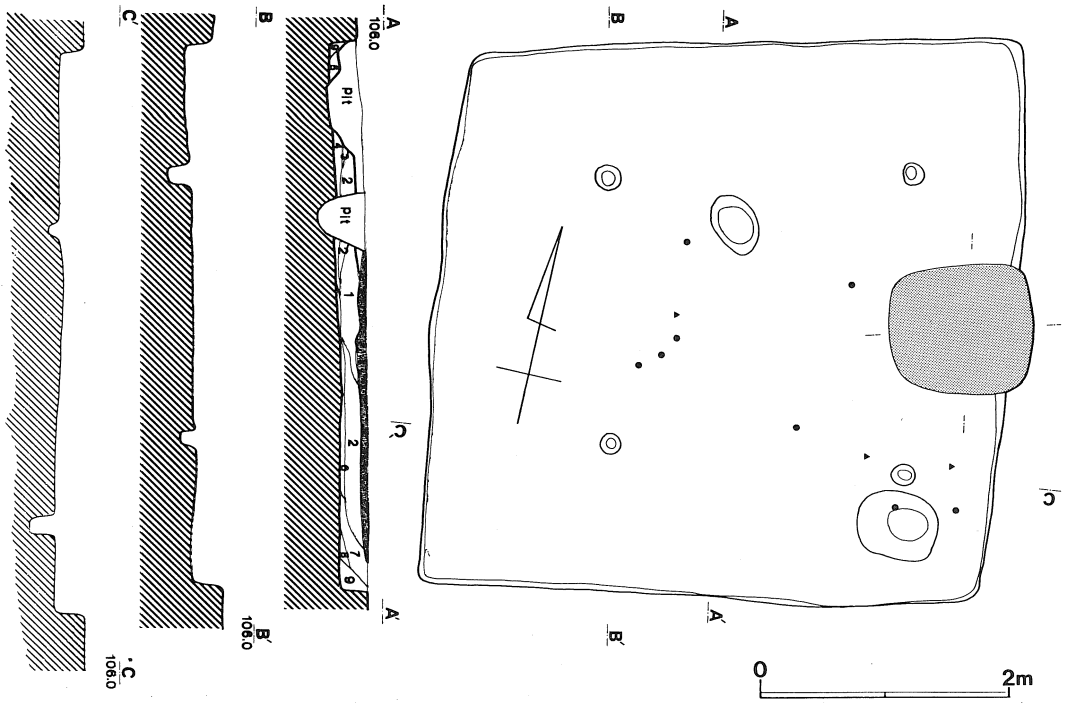


第28号住居址カマド土層註

- 1層 淡褐色砂質層（焼土、炭化物を若干含む。）
- 2層 暗褐色砂質層（焼土、炭化物を含む。）
- 3層 暗茶褐色砂質層（焼土、炭化物、灰が非常に多い。）
- 4層 淡褐色砂質層（焼土を多く含み、炭化物を若干含む。）
- 5層 灰色粘土層
- 6層 直接火をうけた焼土層（ソデ部）
- 7層 暗褐色砂質粘土層（ソデ部）

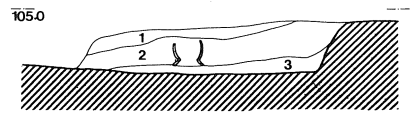
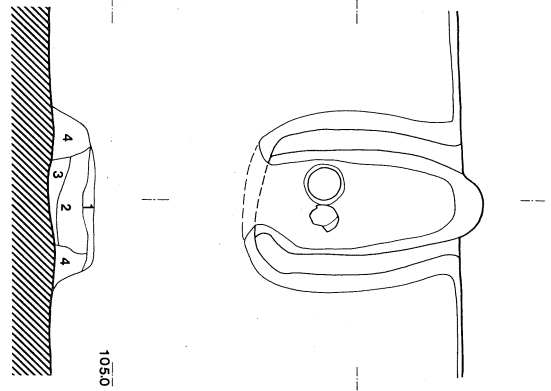


第60図 第28号住居址及び出土土器

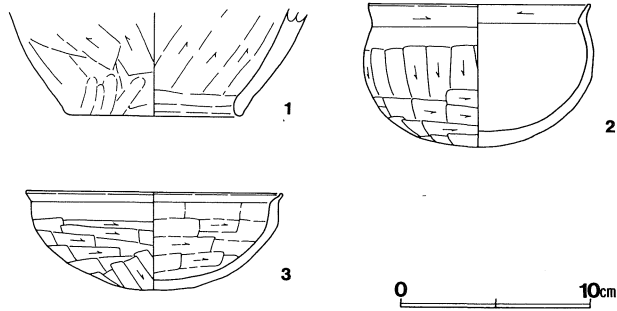


第29号住居址カマド土層註

- 1層 暗褐色土
- 2層 茶褐色土（多量の焼土粒子及び焼土ブロック。）
- 3層 黄褐色土
- 4層 黄褐色土層



第61図 第29号住居址出土土器



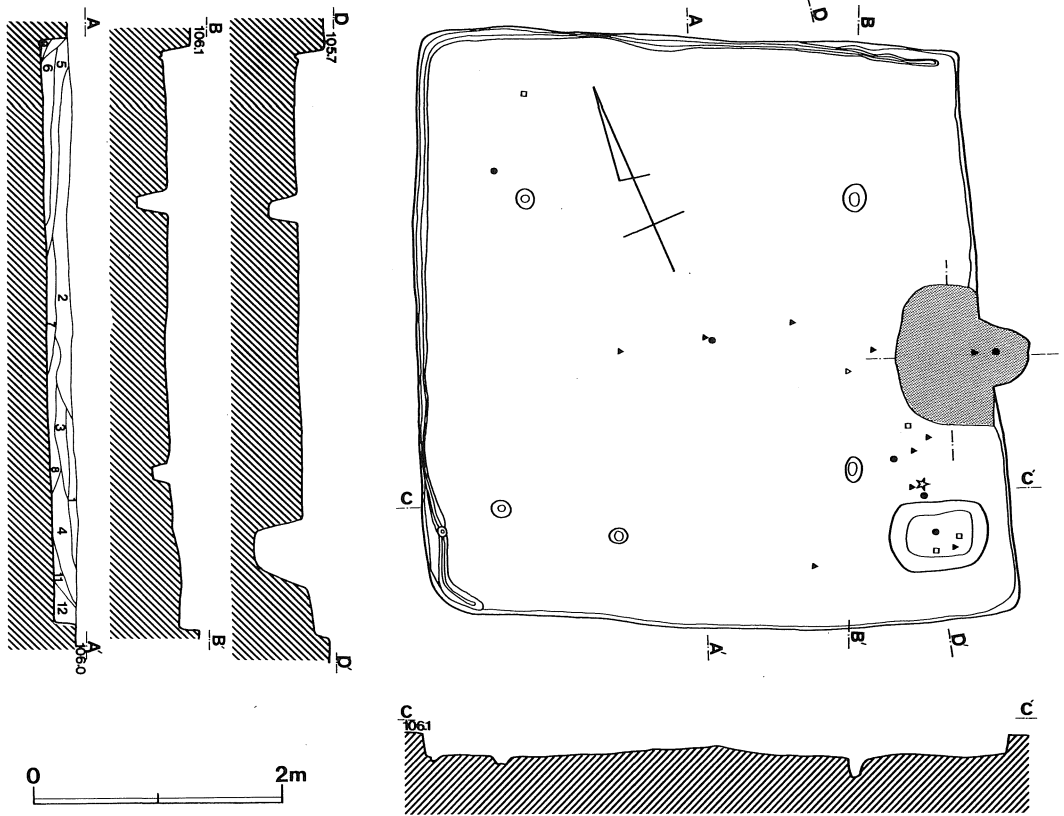
第62図 第29号住居址出土土器

第28号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（礫粒子を多く含まぬ層で、灰白色粒子がみられるが、粗である。）
  - 2層 暗褐色砂泥（1層よりも暗い色を呈し、炭化物も若干含む。1.0～1.2cmの礫粒子が見られるが、密ではない。）
  - 3層 暗褐色砂泥（0.7～1.0cmの礫粒子を含むが密ではない。焼土粒、炭化物を含む。1層よりも明るい。）
  - 4層 赤褐色砂泥（1.0cm平均の礫粒子がみられるが、粗である。灰白色粒子、炭化粒が点在する。）
  - 5層 赤褐色砂泥（礫粒子を含まない。4層より明るい色を呈す。焼土粒がみられる。）
  - 6層 暗褐色砂泥（礫粒子を含まぬ層、炭化物1mm大を含む。）
  - 7層 黒褐色砂泥（明るい黒褐色を呈す。礫を若干含むが、密ではない。）
  - 8層 黒褐色砂泥（礫粒子を全く含まず、炭化粒子を含む。粘性はなく、7層より暗い色を呈す。）
  - 9層 赤褐色砂泥（4層より暗い色を呈す。0.5～0.6cmの礫粒子を若干含む。）
  - 10層 暗褐色砂泥（6層とほぼ同等の色調を呈すが、炭化粒を含まず、焼土粒がやっと思られる。）
  - 11層 暗褐色砂泥（13層とほぼ同等の色調を呈すが、炭化物がみられる。焼土粒はみられない。）
  - 12層 暗褐色砂泥（1、2、3、6層よりも明るい色調を呈す。0.6mm大の礫粒子点在。）
  - 13層 暗褐色砂泥（色調は10層よりも暗く、焼土粒が若干みられる。）
- 明度 8 > 7 > 13 ≧ 11 > 10 > 6 > 2 > 1 > 3 > 12 > 9 > 4 > 5

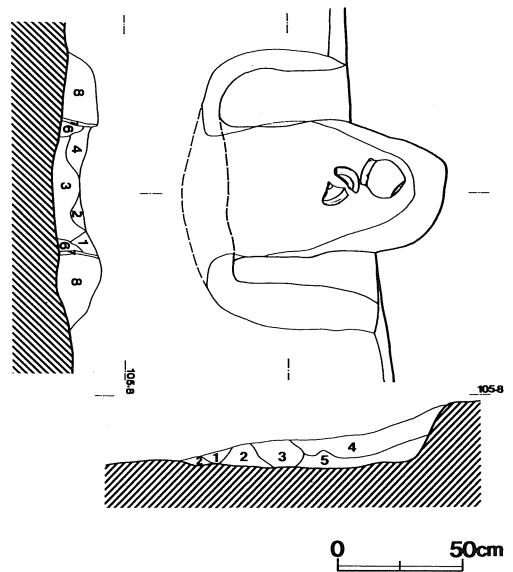
第29号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（少量の焼土、赤褐色サビ状粒子、0.5cmの砂粒を含む微砂が2層より少ない。）
  - 2層 茶褐色泥砂（赤褐色粒子、焼土、0.5cmの砂粒を含む微砂。）
  - 3層 赤褐色泥砂（多量の微砂中に褐色土を含む。）
  - 4層 灰褐色微砂（3層より褐色土の混入比率が少なく、赤味少ない。）
  - 5層 褐色微砂（地山A'を中心に構成され、しまっている。地山よりやや明るい。）
  - 6層 暗褐色砂泥（地山A'と、黒褐色泥土により構成され、しまっている。）
  - 7層 灰褐色砂泥（赤褐色サビ状粒子を多量に含み、地山Aを多量に含む。）
  - 8層 黒褐色泥砂（地山土中に、赤褐色サビ状粒子を含み、しまっている。）
  - 9層 暗褐色微砂（地山土中の微砂を中心に構成されている。）
- 地山A 暗褐色泥砂（均質で、砂粒の混入は少なく、しまっている。）
- 地山A' 褐色泥砂～微砂（砂粒の混入は少なく、均質であり、上より下に暗くなっている。）
- 明度 8 > 1 > 9 > 6 > 4 > 2 > 7 > 3 > 5



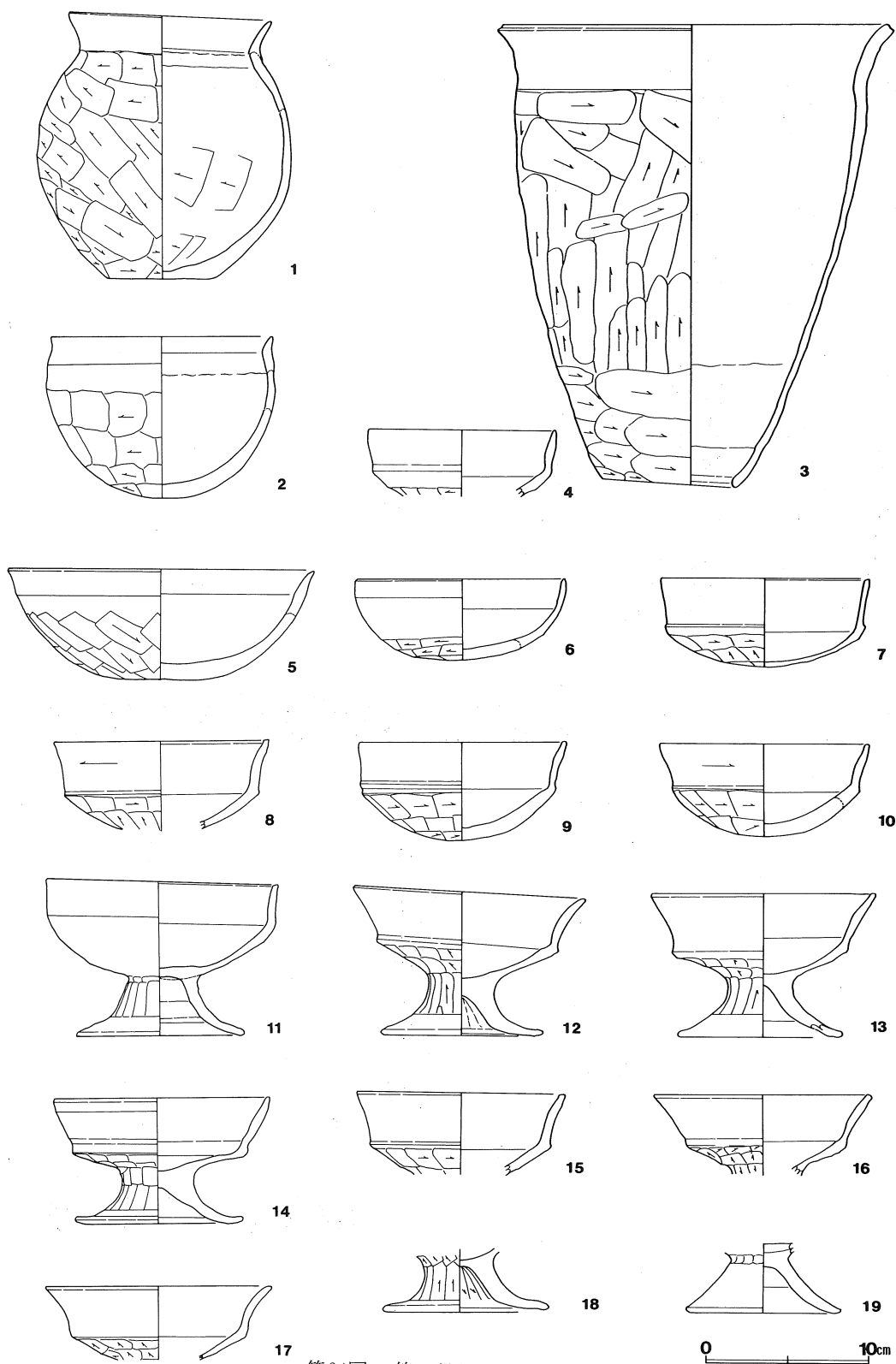
第30号住居址カマド土層註

- 1層 赤褐色土層（粘土が焼けて硬くなっている。カマドの天井かと思われる。）
- 2層 暗赤褐色土層（焼土、炭化物を含み硬くひきしまっている。）
- 3層 灰茶褐色土層（灰、焼土、砂を含み、かたくひきしまっている。）
- 4層 灰黒色土層（砂を含みきめこまかい粒子で焼土を少し含み硬くひきしまっている。）
- 5層 灰黒色土層（焼土、炭化物を含み、かたくひきしまっているが4層より赤っぽく土器片を含む。）
- 6層 暗赤褐色土層（焼土が焼けてかたくなっている状態だが、灰褐色土層を含んでいる。）
- 7層 赤褐色土層（カマドの側壁が火によってかたまっただけのもの。）
- 8層 ソデ部。



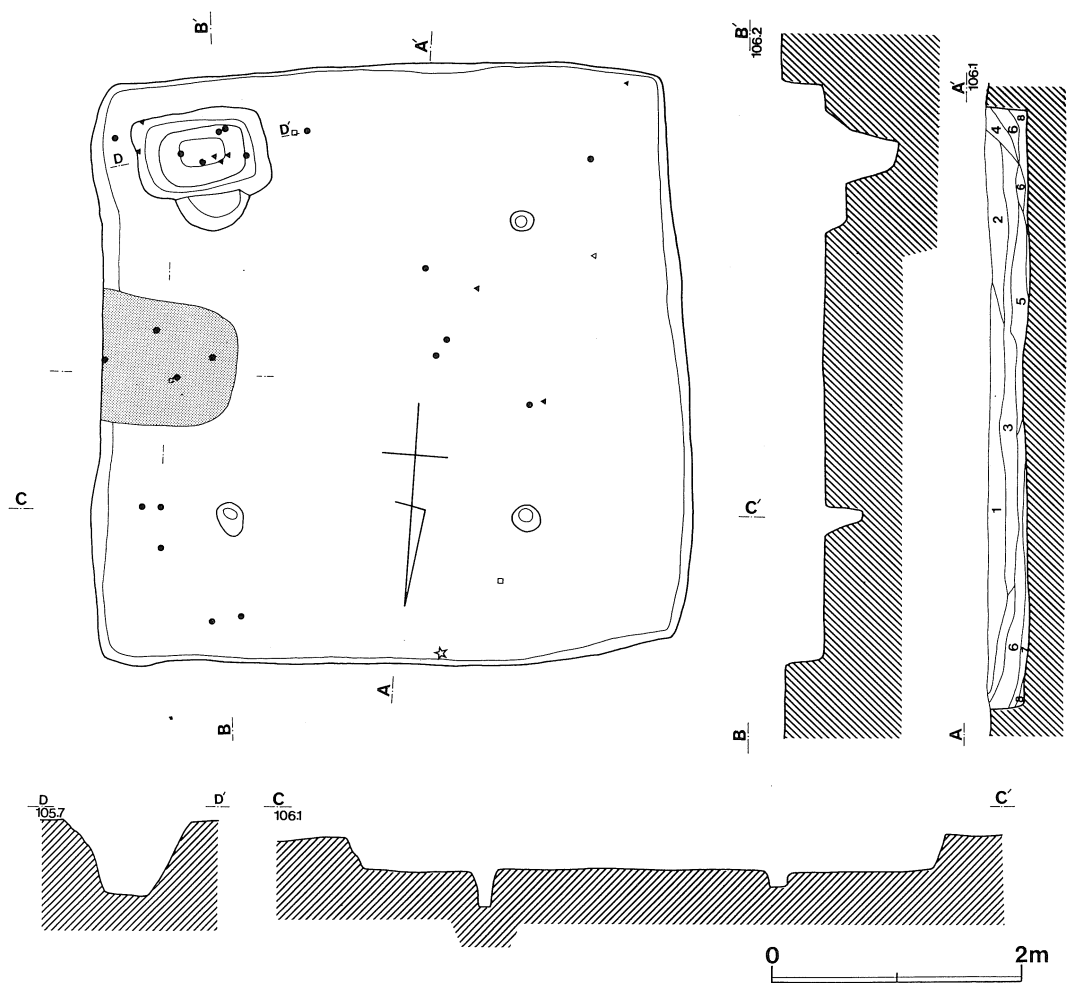
第63図 第30号住居址





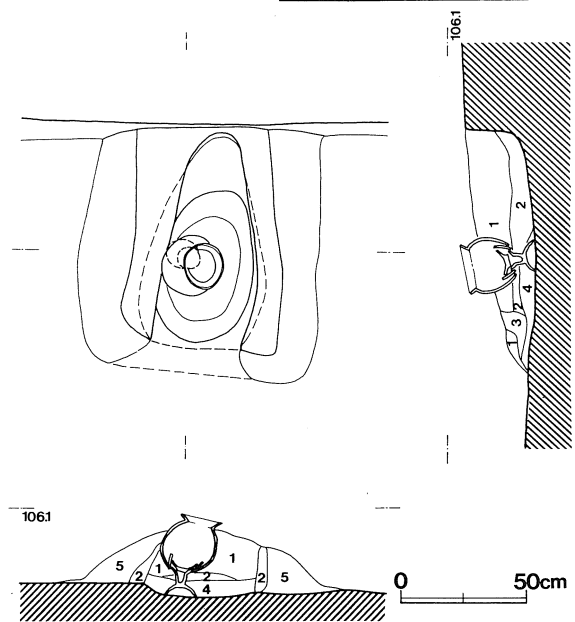
第64图 第30号住居址出土土器

0 10cm

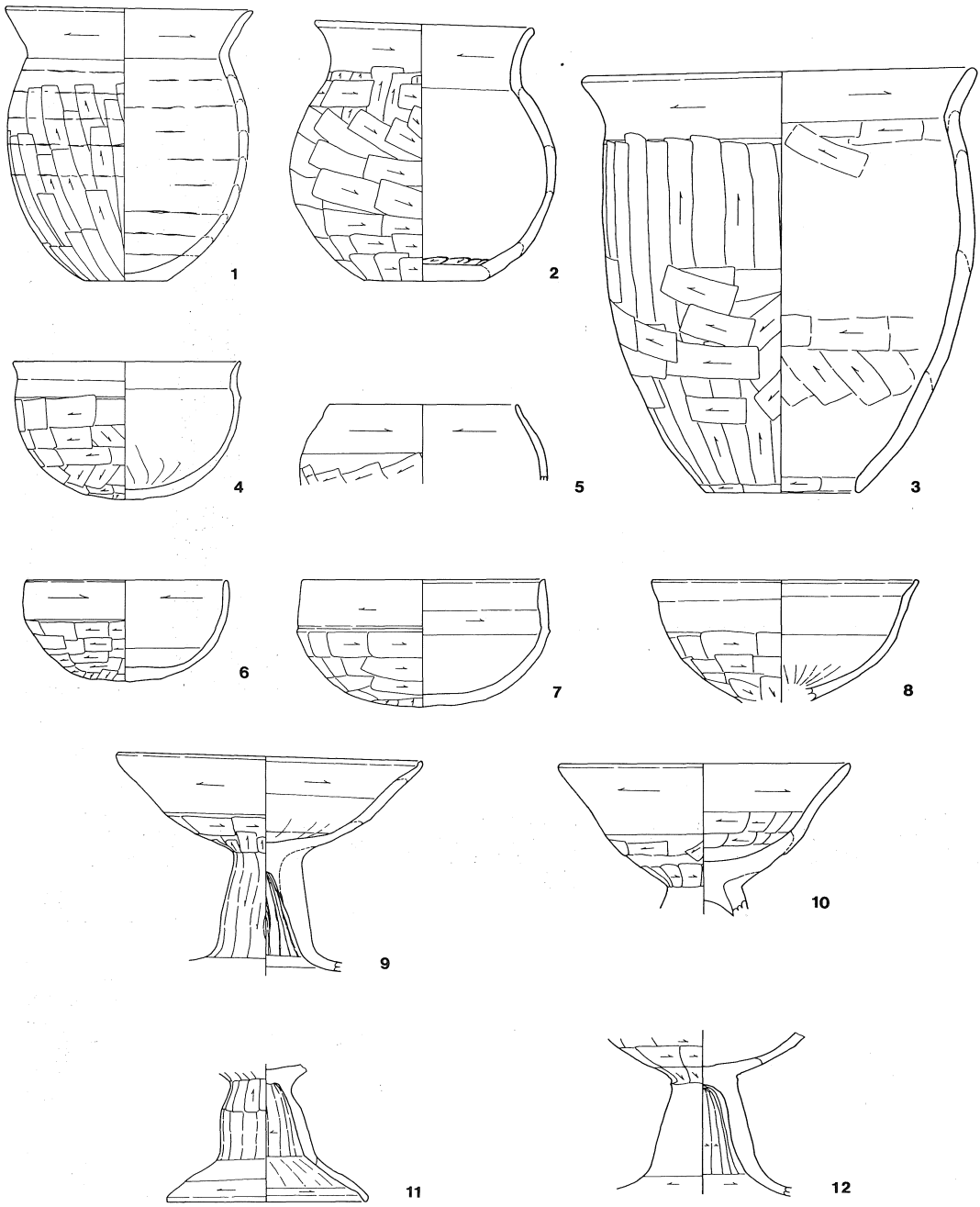


第31号住居址カマド土層註

- 1層 暗茶褐色砂泥（ブリッチとフク土が混合したもの。）
  - 2層 焼土A、赤褐色（炭化物の混入少なく、ブリッチ部の焼結したもの。）
  - 3層 焼土B（微量の炭化物を含み、ブロック状をなす。）
  - 4層 暗褐色砂泥（多量の炭化物、焼土粒を含む。）
  - 5層 茶褐色粘土（微砂も多く含む、ソデ部。）
- 明度 1 > 4 > 5（焼土は見にくい。）

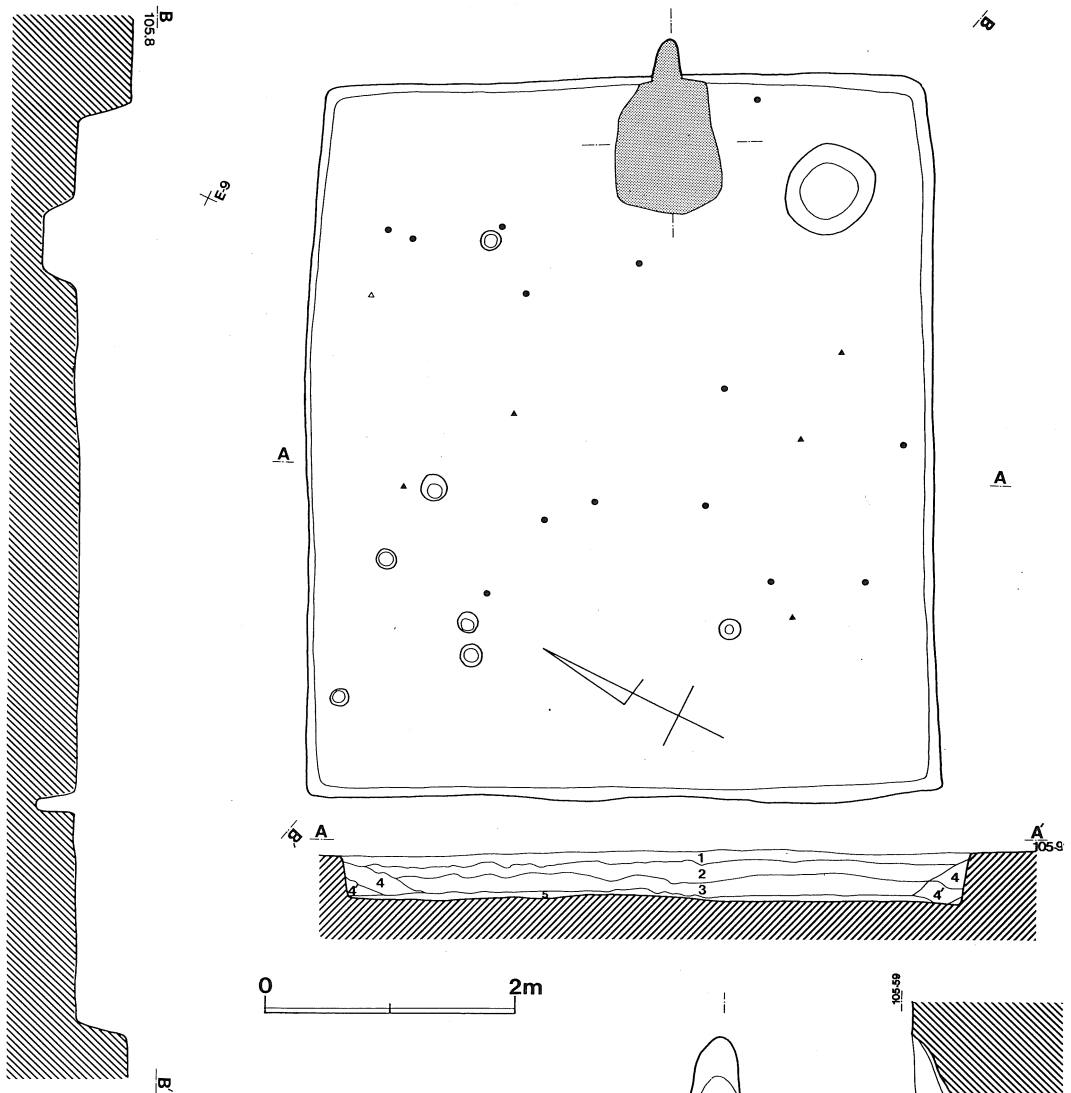


第65図 第31号住居址



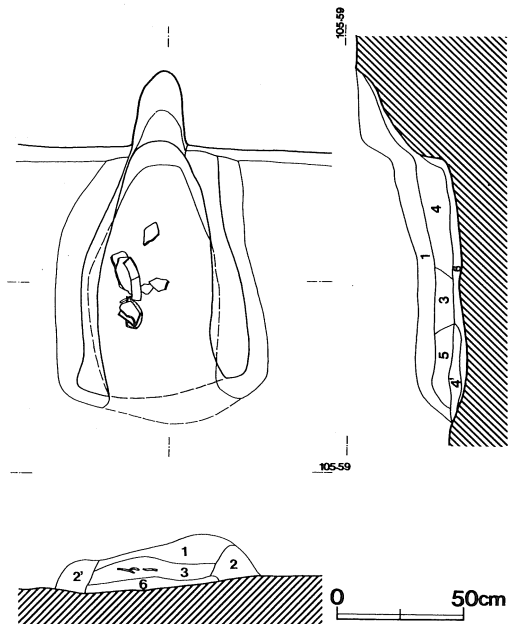
0 10cm

第66图 第31号住居址出土土器

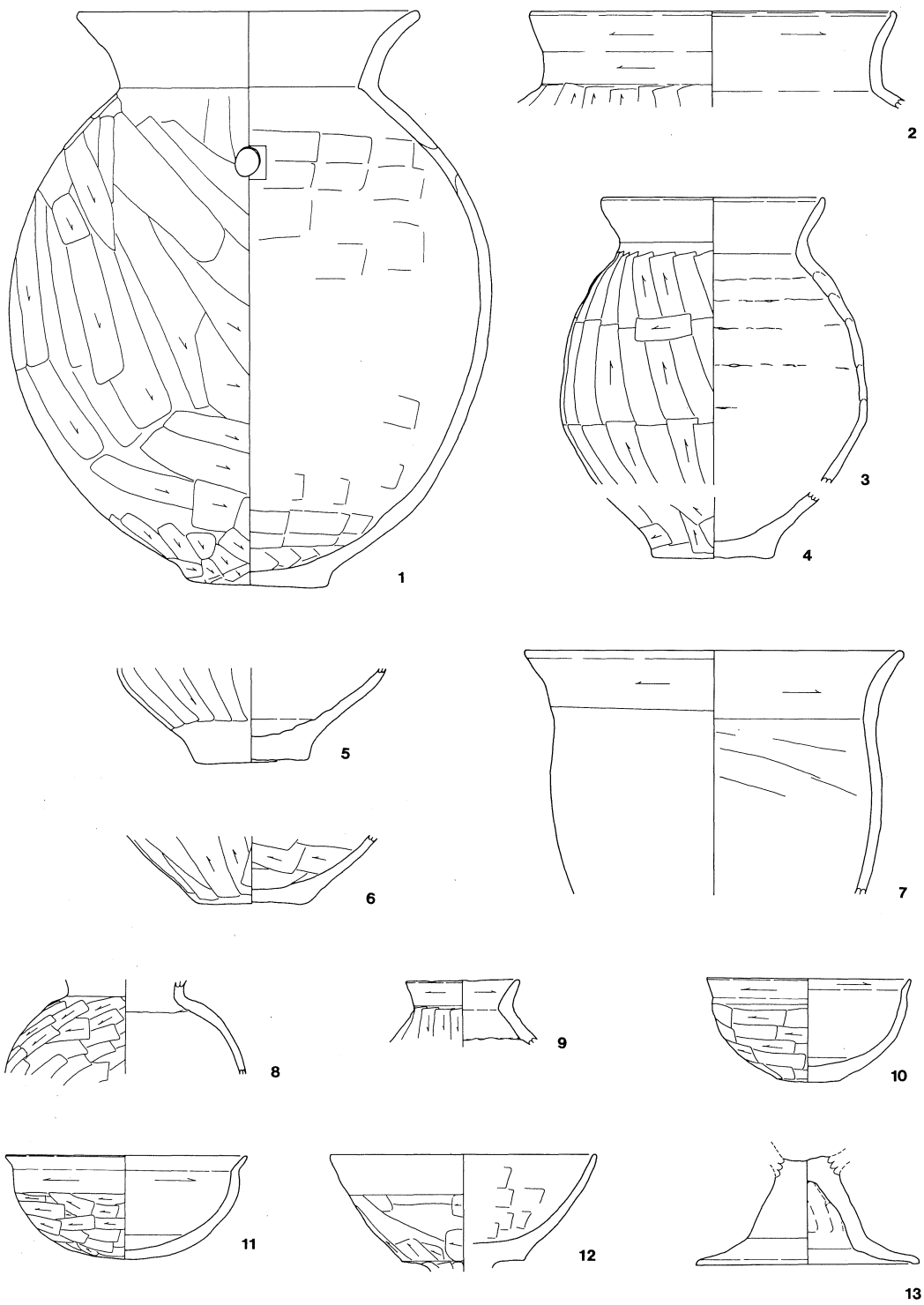


第32号住居址カマド土層註

- 1層 黒褐色土層（焼土と小石を含みしまりあり。）
- 2層 明褐色土層（焼土を多量に含み、炭化物も含む。小石が混入している。）
- 2'層 明褐色土層（2層より焼土が少ない。小石を少量含む。）
- 3層 茶褐色土層（粘性があり、炭化物が混入、焼土ブロックが含まれている。）
- 4層 明黒褐色土層（焼土、小石を少量含む。粘性は1層より強い。）
- 4層 赤褐色土層（全体に焼土が多量に混入、炭化物を含み粘性は弱い。）
- 5層 焼土層
- 6層 灰褐色土層（粘性あり、炭化物、灰を含む。）



第67図 第32号住居址



第68图 第32号住居址出土土器

### 第30号住居址土層註

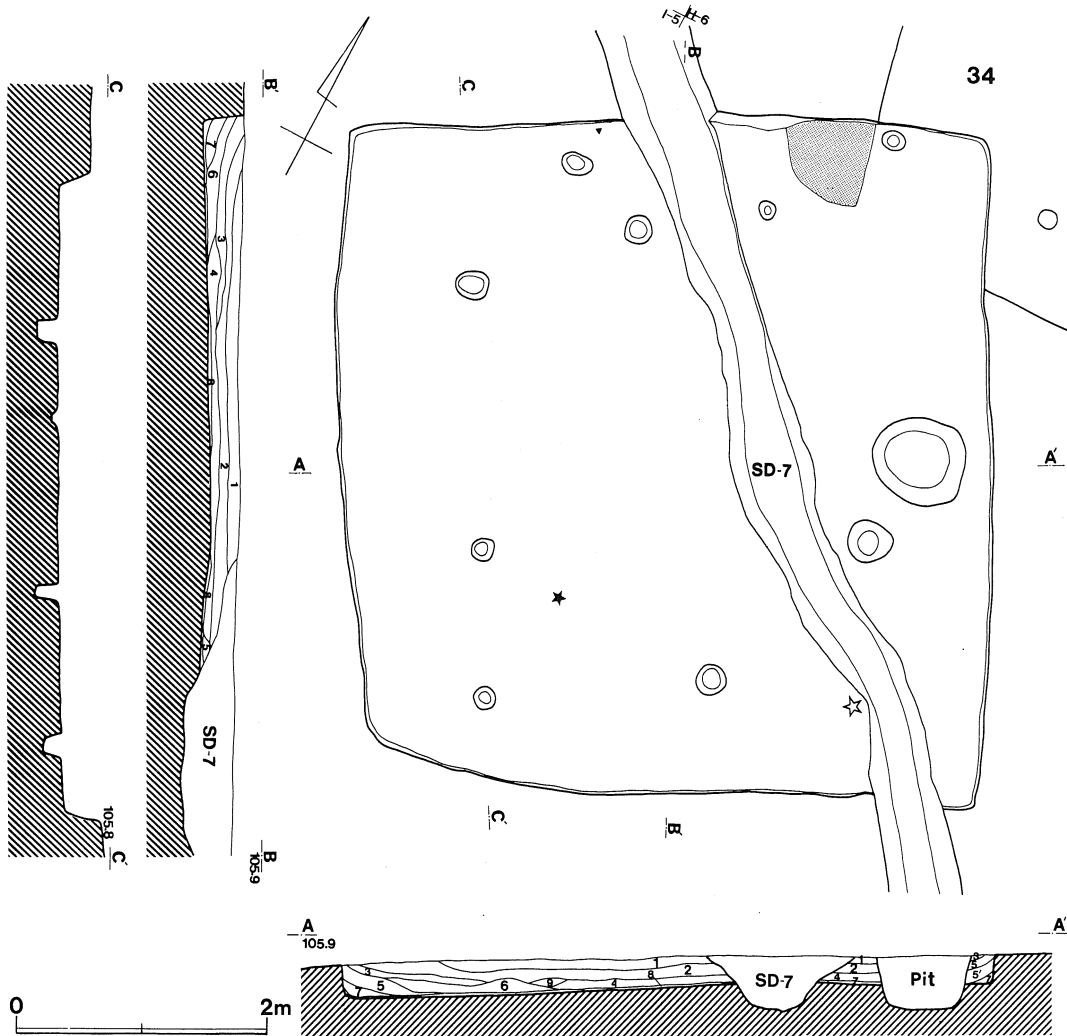
- 1層 暗褐色砂泥（0.3～0.7cm礫粒子を含む。遺物も含むが、炭化物、焼土粒などは、乾燥の為確認できず。）
  - 2層 暗褐色砂泥（礫粒子を含まない層で、焼土粒が点在し、1層よりも明るい色を呈す。）
  - 3層 黒褐色砂泥（1.0～2.5cmの礫が主体で、炭化粒、焼土粒がみられる。）
  - 4層 黒褐色砂泥（0.7～2.0cm大の礫が主体で3層に比べ礫が密なので分層した。）
  - 5層 暗褐色砂泥（0.5～0.7cm大の礫粒子がみられる。2層よりも暗い色を呈し、1層よりも礫が粗である。焼土粒がみられる。）
  - 6層 褐色砂泥（礫粒子を含まない層で、焼土粒、炭化物が点在する。）
  - 7層 褐色砂泥（礫粒子を含まない層で、焼土粒、炭化物がみられない層。粘性は6層より強い。）
  - 8層 暗褐色砂泥（2層よりも明るい色を呈す。0.7～1.0cmの礫がみられるが、3、4層に比べ粗である。）
  - 9層 暗褐色砂泥（礫粒子を含まず、0.5mm大の焼土粒を若干含む。5層より暗い色を呈す。）
  - 10層 黒褐色砂泥（2cm大の礫粒子が主体で礫は密であるが、3、4層よりも明るい。）
  - 11層 褐色砂泥（地山ブロックが混入し、比較的明るい色調を呈す。）
  - 12層 暗褐色砂泥（地山ブロックが混入し、比較的明るい色調で、1.5cm大の礫を含む。）
- 地山A 褐色砂泥（砂が主体である。）  
地山B 暗褐色砂泥（礫が主体である。）  
明度 3 ≥ 4 > 10 > 9 > 5 > 2 > 8 > 1 > 12 > 7 > 6 > 11

### 第31号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（微砂と少量の2～5mmの砂粒を含む。比較的均質である。）
  - 2層 暗褐色砂泥（1層に比して、地山土混入の割合多く、やや明るい。又、焼土、炭化物も混入し、砂粒も多い。）
  - 3層 灰褐色砂泥（地山土粒と、少量の焼土粒子を含み、しまっている。）
  - 4層 黒褐色砂泥（土器片と少量の焼土粒子0.1～0.3cmの砂粒を比較的多く含む。）
  - 5層 暗茶褐色砂泥（炭化物、焼土の粒子ブロックを含み、全体として斑状をなす。）
  - 6層 褐色砂泥（多量の地山土中に微量の炭化物、焼土粒子、1mm大の砂粒等も混じる。）
  - 7層 暗褐色砂泥（微砂、炭化材、焼土、黒色泥土から構成され、均質ではなく、斑状をなす。）
  - 8層 褐色砂泥（地山土を中心に構成され、地山よりも砂粒多く、0.2～3cm大のものも含む。）
- 地山 淡褐色砂泥（比較的均質で、0.2mm以上の少量の砂粒を含む。北に向うに従って暗い。）  
明度 4 > 7 > 1 > 2 > 5 > 3 > 8 > 6 > 地山

### 第32号住居址土層註

- 1層 淡茶褐色砂泥（若干の小砂、小礫を含み、砂粒子が細かく、粘性もない。しまりぐあいは良い。）
- 2層 茶褐色砂泥（小礫が比較的多く含まれ、砂粒子が1層より幾分粗くなり、粘性も少しはある。しまりぐあいは良い。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（小礫が多くなり、炭化物や焼土粒子を、割合多く含んでおり、粘性は2層より強く、しまりぐあいは良い。）
- 4層 暗褐色砂泥（3層と少し異なり、炭化物、焼土粒子が多く含まれ、粘性も3層より強い。しまりぐあいは、3層と同じ。）
- 4'層 暗褐色砂泥（4層より炭化物、焼土粒子が、更に多く含まれており、粘性も、4層より少し強い。しまりぐあいは4層と同じ。）
- 5層 赤茶褐色泥土（小砂、小礫をあまり含まず、炭化物、焼土粒子が細かく、粘土との混入がみられ、粘性強く、しまりは良好である。）

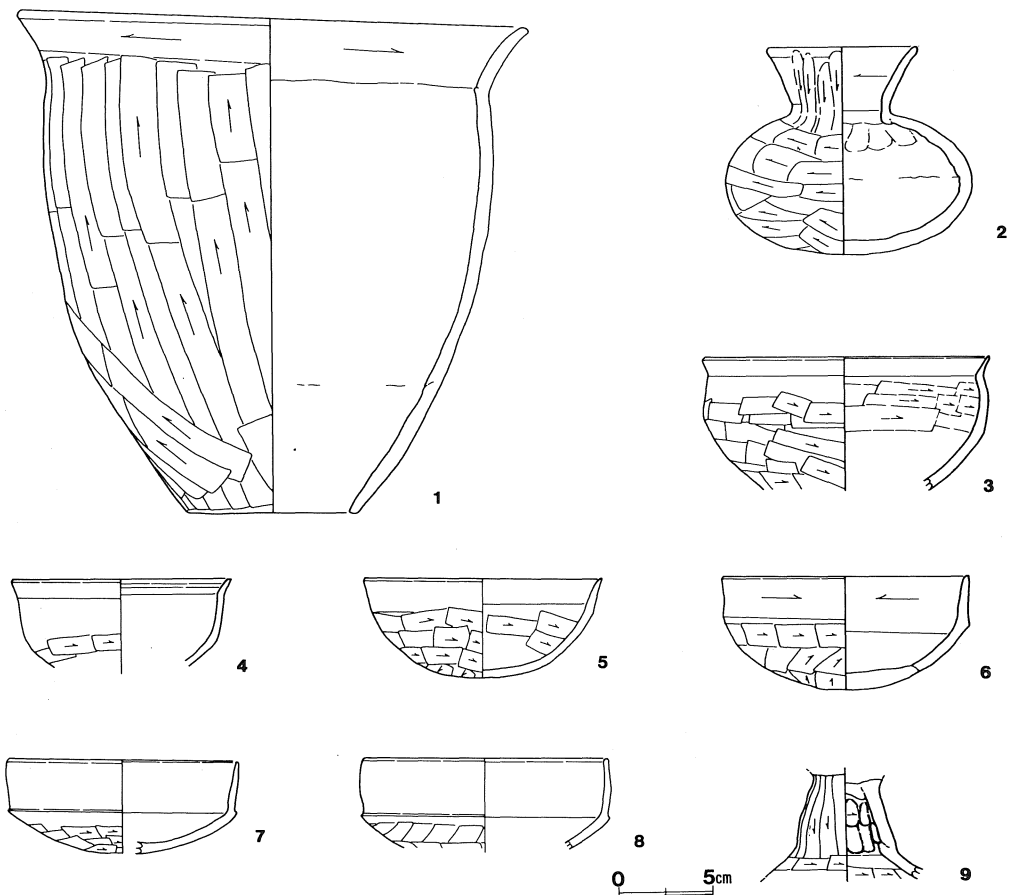


第69図 第33号住居址

第33号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（泥を中心とする層で、焼土、炭化物、小礫を含まない。）
- 2層 暗褐色砂泥（砂が増加し、焼土粒が混入し、小礫が少々混じる。）
- 3層 暗褐色砂泥（焼土ブロックを含み、小礫をほんの少し含む）
- 4層 暗褐色砂泥（焼土粒子は、殆んど含まず、小礫が増えている。粗な層である。）
- 5層 暗褐色砂泥（焼土粒子が斑点状に点在する様になり、砂も多く混じり、密になる。）
- 5'層 暗褐色砂泥（色調は、5層よりも明るく、小礫の混入が少なく、焼土粒も少ない。）
- 6層 暗褐色砂泥（わずかの焼土粒子を含み、小礫が多くなる。）
- 7層 黒褐色砂泥（焼土粒を若干含み、色調は、黒っぽくなっている。小礫は含まない。）
- 8層 暗褐色砂泥（焼土、炭化物を多く含み、地山の直上で、地山の土と混じっている。小礫は含まない。）
- 9層 暗褐色砂礫（小礫を中心とし、粗である。）

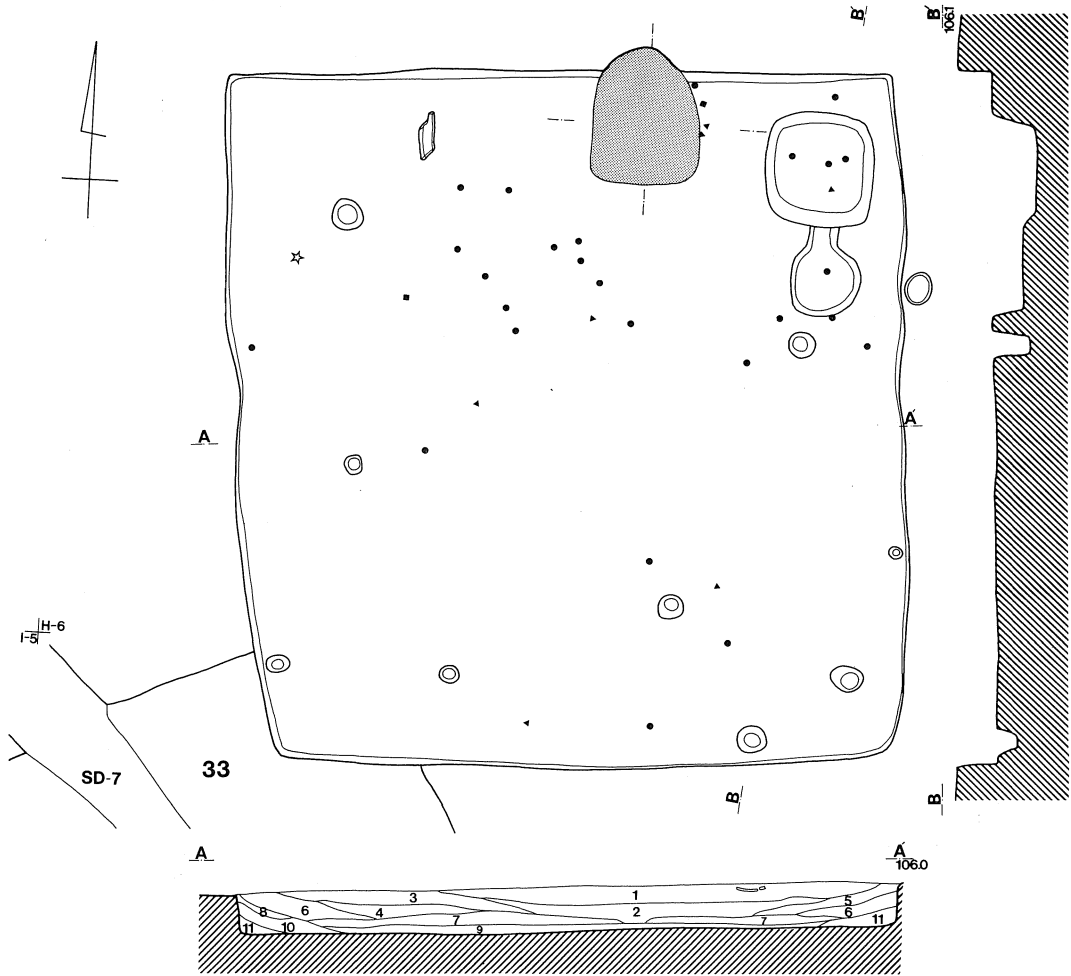
明度 1 > 2 > 3 > 4 > 8 > 10 > 5 > 9 > 6 > 7



第70图 第33号住居址出土土器

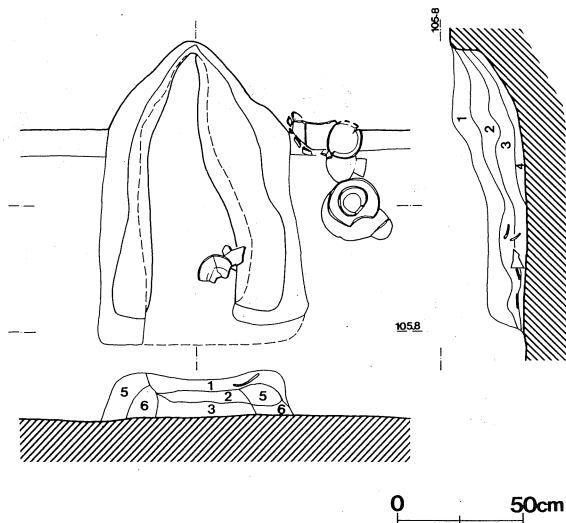




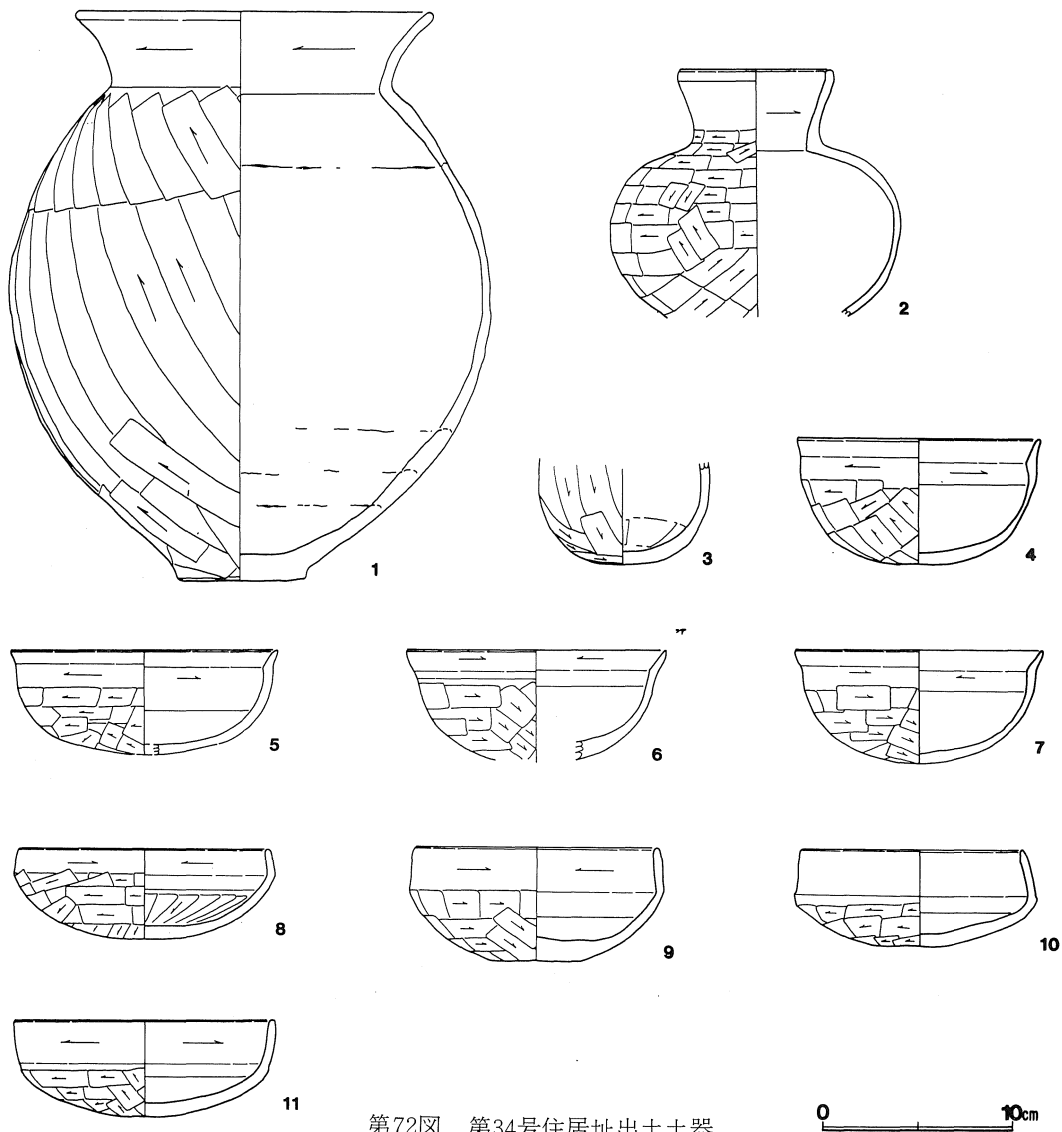


第34号住居址カマ土層註

- 1層 茶褐色砂泥（若干の焼土、炭化物砂粒、小石礫を含む。粘性は弱く、しまりは普通。）
- 2層 暗茶褐色砂泥（若干の焼土、炭化物を含み粘性は強くしまり良好。）
- 3層 赤褐色粘土（焼土粒、炭化物を含む。粘性強くしまり良好。）
- 4層 暗褐色泥砂（砂粒が粗く、多少の焼土粒、炭化物を含み、粘性弱くしまりは悪い。）
- 5層 赤褐色泥土（焼土粒、炭化物、小礫を含む。粘性は少し強く、しまり良好。）
- 6層 赤褐色泥土（5層より少し暗く焼土粒が少ない。炭化物は同じくらいで、粘性は変わらず、しまりも同様。）



第71図 第34号住居址

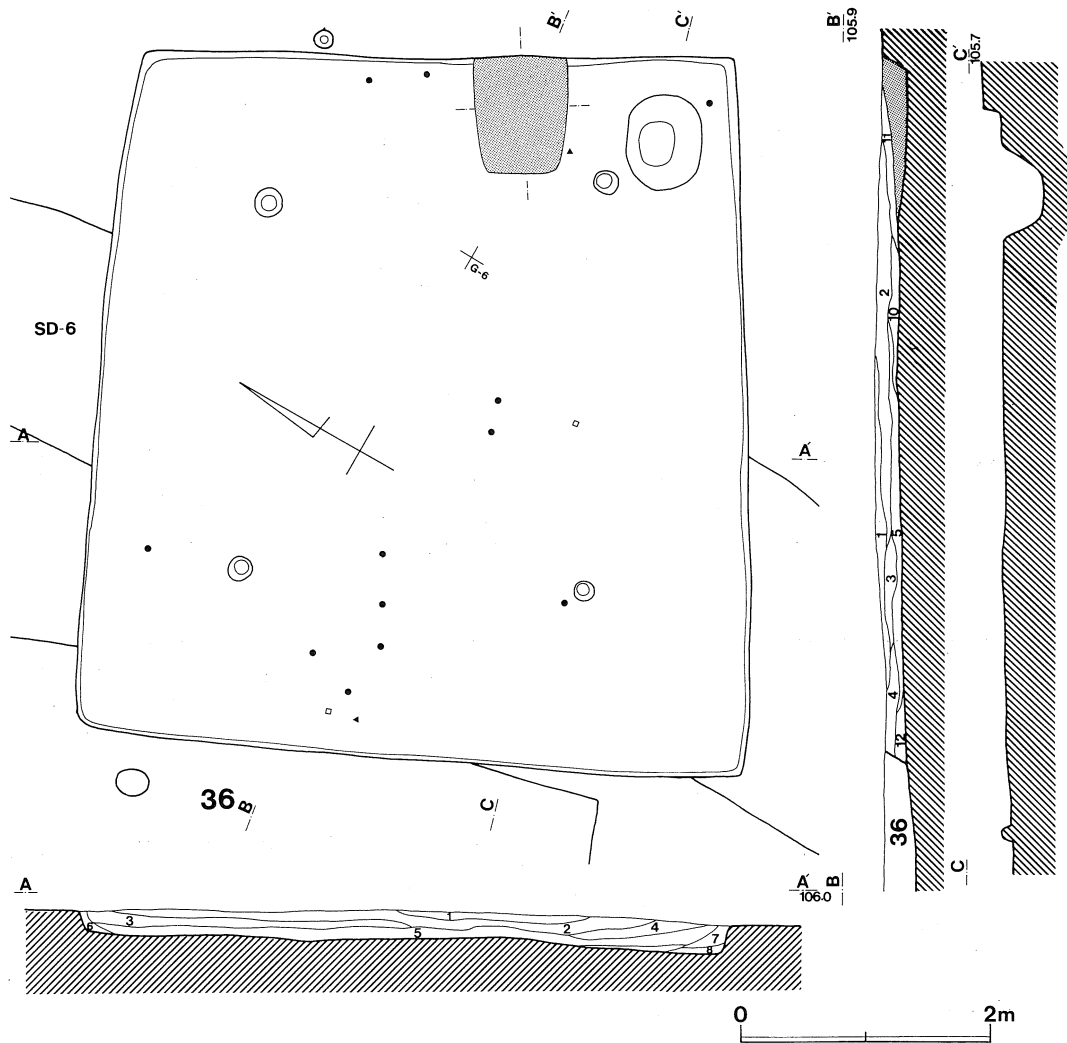


第72図 第34号住居址出土土器

第34号住居址土層註

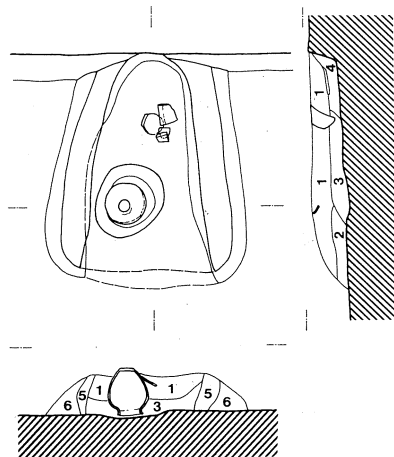
- 1層 暗褐色砂泥（礫は殆んど含まず、微砂と砂粒、微量の木炭粒、焼土粒を含む。）
- 2層 黒褐色砂泥（1～3 cm程の礫を含み、微量の炭化物、焼土粒子を含む。）
- 3層 褐色砂泥（粘土粒子0.5～1 cmの礫を含み、下層より粒子あらい。）
- 4層 暗褐色砂泥（土器片も多く含み、やや不均質で、礫も混じる。）
- 5層 暗茶褐色砂泥（地山土を多く含み、少量の炭化物、焼土粒子を含む。）
- 6層 暗茶褐色砂泥（地山土を多く含み、より粒子があらい。）
- 7層 茶褐色砂泥（地山土を5層より多く含む。）
- 8層 黒褐色砂泥（上下層と明確な境界を示す。粘土ブロックを含む。）
- 9層 黒褐色砂泥（地山土を多く含み、軟かい。）
- 10層 暗茶褐色砂泥（4層より明るく、黄褐色土粒子を含む。微量の焼土も含む。）
- 11層 黒褐色砂泥（地山土に黒色土を混じる。均質で1層より暗い。）

明度 9 > 8 > 11 > 2 > 6 > 10 > 5 > 4 > 1 > 7 > 3



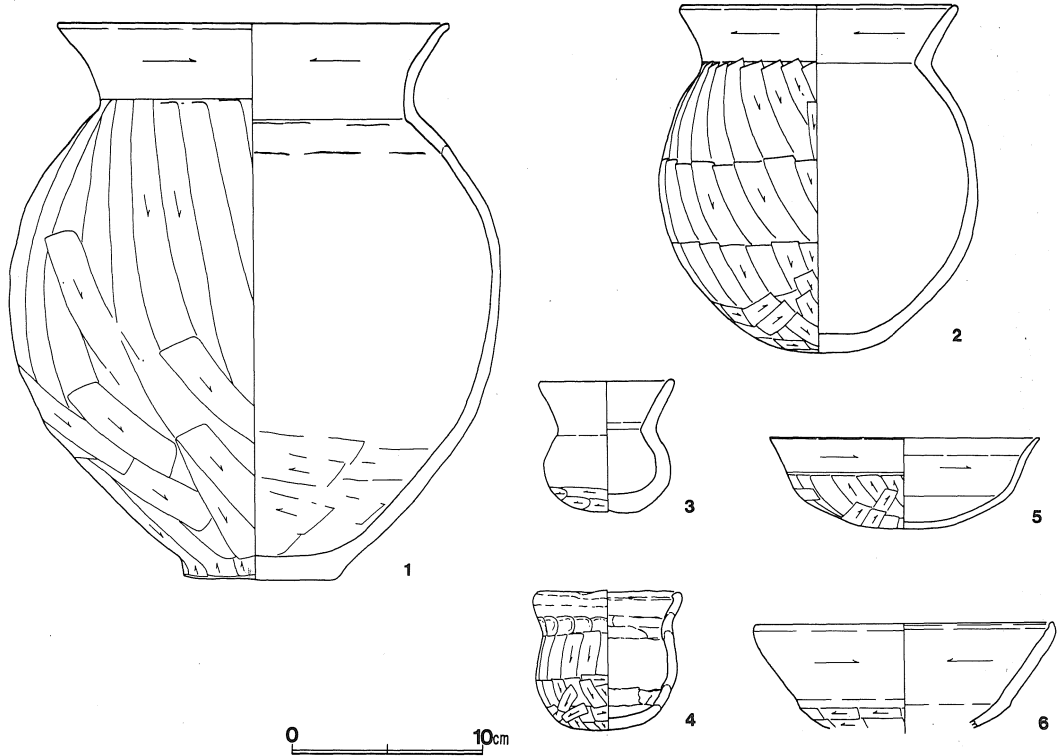
第35号住居址カマド土層註

- 1層 明黒褐色土層（粘土を多量に含む。）
- 2層 明赤褐色土層（焼土ブロックを多量に含む。）
- 3層 赤褐色土層（2層よりも焼土ブロックが少ない。）
- 4層 暗褐色土層（焼土ブロックと木炭を含む。）
- 5層 褐色土層（焼土ブロックをやや含む。）
- 6層 黒褐色土層（焼土粒子をやや含む。）



第73図 第35号住居址

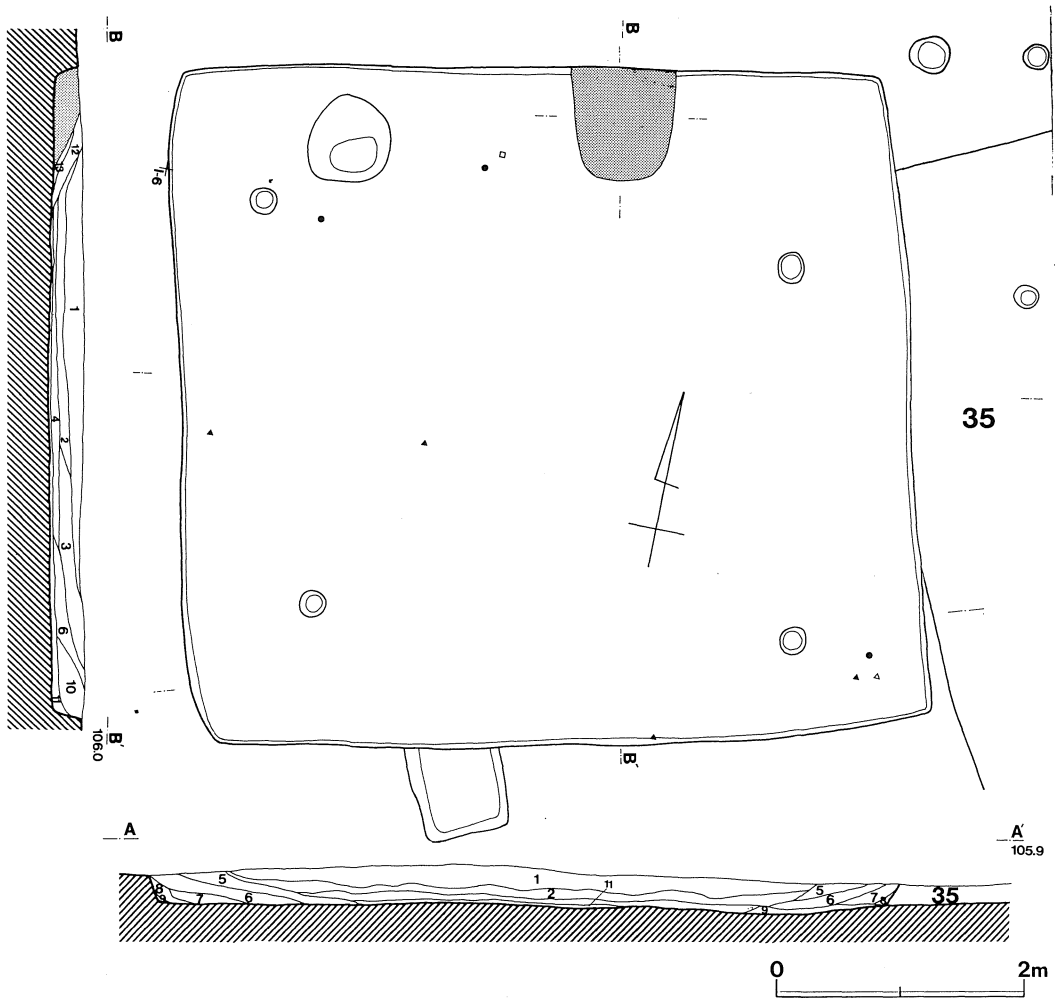
0 50cm



第74図 第35号住居址出土土器

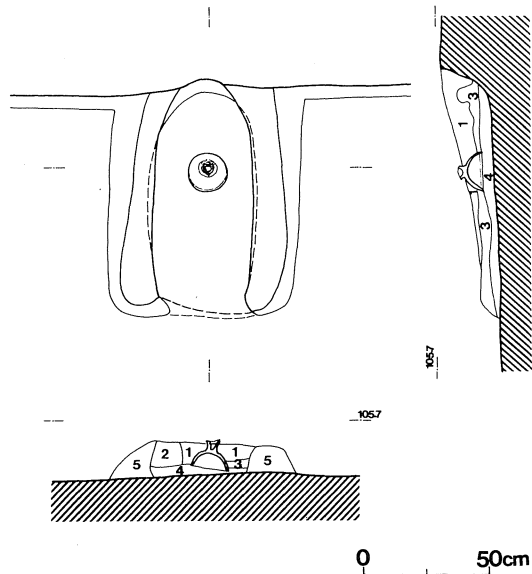
第35号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（少量の0.5 cm程の砂粒を含み、他は微砂と暗褐色泥土によって構成される。）
- 2層 黒褐色砂泥（0.1～2 cm大の小礫を、含み、比較的均質で粒子細かい泥土によって構成される。）
- 3層 暗褐色泥砂（黄褐色、黒褐色の0.1～0.5 cm程の小礫を多量に含み、上下層とは明確な境界を示す。）
- 4層 黒褐色砂泥（微砂と0.5～1.0 cm大の礫を少量含み、均質である。）
- 5層 暗褐色泥砂（黄褐色、黒褐色の小礫を多く含み、全体に砂質である。）
- 6層 黄褐色泥砂（地山Aと少量の暗褐色土で構成される。）
- 7層 褐色泥砂（地山A上部に対応し、6層より砂粒少なく、微砂が多い。）
- 8層 黄褐色泥砂（地山A下部に対応し、6層より砂粒少なく、よりAに類似する。）
- 9層 褐色泥砂（7、8層に対応する層であるが、地山Bを中心に構成される点が異なる。7、8層より暗い。）
- 10層 褐色泥砂（6層に類似するが、より礫が多く、微砂は少ない。）
- 11層 暗褐色泥砂（少量の小礫を含み、また焼土、土器片等を含む。）
- 12層 暗褐色泥砂（多量の土器片を含み、2～3 mmの砂粒によって構成され、均質である。）

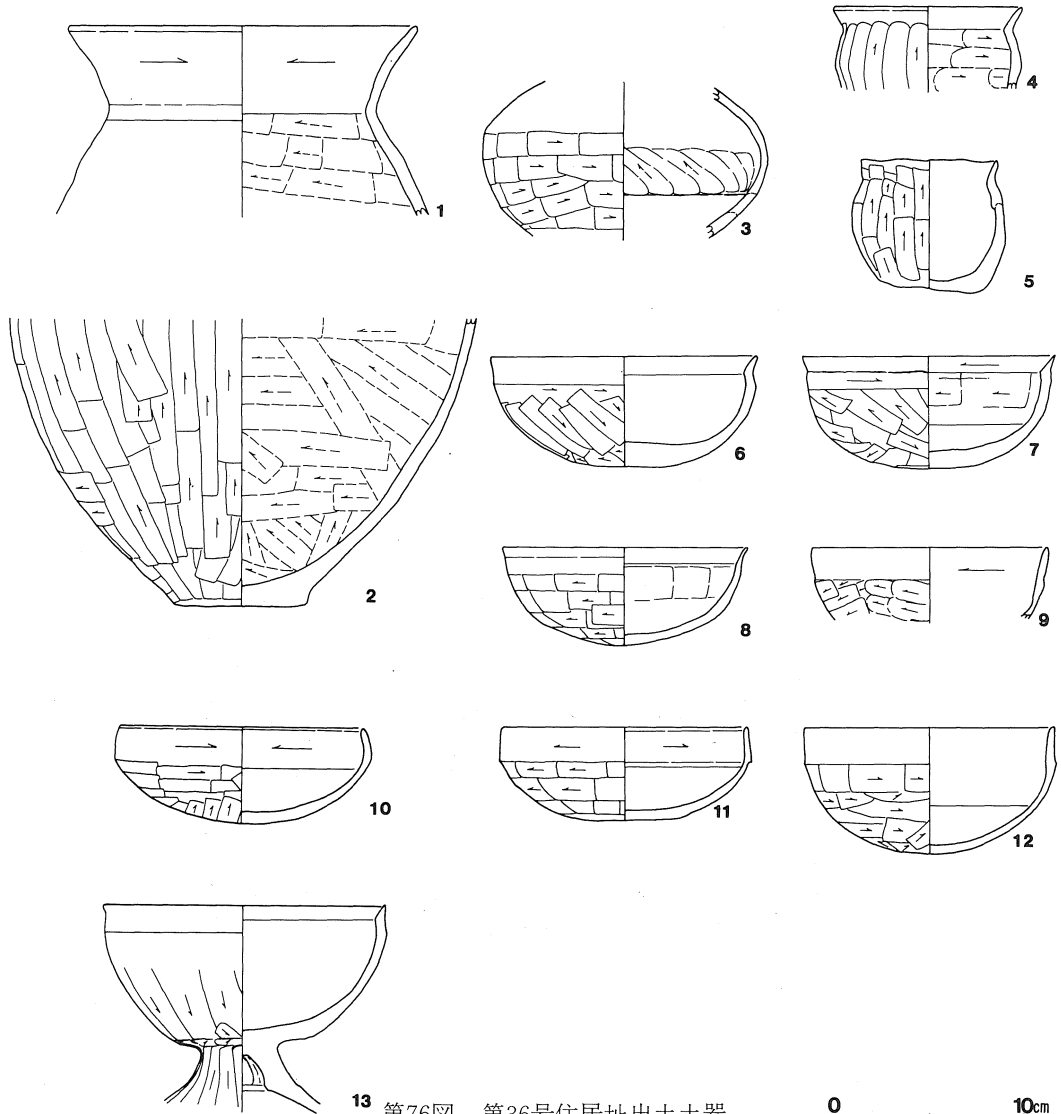


第36号住居址カマド土層註

- 1層 灰褐色土層（黄茶褐色土粒子を若干含む。）
- 2層 黄褐色土層（砂質粘土層に焼土ブロックを含む。）
- 3層 灰褐色土層（径1cm前後の焼土ブロックと、微量の炭化物を含む。）
- 4層 赤茶褐色土層（焼土層で粘性をおびている。）
- 5層 黄褐色土層（粘性が強く、しまっている。）



第75図 第36号住居址

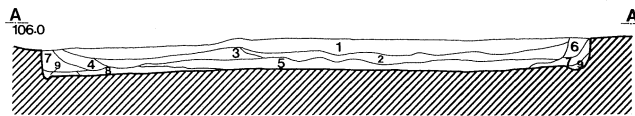
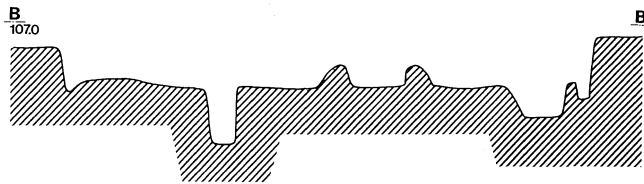
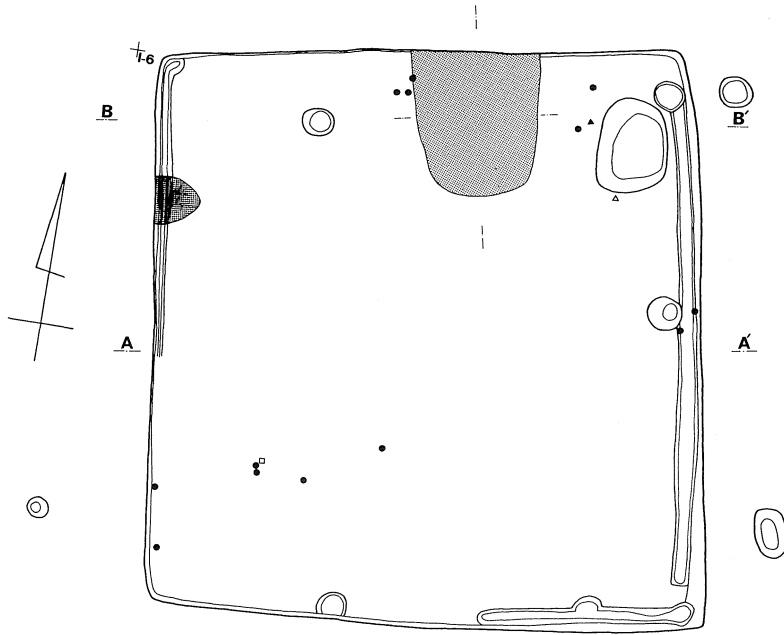


第36号住居址土層註

13 第76図 第36号住居址出土土器

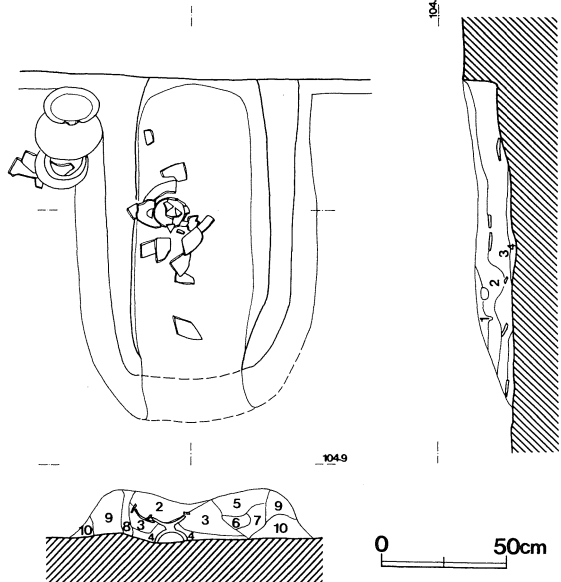
0 10cm

- 1層 黒褐色泥砂 (0.1~1.0cm大の砂粒が均質に混入し、全体に粒子が荒い。)
- 2層 暗褐色泥砂 (1層より粒子細かく、黄褐色のサビ状粒子を多く含む。上下層とも明瞭な境界を示す。)
- 3層 暗褐色泥砂 (1、2層より砂礫を多く含み、2層より暗い。)
- 4層 暗褐色泥砂 (地山Cに多量の暗褐色土を含む。)
- 5層 暗茶褐色砂泥 (少量の炭化物、砂礫を含む。)
- 6層 黄褐色泥砂 (地山Cに少量の暗褐色土を含む。)
- 7層 灰褐色微砂 (サビ状暗褐色粒子と2cm大の砂粒を少量含む。)
- 8層 褐色砂泥 (地山Aに多量の微砂を含む。)
- 9層 黒褐色微砂 (微量の礫を含み、均質である。)
- 10層 黄褐色泥砂 (6層に類似するが、より礫が多く、地山Dに類似する。)
- 11層 暗褐色微砂 (微量の炭化物を含み、しまっている。)
- 12層 褐色砂泥 (微量の焼土粒子1~2mmの砂粒と礫を含む。)
- 13層 暗褐色砂泥 (微量の焼土粒子と微砂、粘土質土を混入する。)

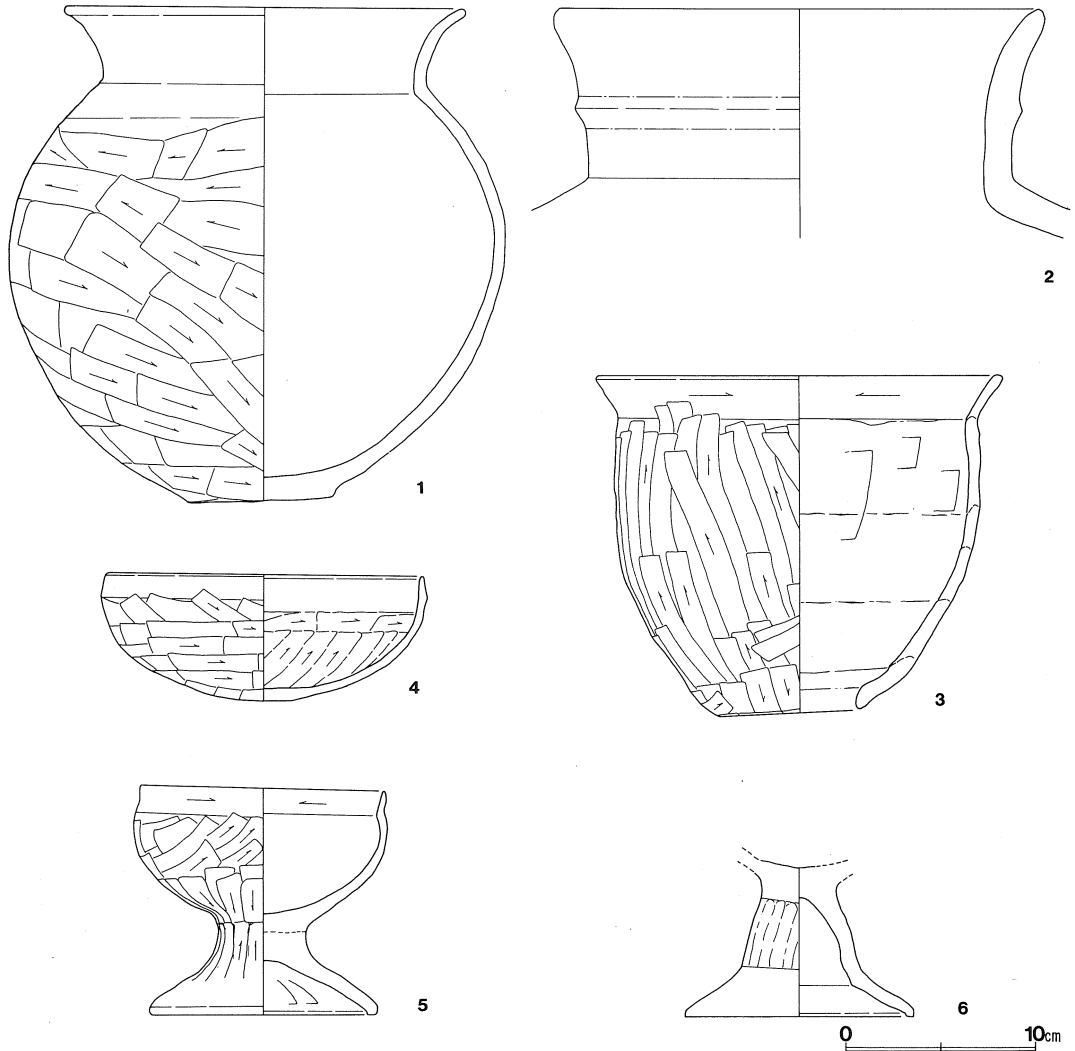


第37号住居址カマド土層註

- 1層 暗灰褐色砂泥層（焼土粒、炭化物をまったく含んでいない。）
- 2層 暗灰色泥砂層（小石及び焼土粒を少し含む。）
- 3層 赤褐色土（焼土ブロック、炭化物粒を含む。遺物あり。）
- 4層 赤色粘土層（焼土ブロックを多く含む。）
- 5層 黒褐色砂泥（4mmの小礫、小さな焼土ブロックを含む。）
- 6層 淡灰色土層（焼土粒を多く含む。）
- 7層 暗褐色土層（小石、焼土ブロック、炭化物粒子、灰を含む。）
- 8層 赤色粘土層（焼土で構成されている。）
- 9層 灰褐色粘土層（全体的に焼土粒が見られ、若干小礫を含む。）
- 10層 暗灰褐色粘土層（9層に対して焼土粒が少なく、泥の混入が見られる。）



第77図 第37号住居址

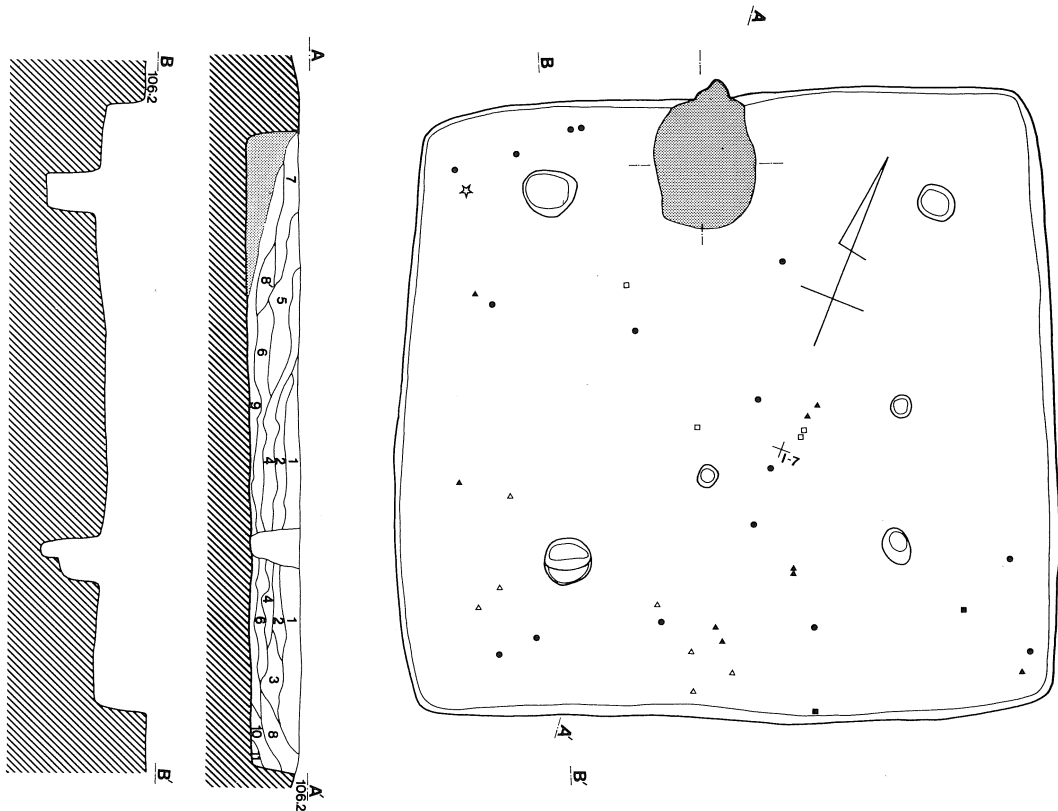


第78図 第37号住居址出土土器

第37号住居址土層註

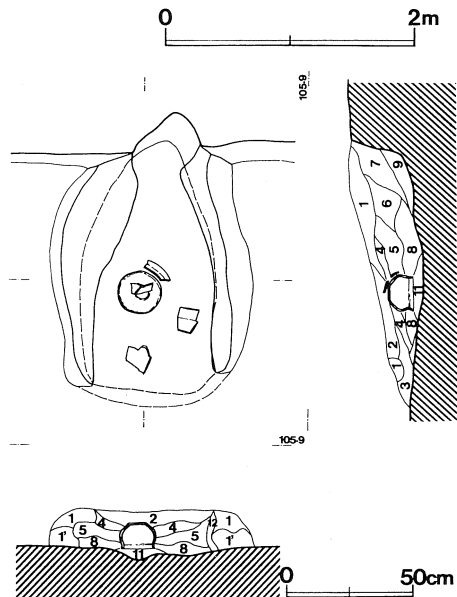
- 1層 茶褐色砂泥（やや灰色味を帯び、粒子細かく、微量の炭化物粒子、焼土粒子を含む。）
  - 2層 暗茶褐色砂泥（地山Dを多く含み、まれに、2cm大の礫を含むのみで、他は微砂で構成される。）
  - 3層 暗褐色砂泥（2層と比してDの割合が非常に少なく、他は類似している。）
  - 4層 暗褐色砂泥（3層に類似するが、Bをより多く含み、2層より少ない。）
  - 5層 暗茶褐色砂泥（地山D類似土に、暗褐色と、微砂、炭化物粒子を含む。）
  - 6層 褐色砂泥（Dに類似し、少量の炭化物、土器片等を含む。）
  - 7層 暗茶褐色微砂（Dを多く含み、少量の炭化粒を含む。）
  - 8層 褐色砂泥（地山Dに砂粒、炭化物、焼土粒子を含む。）
  - 9層 黒褐色泥土（有機質の粘性のある土に、焼土、炭化物を混入する。）
- 地山A 褐色～黄褐色泥砂（上より明るくなり、砂粒の量が増える。0.5～2mm土の砂粒。）
- 地山B 黄褐色砂礫（1～3cm大の礫を多く含み、微砂、砂粒を主体とする。）
- 地山D 黄褐色泥土（灰褐色微砂を含み、茶褐色の斑状をなす。）





第38号住居址カマド土層註

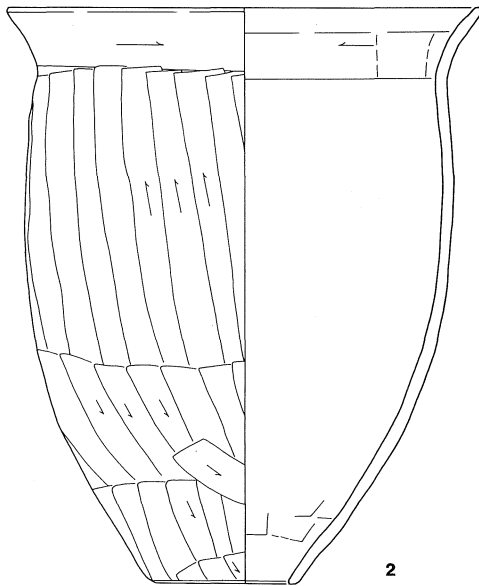
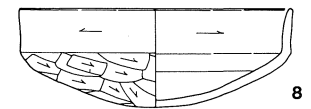
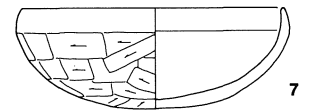
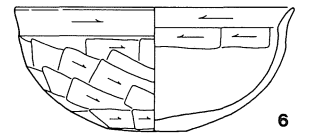
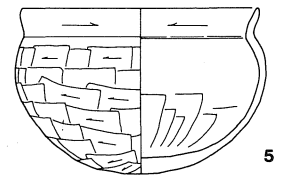
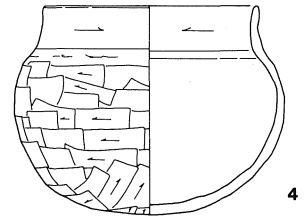
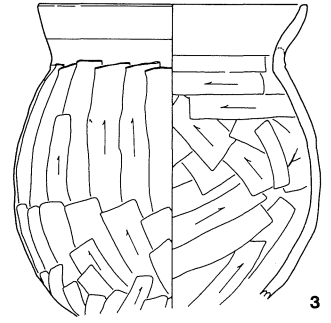
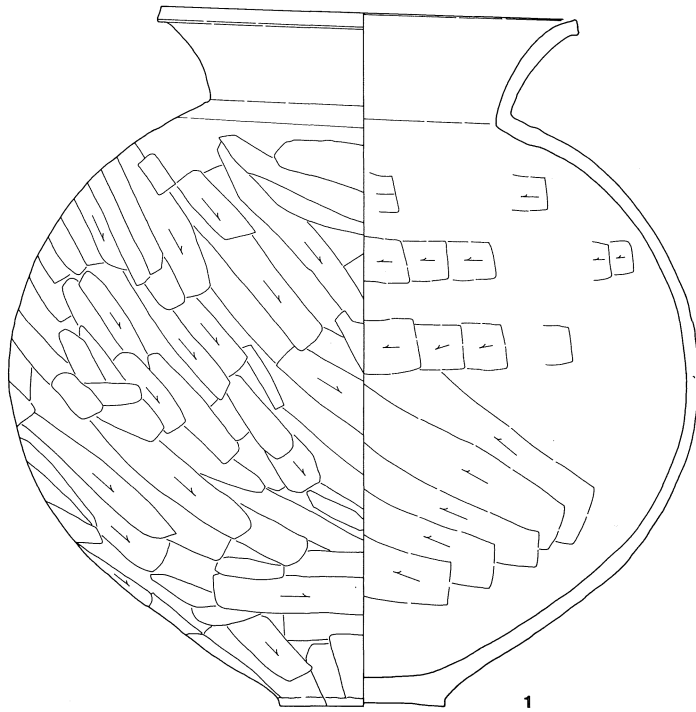
- 1層 灰白色粘土層（炭化物、焼土を含み、礫も含まれる。）
- 1'層 灰白色粘土層（炭化物、焼土を含まず、礫中多く見られない。1層にくらべ硬質で粘性もあり、しっかりしている。）
- 2層 淡褐色泥土層（炭化物、焼土を含む。）
- 3層 黒褐色泥土（炭化物を多量に含む灰層。黒色灰泥土としてもよい。焼土も含む。）
- 4層 黒褐色泥土（炭化物を含むが、3層に比べ小型化し量も少ない。焼土も含む。）
- 5層 黒褐色泥土（焼土、炭化物を含む粘性の強い層。3層より暗い。）
- 6層 黒褐色泥土（炭化物をあまり含まず粘性も弱い。）
- 7層 赤褐色砂土（焼土を含み、粘性もあまりない層。）
- 8層 赤褐色泥土（焼土含み7層より多量である。炭化物、礫もみられる。7層より暗い。）
- 9層 赤褐色砂土（焼土を含むが7層より少量。7層より明るい。）
- 10層 赤褐色土層（焼土そのもの、非常に固くしまっている。）



- 11層 灰白色泥土層（粘性は1、2層より弱い。支脚のささえの為か。）
- 12層 赤褐色土層（非常に固くしまっていて、1、2層の灰白色粘土が熱を受けたと思われる。）

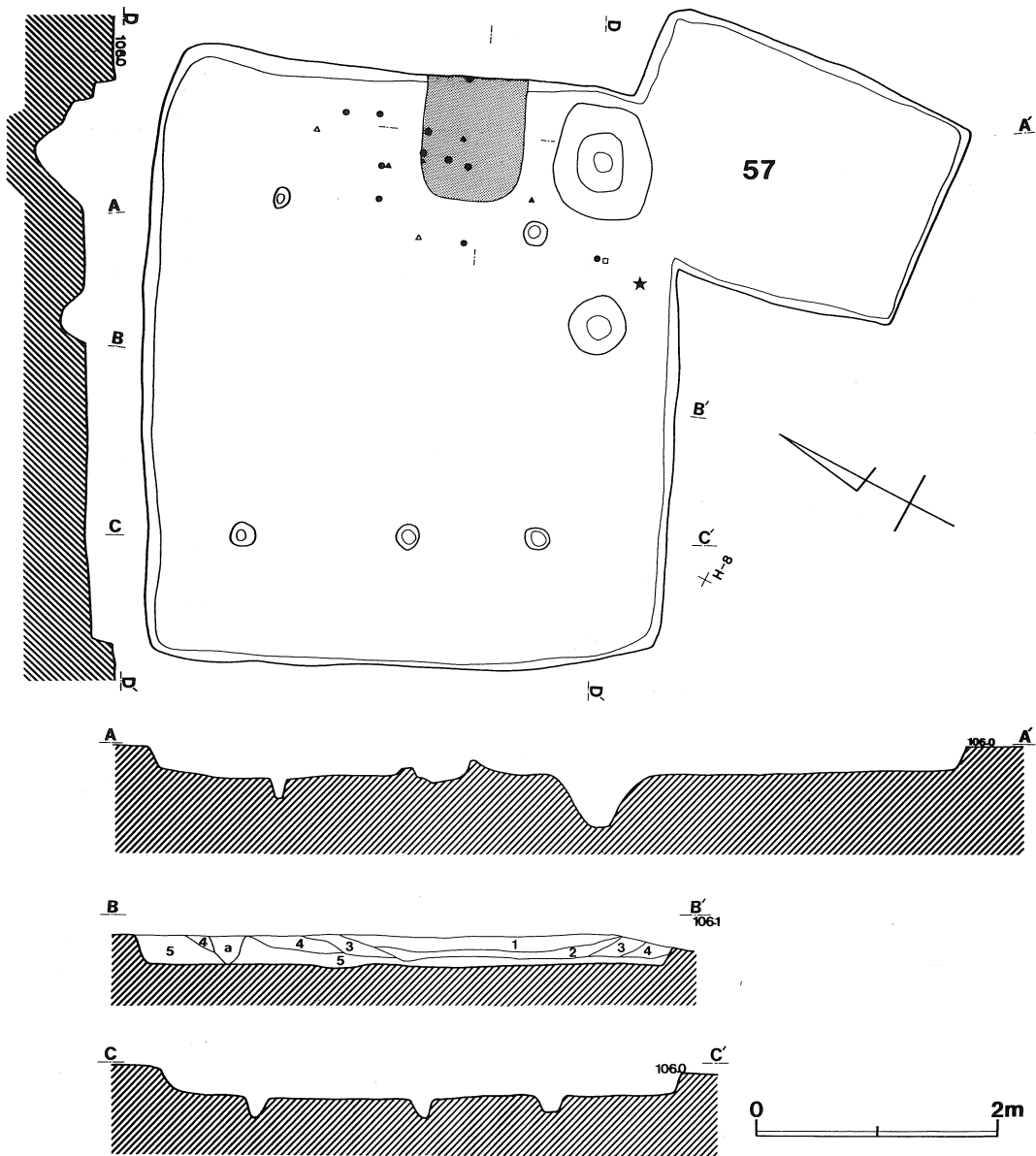
明度 8 > 9 > 7 > 10 > 12 > 1 > 1' > 5 > 3 > 6 > 4

第79図 第38号住居址



第80图 第38号住居址出土土器

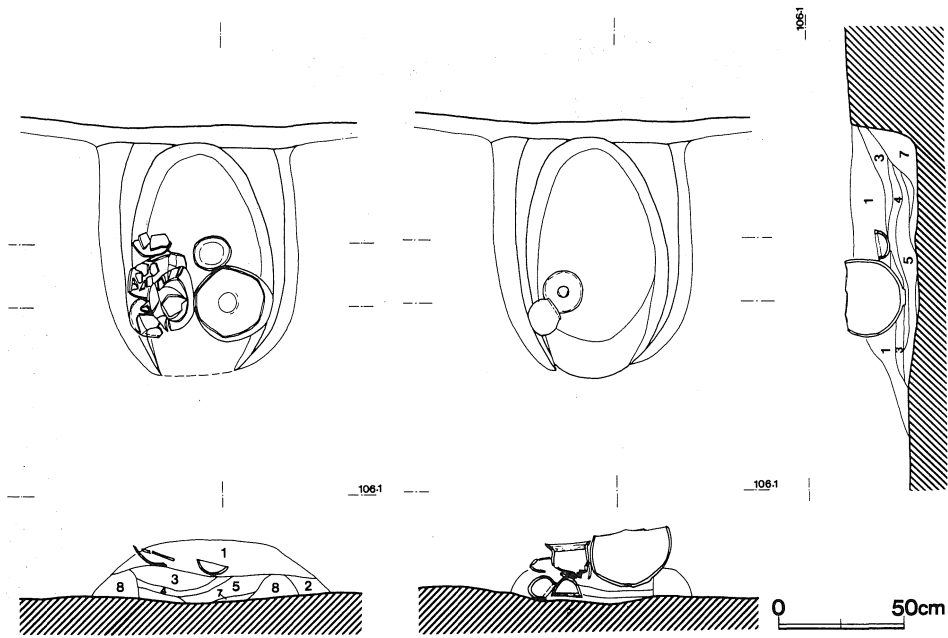
0 10cm



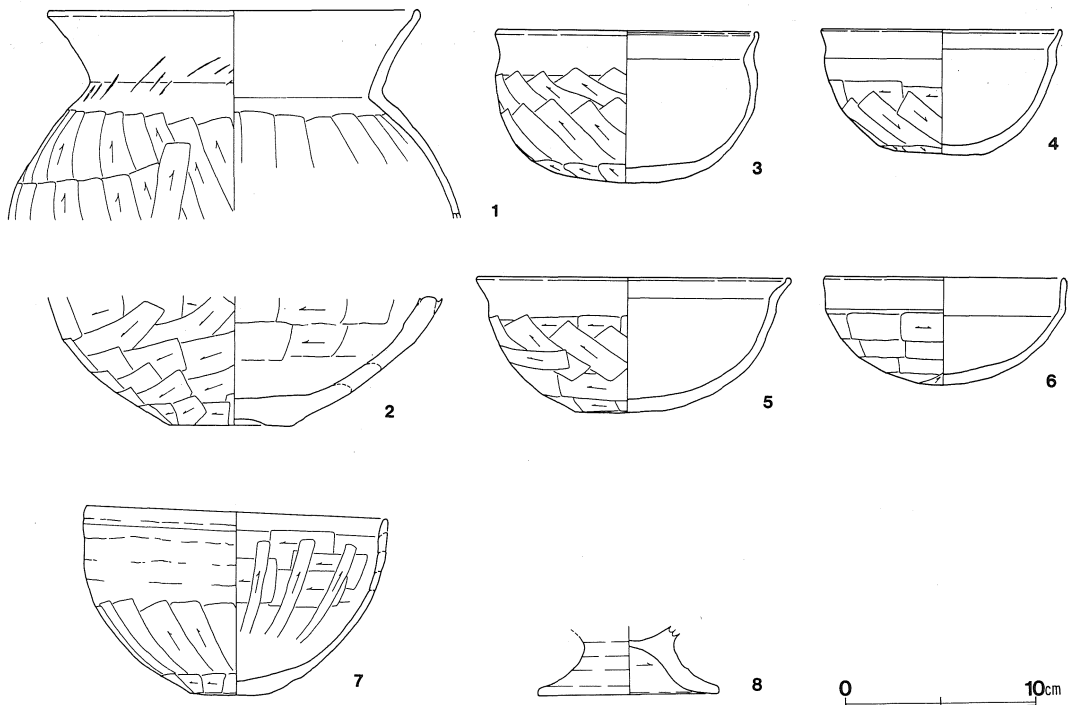
第81図 第39号住居址

第39号住居址カマド土層註

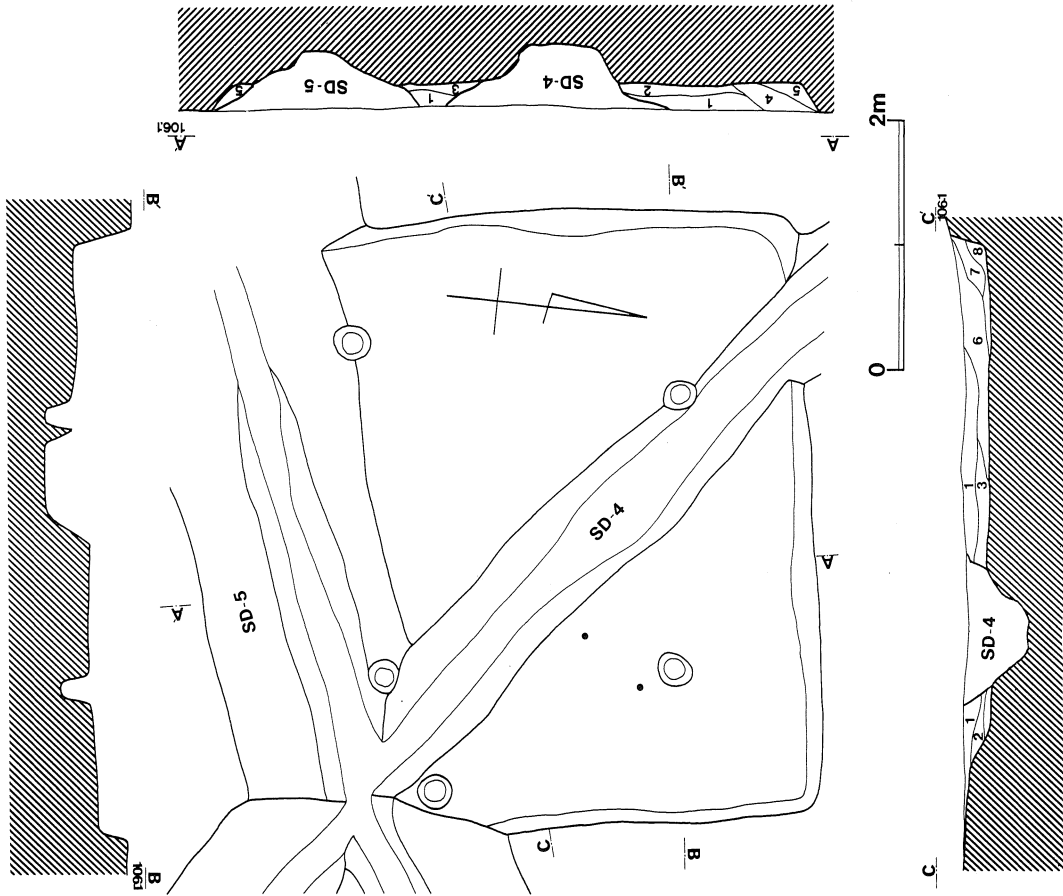
- 1層 黒褐色砂泥（焼土粒子を多く含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（焼土粒子を多く含む。）
- 3層 褐色粘土（微量の焼土粒、小礫を含む。）
- 4層 焼土A（3層の焼土化したもの、粘性は強い。）
- 5層 焼土B（赤褐色のブロックにより構成。）
- 6層 黒褐色砂泥（炭化物を半分含む。）
- 7層 黒褐色砂泥（炭化物、焼土を多く含む。）
- 8層 褐色粘土（3層に類似するが、やや砂質。）



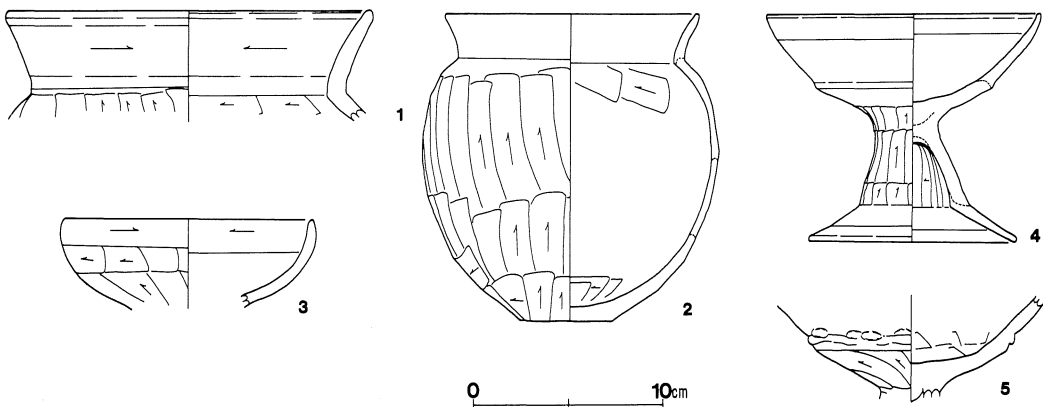
第82図 第39号住居址カマド



第83図 第39号住居址出土土器



第84图 第40号住居址



第85图 第40号住居址出土土器

第38号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（0.3～1cm大の小礫を含み、砂粒、微砂と暗褐色泥土からなる。）
  - 2層 褐色砂泥（1層より小礫少なく、地山土に近い。微量の炭化物粒子を含む。）
  - 3層 暗茶褐色砂泥（炭化物、焼土粒を多く含み、又、土器片も含む。4層より暗い。）
  - 4層 暗褐色砂泥（炭化物、焼土、土器片等を多く含み、0.3cm程の砂粒と微砂が多い。）
  - 5層 暗褐色砂泥（4層より明るく、6層より暗い。炭化物、焼土粒子を含み、しまっている。）
  - 6層 暗褐色砂泥（4層よりやや明るく、地山土の割合が多い。茶褐色のサビ状をした粒子を多く含む。）
  - 7層 淡褐色砂泥（微量の粘土粒子を含み、少量の砂礫を含む。）
  - 8層 暗褐色泥砂（0.5cm大の小礫多く、砂粒、微砂多い。又、地山土を多く含む。）
  - 9層 黒褐色砂泥（砂粒少なく、微砂を中心とする。均質で軟かい。）
  - 10層 暗褐色砂泥（地山土を多く含むが、やや暗く、斑状で不均質である。）
  - 11層 黒褐色砂泥（均質で微砂も多く、しまっている。）
- 明度 9 > 11 > 3 > 1 > 4 > 5 > 6 > 10 > 8 > 7 > 2

第39号住居址土層註

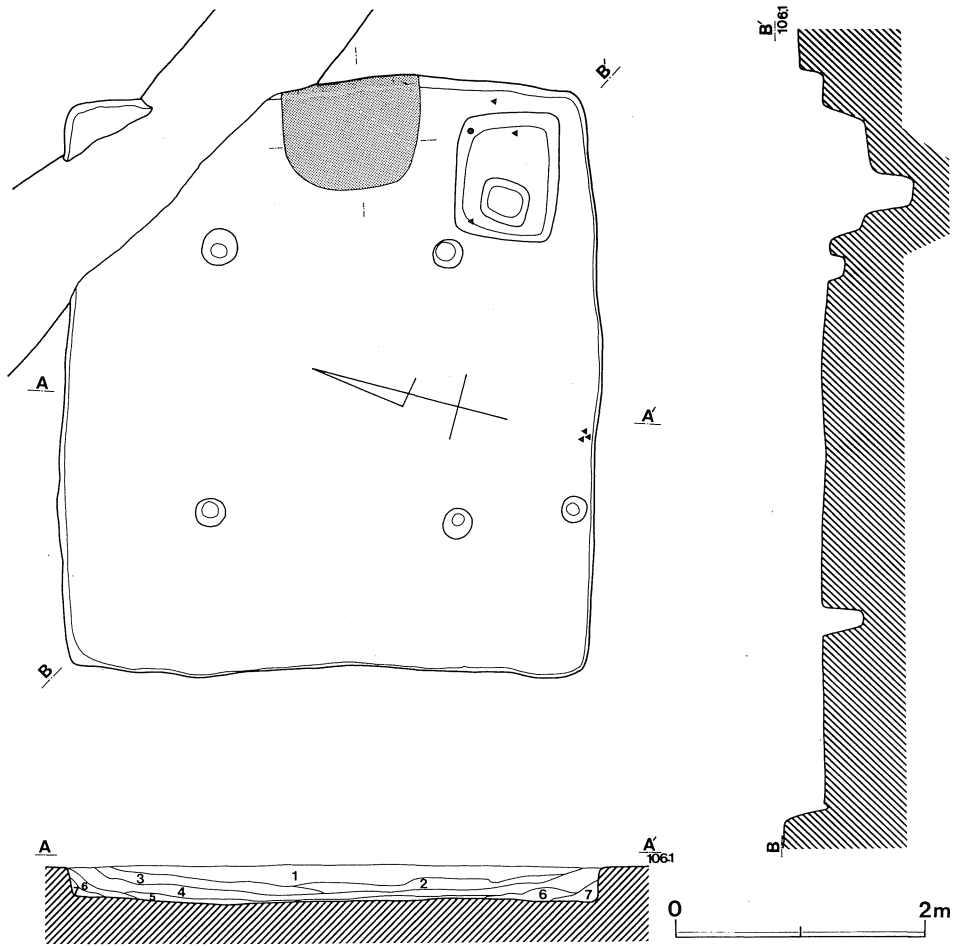
- 1層 暗褐色砂泥（1.5cm前後の小礫を多く含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層に同じであるが、小礫の量が少ない。）
- 3層 暗褐色泥砂（1、2層に比べ、しまりがなく、礫の量も少ない。）
- 4層 暗褐色泥砂（3層に比べややしまりがある。1cm前後の小礫を含む。）
- 5層 暗褐色砂泥（4層に比べ小礫の量も少なく、大きさも小さくなる。）
- a層 黒褐色砂泥（3層よりもしまりがなく、小礫を若干含む。）

第40号住居址土層註

- 1層 暗褐色泥砂（0.2～1cm大の砂礫を多量に含み、少量の炭化物粒を含む。）
  - 2層 暗茶褐色砂泥（1層に比して礫の量が著しく少なく、多量の炭化物粒を含む。）
  - 3層 暗褐色砂泥（焼土ブロックを多量に含み、小礫を混じる。）
  - 4層 暗茶褐色泥砂（0.5～2cm大の礫を多量に含む。1層より礫が多い。）
  - 5層 暗茶褐色砂泥（地山Aに類似するが、小礫少なく、やや暗い。）
  - 6層 褐色泥砂（4層に対応するが、地山Dの影響によるためか地山Dに近似する。）
  - 7層 暗褐色泥砂（4層の様な小礫少なく、砂を多量に含み、焼土、炭化物粒が多い。）
  - 8層 褐色砂泥（地山D中の泥土を中心に崩壊したものか小礫は少ない。）
- 地山A 褐色砂泥（0.2～0.5cmの小礫を含み、比較的均質である。）
- 地山B 暗褐色砂泥（Aに類似しているが、暗い。）
- 地山C 茶褐色粘土（均質でしまっている。）
- 地山D 暗褐色泥砂（褐色、黄褐色小礫、暗茶褐色粘質土を中心に構成され、微砂等の混入は少ない。）

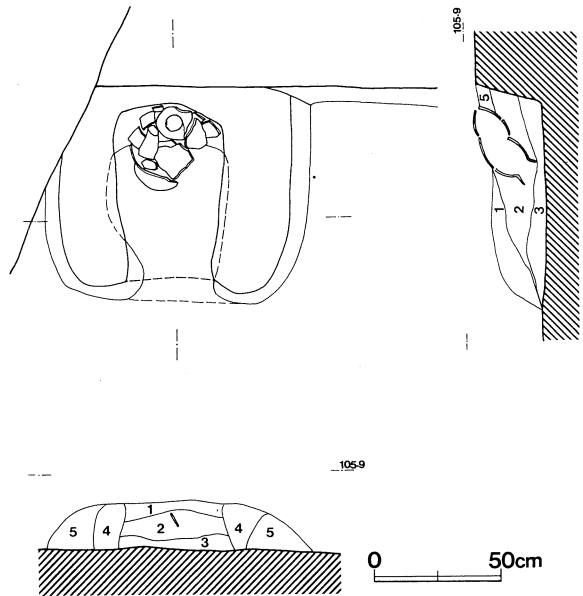
第41号住居址土層註

- 1層 茶褐色砂泥（微量の炭化物、焼土粒子を含み、また少量の砂粒を含む。）
  - 2層 暗褐色泥土（3層に類似するが、地山土の割合多い。）
  - 3層 暗褐色泥土（微量の炭化物、焼土粒子を含み、1層に類似するが、地山ブロックを含む。）
  - 4層 暗褐色泥土（多量の炭化物粒を含み、比較的均質で、地山ブロック混入。）
  - 5層 褐色泥土（多量の炭化物、焼土粒を含む。地山に近似している。）
  - 6層 暗褐色砂泥（地山の鉄サビ状粒子を含み、しまっている。地山に近い。）
  - 7層 暗茶褐色泥土（炭化物、焼土等はほとんど含まず、地山より暗い。）
- 地山 茶褐色泥土（粘質で、赤褐色の微砂からなる。小ブロックを多量に含む。）
- 明度 7 > 2 > 4 > 6 > 3 > 1 > 5



第41号住居址カマド土層註

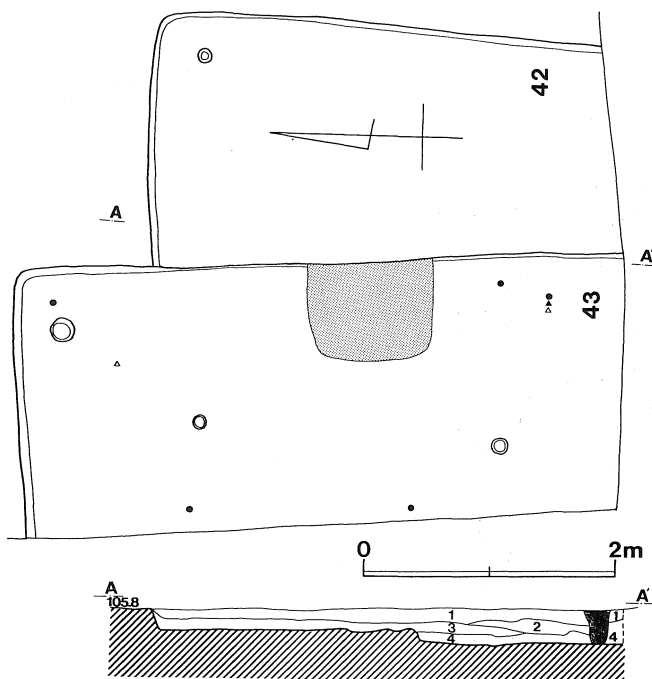
- 1層 暗褐色泥土（ソデを構成する灰白色粘土ブロックを含む。粘性があり、焼土、炭化物を含む。）
  - 2層 暗褐色泥土（焼土、炭化物を含む割合が多く、粘性もある。カマド内におけるフク土であろう。）
  - 3層 褐色泥土（焼土が主体の層、上面を炭化物がおおう所もある。）
  - 4層 灰白色粘土（カマドのソデを構成する層、粘性も非常に強い。一部熱を受け焼土化している。）
  - 5層 灰白色粘土（4層よりも暗く、粘性も強い。）
- 明度 2 > 1 > 3 > 5 > 4



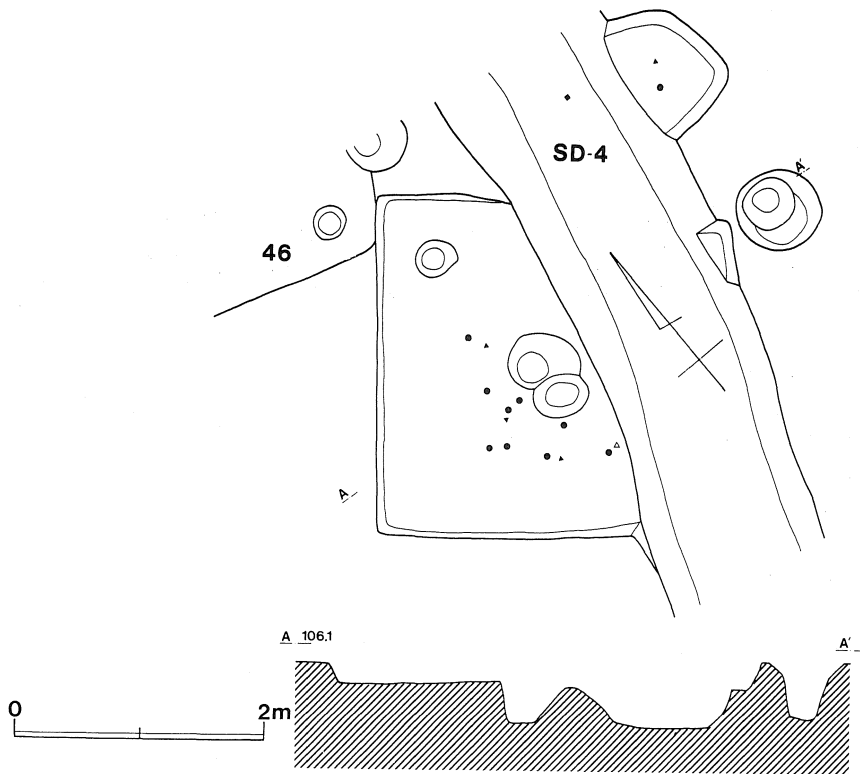
第86図 第41号住居址

第43号住居址土層註

- 1層 黒褐色泥土（他に比べて一番暗い。）
- 2層 暗褐色泥土（白色、黄色、赤色微砂粒子を含む。）
- 3層 褐色砂泥（他に比べて一番明るい、粘質である。）
- 4層 暗褐色泥土（白色、黄色、赤色微砂粒子を含む。焼土粒子を若干含む。）

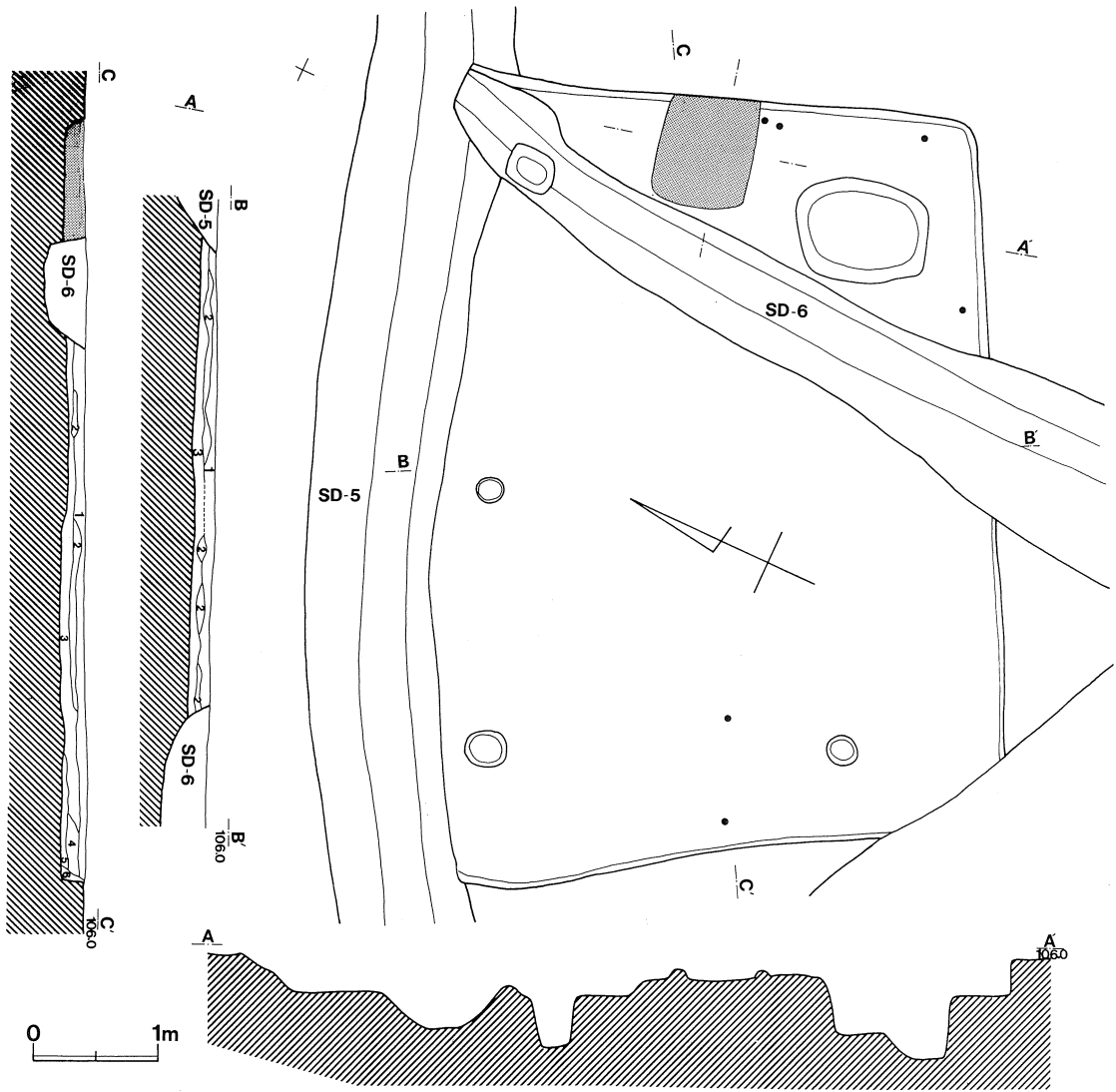


第87図 第42、43号住居址



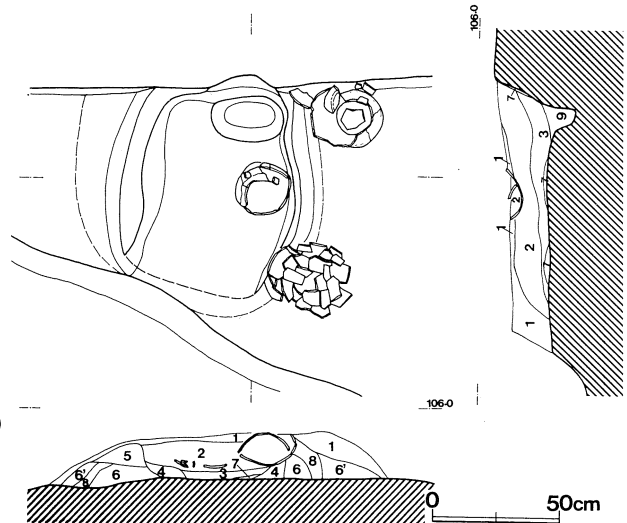
第88図 第45号住居址



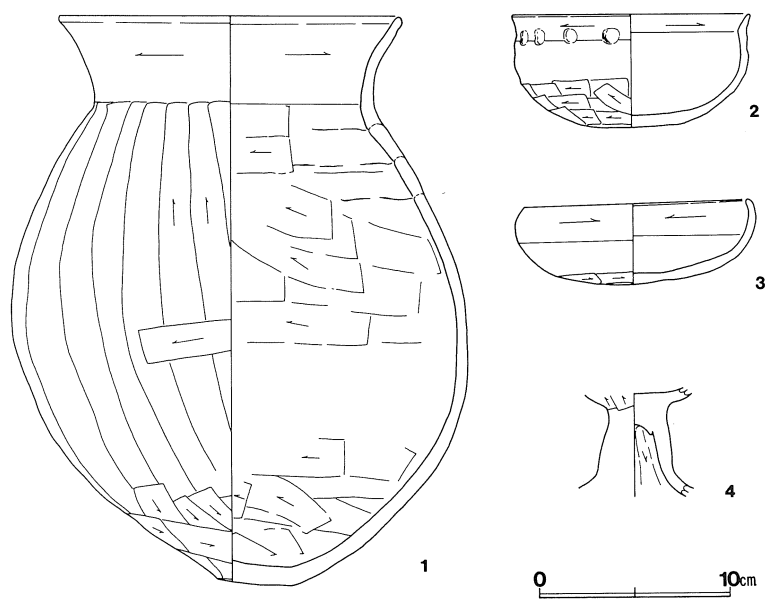


第44号住居址カマド土層註

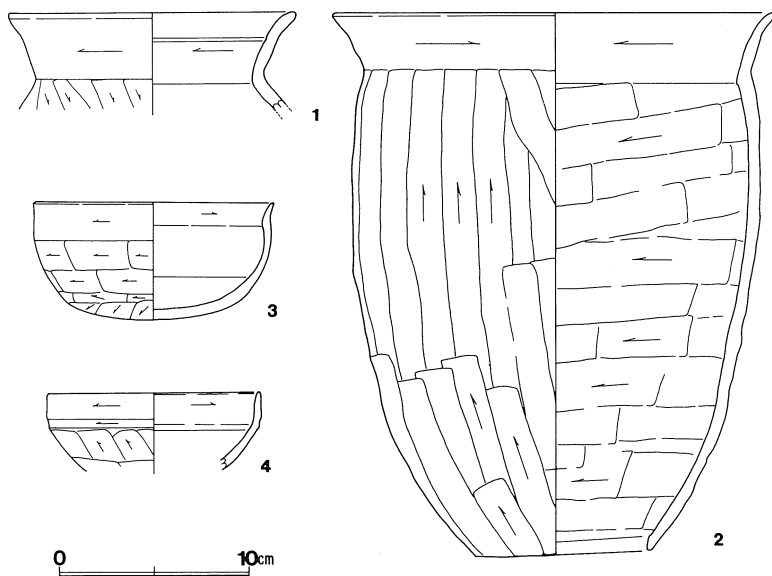
- 1層 暗褐色泥砂（焼土粒子を若干含む。）
  - 2層 黒褐色泥砂（焼土を含み、1層より粘性に富む。）
  - 3層 暗褐色砂泥（焼土、炭化物粒子を含み、2層より粘性に富む。）
  - 4層 暗褐色泥砂（3層より焼土がまばら。）
  - 5層 黒褐色泥砂（焼土ブロックを含む。）
  - 6層 黒褐色砂泥（焼土を含む、ソデ。）
  - 6'層 黒褐色砂泥（ソデ〜ブリッジ崩壊土。）
  - 7層 焼土（粘性に富む。）
  - 8層 焼土と粘土が混った層（ブリッジ崩壊。）
  - 9層 黒色泥土（焼土を含む。）
- 明度 7 > 3 > 4 > 6 > 1 > 5 > 2



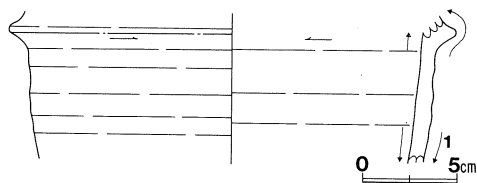
第89図 第44号住居址



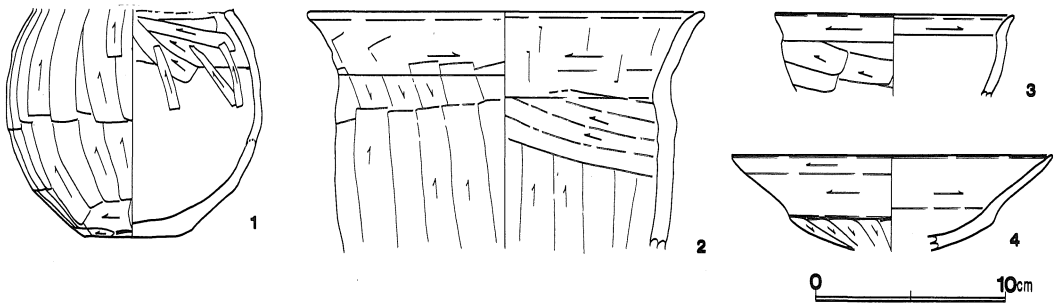
第90图 第41号住居址出土土器



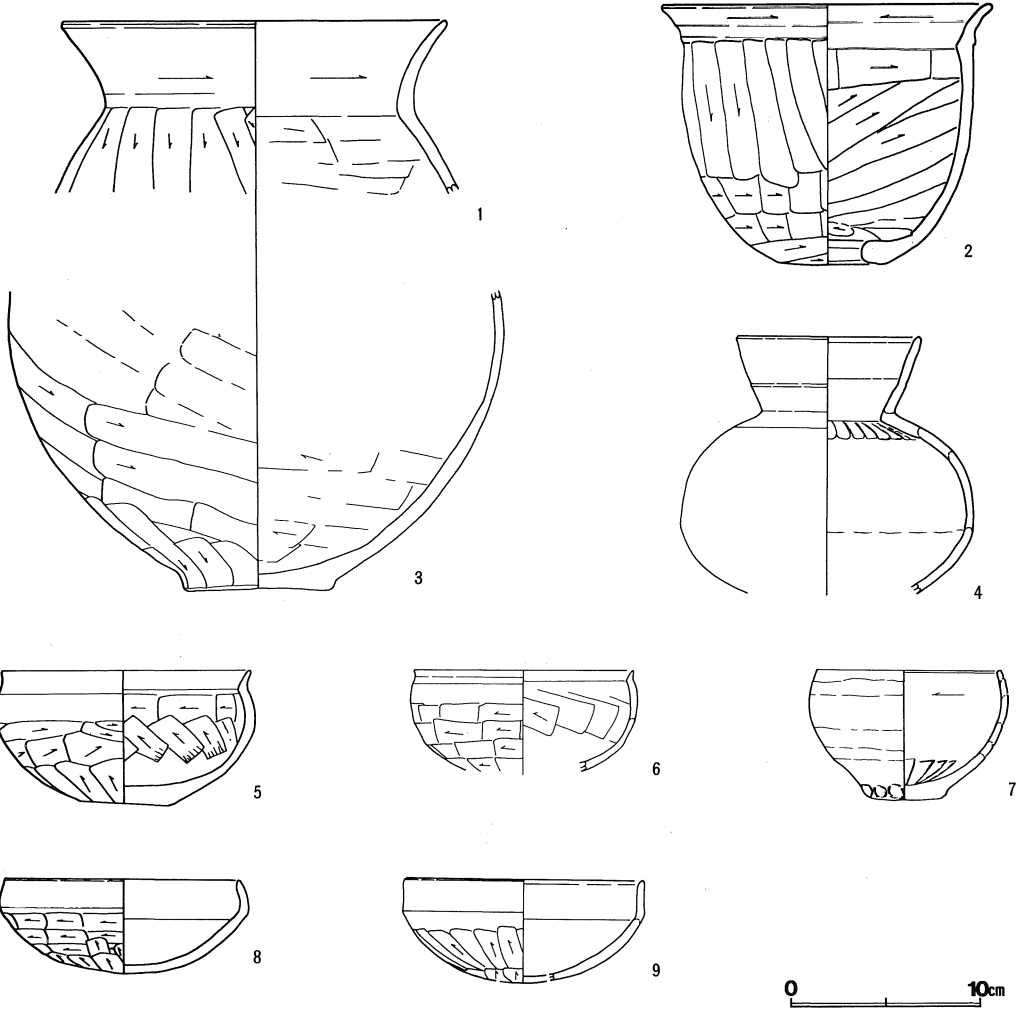
第91图 第42号住居址出土土器



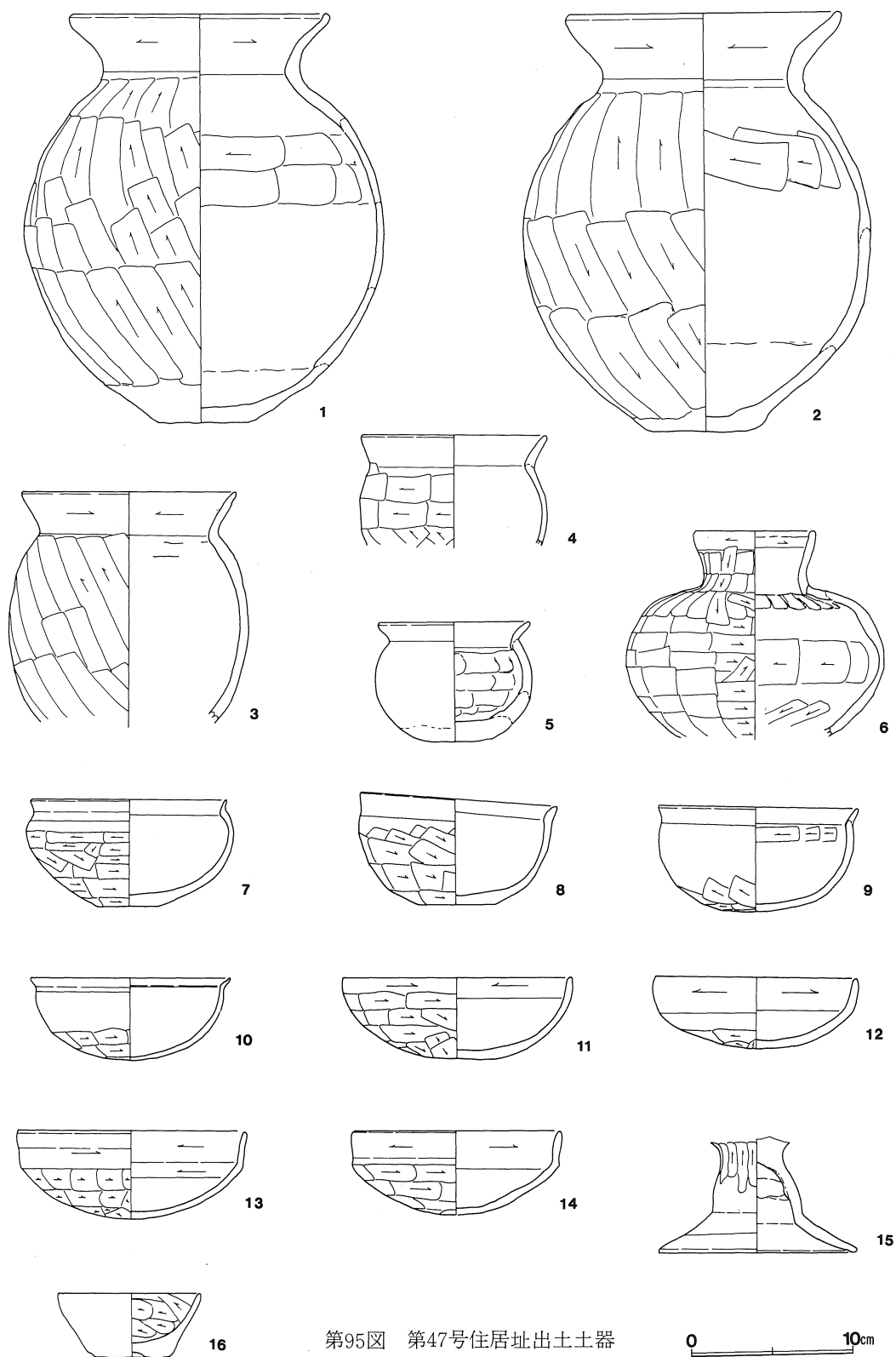
第92图 第43号住居址出土土器



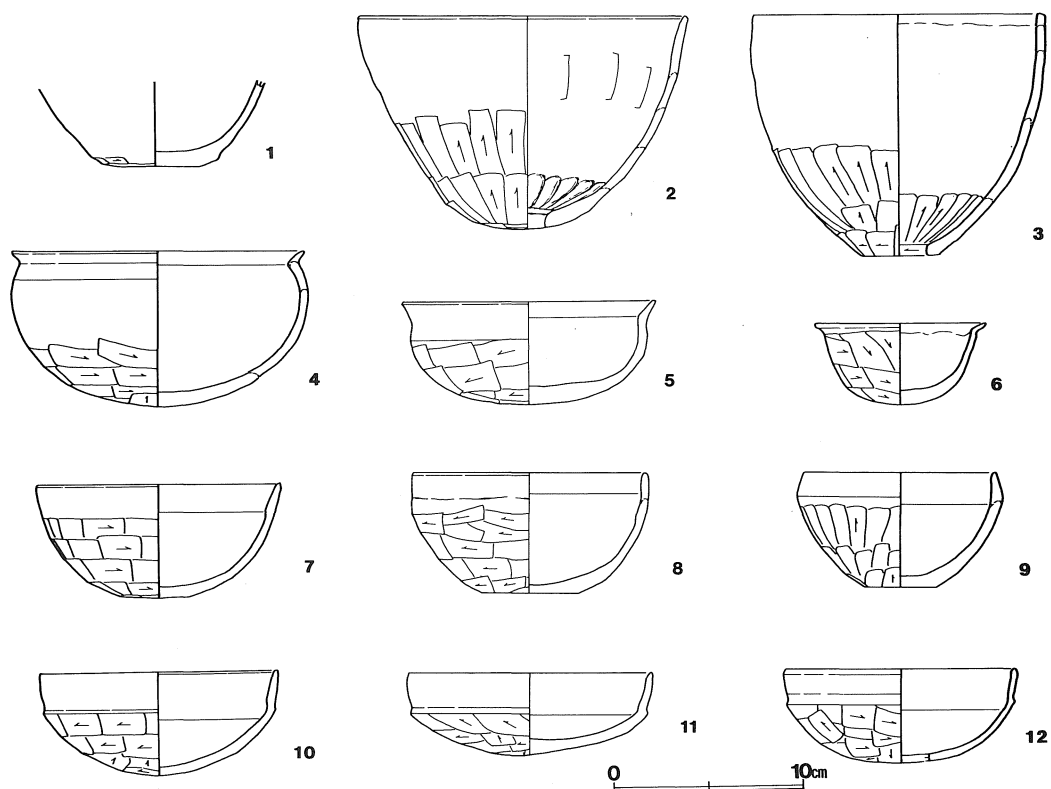
第93图 第44号住居址出土土器



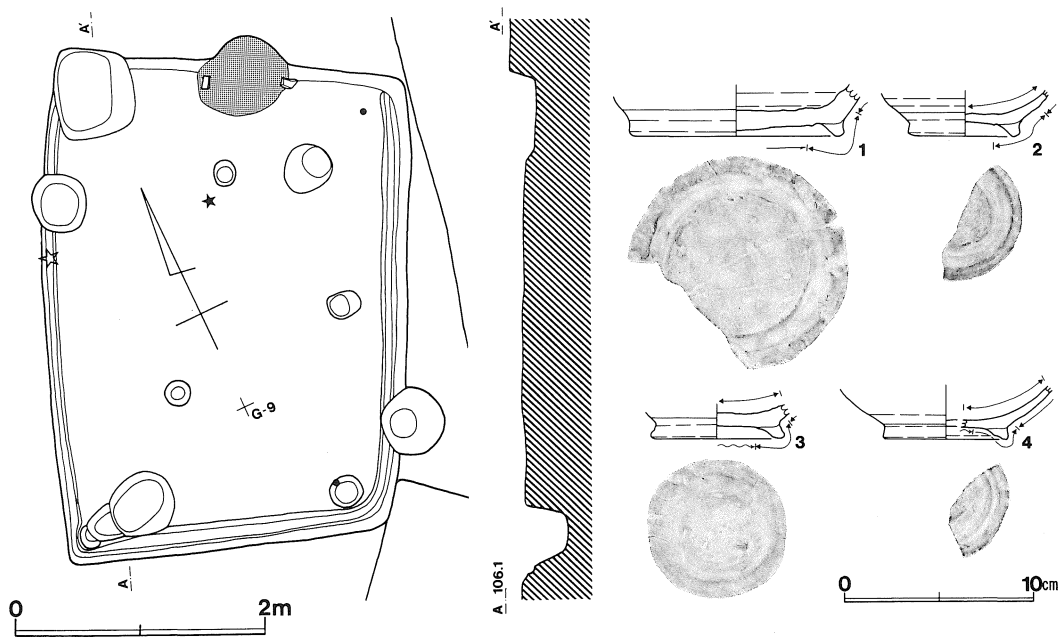
第94图 第45号住居址出土土器



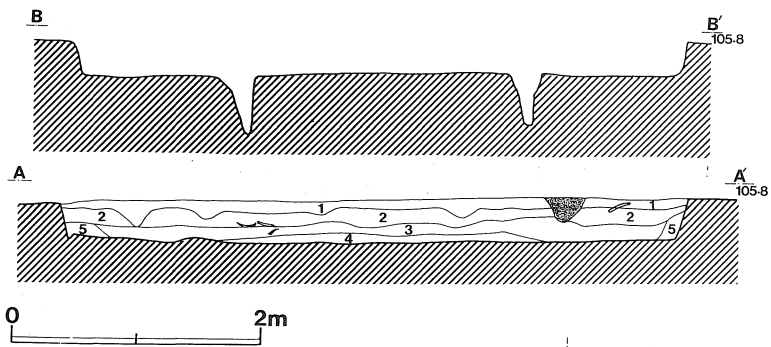
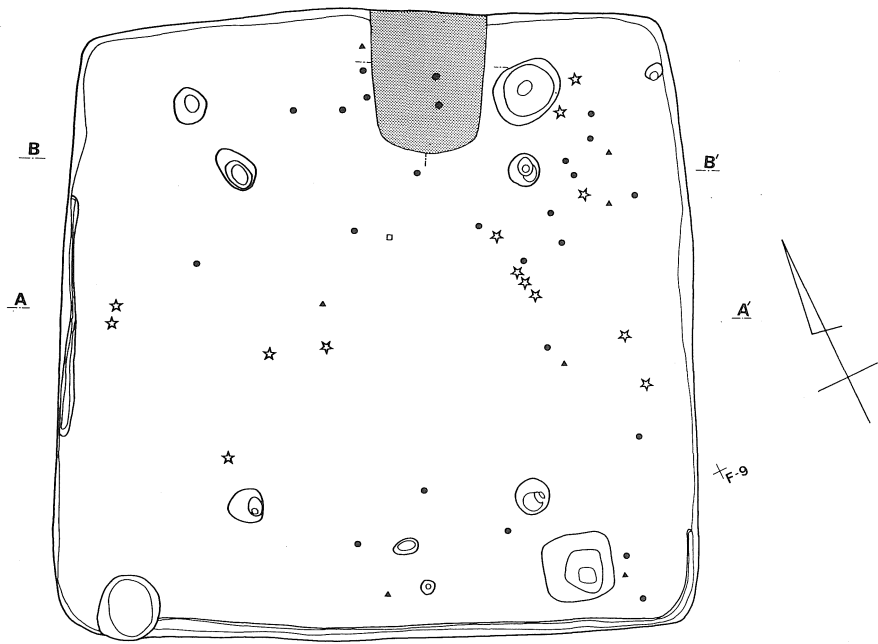
第95图 第47号住居址出土土器



第96図 第48号住居址出土土器

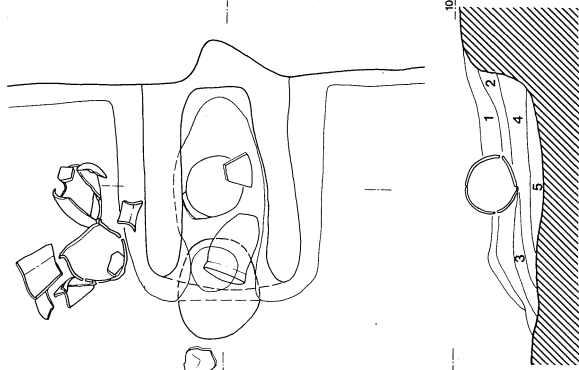


第97図 第46号住居址及び出土土器



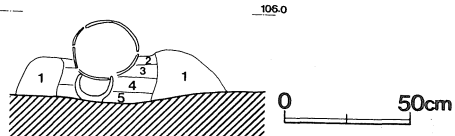
第47号住居址土層註

- 1層 黒褐色土（砂礫及び土器小破片を含む。）
- 2層 灰茶褐色土
- 3層 黒褐色土（炭化物、焼土を含む。）
- 4層 暗褐色土（褐色のブロックと砂粒を含む。）
- 5層 黒褐色土（砂を含む。）

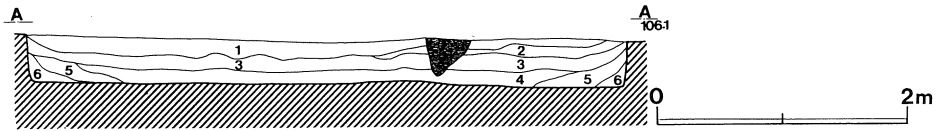
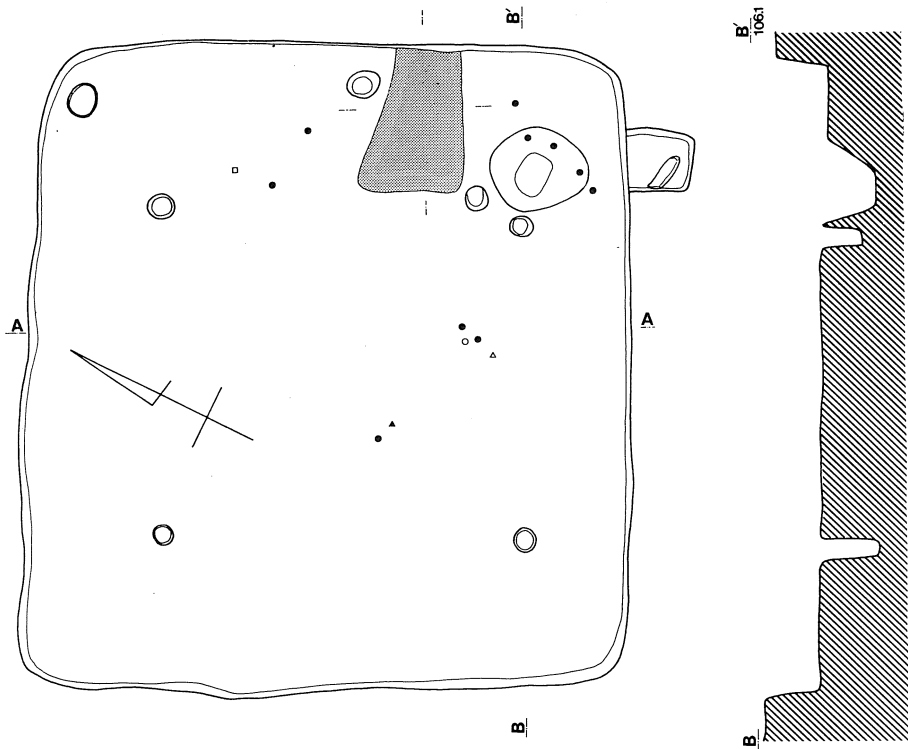


第47号住居址カマド土層註

- 1層 焼土混入褐色土層
- 2層 焼土層
- 3層 砂混入褐色土層
- 4層 焼土混入砂質土層
- 5層 焼土を微量含む黒褐色土層

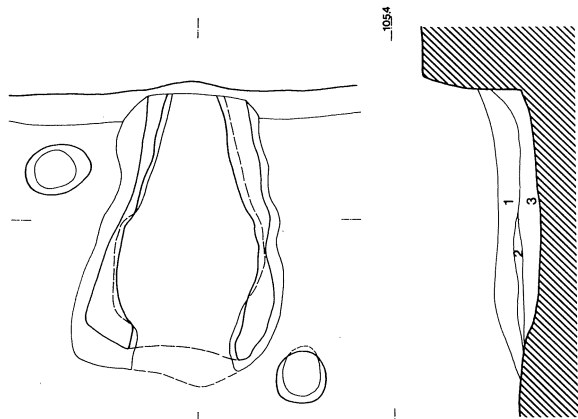


第98図 第47号住居址



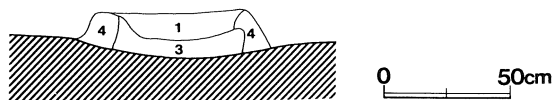
第48号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（小礫を多く含む。）
  - 2層 暗褐色砂泥（若干の焼土を含む。）
  - 3層 暗褐色砂泥（炭化物、焼土粒が点在。）
  - 4層 暗褐色砂泥（3層よりも焼土、炭化物の混在度が多く、土器片が混入する。）
  - 5層 黒褐色砂泥（小礫を余り含まず、砂泥を中心とした層。）
  - 6層 暗褐色砂泥（地山の崩壊と思われる層。）
- 明度 3 > 2 > 6 > 1 > 6 > 5

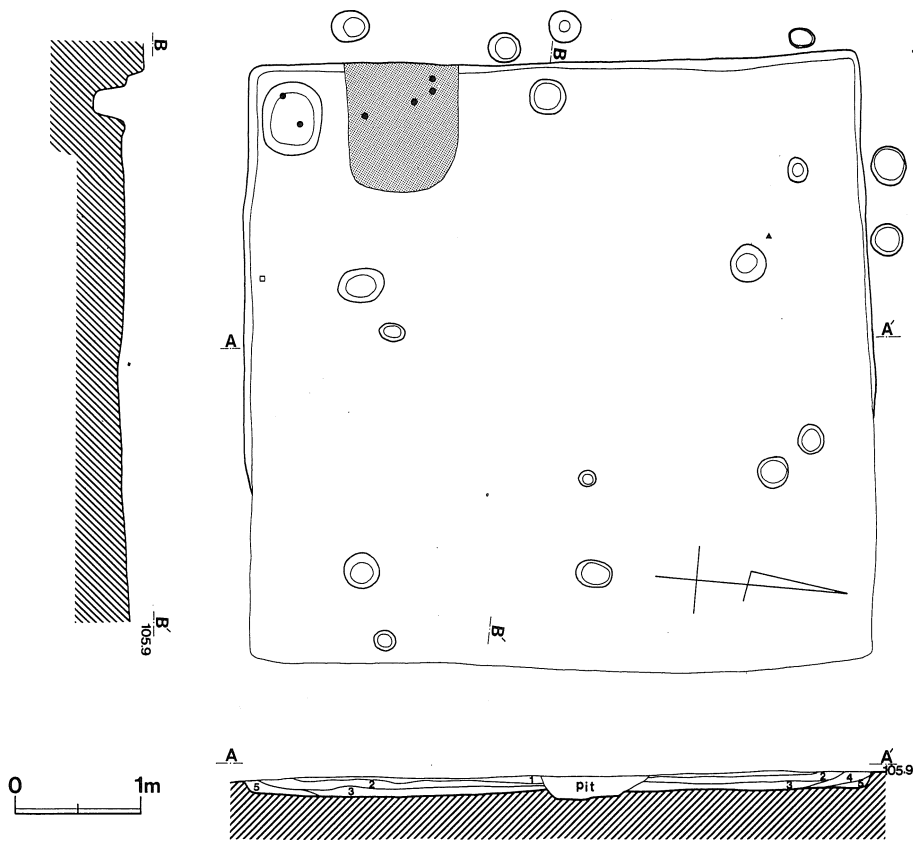


第48号住居址カマド土層註

- 1層 茶褐色土層（焼土を多く含み、硬く、しまりが良い。）
- 2層 黒色土層（炭化物を多く含む。下部がやや暗い赤色を呈する。）
- 3層 灰褐色土層（炭化物、焼土粒を少し含み、軟かい。）
- 4層 灰褐色土層（かなり硬い。）

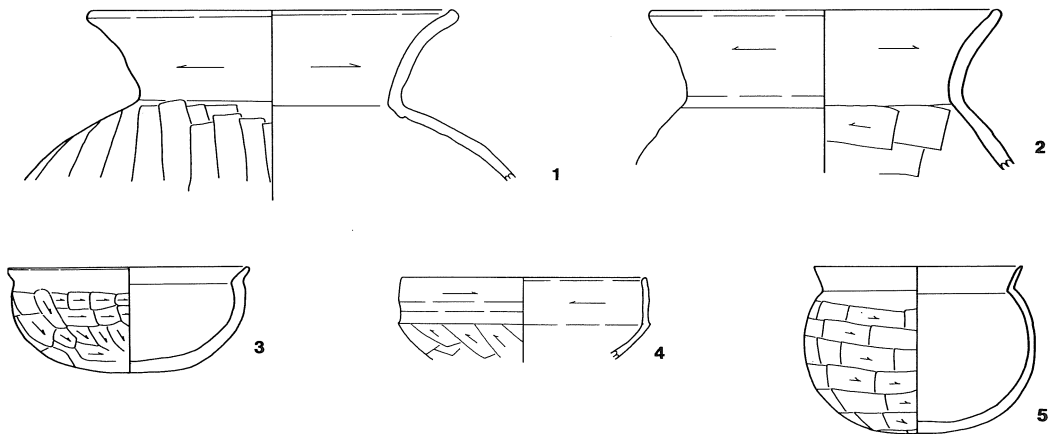


第99図 第48号住居址

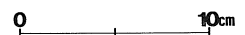


第49号住居址土層註

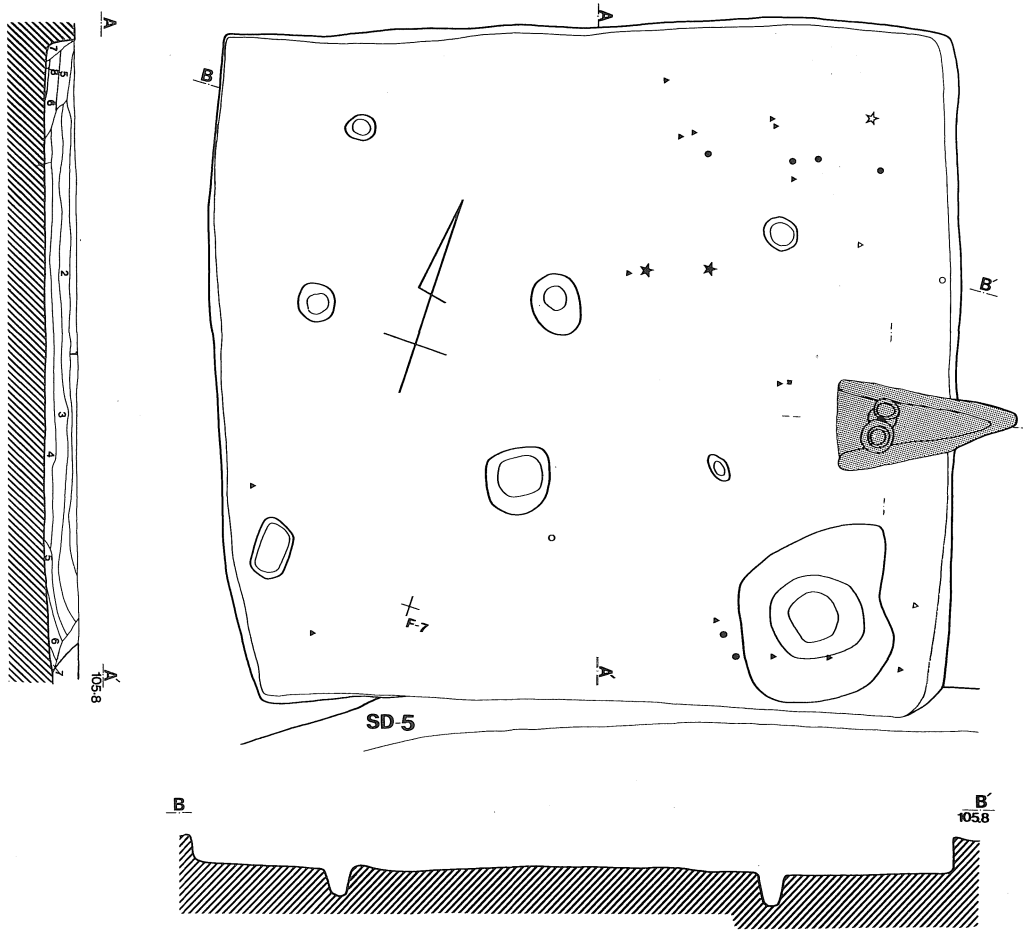
- 1層 黒褐色砂泥（少礫を比較的多く含み、砂泥も多少含んでいる。ローム粒子がごくわずか点在する。）
  - 2層 暗褐色砂泥（少礫は1層より多少増える。焼土粒子、炭化物を含む。粗である。）
  - 3層 暗褐色砂泥（少礫は更に多くなり、炭化物、焼土が増え、土器も見られ、ローム粒子が多い。）
  - 4層 暗褐色砂泥（少礫は1層よりも少なく、ローム粒子が増え、炭化物、焼土とも若干見られる。）
  - 5層 暗褐色砂泥（覆土と地山の混合層と思われ、若干の焼土、炭化物が見られ、ローム粒も多い。）
- 明度 5 > 4 > 3 > 2 > 1



第100図 第49号住居址及び出土土器

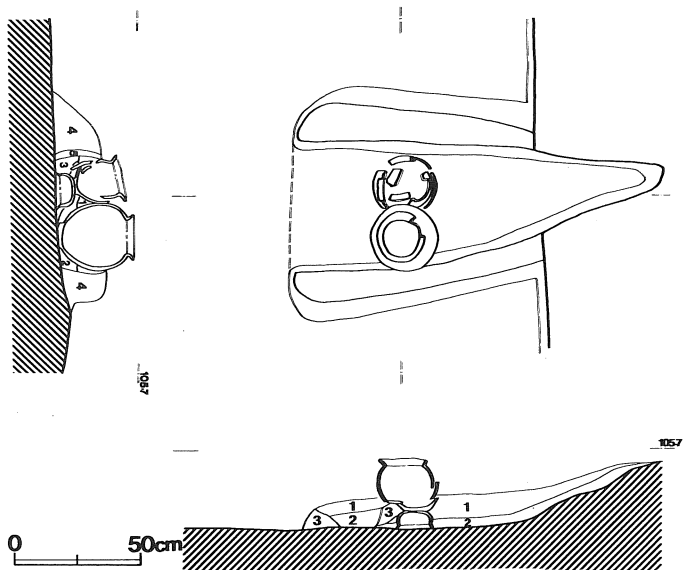




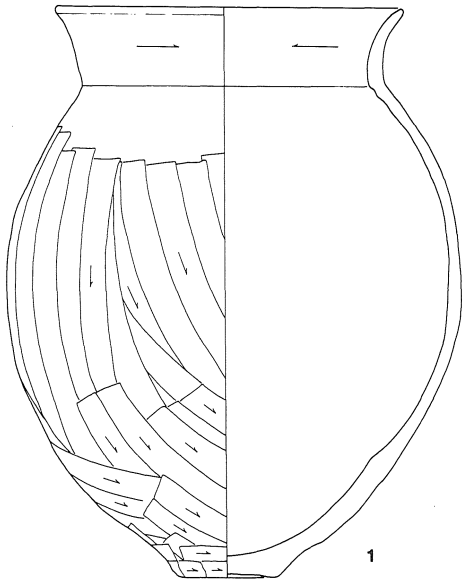


第50号住居址カマド土層註

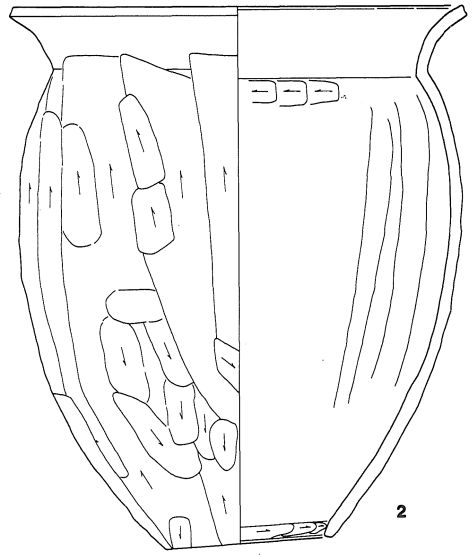
- 1層 暗褐色砂泥（焼土、炭化物粒子を含む。）
- 2層 暗赤褐色砂泥（焼土ブロック、炭化物粒子を含む。）
- 3層 灰茶褐色砂泥（灰、焼土、炭化物を含む。）
- 4層 茶褐色砂質粘土層（ソデ部）
- 5層 赤褐色砂質粘土層（火をうけて赤化したソデ部。）



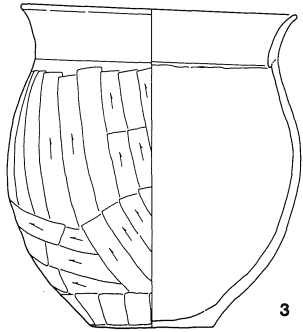
第101図 第50号住居址



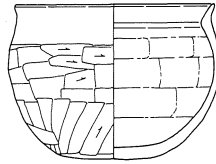
1



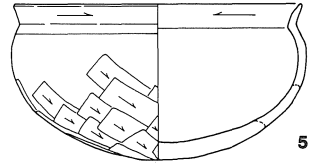
2



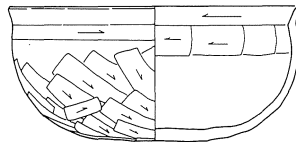
3



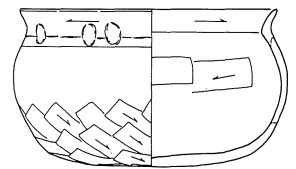
4



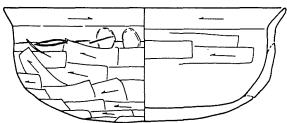
5



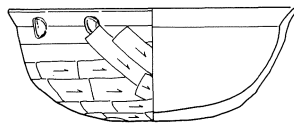
6



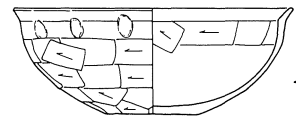
7



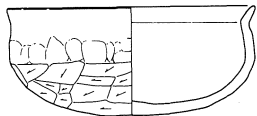
8



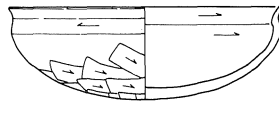
9



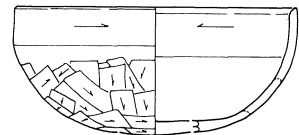
10



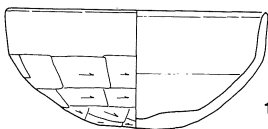
11



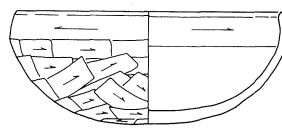
12



13



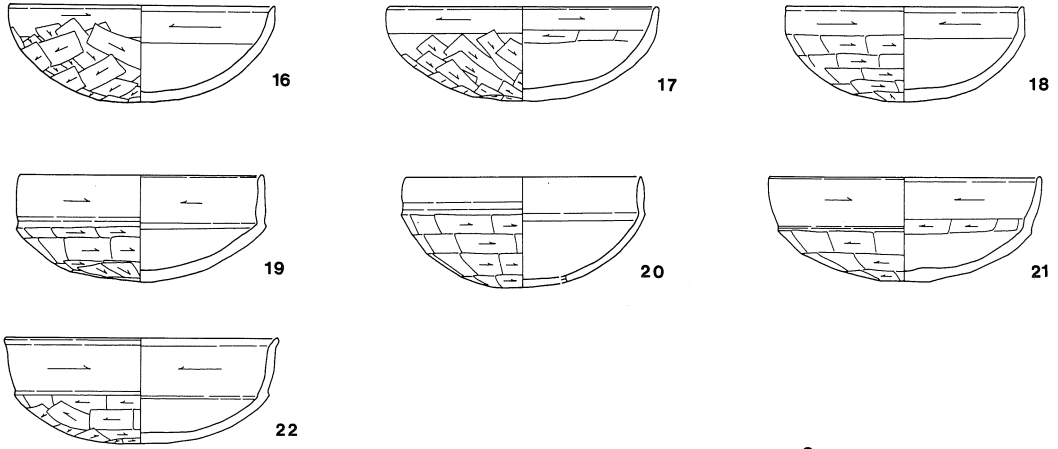
14



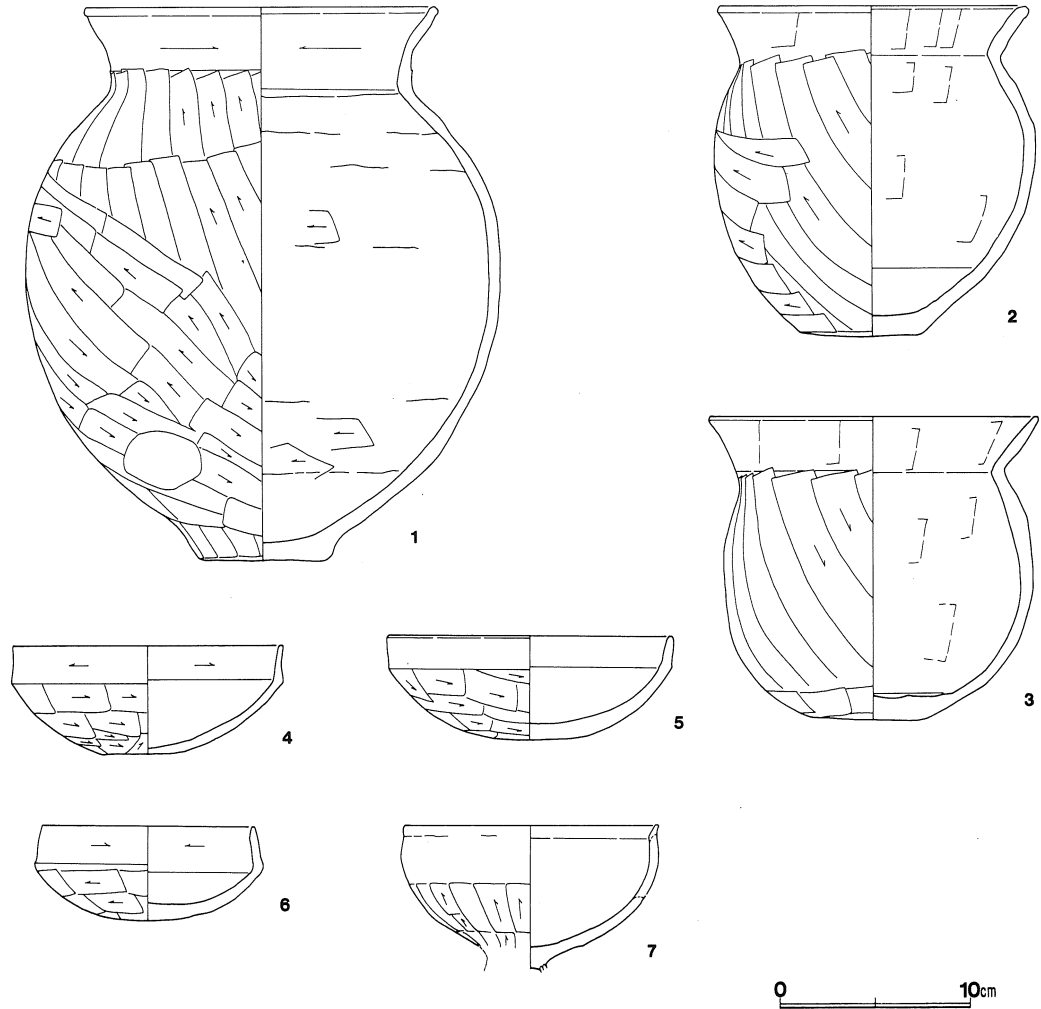
15



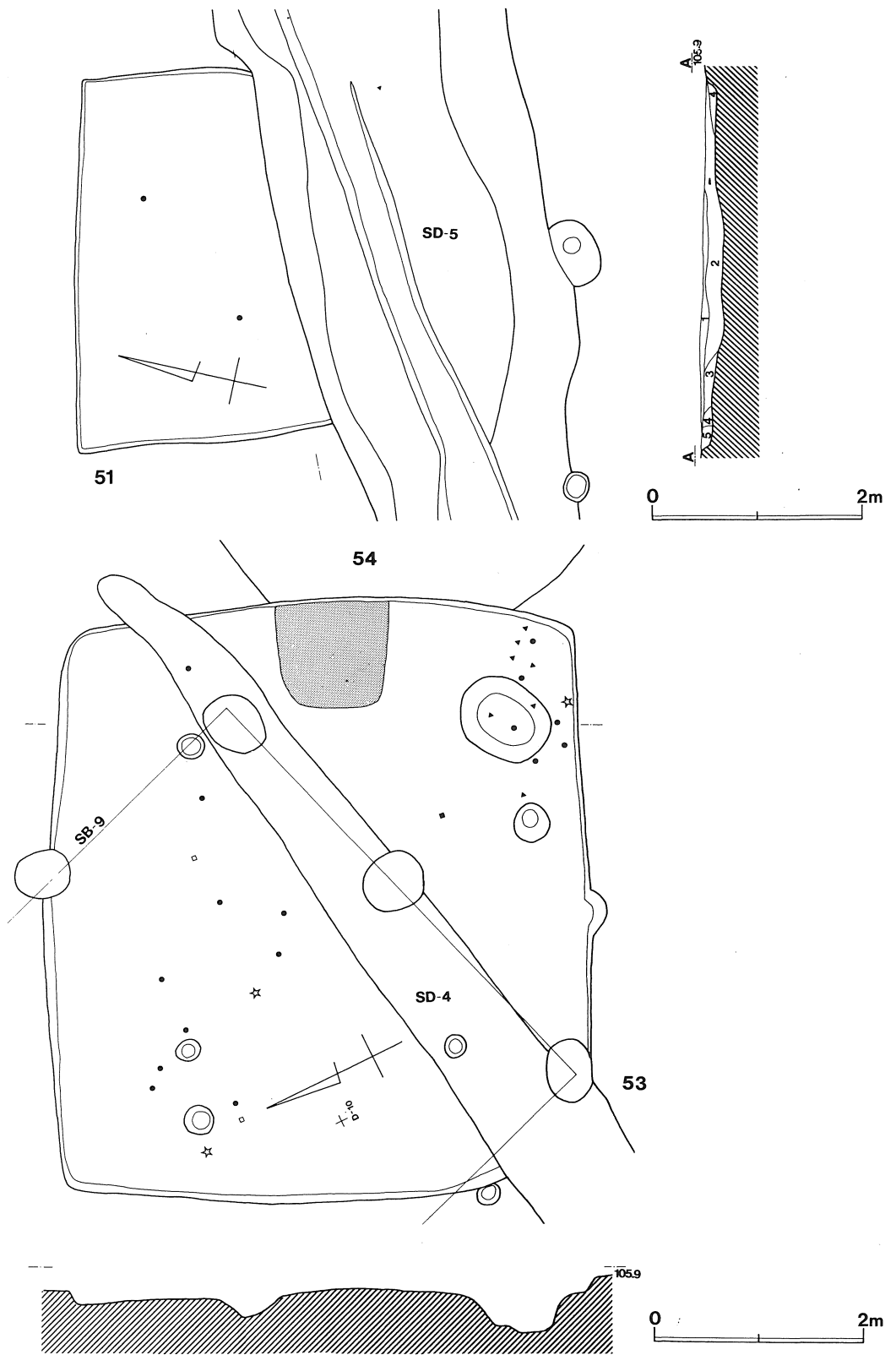
第102图 第50号住居址出土土器



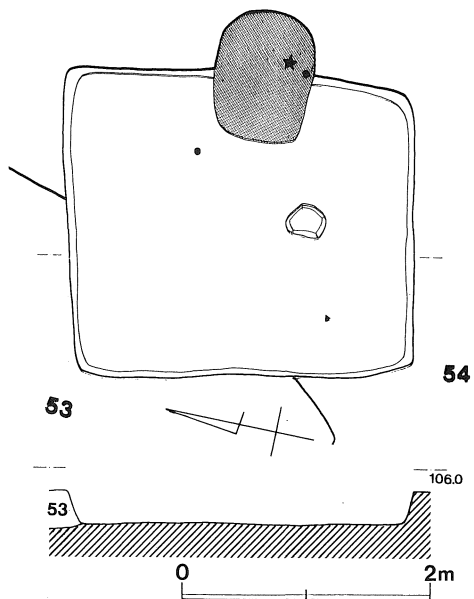
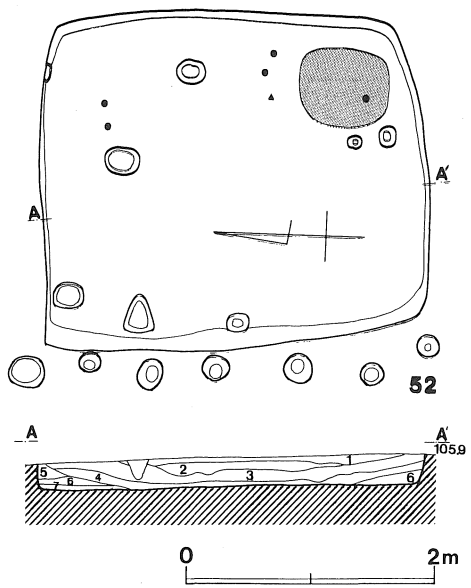
第103图 第50号住居址出土土器



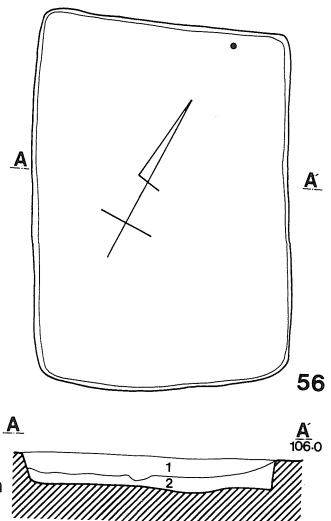
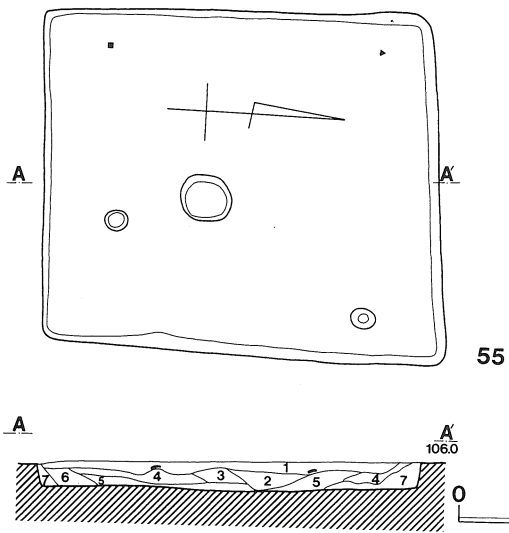
第104图 第53号住居址出土土器



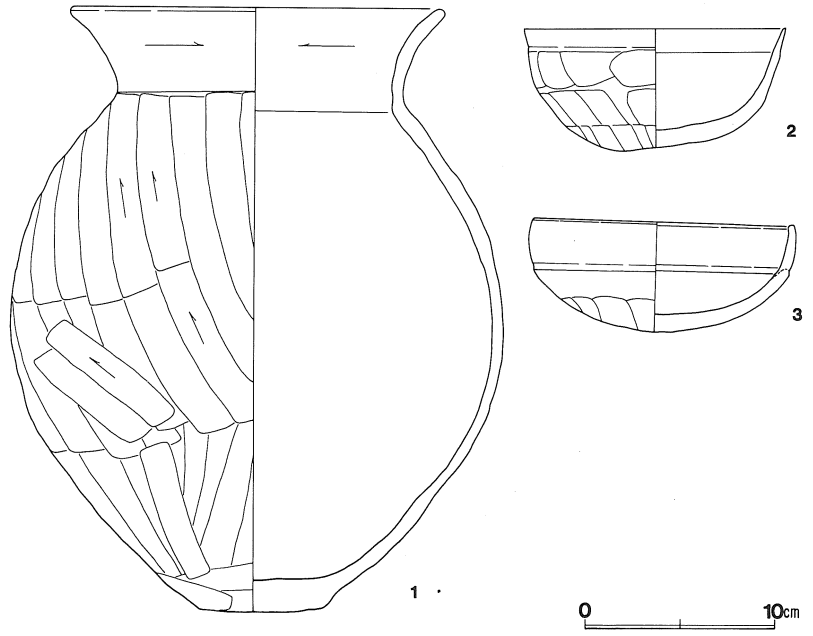
第105図 第51、53号住居址



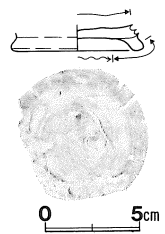
第106图 第52、54号住居址



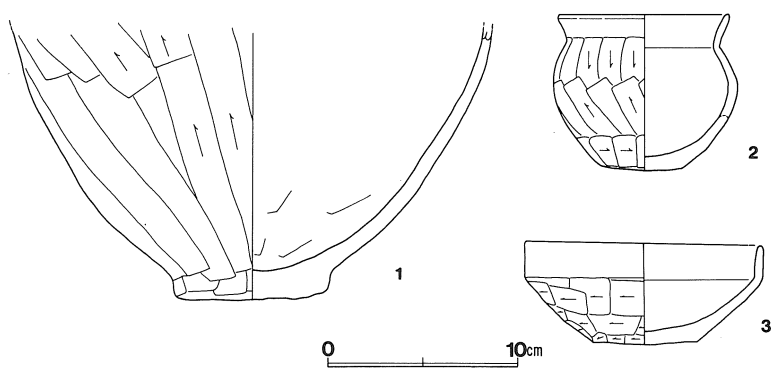
第107图 第55、56号住居址



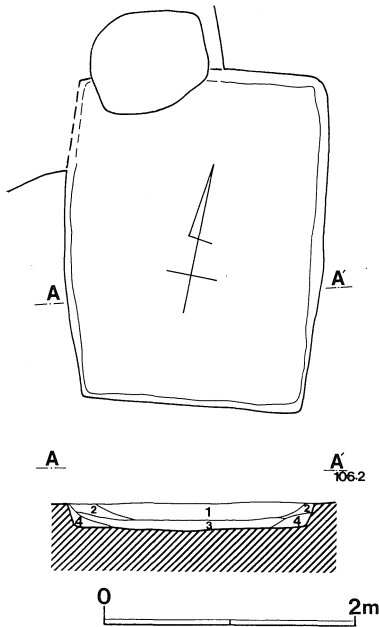
第108图 第52号住居址出土土器



第109图 第54号住居址出土土器



第110图 第55号住居址出土土器



第111図 第57号住居址

第51号住居址土層註

- 1層 黒褐色泥砂（小礫を含み、土器の極小さいものも見られる。）
- 2層 暗褐色泥砂（1層よりも小礫の量が多く、土器片、炭化物、焼土粒子を含む。）
- 3層 茶褐色砂土（小礫をあまり含まず、よくしまっている。やや粘性がある。）
- 4層 暗褐色砂礫（小礫がぎっしりと入り、よくしまっている。小礫の径は2層のものと同じ位かやや大きめである。）
- 5層 暗茶褐色泥砂（部分的に礫が集中しているが、その他は礫が少ない。やや粘性がある。）

第52号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂礫（小礫を多く含み、砂泥も比較的多い。焼土、炭化物はほとんど含まず、ごく少量ローム粒子が点在する。粗である。）
  - 2層 暗褐色砂泥（1層に比べ小礫は少なく、少量混入する様になり、ローム粒が、増加しているが、焼土、炭化物は余り変らない。）
  - 3層 暗褐色砂泥（1、2層に対し、小礫はほとんど含まず、泥砂を中心とした密な層に変わり、焼土、炭化物は増えている。）
  - 4層 暗褐色砂泥（3層よりも焼土、炭化物は増えており、2ヶ所に焼土粒の多い所がみられる。若干のローム粒含む。）
  - 5層 暗褐色砂泥（4層よりは、ロームの混入が少なく、暗いが4層より明るくなっている。焼土粒が比較的多い。）
  - 6層 暗黄褐色砂泥（若干のローム粒を混入し、多少焼土、炭化物が見られる。色は、7層より多少暗くなっている。）
  - 7層 暗黄褐色砂泥（3～5cm位のロームブロックを含み、壁の崩壊土と思われる。）
- 明度 7 > 6 > 5 > 4 > 2 > 3 > 1

第55号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（小礫の比較的多い層で、焼土粒、炭化物、ローム粒が少量点在し、土器を含む。）
- 2層 暗褐色砂泥（1層よりも小礫、炭化物、焼土粒、ローム粒が増加し、粗な層を呈す。）

第50号住居址土層註

- 1層 暗褐色砂泥（小礫を若干含み、泥土が多く、少量の焼土が入っている。）
- 2層 暗褐色砂泥（小礫の混入が数倍ぐらいに増え、焼土、炭化物も増加してある。）
- 3層 暗茶褐色砂泥（少礫は2層に比べ増えており、焼土、炭化物のブロック、土器などが見られる。）
- 4層 暗茶褐色砂泥（少礫は依然として増え、砂礫層に近くなっており、焼土、炭化物は細かくなり、増えている。）
- 5層 暗褐色砂泥（若干の焼土を含んでおり、小礫も多少混じり、砂を中心としている層、ローム粒子が多少多い。）
- 6層 暗褐色砂泥（少量の焼土と炭化物に、多少大型の小礫を含んだ層である。）
- 7層 暗黄褐色砂泥（地山の崩壊土と思われ、ローム粒、泥砂を中心とした密な層。）
- 8層 暗茶褐色砂泥（焼土、炭化物粒が多く、若干の粘土を含む。）

明度 7 > 6 > 4 > 3 > 5 > 2 > 1 > 8

- 3層 暗褐色砂泥（多量の焼土塊を含み、小礫は余り含まず、砂泥が増加する。）
  - 4層 暗黄褐色砂泥（小礫、炭化物、焼土などは2層より減るが、砂泥が増加し、密な層になる。）
  - 5層 暗黄褐色砂泥（小礫は殆んど含まず、砂泥を中心に、若干の焼土粒が混入する。）
  - 6層 暗黄褐色砂泥（4層より若干ローム粒子が減り、明度も落ちる。小礫、焼土、炭化物は含まず、砂泥、ロームを中心としている。）
  - 7層 暗黄褐色砂泥（多量のローム粒を含み、明度の高い層である。焼土、炭化物は余り含まない。）
- 明度 7 > 6 > 4 > 5 > 3 > 2 > 1

#### 第56号住居址土層註

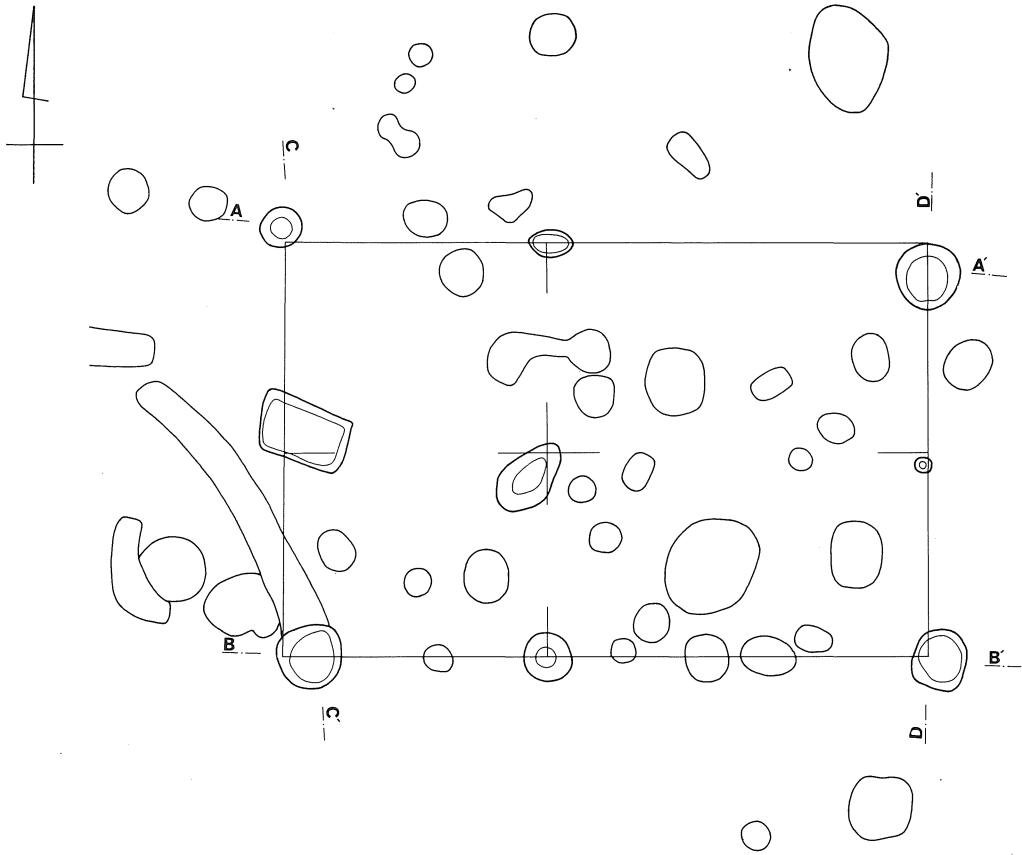
- 1層 暗褐色砂泥（砂粒を含み、微量の焼土粒子を含み、地山ブロックも含む。）
- 2層 茶褐色泥土（地山の暗茶褐色ブロックを含んでいる。）
- 地山 暗茶褐色泥土（粘性強く、しまり良好）

#### 第57号住居址土層註

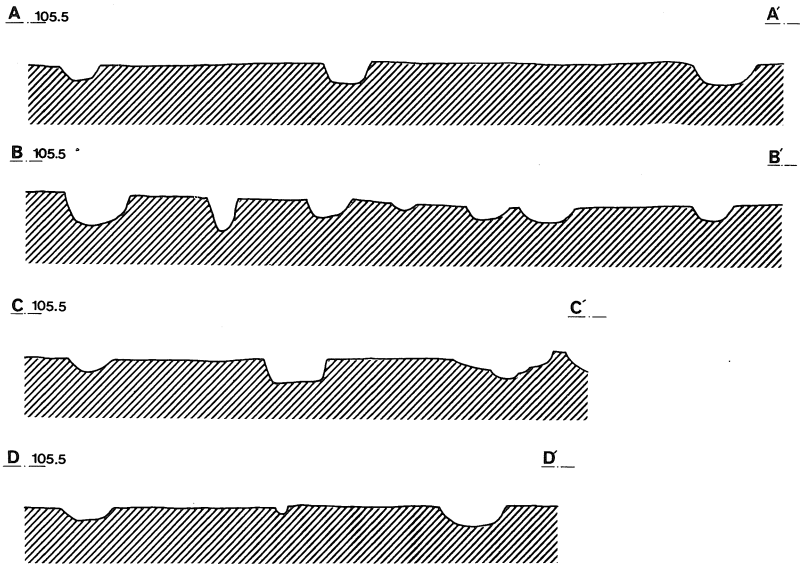
- 1層 暗褐色砂泥（1～1.5cm前後の小礫を含む。）
  - 2層 暗褐色砂泥（1層に比べ小礫の量が少なく、大きさも1cm前後となる。）
  - 3層 暗褐色砂泥（2層に比べ、小礫の量が少なく、大きさも小さくなる。）
  - 4層 暗茶褐色砂泥（小礫の量が最も少なく、他の層に比べ砂が少なく泥が多い。）
- 明度 1 > 2 > 3 > 4



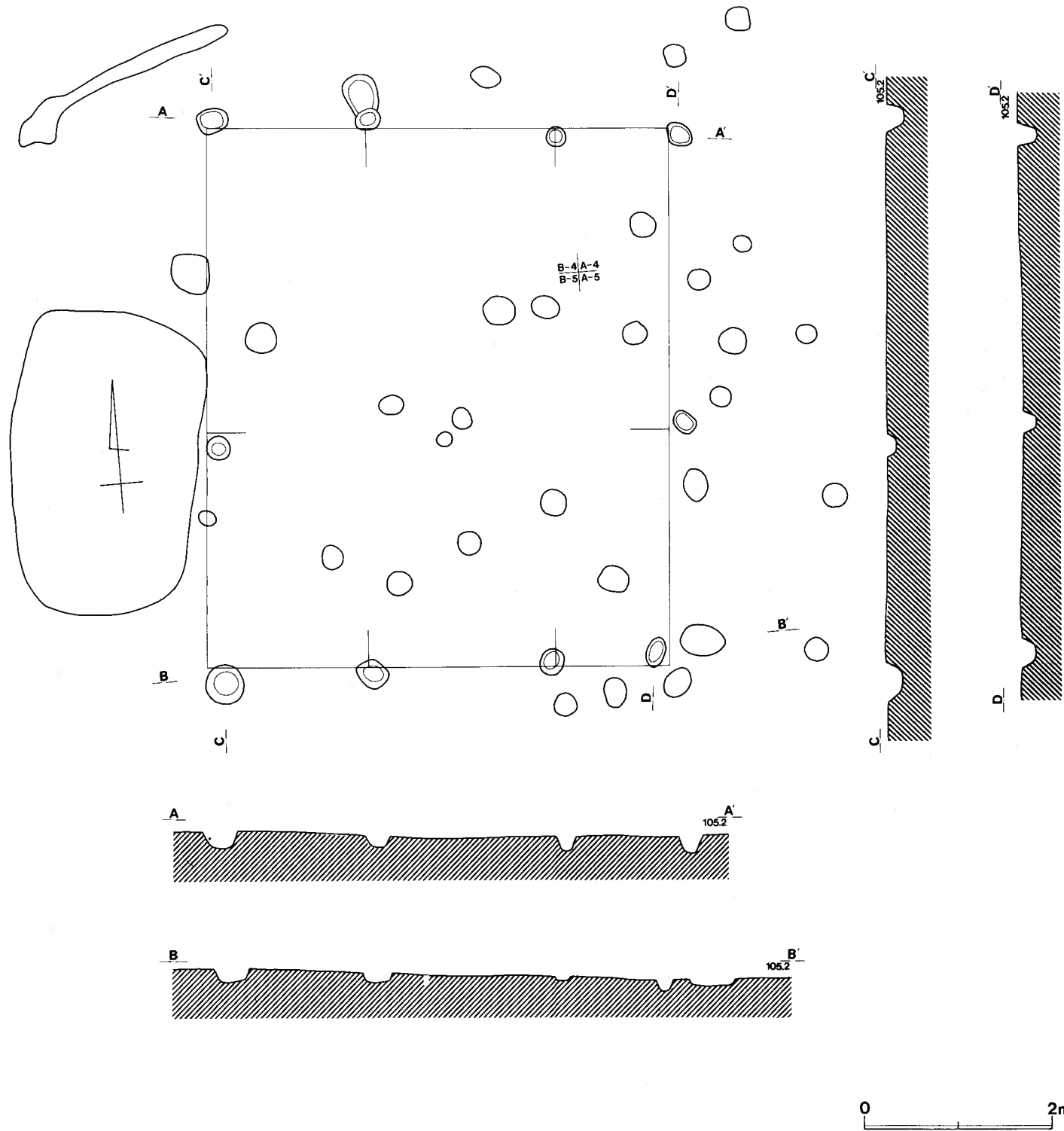




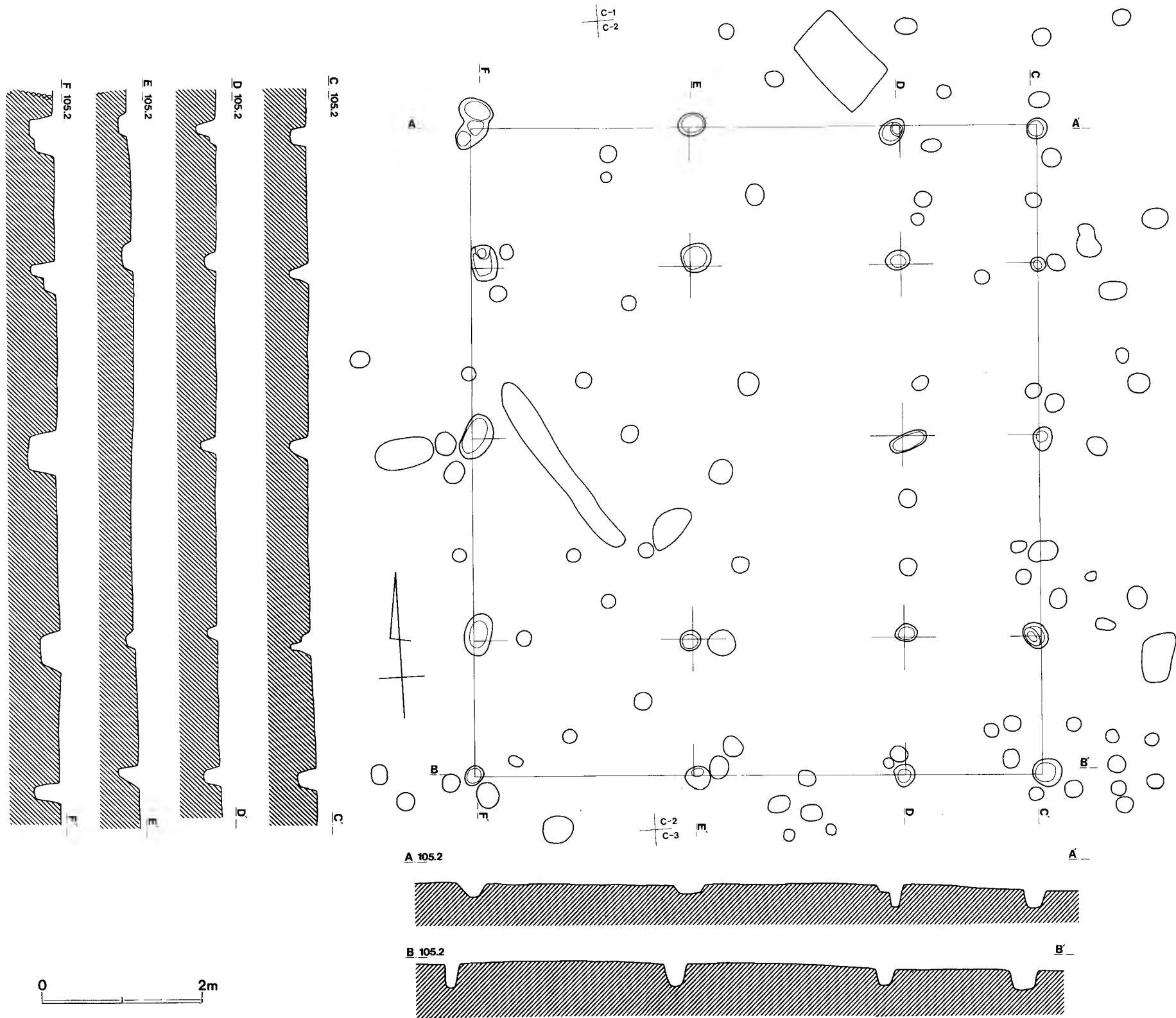
B-7/A-7  
B-8/A-8



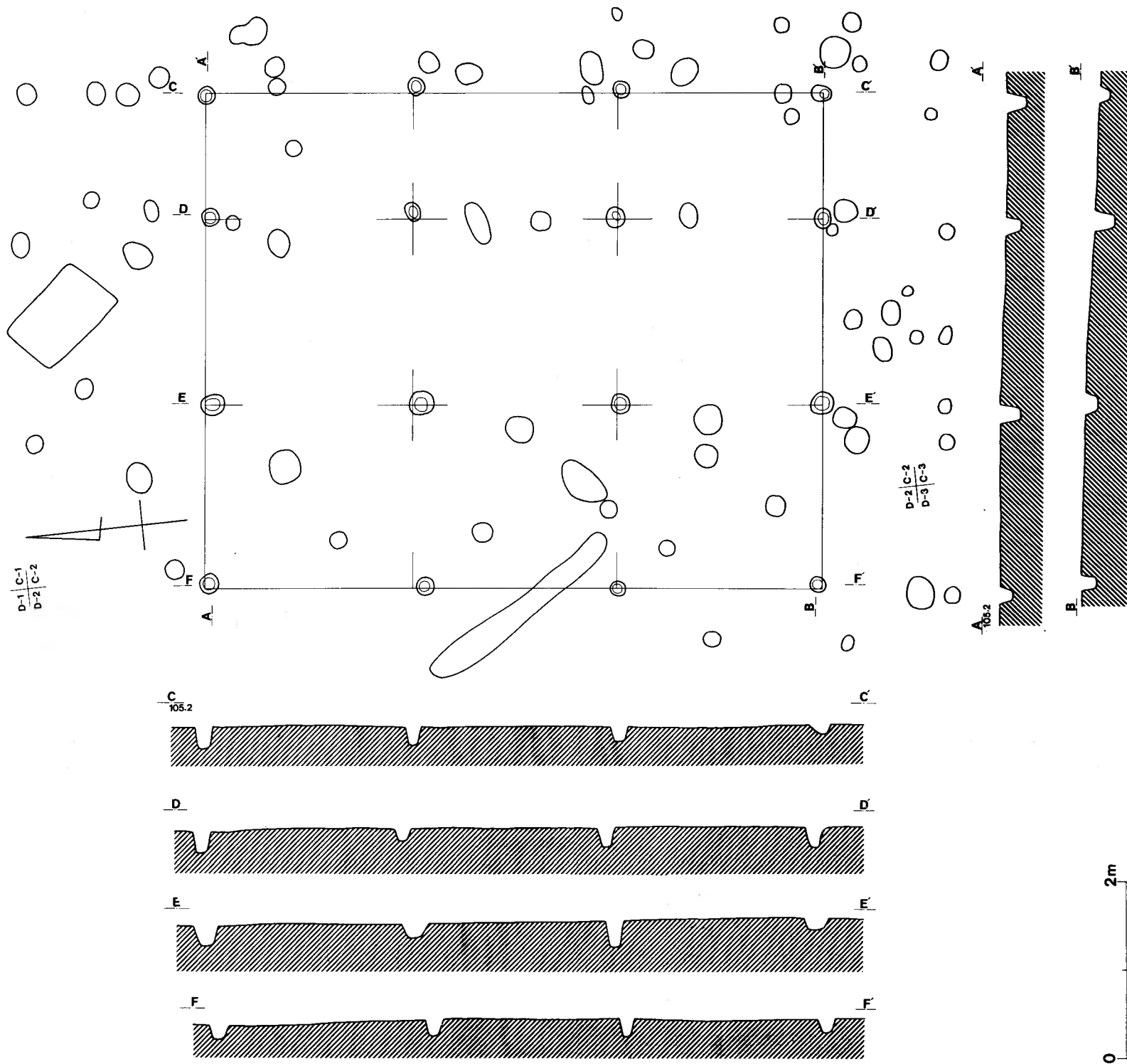
第112图 第1号掘立柱建物址



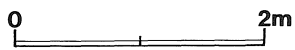
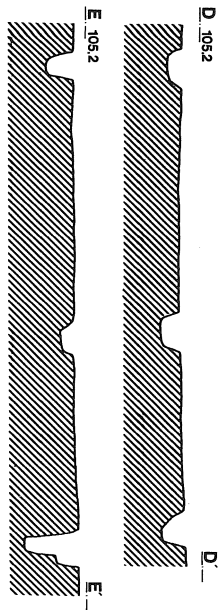
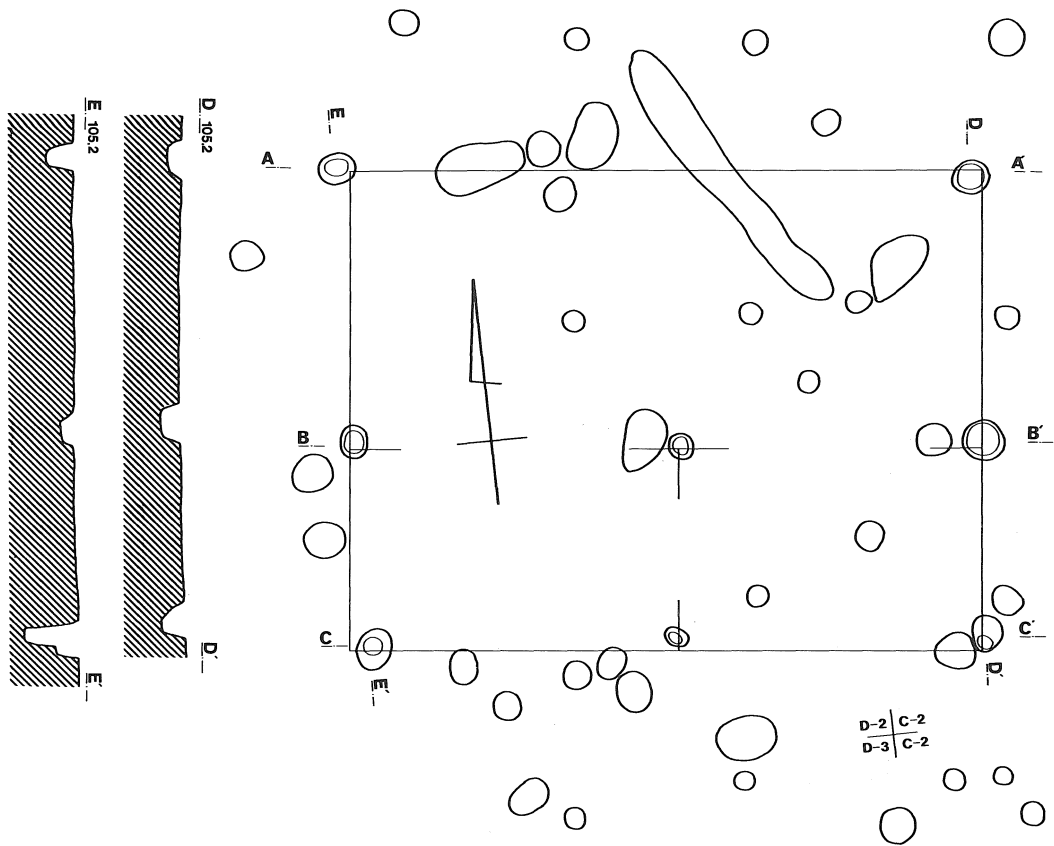
第113图 第2号掘立柱建物址



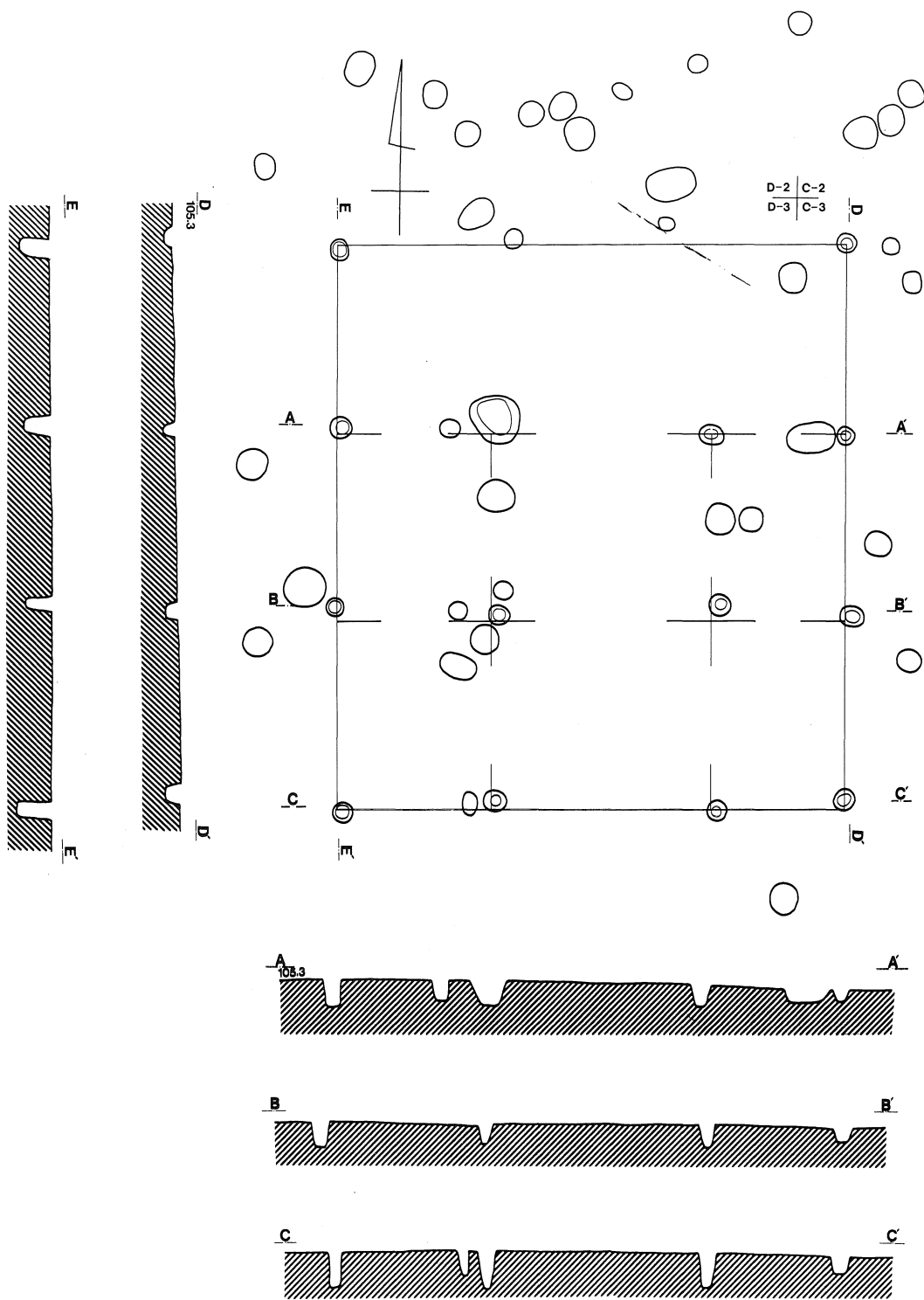
第114图 第3号掘立柱建物址



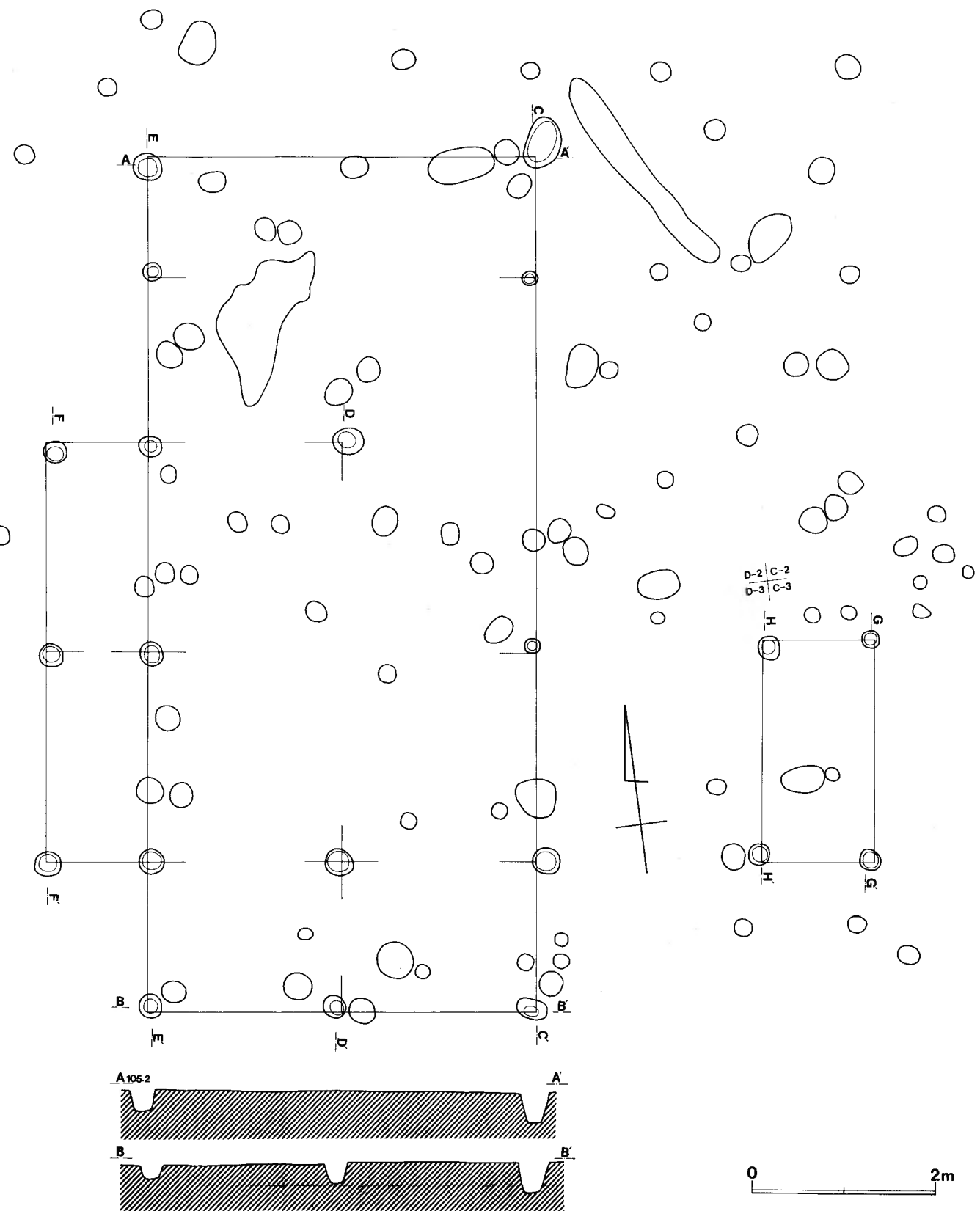
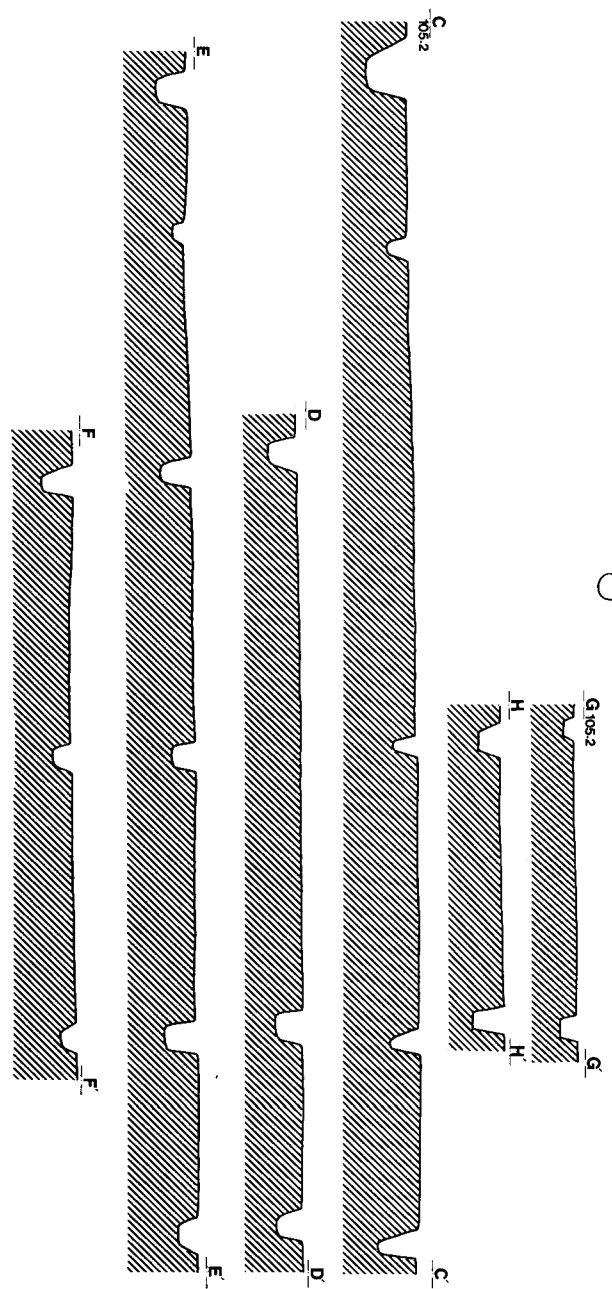
第115图 第4号掘立柱建物址



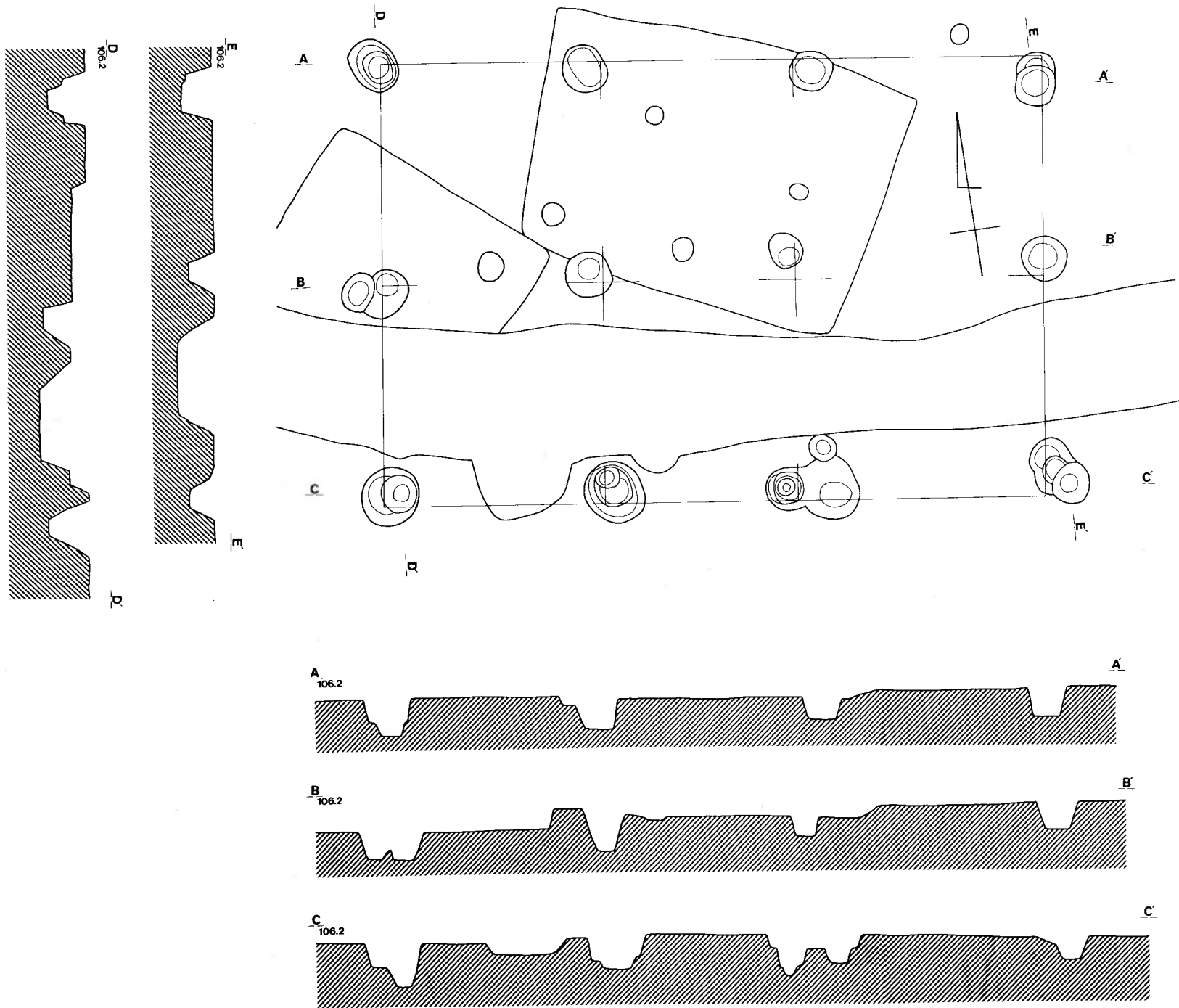
第116图 第5号掘立柱建物址



第117图 第6号掘立柱建物址

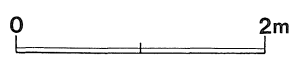
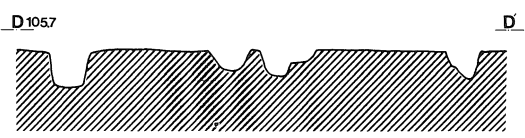
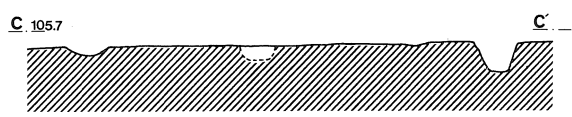
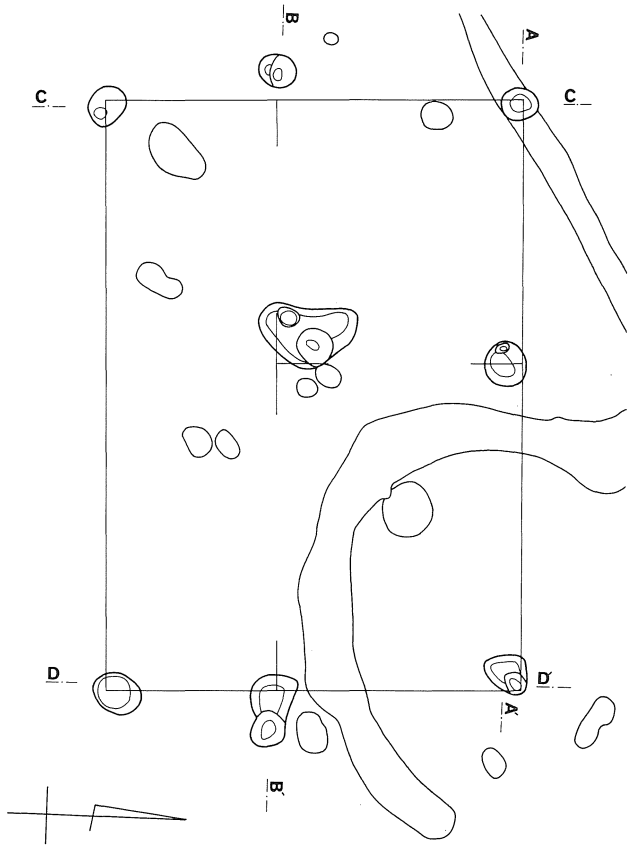
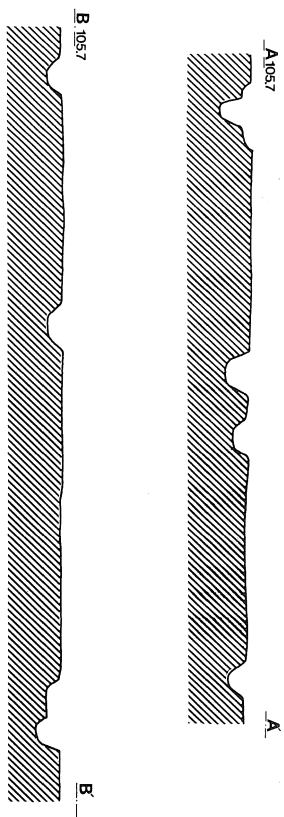


第118图 第7、8号掘立柱建物址

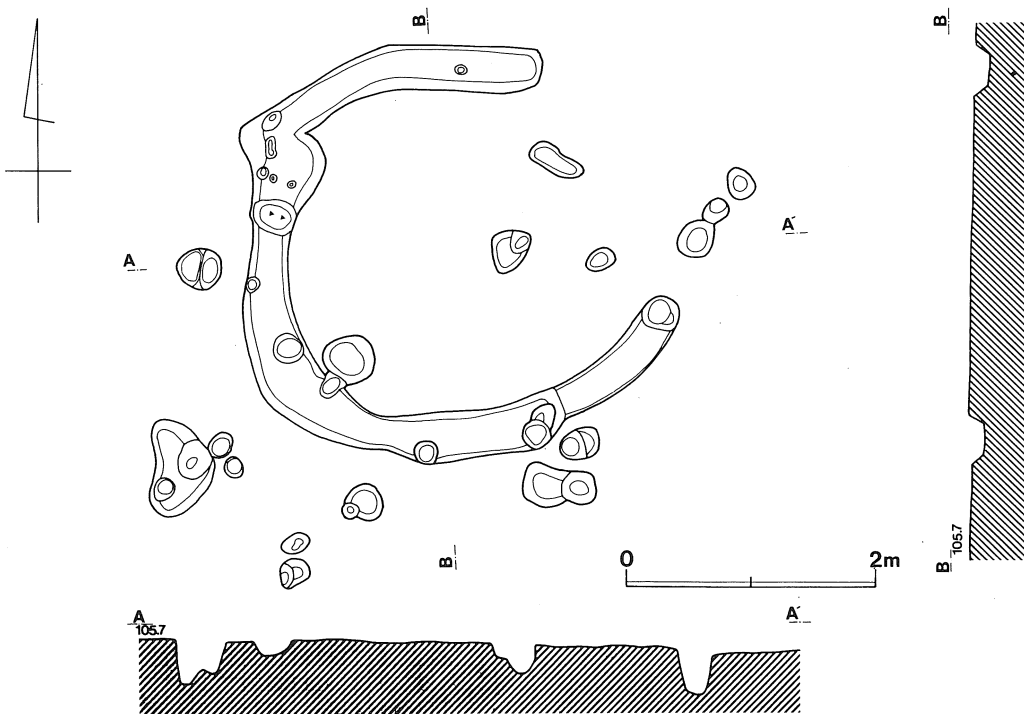
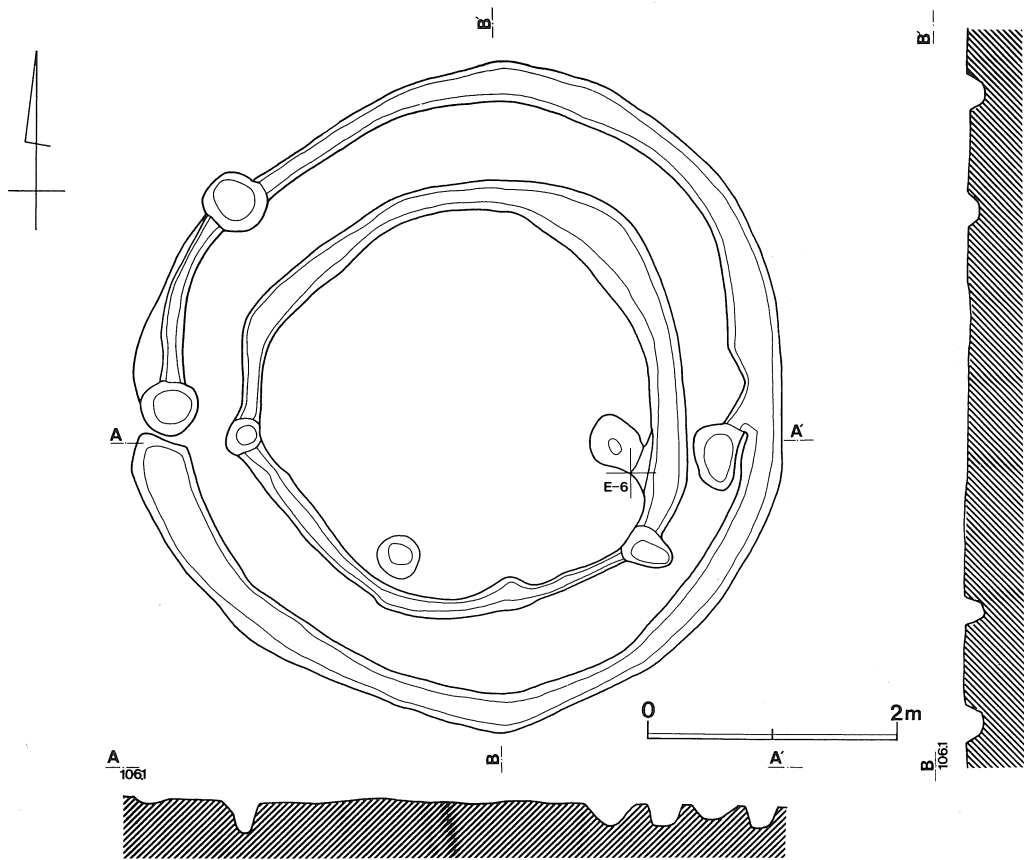


第119图 第10号掘立柱建物址

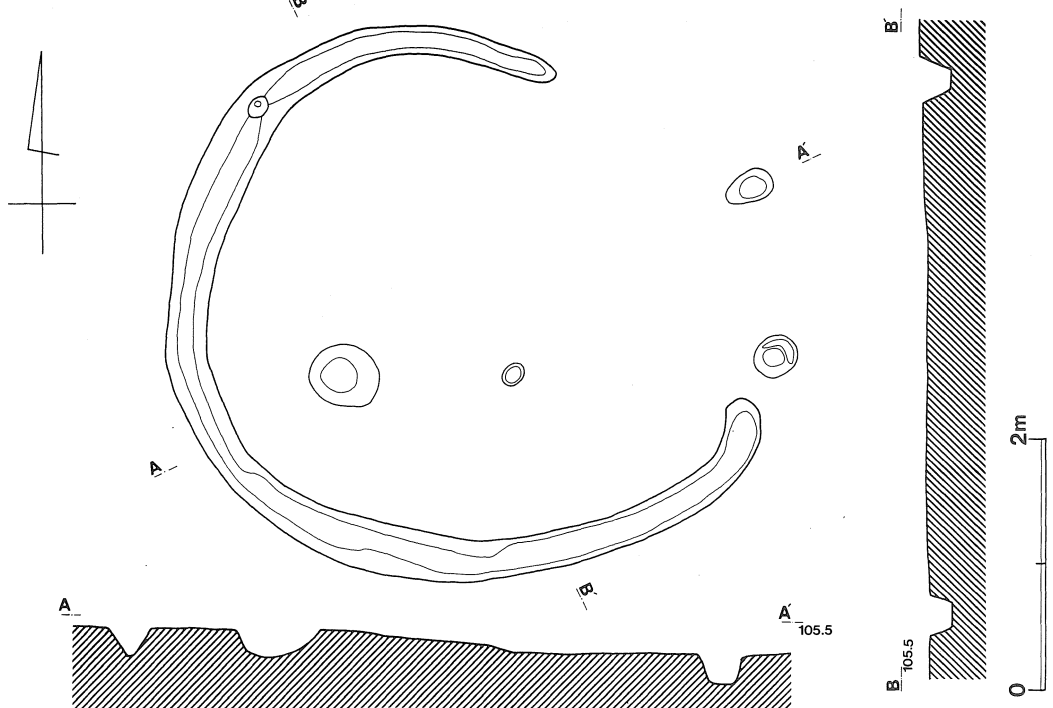
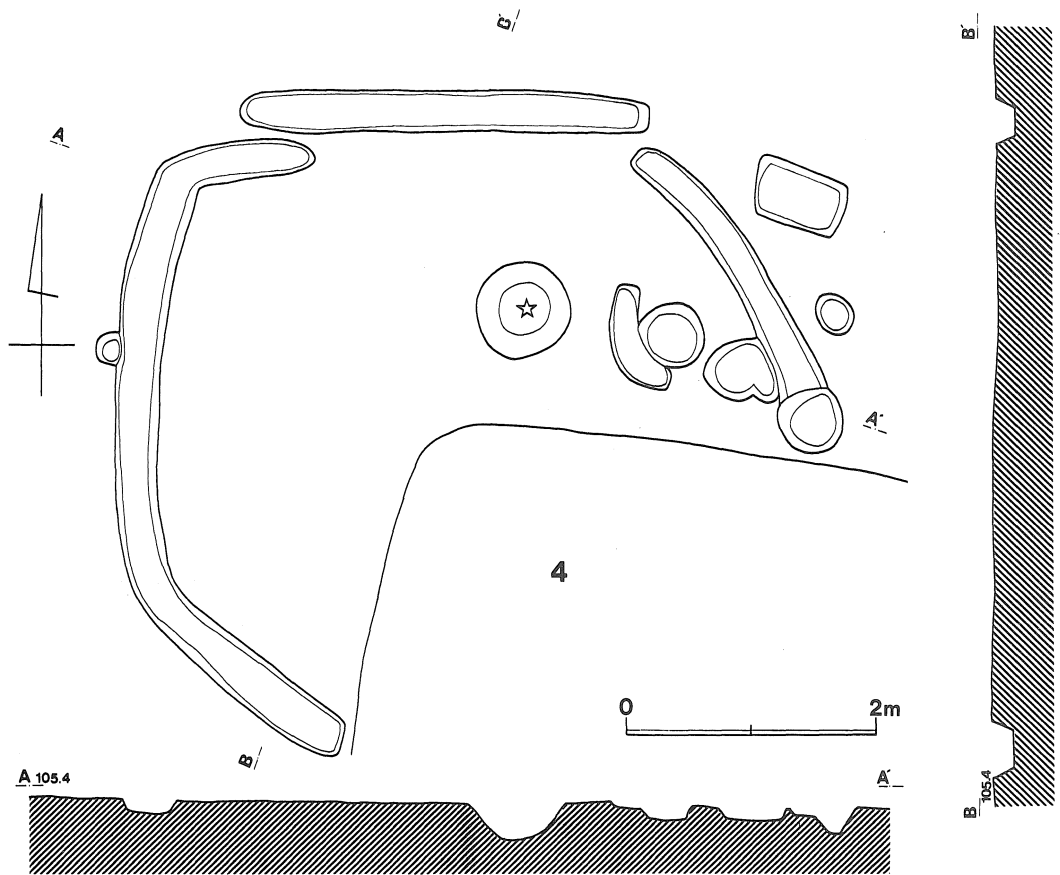




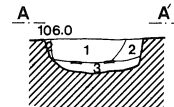
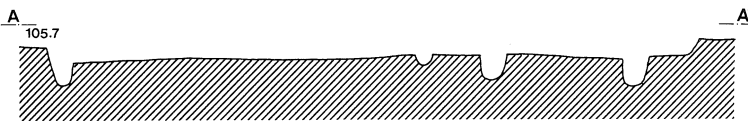
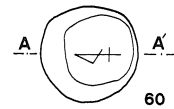
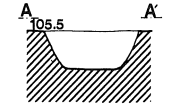
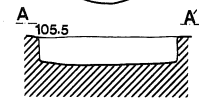
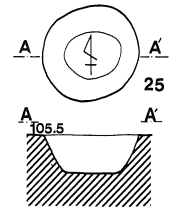
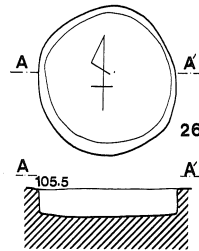
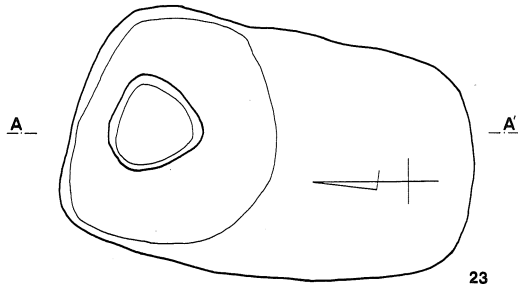
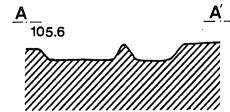
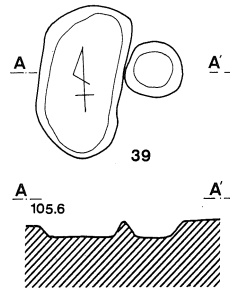
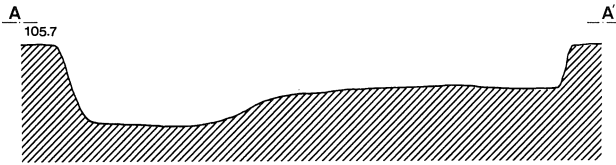
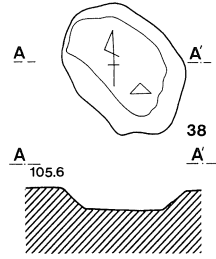
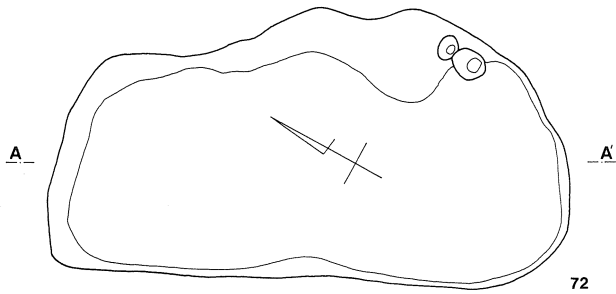
第120图 第11号掘立柱建物址



第121図 上、第3円形特殊遺構  
下、第1円形特殊遺構  
- 117 -

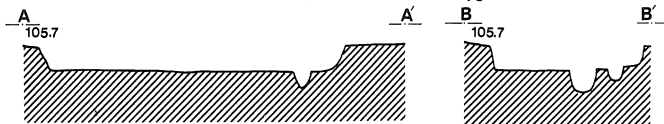
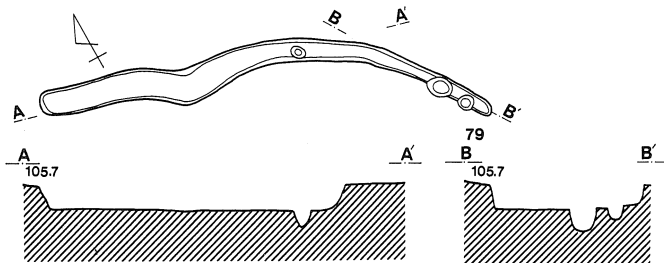
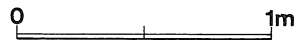


第122図 上、第4円形特殊遺構  
下、第2円形特殊遺構

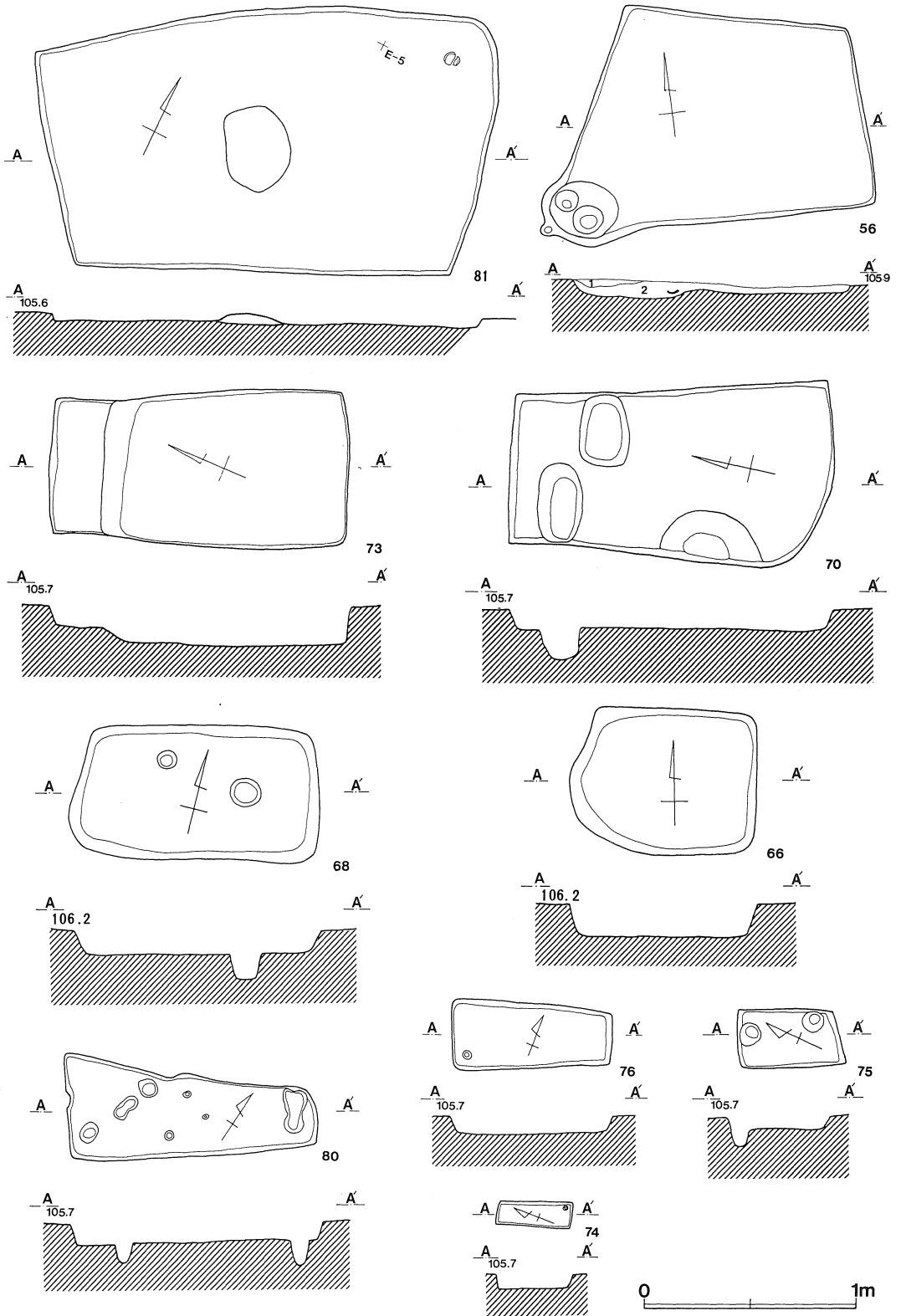


第60号土坑土層註

- 1層 黒褐色泥砂層（焼土粒子を少量含む。）
- 2層 黒褐色泥砂層（1層より褐色で焼土粒子を少量含む。）
- 3層 黒色砂泥層（焼土粒子、ブロック、小礫を含む。）



第123図 土坑

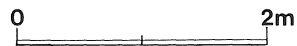
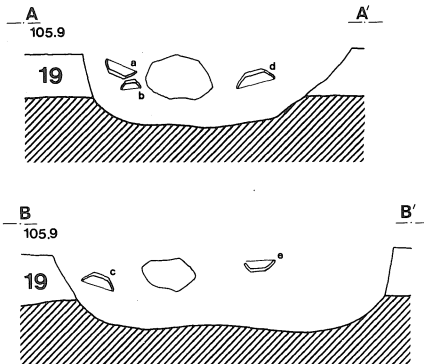
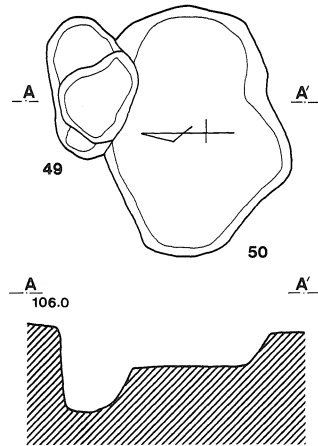
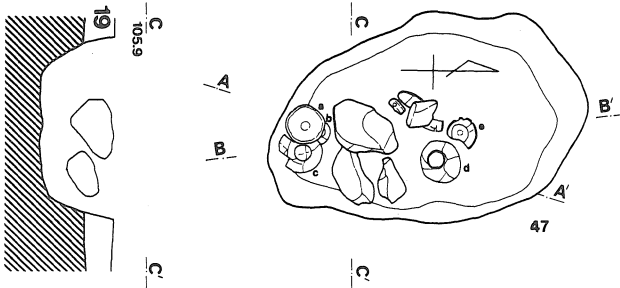
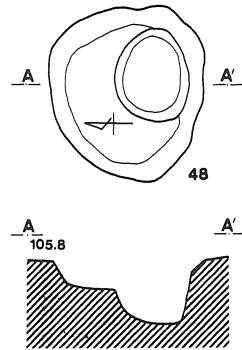
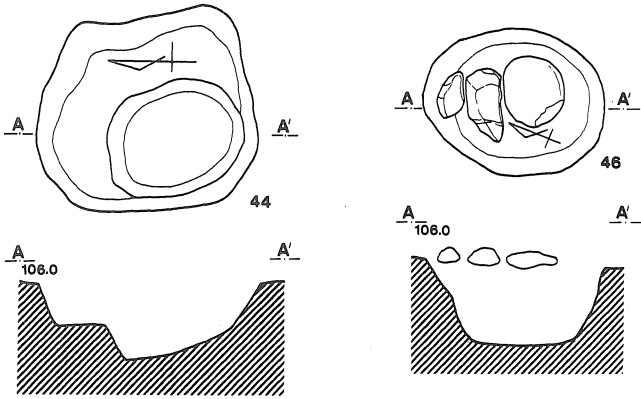
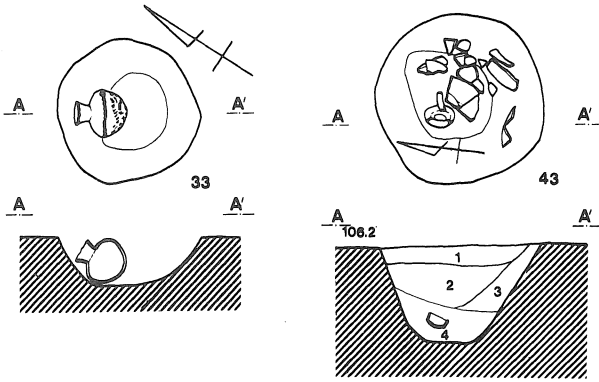
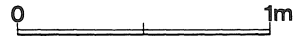


第124图 土坑

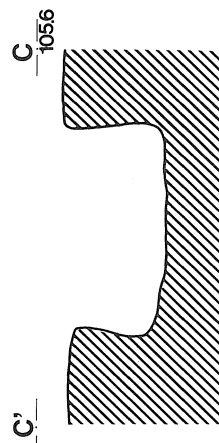
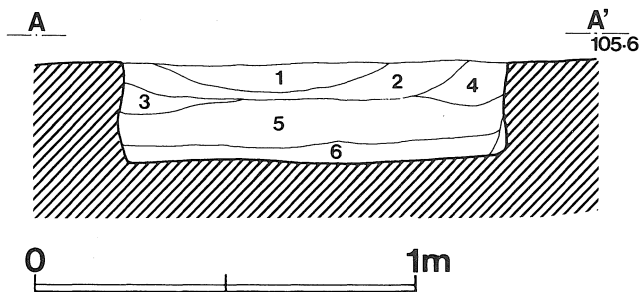
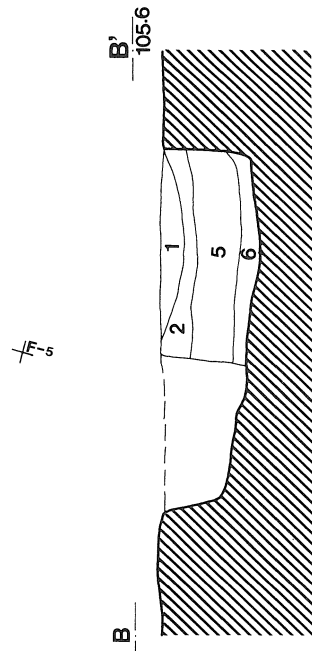
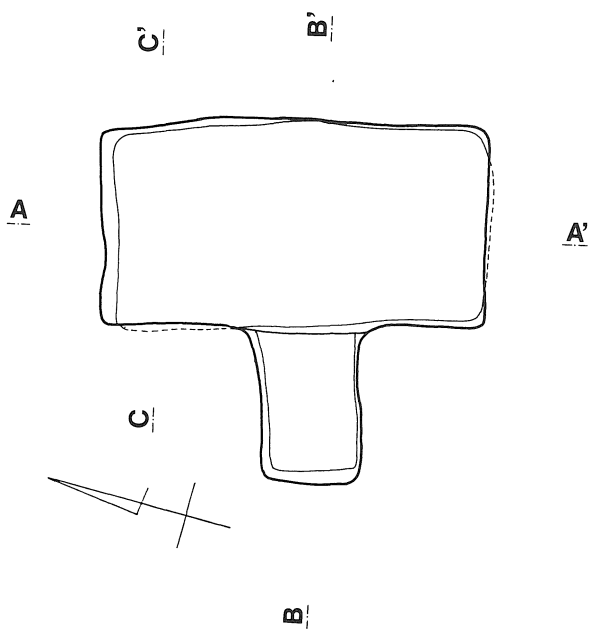
第43号土坑土層註

- 1層 暗褐色砂泥（1～2mm程の礫粒子を主体とする。粘性はない。）
- 2層 暗褐色砂泥（0.6～1.0mm程の礫粒子を含む。焼土粒が若干見られる。）
- 3層 黒褐色砂泥（粘性は強く、炭化物、焼土共に若干含む。遺物を含む。）
- 4層 暗黄褐色砂泥（炭化物、焼土共に多く含む。遺物も含む。）

明度 3 > 1 > 2 > 4



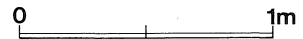
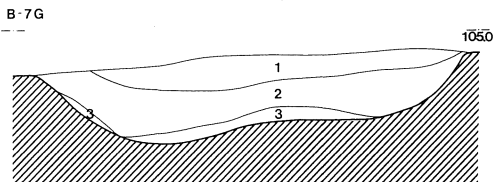
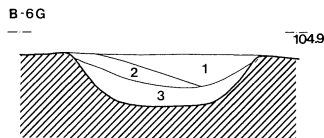
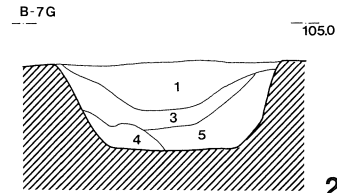
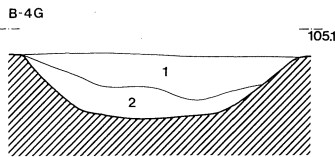
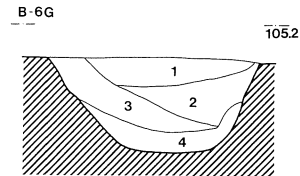
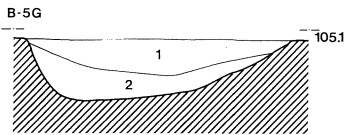
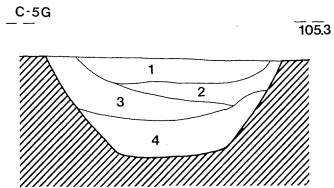
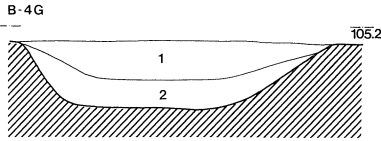
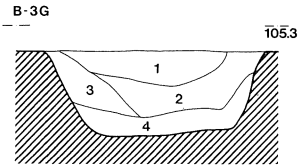
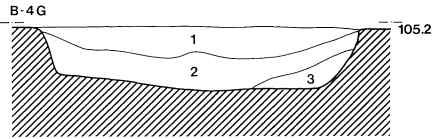
第125図 土坑



第126図 第31号土坑

第31号土坑土層註

- 1層 暗褐色砂泥（微量の焼土粒子を含み、やや粘性あり。）
- 2層 暗褐色砂泥（5mm程の小礫を含むがやや粘性強い。）
- 3層 褐色泥砂（2～5mm程の砂礫を多く含む。）
- 4層 暗褐色泥砂（3層に類似するがやや暗い。）
- 5層 暗褐色泥土（少量の焼土粒、炭化物を含む。）
- 6号 黒褐色泥土（骨粉、炭化物を多量に含む。）

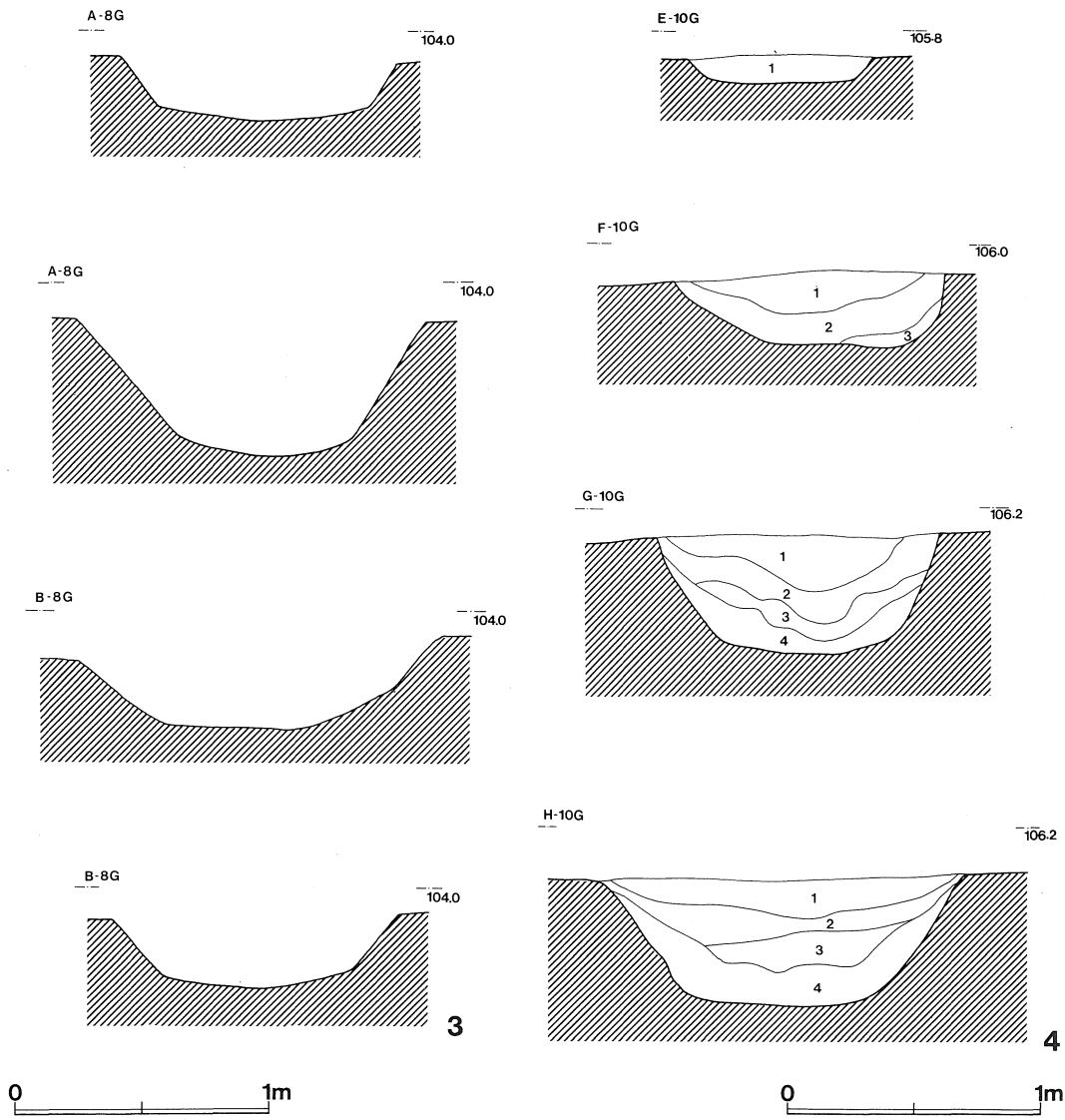


第2号溝土層註

- 1層 暗褐色土層（粘土を含み、堅緻。）
  - 2層 黒褐色土層（焼土、砂粒を含む層。）
  - 3層 黒褐色土層（焼土が少なく、2層より砂質である。）
  - 4層 暗褐色土層（地山ブロックを多量に含み、焼土粒を微量含む。粘性強し。）
  - 5層 黒褐色土層（4層と同様のブロックを含み、又、砂粒を多く含む。）
- 明度 2 > 3 > 5 > 1 > 4

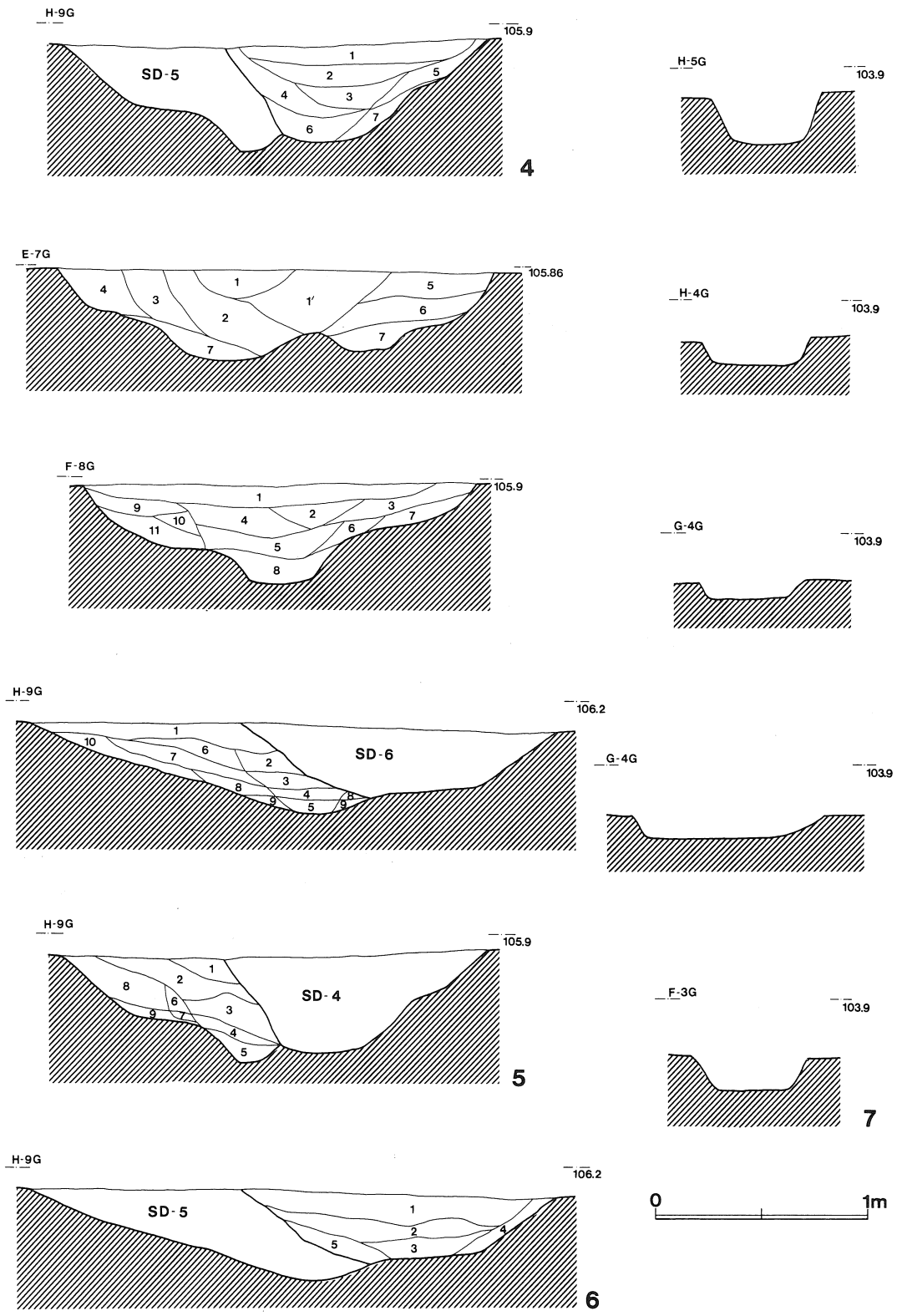
第127図 第1、2号溝





第4号溝（H-10G）土層註

- 1層 暗褐色泥土（2層より明るい、白色微粒子混入、炭化物、赤色微粒子混入。）
- 2層 暗褐色泥土（1層より暗い。炭化物、赤色微粒子混入。）
- 3層 黒褐色泥土（比較的粘性に富む。炭化物、赤色微粒子混入。）
- 4層 暗褐色泥土（他のどの層よりも明るい。地山がブロック状に混入、炭化物を含む。）



第129図 第4、5、6、7号溝

第4、5号溝交点(H-9G)-4号溝土層註

- 1層 暗茶褐色砂泥(微量の焼土、炭化物を含み、0.2~0.5cm大の小礫を少量含む。)
- 2層 黒褐色砂泥(微量の焼土、炭化物粒子を含み、1層より粒子が細かく、小礫が少ない。)
- 3層 黒褐色泥土(焼土等をほとんど含まず、まれに小礫を含む。)
- 4層 暗褐色泥土(少量の小礫、微砂を含み、3層より粒子は粗いが、粘性が強い。)
- 5層 暗褐色泥土(地山Aを含み、均質で緻密である。4層より明るい。)
- 6層 黒褐色泥土(地山B粒子を含み粘性に富み、少量の微砂を含む。)
- 7層 褐色泥砂(地山Bブロックを多量に含み、少量の灰色砂粒も含む。)

第5号溝(E-7G)土層註

- 1層 暗褐色砂泥(1cm程の礫を均一に含む。)
- 1'層 暗褐色砂泥(0.5cm程の礫を均一に含む。1層より礫が小さく密で、焼土粒も含む。)
- 2層 暗褐色砂泥(0.5cm程度の礫を均一に含むが、1、2層より粗で、炭化物を多く含む。)
- 3層 暗褐色砂泥(0.3~0.5cm程の礫を均一に含むが、微量である。)
- 4層 暗褐色砂泥(0.3cm程の礫を均一に含み、地山ブロック、焼土も認められる。粘性は強い。)
- 5層 暗褐色砂泥(4層と類似している。)
- 6層 暗褐色砂泥(1cm程の礫を均一に含み、5層より密で、暗い。)
- 7層 暗褐色砂礫(0.5~1.5cm程の礫を多量に含む。)

第5号溝(F-8G)土層註

- 1層 暗褐色砂泥(2~5mm大の小礫を少量含み、比較的均質である。)
  - 2層 黒褐色砂泥(1、3、4の各層と比較して、礫が少なく、少量の焼土粒を含む。)
  - 3層 暗茶褐色砂泥(0.1~1cm大の礫を含む。その他の粒子は1層より細かい。)
  - 4層 暗茶褐色砂泥(3層に類似するが、やや黒い色を呈す。)
  - 5層 黒褐色泥砂(礫は少なく、砂、微砂を主体とする。土器片を含む。)
  - 6層 暗褐色砂泥(5層より礫が多く、しまっていて、均質である。)
  - 7層 褐色泥砂(地山土を多く含む。又、灰白色砂礫も多く含む。)
  - 8層 暗褐色砂礫(0.1~0.5cmの砂粒、及び1~3cmの小礫を多量に含む。)
  - 9層 暗褐色砂泥(礫をほとんど含まず、微砂と泥土によって構成され、均質で緻密である。)
  - 10層 黒褐色砂泥(9層に類似するが、きわだって黒い。)
  - 11層 黒褐色泥砂(0.5~1cm大の小礫を多く含む。)
- 地山 暗褐色砂泥
- 明度 2 > 10 > 11 > 5 > 4 > 3 > 9 > 8 > 7 > 地山

第5、6号溝交点(H-9G)-5号溝土層註

- 1層 暗褐色砂泥(微量の焼土粒子、炭化物粒子を含み、均質である。)
  - 2層 暗茶褐色砂泥(1層より砂粒、炭化物、焼土ともに多く、しまっている。)
  - 3層 暗茶褐色泥砂(0.3~0.5cm大の砂粒を含み、焼土炭化物を含む。)
  - 4層 暗茶褐色泥砂(上層に比して礫が少なく、黄褐色砂で主に構成される。)
  - 5層 暗茶褐色泥砂(4層に比して、砂粒が細かく、その割合が多い。)
  - 6層 暗褐色砂泥(1層に類似するが、地山土の割合が多く、やや明るい。)
  - 7層 暗褐色泥砂(6層に類似するが、地山土の割合が多く、やや明るい。また砂粒も多い。)
  - 8層 暗茶褐色砂礫(0.5~2cm大の礫を多く含み、少量の暗褐色泥土を含む。)
  - 9層 褐色砂礫(8層より小礫の割合多く、また黄褐色砂粒を含む。)
  - 10層 黒褐色砂泥(少量の焼土粒、地山ブロックを含む。)
- 地山A 暗茶褐色泥土(砂粒、微砂を含み、均質でしまっている。)
- 地山B 茶褐色粘土(砂粒を含むが、均質でしまっている。)

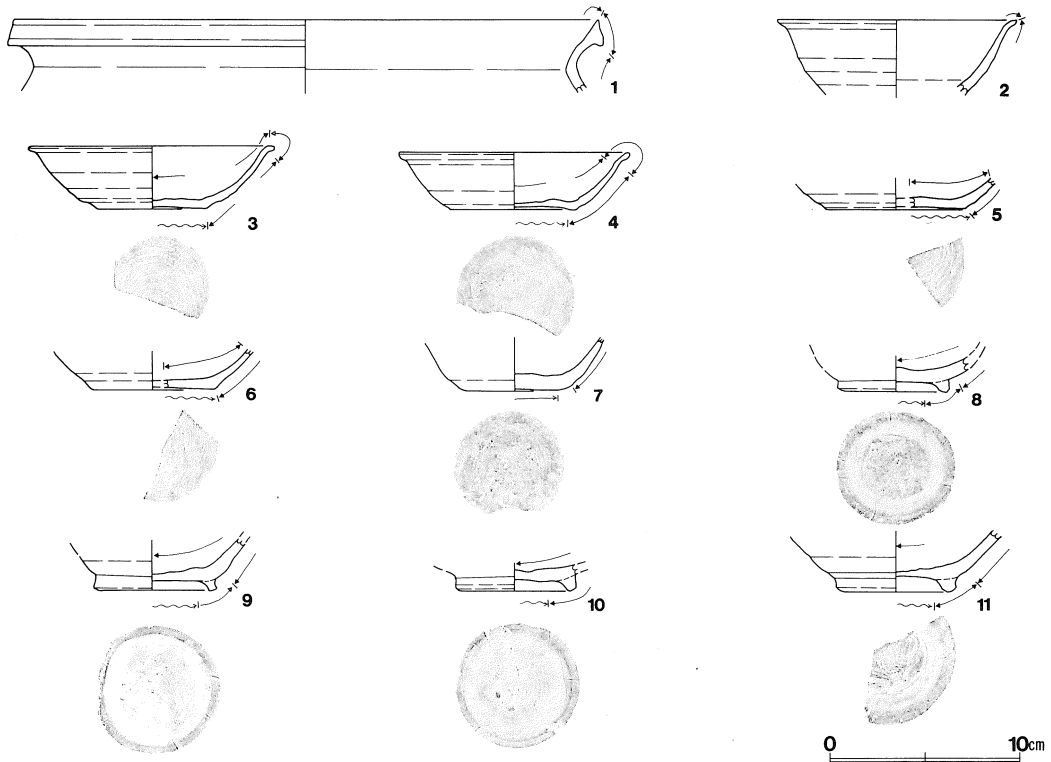
明度 8 > 10 > 5 > 1 > 4 > 3 > 6 > 7 > 2 > 9

第4、5号溝交点(H-9G)-5号溝土層註

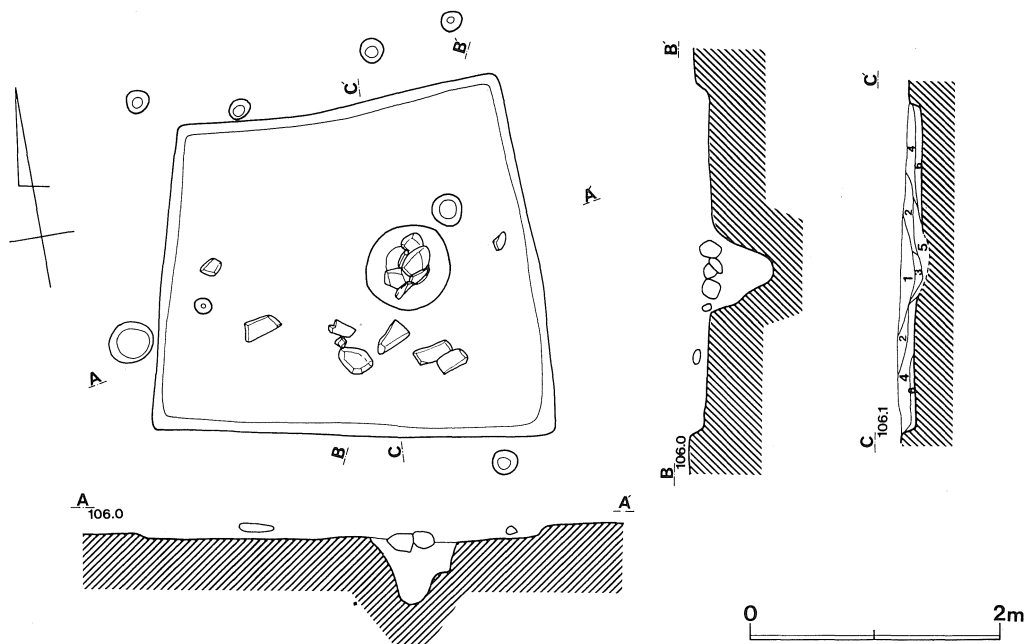
- 1層 暗褐色砂泥(微砂を中心に構成され、小礫はほとんど含んでいない。)
  - 2層 暗褐色砂泥(1層よりやや暗く0.5cm程の小礫を多く含む。又、少量の焼土粒も含む。)
  - 3層 黒褐色泥砂(0.5~1cm程の小礫を多量に含む、泥土は粘性が強い。)
  - 4層 暗褐色泥砂(砂粒が多く土器片を含む。粘性は弱い。)
  - 5層 灰褐色泥砂(4層より粒子が細かく、泥土の粘性は強い。)
  - 6層 褐色泥土(小礫を含まず均質で緻密である。)
  - 7層 褐色泥砂(小礫を含み、灰色砂粒の割合が多い。)
  - 8層 暗褐色砂泥(5mm大の小礫、及び、微砂を含み、緻密である。)
  - 9層 暗茶褐色砂泥(小礫は少なく、地山Bを多く含み、粘性は強である。)
- 明度 3 > 2 > 1 > 4 > 8 > 9 > 5 > 7 > 6

第5、6号溝交点(H-9G)-6号溝土層註

- 1層 暗褐色砂泥(少量の0.5cm大小礫を含み、均質で2号溝フク土に類似。)
- 2層 褐色砂泥(1層より粒子粗く、地山土粒子多い。)
- 3層 暗茶褐色泥土(地山粒子微砂を多く含み、硬地である。)
- 4層 茶褐色砂泥(地山土ブロック、微量の焼土粒子を含む。)
- 5層 暗茶褐色砂泥(砂粒も多く含み、微量の焼土、炭化物粒子を含む。)



第130図 第5号溝出土土器



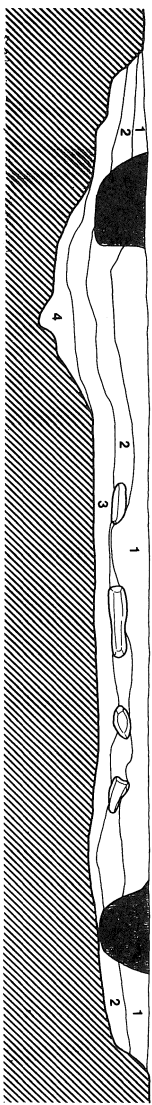
第131図 第1号集石遺構

第1号集石遺構土層註

- 1層 暗褐色砂泥（細かい砂粒を最も多く、全体に均一に含む。）
  - 2層 暗褐色砂泥（1層よりもやや明るく、0.5cm大の砂礫を多く含んでいる。）
  - 3層 黒褐色砂泥（地山よりも暗く、粘性があるが、赤色、白色の粒子を多く含む。）
  - 4層 暗褐色砂泥（1～5cm大の砂礫を多く含み、又、地山土、赤色の粒子を含む。）
  - 5層 暗褐色砂泥（3層よりもやや明るい、粘性があり、3層の土を多く含んでいる。）
  - 6層 淡褐色砂泥（微砂、及び、1cm程の小礫、白色の粒子を多く含むが、きめが細かく、粘性がある。）
- 明度 3 > 5 > 1 > 2 > 4 > 6

第2号集石遺構土層註

- 1層 暗褐色砂泥層（焼土、炭化物が点在し弱干のローム粒子と砂を中心としている。自然堆積の層である。）
  - 2層 暗黄褐色砂泥（若干の炭化物と大型のロームブロックを含み小礫が多い層である。埋土である。）
  - 3層 暗褐色砂泥層（色調は2層よりも暗くなり小礫が若干増加し、ロームブロックが混在する。）
  - 4層 暗黄褐色砂泥（小礫の混入が増加し2層よりも大型のロームブロックが混在する。）
- 明度 4 > 2 > 3 > 1



A\_105.9

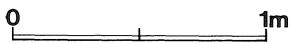
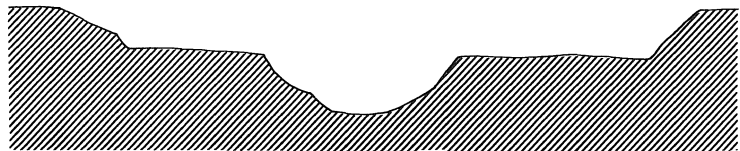
A-

+G-7

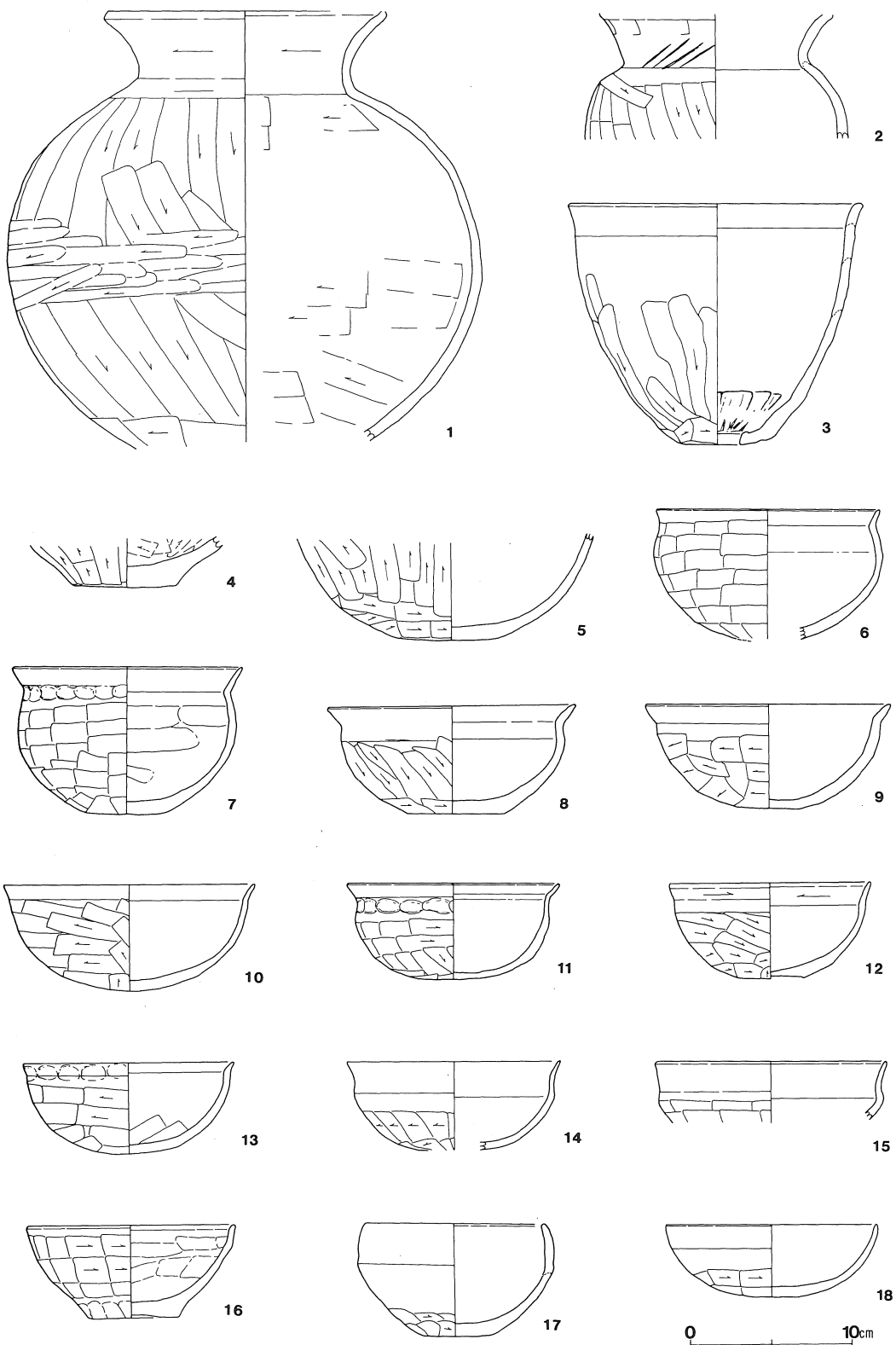


B\_105.9

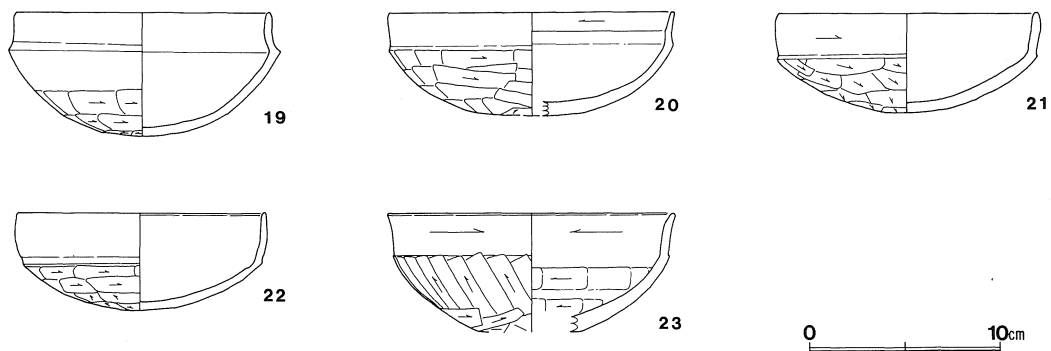
B-



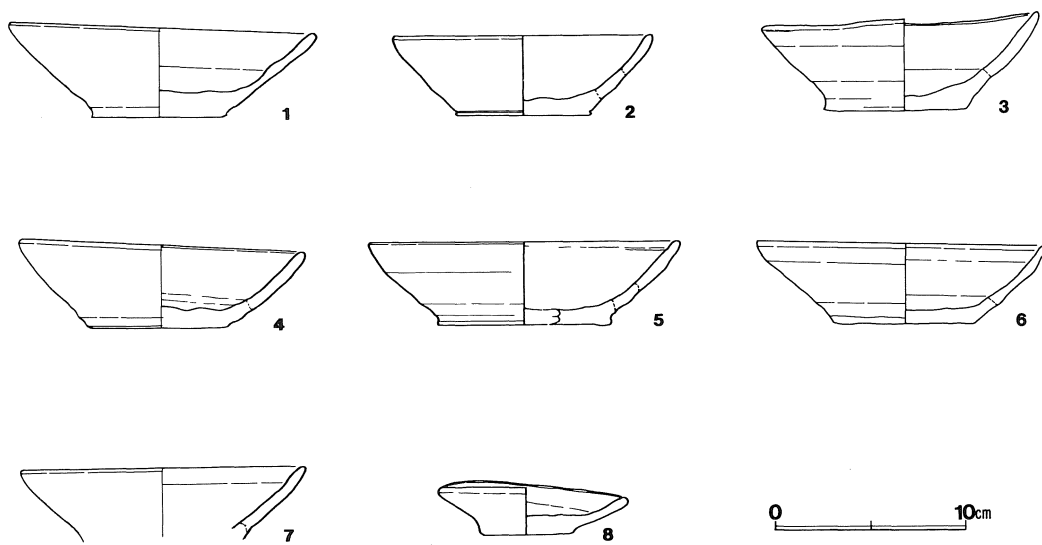
第132図 第2号集石遺構



第133図 その他の遺構出土土器

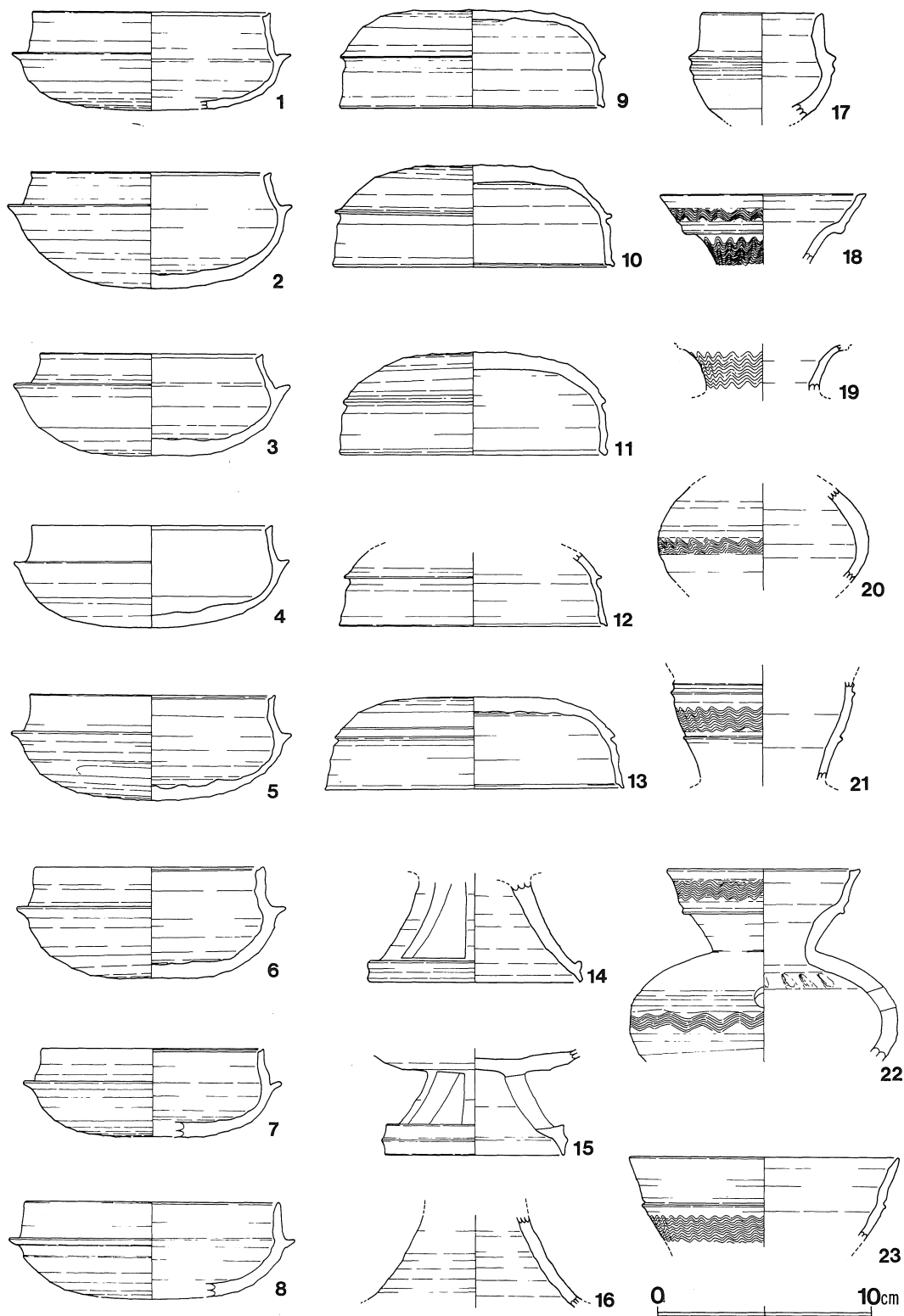


第134図 その他の遺構出土土器

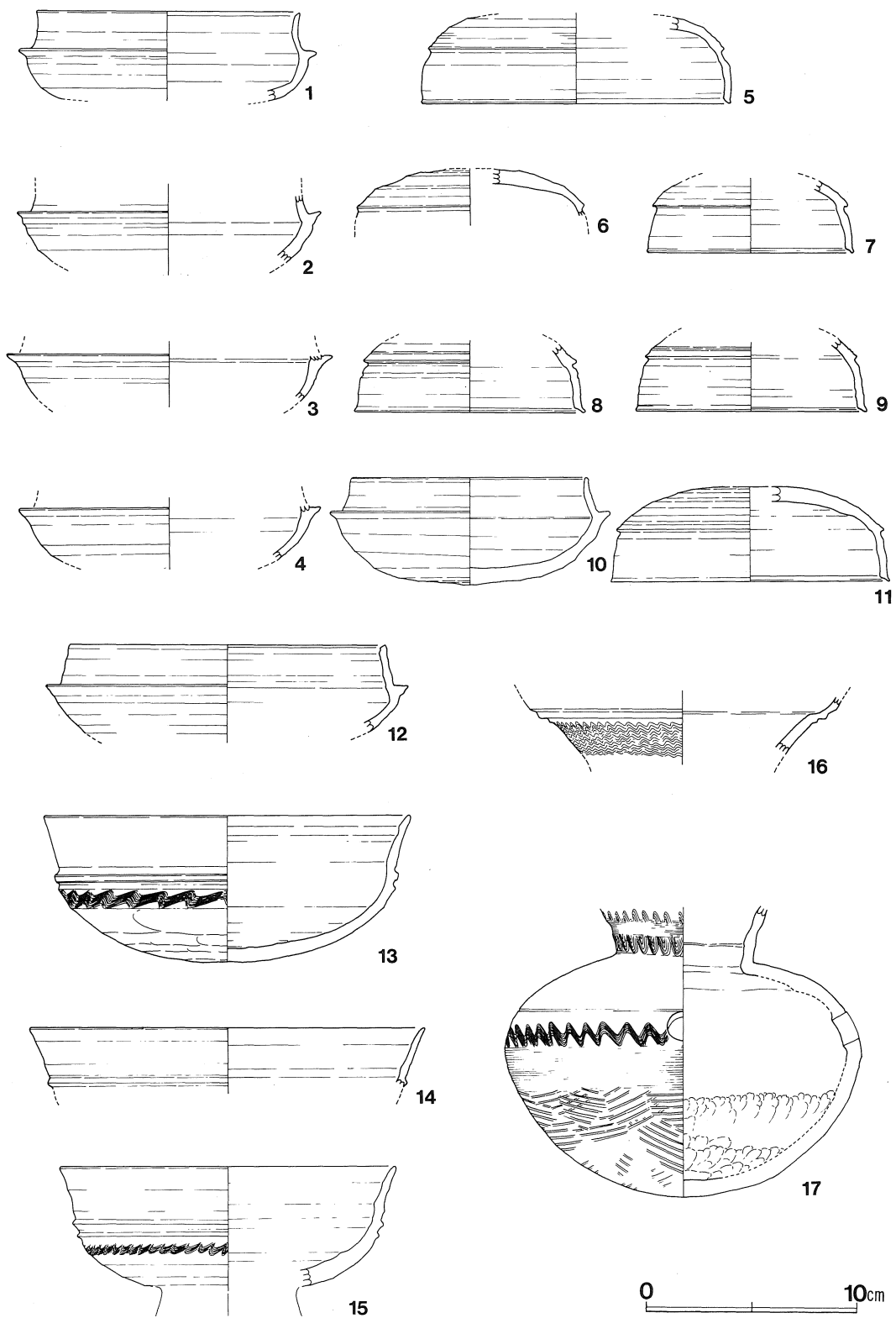


第135図 第19号住居址内土壇出土土器

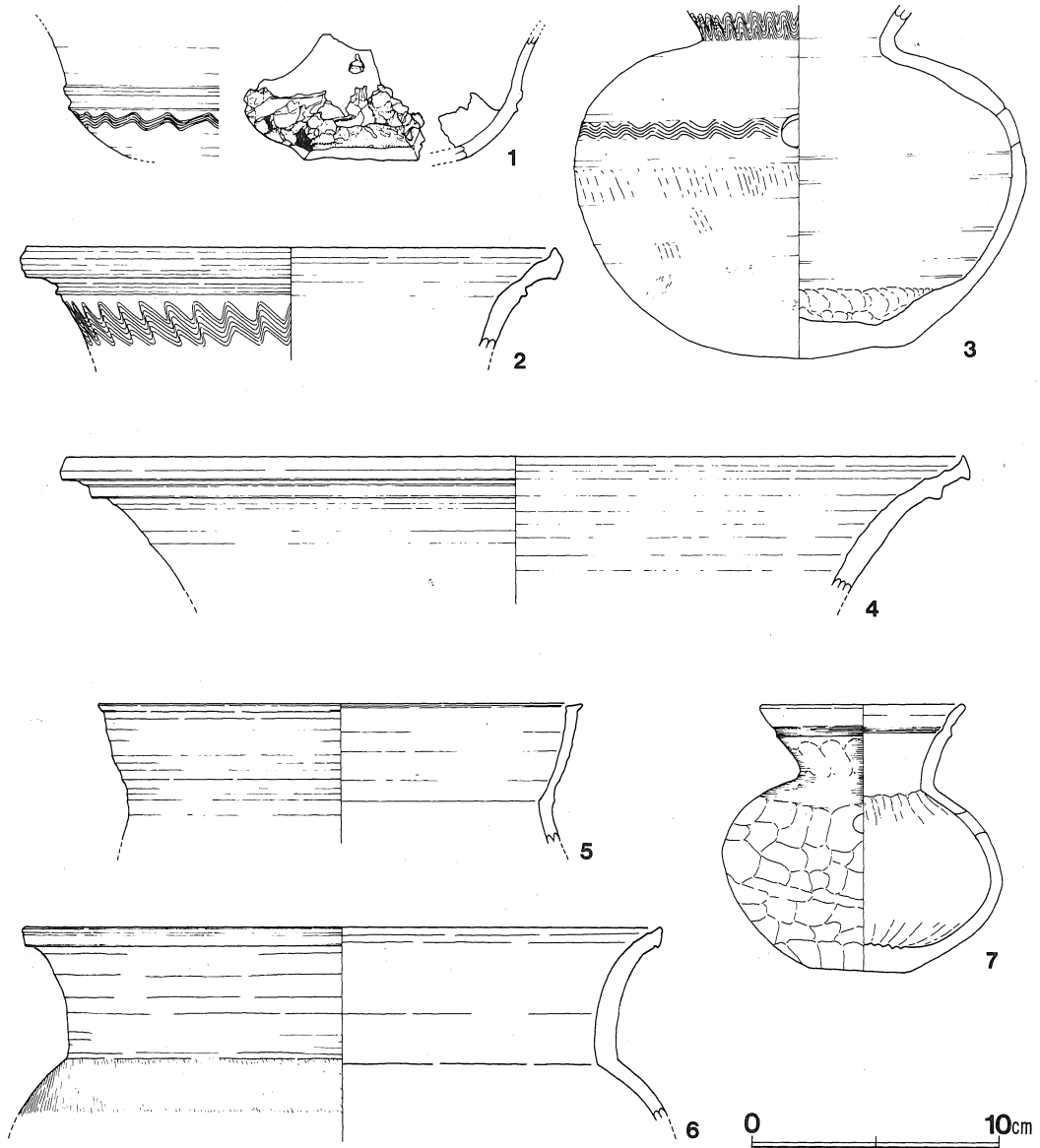




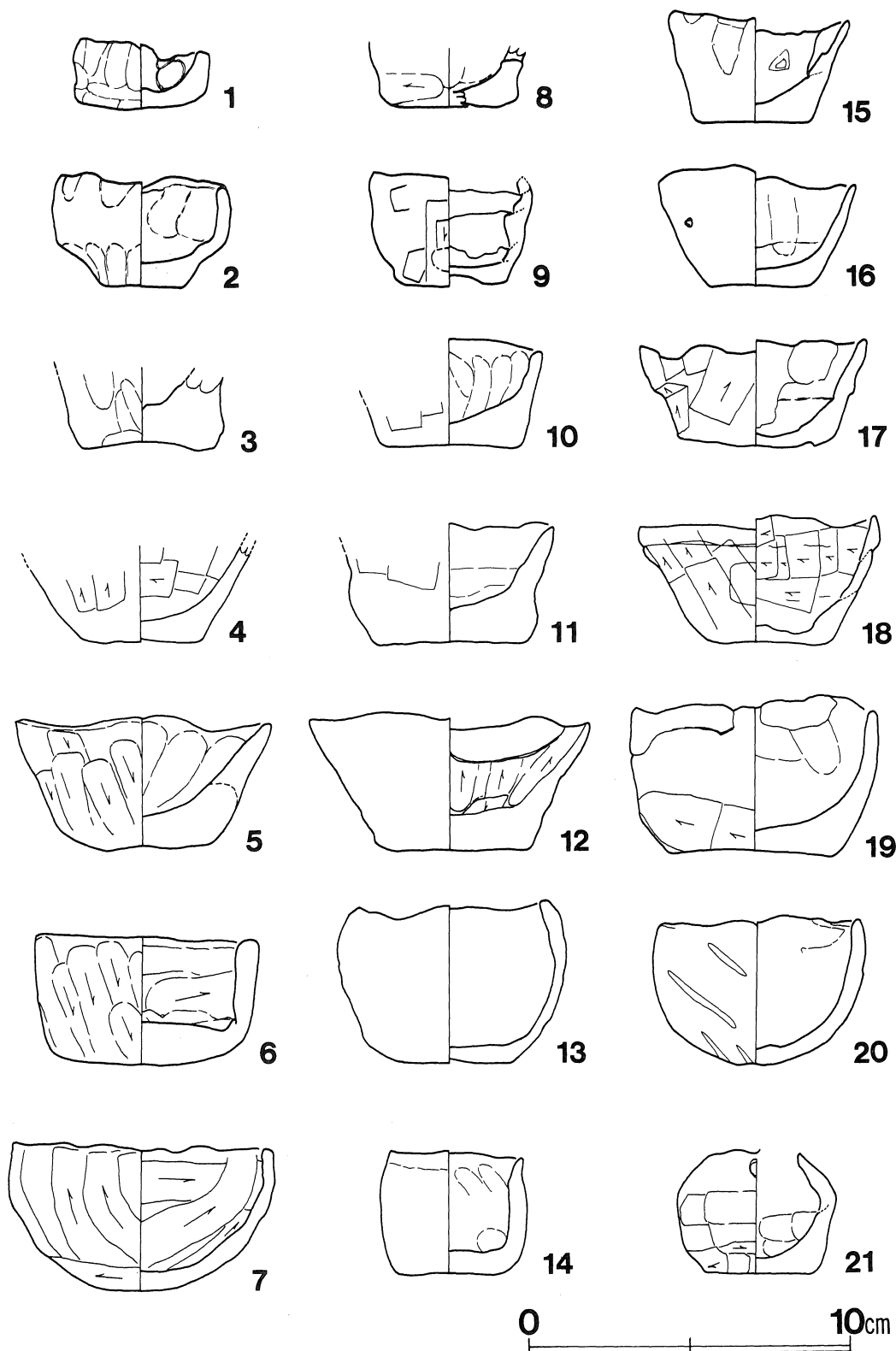
第136図 ミカド遺跡出土須恵器



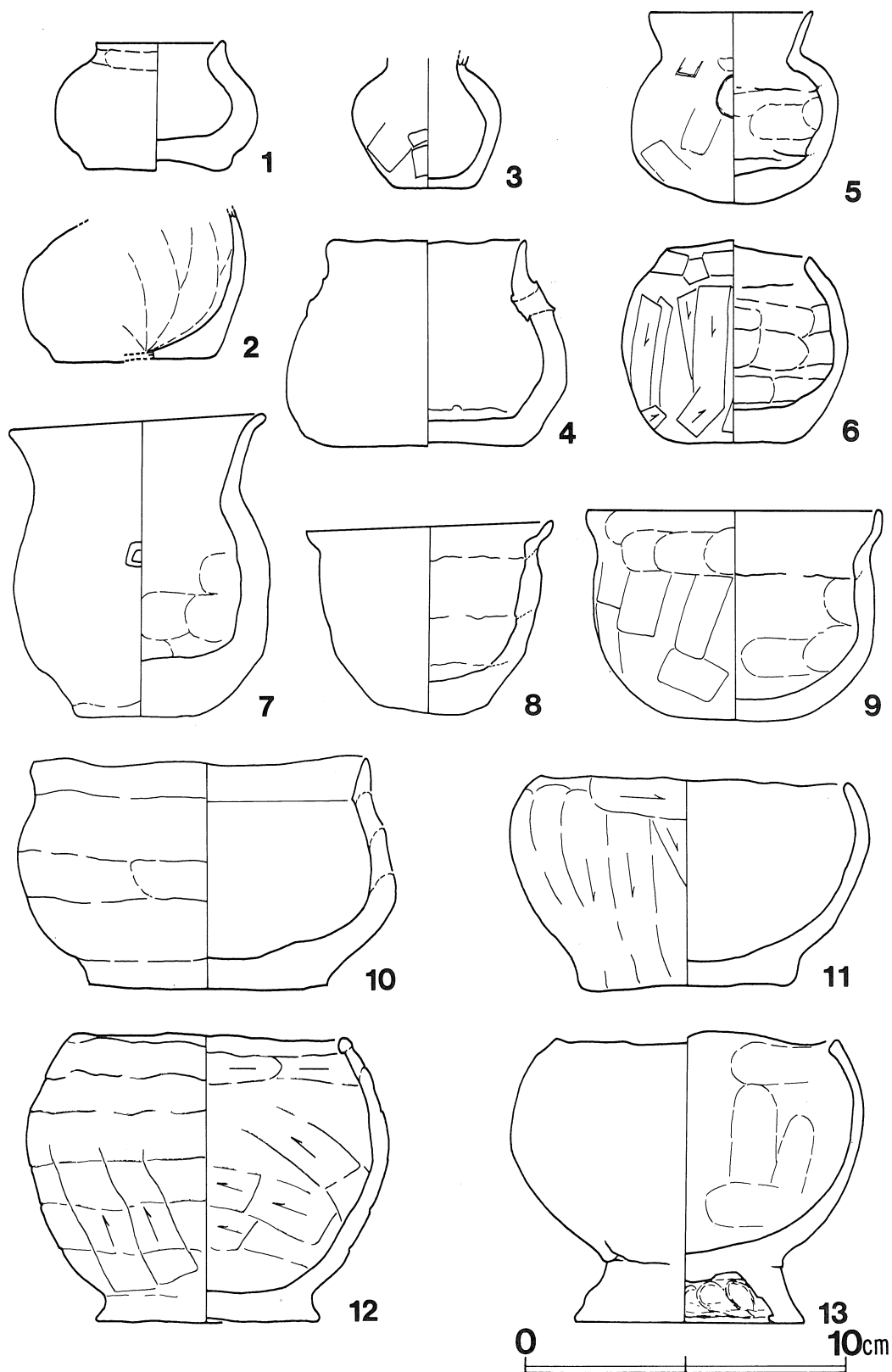
第137図 ミカド遺跡出土須恵器



第138図 ミカド遺跡出土土器



第139図 ミカド遺跡出土手捏土器



第140図 ミカド遺跡出土手捏土器

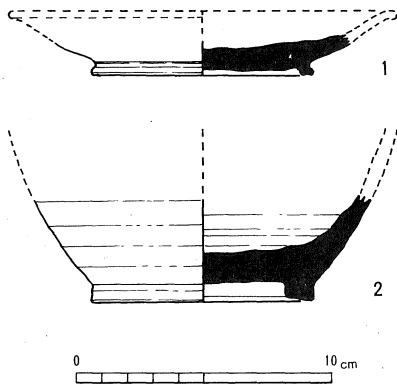
# ミカド遺跡出土の施釉陶器

坂野 和 信

本遺跡の調査によって得られた古代から中世の陶器は、日常供膳・貯蔵容器が大半を占めている。その主体は、灰釉陶器・常滑焼・古瀬戸陶等の尾張における諸製品である。近傍に展開された十二天遺跡から知見されるものに比し、中世の知多半島製品（常滑焼）、甕類の個体数は多いが逆に、古代の灰釉陶器の数量は著しく限定されている。古墳時代後期から約9世紀間にわたる営みのうちで、当遺跡は中世代の前半には形をかえた画期が存したことの一端を示す資料であろう。小稿でも各遺構出土と包含層出土のものに分けて略記する。

## 1. 遺構出土の土器

SD-5 1. 皿。推定口径15.2cm、器高2.5cm、底部から口縁下位にかけての残片である。外方にふんばる梯形状の低い高台を有し、厚肉の器体が腰部から漸進的に内湾して口端を反端風に仕上げるものである。底部の内面に三叉トチンの目痕がみられる。調整手法は、底部外面をへラケズリしているが、凹部面に残った糸切り痕を消去していない。高台の周縁から口縁部の内外面は丁寧にロクロナデが施されている。施釉は器体の内面のみで厚くたっぷりと流しかけされており、細貫入が観察される。胎土は灰白色でやや白色が強く、精緻なものである。微黒粒と微砂粒を含む。焼成は酸化焰により硬緻である。溝の最下層から検出された。



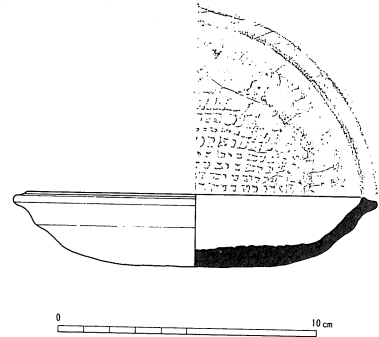
第141図 SD-5 出土の灰釉陶器

調整手法は、底部外面をへラケズリしているが、凹部面に残った糸切り痕を消去していない。高台の周縁から口縁部の内外面は丁寧にロクロナデが施されている。施釉は器体の内面のみで厚くたっぷりと流しかけされており、細貫入が観察される。胎土は灰白色でやや白色が強く、精緻なものである。微黒粒と微砂粒を含む。焼成は酸化焰により硬緻である。溝の最下層から検出された。

2. 長頸壺。高台径8.7cm、体下部から底部の残片である。やや低く幅の広い高台が付されている。体部は倒卵形を呈し張り出すものとみられる。調整手法は底部外面と体部下位をへラケズリしているが、底部中央の凹部は糸切り痕が残っている。また高台の周縁と体部内面はロクロナデされる。残存部に施釉はみられないが、内底部に楕円形状の降灰が付着している。胎土は灰白色を呈し微黒粒と多くの砂粒を含む。焼成は良好である。覆土中から検出された。

S D - 6  
(第 142 図)

古瀬戸、おろし皿。口径14.2cm、器高2.8cm。平底風の底部からゆるやかに口縁部へ移行し上位で外反しつつ、口端に浅い凹部をつくって丸くおさめるものである。底部内面はへら割による斜格子状の0.4cmを単位とするおろし目が刻されている。調整手法は底部外面を糸切りのまま未調整、口縁部内外はロクロナデされる。施釉は口縁部の上位に緑灰色釉が厚く漬けがけされ釉流



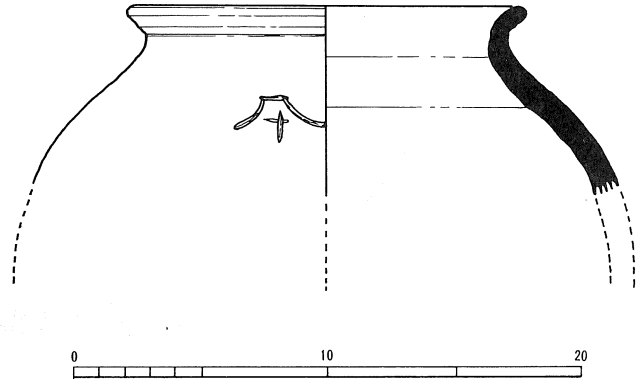
第142図 S D - 6 出土の古瀬戸

もみられる。胎土は淡黄灰色を呈し1~3mmの砂粒を含むが粘質性は良好である。焼成は酸化焰によるものとみられる。覆土中から検出された。

S B - 2  
(第 143 図)

短頸壺。口径15.8cm、推定器高25cm。口縁部と体上部の破片である。肩部と体部との境に「牟」と刻されている。強く外反する短い口縁部が口端で丸くおさめられている。

頸部から肩部への移行は漸進的であるが、体部は大きく張り出し、最大径を中央位にもつものとみられる。調整は口縁部から体部の内外にかけてロクロナデされ口縁部は丁寧であ

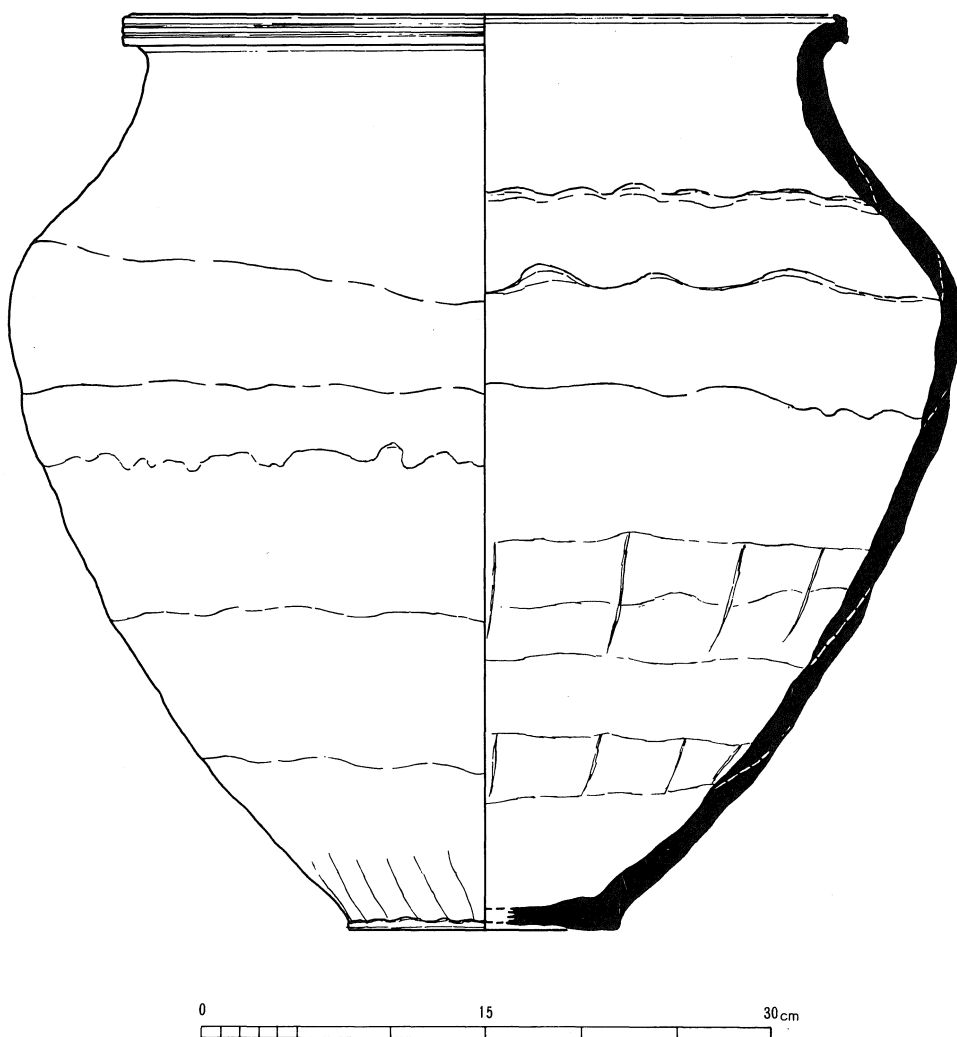


第143図 S B - 2 柱穴覆土出土

る。肩部に降灰がみられる。胎土は青灰色でやや褐色を帯びる良質なもので、細砂粒を含む。焼成は還元焰により良好。搬入品とはみなし難い。

集石 S X - 1  
(第 144 図)

甕。口径38.0cm、器高48.0cmの大型のものである。口縁部から底部まで約半分弱が遺存している。なで肩で大きく張り出す肩部から漸進的に頸部へ移行して、短く外反する口縁部の端面を幅広につくりだしている。端部の内側を小さく削り取って、外面に二条の浅い沈線をめぐらす。体部はゆるやかに大きな弧を描くもので、底部は上底で比較的薄くつくられている。成形技法は輪積みによるもので、底部から5段に区分して自重に耐えるべく重ねられている。調整手法は口縁から肩部の内外面をロクロナデ、体部は外面の輪積み痕を指頭のアテツケによって密着させ、また、内面の接合部はへら状具によってかき消されており、下位はその痕跡が明瞭である。底部外面は体上部へ向って幅1.5cm前後の間隔でへらケズリされている。口縁部から肩部にかけて淡灰緑色釉がみ



第144図 集石S X-1出土

られる。胎土は明褐色、器表は茶褐色で石英粒と2mm程の砂粒を含む。焼成は良好である。

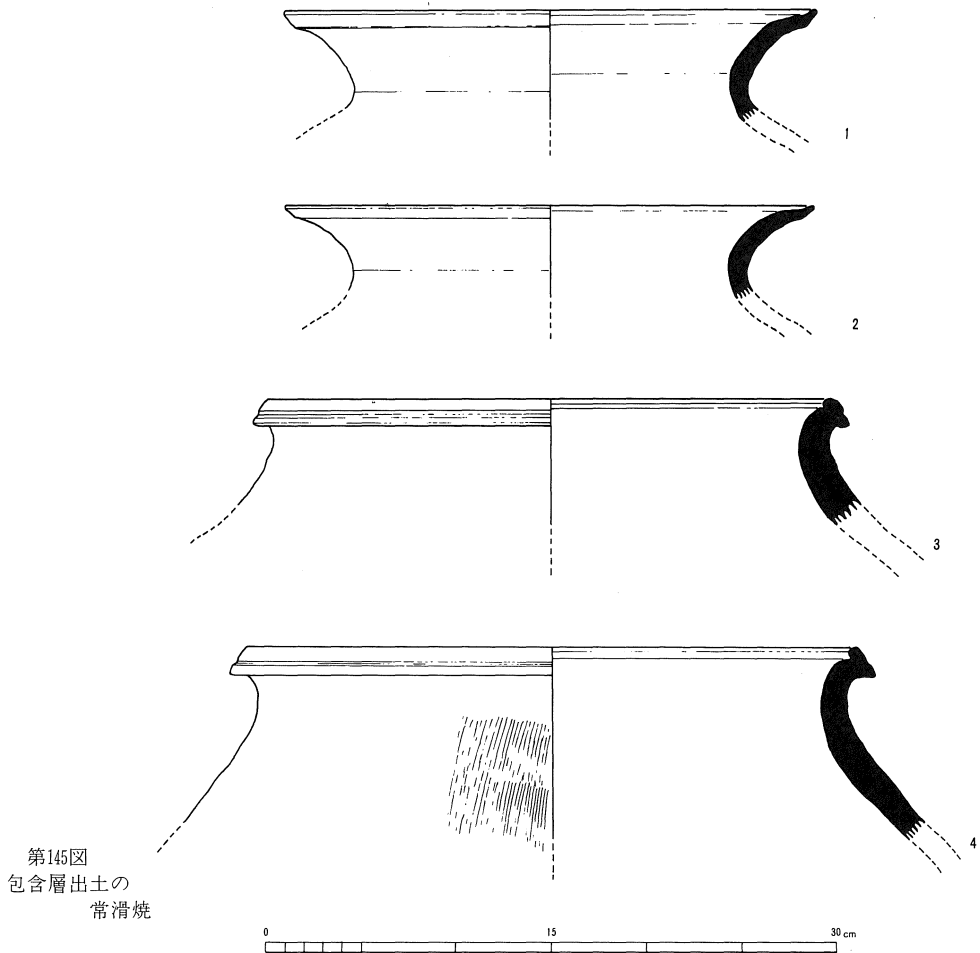
集石S X-2 甕。口径36.0cm。頸部から口縁部の破片である。第144図と同様の器形を示すもの（第145図4）であるが、口端面が内傾して内側に段を有し、外面に一条の浅い沈線をめぐらしている。調整は頸部から肩部の外面にかけて軽いハケ目風の痕がみられる。口縁部の内外と頸部内面は、ロクロナデによっている。胎土は茶褐色、2~3mmの砂粒を含む。焼成は良好である。

## 2. 包含層出土の土器

（第145図1~3）常滑焼（1・2）甕。口径26cm、口縁部の小片。外反する口縁部が上位で折



曲してわずかに立ち上り口端内側にゆるい段をつくるものである。調整は口縁部の内外面がロクロナデされる。口縁部に淡緑色灰釉がみられる。胎土は灰白色で器表は茶褐色である。粘質性は良好で微黒粒、砂粒を含む。1はG-4地区、2はD-34地区から出土した。3、甕。口径30cm、やはり口縁の小片である。強く外反する短い口縁部と内傾する幅の広い口端部とからなるもので、その内面に小さく段をつくり、外面には一条の沈線がみられる。調整はロクロナデによるが、口縁部外面に粘土をかき落したハケ目風のわずかな痕跡が観察される。胎土は茶褐色から淡褐色を呈し、鉍物質（鉄分）と2mm程の砂粒を含む。焼成は良好である。



# ミカド西遺跡

## 第5章 ミカド西遺跡の概要

### 調 査

本遺跡は、「埼玉県文化財包蔵地台帳」の(児玉町一No.287)に相当し、当初はミカド遺跡の一部と考えていたため、ミカド遺跡第2地点と呼称した。しかし、調査の結果、遺跡の形成時期と地形から別遺跡として捉えたほうが合理的であると考えられるためミカド西遺跡と呼称する。

調査対象区は、水田化のため削平される約550㎡である。本遺跡の中心部は、この調査対象区の南西に存在するが、施工を表土範囲の地なり整地にとどめたため、それらはほぼ旧状を保っている。調査対象区の東側は、天明3年(1783年)の浅間山の爆裂以前にすでに削平されていたと考えられ、その削平個所の傾斜面に多量の浅間山系A軽石が集積されている。

検出された遺構は、五領期住居址3棟、国分期住居址4棟、土壇1基および溝状遺構1址である。

### 堅穴住居址

第1号住居址(第147図)は、西北約7.4m、東西約7.7mの隅丸方形を呈し、住居のやや北寄りに縁石を有する炉址が検出された。本址は、南側を第2号住居址に切られている。(五領期)

第2号住居址(第148図)は、南北約5.8m、東西約4.1mの方形ないしは長方形プランと推定されるが東壁は明確には検出されなかった。あるいは東側に別の住居址の重複も考えられるかも知れないが、近世の開墾のため明確ではない。本址は、第1号住居址および第3号住居址を切って構築されている。(国分期)

第3号住居址(第148図)は、東側を近世の開墾によって切られ、また北側を第2号住居址によって切られているため、プラン・規模等は明確でない。(五領期)

第4号住居址(第149図)は、南北約2.8m、東西約2.5mの規模を有し、東壁にカマドを有する。本址は、第6号住居址および第5a号住居址を切って構築されている。(国分期)

第5a号住居址(第149図)は、4号住および5b号住に切られており、東西の規模は明らかではないが、南北約2.5mを測る。(国分期)

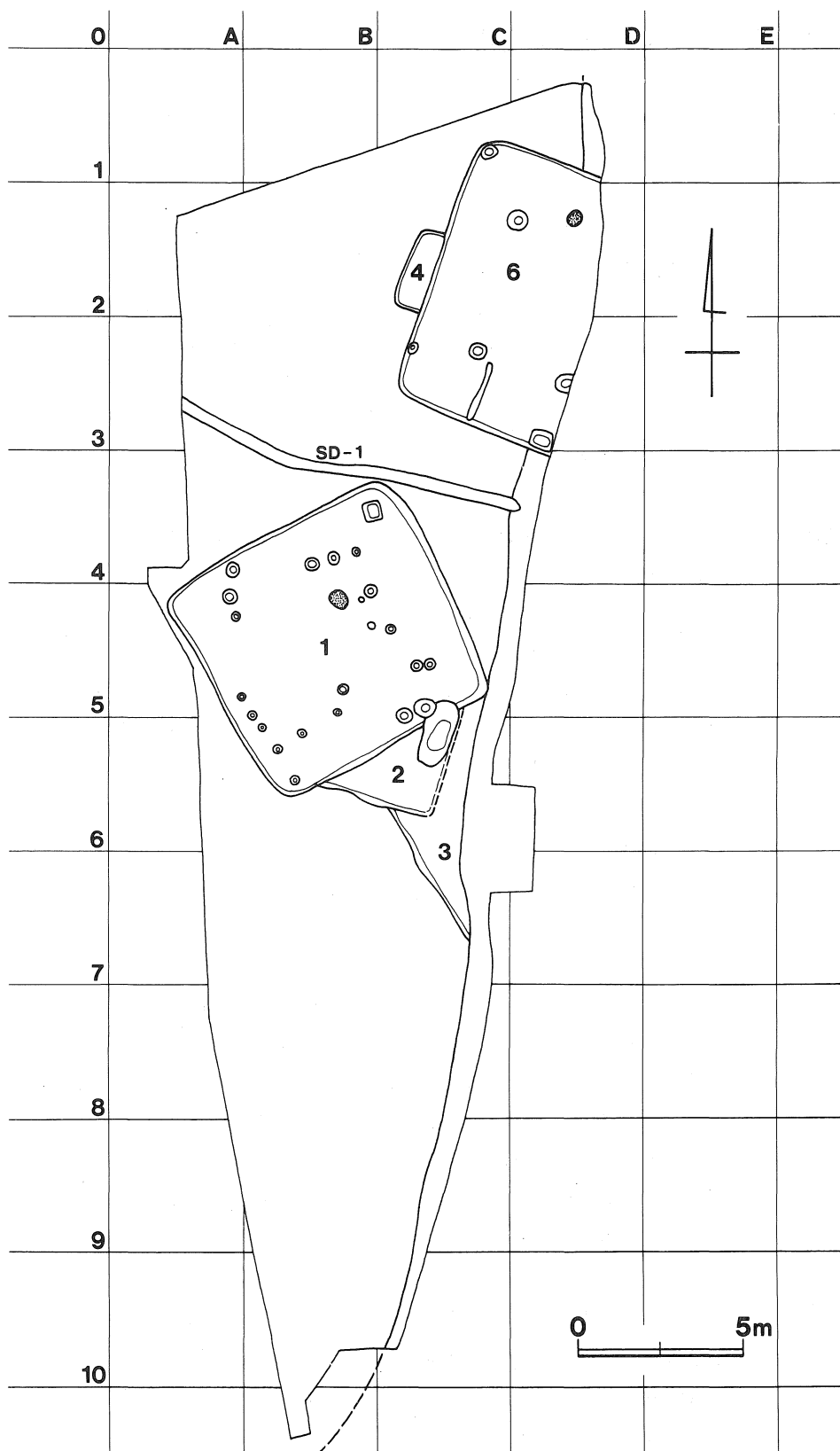
第5b号住居址(第149図)は、5a住を切っており、東側は近世の耕作によって切られている。南北約2.5mを測る。(国分期)

第6号住居址(第150図)は、4・5a・5b号住に切られ、また東側は近世の開墾によって切られている。南北約8.3m、東西推定約7mの隅丸長方形を呈している。炉址は、北寄りにつくられ、縁石のかわりに土器片を配している。(五領期)

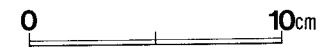
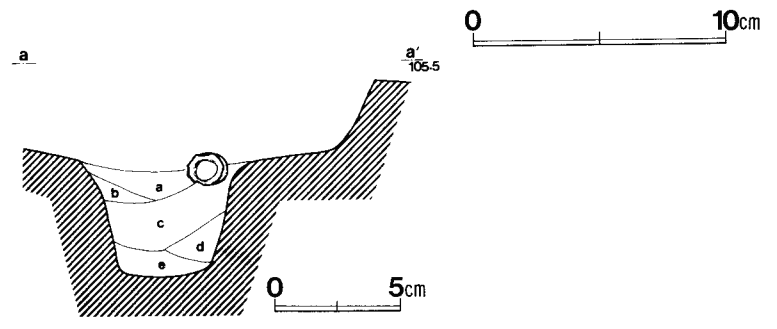
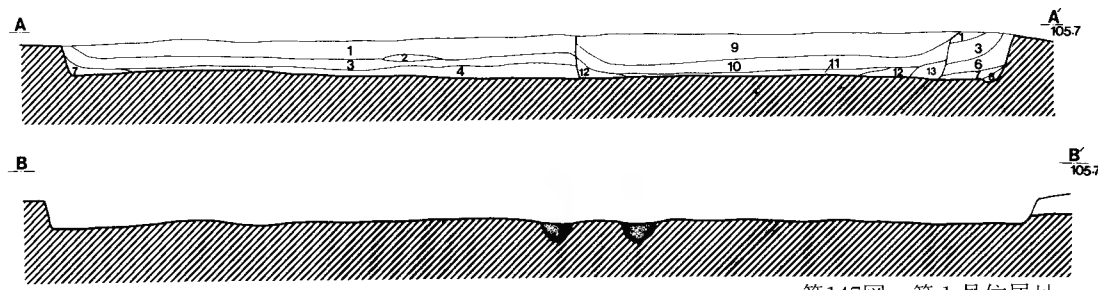
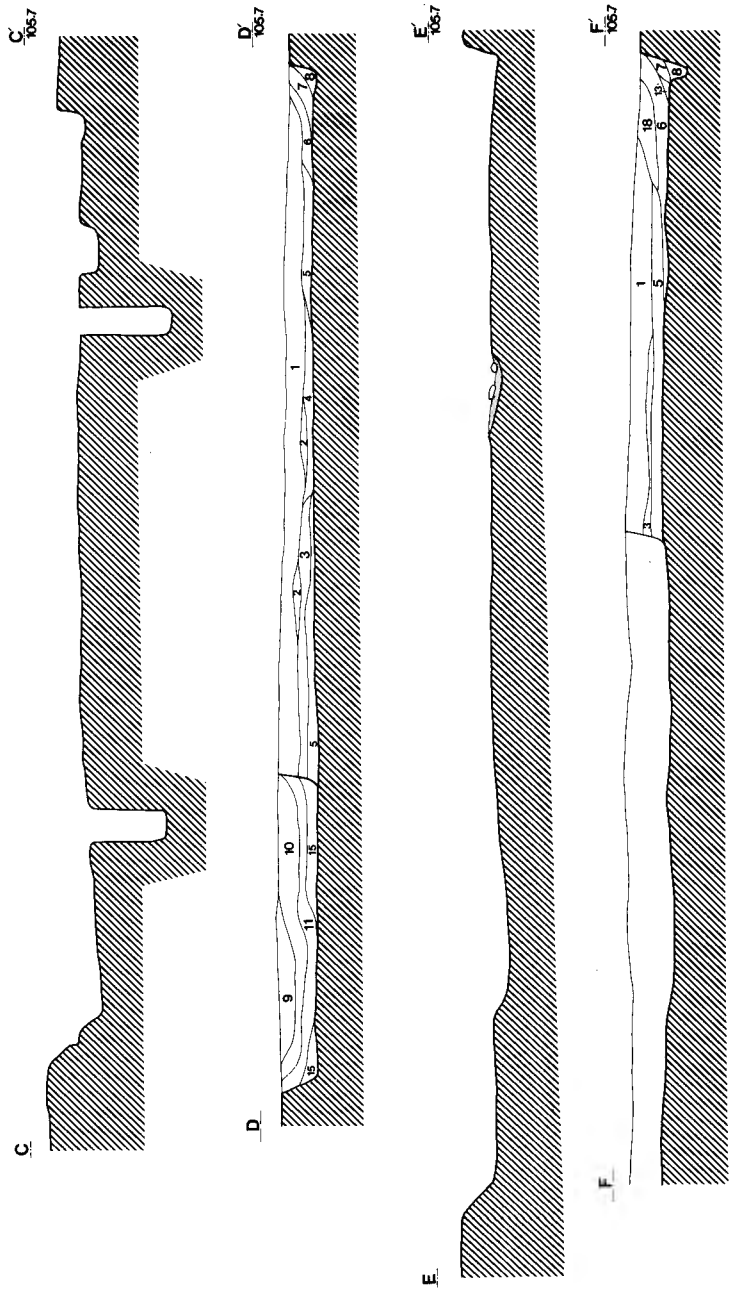
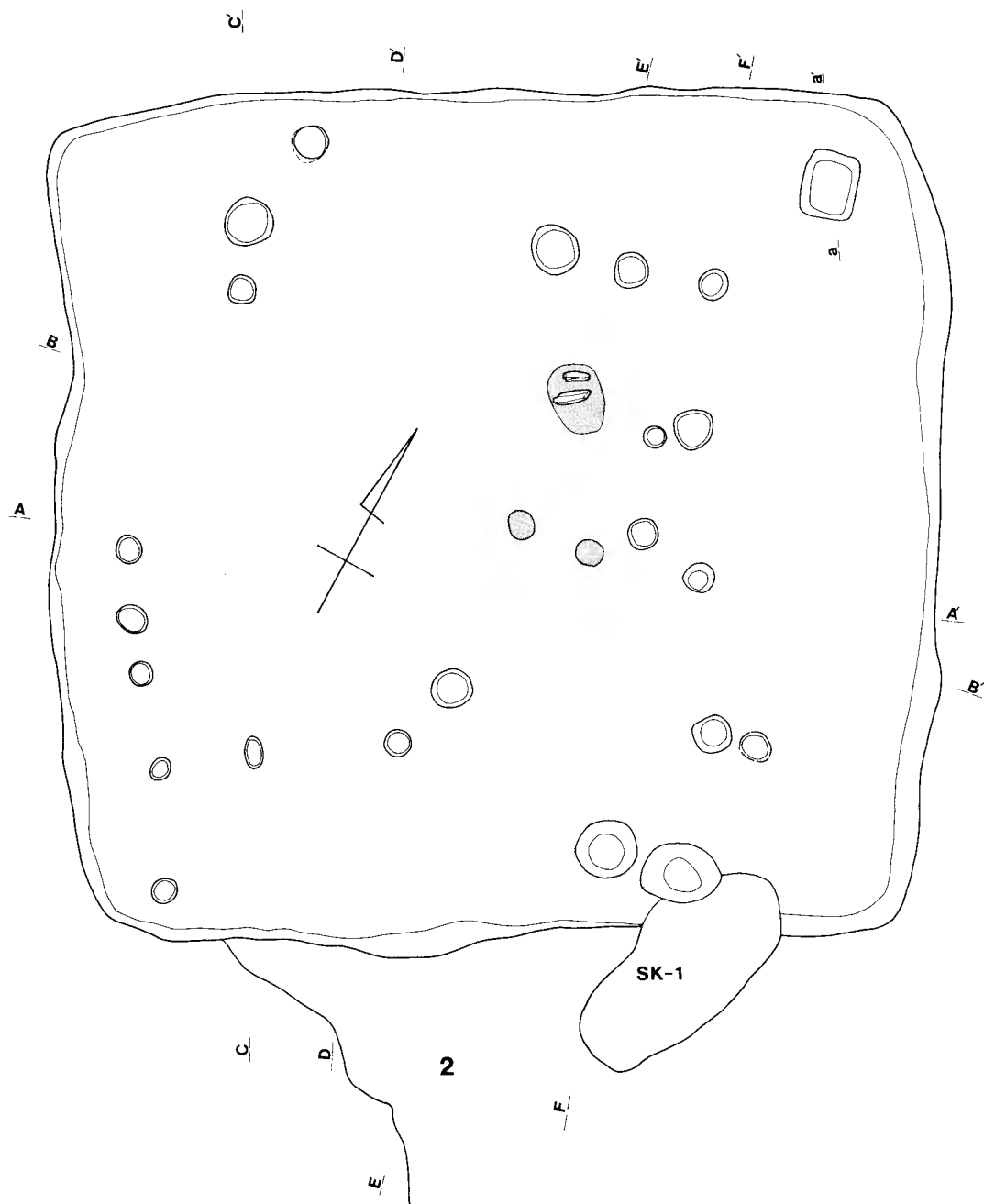
### 土 壇

土壇SK-1(第152図)は、その上面を第2号住居址の貼り床が覆っている。出土遺物は無く、時期・性格等は不明である。

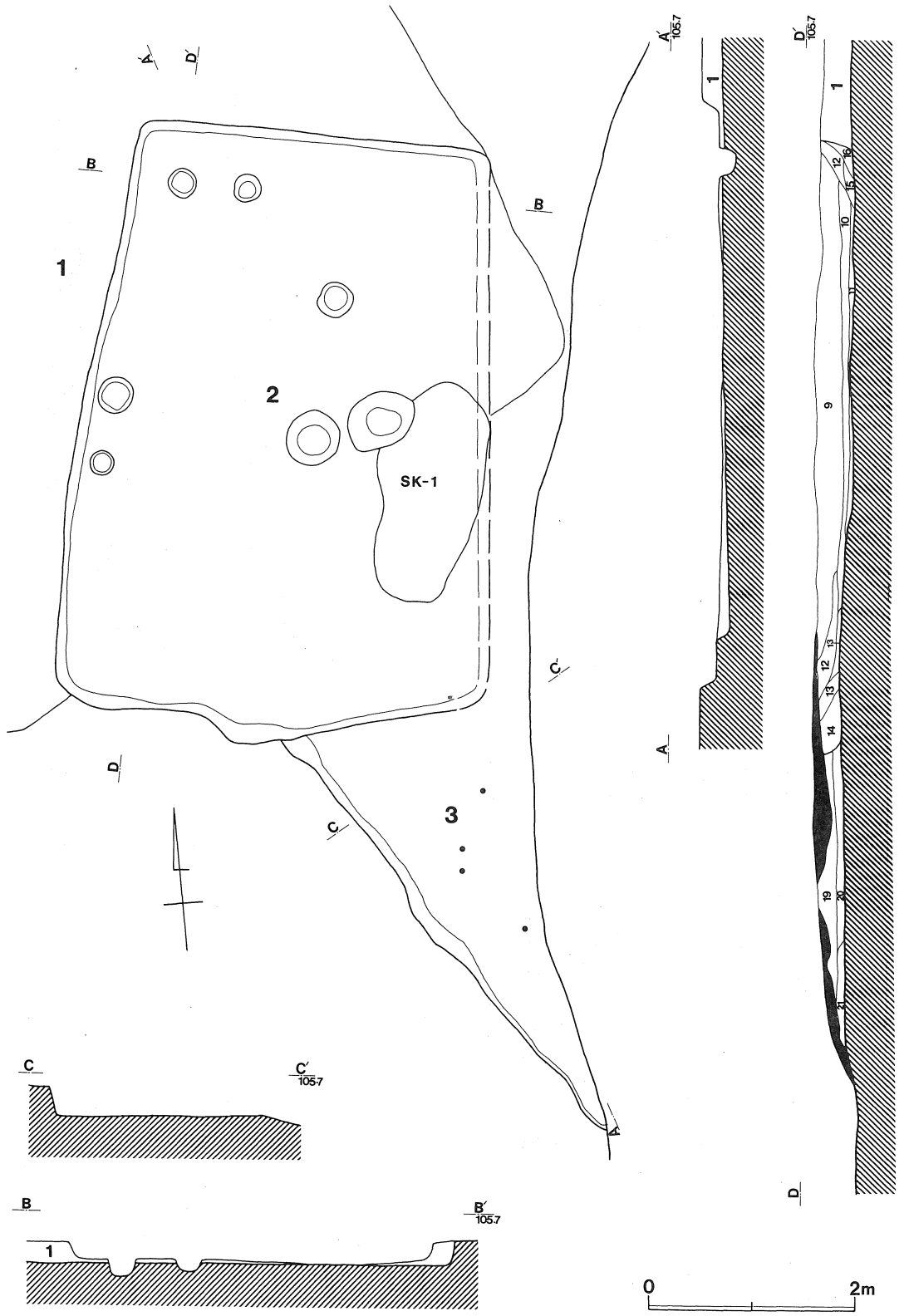
溝状遺構SD-1(第146図)は、覆土中に浅間山系A軽石を含むところから、比較的近年のものと考えられる。(鈴木徳雄)



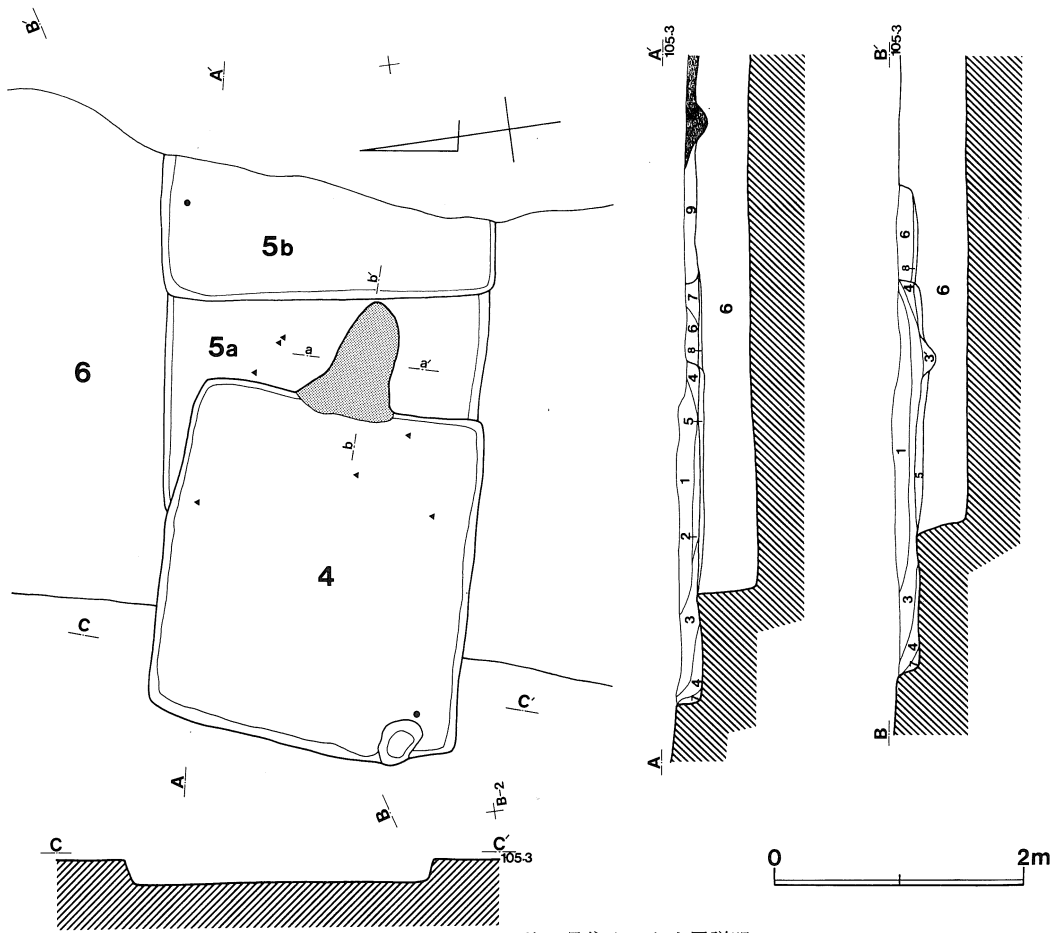
第146図 ミカド西遺跡全測図



第147图 第1号住居址



第148图 第2·3号住居址

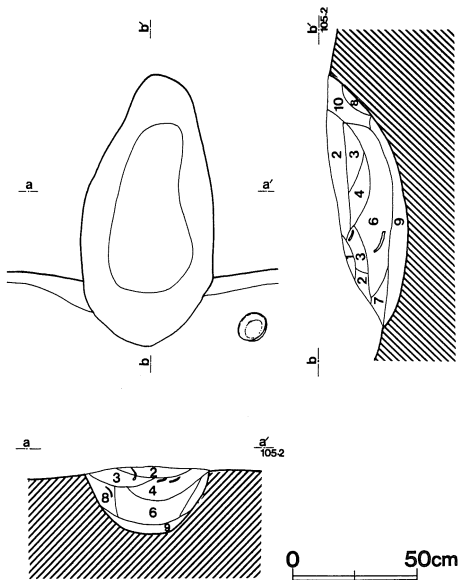


第4号住カマド土層説明

- 1層 黒褐色土（炭化木、焼土粒子を含み、硬い）。
- 2層 黄褐色土（白色粘土が主体を占め、焼土粒子をわずかに含む。熱を受けているためか、粘性はなくパサパサしている）。
- 3層 赤褐色土（黒褐色土中に、大型の焼土ブロックを少量含む）。
- 4層 赤褐色土（3層に類似するが、焼土ブロックが小さく、炭化木も含む）。
- 5層 赤褐色土（3層中に白色粒子を含む）。
- 6層 暗赤褐色土（炭化木、焼土粒を含む）。
- 7層 暗赤褐色土（6層に類似するが焼土粒子が少なく、粘性も強い）。
- 8層 黒褐色土（微量の焼土粒子を含む）。
- 9層 暗黒褐色土（焼土粒子が極端に少なく、炭化木を比較的多く含む）。
- 10層 暗褐色土（多量の焼土ブロックを含む）。

焼土量 3>4、5、6>7>1、8>2

粘性 8、9>7>1、3、4、5、6>2



第149図 第4・5a・5b号住居址及び4号住カマド

#### 第1～3号住居址土層説明

- 1層 黒褐色土層（赤色粒子、ローム粒子を含む）。
- 2層 灰白色粘土層。
- 3層 黒褐色土層（1層より、粒子が少なく黒い）。
- 4層 暗褐色土層（5層よりロームブロックが少なく、粘性も強い）。
- 5層 暗褐色土層（ロームブロックを含み、緻密である）。
- 6層 暗褐色土層（若干の焼土粒を含み、ローム粒を多く含む）。
- 7層 暗褐色土層（6層に類似するが焼土粒が少なくなり、ローム粒が多くなる）。
- 8層 褐色土層（ローム粒、ブロックを多く含む）。
- 9層 黒褐色土層（1層より赤色粒、ローム粒が少なく、白色粒が、シモフリ状に認められる）。
- 10層 黒褐色土層（9層に類似するがロームブロックを含み、やや明るい）。
- 11層 暗褐色土層（炭化物、焼土を多く含む）。
- 12層 暗褐色土層（粘性が強く、緻密である）。
- 13層 焼土層（若干の黒褐色土が混入している）。

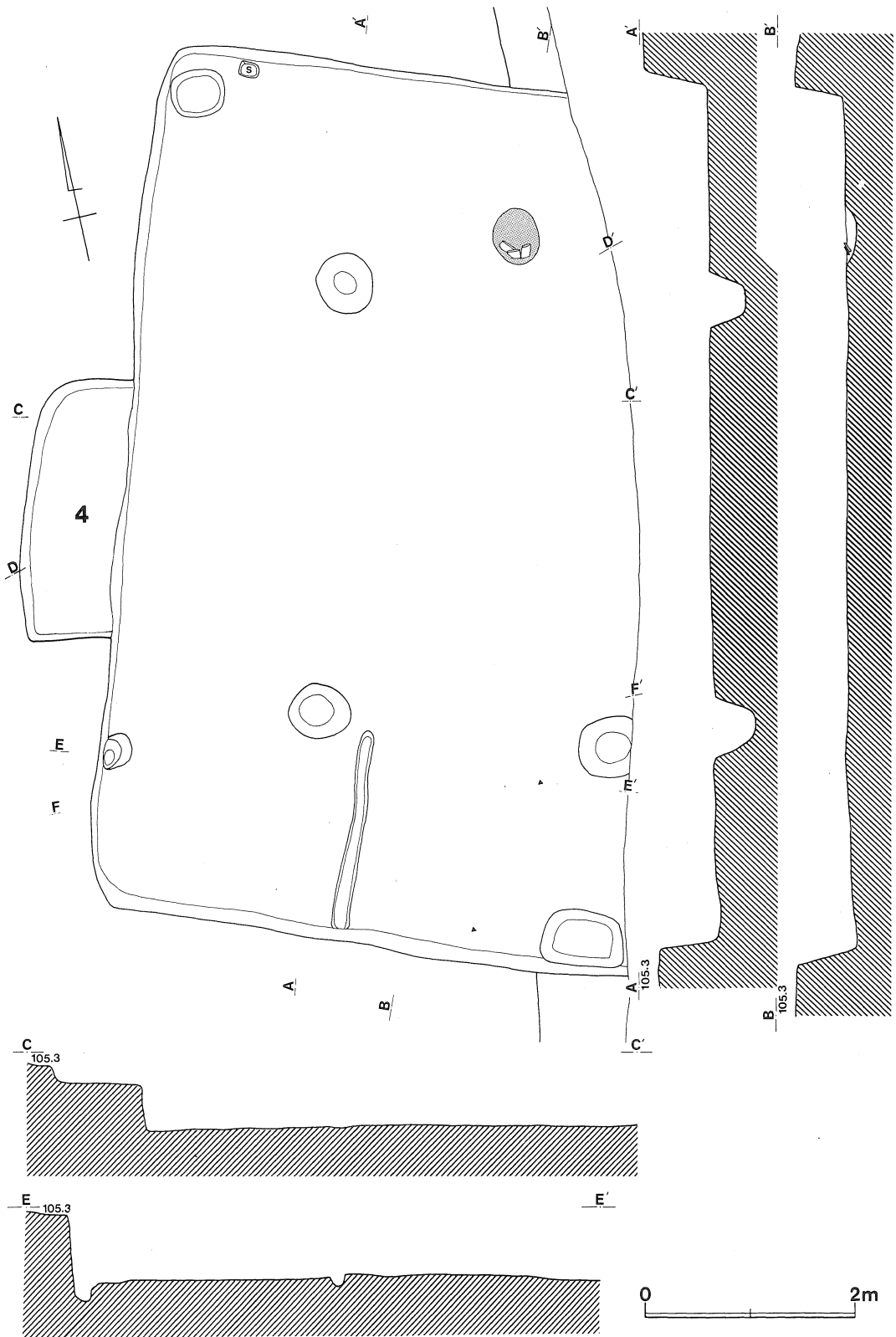
#### 第1号住居址貯蔵穴土層説明

- a層 暗褐色土層（焼土粒子を多く含み、砂質である）。
  - b層 褐色土層（ローム粒子、ブロックを多く含む）。
  - c層 黒褐色土層（少量の焼土、炭化物粒子を含み、粘質である）。
  - d層 暗褐色土層（c層に類似するが、ローム粒子が多く、緻密である）。
  - e層 褐色土層（ロームブロックを含み、焼土粒等は、非常に少ない）。
- 明度 e > b > d > a > c

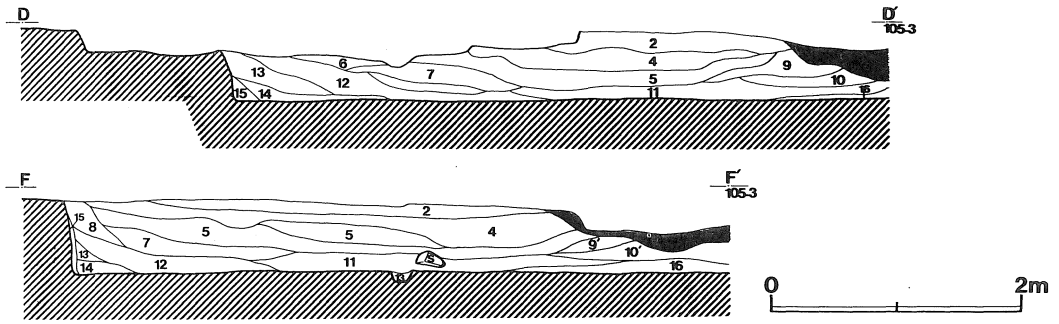
#### 第4、5号住居址土層説明

- I層 黒褐色土層（微量の炭化物を含み、他層より黒い）。
- II層 暗褐色土層（少量のロームブロックを含み、緻密である）。
- III層 暗茶褐色土層（白色粒子、ローム粒子、焼土粒子を含む）。
- IV層 暗茶褐色土層（ロームブロックを含む。III層に類似している）。
- V層 褐色土層（ロームブロックを含み、粘性に富み、緻密である）。
- VI層 褐色土層（V層に類似するが、ロームの量が多い）。
- VII層 褐色土層（VI層に類似するが、ロームの量がさらに多い）。
- VIII層 暗褐色土層（IV層に類似するが、焼土、炭化物を多く含む）。





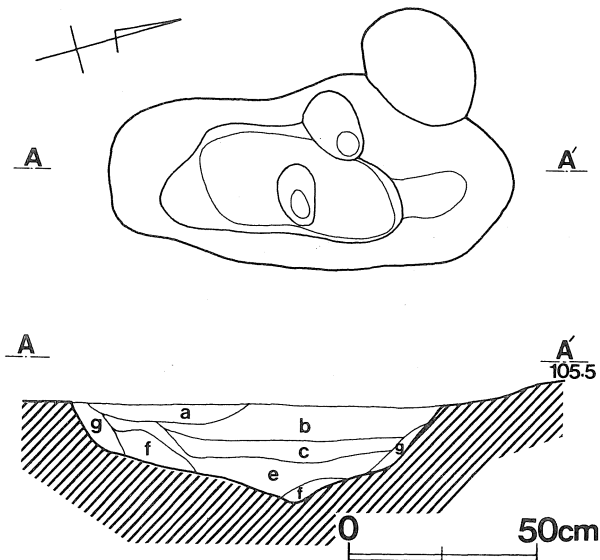
第150图 第6号住居址



第151図 第6号住居址土層断面

第6号住居址土層説明

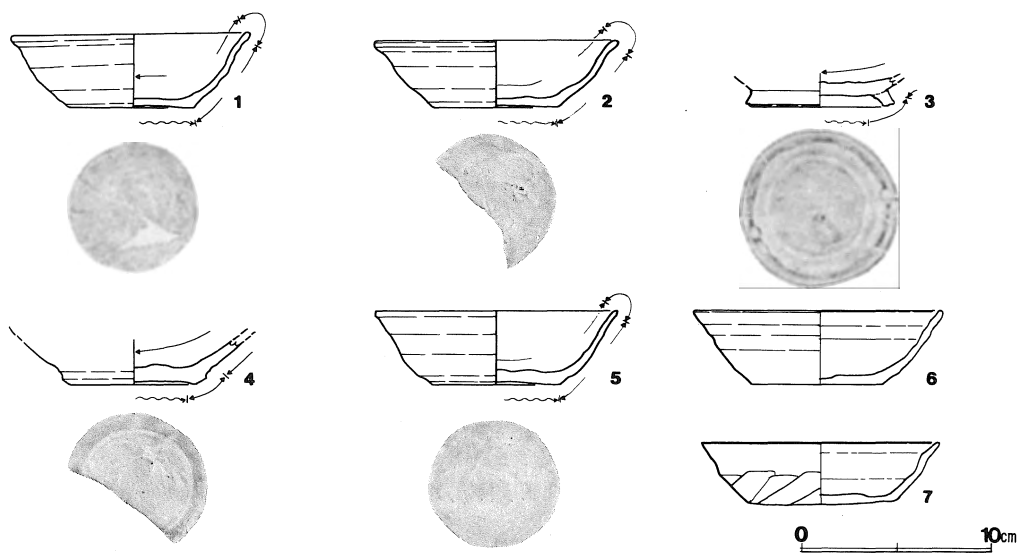
- 1層 黒褐色土層（緻密で、少量の焼土粒、炭化物粒、白色粒子を含む）。
- 2層 黒褐色土層（1層より茶色で、含有粒子も多い）。
- 3層 褐色土層（ローム、粘土のブロック、粒子を含み、表面は硬化している。貼床である）。
- 4層 暗褐色土層（多量のローム粒子を含み、少量の炭化物、焼土粒子を含む）。
- 5層 暗褐色土層（4層よりローム粒が多く、又、ロームブロックがめだつ。5はローム粒子多い）。
- 6層 暗褐色土層（4層に類似するがやや黒く、粘性は強い）。
- 7層 褐色土層（1～3cm程のロームブロックを多量に含み、上下層との境界は明瞭である）。
- 8層 黒褐色土層（少量のローム粒子を含む）。
- 9層 暗茶褐色土層（少量のローム粒子、焼土粒子とともに、灰褐色粘土を含む）。9はローム粒多い）。
- 10層 暗茶褐色土層（9層より粒子、粘土、ともに少なく、緻密である。10は粘土・ローム粒が多い）。
- 11層 暗褐色土層（ローム、焼土、炭化物粒を含み、粒子が細かい）。
- 12層 暗褐色土層（多量のローム粒子と、少量の炭化物粒子を含み、上下層との明瞭な境界をなす）。
- 13層 黒褐色土層（多量のローム粒子を含み、軟かい）。
- 14層 暗褐色土層（多量のローム粒子を含み、粘性に富む）。
- 15層 暗褐色土層（14層より明るく、均質である）。
- 16層 暗褐色土層（少量のローム粒子を含み、粘性は強い）。



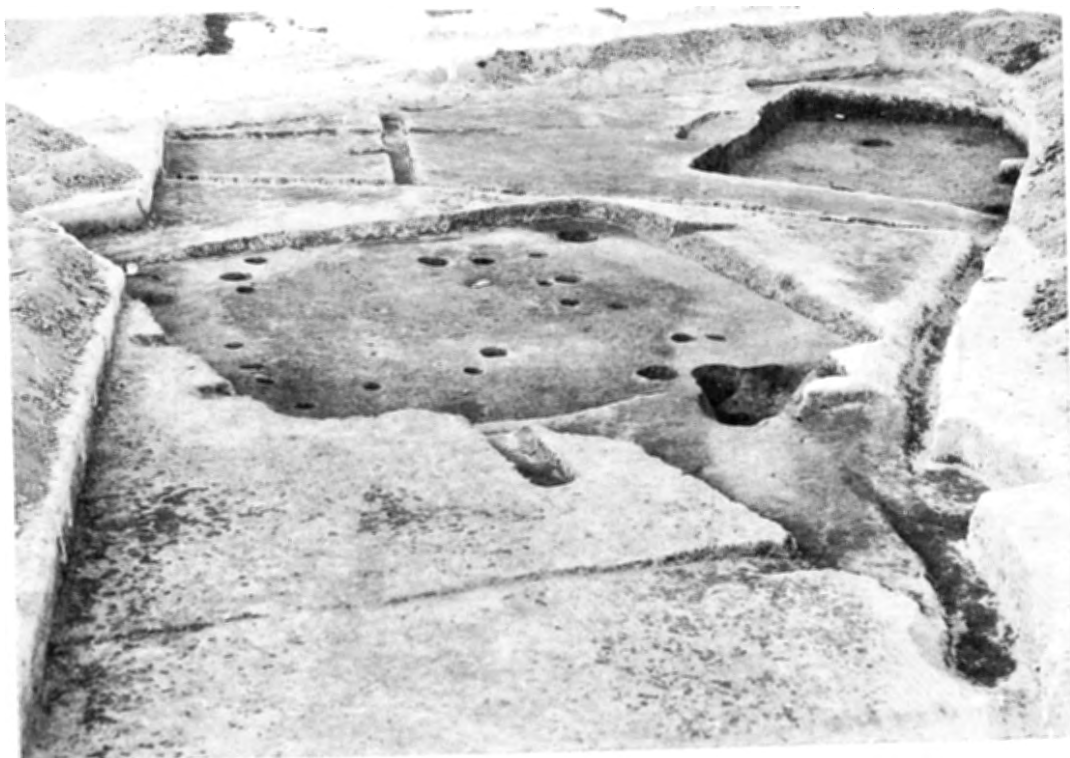
第152図 SK-1

SK-1 土層説明

- a層 黒褐色土層（少量のローム粒子、ブロックを含む。焼土粒は少ない）。
  - b層 黒褐色土層（多量の白色粒と少量の焼土粒を含み、粒子は荒くなる）。
  - c層 黒褐色土層（b層に類似するが、ローム粒を多く含み、やや明るい）。
  - d層 暗褐色土層（ローム粒子を多く含み、a～c層より粘性がある）。
  - e層 暗褐色土層（a～d層と比べ、焼土粒子が多く、やや赤い）。
  - f層 褐色土層（ロームブロックを多く含む）。
  - g層 褐色土層（ローム粒子、ブロックを多量に含み、fより粒子細かい）。
- 明度 g > f > d > e > a > c > b



第153図 ミカド西遺跡出土土器



向 遺 跡

## 第6章 向遺跡の概要

### 調 査

本遺跡は、「埼玉県文化財包蔵地台帳」の（児玉町一No.115）に相当し、調査地点の小字名から向遺跡と呼称する。調査対象区は、水田化のため削平される約1,000m<sup>2</sup>である。本遺跡の中心部は、この調査対象区の南側にあたるが、施工を表土範囲の地なり整地にとどめたため、ほぼ旧状を保っている。

遺構確認面は、IV層中位からIV層上面である。このIV層中からの出土遺物は、国分式土器を主体とし、少量の鬼高式土器を含むが、中・近世の遺物を含まない。またこの層を被覆するIII層は、浅間山系A軽石（天明3年・1783年）を含まない。

検出された遺構は、溝状遺構7、井戸址1、土壇6、「土層捻転址」1があり、いずれも出土遺物が無く時期の判定は難しい。しかし、遺物確認面の層序から、中世までは下らない時期に営まれたものと考えられよう。

### 溝状遺構

溝状遺構SD-1（第155図）は、幅約110cm、深さ約70cmで、底部の形態は所謂「箱薬研」に近く、底面には水流の痕跡と思われる鉄分の沈澱層が認められる。この水流の方向は、本址の底面が北側に漸次深くなっているところから〈南→北〉と考えられよう。

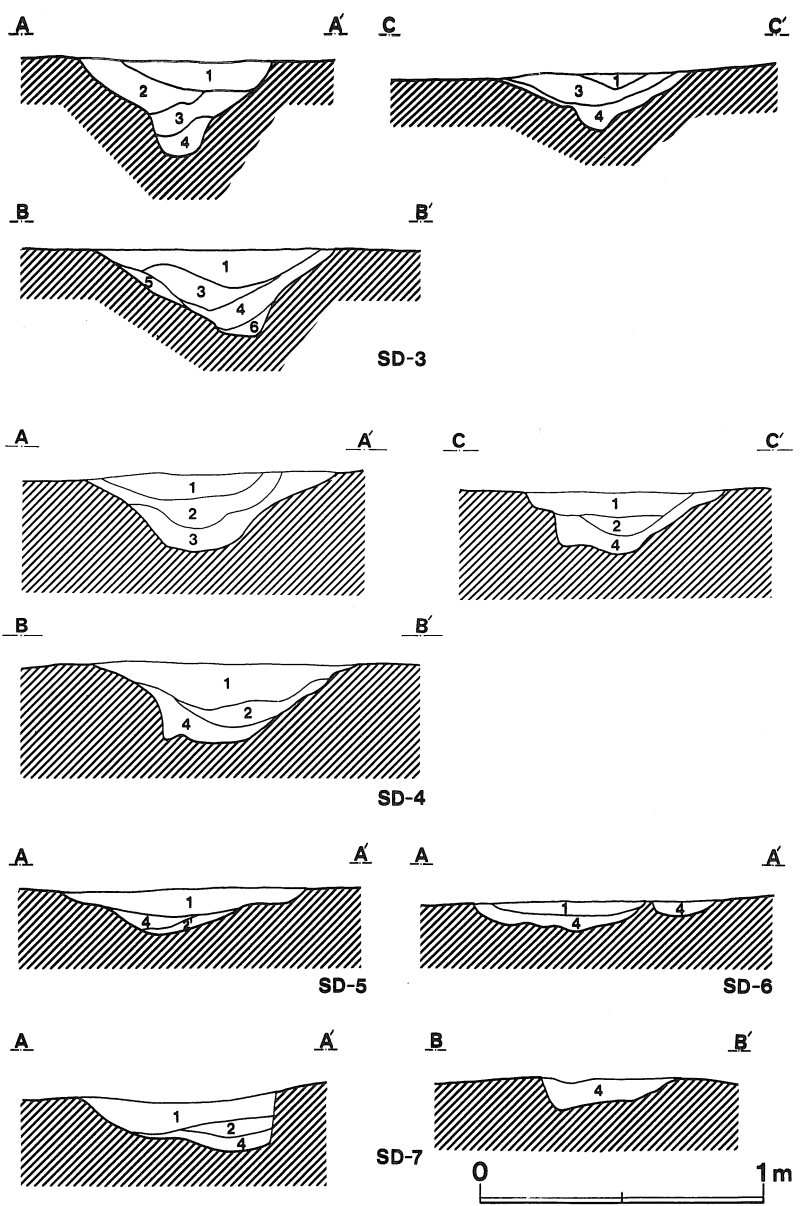
溝状遺構SD-2（第155図）は、幅約140cm、深さ30cmで、溝底部の形態は規則性をもたない。本址の南側溝底には、大形の落ち込みが存在するが土層断面の観察から重複によるものではない。本址は南側で、一部SD-7との重複が認められ、SD-2→SD-1の順序が確認された。

溝状遺構SD-3～5（第155図）は、それぞれ類似した底面形態と覆土を有し、幅約5～60cm、深さ約2～30cmを測る。溝底には、不正形の窪みが数多く認められ、それらの窪みの中には、赤根川出自と思われる暗橙褐色の砂粒が堆積している。しかし、恒常的な水流の痕跡は認められない。これらの溝状遺構は、各々連結しゆるやかに傾斜しながらSD-2に接続しており、それぞれは、同一時期に埋没した可能性が強い。

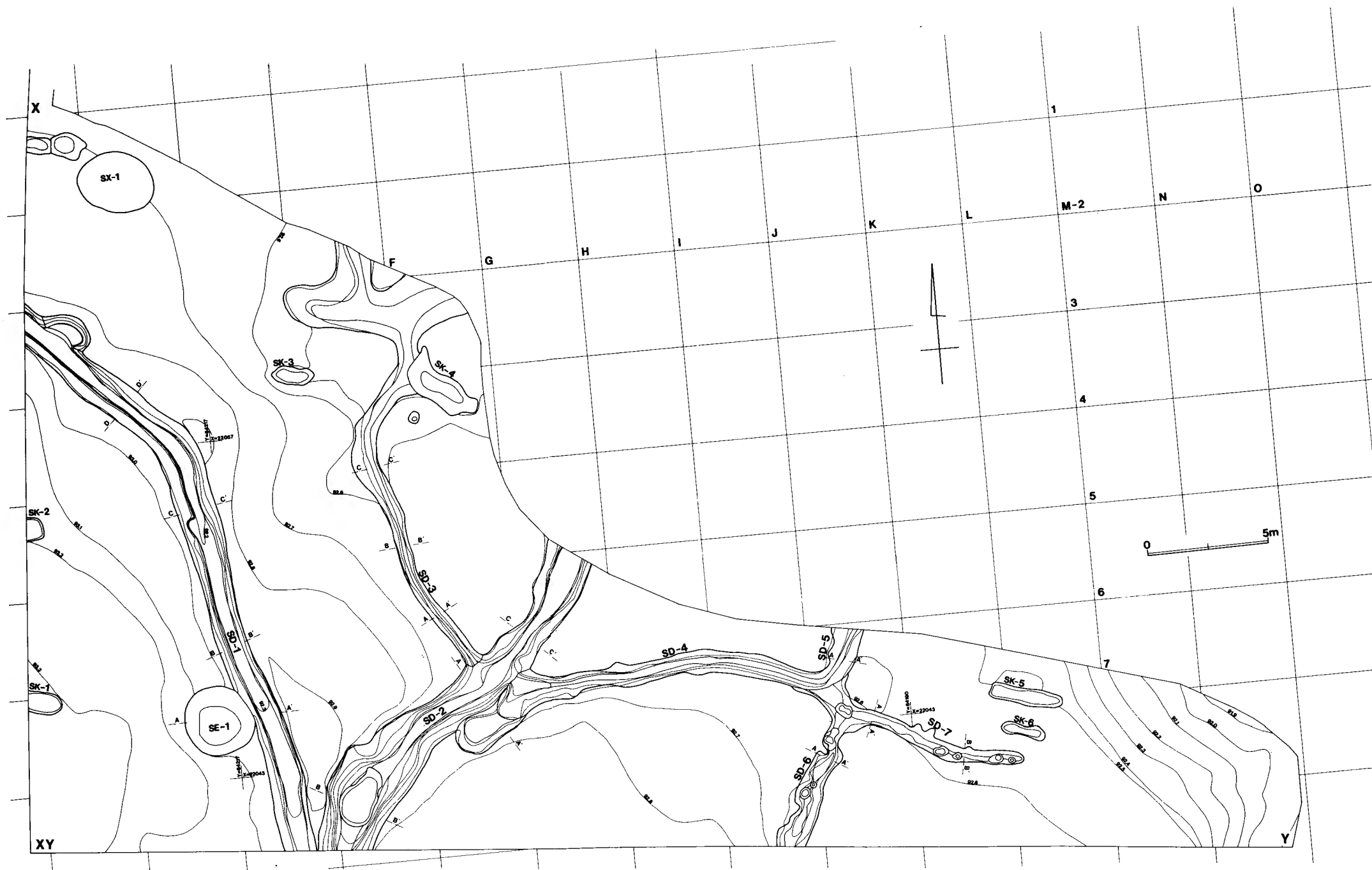
### 井戸址

井戸址SE-1（第164図）は、直径約2.2mの円形を呈し、深さは約1.5mを測る。本址は、現在も湧水が激しく、底部の形態は明確につかみえなかった。本址の時期は、出土遺物や重複のないため明確ではないが、SD-1がゆるやかに避けて掘られているところから（SE-1→SD-1）が想定される。

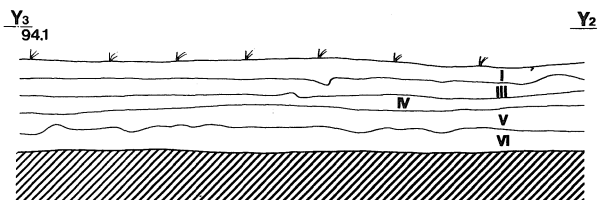
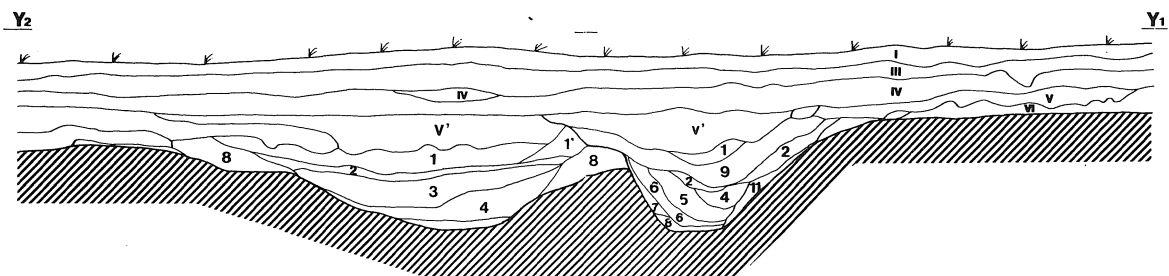
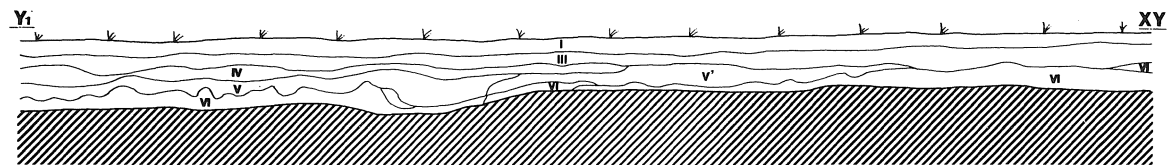
本遺跡の溝状遺構の性格は、SD-1がその底部の水流の痕跡と形態から用水路的性格、またSD-2～7がその覆土の状態から排水路的性格として捉えられよう。しかし、今回の調査対象区は、本遺跡の末端部にすぎず、また後述する十二天遺跡（233ページ参照）との関連も考えられるところから、それらを含めた考察が今後の課題となろう。（鈴木徳雄）



第154图 SD-3·4·5·6·7土層断面

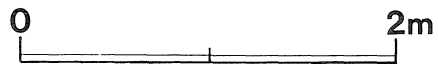
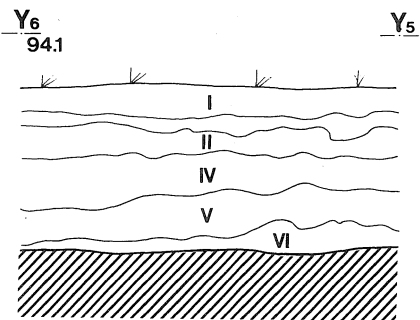
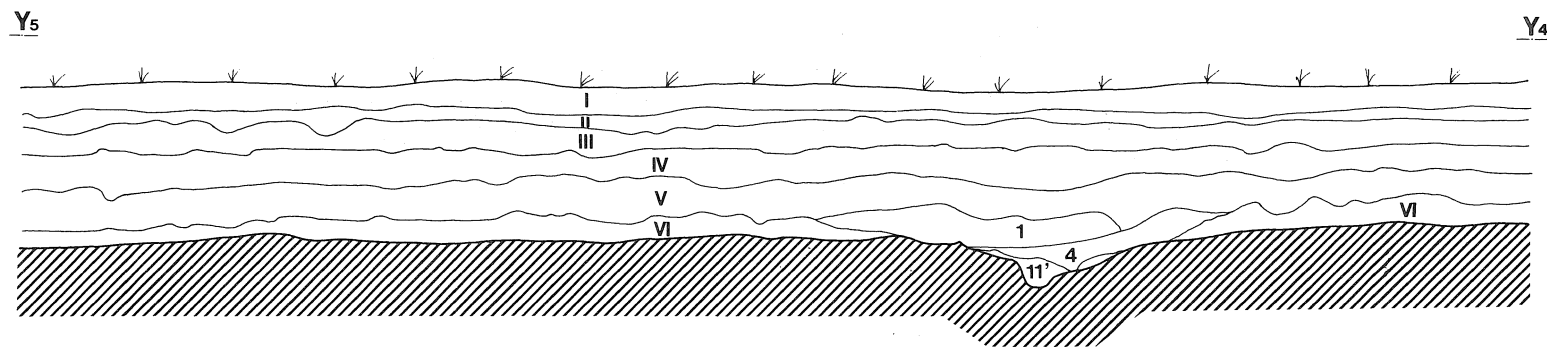
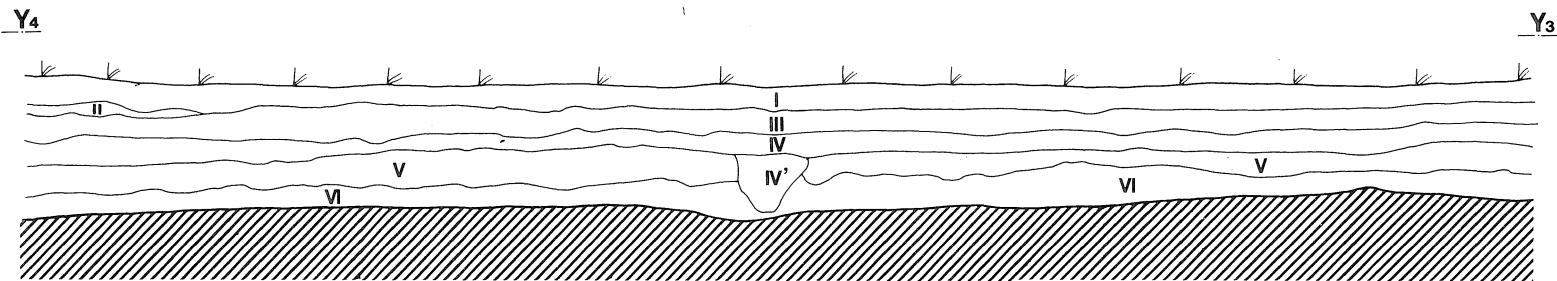


第155図 向遺跡全測図

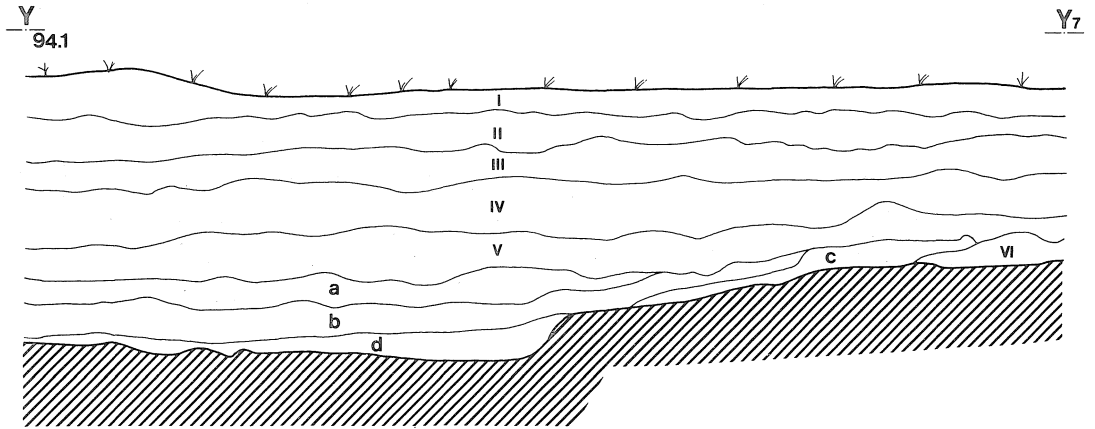
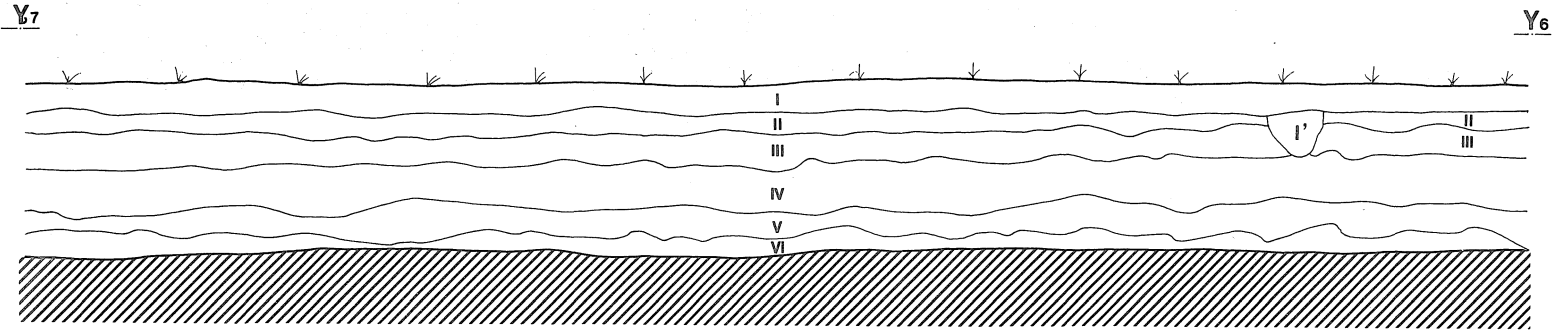


第156图 (W-E) 土层断面(1)





第157图 (W-E) 土层断面(2)

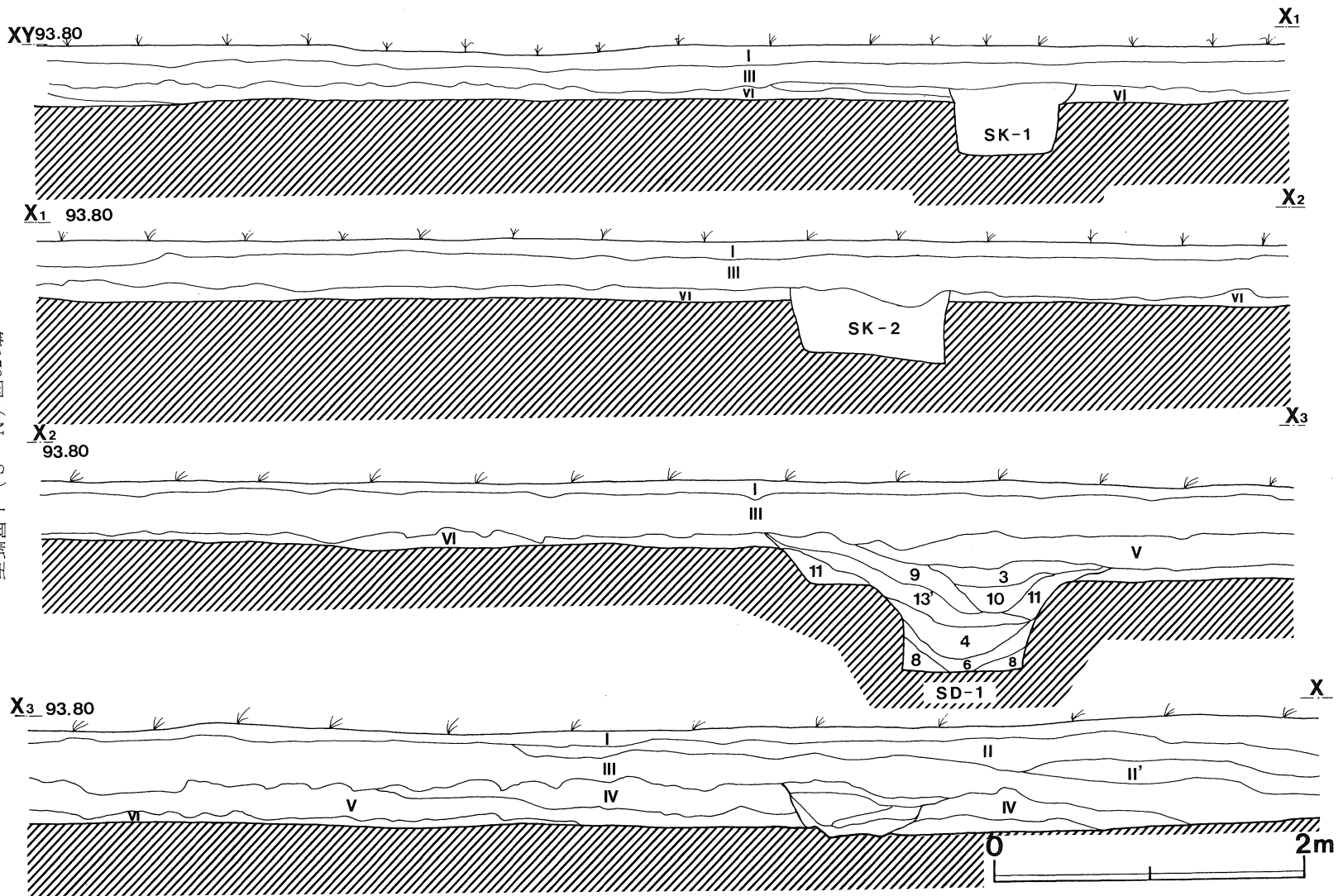


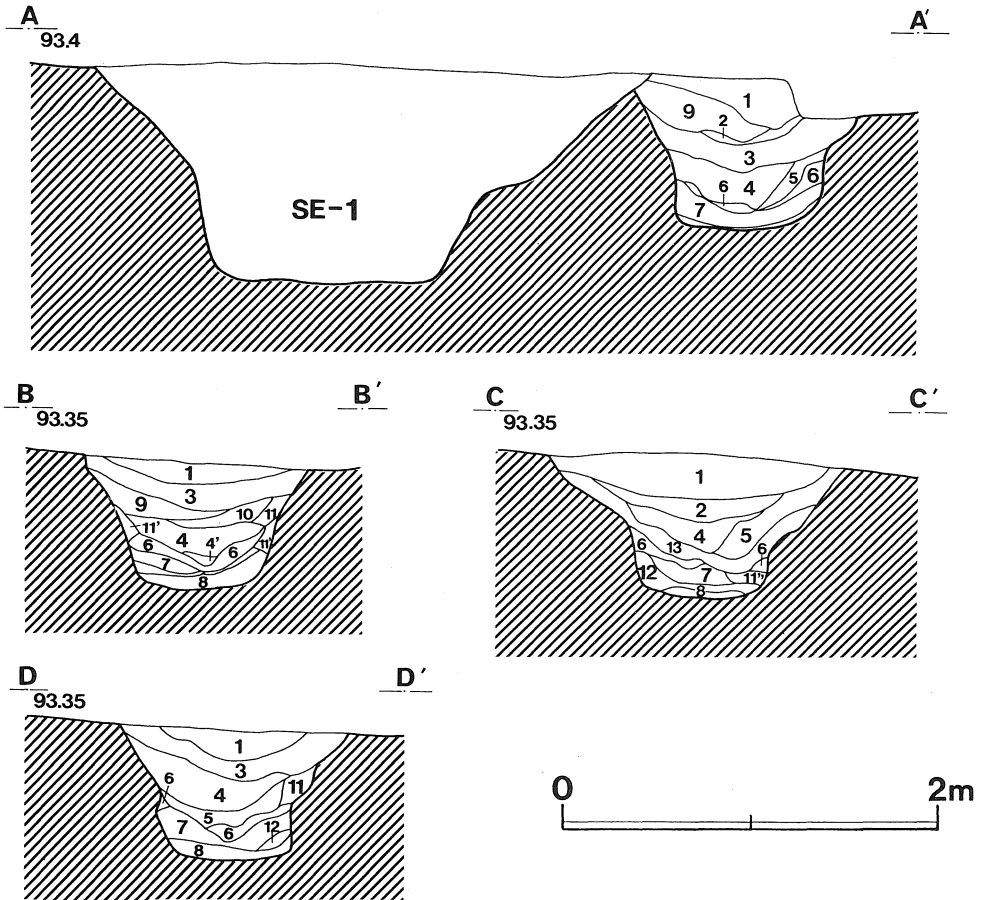
斜面部堆積層土層説明

- a層 暗褐色土層（IVより暗いが、Vより明るい。粘質土を斑状に含む）。
- b層 褐色土層（ロームブロックを少量含み、粘質でしまっている）。
- c層 黄褐色土層（ローム粒、ロームブロックを主体とし、暗褐色土が混じる）。
- d層 暗褐色土層（全体に粘質である。又、砂粒も比較的少量に含んでいる）。
- 明度 a > d > b > c

第158図 (W-E) 土層断面(3)

第159图 (N-S) 土层断面



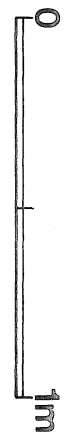
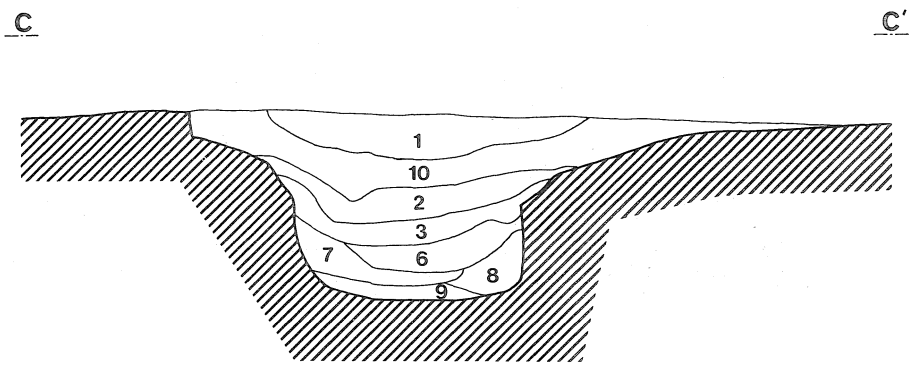
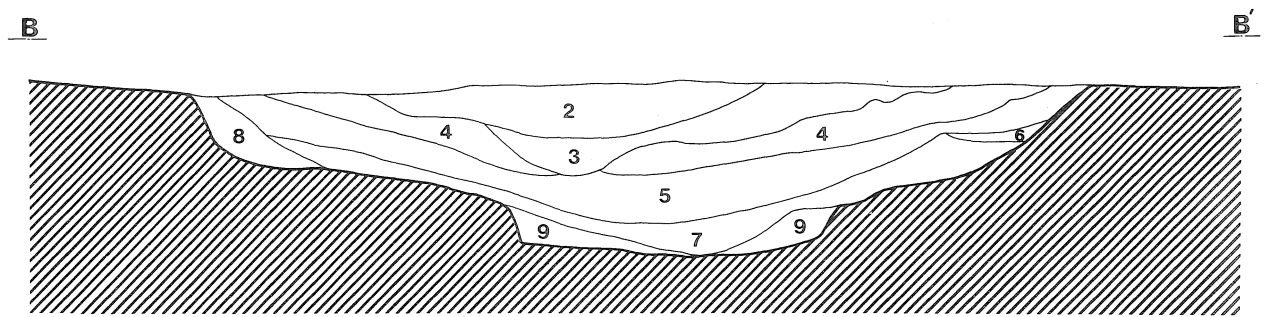
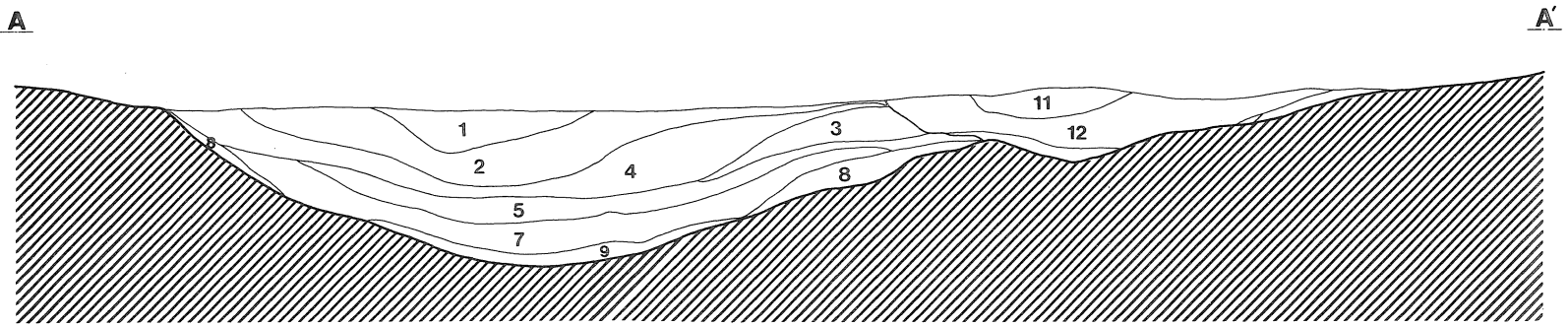


第160図 SD-1 土層断面

SD-1 土層説明

- 1層 暗褐色土 (多量のローム粒子を含む)。
- 2層 黄褐色土 (粘質のロームブロックを主体とする)。
- 3層 黒褐色土 (5 mm前後の暗赤褐色の斑文が多く見られる)。
- 4層 黒色土 (微細なローム粒子を含む)。
- 5層 黒褐色土 (4層に類似するがローム粒子が多い)。
- 6層 黄褐色土 (ロームを中心に構成される)。
- 7層 暗褐色土 (粘土、微砂が混入し、ローム粒も含む)。
- 8層 暗褐色土 (7層より粘土、砂粒が多く、下面は赤化している)。
- 9層 褐色土 (ローム粒を多く含みザラツとしている)。
- 10層 黒褐色土 (3層に類似するが、やや明るい)。
- 11層 黄褐色土 (ロームを多く含む、6層と比べて、明るく、硬い)。
- 12層 褐色砂泥 (砂粒を多く含む)。
- 13層 暗褐色土 (3層に類似するが、斑文はなく、ローム粒が多く、ザラツとしていて9層に近い)。

明度 4 > 3 = 10 > 5 > 7 > 1 > 8 > 13 > 9 > 12 > 6 > 11



第161图 SD-2土層断面

#### 向遺跡基本土層

- I 層 暗褐色土 (耕作土層、Aテフラを少量含み、パサパサしている)。
  - II 層 褐色土 (I、IIと比べ、硬くしまっている。多量のローム粒と、少量のテフラを含む)。
  - III 層 暗褐色土 (多量の浅間山系テフラを含むほか、微量のローム粒、炭化物粒を含む)。
  - IV 層 暗茶褐色土 (少量の炭化物、赤色粒、ローム粒を含み、テフラは層の上端に散見される)。
  - V 層 黒褐色土 (微細なローム粒を少量含み、しまっている)。
  - VI 層 灰褐色土 (VIIブロックを多量に含み、粘質でしまっている)。
  - VII 層 黄褐色土 (ハードロームに近く、粘質である。ハードロームの水没か)。
- 明度 V > III > I > IV > VI > II > VII

#### SD-2 土層説明

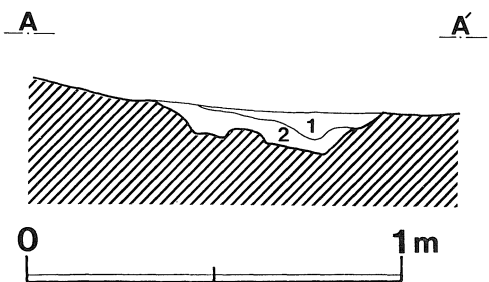
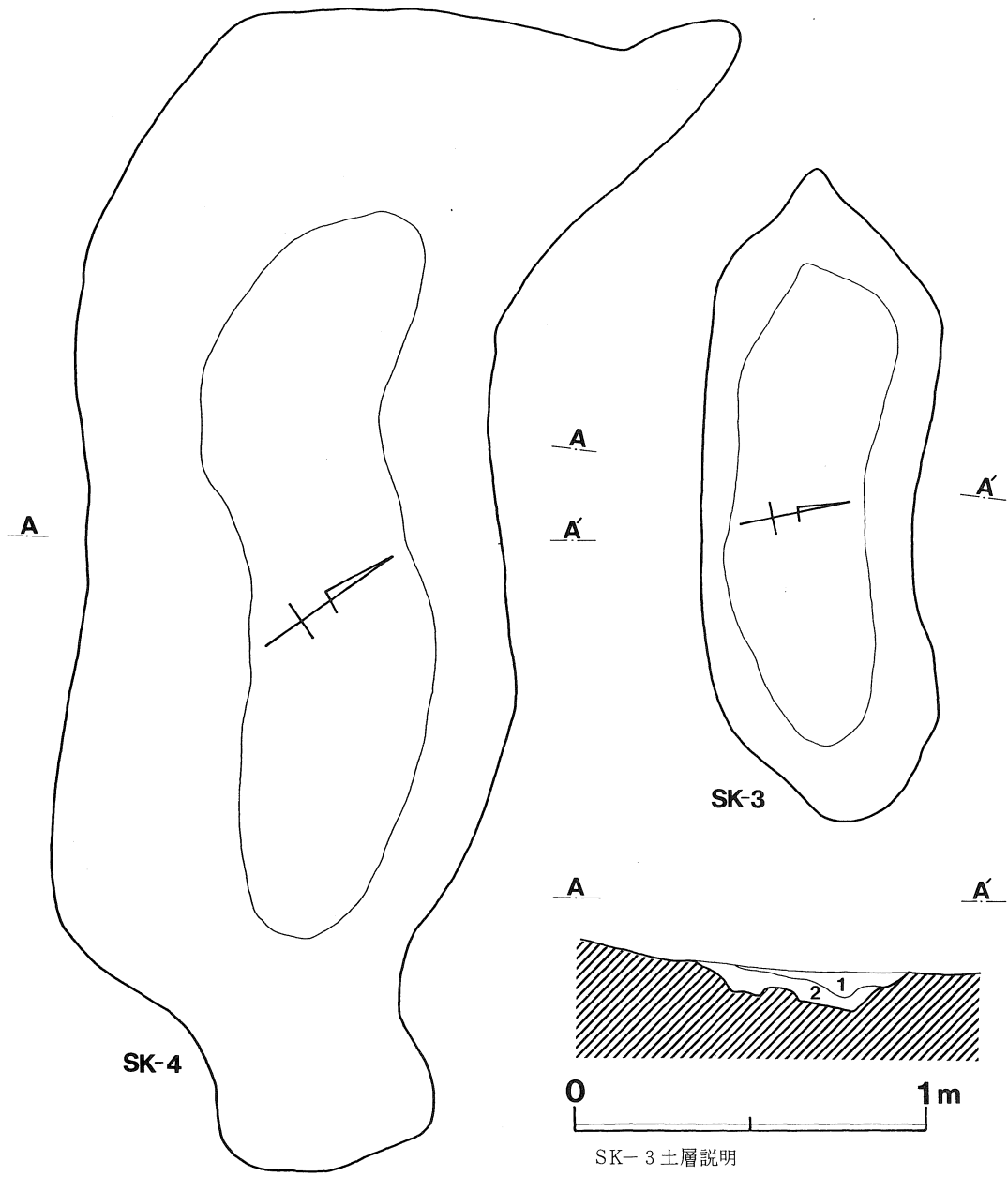
- 1 層 黒褐色土 (微量のローム粒を含み、均質である)。
  - 2 層 黄褐色泥砂 (水性の砂粒とローム粒を多量に含む)。
  - 3 層 暗褐色泥砂 (2層と灰褐色微砂を主体とする)。
  - 4 層 灰褐色泥土 (灰褐色微砂を少量含む)。
  - 5 層 暗褐色泥土 (少量の黄褐色泥砂と灰白色粘度を含み、粘質である)。
  - 6 層 黄褐色砂泥 (2層に類似するがロームが主体となる)。
  - 7 層 黒褐色泥土 (粘質で黒色を呈し、灰褐色微砂が混入している)。
  - 8 層 黄褐色砂泥 (6層に類似するが、灰褐色粘土が多量に含まれている)。
  - 9 層 黄灰色砂泥 (地山土より砂が多い)。
  - 10 層 暗褐色砂泥 (1層と2層が混じっている)。
  - 11 層 黒褐色土 (1層に対応する)。
  - 12 層 黄褐色泥砂 (2層に対応する)。
  - 13 層 黄褐色砂泥 (6層に対応する)。
  - 14 層 灰褐色泥土 (4層に対応する)。
- 明度 7 > 1 > 5 > 4 > 10 > 3 > 9 > 8 > 2 > 6

#### SD-3 土層説明

- 1 層 暗褐色土 (ローム粒を含み、しまっている)。
  - 2 層 褐色土 (ローム粒を多量に含む)。
  - 3 層 灰褐色土 (粘質で、SD-2と対応がある)。
  - 4 層 黒褐色土 (粘質で、SD-2と対応がある)。
  - 5 層 褐色土 (2層に類似するが、ロームが多い)。
  - 6 層 褐色土 (5層に類似するが、粘質で砂粒を含む)。
- 明度 4 > 1 > 3 > 5 > 6 > 2

#### SD-4 土層説明

- 1 層 黒褐色土 (微量のローム粒を含み、均質である)。
  - 2 層 黄褐色泥砂 (水性の砂粒とローム粒を多量に含む)。
  - 3 層 暗褐色泥砂 (2層と灰褐色微砂を主体とする)。
  - 4 層 灰褐色泥土 (灰褐色微砂を少量含む)。
- 明度 1 > 4 > 3 > 2



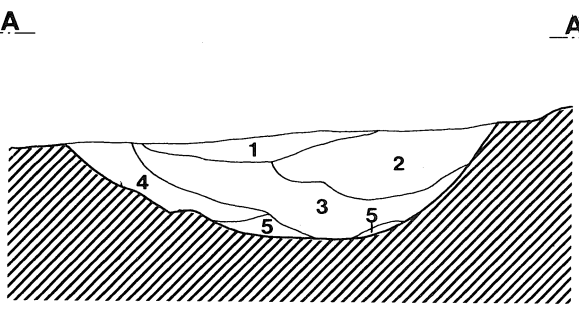
SK-3 土層説明

- 1層 黒褐色土層 (ローム粒子を少量含む)。
- 2層 褐色土層 (ロームブロックを多量に含む)。

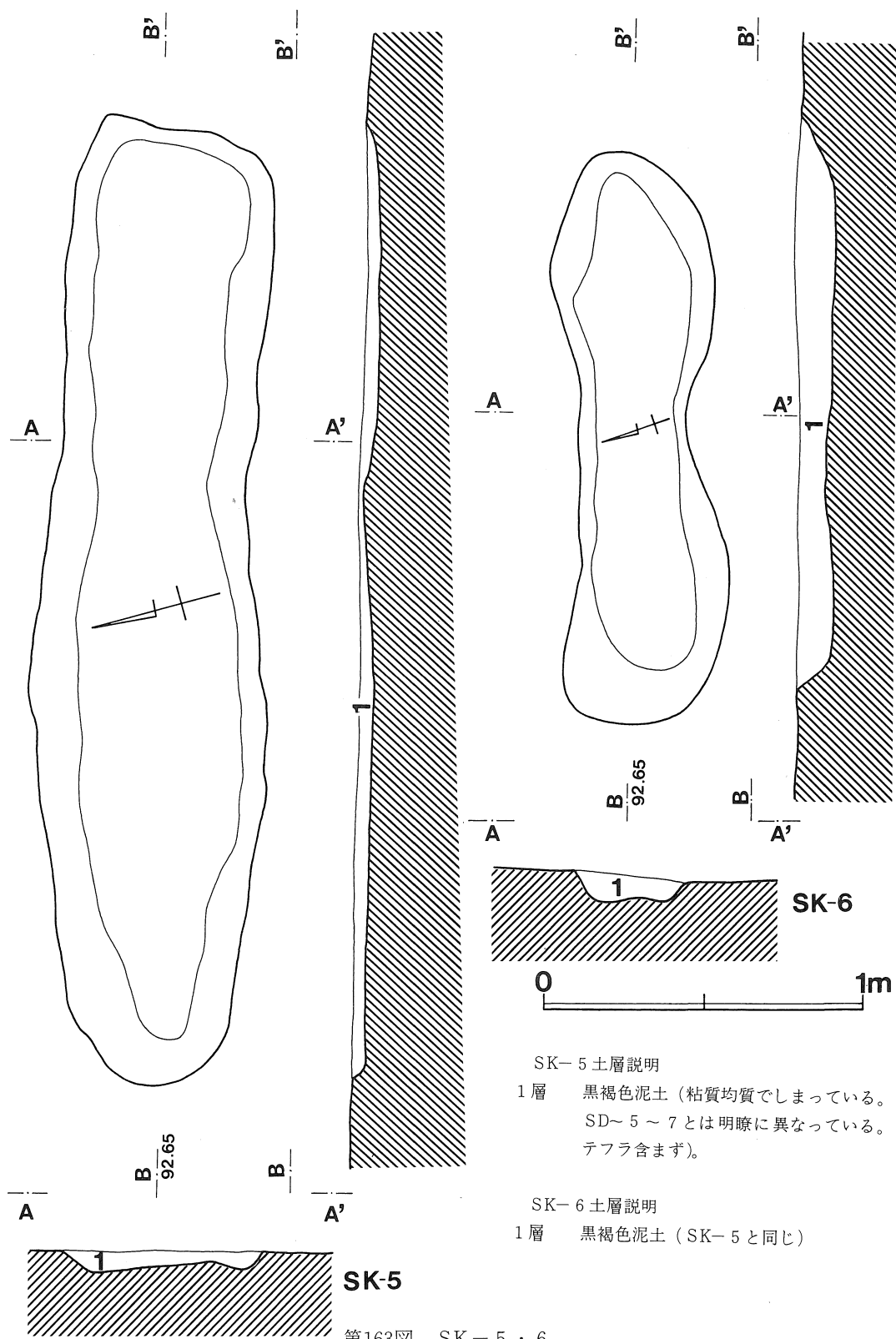
SK-4 上層説明

- 1層 暗褐色土層 (褐色微砂を多量に含む)。
- 2層 黒褐色土層 (均質でしまっている)。
- 3層 暗褐色土層 (灰褐色粘土粒・微砂を含む)。
- 4層 褐色土層 (ローム粒、微砂を多量に含む)。
- 5層 黄褐色土層 (ロームブロック、ローム粒を含み、粘性に富んでいる)。

明度 2 > 1 > 3 > 4



第162図 SK-3・4



SK-5 土層説明

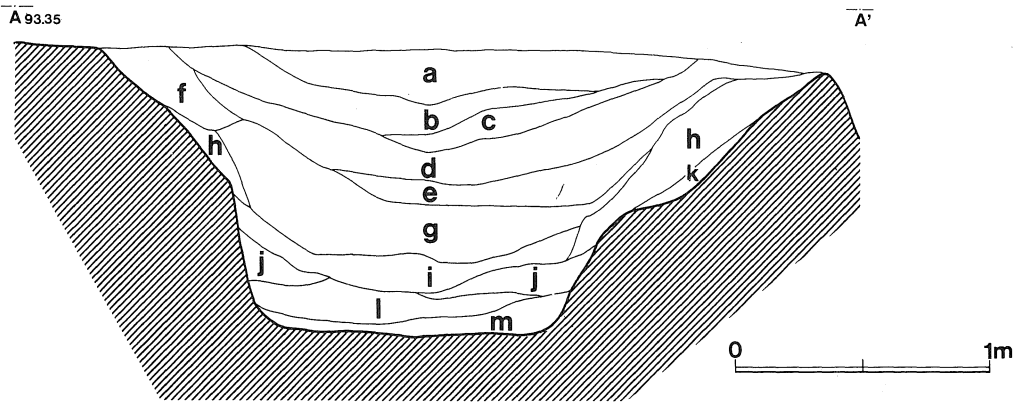
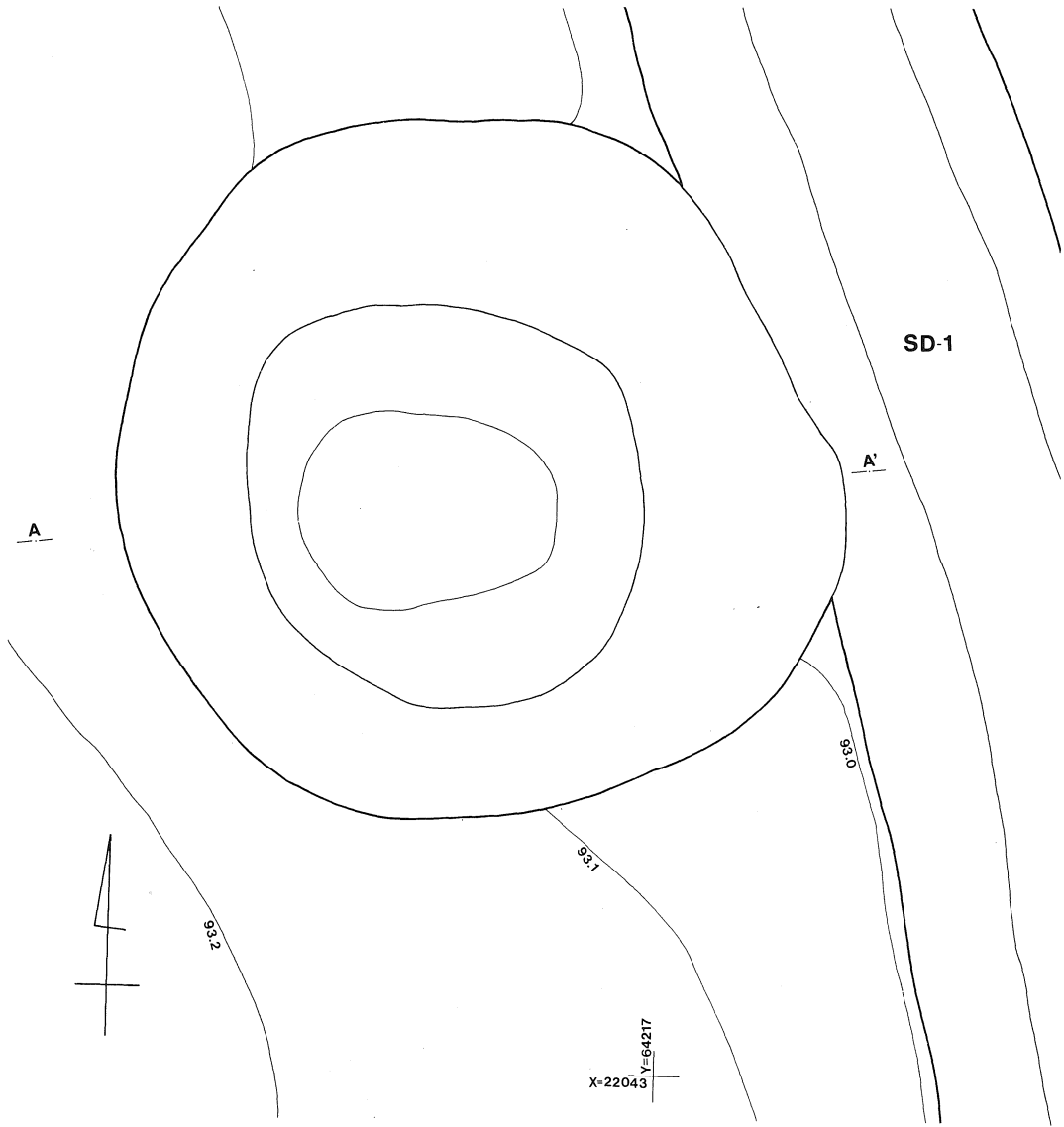
1層 黒褐色泥土 (粘質均質でしまっている。SD-5~7とは明瞭に異なっている。テフラ含まず)。

SK-6 土層説明

1層 黒褐色泥土 (SK-5と同じ)

第163図 SK-5・6

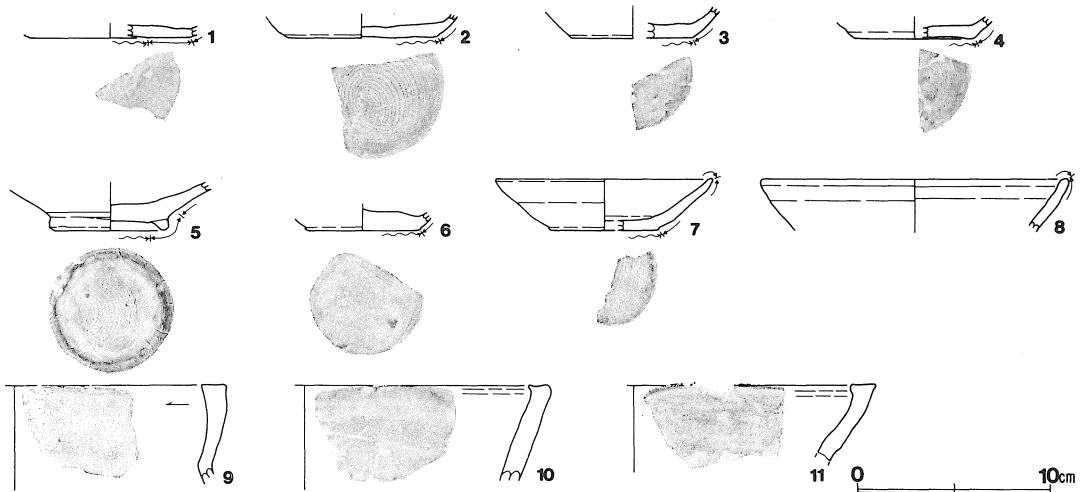




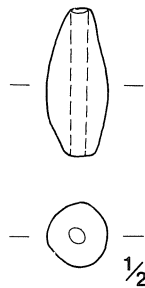
第164図 井戸 SE-1

SE-1 土層説明

- a層 黒褐色土層（少量のローム粒子を含み、軟かい）。
- b層 黒褐色土層（ローム粒子、ブロックを多く含み、斑状になっている）。
- c層 暗褐色土層（粘土粒を少量、ロームブロックを多量に含む）。
- d層 暗褐色土層（ローム、粘土ブロックを多量に含み、斑状になっている）。
- e層 黒色土層（少量の粘土ブロックを含み、均質である）。
- f層 暗褐色土層（g層に類似するが、粘土の割合が少ない）。
- g層 灰褐色粘土（粘土中に少量のローム、黒色土を含む。全体にブロック状でゴロゴロしている）。
- h層 黒褐色土層（ローム粒子がまばらに見られる。軟かい）。
- i層 暗茶褐色土層（ローム、粘土、黒色土の各ブロックが、斑状をなし、硬くしまっている）。
- j層 黄褐色土層（ロームブロック、ローム粒子の中に少量の黒色土を含む）。
- k層 黄褐色土層（j層に類似するがロームが、より多い）。
- l層 暗褐色土層（ロームブロックを含み、粘土粒が少なく、硬くしまっている）。
- m層 褐色土層（ロームブロックを多量に含む）。
- n層 黒褐色土層（h層に類似している）。



第165図 向遺跡出土土器



第166図  
M-8-a 層出土土錘

円良岡遺跡

## 第7章 円良岡遺跡の概要

### 調 査

本遺跡は、「埼玉県文化財包蔵地台帳」の(児玉町—No.270)に相当し、その地区の小字名より円良岡遺跡と呼称する。調査対象面積は、調査開始当初、本遺跡のほぼ全域にあたる約6,000m<sup>2</sup>であった。しかし調査の途上、圃場整備計画の変更があり、調査対象区全域にわたる遺構には、当該工事および施工後の耕作の影響が及ばないことが確認されたため、その時点までに検出されていた遺構(約1,000m<sup>2</sup>)について重点的に調査を行った。本遺跡は、調査前には平安時代集落跡と推定していた。しかし、調査の結果、本遺跡に分布する国分式土器は、本遺跡西側に存在する十二天遺跡(233ページ参照)から流出した土器が本地点に再堆積したものであることが判明した。本遺跡の遺構(水田址)は、この国分式土器の包含層の下部にあたる砂礫層の直下から検出された。この砂礫層は、洪水による比較的短期間の堆積であると考えられる。

検出された遺構は、水田址22枚、土壇4基および溝状遺構2址であり、S D—1を除く遺構は、前述の砂礫層が被覆している。

### 水田遺構

検出された水田面は、南西から北東に順次低くなる傾向があり、最大比高差は約32cmを測る。水口は不明瞭であるが、ほぼこの水田面比高差の傾斜に沿った用排水系統が想定されよう。水田の規模は、完掘した2枚からみると南北約8.5m、東西約12.2mである。水田は方位をN—8°—Eにとり、現存の条里型水田遺構の方向に類似する。

水田面のほぼ全面に残る所謂「足跡」状ピットは、足跡に類似するものも認められるが明確な根拠は無く、その成因については今後の検討が必要であろう。

### 土 壇

土壇S K—1～4(第168図)は、それぞれV・VI層類似の砂礫層を覆土としているため水田と同時期ないしは、水田の埋没過程で掘られたものと考えられる。土壇が畦畔の方向とは無関係に掘られているところから、後者である可能性もあろう。しかし、これらの性格、用途については明らかではない。

### 溝状遺構

溝状遺構S D—1は、ほぼ水田畦畔に平行するように南北に走り、幅約80cm、深さ約25cmを測る。この溝は、土層断面の観察によるとVI層を切って開削されており、また覆土中に砂礫の非常に少ないことから、水田埋没後のものであると考えられる。

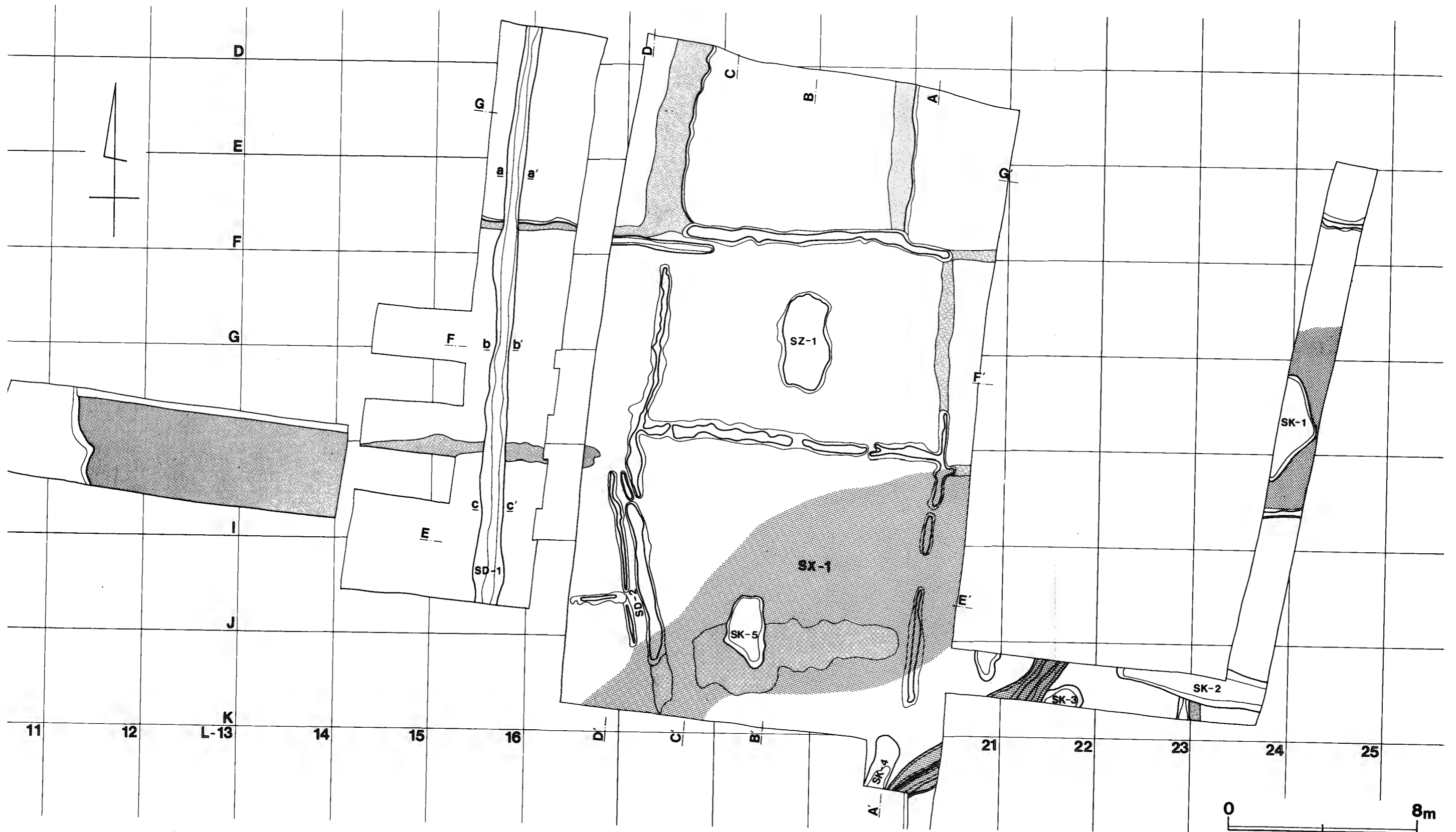
溝状遺構S D—2は、2本の畦畔に挟まれた溝で、掘り込みをもたない。水田址と同時期と考えられるもので、用水路と考えられる。

溝状遺構S D—3は、水田面と同一面で検出されたものであるが、その走向は畦畔の方向とは異なり、底面には水流の痕跡と考えられる鉄分の沈澱層が認められる。

S X—1は、鉄分の沈澱面であり、洪水による一時的な自然の流路と考えられる。  
(鈴木徳雄)

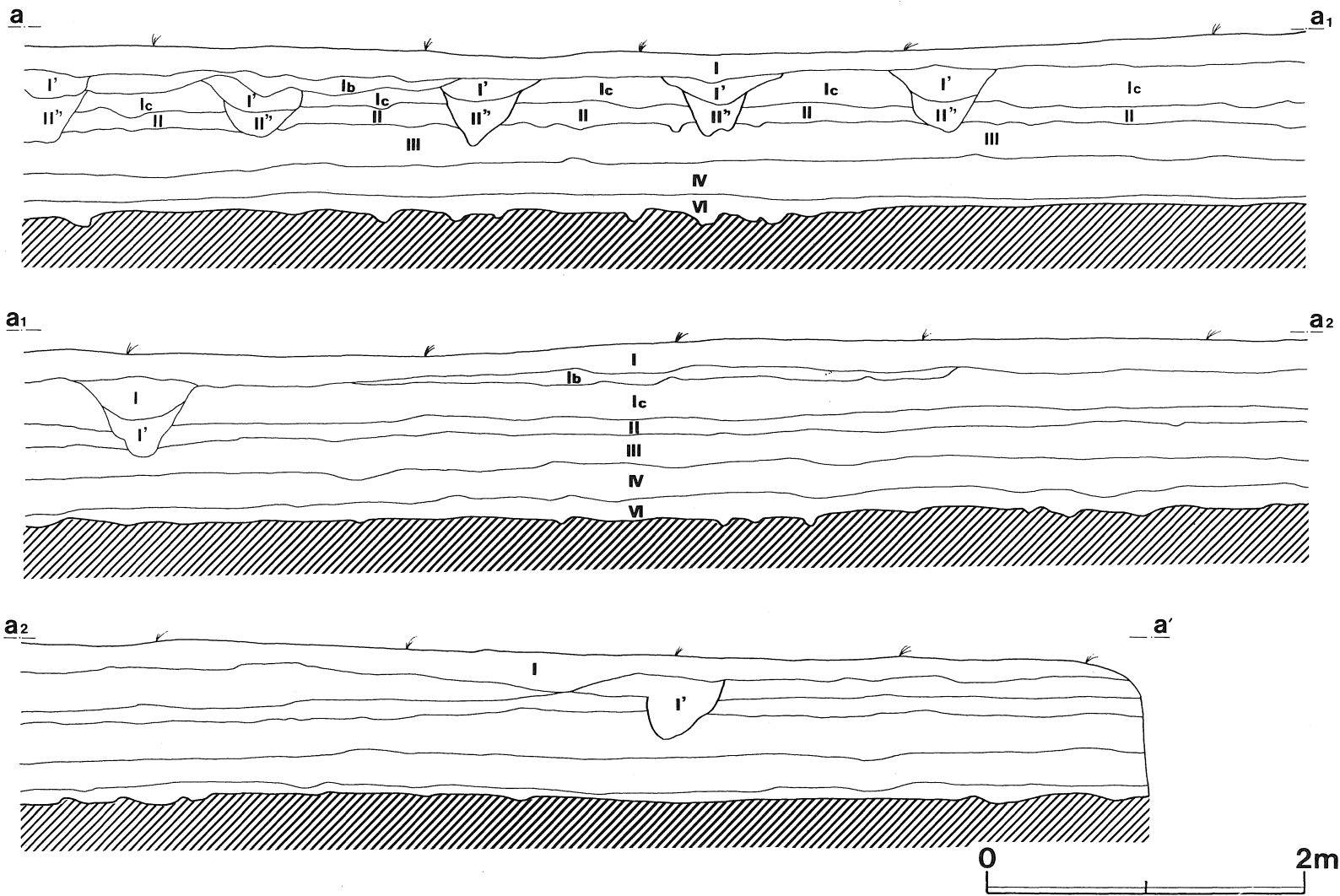
第167図 円良岡遺跡調査対象区と調査層位

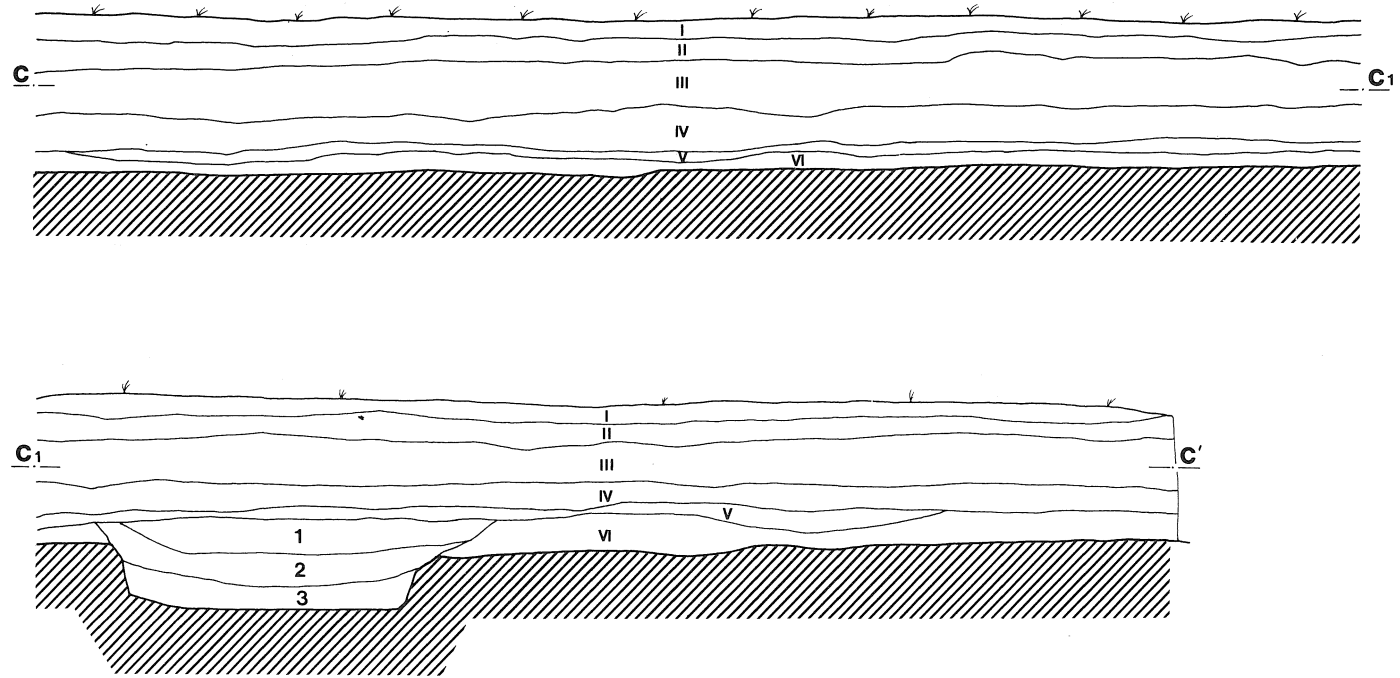




第168図 円良岡遺跡全測図

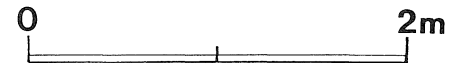
第169图 西壁 (a— a'') 土层断面





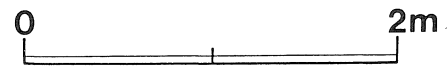
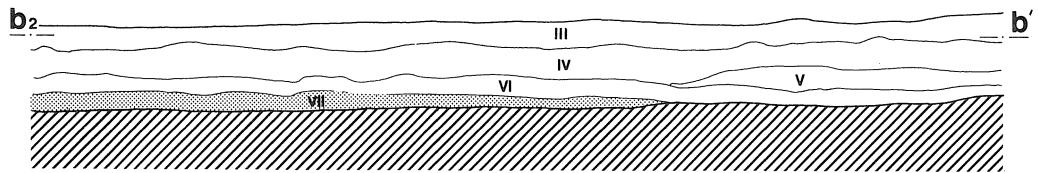
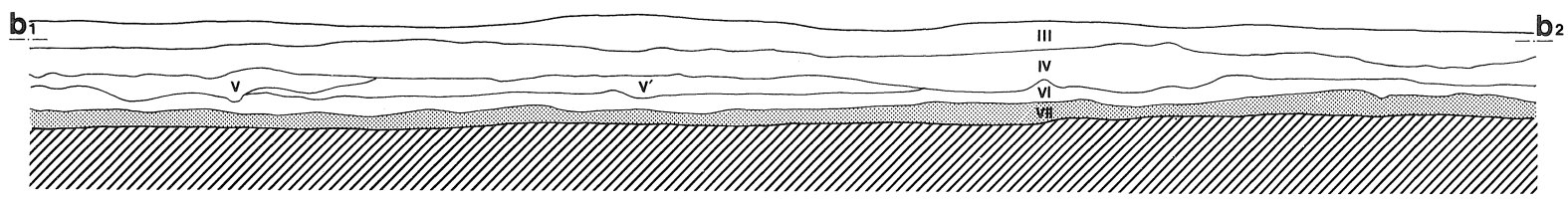
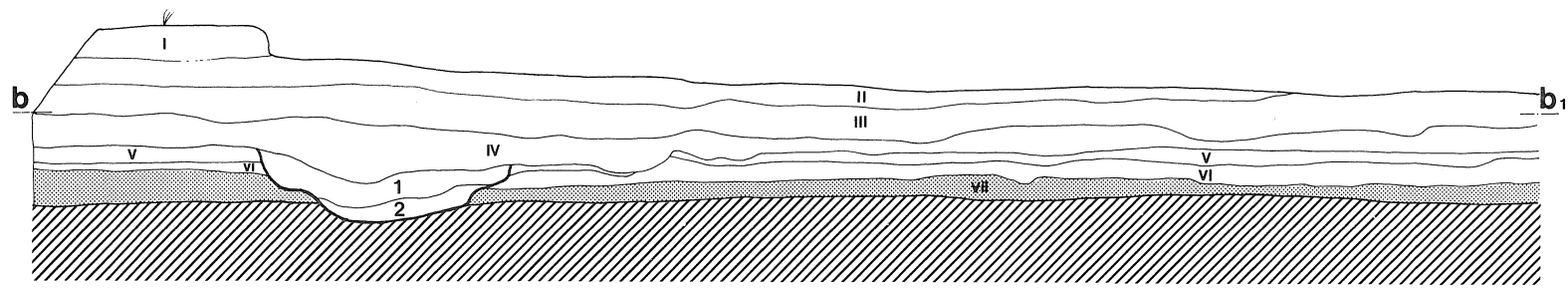
S K - 3 土層説明

- 1層 暗褐色砂礫 (0.5~2 cm大の砂礫が主体で、VIに類似する。)
- 2層 暗褐色砂礫 (0.5~1 cm大の砂礫が主体で、VIに類似する。)
- 3層 暗褐色砂礫 (1~5 cmの礫が主体で、VIに類似する。)
- ※ 1~3層は境界が漸移的で不明瞭である。



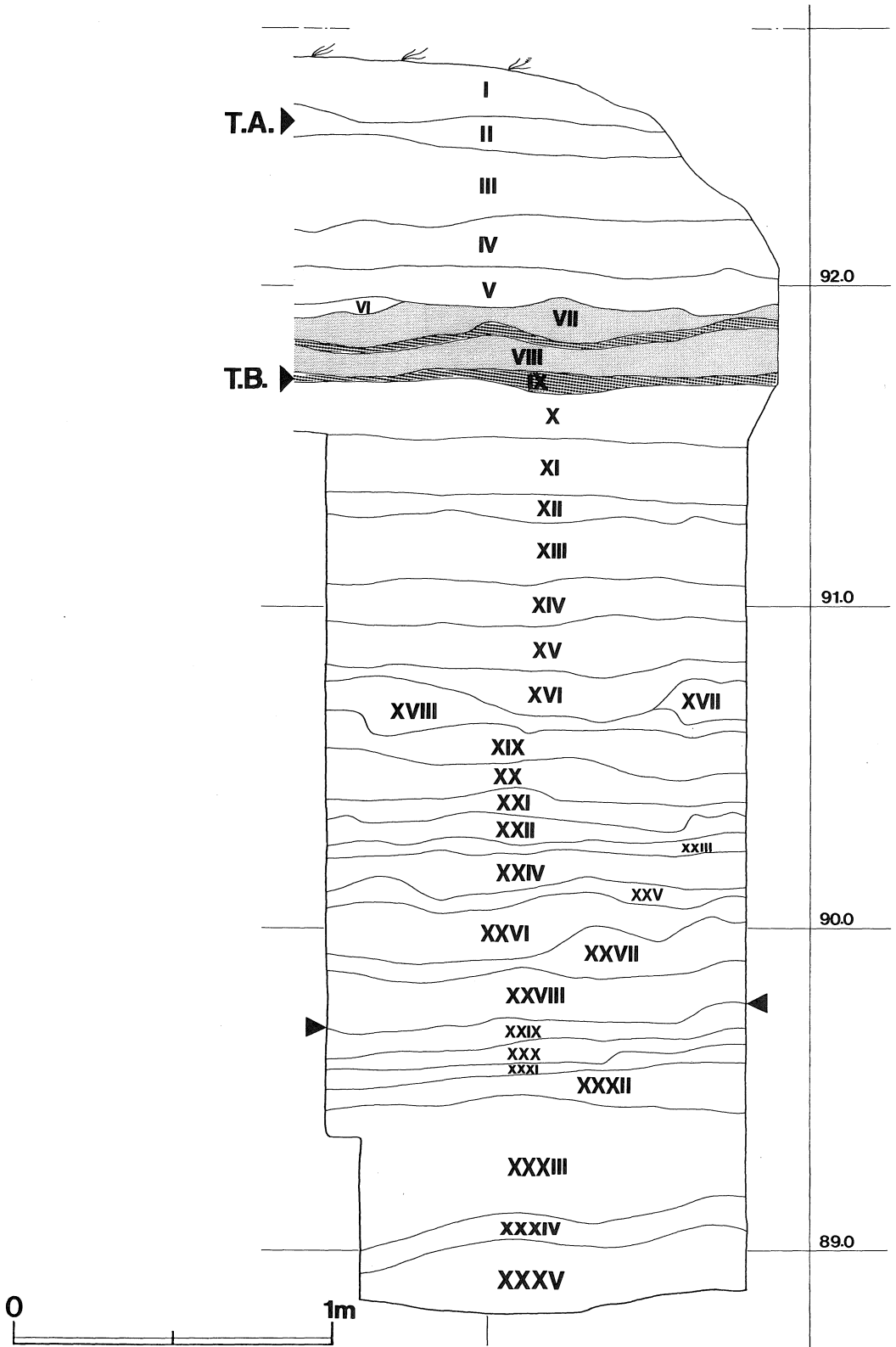


第171图 南壁 (b—b') 土层断面

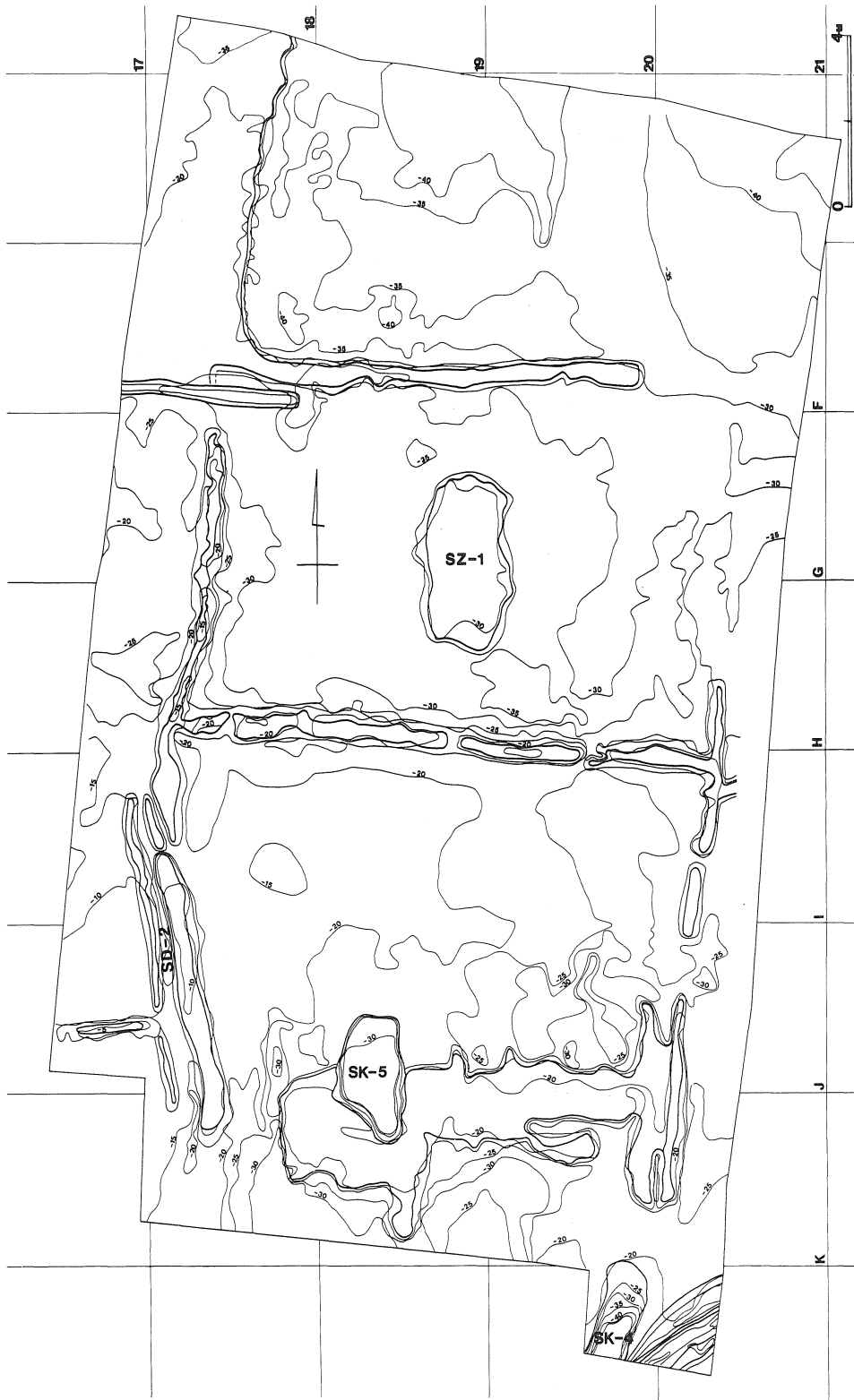


## 円良岡遺跡基本土層

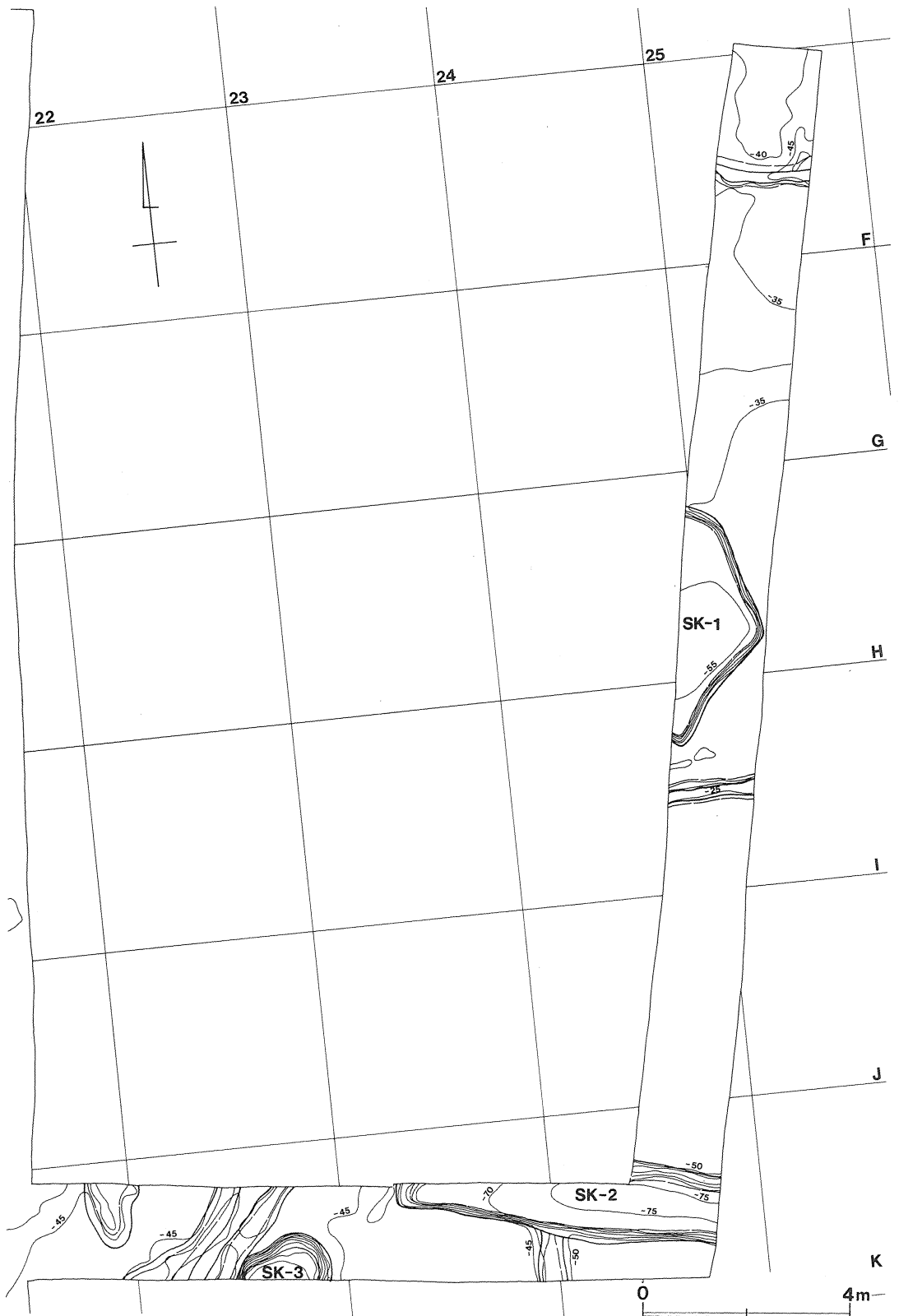
- I 層 暗褐色砂泥 (0.5~3 cm の小礫を多く含み、炭化物も含む。軟かい。→耕作土層)。
- II 層 暗褐色砂泥 (I 層より礫が少なく、暗い。浅間 A テフラを多く含む。→耕作土層)。
- III 層 暗褐色砂泥 (I、II 層より明るく、砂礫が多い。焼土粒、炭化物粒、近世遺物を含む→耕作土層)。
- IV 層 黄褐色泥土 (少量の砂礫を含み微砂も含む。硬くしまっていて染付は含まない。→荒地)。
- V 層 暗褐色砂礫 (片岩質の0.5~5 cm 大の砂礫によって構成され、ところにより、鉄斑の入る暗茶褐色土の多い箇所がある。→荒地で、氾濫以後の荒川時期堆積層である)。
- VI 層 暗褐色泥砂 (微砂、砂、小礫、VII 層類似土で構成される。→一次氾濫層。鉄斑は少ない)。
- VII 層 暗茶褐色泥土 (層の全体に幅 5 mm 程の鉄斑が見られる。微砂を含むが砂礫は含まず、粘質である。水田耕作土 I)。
- VIII 層 暗茶褐色泥土 (VII 層と同様の鉄斑を含むが、VII 層より少なく、やや暗い色を呈し、同様の粘質土であるが、VII 層との境界は明瞭である。→水田耕作土)
- IX 層 暗茶褐色砂泥 (鉄斑があり、B テフラを多量に含む。→耕作土ではない)。
- X 層 暗灰色粘土 (VI~IX 層より大型の鉄斑がある。上端の 1~2 cm は黒色に漸移的に変化する。乾燥すると、クラックが入る。→水田耕作土層か。上面は鉄分の凝集が認められる)。
- XI 層 暗灰色粘土 (X 層よりやや暗く、その境界は不明瞭、漸移的であり、X 層より鉄斑がやや多い)。
- XII 層 暗茶褐色粘土 (境界は漸移的で鉄斑を最も多く含むが、薄く、広がった鉄分凝集も見られる)。
- XIII 層 暗茶褐色粘土 (2 mm 前後の鉄斑を少し含むが、軟かく、緻密であり、雑物を含まない)。
- XIV 層 黒茶褐色粘土 (ほとんど鉄斑を含まず、硬くしまっている)。
- XV 層 黒茶褐色粘土 (白~褐色テフラを多く含み、上下層との境界は比較的明瞭である)。
- XVI 層 混土テフラ (白~褐色テフラに XV 層の土を含み、ザラザラしている。→F P とと思われる)。
- XVII 層 黄褐色粘質土 (XVI 層と同様のテフラを多く含み、粘質である。→F P の粘土化と思われる)。
- XVIII 層 黄褐色粘質土 (XVII 層に類似するが、明確にテフラとわかるものは少ない)。
- XIX 層 暗灰色粘土 (XVII 層より見られる根腐触斑が多くなり、少量のテフラを含む)。
- XX 層 暗灰色粘土 (XIX 層より明るく、テフラを含まない。境界は漸移的である)。
- XXI 層 暗灰色粘土 (XX 層と XXII 層が斑点状に混っており、上下境界は比較的明瞭である)。
- XXII 層 暗褐色泥砂 (褐色~白色テフラが主体で、黒色土が混入している)。
- XXIII 層 灰色粘土 (混入物が少なく、比較的均質である)。
- XXIV 層 灰褐色テフラ (薄い灰色粘土層が入っている)。
- XXV 層 黒褐色粘土 (均質でしまっている)。
- XXVI 層 黒褐色粘土 (XXVII 層にテフラを含み、境界は明瞭である)。
- XXVII 層 暗褐色混土テフラ (粒子は細かく、粘質土が混っている)。
- XXVIII 層 黒灰色テフラ (粒子は細かく純層を成す。浅間山系のテフラである)。
- XXIX 層 泥炭 (木片、草根等が泥炭化し、粘性は強い)。
- XXX 層 黄灰白色テフラ (粒子の細かい、均質な純層である)。
- XXXI 層 下部泥炭 (XXIX 層に類似するが全体に細かく、炭化材が少なくなる)。
- XXXII 層 暗褐色粘土 (XXXI 層との境界は明瞭とはいえないが、層自体は異なり、粘土に XXXI 層が混入したものであろう)。
- XXXIII 層 青灰色粘土 (均質で、混入物が少ない)。
- XXXIV 層 青灰色砂泥 (青灰色粘質土の中に、多量の雲母片岩粒を含む)。
- XXXV 層 暗灰色泥土 (粘土化は進んでいるが、粒子は粗い。XXXIV 層ほど砂礫を含まないが、砂粒が混入している)。
- 明度 土層が多いため I~X について行う。  
 X > VIII > VII > IX > VI > II > V > I > III > IV  
 XXXI > XXIX > …… XXX > XIX > XX



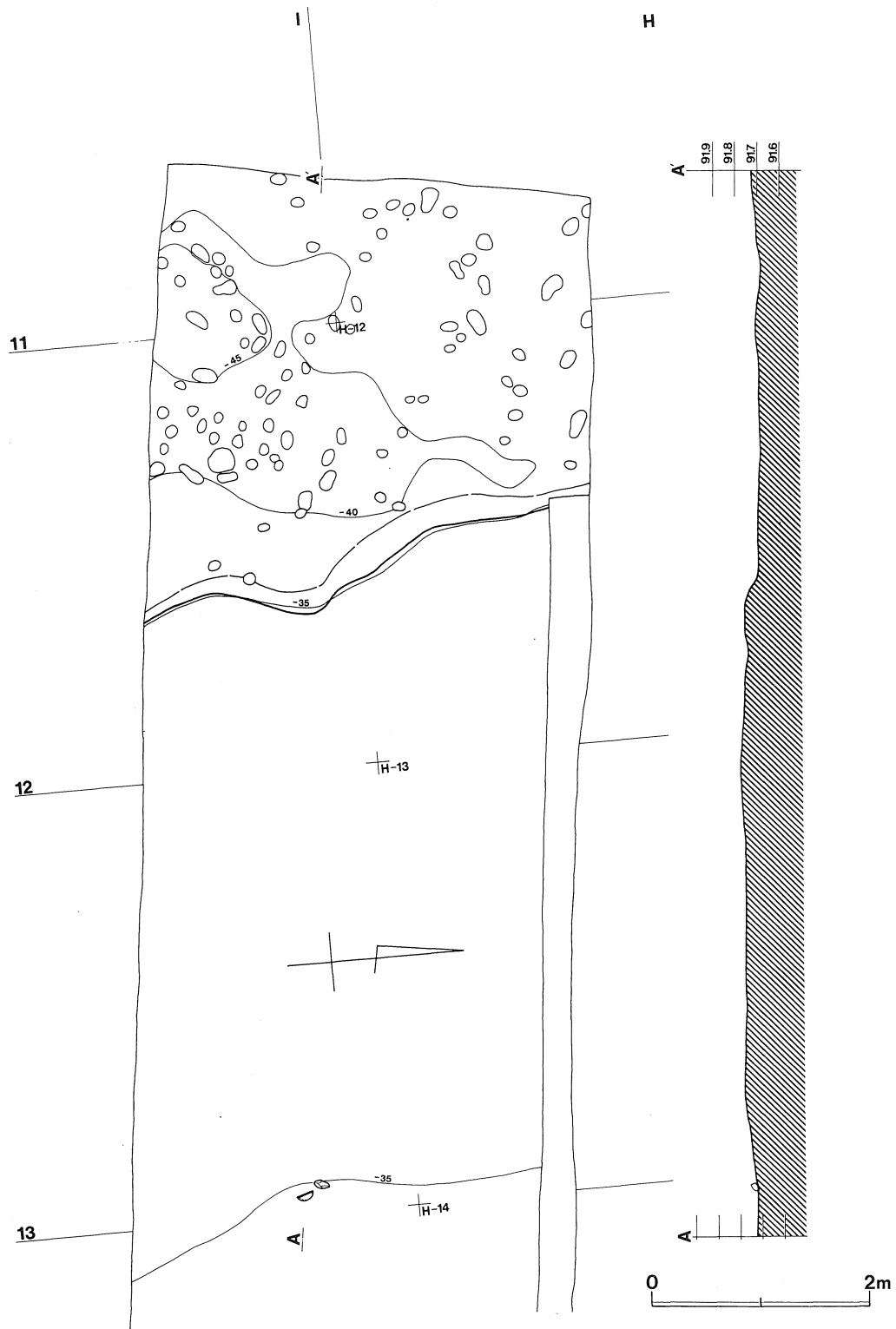
第172図 円良岡遺跡基本層序



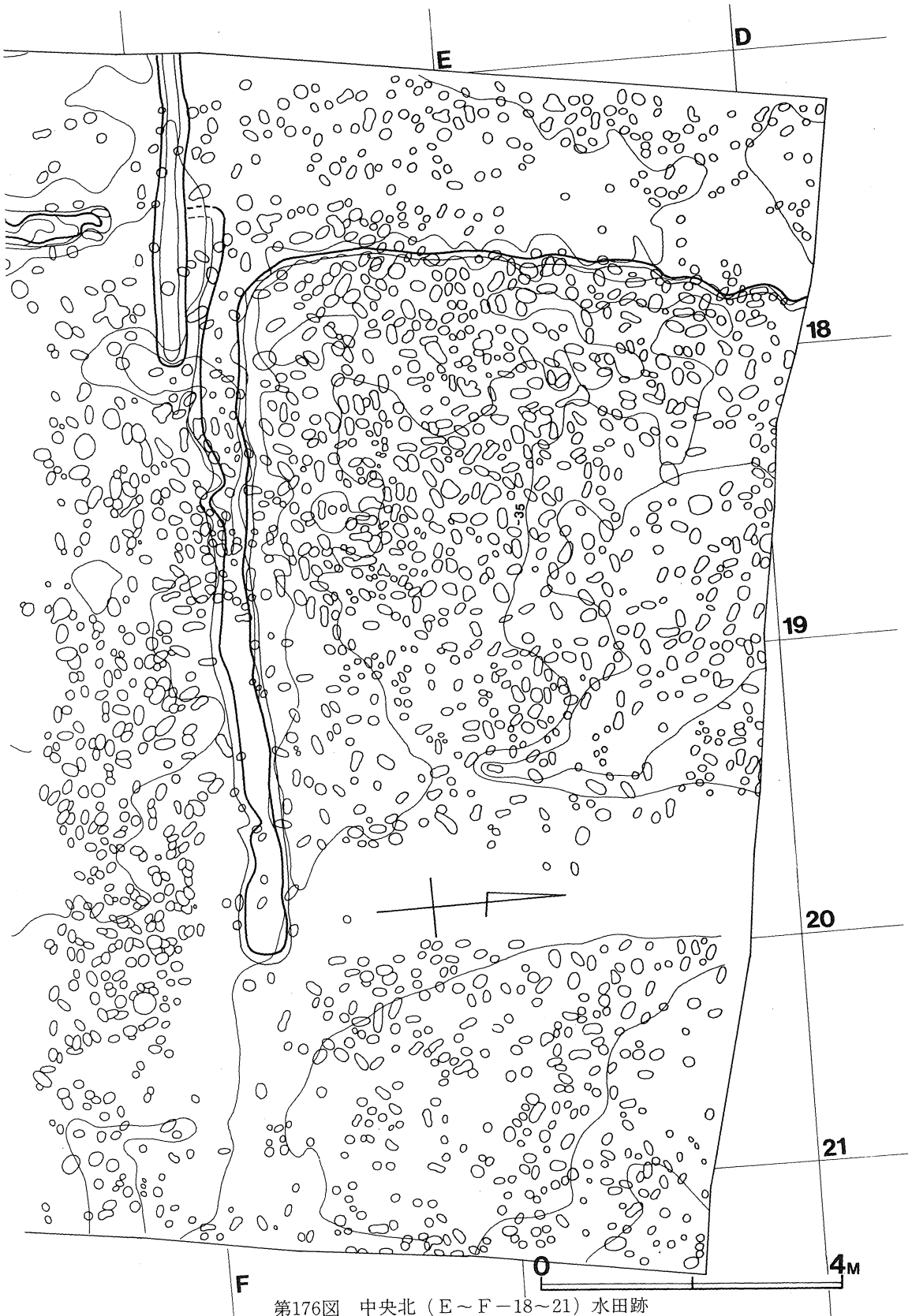
第173图 中央発掘区 (D~J-18~21区)



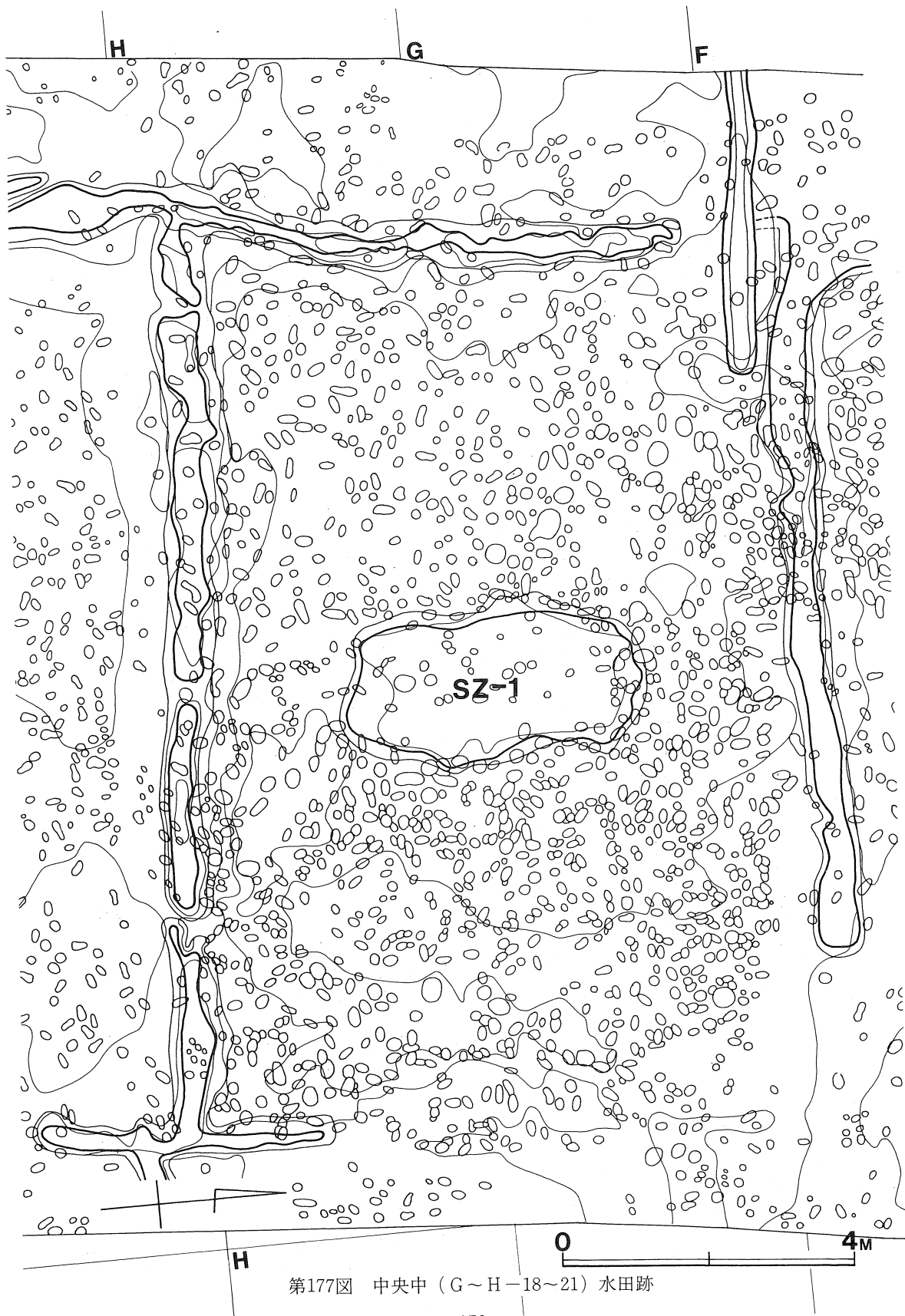
第174図 東側発掘区 (F ~ K - 21 ~ 25区)



第175図 西側発掘区 (H~I-12~14区)

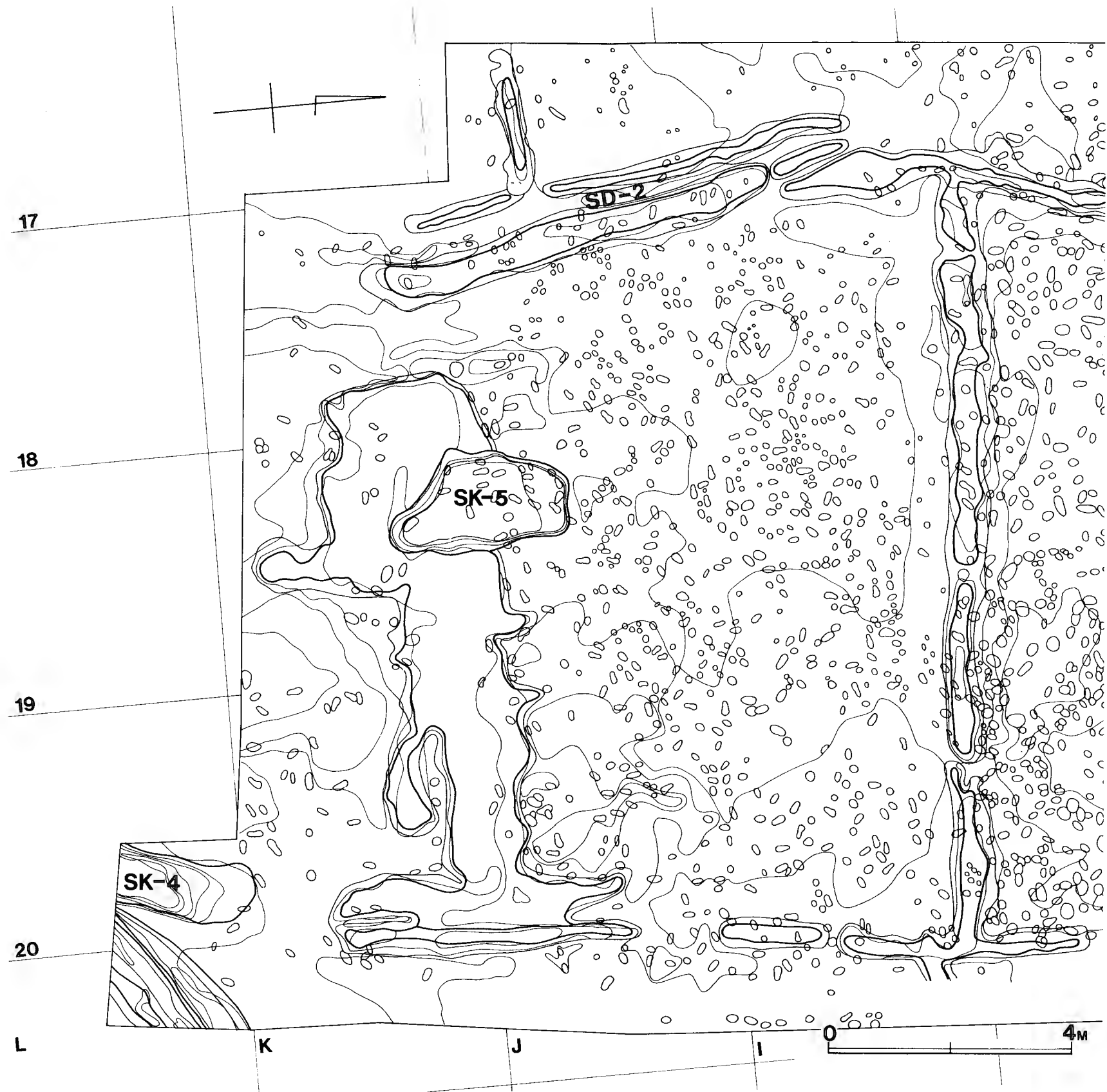


第176図 中央北 (E~F-18~21) 水田跡



第177図 中央中 (G~H-18~21) 水田跡

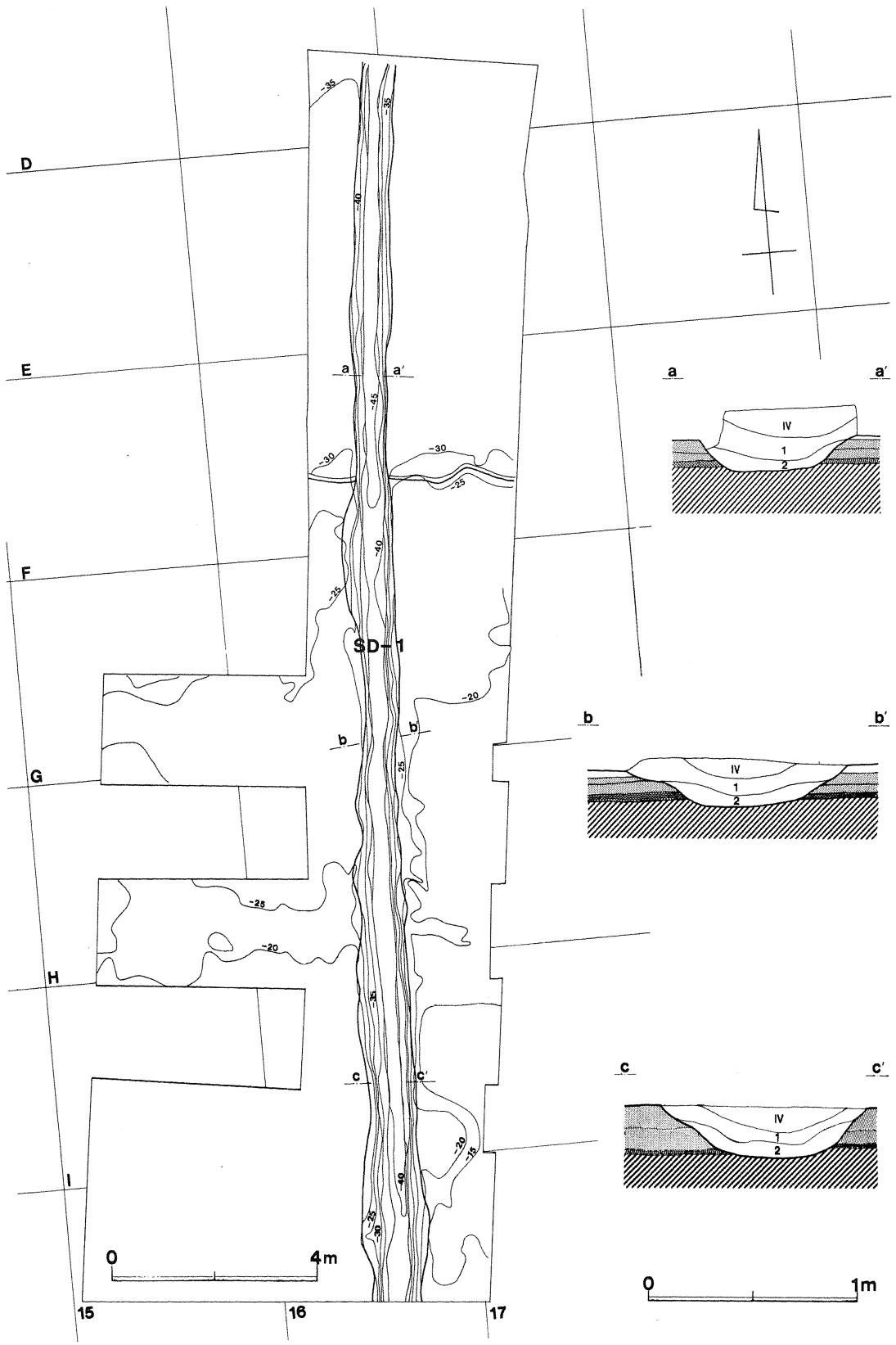




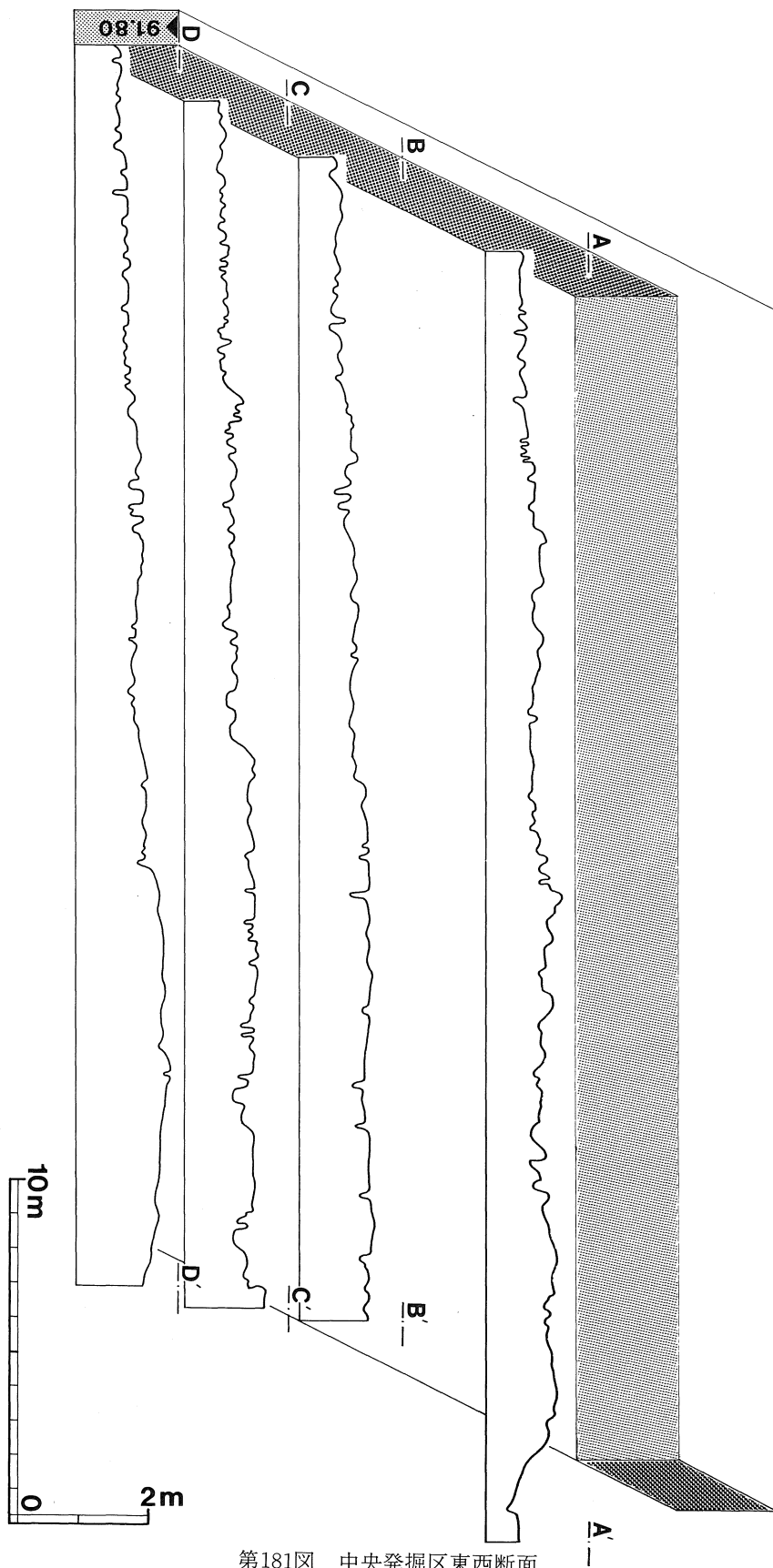
第178図 中央南 (I~J-18~20) 水田跡



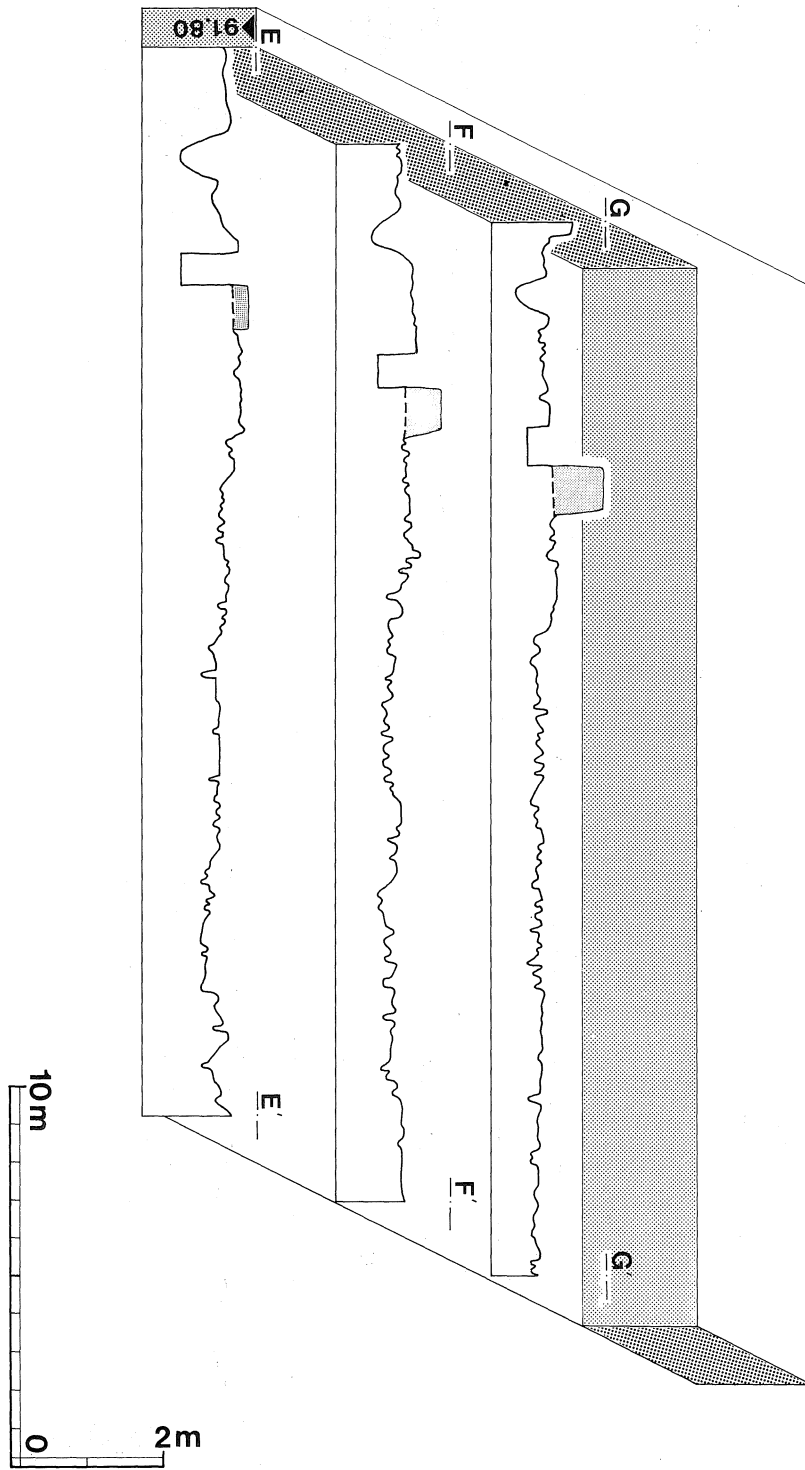
第179図 西側発掘区 (D~J-15~17) 水田跡



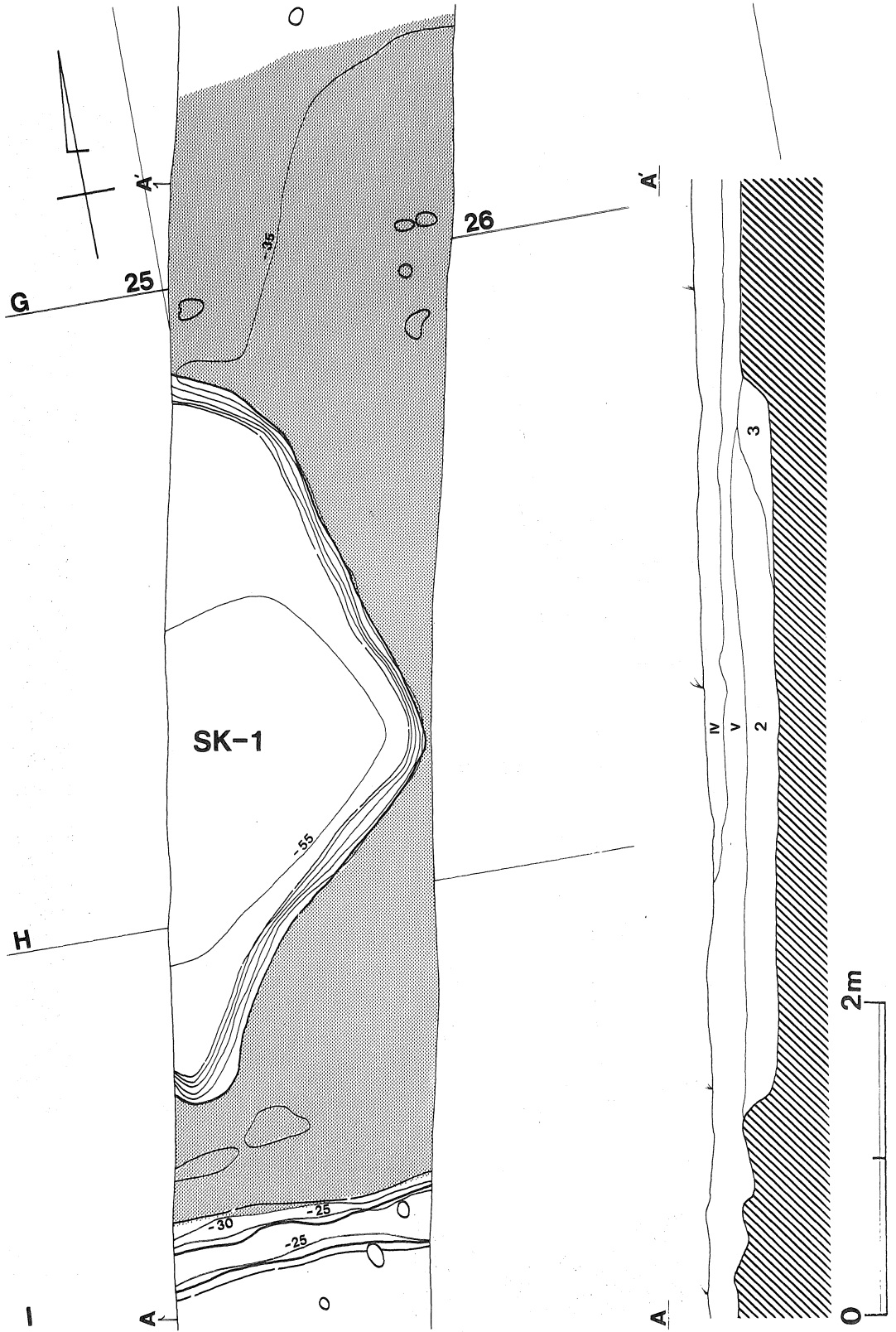
第180图 SD-1



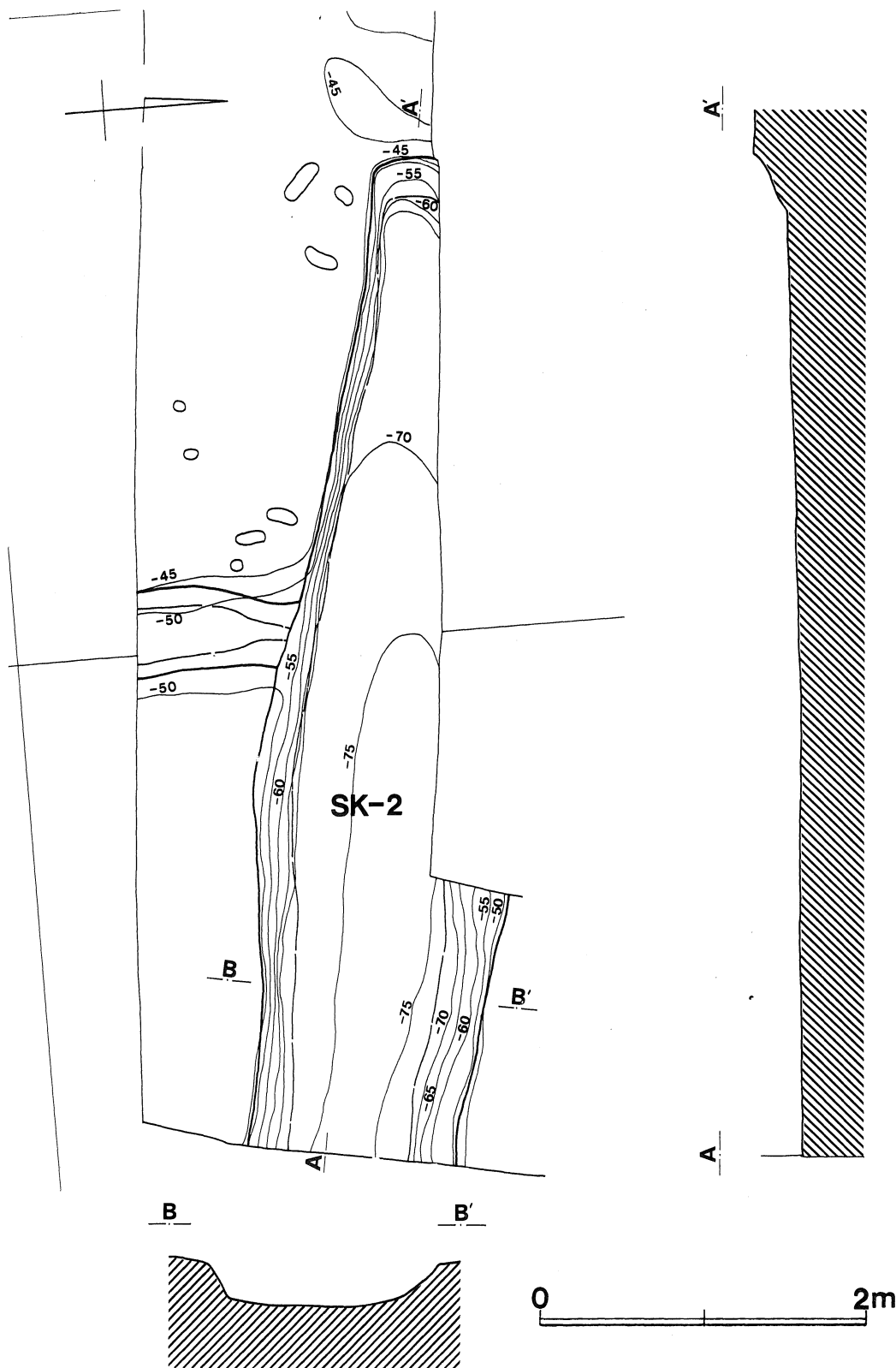
第181图 中央発掘区東西断面



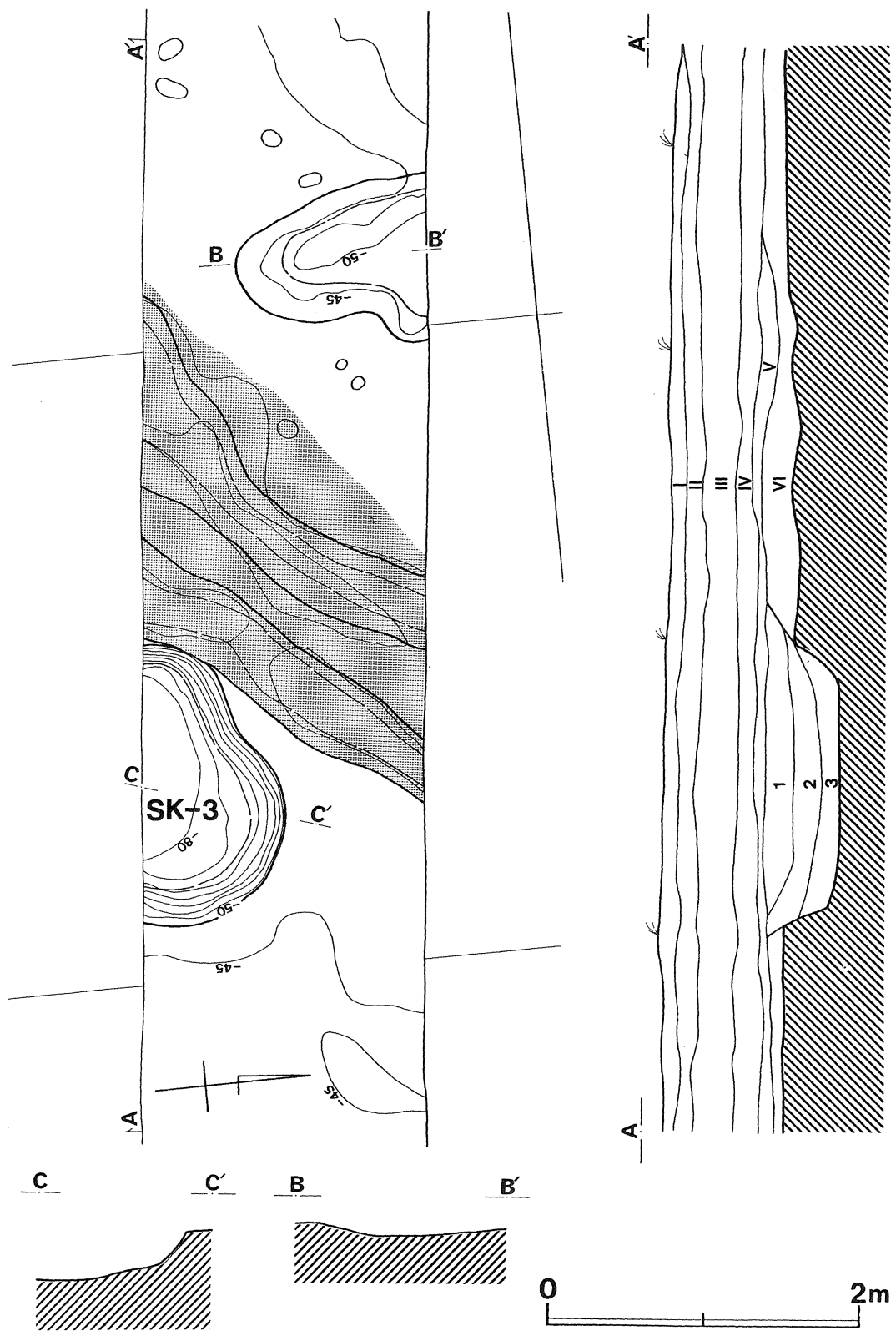
第182図 中央発掘区水田跡東西断面



第183图 SK-1



第184図 SK-2



第185图 SK-3



# 一町田遺跡

## 第8章 一町田遺跡の概要

### 調査

本遺跡は、「埼玉県文化財包蔵地台帳」の(児玉町-No.272)に相当し、調査地点の小字名から一町田遺跡と呼称する。調査対象区は、幹線排水路開削および水田化に伴って削平される約1,380m<sup>2</sup>である。本遺跡は、その大半が西方に存在し、それらは表土範囲の施工ないしは盛土施工のためほぼ旧状を保っている。

本遺跡は、調査前に畑地と水田が交錯しているため、過去の開発による削平が予想されていた。調査の結果、現水田端部に浅間山系A軽石の純層が存在し、その下部より軽石層の分布幅分の水田面が検出されたことから、浅間山の爆発時(1783年)にはすでに、この開墾が行なわれていたことが判明した。このような現象は、ミカド西遺跡(141ページ参照)でも認められているものである。

遺構検出面は、溝状遺構3址がともに中世水田耕作土下、建物址5棟・土壇9基が近世前半期土層下である。

### 河川跡

河川跡SX-1(第187図)は、その覆土砂礫層中に縄文前期・後期および五領期・鬼高期の破片を包含している。しかし、いずれも土器表面の磨滅が著しく、砂礫とともに現地地点に再堆積したものと考えられるものである。覆土上面から発見される国分式土器は、完形を含み磨滅が認められないところから、この河川の埋没が完了した後の堆積と考えられる。このことから、この河川は6C前半以後9C前半迄の間に埋没したことが推定される。

### 溝状遺構

溝状遺構SD-1(第186図)は、覆土中より国分式土器の杯の完形品が出土しており、また浅間山系B軽石(天仁元年・1108年噴出)の純層が、覆土中位に堆積していることから、平安期に機能していたものと考えられる。SD-1は、SK-1を切って開削されているものであり、SX-1→SD-1の変遷がうかがえる。このことはこの間に河川流路の変更があり、その時期にSD-1の開削が行なわれたことを示唆している。

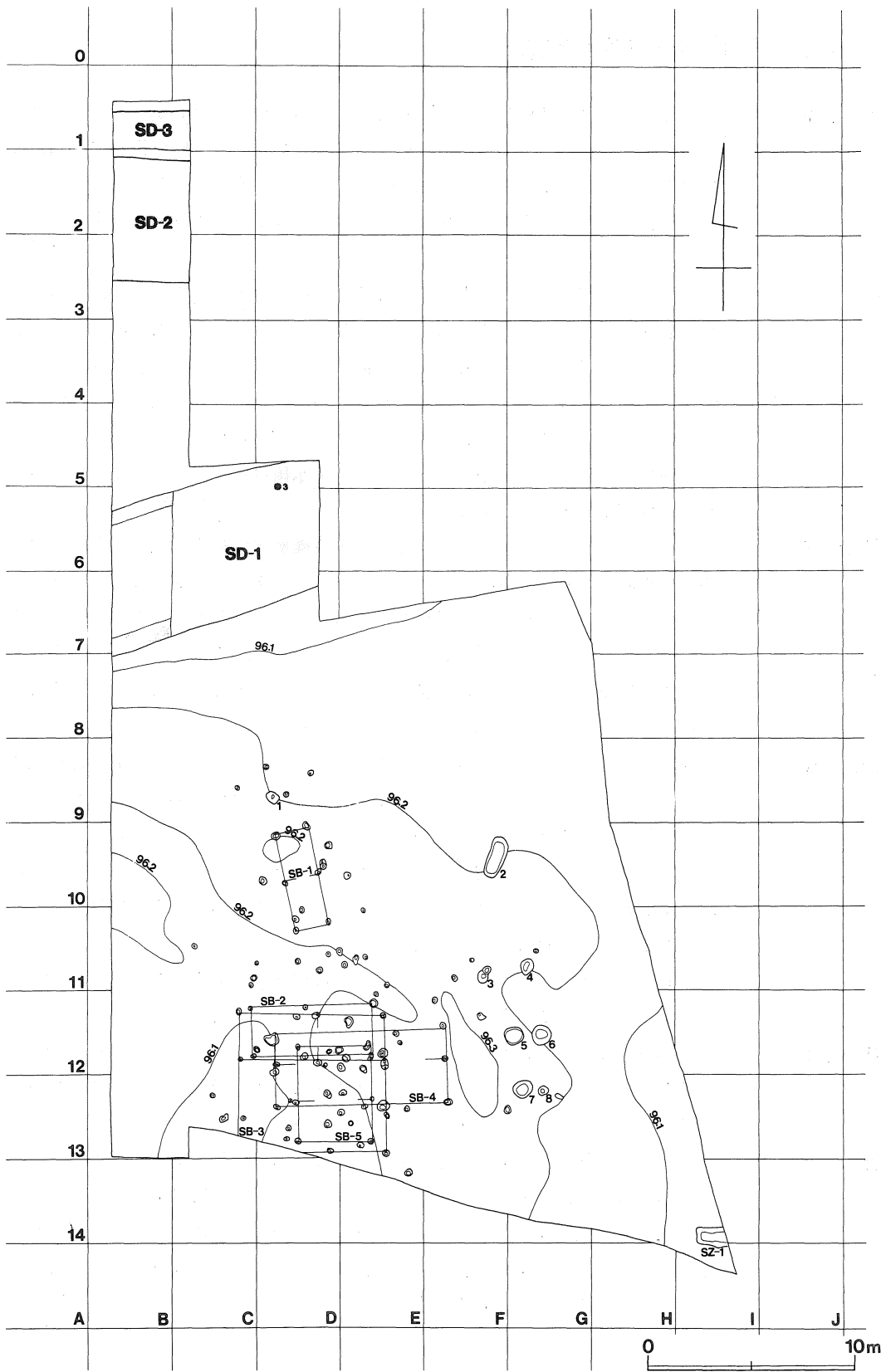
SD-2~3(第186図)は、その覆土中に遺物は認められないが、中世水田耕作土下より検出されたものでやはり古代に溯るものであろう。

### 建物遺構

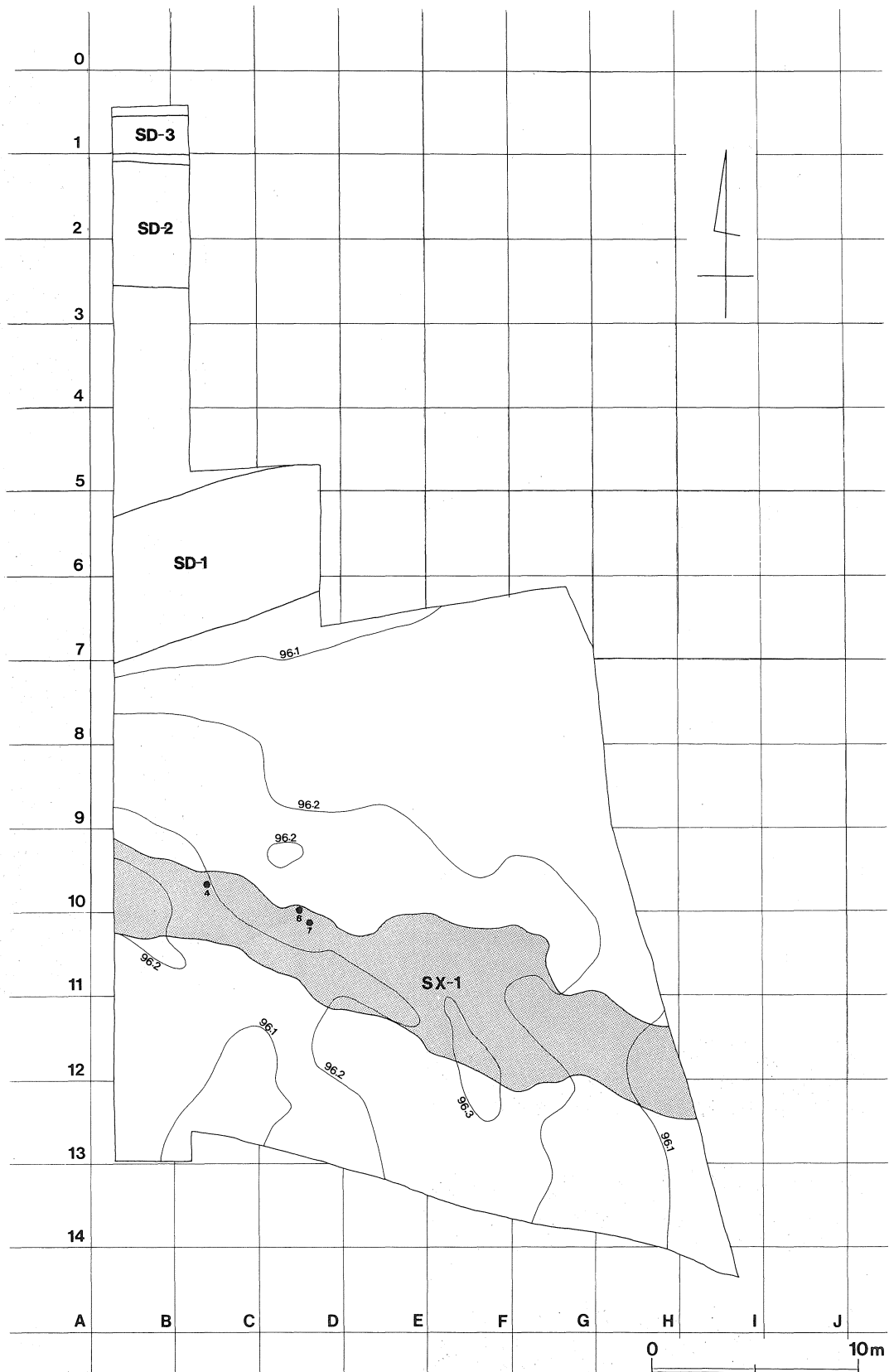
建物遺構は、河川跡SX-1を切ってつくられており、SX-1埋没後のものであることは明らかである。またPit中からはカワラケ小皿の小片が発見されていることから、大略中世のものと考えられよう。

### 土壇

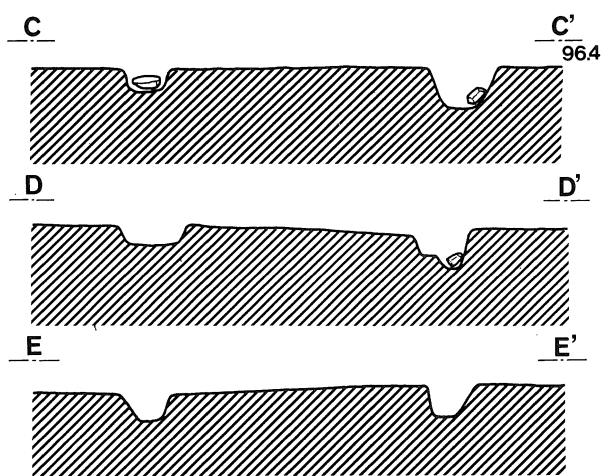
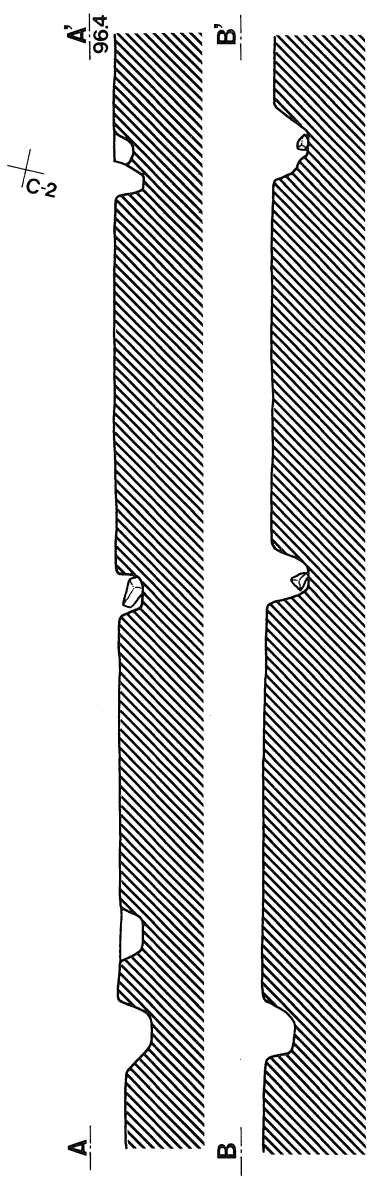
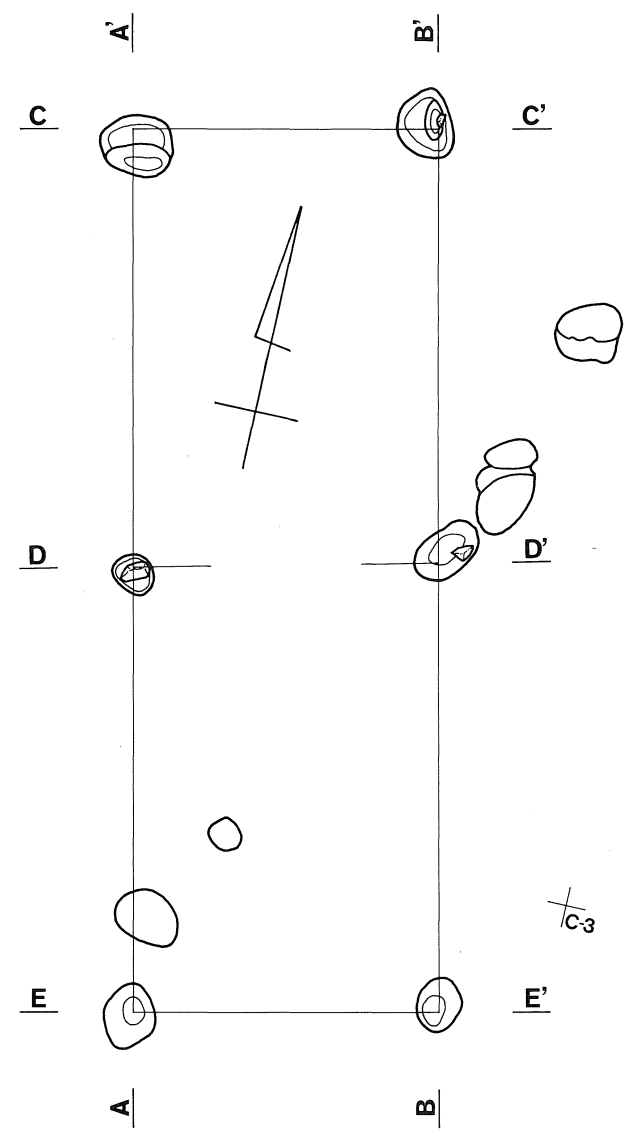
土壇は、建物遺構の東側に主に分布し、建物遺構と場を異にしていることから、建物遺構と同時期である可能性が高い。SK-2(第193図)は、十二天遺跡の土壇第1類に類似し、またSK-5~7(第193、195図)は、第2類に類似している。これらの土壇は、十二天遺跡では中世のものとして捉えられていることから、建物遺構との同時性は裏づけられよう。(鈴木徳雄)



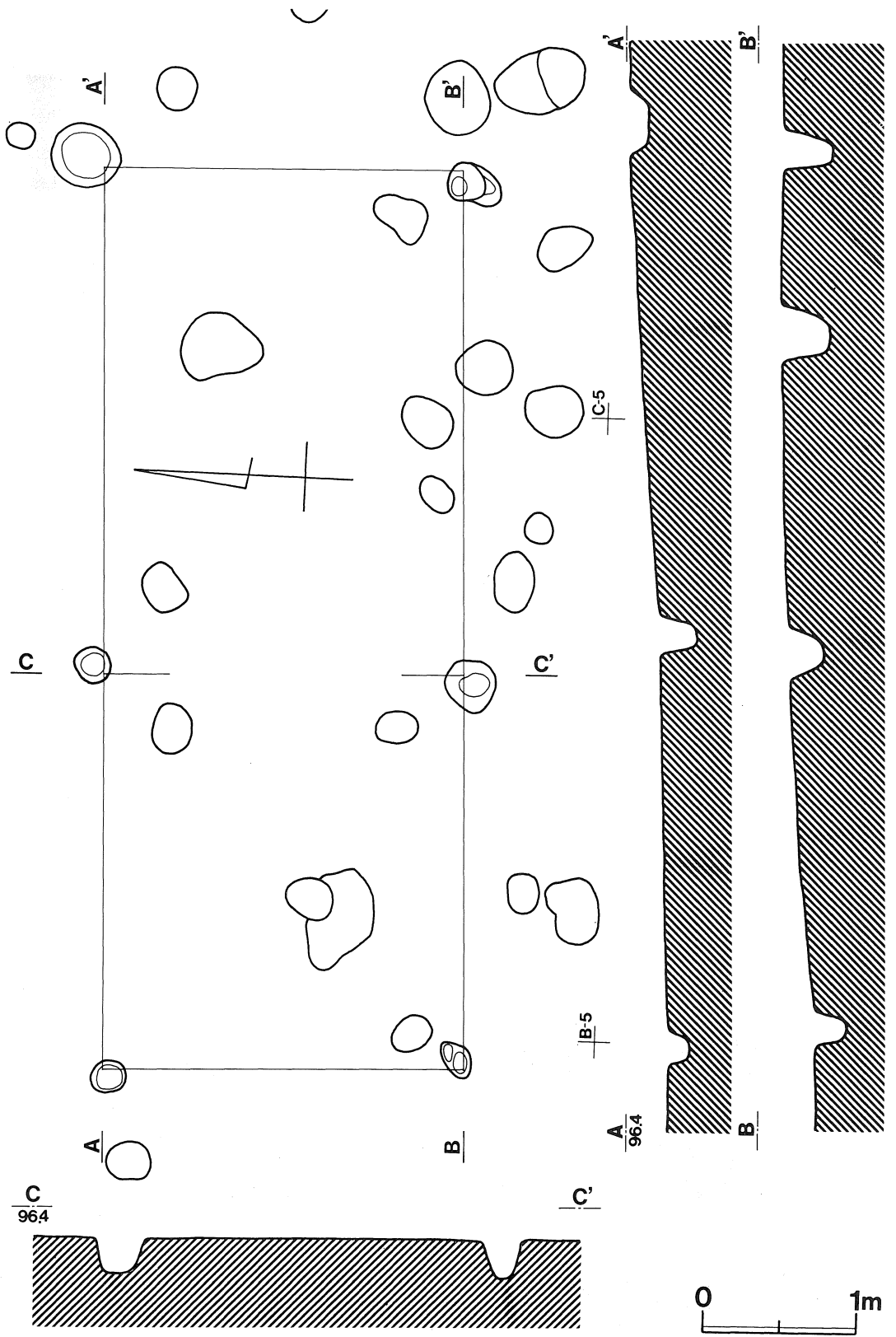
第186図 一町田遺跡 全測図 (1)



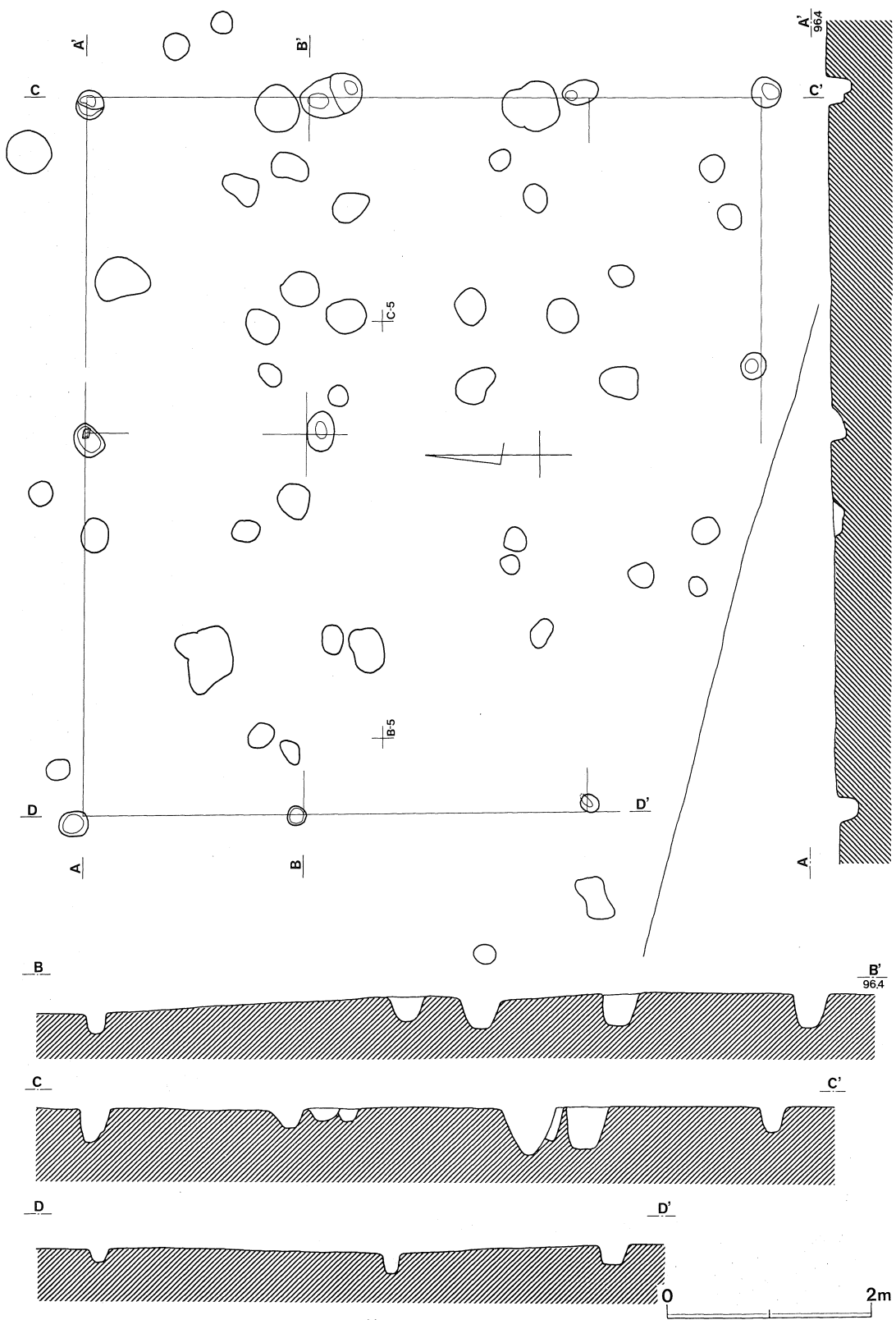
第187図 一町田遺跡 全測図 (2)



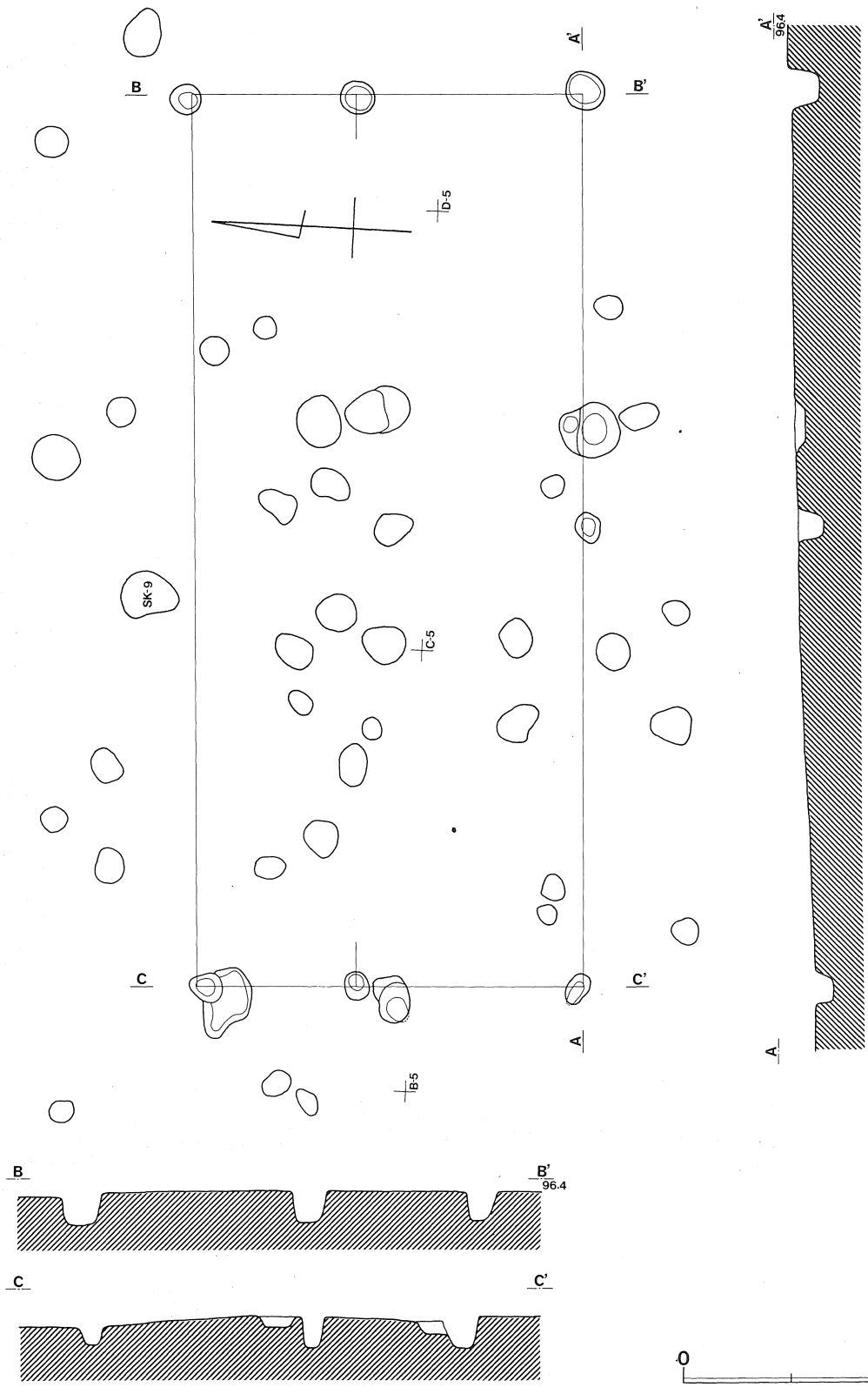
第188图 S B - 1



第189图 SB-2

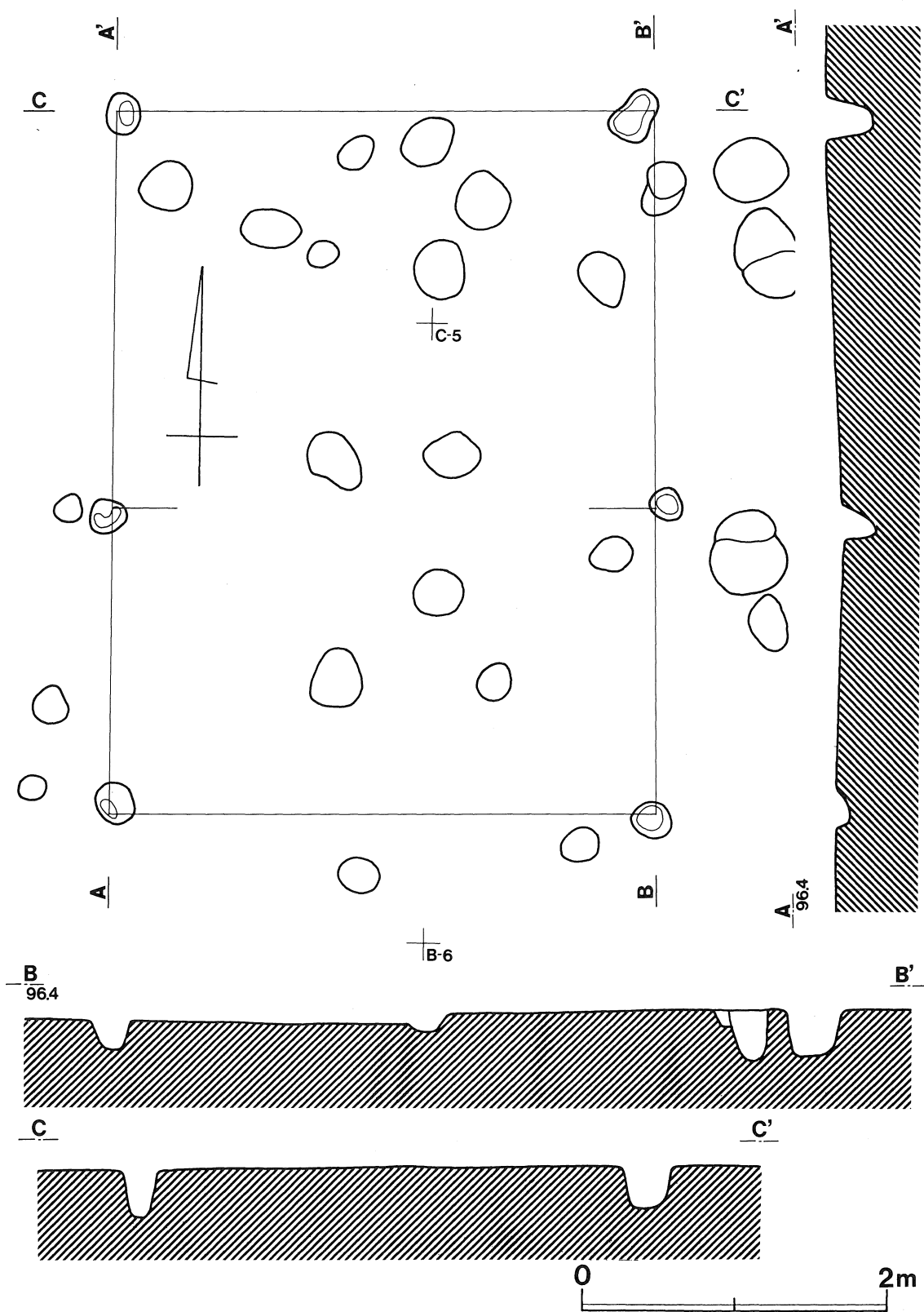


第190图 SB-3

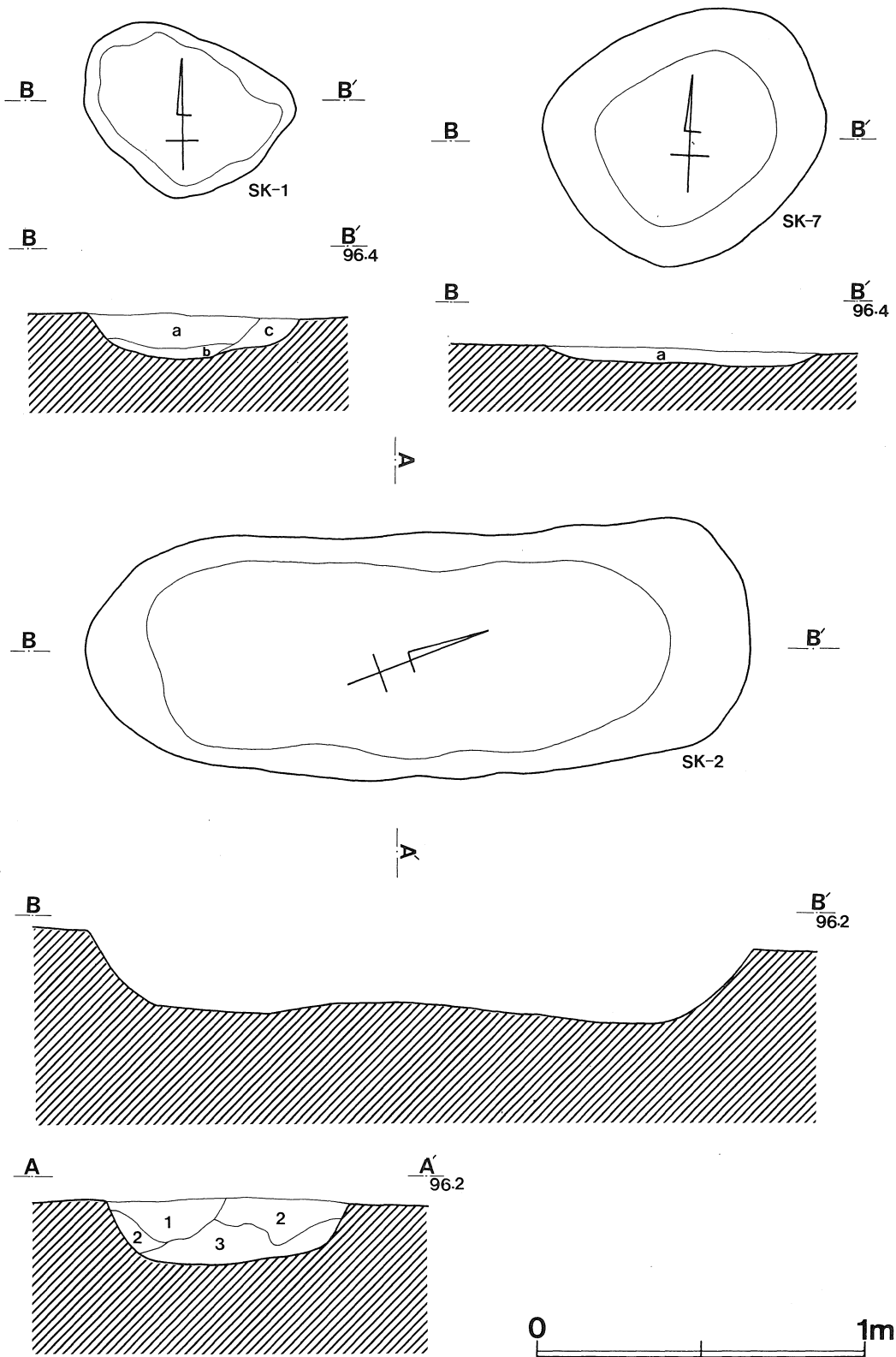


第191図 SB-4

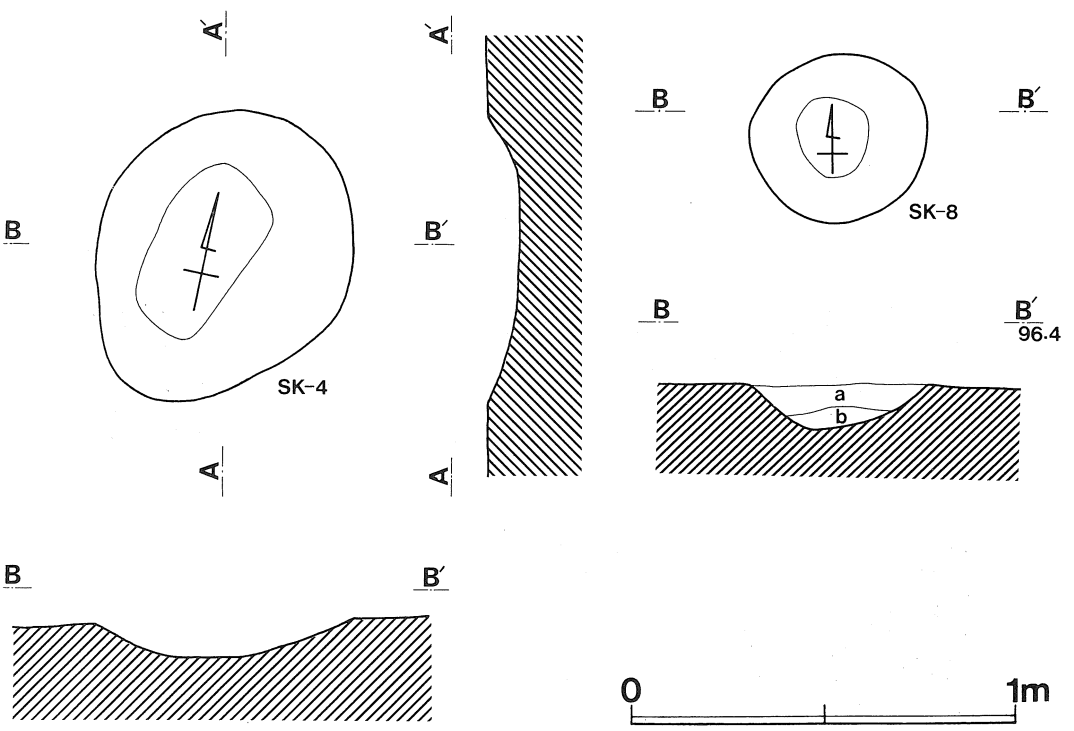
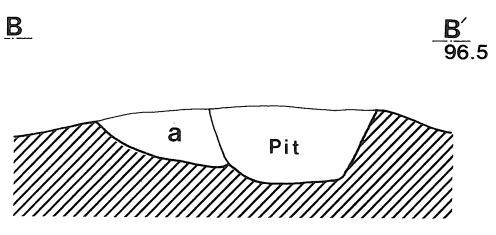
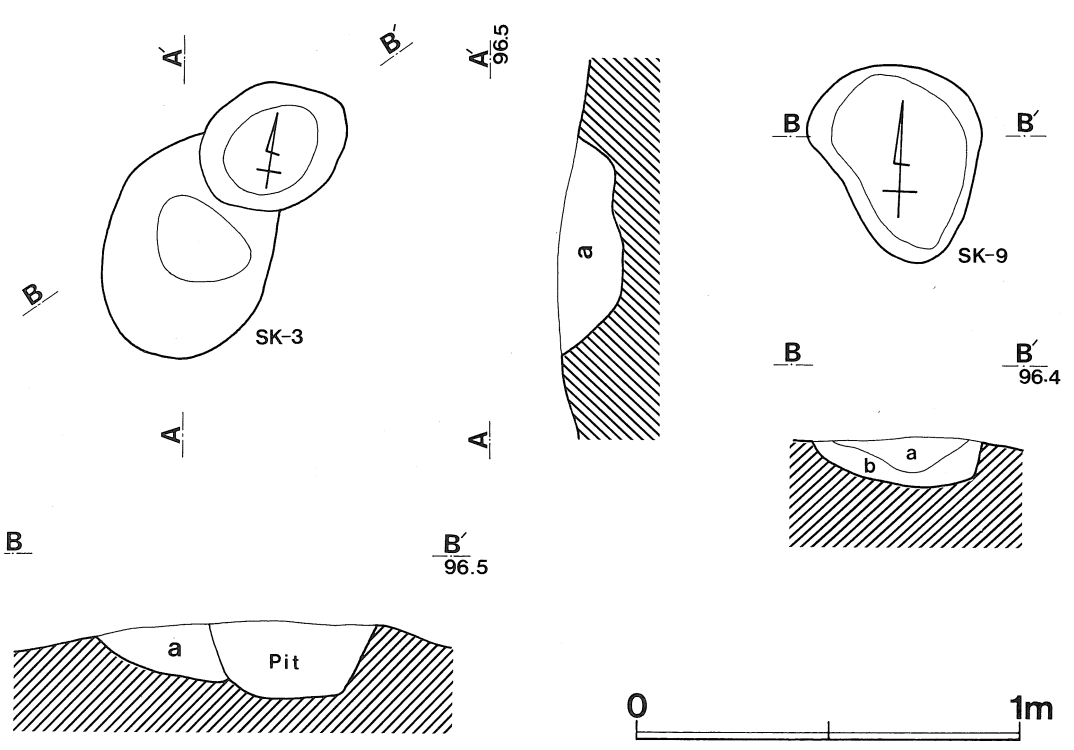




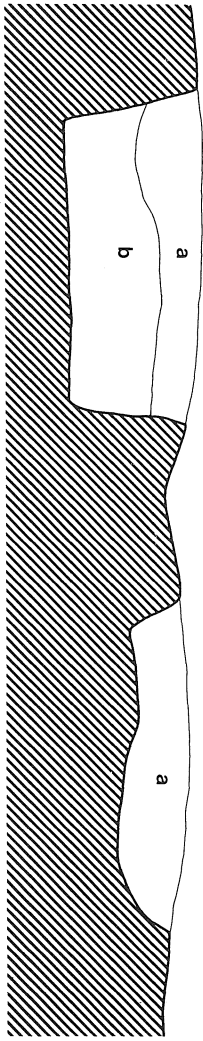
第192図 SB-5



第193図 SK-1 SK-7 SK-2



第194图 SK-3 SK-4 SK-8 SK-9

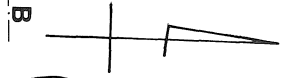


B

A

SK-5

A'



A

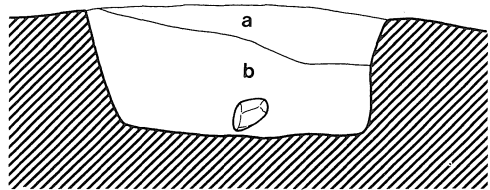
SK-6

A'

B  
96.6

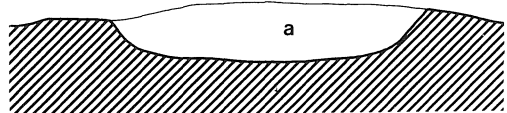
A

A'  
96.4



A

A'  
96.4



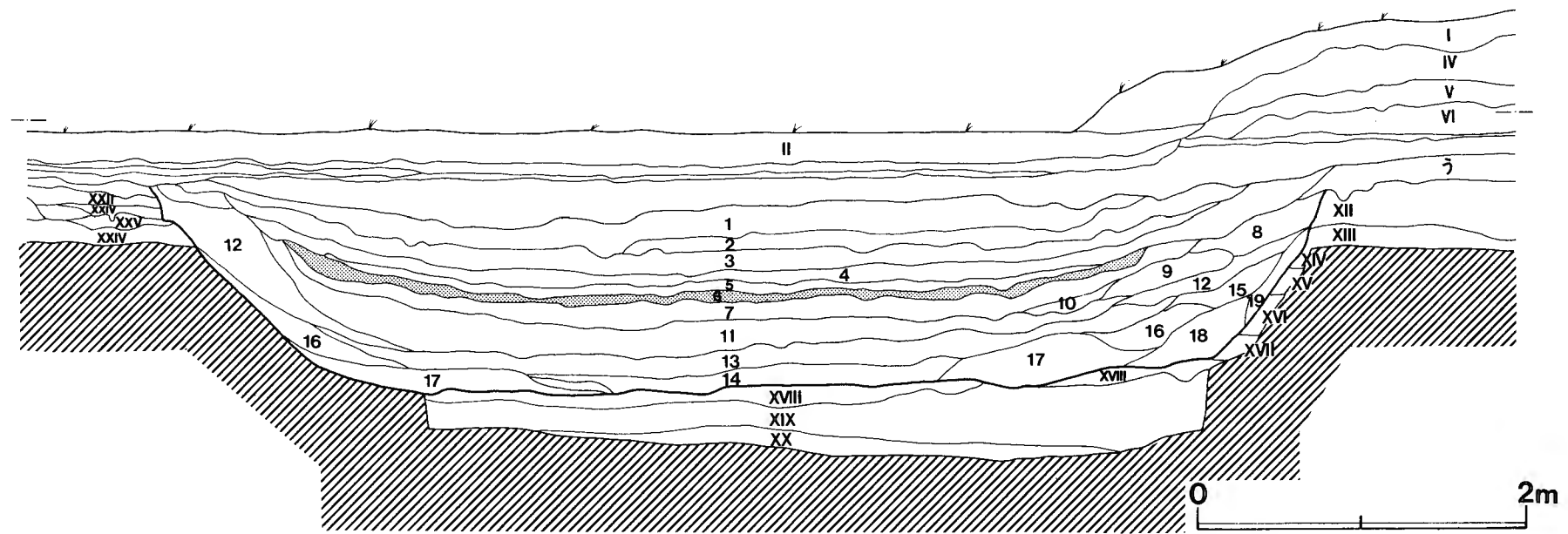
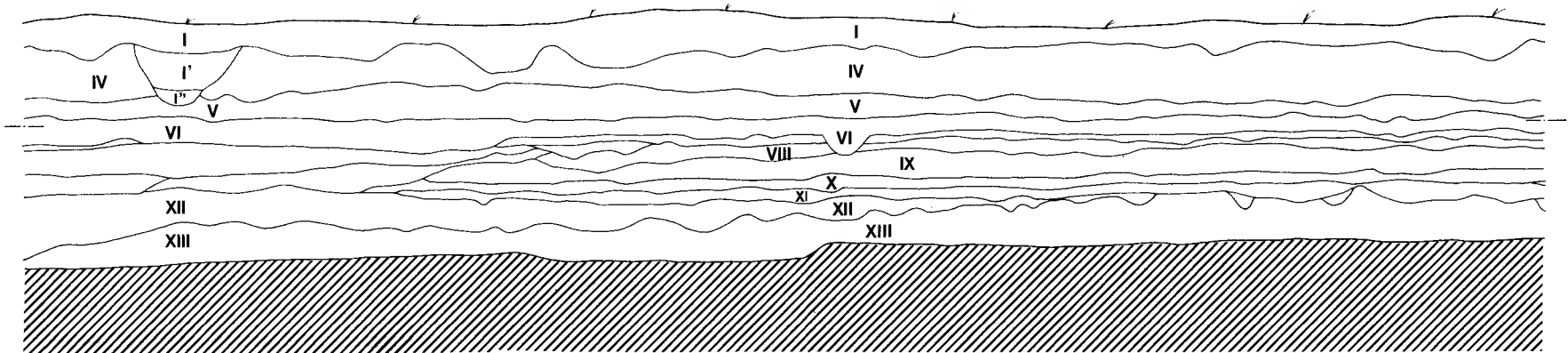
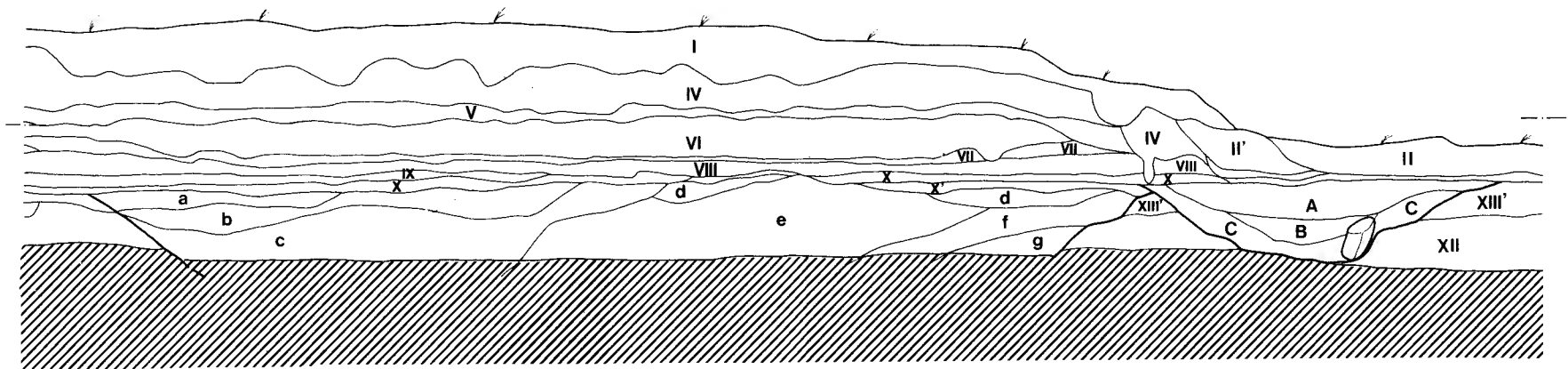
第195図 SK-5 SK-6

## SD-1 土層説明

- 1層 暗褐色砂泥（上層と比べ、堆積岩、破片が多く見られる）。
- 2層 黒褐色泥砂（上層と比べ、堆積岩、破片が見られる）。
- 3層 灰褐色粘土（均質でしまっており、微細な雲母片岩を含む。堆積岩破片も少し含む）。
- 4層 黒褐色泥砂（砂粒の中に黒色粘質土がまじっている）。
- 5層 黒褐色泥土（少量の砂を含んでいる）。
- 6層 浅間系軽石（ほとんど純層に近い。軽石の粒子は、浅間山系A軽石より小粒で風化している。→浅間山系B軽石）。
- 7層 黒色泥土層（上部は泥炭質で、下部に行くにしたがって粘性をます。下層との境界は漸移的である）。
- 8層 黒褐色砂泥（⑤層中の砂礫が多量に含まれる）。
- 9層 黒褐色砂泥（8層に類似するが堆積岩破片を多く含む）。
- 10層 黒褐色泥土（11層に類似するが砂礫を多く含む）。
- 11層 灰褐色泥土（植物の繊維を含む雲母片岩の微細な粒子を含む）。
- 12層 灰褐色砂層（堆積岩破片を含んでいる）。
- 13層 黒褐色泥砂（片岩質の砂粒を多く含む。まれに流木を含む）。
- 14層 黒褐色砂泥（上層と、砂の比率が逆転している）。
- 15層 黄褐色砂礫（黄褐色の堆積岩破片を中心に編成され、黒灰色砂が混じる）。
- 16層 黒褐色砂泥（⑤層の礫が多量に含む）。
- 17層 黒褐色泥砂（片岩形の砂粒を中心に構成され、泥の割合が少ない）。
- 18層 黒褐色泥土（粘質で、少量の堆積岩ブロックを含む）。

## 土坑土層説明

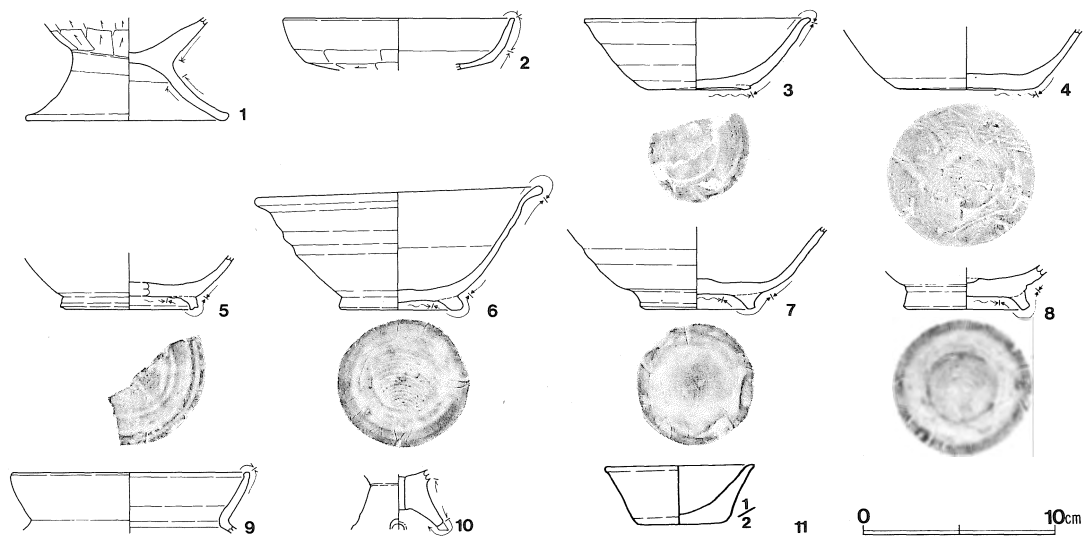
- S K-1 a層 暗褐色砂泥（小礫が少なく、微砂と黒褐色土が混じる）。
- b層 褐色砂泥（a層に地山土が混入している）。
- c層 褐色砂泥（b層に類似するが、混入の割合は逆転し地山土が多くなる）。
- 地山 灰褐色砂泥（微砂を多く含む）。
- S K-2 I層 暗褐色砂泥（2～3cm位の礫が多く、灰色土の粘土が若干多くなる）。
- II層 暗褐色砂泥（砂と若干の少礫を混入し、比較的密な層。粘土・橙褐色砂粒はほとんどない）。
- III層 暗黄褐色砂泥（地山のブロック状のものが混入した層である。礫は少なく、砂、粘土、酸化鉄が見られる）。
- 明度 III > I > II
- S K-3 4 a層 黒褐色泥砂（多量の礫を含み、砂礫に近いが、地山より泥土が多く明瞭に分層できる）。
- 地山 褐色砂礫。
- S K-5 a層 暗褐色砂礫（4～5cm大の礫が多く、砂は1mm大のものが多。泥土の比率も比較的多く、砂泥質に近い）。
- b層 黒色砂泥（a層の礫が減少し、土層との境界は明瞭である）。
- 地山 褐色砂礫（泥土は少ない）。
- S K-6 a層 暗褐色砂礫（仮S K-1のa層より、泥土の比率が少なく、礫は、2～3cmと小礫である）。
- 地山 褐色砂礫（1cm大の礫を含む）。
- S K-7 a層 黒褐色砂泥（小礫を含み、構成は地山に近いが、その境界は明瞭である）。
- S K-8 a層 黒褐色泥砂（小礫を含み、微砂が主体となる）。
- b層 暗褐色砂泥（微砂を多く含み、小礫を含まない）。
- S K-9 a層 暗茶褐色砂泥（少量の砂礫を含むが、泥土の比率が高い）。
- b層 暗褐色砂泥（上層より、砂礫の割合がふえ、より砂泥質である。地山Aに近い）。
- A層 暗褐色砂泥（多量の砂礫を含みや粘質である）。
- B層 黄褐色砂礫（鉄分の酸化した色調を示す）。



第196图 S D-1·2·3

## 一町田遺跡基本土層

- I 層 褐色土（多量の砂粒と A テフラを含む。現在の耕作土）。
- II 層 黒褐色泥土（微量の A テフラを含む。現在の水田耕作土）。
- III 層 黄褐色砂泥（現在の水田床土）。
- IV 層 黄褐色砂泥（I 層に類似し、粒子は粗い。微量の炭化物粒子を含み、多量の A テフラを含む。旧畑作土と思われる）。
- V 層 黒褐色泥砂（かなり多量の A テフラを含む。耕作を受けていると思われる）。
- VI 層 黒褐色泥土（少量の砂粒を含む。水田耕作土）。
- VII 層 黄褐色泥砂（VI 層の床土で、比較的明瞭である）。
- VIII 層 褐色泥砂（多量の砂礫を含み、㊸との関連が強い）。
- IX 層 黒褐色泥土（砂粒が多く鉄斑が認められ、硬くしまっていて、性格不明である）。
- X 層 黒茶褐色泥土（少量の砂粒を含み、比較的軟質である）。
- XI 層 茶褐色泥砂（赤褐色の鉄斑が多量に認められ、X 層の床土である）。
- XII 層 暗茶褐色泥土（均質でしまっており、性格不明である）。
- XIII 層 灰褐色泥砂（砂粒の主体は微砂であり、少量の鉄斑が認められる）。
- XIV 層 黄褐色砂泥（堆積岩礫を多量に含む。鉄斑が顕著である）。
- XV 層 黄褐色砂礫（黄褐色堆積岩粒を多量に含む）。
- XVI 層 淡緑色泥砂（変岩質の砂粒で構成されている）。
- XVII 層 黒褐色砂泥（変岩質の砂粒を多量に含む）。
- XVIII 層 灰褐色泥土（雲母片岩と粒子を含む上層との境界は漸移的である）。
- XIX 層 黒色泥土（やや泥炭質で粘性が強い）。
- XX 層 灰色粘土（多量の植物繊維を含む）。
- XXI 層 暗褐色泥土（少量の A 軽石を含む。水田耕作土）。
- III" 層 黄褐色砂泥（XXI 層の床土）。
- XXII 層 灰褐色泥土（少量の鉄斑が認められる）。
- XXIII 層 黒茶褐色泥土（粘質で、緻密。少量の鉄斑が認められる。水田耕作土かと思われる）。
- XXIV 層 茶褐色泥土（縦方向の鉄斑が認められる。XXIII 層の床土である）。
- XXV 層 黒茶褐色泥土（XXIV 層と非常に類似しているが、やや黒く、鉄斑が少ない）。
- XXVI 層 暗茶褐色泥土（砂粒が少なく、少量の鉄斑が認められる。水田耕作土に類似しているが、その成因は明らかでない）。
- A 層 黒茶褐色泥土（少量の砂粒を含み、比較的、緻密である）。
- B 層 黒色泥土（多量の砂と礫を含んでいる）。
- C 層 暗褐色砂泥（比較的少量の礫を含み、小さな鉄斑が多く見られる）。
- a 層 黒褐色砂泥（堆積岩粒子と暗茶褐色の鉄斑が認められる）。
- b 層 灰褐色泥砂（堆積岩砂粒と、変岩質砂粒とが混じっている）。
- c 層 褐色砂礫（堆積岩砂礫を主体とする）。
- d 層 黄褐色砂礫（堆積岩砂礫を主体とする）。
- e 層 黄褐色砂礫（d 層より泥土を含む割合が少ない）。
- f 層 黄褐色砂礫（堆積岩砂粒と変岩質砂粒、及び砂礫を少量含んでいる）。
- g 層 褐色砂礫（堆積岩砂粒を中心に構成され、黒褐色泥土も含まれる）。



第197図 一町田遺跡出土土器





# 上一ノ堰遺跡

## 第9章 上一ノ堰遺跡の概要

### 調査

本遺跡は「埼玉県文化財包蔵地台帳」の(児玉町No.271)に相当し、調査地点の小字名から上一ノ堰遺跡と呼称する。調査対象区は、圃場整備によって削平される約2,600㎡である。

遺構確認面は、浅間山系A軽石(1783年、天明3年噴出)下の水田耕作土層に伴う床土層の下面である(第200~202図)。検出面からの出土遺物は、中世陶器・青磁片・カワラケ小皿および中国銭(ビタ銭)等であり、近世遺物を含まない。

検出された遺構は、建物遺構(SB-1~11・第203~213図)11棟、埋土中に焼土・鉄滓・炭化物を含む土塚(SX-1、第218図)1基、井戸址(SE-1、第216図2)1基および土塚(SK-1~13、第215・216図)13基、溝状遺構3址(SD-1~3、第217・218図)である。

### 建物遺構

建物遺構SB-1(第203図)は、民家の母屋と推定されるもので、東西5間、南北4間の規模を有する。柱は全て柱穴に立てられたものと考えられ、柱穴内には柱痕を囲むように石が据えられている。西側の3間は板間と考えられ、構造上の柱を立てたと考えられる太い柱穴10本と、南側および北側に4本ずつの細い柱穴を有している。それぞれは「上屋柱」と「下屋柱」に相当するもので、所謂「下屋造り」と考えられる。これらの上屋柱と下屋柱の柱通りは悪く、中世家屋の特徴を良く表わしているものと考えられる。東側2間は土間と考えられ、中央やや北寄りにカマドの前庭に相当する落ち込みがあり、内部に灰・焼土・炭化物が充填しているものである。

建物遺構SB-2(第204図)は、SB-1と重複するものであり板間と土間の柱通りが悪く、おそらく分棟形式の家屋であろう。土間部にはSB-1と同様にカマドの前庭に相当する窪みがあり、全体にSB-1と規模等も類似している。

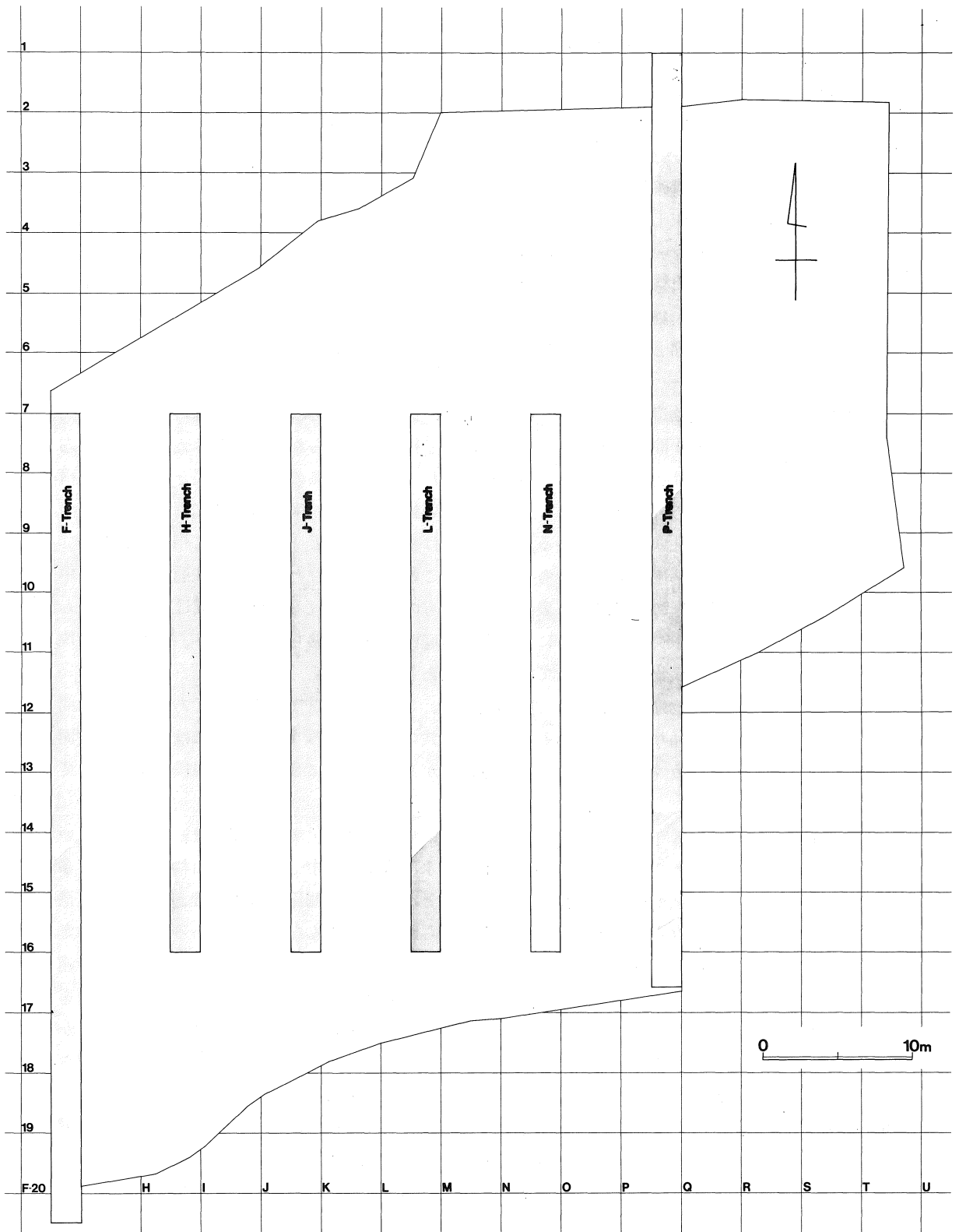
### タタラの基部

SX-1(第218図)は、土塚中に焼土、鉄滓、炭化物等が緻密に堆積しているもので、その周辺の近世前半期水田耕作土層中や、近世水田耕作土層中に多量の窯壁や鉄滓が出土していることから、製鉄関係の遺構と考えられる。本遺跡の存在する金屋地区は、中世から鋳物業の盛んなところであるが、その操業の開始時期は明らかでない。現在、その上限は15世紀後半(長享2年)まで遡ることが確認されている。本遺構の時期は、確実に近世前半期の水田が上面を覆っていたこと、また検出面出土の遺物の下限は16世紀代と推定されることから、一応16世紀代のものと推定している。SX-1は、タタラの基部と推定されるが、その操業は、屋敷内で比較的小規模に行なわれていたものと考えられる。

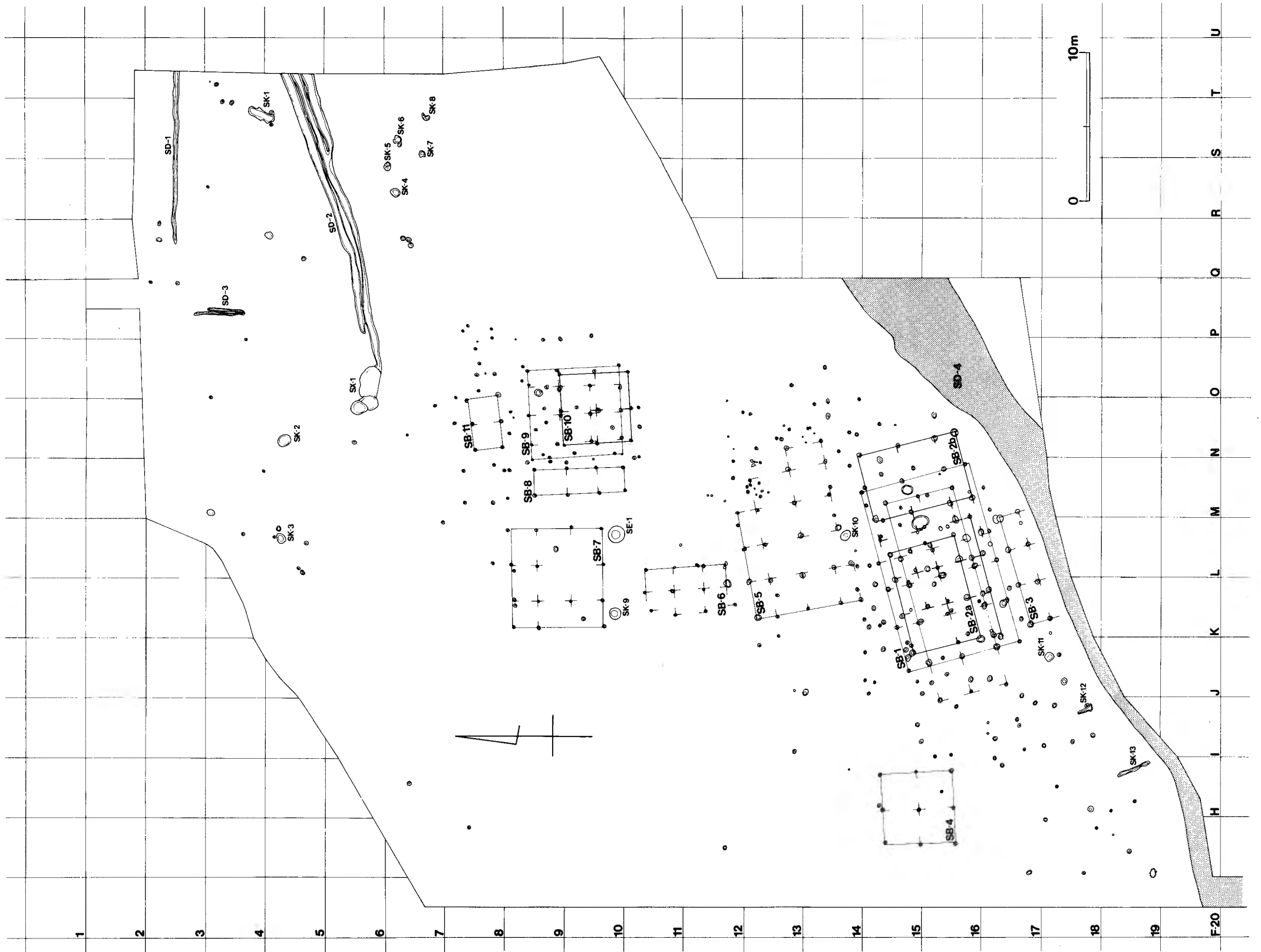
### 井戸址

井戸址SE-1(第216図)は、深さ110cm程の浅いものである。底面には湧水によると思われる砂が沈澱し、それが不透水層である粘土層上面から生じていることは、本址が機能していた時点では湧水があったものと推定される。

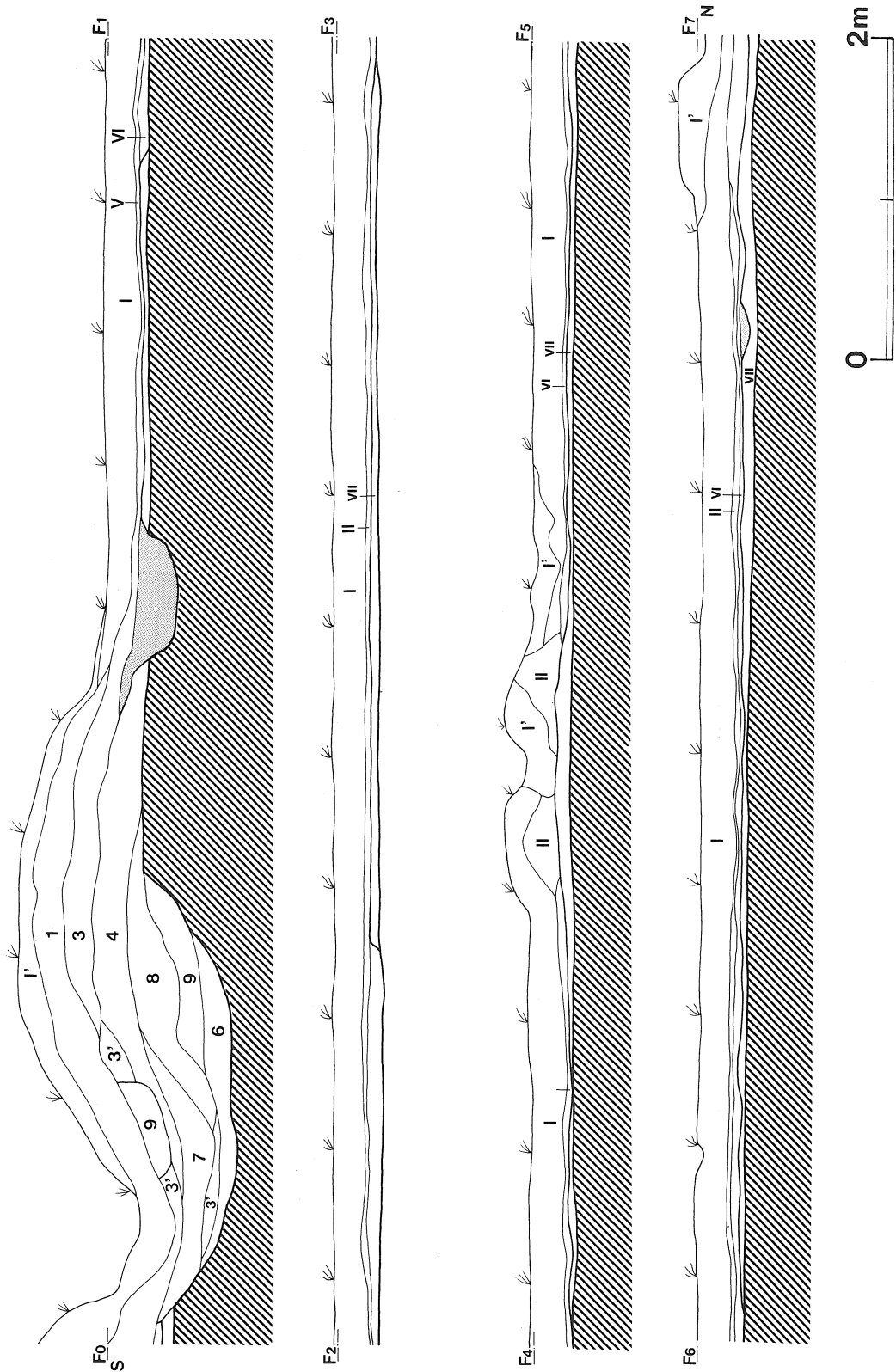
(鈴木徳雄)



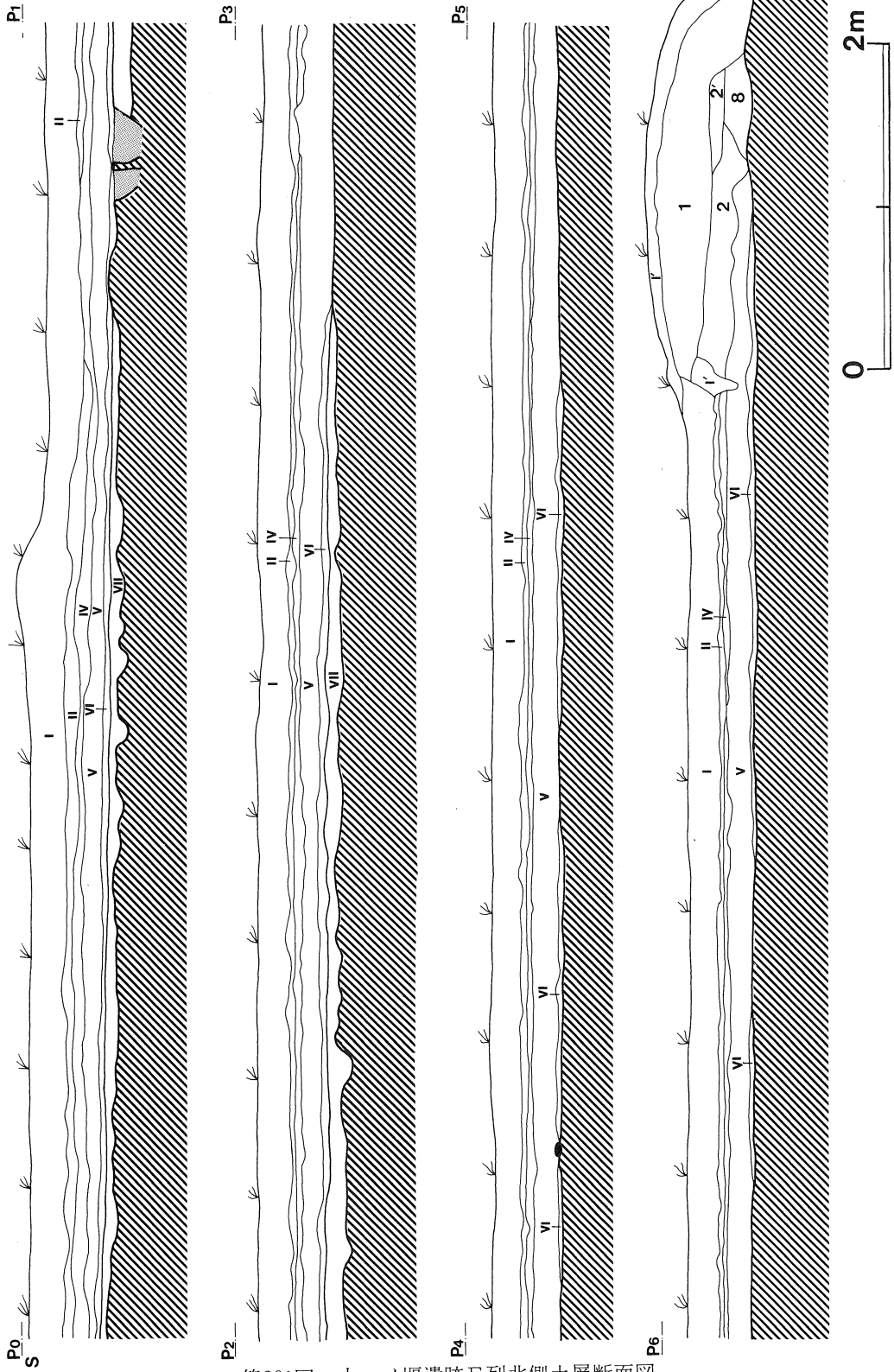
第198図 上一ノ堰遺跡試掘トレンチ配置図



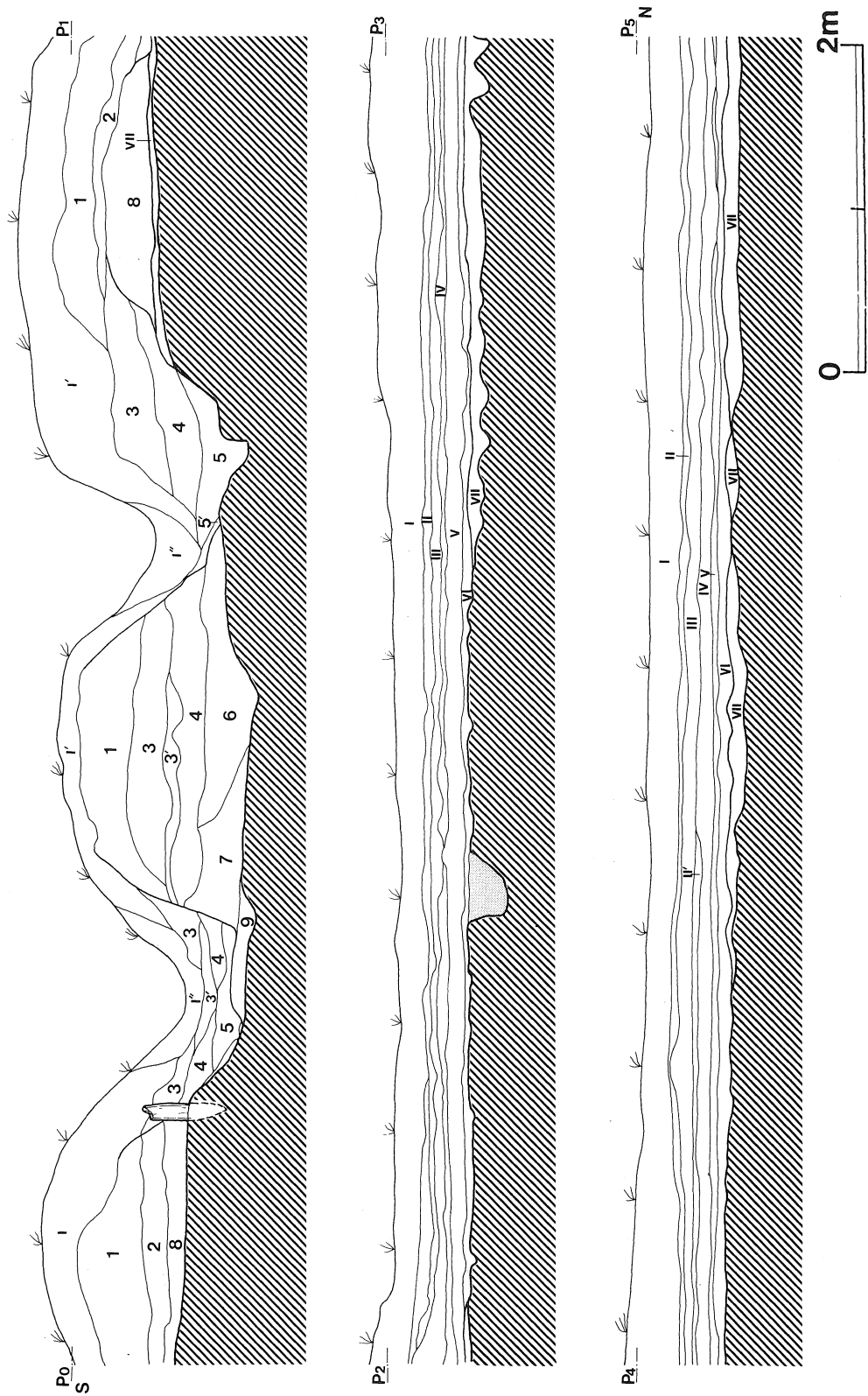
第199図 上一ノ堰遺跡全測図



第200図 上一ノ堰遺跡 F列南側土層断面図



第201図 上一ノ堰遺跡F列北側土層断面図



第202図 上一ノ堰遺跡 P列南側土層断面図

上一ノ堰遺跡基本土層

- I 層 現水田耕作土層（暗灰褐色）
  - II 層 現水田耕作鉄分沈澱層（I 層の床で、赤褐色の鉄斑）
  - III 層 黒褐色泥土（少量のAテフラを含む。水田耕作土）
  - IV 層 灰褐色砂泥（多量のAテフラを含み、赤褐色鉄分凝集の鉄斑が多く見られる。III層の床）
  - V 層 暗褐色砂泥（Aテフラを含まず河川起源微砂を含む。水田耕作土）
  - VI 層 黄～赤褐色砂泥（微砂、1cm大の小礫を含む。鉄分沈澱が見られる。Vの床）
  - VII 層 暗褐色土層（硬くしまり、やや茶色味を帯びる。この上面より中世遺構が切り込まれている）
  - VIII 層 暗茶褐色土層（0.5～1cm大の鉄斑が見られるが、面を成さず、まばら、不規則である）
- 明度 III > I > V > IV > VII > VIII > II > VI

Pトレンチ

- 1 層 黒褐色土層（Aテフラを少量含む）
- 2 層 黒褐色土層（Aテフラを多量に含む）
- 3 層 黒褐色土層（Aテフラを少量含み、1層より粘性が強く、黒色を呈す）
- 3' 層 灰褐色砂礫（9層より黒褐色泥土の割合が多い）
- 4 層 褐色砂泥（茶褐色小斑紋が多い）
- 5 層 暗灰色砂泥（4層より大きな斑紋を持ち、砂が多い）
- 6 層 黒褐色泥砂（赤褐色砂粒、灰色砂粒が多く、その他は泥土）
- 7 層 灰褐色砂泥（3～4cm大の斑紋が多い）
- 8 層 褐色土層（南側がやや黒く、Aテフラを含まずしまっている）
- 9 層 灰褐色砂礫（1～2mm程の微砂を含み、泥土は微量である）

SK-11土層説明

- a 層 黒灰色泥土（多量の灰と炭化物粒子を含み、下層との境界は明瞭である）
- b 層 黒褐色泥土（多量の炭化物、焼土、灰を含むがa層よりは少なく、固くしまっている）
- c 層 暗褐色泥土（微量の炭化物、焼土、軟質白色粒子を含む。上層との境界は不明瞭である）

SE-1土層説明

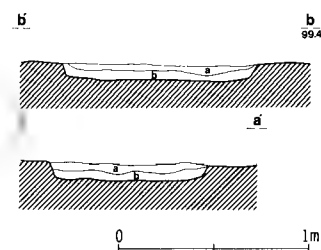
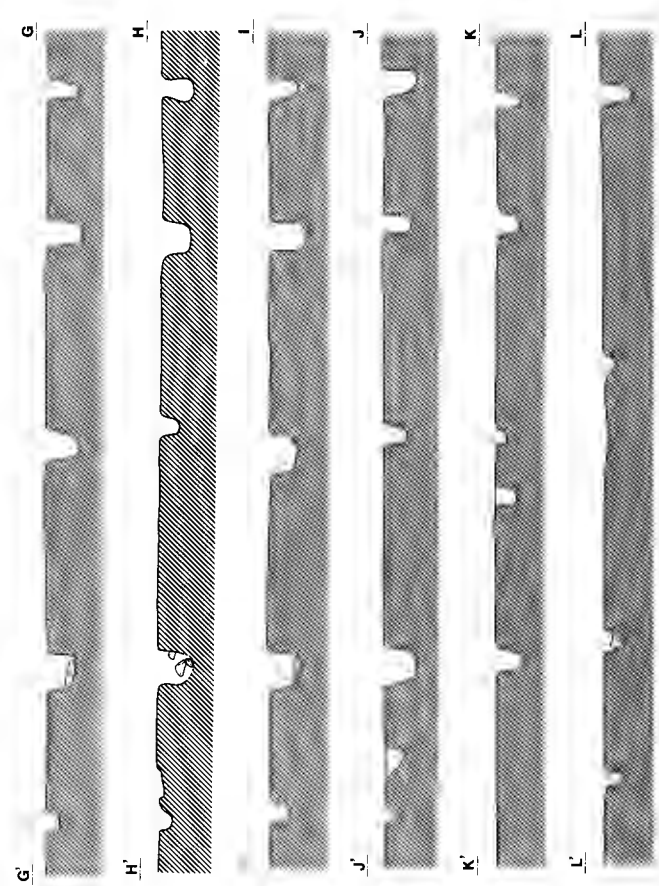
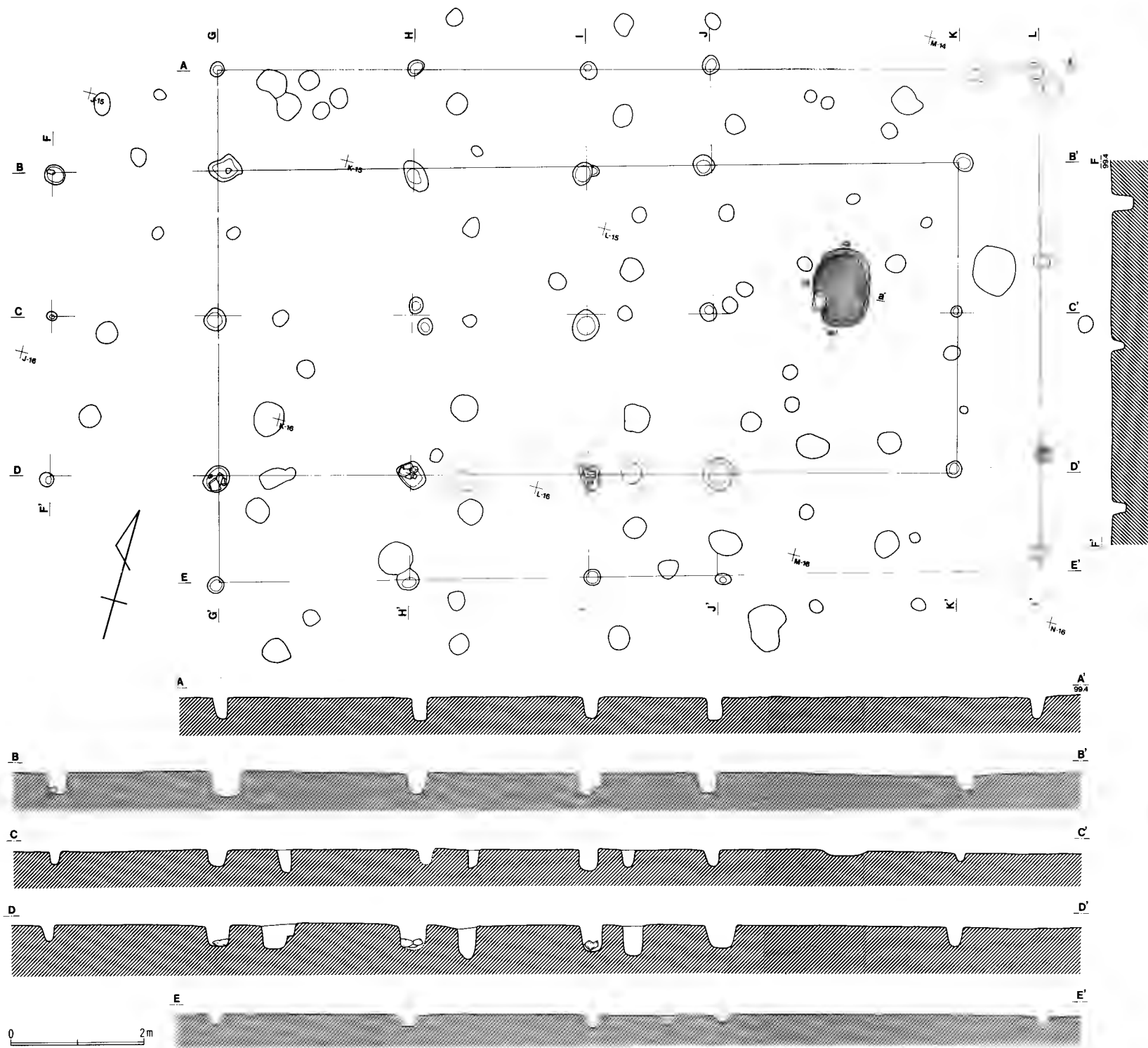
- a 層 黒褐色泥土（多量の白色軟質粒子、及び灰、炭化物、焼土粒子を含む）
- b 層 暗褐色泥土（炭化物、焼土を含み、Aが多くまじる）
- c 層 褐色泥土（Aを主体とし、多量の炭化物、焼土を含む）
- d 層 黒色泥土（多量の炭化物、焼土を含み、少量のAブロックを含む。上下層との境界は明瞭である）
- e 層 黒褐色泥土（Cに黒色土、焼土、炭化物粒子を多量に含む）
- f 層 黒褐色泥土（Cに少量の黒色土、炭化物粒子を含む）
- g 層 黒色泥土（多量の炭化物、焼土粒子を含み、粘性が強い）
- h 層 茶褐色泥土（AとDがまじる。少量の炭化物を含み、粘性は強い。鉄斑が顕著である）
- i 層 黒褐色泥砂（多量の炭化物を含み、下面は砂の純層になっている）

SD-2層説明 SD-2土層説明

- a 層 暗茶褐色泥土（白色軟質粒を多量に含み上層の影響を受けている）
- b 層 暗褐色泥土（少量の白色軟質粒子、焼土、炭化物粒子を含み、Aを主体に構成される）
- c 層 暗茶褐色泥土（多量の白色軟質粒子、及び焼土、炭化物粒子を含み、ざらざらしている）
- d 層 暗褐色泥土（少量の白色軟質粒子、及び焼土、炭化物粒子を含み、Aブロックを含む）
- e 層 暗褐色泥土（少量の白色軟質粒子、及び焼土、炭化物粒子を含みざらざらしている。b、c層と比べ、砂粒が多い）
- f 層 褐色泥土（Cブロックを多量に含み焼土、炭化物は少ない）

明度 c > a > b > e > d



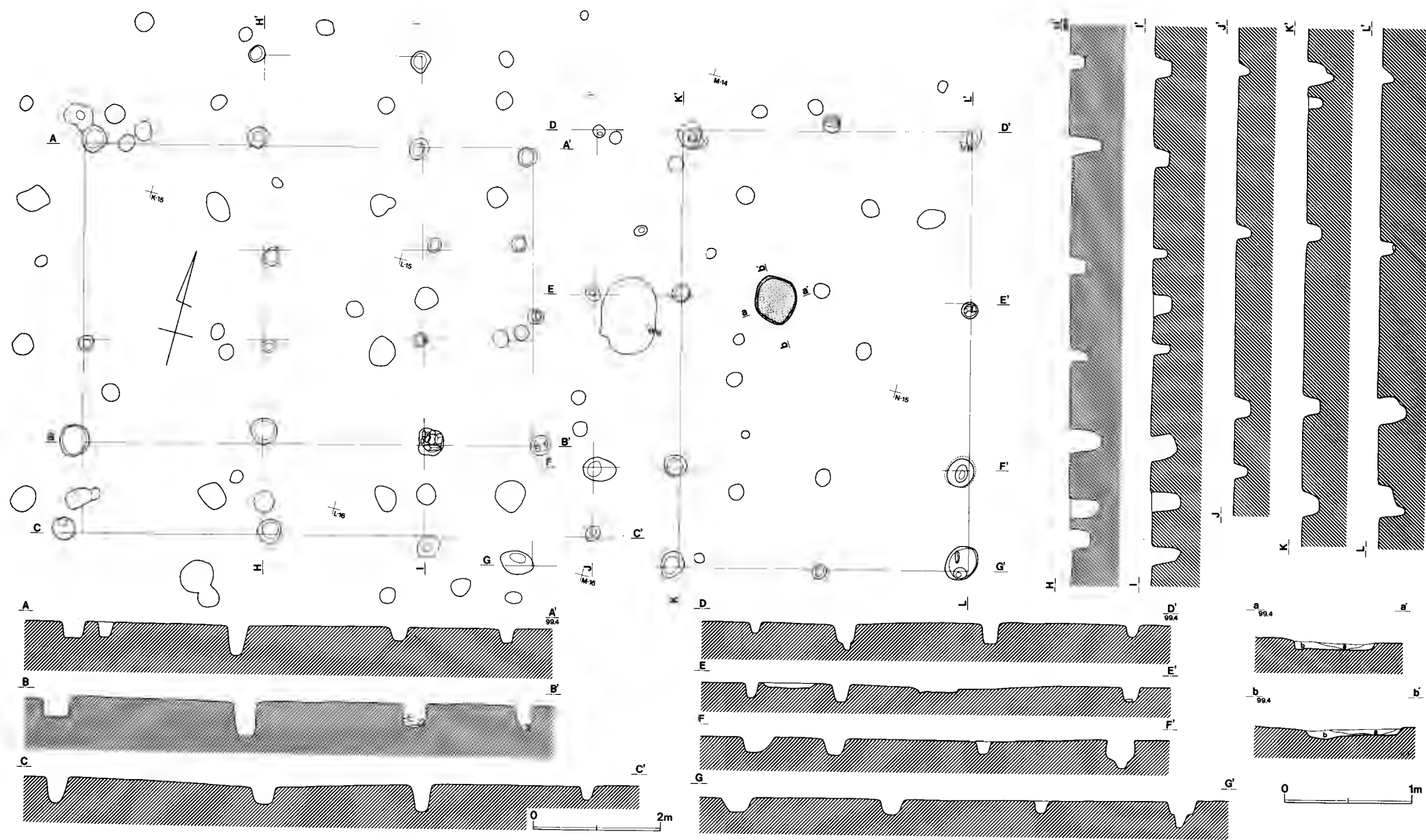


上ノ堰土層説明

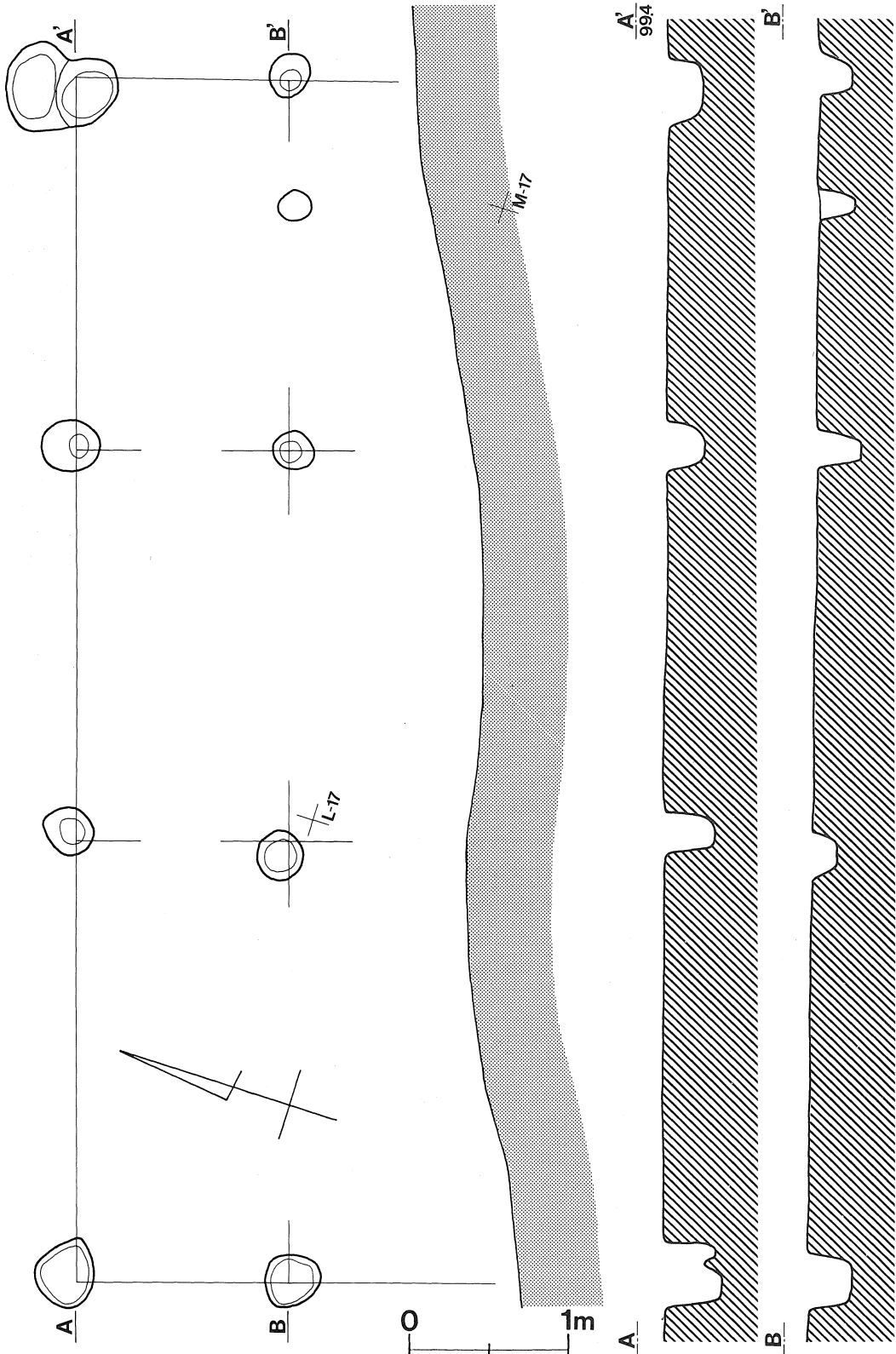
a層 黄褐色泥土（多量の焼土、炭化物粒子を含み、Aを主体とする）

b層 黒褐色泥土（多量の焼土、炭化物と少量の色軟質粒子をふくみ、又Aブロックも含む。上層との境界は明瞭である。）

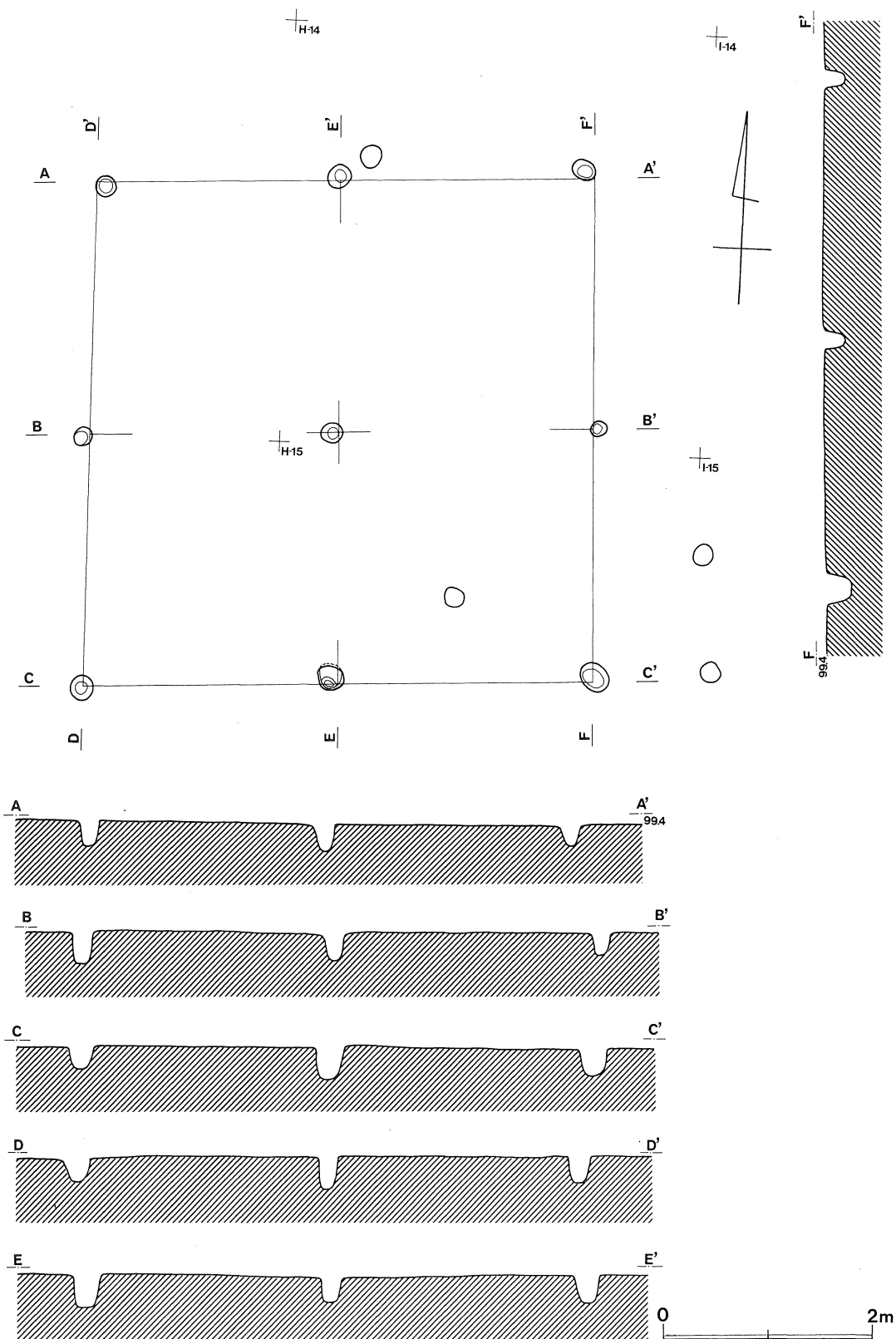
第203図 SB 1



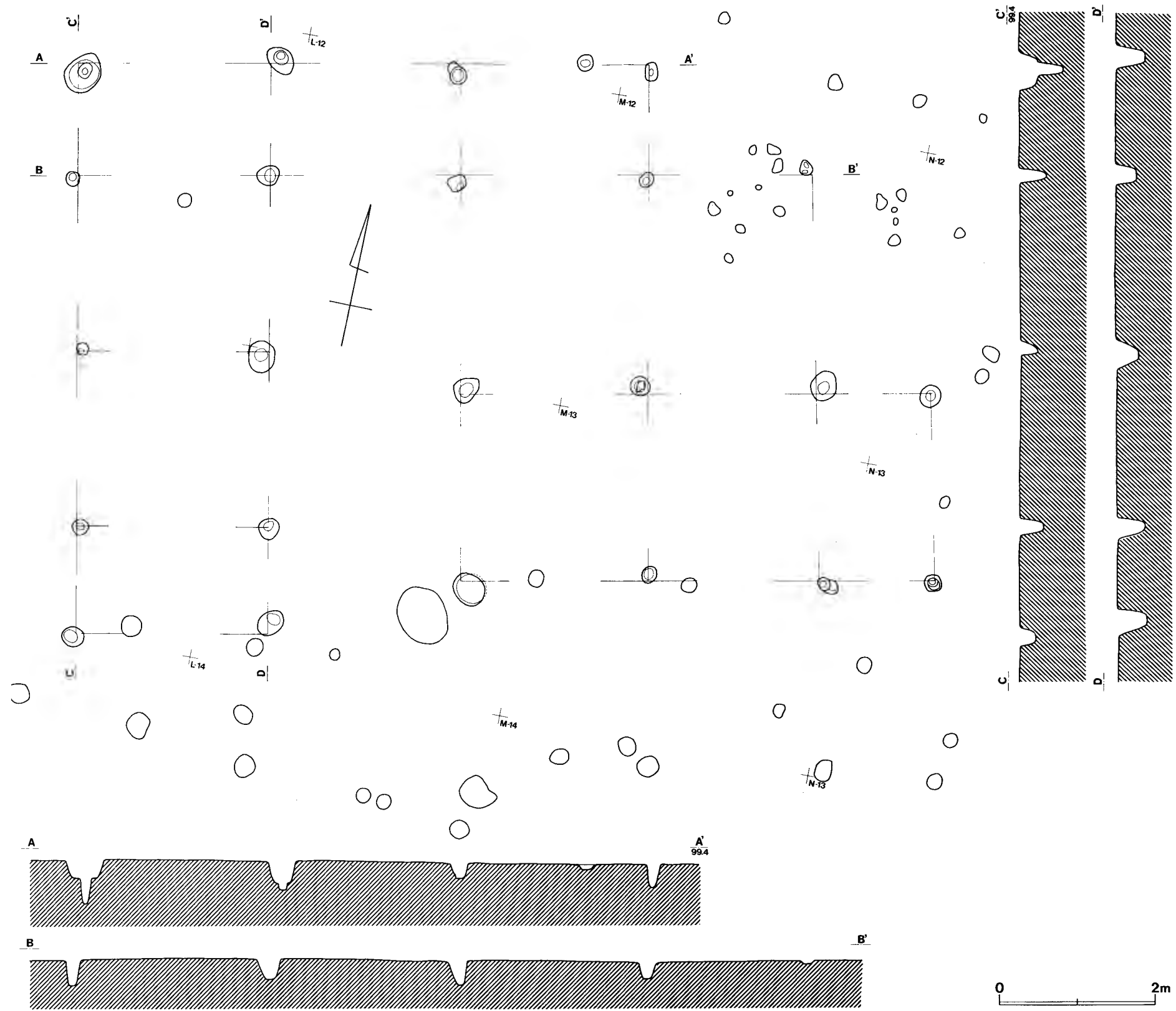
第204图 SB-2 a, b



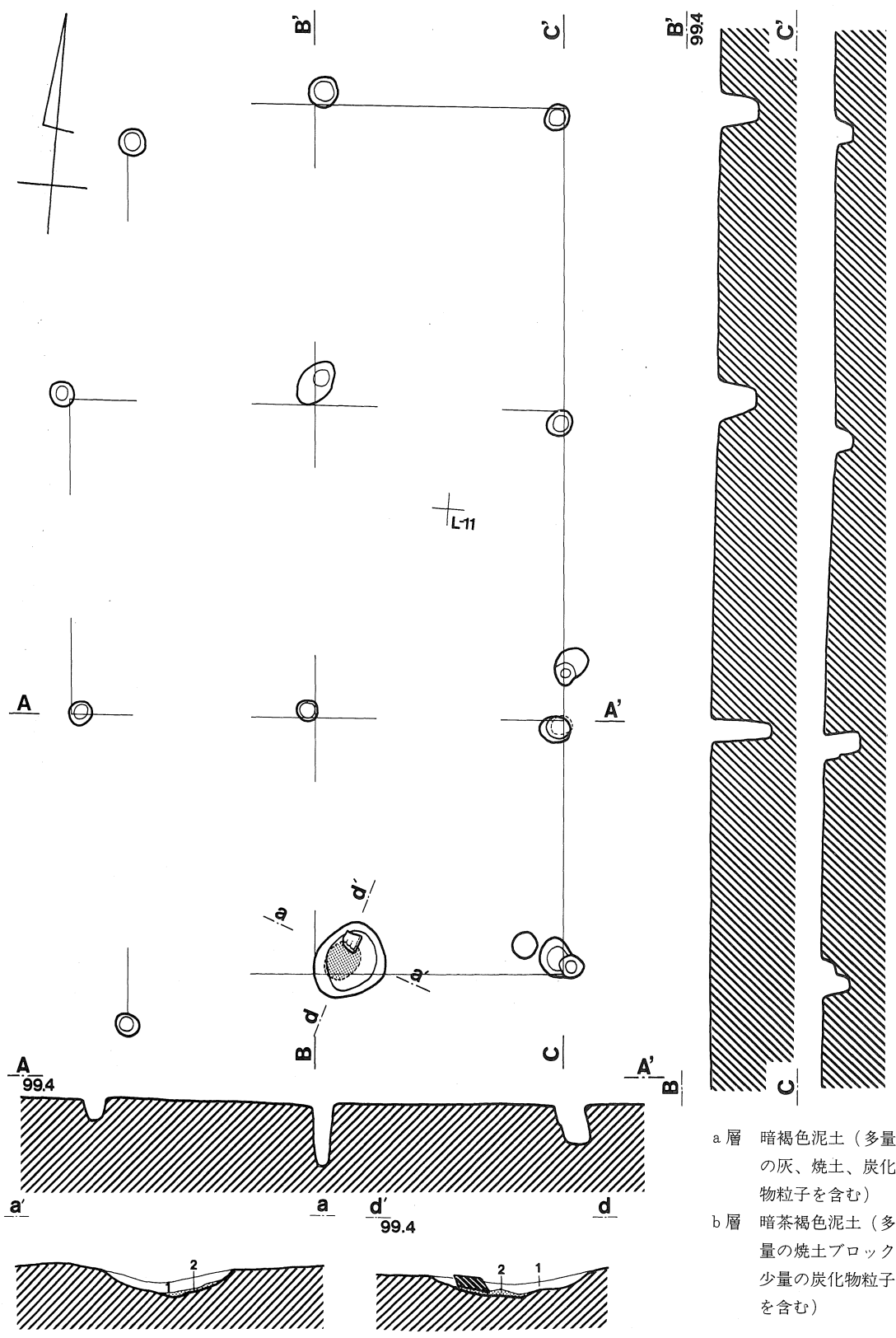
第205图 SB-3



第206图 S B - 4

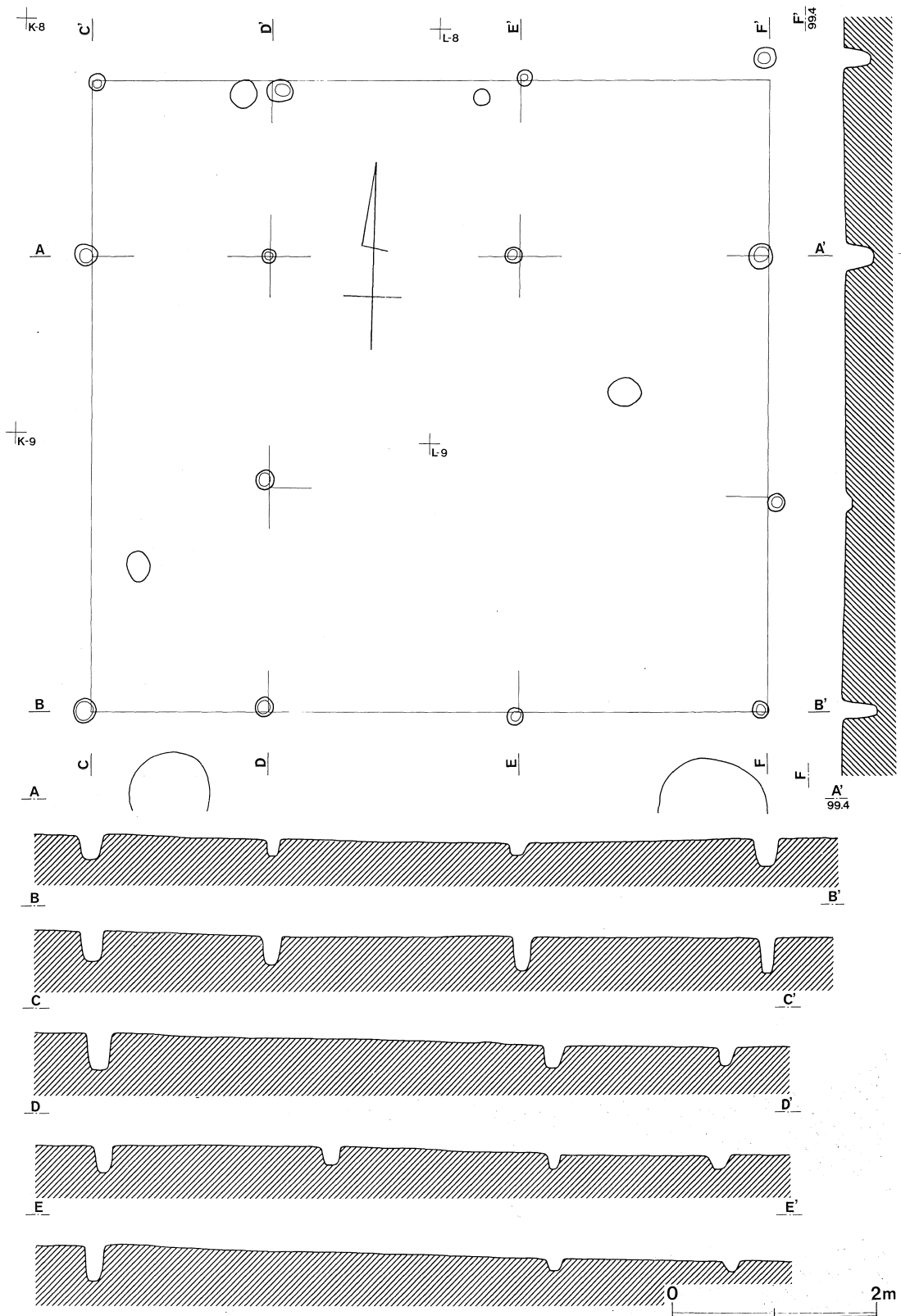


第207图 SB-5

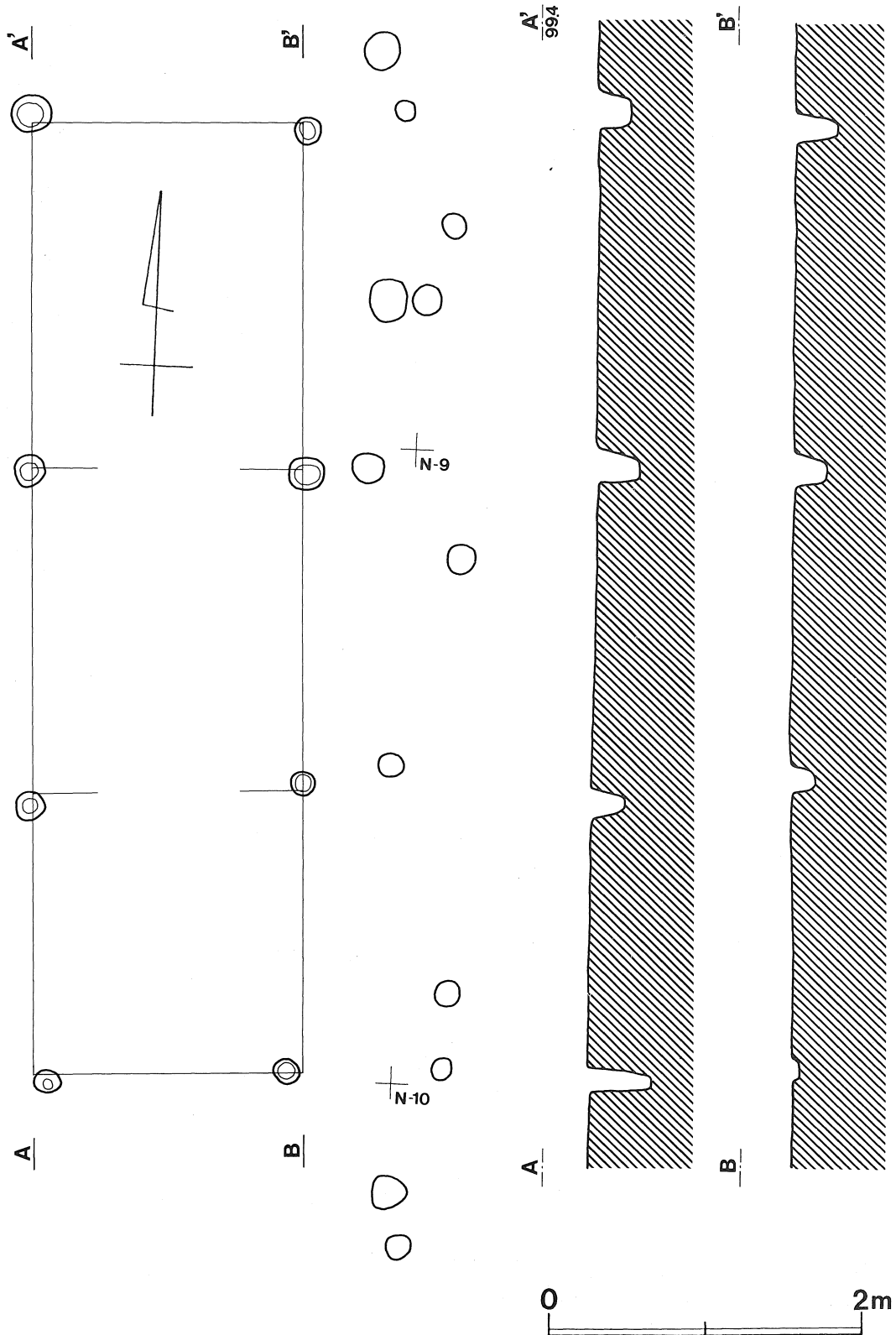


- a層 暗褐色泥土（多量の灰、焼土、炭化物粒子を含む）
- b層 暗茶褐色泥土（多量の焼土ブロック、少量の炭化物粒子を含む）

第208図 SB-6 (S=1/40、a・bは1/20)  
- 212 -

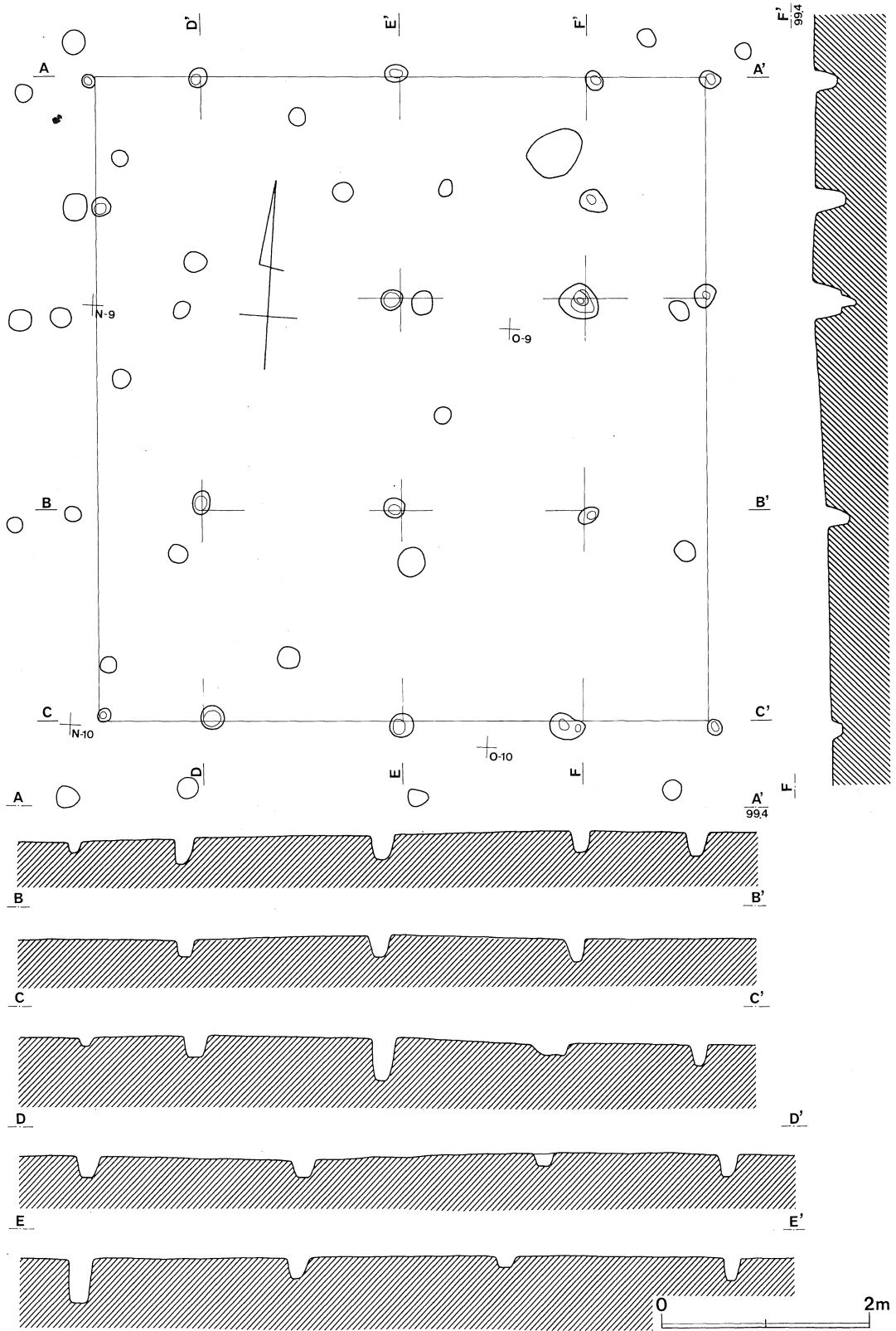


第209图 SB-7

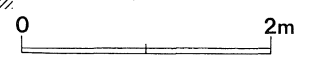
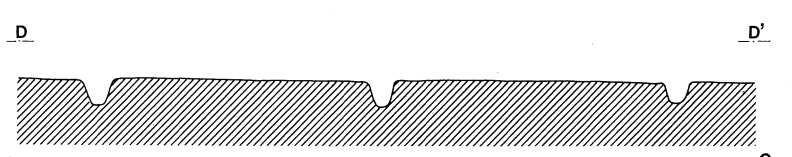
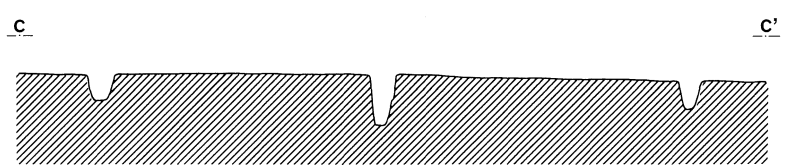
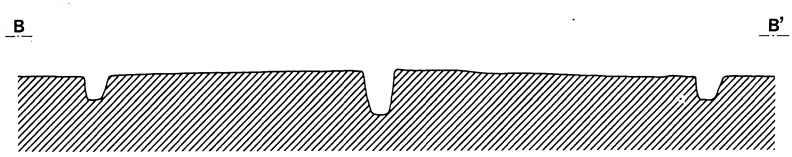
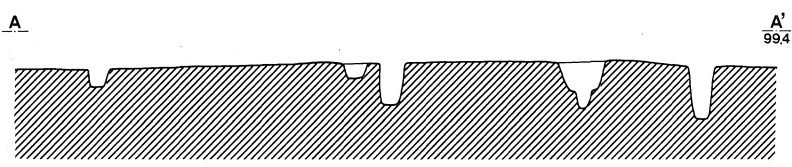
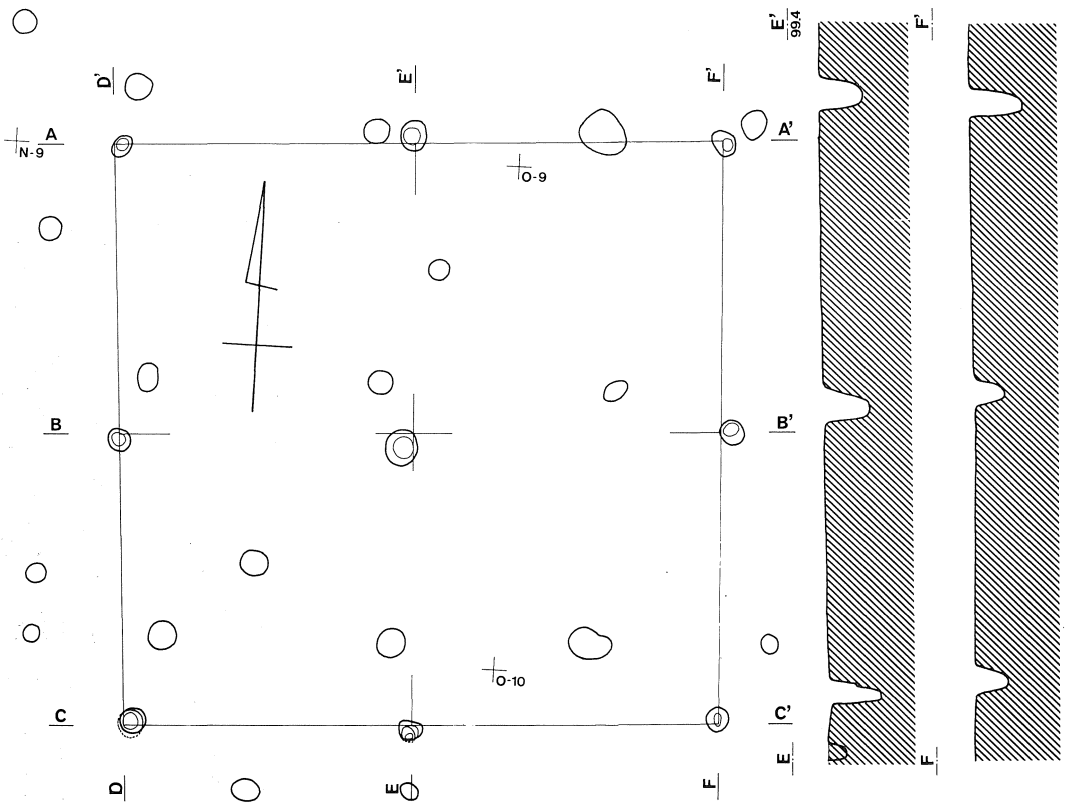


第210图 SB-8

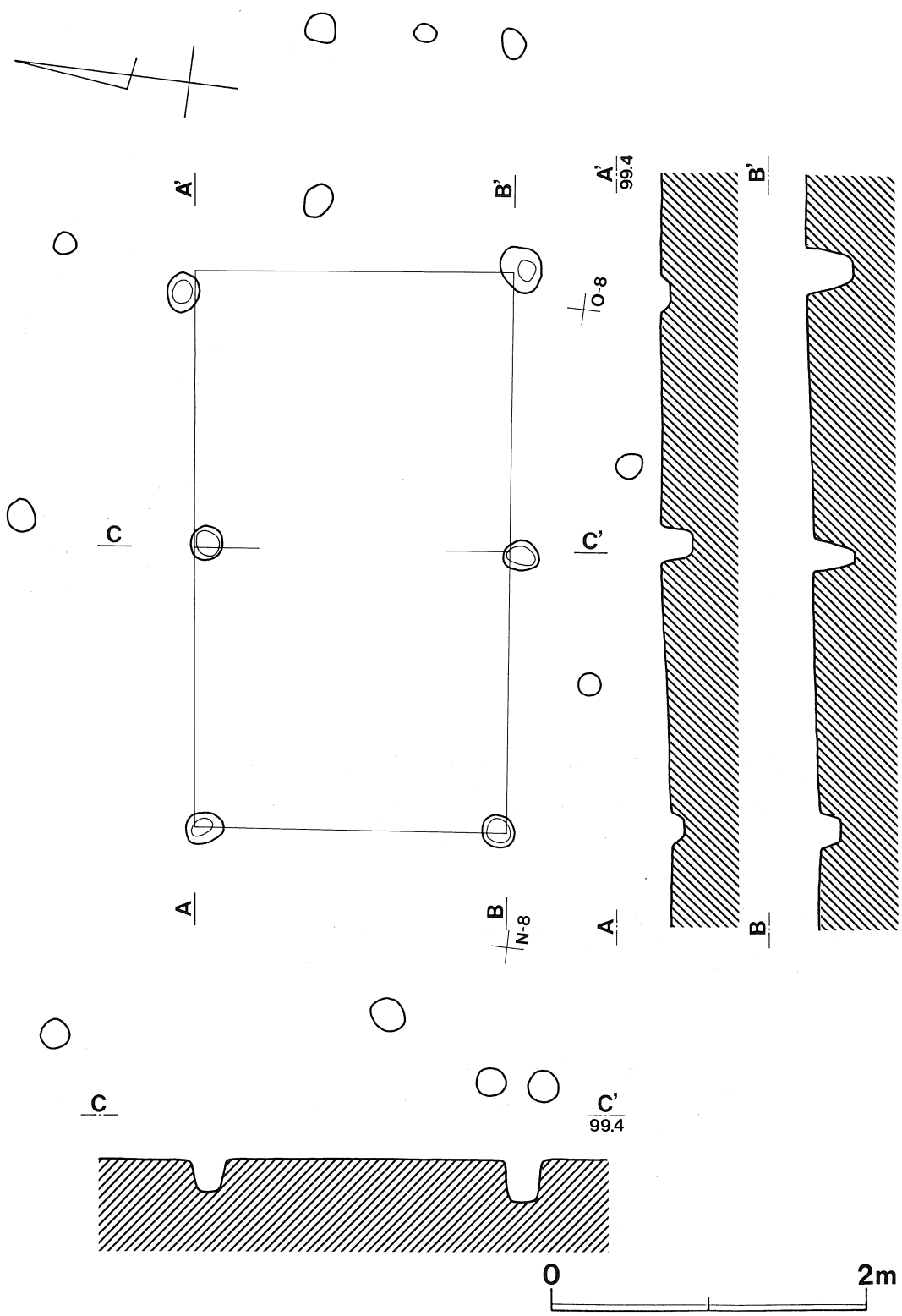




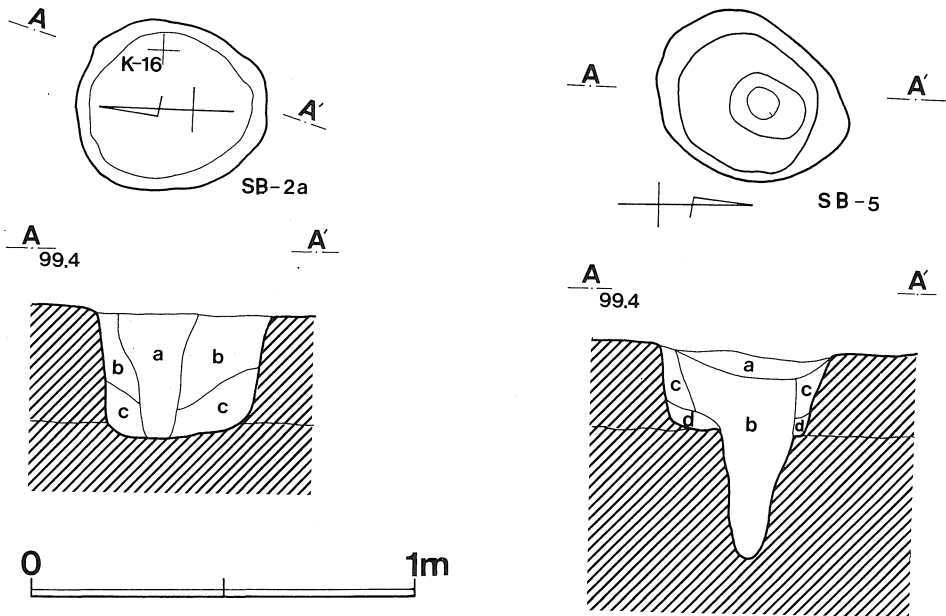
第211图 SB-9



第212图 SB-10



第213图 S B - 11



第214図 SB-2a 南西隅柱穴・SB-5 北西隅柱穴

SB-2a 南西隅柱穴土層説明

- a層 黒褐色泥土（多量の炭化物粒子、及び白色軟質粒子と少量の焼土を含み、比較的軟かい）
  - b層 暗褐色泥土（炭化物、焼土粒子及び少量の白色軟質粒子を含みAブロックを多量に含む。硬くしまっている）
  - c層 暗褐色泥土（少量の焼土、炭化物粒子を含み、比較的軟質である）
- 明度 b > c

SB-2a カマド前庭土層説明

- a層 黒灰色泥土（多量の炭化物、焼土を含み、灰を主体に構成される）
- b層 暗褐色泥土（Aを主体に構成され、少量の焼土、炭化物を含む 底面は焼けていない。）

SB-5 北西隅柱穴土層説明

- a層 暗褐色泥土（黒茶褐色の斑紋と白色軟質粒子を含む）
- b層 黒褐色泥土（少量の白色軟質粒子、焼土、炭化物粒子を含み、比較的軟かい）
- c層 暗褐色泥土（多量の炭化物を含み、Aに近い）
- d層 暗褐色泥土（少量の炭化物を含み、Aに近い。c層よりも粒子が細かく、色も明るい）

SK-2 土層説明

- a層 暗褐色泥土（多量の白色軟質粒子と、少量の焼土、炭化物を含む）

SK-4 土層説明

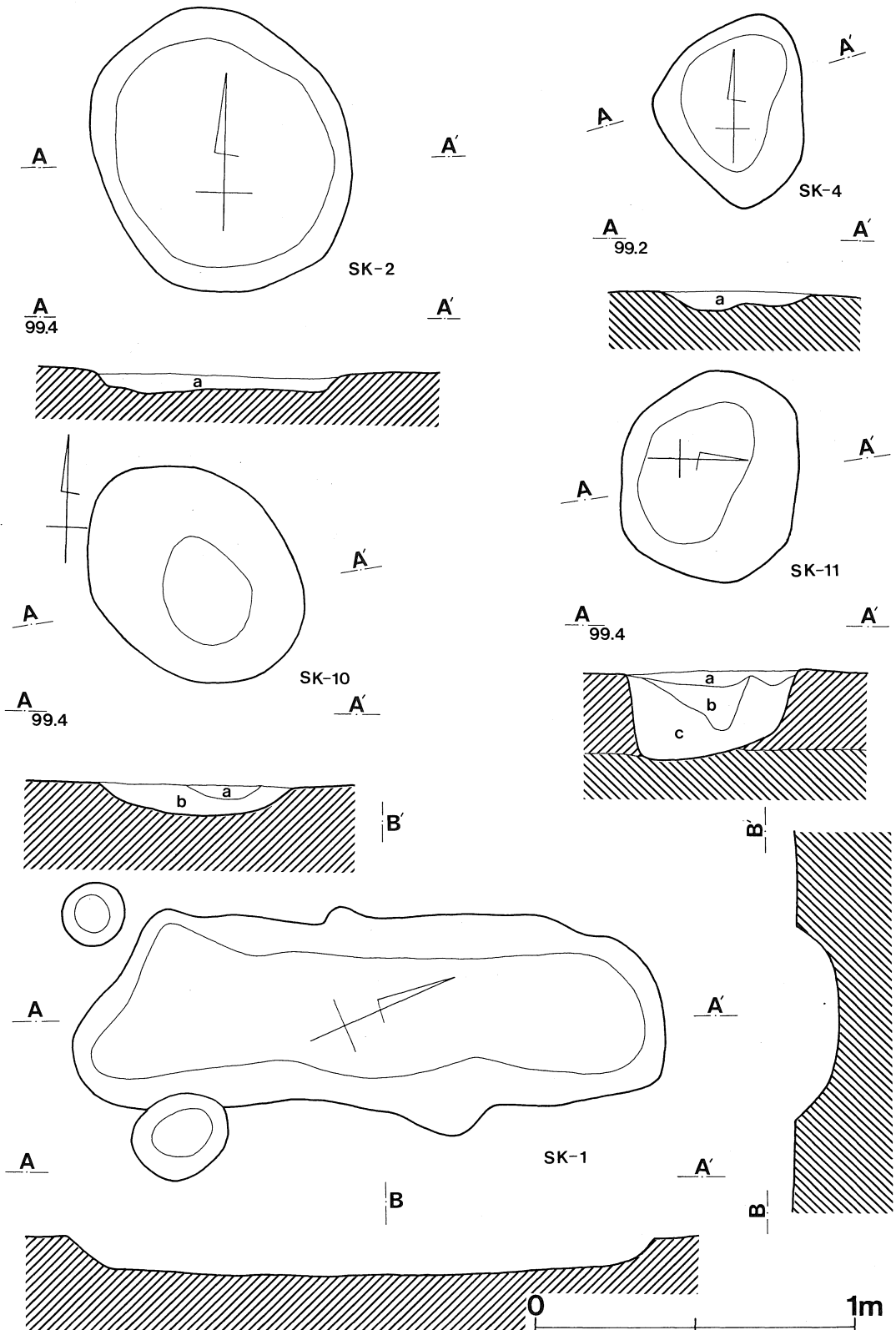
- a層 黒褐色泥土（多量の白色軟質粒子と少量の炭化物粒子をふくむ）

SK-9 土層説明

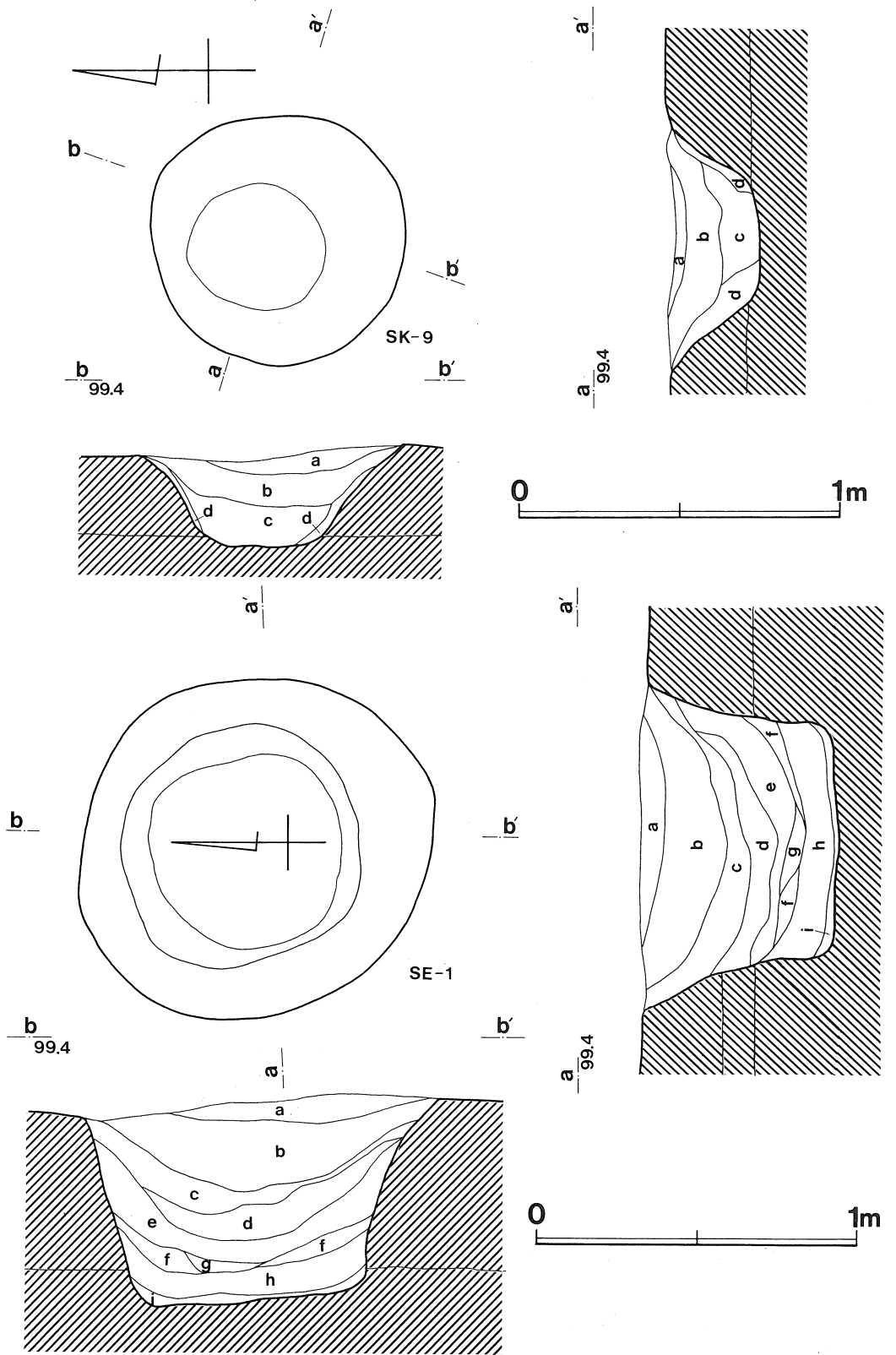
- a層 暗灰色泥土（多量の焼土、炭化物を含み、灰を主体に構成される）
- b層 暗褐色泥土（多量の白色軟質粒子を含みAブロックを多く含んでいる）
- c層 黒褐色泥土（少量の焼土、炭化物、白色軟質粒子を含み、やわらかい）
- d層 暗茶褐色泥土（b層より多量の白色軟質粒子、少量の焼土、炭化物を含み、全体的に粒子が荒い。c層との境界は不明瞭である。）

SK-10 土層説明

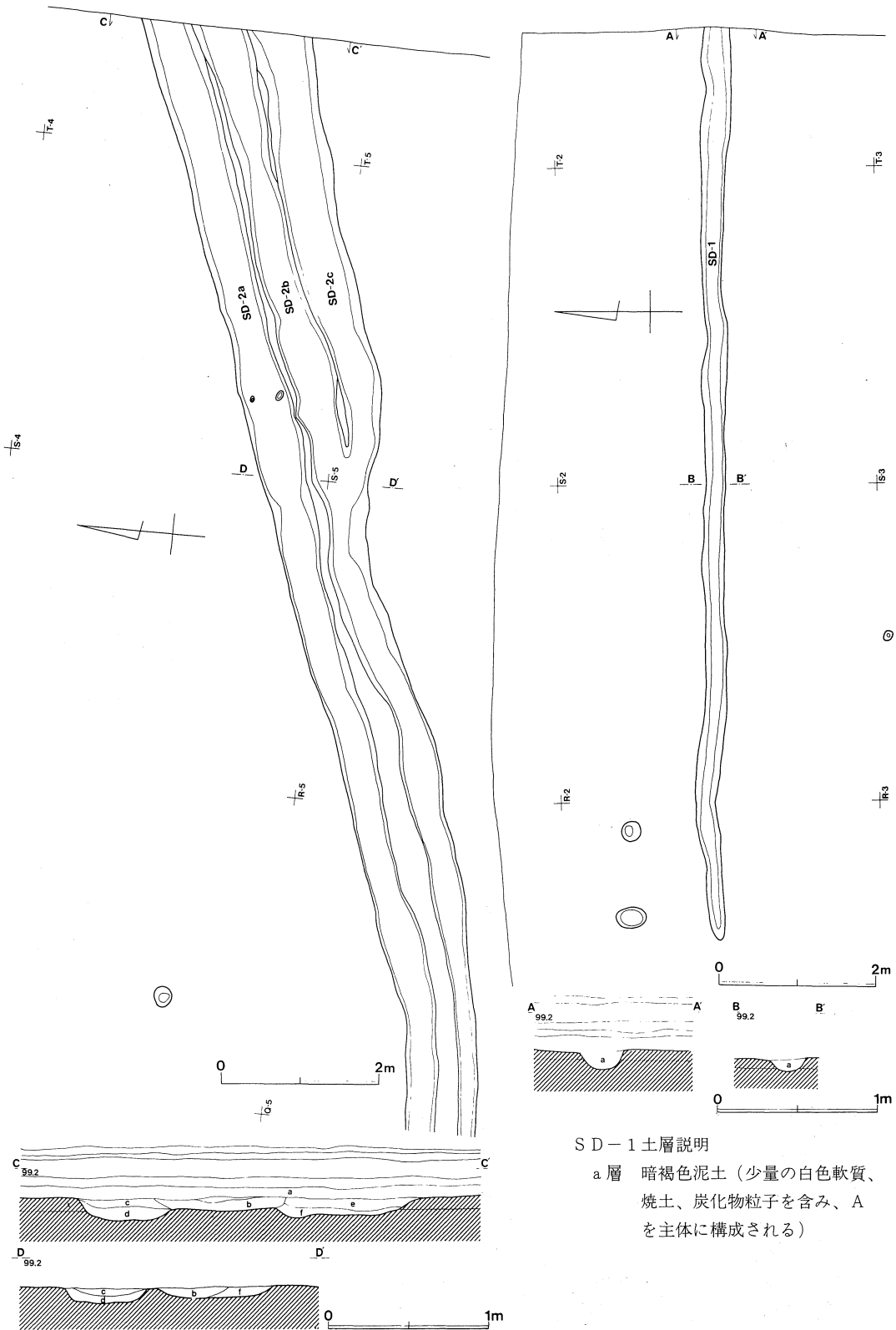
- a層 黒褐色砂泥（1cm程の礫を多く含む）
- b層 暗褐色泥土（少量の炭化物、焼土を含み、Aを主体に構成される）



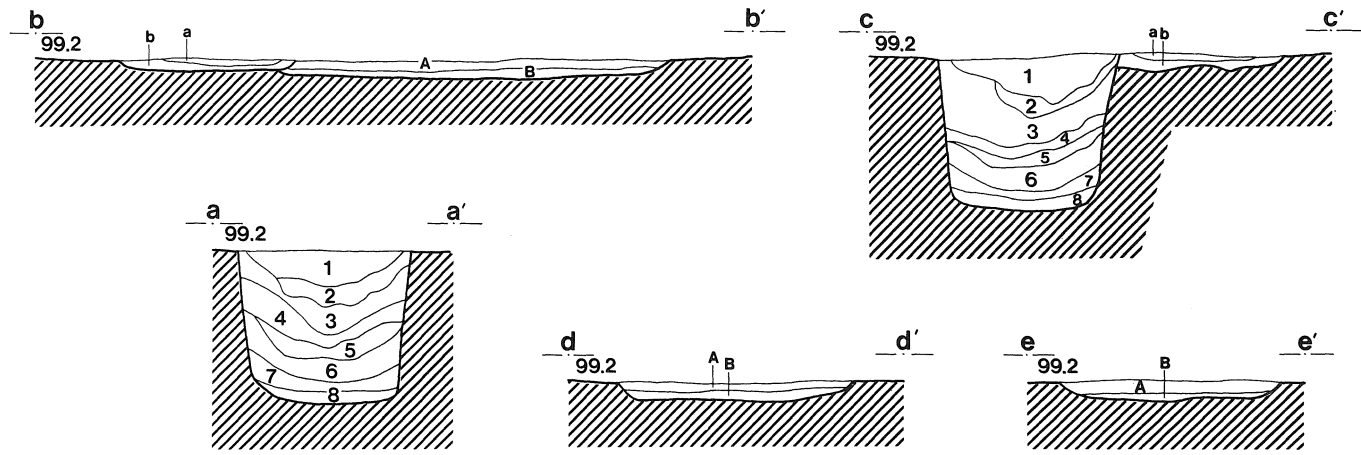
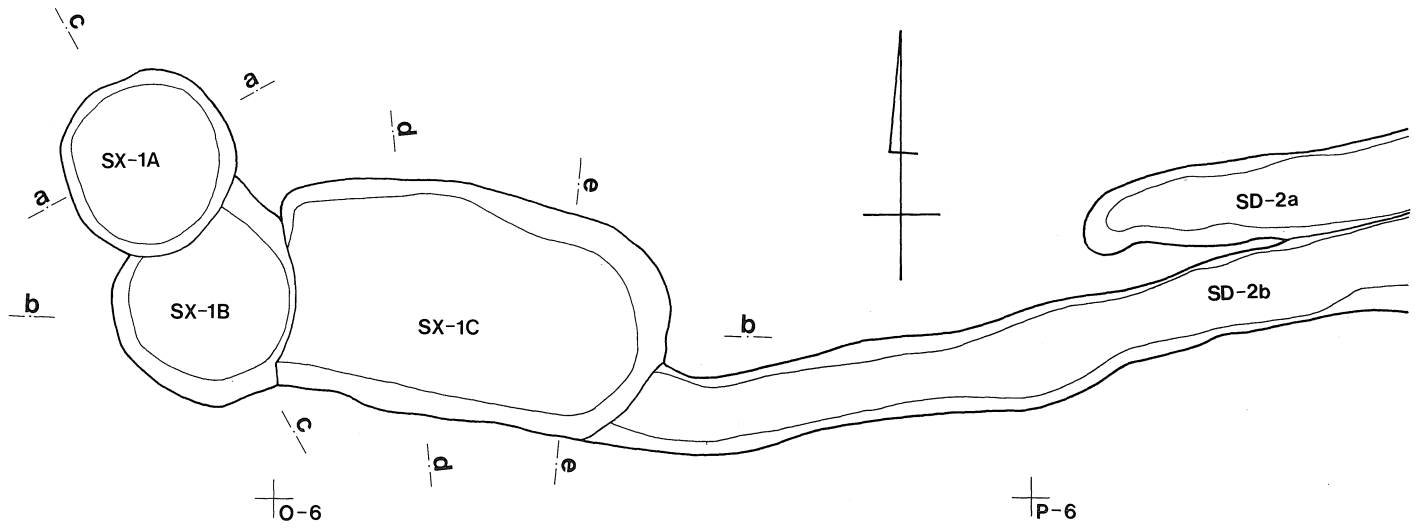
第215図 SK-1、2、4、10、11



第216图 SK-9、SE-1



第217図 SD-1 SD-2 a・b・c



第218图 SX-1A·B·C

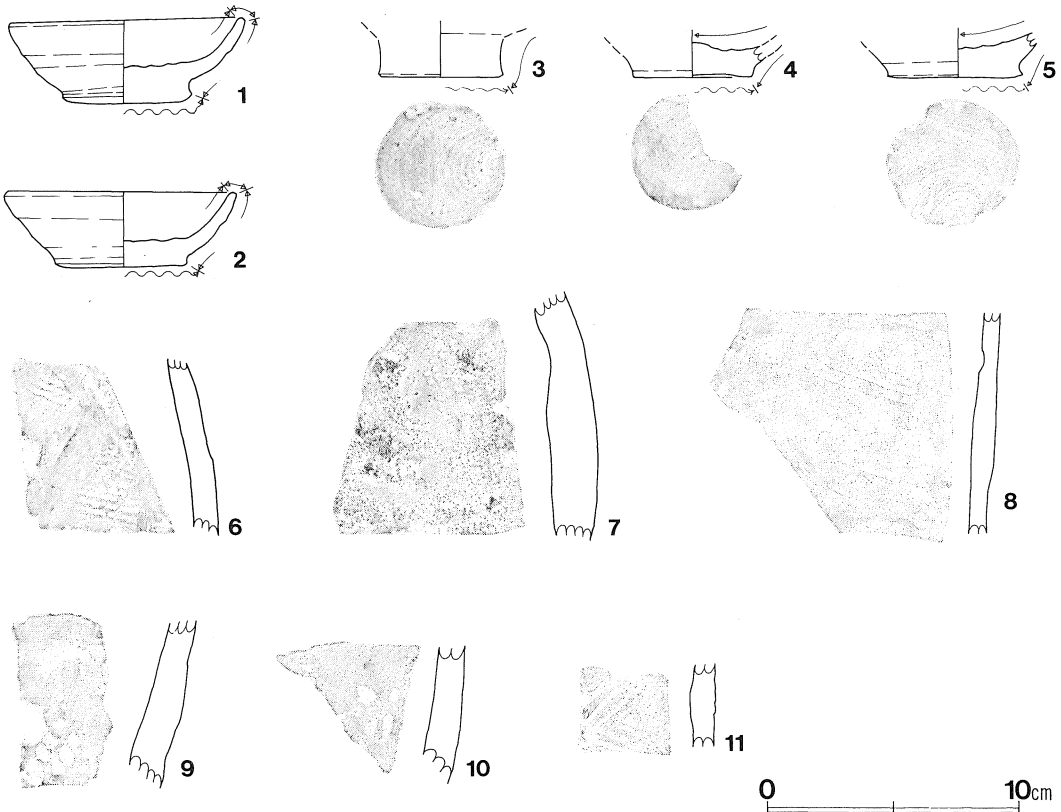


上一ノ堰 SX-1 土層説明

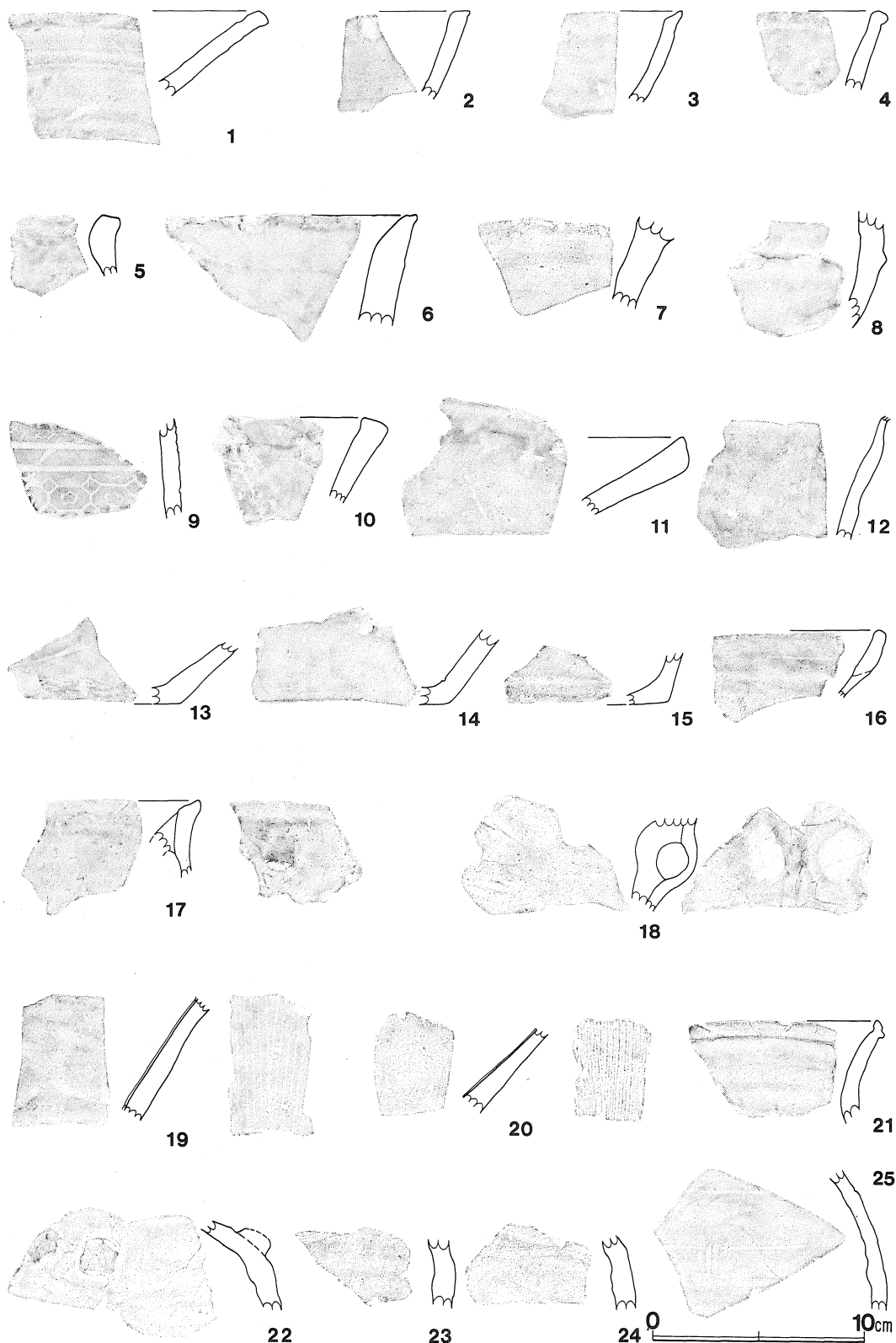
- 1層 暗褐色砂泥層（若干の小礫を混入し、ブロック状-5mm位-の酸化鉄粒がまばらに存在、炭化物もブロック状に混入する。小型(-1mm程度-)の白色粒子-灰-が密に存在する。）
  - 2層 暗黄褐色砂泥層（白色粒子、炭化物を含まなくなり、小型の礫が増加し、黄色を帯び粘性がます。）
  - 3層 暗褐色砂泥層（炭化物が多くなり、大形-3cm位-のブロック状で混入する。焼土ブロック-2~5mm-も若干混入する。粘性の強い層。小礫の混入が減少。）
  - 4層 暗茶褐色砂泥層（窯壁状のブロックが多くなり、大形-3cm位-のものを混入する。3層よりも炭化物は減少し、砂、礫が増加し、泥が減少する。焼土粒子の混入は3層よりも少ない。）
  - 5層 暗茶褐色砂泥層（4層よりも炭化物ブロックは小形化、小礫が増加し、粘性は減少し、色調は暗くなる。）
  - 6層 暗褐色泥砂層（茶褐色泥がブロック状に混入し、小礫、砂が多く、炭化物等の混入は見られない。）
- 明度 2 > 1 > 6 > 3 > 4 > 5

- A層 暗褐色砂泥層（白色粒子-灰-を多く混入し、小形-2~3mm-の窯壁状を含む。小礫も若干含み、炭化物も比較的少ない。密な層である。）
  - B層 暗褐色砂泥層（窯壁状が多少大形化、増加し、炭化物も増加する。白色粒子はなくなり、層中に空隙-1~3mm-の多く見られる粗な層である。若干の焼土粒子を含む。）
- 明度 B > A

- a層 暗褐色砂泥層（炭化物を多く含み、焼土粒子が見られる。）
  - b層 暗褐色砂泥層（焼けた土の層であり、焼土が大形のブロック状又は面状に現われている。炭化物含む。）
- 明度 b > a



第219図 上一ノ堰遺跡出土土器(1)



第220図 上一ノ堰遺跡出土土器(2)

上一ノ堰遺跡の現況



乙中ノ堰遺跡

## 第10章 乙中ノ堰遺跡の概要

### 調 査

本遺跡は「埼玉県文化財包蔵地台帳」の（児玉町No.113）に相当し、調査地点の小字名から乙中ノ堰遺跡と呼称する。調査対象区は、圃場整備事業によって水田化される約1,500㎡である。

遺跡は、調査前には集落跡と考えられていた地点であった。しかし、調査の結果、本地点の地形は古墳時代以降に形成された自然堤防であり、表面に散布する遺物の多くは、おおむね近世以降に堆積したものであることが判明した。これらの遺物は、主に50m程西側にある集落跡より流出したものと考えられる。

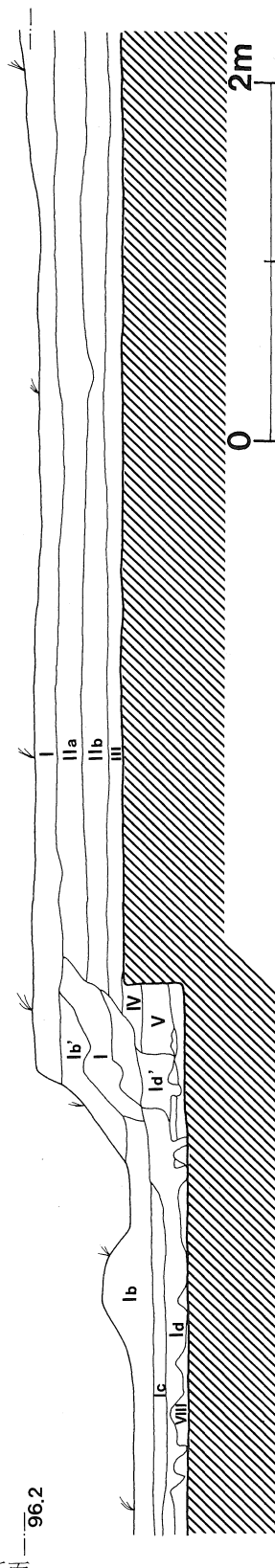
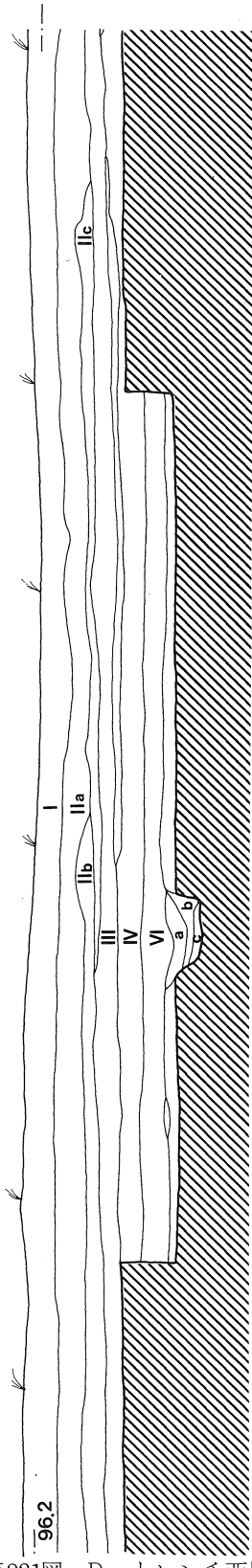
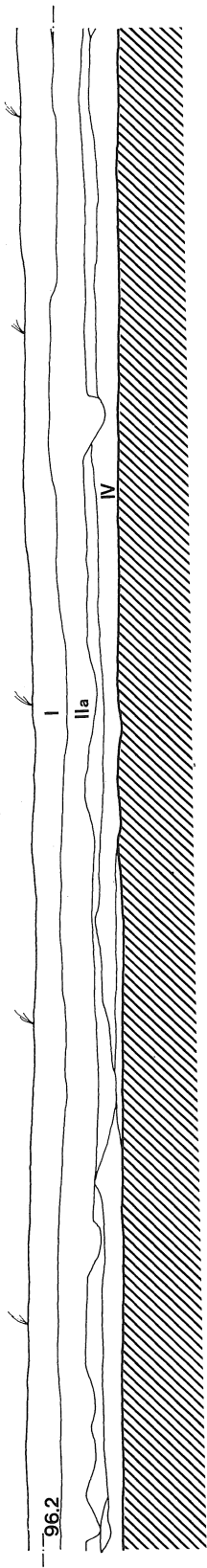
本遺跡の基本層序は、現地表面より順次、現代耕作土層→近世耕作土層→上部褐色砂泥層→下部褐色砂泥層→古代水田耕作土層である。この古代水田耕作土層上面より、溝状遺構（SD-1、第224図）が切り込んでいる。検出された遺構は、上記の水田耕作土層と溝状遺構の他に近世～現代溝状遺構（SD-2、第225図）がある。出土遺物は非常に少なく、水田耕作土層上面にくい込んで五領期の台付竊脚部が出土している。

### 水田耕作土層

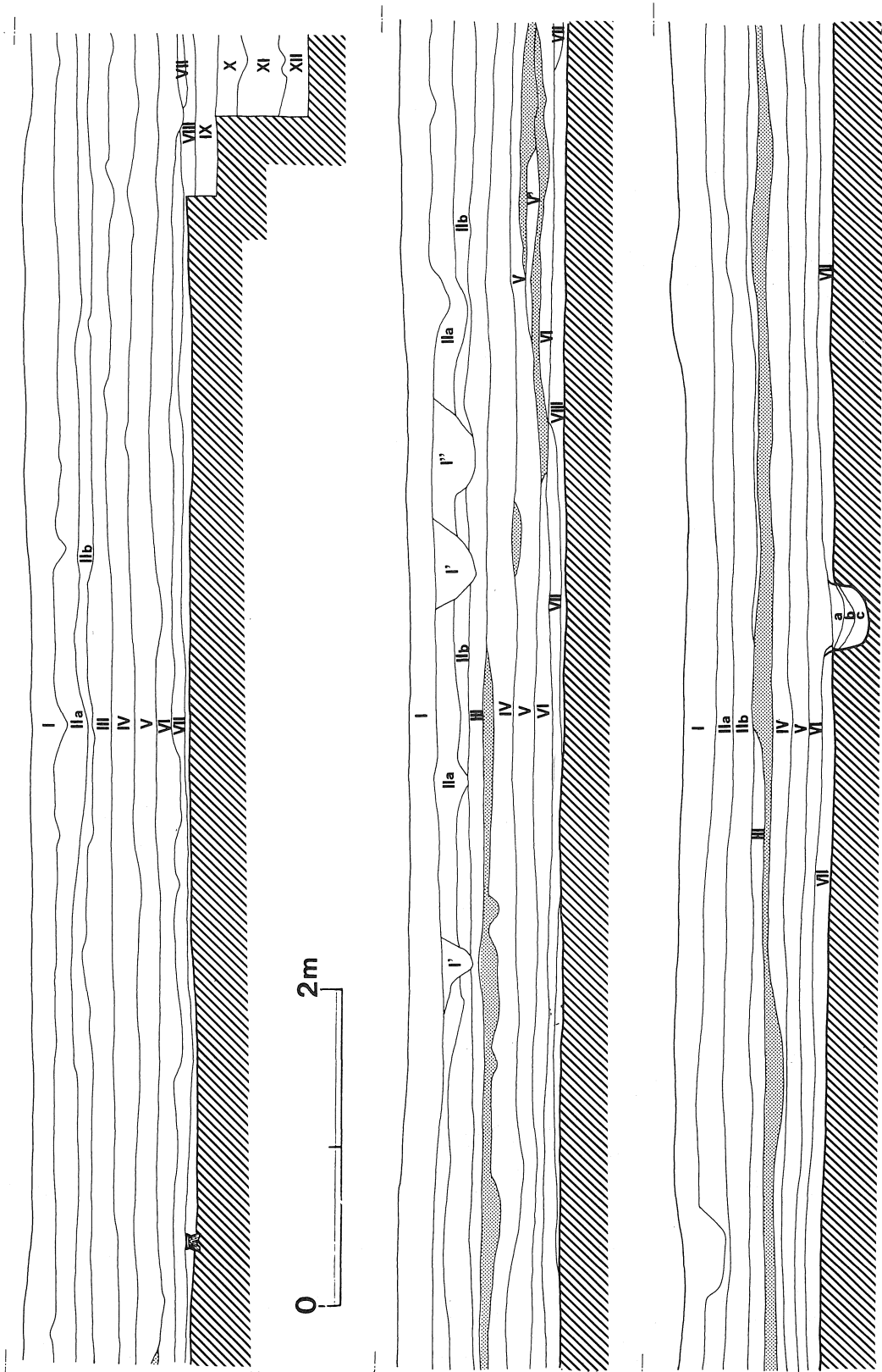
本遺跡で検出された水田耕作土層は、5世紀前半と考えられるもので、金屋遺跡群内では最古のものである。この時期の谷水田以外の水田は本遺跡のように微高地上の集落に隣接する地点に局部的に営まれていたものと考えられ、圃場整備地区内の他の地点では検出されていない。この水田址は、畦畔が残存していなかったため、その形態・規模等が確認できなかった。しかし、溝状遺構の走行が、ゆるやかに屈曲していることから、その水田の形態もまた同様に屈曲したものであったと考えられよう。

（鈴木徳雄）

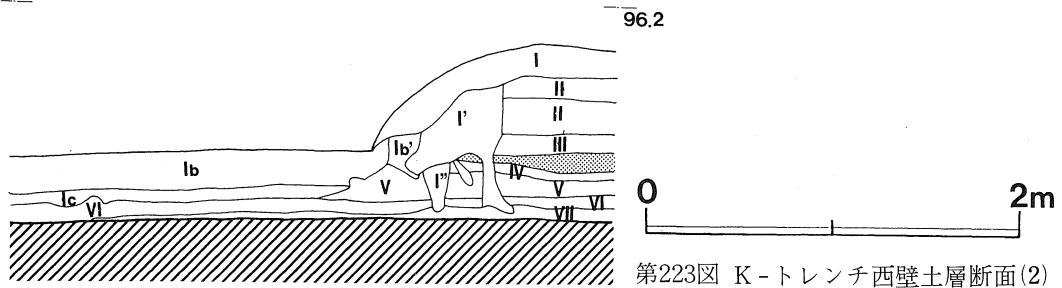




第221図 D-トレンチ西壁上層断面



第222図 K-トレンチ西壁土層断面(1)



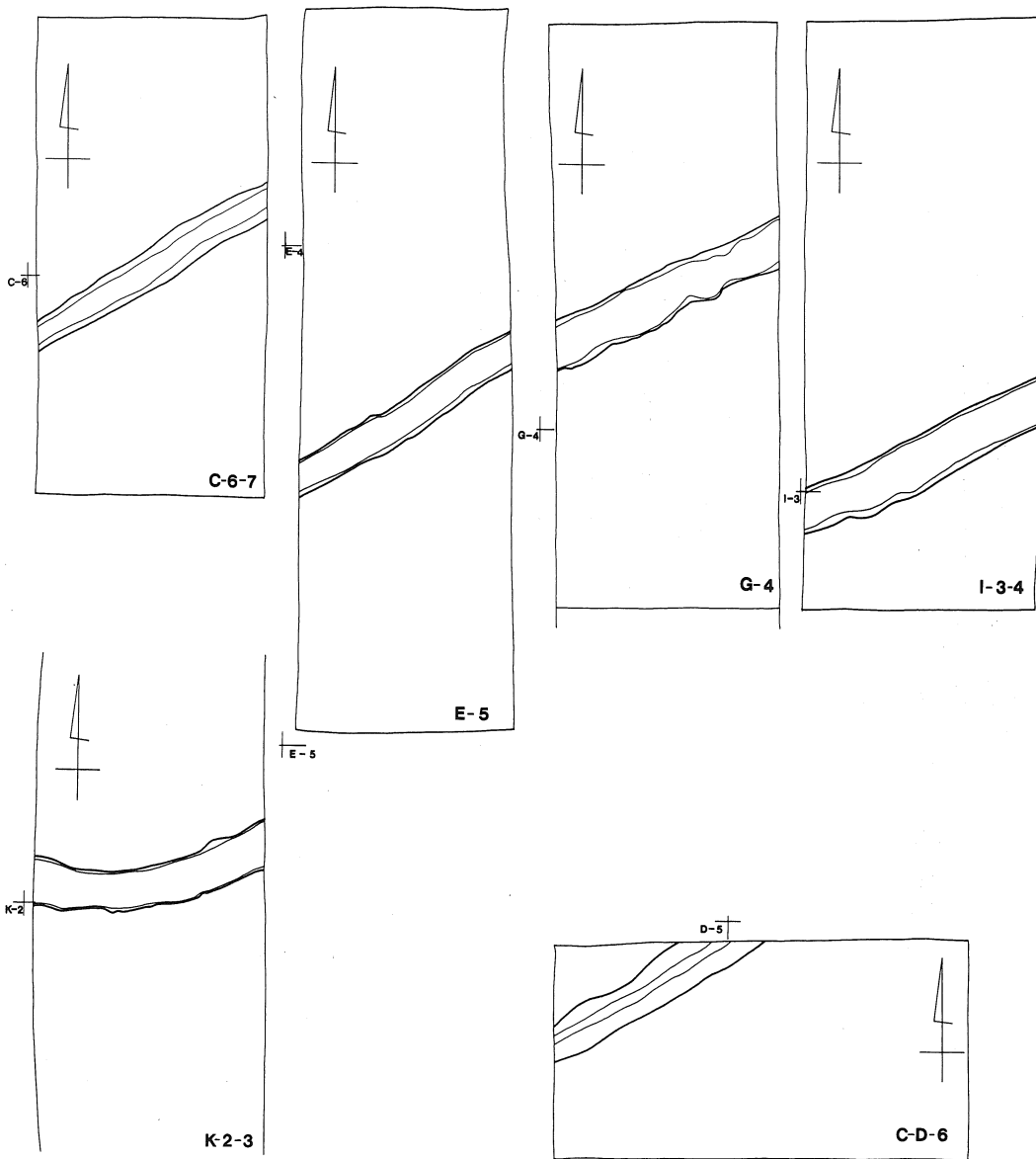
第223図 K-トレンチ西壁土層断面(2)

乙中ノ堰遺跡基本土層説明

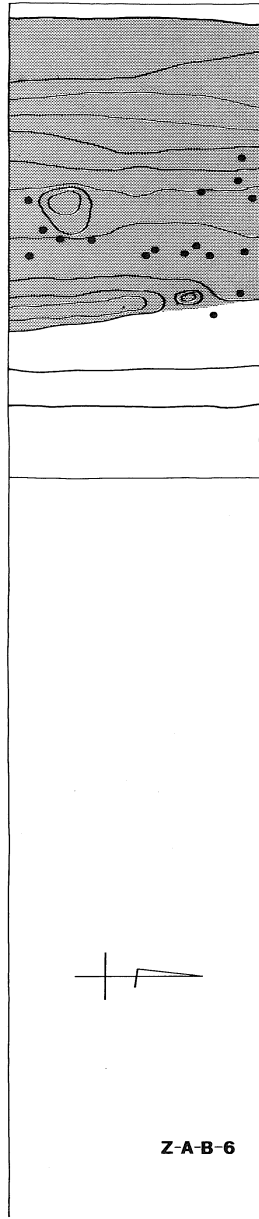
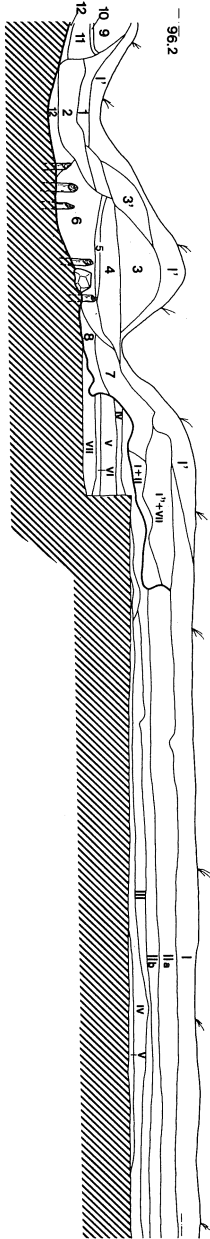
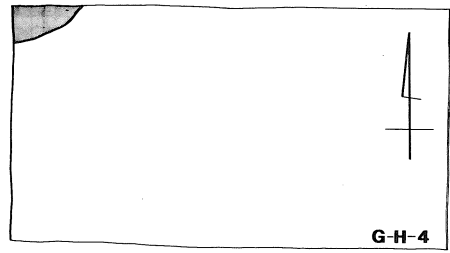
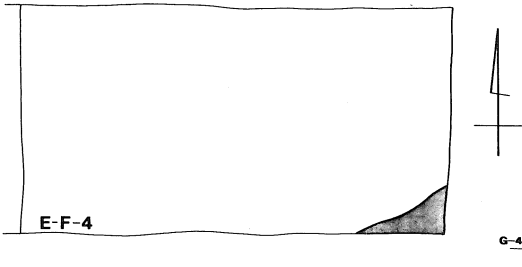
- I層 黒褐色土（1～2cm程の礫を少量含み、T、Aを微量含む。軟かく、II層との境界は明瞭である。耕作土層。）
- II層 暗褐色泥土（多量のT、Aを均質に含み、1～2cm程の小礫、砂粒を含む。）又、平安～近世の遺物も含む。近世の畑作耕作土であろう。）
- III層 黒褐色泥土（0.1～1cm程の砂礫と、茶褐色粒子を少量含み、やや粘質で、緻密である。中世の水田耕作土と思われる。）
- IV層 褐色砂泥（鉄斑が顕著に見られるが、一定の面を形成せず、層中に分散している。微砂と粘土によって構成され、緻密である。）
- V層 灰褐色粘土（上部は砂質で、下部は粘土質となる。IV層との境界は明瞭であるがVI層との境界は漸移的である。又、縦方向に線状の鉄斑が認められる。）
- VI層 暗灰色粘土（垂直方向の線状鉄斑が顕著で、微砂、及び、絹雲母片岩粒を含み、緻密である。耕作は受けていないと思われる。）
- VII層 黒褐色粘土（VI層より連続する線状鉄斑がくい込み、他は均質で緻密である。SD-1の切込面は、この層の上面であり、層中に五領期の甕台部が包含されている。）
- VIII層 黒褐色粘土（垂直方向の線状鉄斑が認められ、VII層より明るく、少量の砂粒を含む。VII層と比べ、鉄斑が顕著となる。）
- IX層 黒茶褐色粘土（粒状の鉄斑が認められ、砂粒が均一に含まれている。VIII～IX層はクラックが顕著である。）
- X層 灰褐色粘土（層全体に鉄斑が認められ、堅緻である。鉄斑部はやや砂質となる。灰層との境界は明瞭である。）
- XI層 灰色粘土（灰全体を貫く垂直方向の線状鉄斑が発達し、均質、緻密である。又層との境界は漸移的である。）
- XII層 灰色粘土（均質な層で、砂粒等も少なく、鉄斑も少ない。）







第224図 SD-1

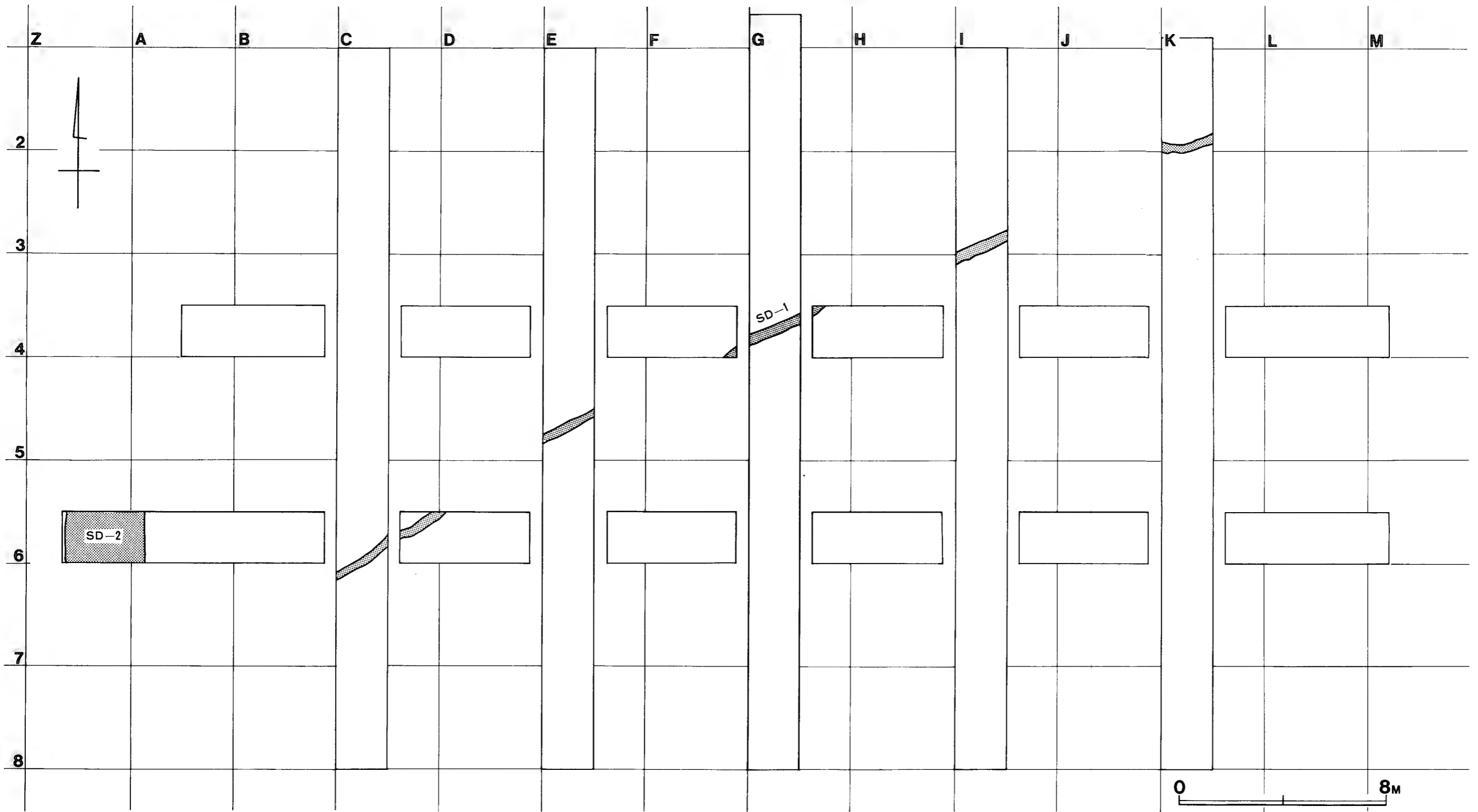


乙中ノ堰遺跡土層説明

A、B-4 トレンチ(水路部) (SD-2)

- 1層 黒褐色泥砂 (現代層)
- 2層 黄褐色砂礫 (水路フク土)
- 3層 暗褐色泥砂 (現代畦畔)
- 4層 暗褐色泥砂 (3層に類似する溝埋土。)
- 5層 暗褐色泥砂 (4層中に多量の炭化物を含む。)
- 6層 暗灰色砂礫 (旧水路フク土、杭と関連するもの。)
- 7層 褐色砂泥 (I、IIa、VII、及び8層の混じったもので、旧水路フク土。)
- 8層 暗褐色砂泥 (旧水路フク土。)
- 9層 黒褐色砂泥 (現畑作土。)
- 10層 黒褐色泥土 (水流による堆積土、粘質である。)
- 11層 黒褐色砂泥 (9層より暗く粘質である。旧水路フク土。)
- 12層 黒色泥砂 (旧水路フク土。)

第225図 SD-1(上)およびSD-2(左)



第226図 乙中ノ堰遺跡全測図

# 十二天遺跡

## 第11章 十二天遺跡の概要

### 調 査

本遺跡は「埼玉県文化財包蔵地台帳」の(児玉町-No.114)に相当する。本地区は、近世～近代に田端村の集落があった地区で、洪水の被害が多いため村の中心が現在の位置に移った後も村の鎮守である十二天社だけは1924年まで残されていた。現在、調査対象区の付近に残る十二天という小字名は、この神社のあった地点を示している。本遺跡は、この小字名より十二天遺跡と呼称する。

検出された遺構は、古墳時代の土壇(第278図)、平安時代堅穴住居址群18ヶ所、掘立柱建物遺構1(第390図)、奈良～平安時代の溝状遺構4(第303、○図)中世柱穴群(第284図)、土壇群(第270～280図)、井戸址(第264図)および溝状遺構(第307図)、近世溝状遺構3などがあり、それぞれの遺構の重複が激しく、遺構の確認は困難を極めた。

### 堅穴住居址

堅穴住居址は、古い住居址の主軸あるいは副軸に沿って重複するのを基本とし、大半の住居址は数棟から10数棟の重複が認められた。カマドは、概して焼土が少なく、東壁に設置されるものが多い。住居址の壁下には、直径5cm程の小ピットが並ぶものも多く、床は概して軟弱である。これらの住居址のあり方は、新築に伴う重複というより、むしろたび重なる改築の結果と考えられよう。住居の年代は大略10～11世紀代のものと考えられるものが大半であった。

### 溝状遺構

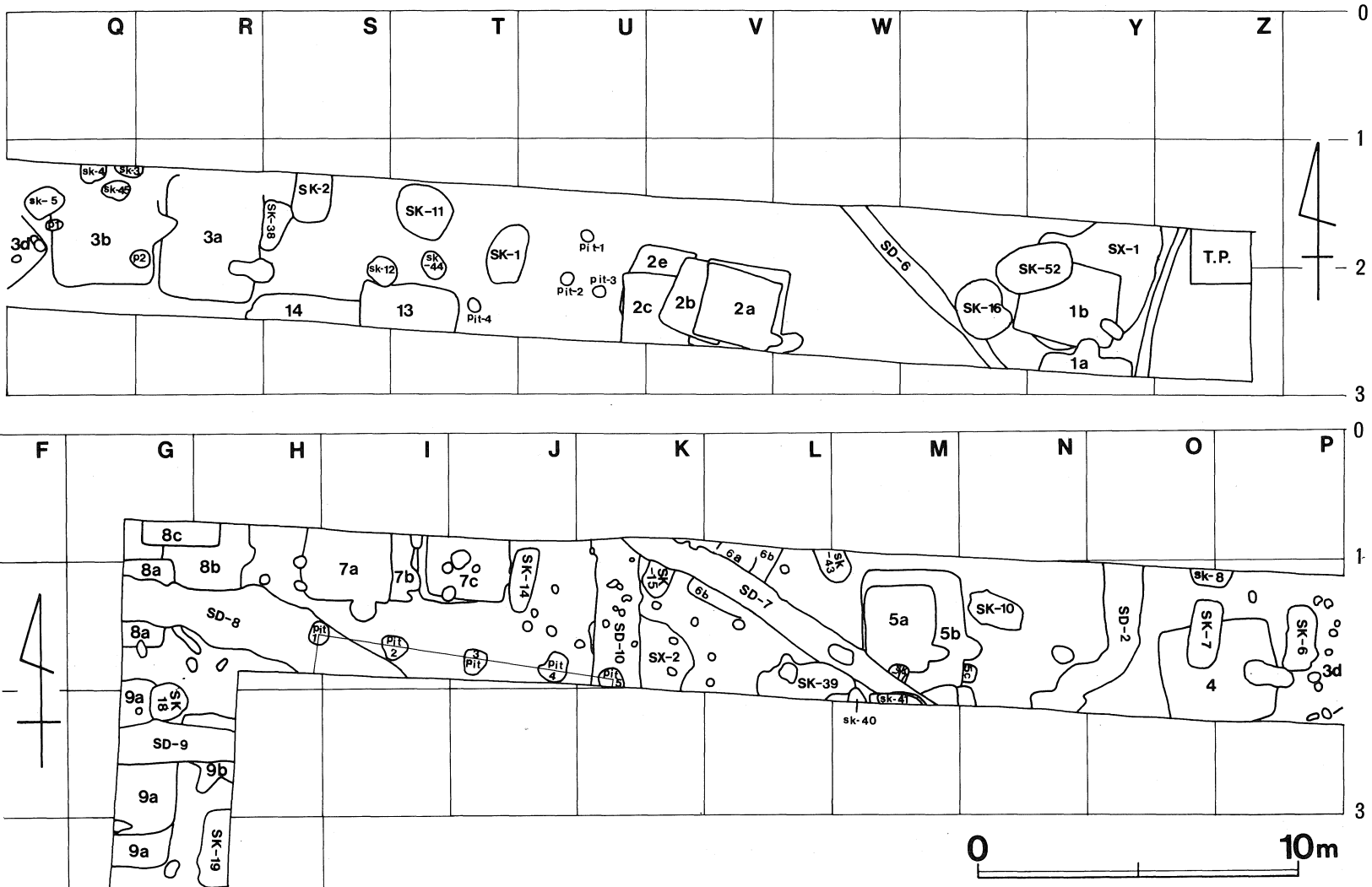
溝状遺構SD-3～5(第303図)は、全体が大きな溝状を呈し中央には幹線水路と考えられるSD-3、それを挟んで支線水路と考えられるSD-4・5があり、SD-4・5の溝底はSD-3よりも高い。SD-3は、幅約4mで溝底より8世紀後半の土器が出土しており、開削は更に遡るものと考えられる。おそらく本址の開削は、本地区の条里形地割りの施工と有機的な関連があるものと推定されよう。本址の覆土上面には、10世紀後半～11世紀と思われる土器が多量に投棄されており、その上部を浅間山系B軽石(1108年・天仁元年噴出)を多量に含む層が被覆していた。これによって遅くとも11世紀代には本址はすでに機能を停止していたことが解る。この時期に本址が廃絶していることは、これらの期間に公水の意識の変質と、律令体制のあり方に変化があったことを示唆している。

### 中世の遺構

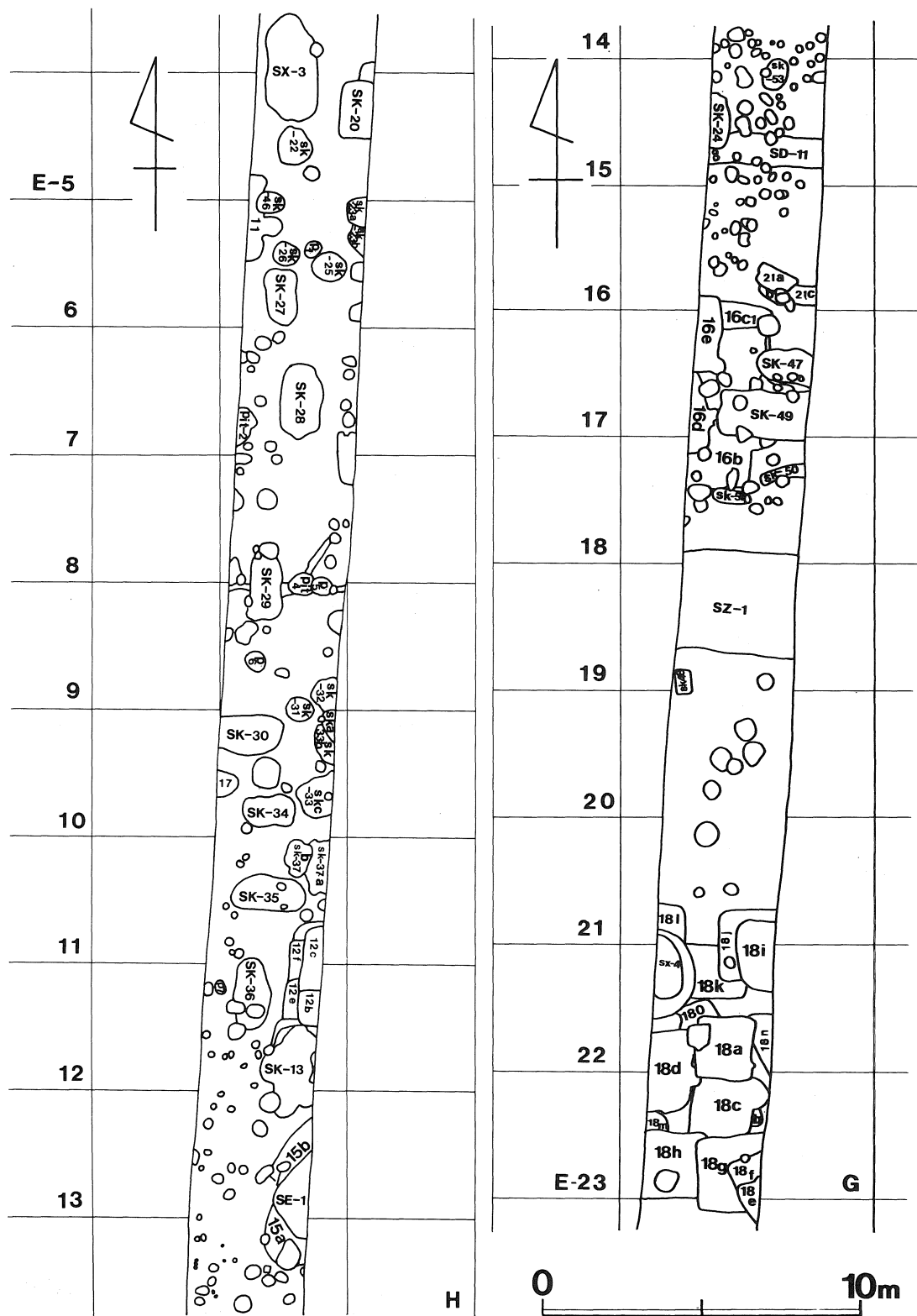
中世の柱穴群は、調査範囲の制約からその全容を把握することができなかった。しかし、おそらく掘立柱建物の重複によって形成されたものであろう。この柱穴群は、SE-1、SD-8とほぼ同時期と思われるもので、確認面に分布する遺物から15世紀代の建物址であろうと推定している。ちなみに本田端地区に現存する板石塔婆は、15世紀代のものが多く、この村落との関連をうかがわせるものである。中世の遺構には他に、これらの柱穴群等よりやや時期の下と思われる土壇群がある。

なお『新編武蔵国風土記稿』では、田端村は、元和年間に開墾されたという伝承があったことを記している。

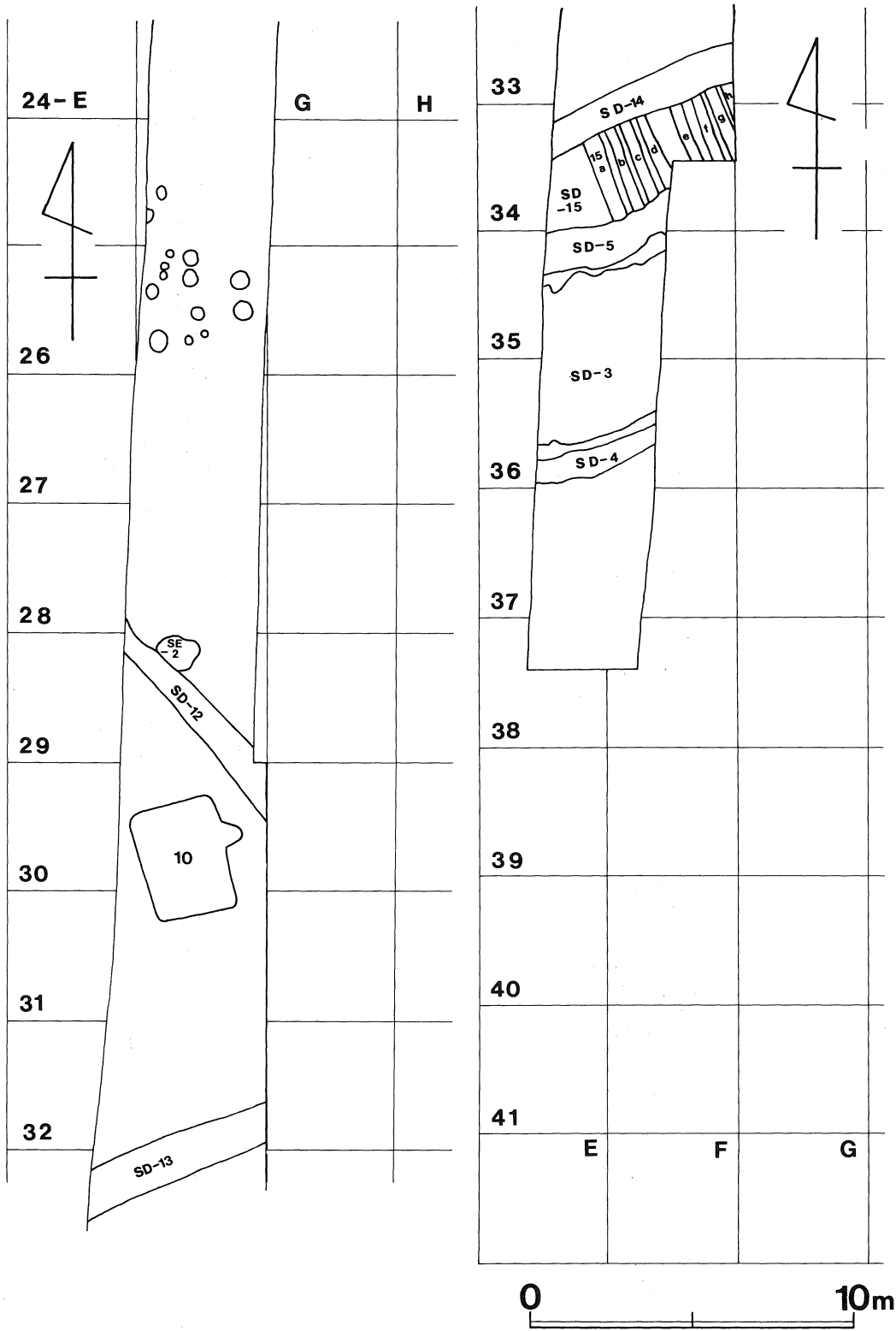
(鈴木徳雄)



第227图 十二天遗址 全测图 (1)

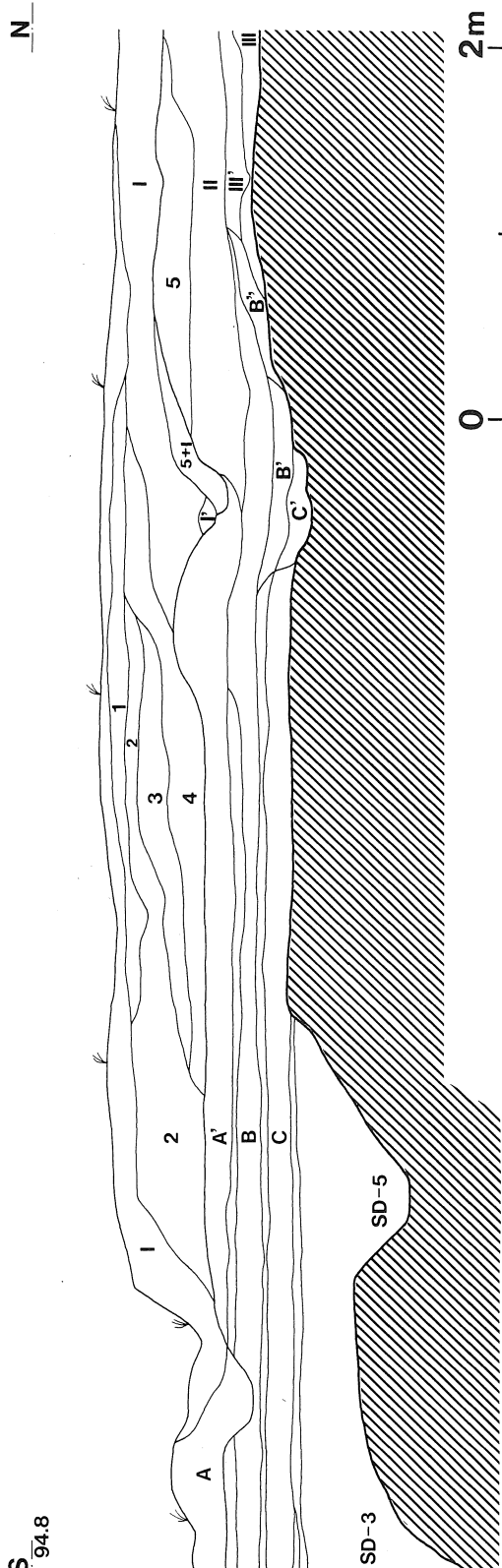


第228図 十二天遺跡 全測図 (2)



第229図 十二天遺跡 全測図 (3)

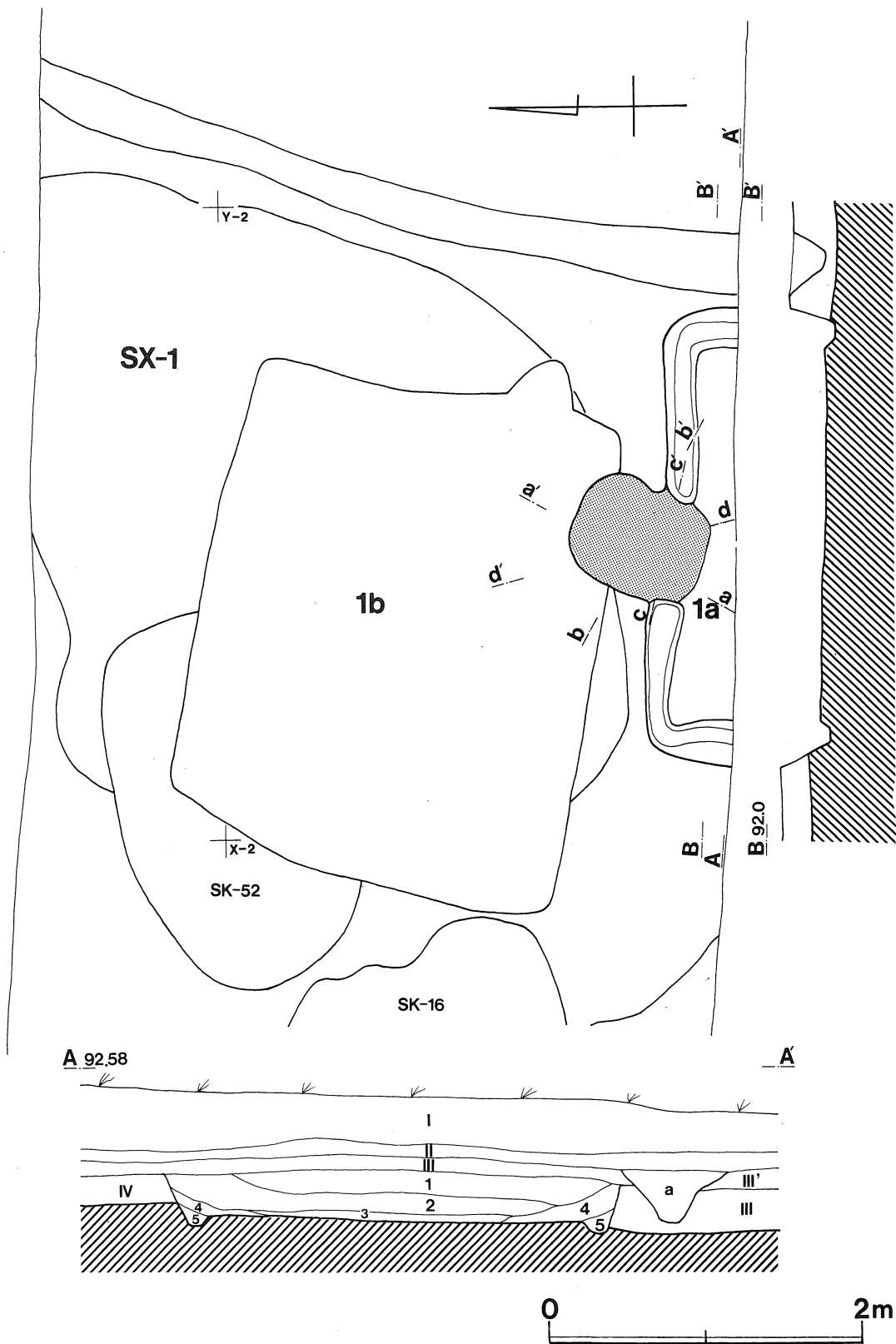




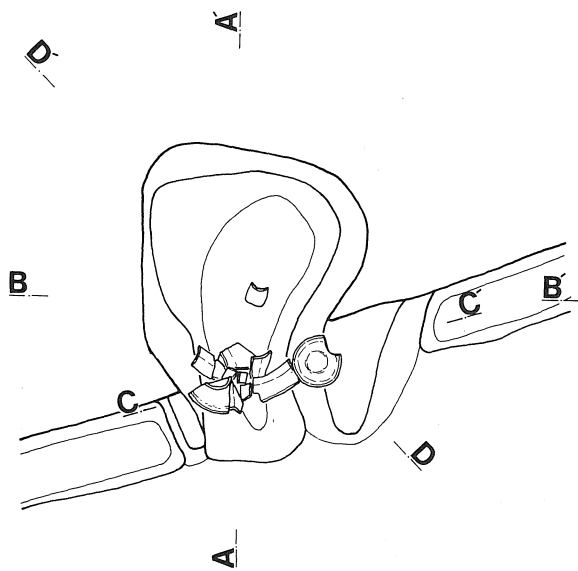
基本土層

- I層 暗褐色土層 (A軽石を多量に含み、均質だが粗である。現耕作土)
- II層 暗褐色土層 (A軽石をI層より多量に含み、均質であるが、I層より硬い。旧耕作土～一時的耕作土)
- III層 黒褐色土層 (B軽石風テフラを含み、焼土、炭化物粒子を含む。均質であるが、粗である)
- III'層 暗褐色土層 (Vを中心とし、ソフト化した土を基本にローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含みB軽石も検出できる。土層状態は比較的緻密である)
- IV層 暗茶褐色土層 (微量の白色テフラを含み、ローム粒子、遺物も含む)
- IV'層 暗茶褐色土層 (IVに類似するが、ロームソフトの比率が高く、均質であり、IV層と同一かも知れない)
- V層 黄褐色土層 (ハードローム層で、その上面は暗茶褐色テフラを含む硬質な層が残る)
- 1層 淡青灰色砂礫 (5mm～1cmの礫多く、砂粒もまた片岩質でない。現代道路層)
- 2層 暗褐色土層 (IにIVソフトを含む、現代層)
- 3層 暗褐色土層 (IにIIIソフトおよびブロックを多く含む、現代層)
- 4層 (IにVソフトおよびブロックを多く含む、現代層)
- 5層 暗黄褐色砂礫 (赤根川出自、片岩質、鉄分多い、現代道路遺構)
- A層 暗褐色泥土 (A軽石を含み軟かい。現代水田層)
- B層 暗褐色泥土 (A軽石を含み軟かい。近世水田層)
- C層 暗褐色泥土 (A軽石を含み軟かい。近世水田層)

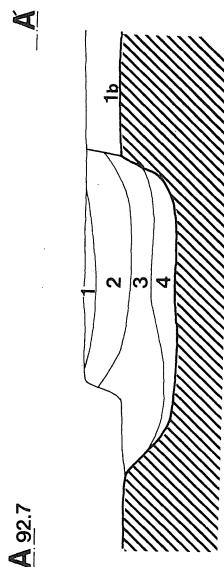
第230図 十二天遺跡基本層序



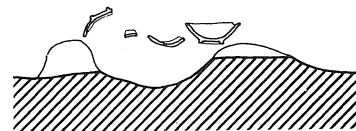
第231图 第1 a号住居址



B 92.86



C 92.6



C

D 92.7



D



第232図 第1 a号住居址カマド

1 a 住カマド土層説明

- 第1層 暗黒褐色土層（2mm程度の焼土と炭化物を含む。粘性はなく、しまりもない。）
- 第2層 暗黒褐色土層（5mm程度の焼土と、2cm程度の炭化物を多量に含む。第1層に比べ、粘性がある。）
- 第3層 暗褐色土層（5mm程度の炭化物を多量に含み、焼土をまったく含まない。）
- 第4層 暗褐色土層（1mm程度の白色粒子を含む。粘性がある。）
- 第5層 黄暗黒色土層（全体的に粒子が細かくよくしまっている。粘性が強い。）

1 a 住土層説明

第1層 黒色土層（軟質、均質で、ローム等の混入はなく、白色テフラを少量含む。風化Ⅲと有機物であろう。）

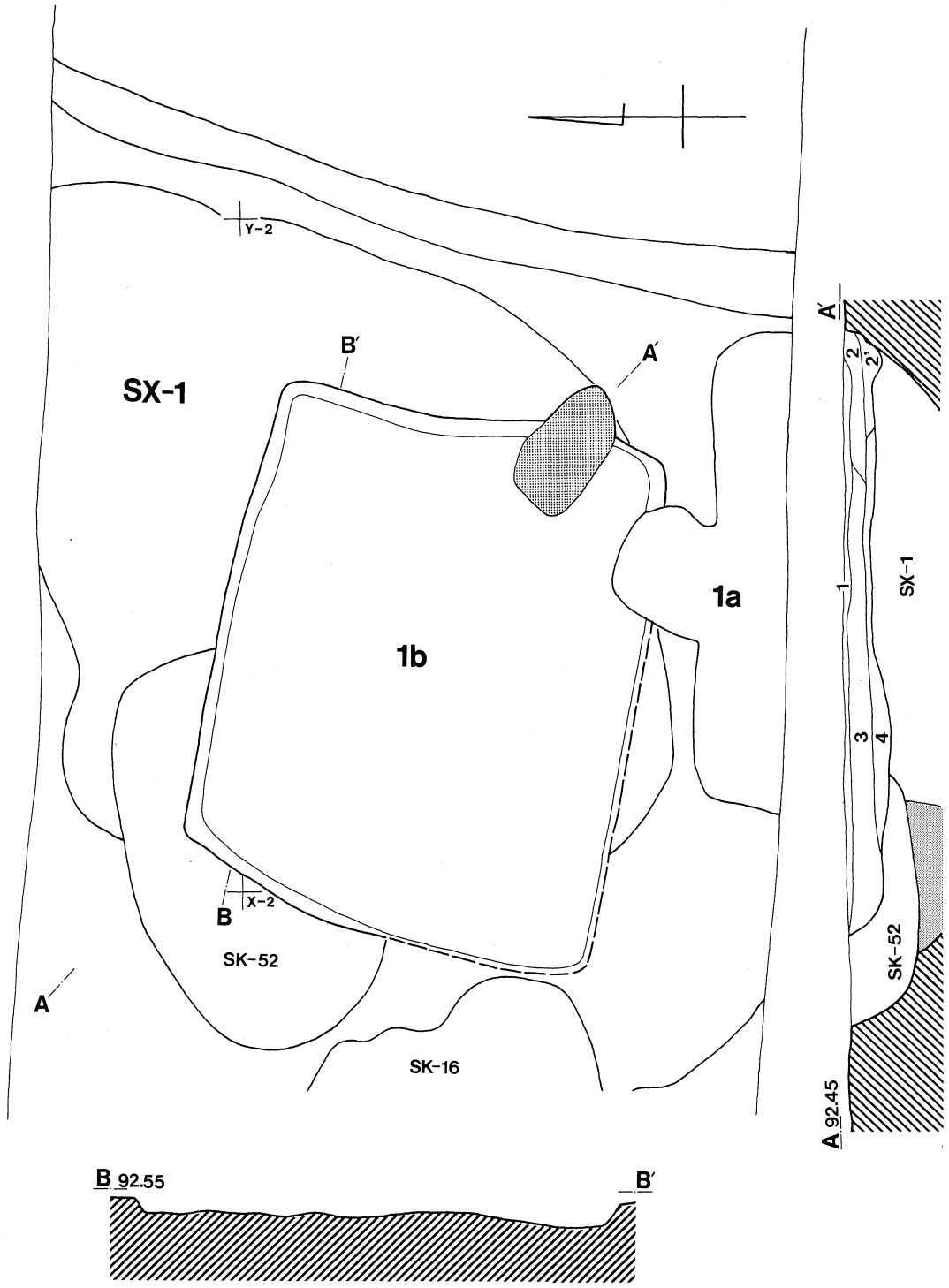
第2層 暗褐色土層（風化ⅣとⅢに少量のローム粒子を含み、均質で軟かい。）

第3層 暗茶褐色土層（風化Ⅳに粘土粒と炭化物、焼土粒を含み、軟かい。カマド崩壊土が混入している。）

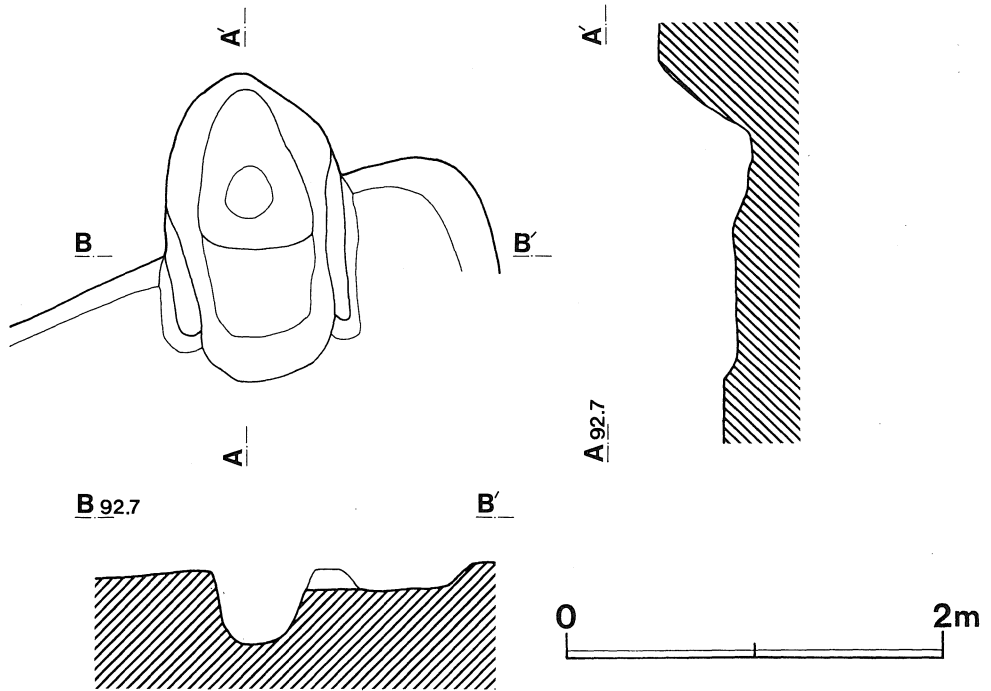
第4層 暗茶褐色土層（風化ⅣとⅢの混じったもので、Ⅳブロックを含む。やや均質で硬い。）

第5層 黒褐色土層（Ⅲを中心に構成され、均質、硬質である。）

明度 1 > 5 > Ⅲ > 2 > 3 > 4



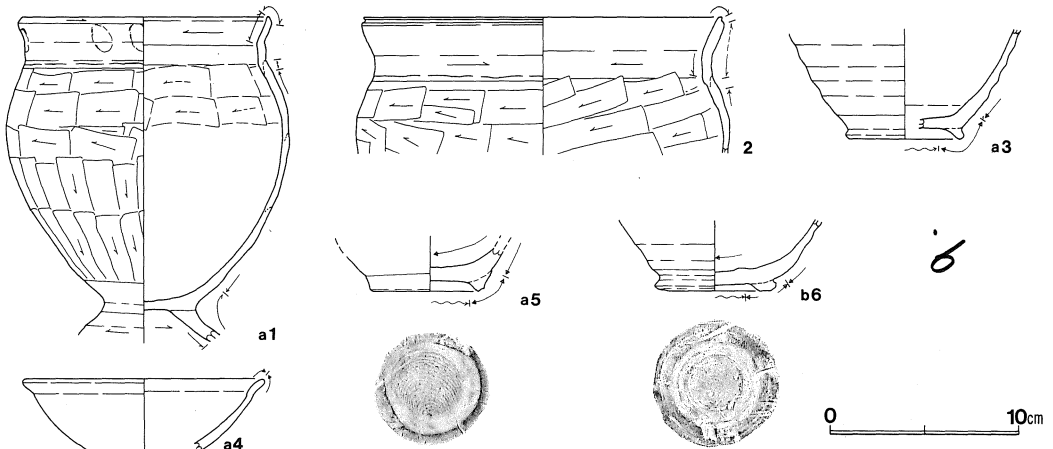
第233图 第1b号住居址



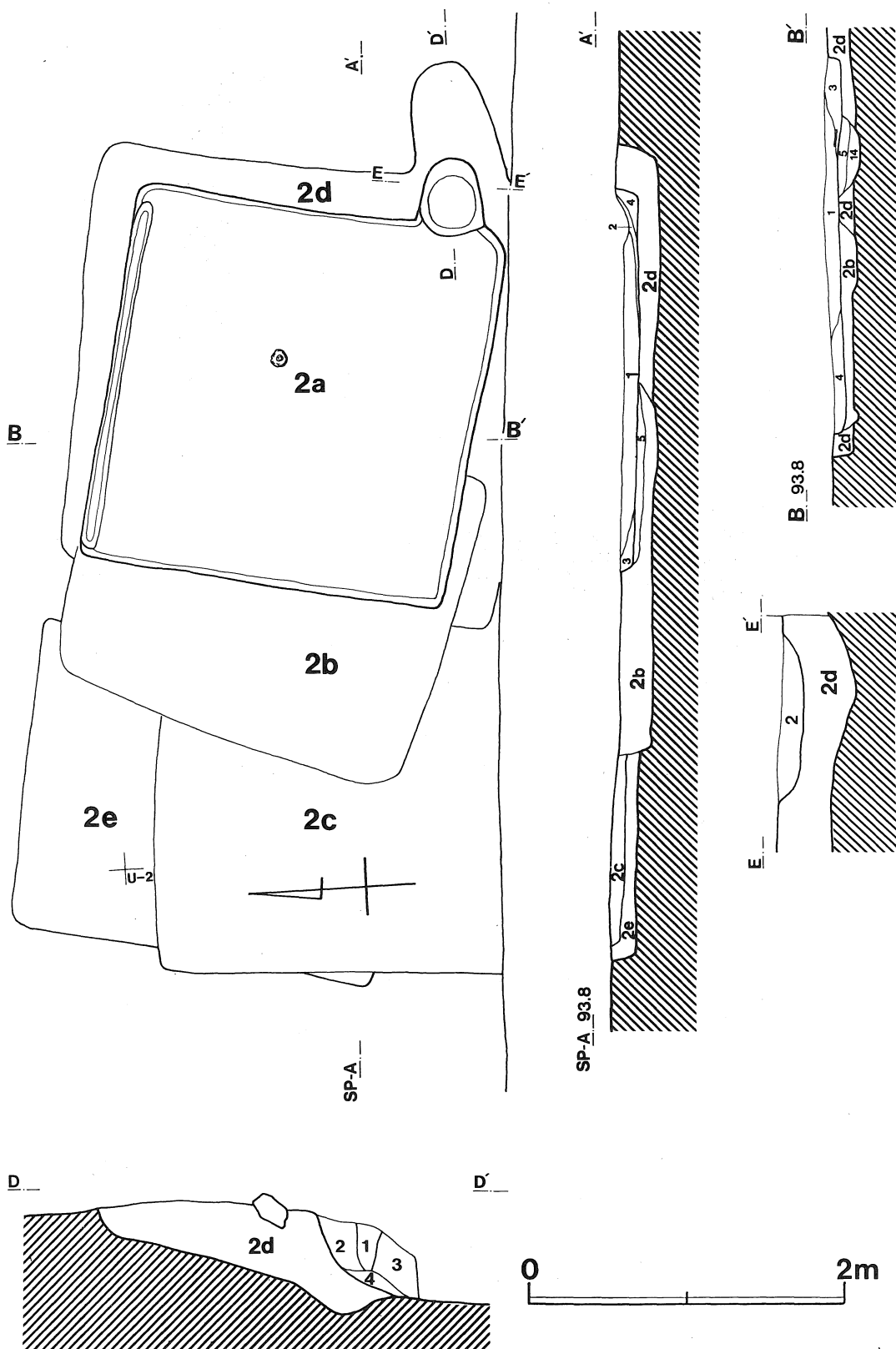
第234図 第1b号住居址カマド

1b住土層説明

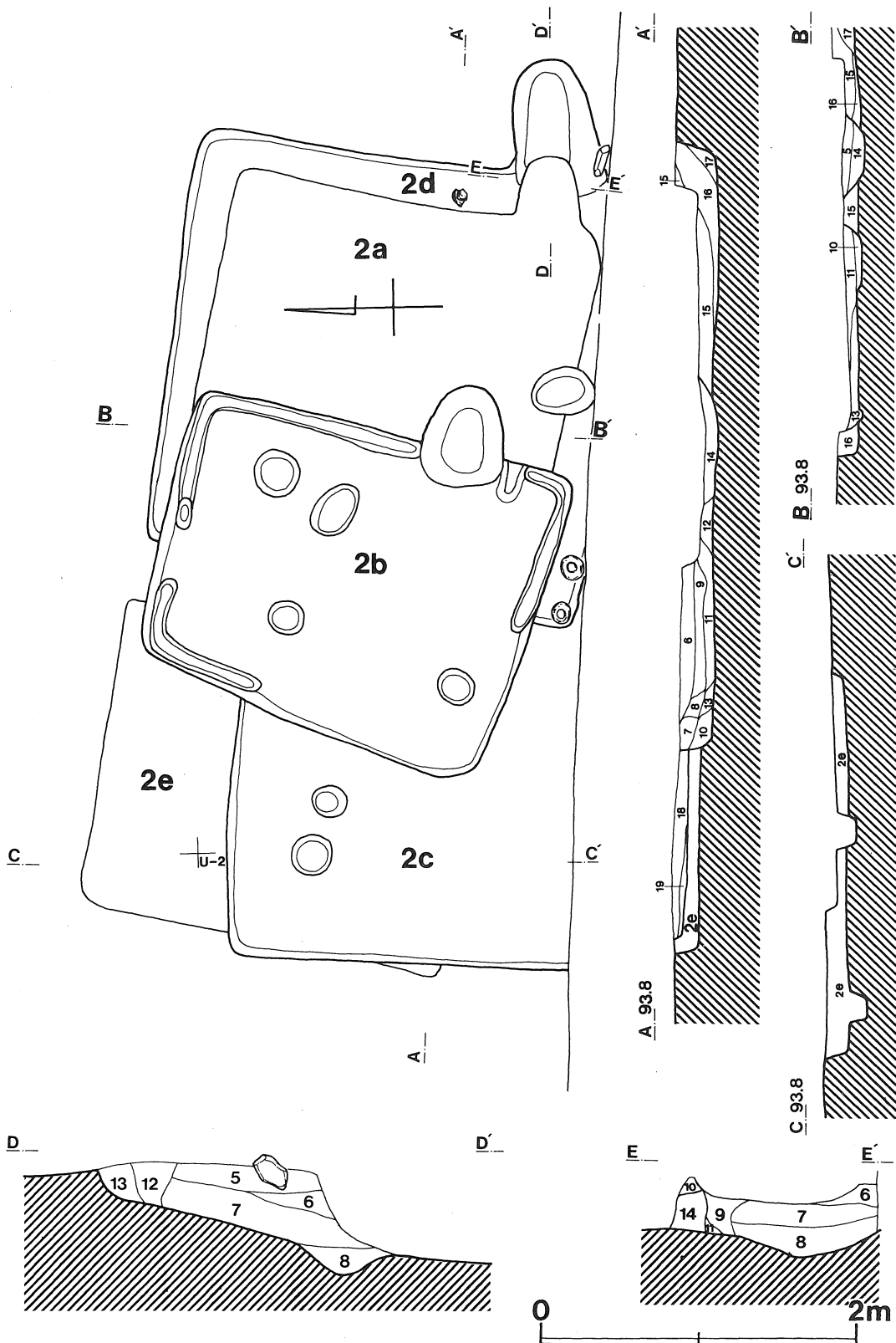
- 第1層 褐色土層（粘性はあまりなく、ローム粒子を含む。）
- 第2層 黄暗褐色土層（白色粒子を含み、粘性は第1層よりもある。）
- 第2'層 黄暗褐色土層（第2層より、粘性がある。）
- 第3層 暗褐色土層（ローム粒子を多量に含み、粘性は第1層よりもある。）
- 第4層 黄褐色土層（ロームブロックを多量に含み、粘性が強い。）



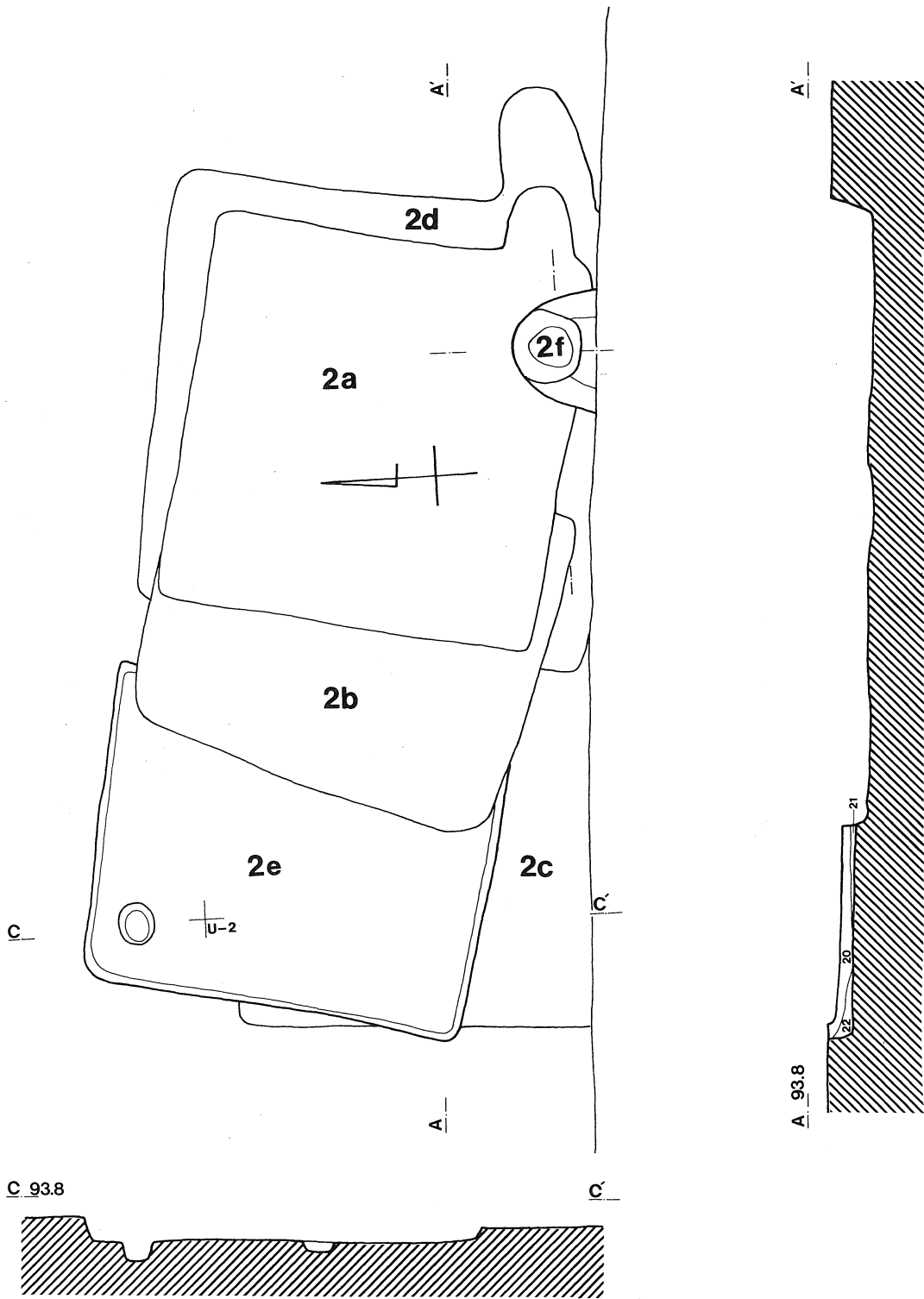
第235図 第1号住居址出土土器



第236图 第2 a号住居址

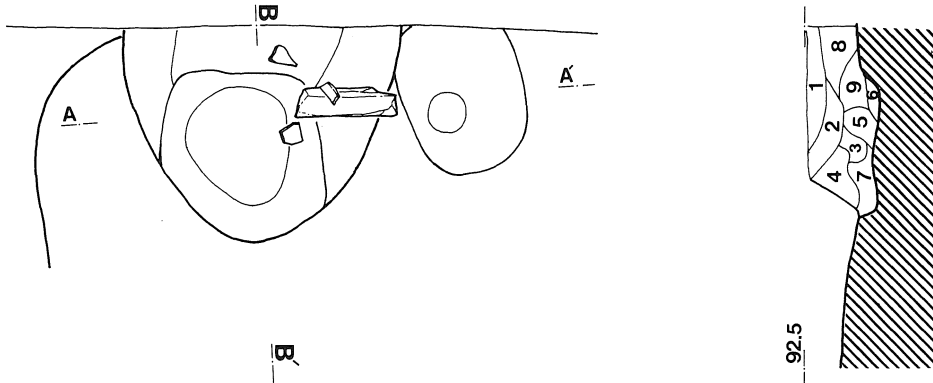


第237图 第2b·2c·2d号住居址

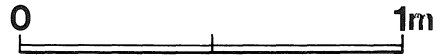
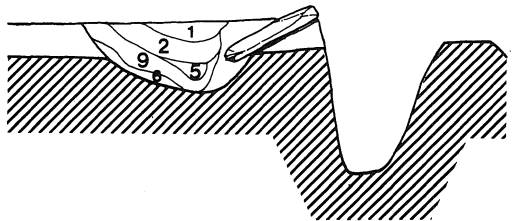


第238图 第2e·2f号住居址





A\_92.6



第239図 第2f号住居址カマド

2 a・d住カマド土層説明

- 第1層 茶褐色土層（焼土、粘土ブロック、炭化物を多量に含む。粘性があり、しまりが無い。）
- 第2層 黒色土層（焼土粒をまばらに含み、炭化物も若干含む。粘性はなくしまりは弱い。）
- 第3層 褐色土層（焼土、炭化物をあまり含まず、また粘性、しまり共にない。）
- 第4層 黒褐色土層（3㍉程のローム粒子を多量に含む。焼土、炭化物は含まず、粘性は弱くしまりは無い。）
- 第5層 褐色土層（焼土粒子を少量含み、粘性もなくしまりもない。）
- 第6層 暗黒褐色土層（焼土、炭化物を含まず、粘性、しまり共にない。）
- 第7層 暗黒褐色土層（若干の焼土と炭化物を含み、粘性、しまり共にない。）
- 第8層 黒褐色土層（焼土、炭化物を含まず、粘性、しまり共にない。）
- 第9層 黒褐色土層（ローム粒子を若干含み、炭化物、焼土は含まない。粘性はなくしまりもない。）
- 第10層 明茶褐色土層（基本的にIVを主体とする。粘性はないが硬くしまっている。）
- 第11層 暗茶褐色土層（炭化物、焼土は含まず、粘性、しまり共にない。）
- 第12層 赤褐色土層（焼土粒を多く含みよく焼けている。粘性は若干あるがしまりは無い。）
- 第13層 褐色土層（焼土、炭化物を含まず、また粘性、しまり共にない。）

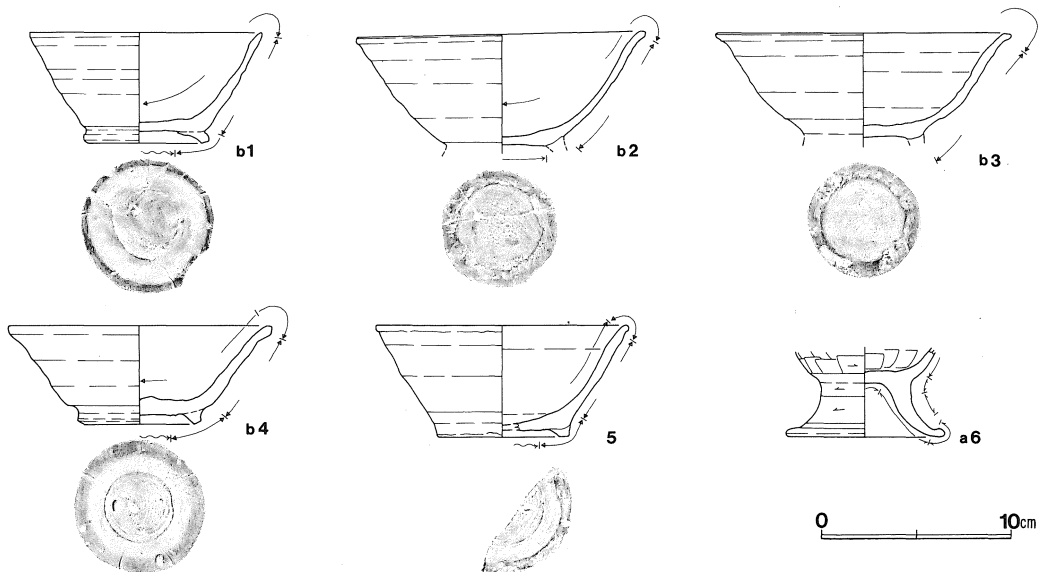
2 f住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（灰褐色粘土粒子を少量含む。粘性があり、よくしまっている。）
- 第2層 黒褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性があり、しまりがある。）
- 第3層 黄褐色土層（砂質で硬質の基本IV層を主に含む。粘性はなく、しまりがある。）
- 第4層 暗褐色土層（粘性はなく、しまりもない。）
- 第5層 黄色土層（基本V層のブロックを多量に含む。粘性があり、しまりがある。）
- 第6層 暗褐色土層（ローム粒子を多量に含み、炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりもない。）
- 第7層 黒褐色土層（炭化物を多量に含み、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりもない。）
- 第8層 暗黒褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりもない。）
- 第9層 暗黒褐色土層（ローム粒子を部分的に含む。粘性はなく、しまりもない。）

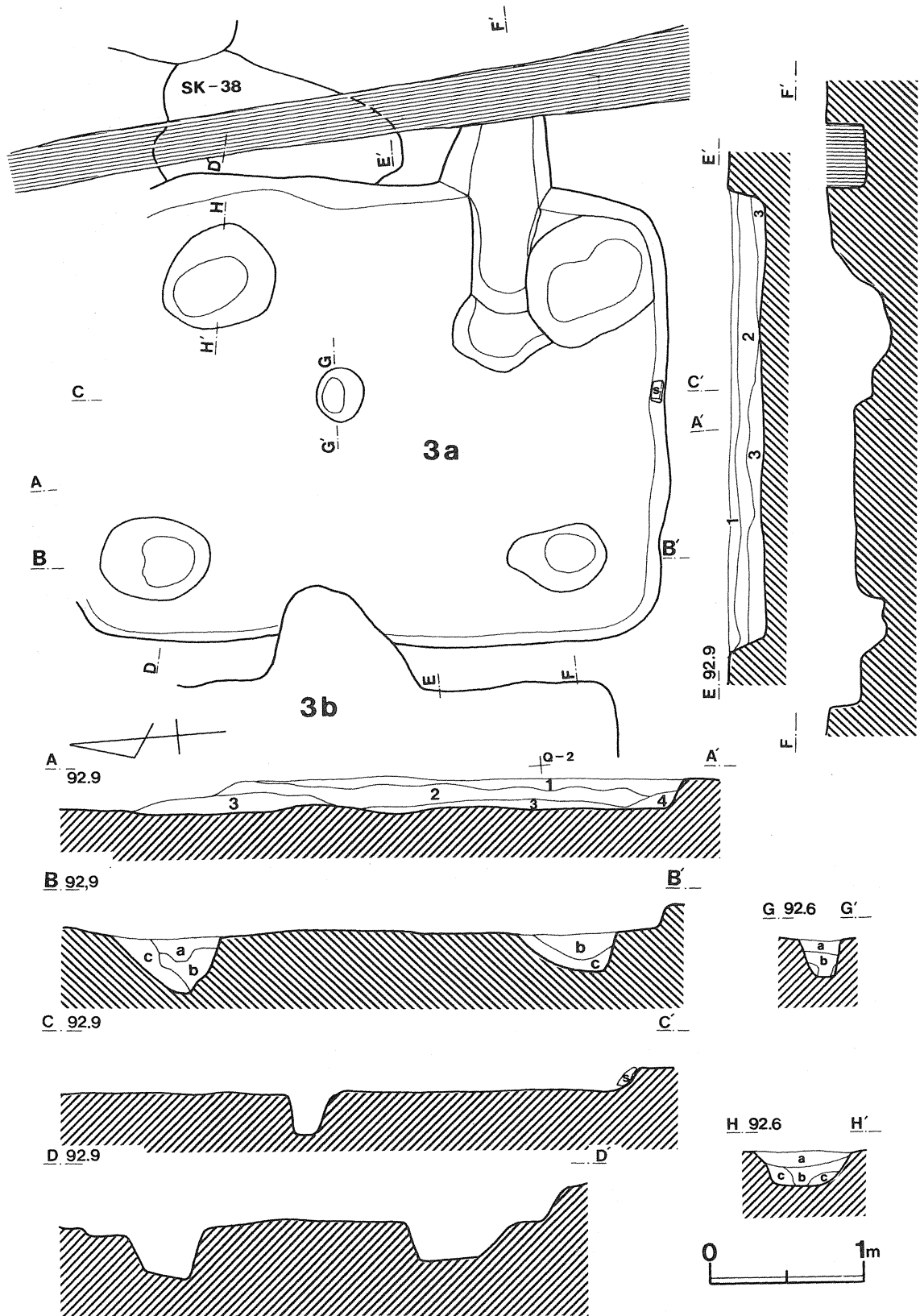
明度 5 > 2 > 4 > 3 > 1 > 6 > 7 > 9 > 8

2 a、b、c、d、e 住土層説明

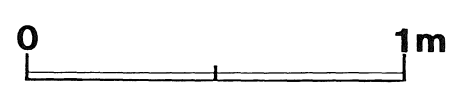
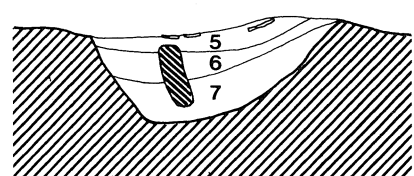
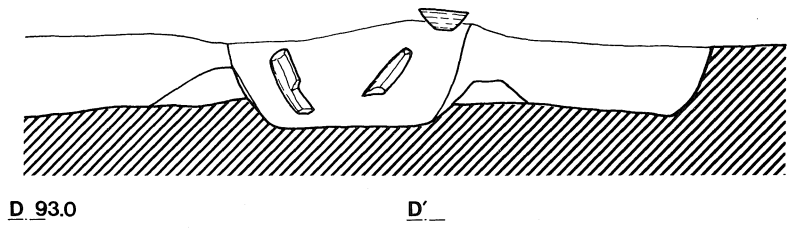
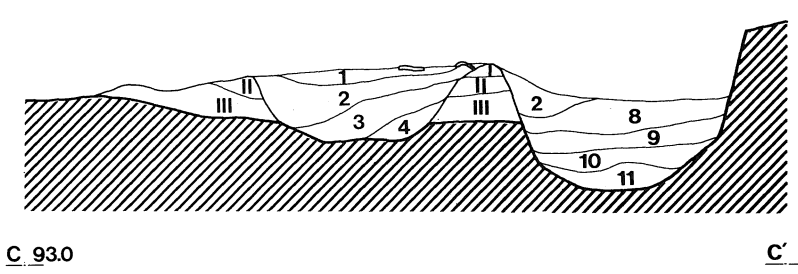
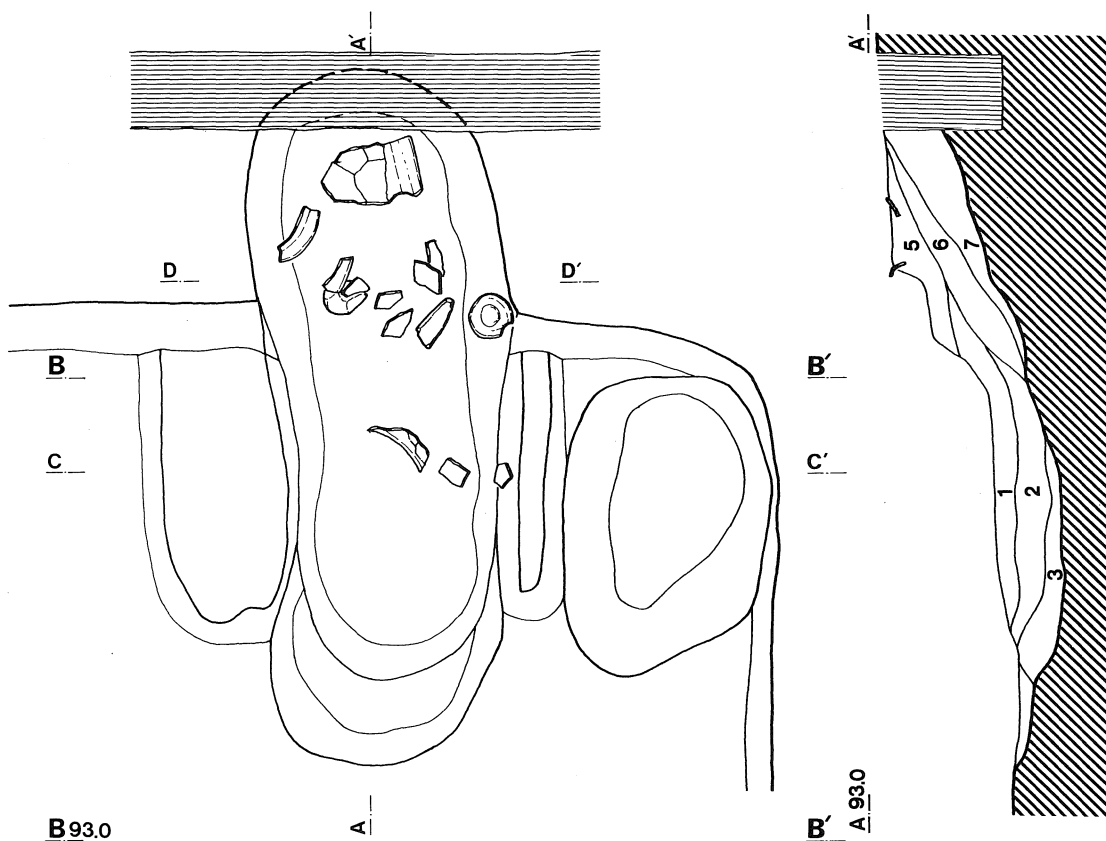
- 第1層 暗黒褐色土層（径1～2mmの焼土粒子をまばら、かつ全体的に含み、炭化物も若干含む。粘性はなく、しまりはある。）
- 第2層 暗褐色土層（径1mm程の焼土粒子をわずかに含むが、1層より少ない。炭化物粒子もわずかに含むが、粘性は弱く、しまりもあまりない。）
- 第3層 暗褐色土層（径1mmの焼土粒子をわずかに含み、粘性はないがしまりはある。）
- 第4層 暗黒褐色土層（径3mmのローム粒子をまばらに含み、焼土粒子もわずかに含む。粘性はないがよくしまっている。）
- 第5層 黄褐色土層（径2～3mmのローム粒子が、ぎっしり詰まっている。粘性はなく、よくしまっている。）  
（以上 2 a 住）
- 第6層 暗褐色土層（径1mm未満のローム粒子をわずかに含み、粘性はないが、よくしまっている。）
- 第7層 暗茶褐色土層（2mm程度のロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりがある）
- 第8層 暗茶褐色土層（径1～2mmのローム粒子をわずかに含み、粘性はないが、よくしまっている。）
- 第9層 暗黒褐色土層（径3mmのローム粒子をまばらに含み、焼土粒子もわずかに含む。粘性はないがよくしまっている。2 a 住の4層に該当する。）
- 第10層 黄暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量に含み、若干の粘性がありよくしまっている。）
- 第11層 黄褐色土層（径2～3mmのローム粒子を多量に含み、粘性はなく、硬くよくしまっている。）
- 第12層 黒褐色土層（焼土粒子、ローム粒子を少量、均一に含む。粘性はなく、よくしまっている。）
- 第13層 黄茶褐色土層（径1～2cmのロームブロックを部分的に含み、粘性はなく、よくしまっている。）
- 第14層 暗褐色土層（径1mmのローム粒子を、若干含み、白色テフラも均等に、少量含む。焼土粒子もわずかに含み、粘性はなく、硬くしまっている。）（以上、2 b 住）
- 第15層 暗褐色土層（焼土粒子、炭化物粒子を全体的に多量に含み、粘性は若干あり、硬くよくしまっている。灰褐色の粘土ブロックが部分的にあり、A床の貼床の部分である。）
- 第16層 暗茶褐色土層（ローム粒子を若干含み、粘性はないが、硬く、よくしまっている。）
- 第17層 暗茶褐色土層（径1mmの焼土粒子、ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりがある。）（以上、2 c 住）
- 第18層 暗褐色土層（白色テフラを若干含み、焼土、ローム粒子を微量含む。粘性はないが、しまりはよい。）
- 第19層 暗褐色土層（白色テフラを若干含み、焼土、ローム粒子を含まない。粘性はなく、しまりがある。）
- 第20層 暗褐色土層（ローム粒子を全体的に緻密に含み、粘性はなく、しまりはよい。）（以上、2 d 住）
- 第21層 茶褐色土層（白色テフラを若干含み、微細なローム粒子を全体に含む。粘性はなく、しまりがある。）
- 第22層 暗茶褐色土層（ローム粒子を若干含み、粘性はなく、しまりはよい。）（以上、2 e 住）



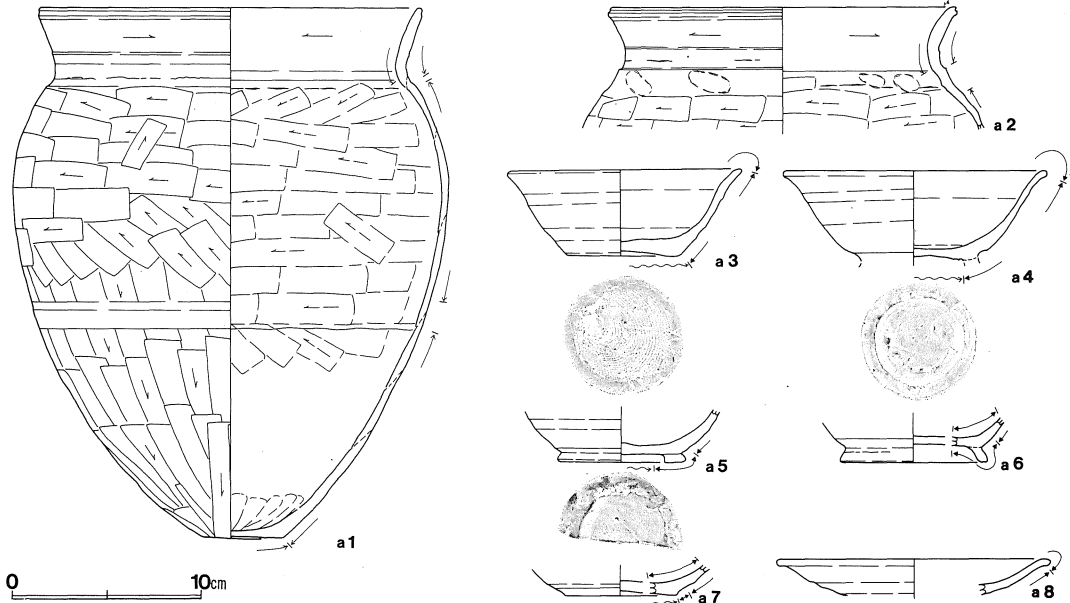
第240図 第2号住居址出土土器



第241图 第3 a号住居址



第242図 第3 a号住居址カマド



第243図 第3 a号住居址出土土器

3 a 住土層説明

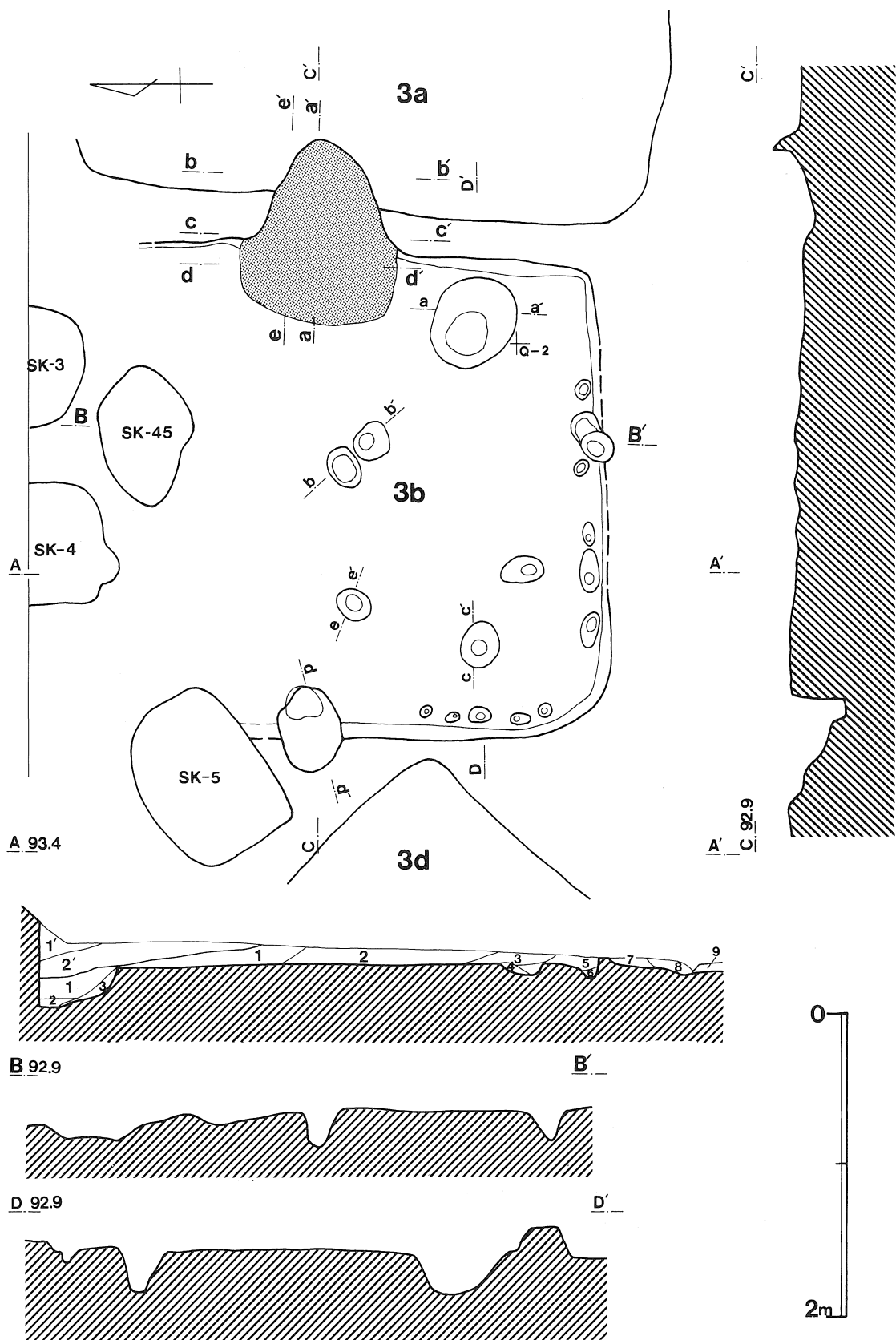
- 第1層 暗茶褐色土層 (ロームブロック、焼土粒子、炭化物を少量含む。粘性があり、均質である)
  - 第2層 暗茶褐色土層 (焼土粒子を少量含む。1層に比べ色調が明るく、粘性が弱い)
  - 第3層 明茶褐色土層 (ロームブロックが主体の層、粘性は小さい。焼土粒を含むが密ではない)
  - 第4層 暗茶褐色土層 (地山に近似するが、地山より粘性が弱い。ロームブロック、炭化物を少量含む)
- 明度 1 ≥ 2 > 3 > 4                      粘性 1 > 2 > 3 > 4

3 a 住ピット土層説明

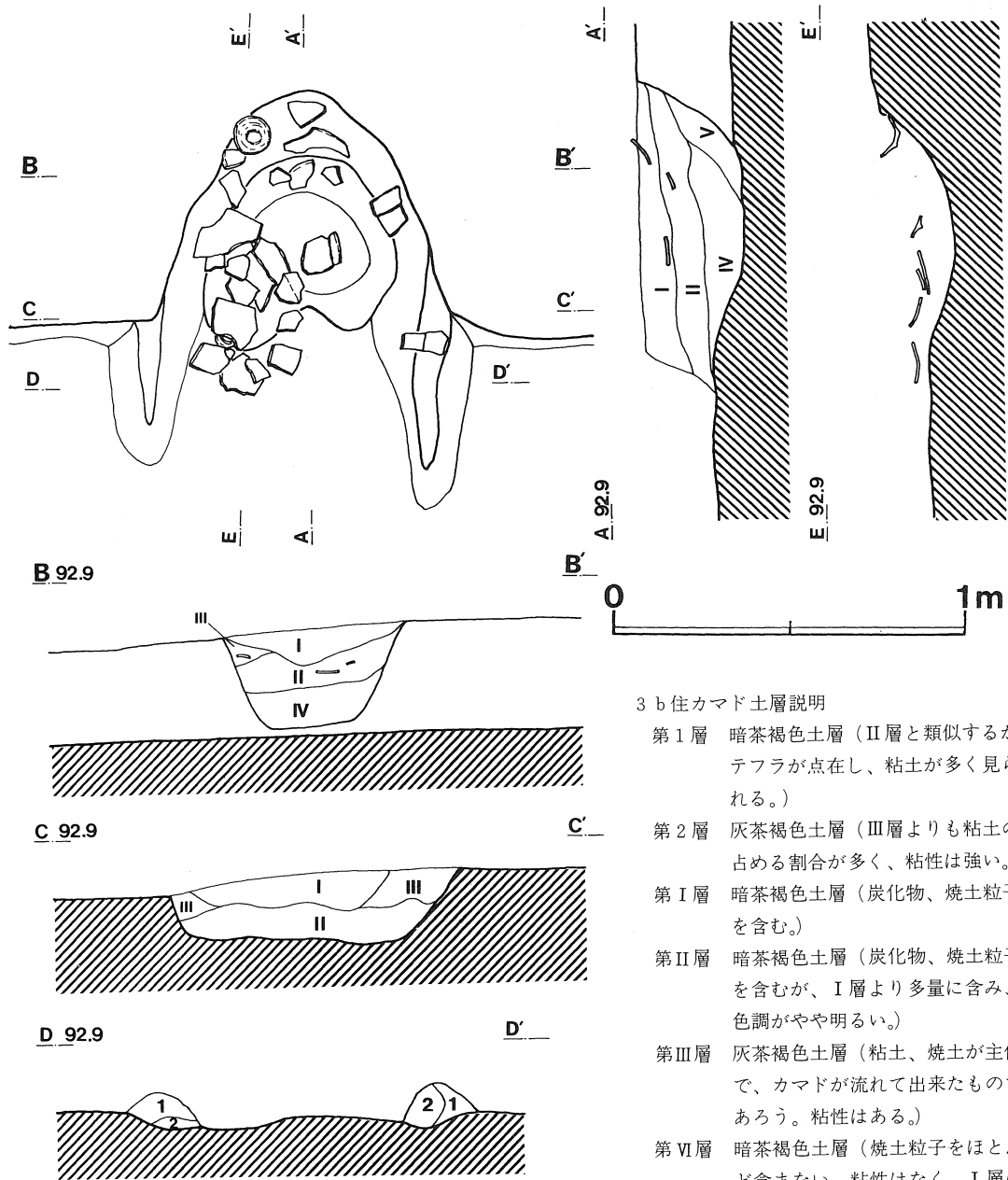
- 第a層 暗褐色土層 (ローム粒子、炭化物粒子、赤色粒子を多量に含み均質)
- 第b層 黒褐色土層 (基本的に暗茶褐色土層に類似し、しまっている。ローム粒子を含む)
- 第c層 褐色土層 (多量のロームブロックを含み、粘質で軟かい)

3 a 住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層 (焼土粒、炭化物を含み、粘性は強い。遺構〔3 A 住〕のフク土に似ている)
  - 第2層 暗茶褐色土層 (多量の炭化物を含み、粘土粒子も含む。粘性はなく焼土粒も大型になる)
  - 第3層 暗茶褐色土層 (大型の焼土粒子を多量に含む。粘性は強い)
  - 第4層 暗茶褐色土層 (均質で、炭化物焼土粒を含む。粘性は3層より強い)
  - 第5層 暗茶褐色土層 (1層と類似するが、焼土粒が若干少なく粘性も乏しい)
  - 第6層 暗茶褐色土層 (3層と類似する。大型の焼土粒子を含み、粘性も強い。3層よりも明るい)
  - 第7層 暗茶褐色土層 (4層と類似する。遺構下部に堆積するのかも知れない)
  - 第8層 暗茶褐色土層 (焼土粒子、粘土、炭化物、ロームブロックを含む)
  - 第9層 暗茶褐色土層 (炭化物を多量に含み、焼土粒子を少量含む。均質)
  - 第10層 暗黄褐色土層 (ロームの影響を受けた層で、各粒子はあまり見られない)
  - 第11層 暗灰褐色土層 (小石を含まず、粘性はなく、地山に近い)
  - 第I層 暗茶色土層 (1層に類似するが、焼土粒を多く含む。フク土と思われる)
  - 第II層 暗褐色土層 (炭化物を含み、全体的に焼けている。粘性は非常に強い)
  - 第III層 暗灰褐色土層 (粘土層で、径5%程度の小石を含み、粘性は強くほぼ均質である)
- 明度 4 ≥ 7 > 1 ≥ 5 > 3 ≥ 6 > 2                      粘性 4 ≥ 7 > 1 ≥ 5 > 3 ≥ 6 > 2



第244图 第3b号住居址



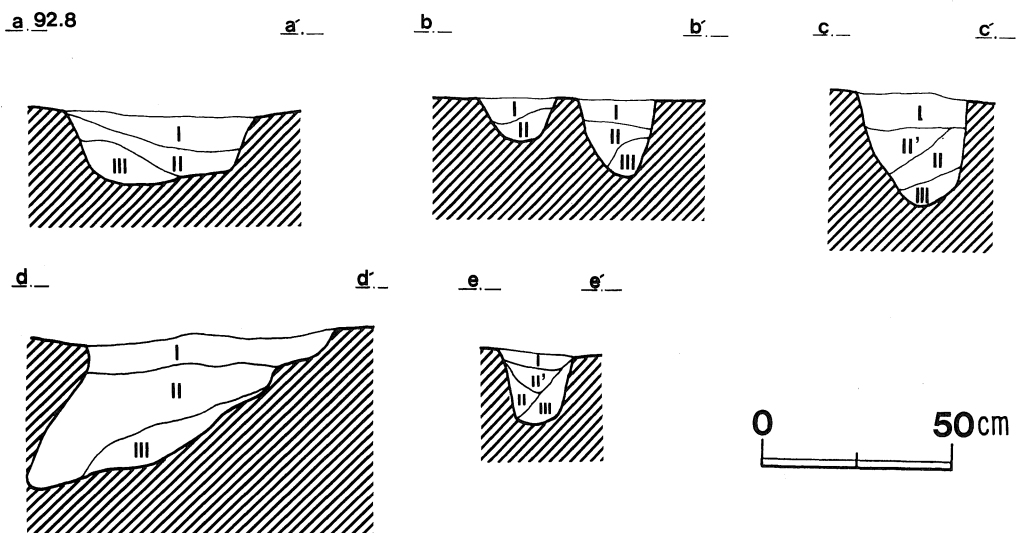
第245図 第3 b号住居址カマド

3 b 住カマド土層説明

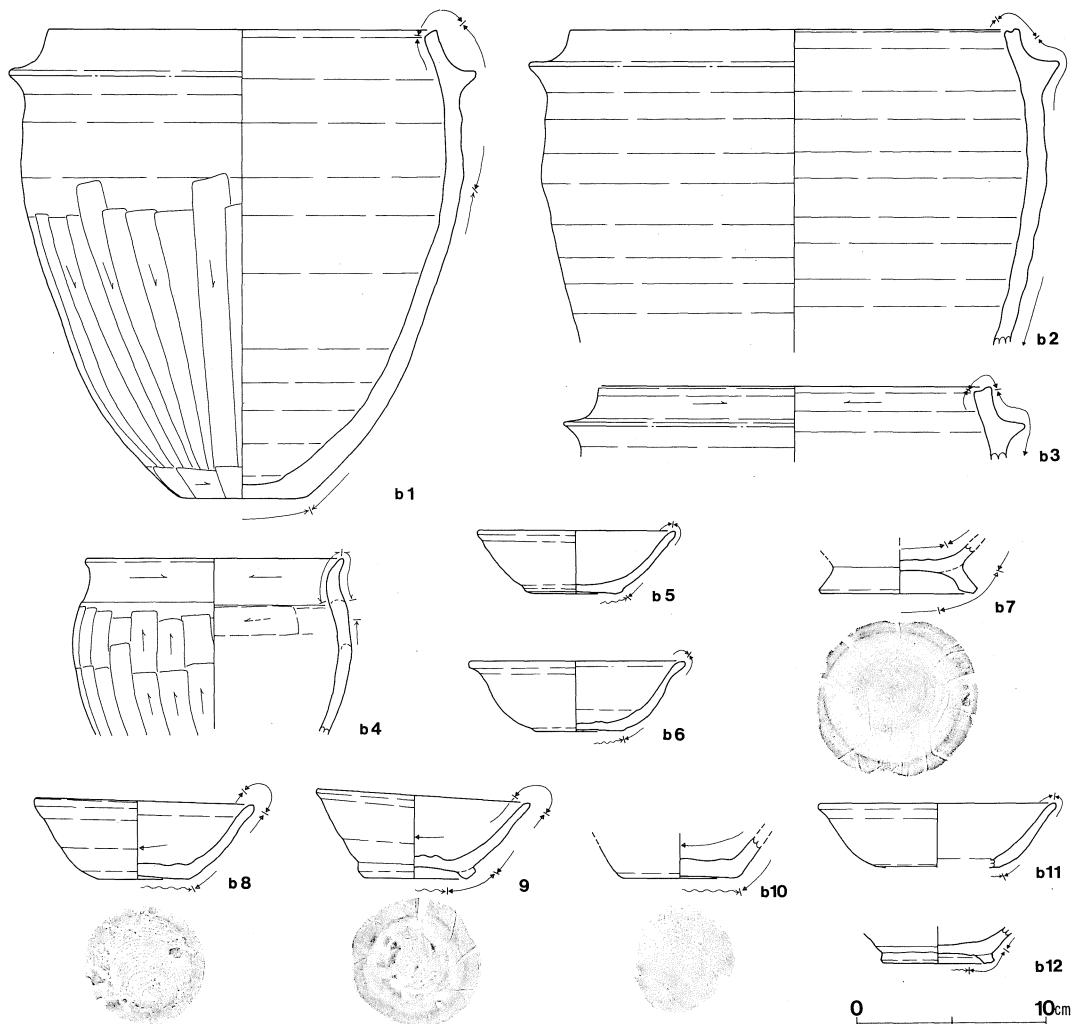
- 第1層 暗茶褐色土層 (II層と類似するがテフラが点在し、粘土が多く見られる。)
- 第2層 灰茶褐色土層 (III層よりも粘土の占める割合が多く、粘性は強い。)
- 第I層 暗茶褐色土層 (炭化物、焼土粒子を含む。)
- 第II層 暗茶褐色土層 (炭化物、焼土粒子を含むが、I層より多量に含み、色調がやや明るい。)
- 第III層 灰茶褐色土層 (粘土、焼土が主体で、カマドが流れて出来たものであろう。粘性はある。)
- 第VI層 暗茶褐色土層 (焼土粒子をほとんど含まない。粘性はなく、I層に比べて、色調が暗い。)
- 第V層 明茶褐色土層 (地山に類似する。若干、焼けている部分もある。粘性はない。)

3 b 住ピット土層説明

- 第I層 暗茶褐色土層 (ピット上面をおおう層で、焼土粒を含む。)
- 第II層 暗茶褐色土層 (少量のロームブロックを含む。I層に比べ粘性がなく、焼土粒を含まない。)
- 第II'層 暗黄褐色土層 (ロームブロックを多量に含む。ピットbのみに見られる。)
- 第III層 暗黄褐色土層 (焼土粒子、炭化物、遺物を含みII'層に比べ暗い色調を呈す。)



第246图 第3 b号住居址柱穴



第247图 第3 b号住居址出土土器



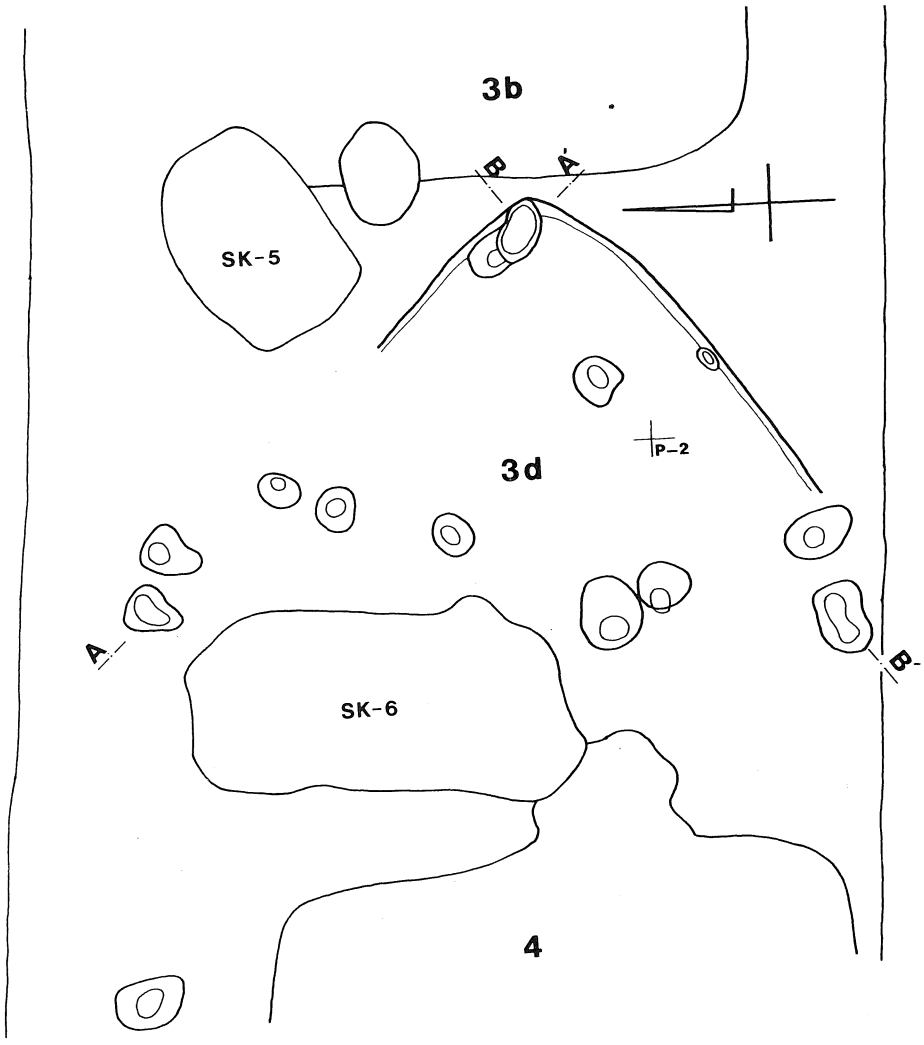
### 3 b 住土層説明

- 第1層 黒褐色土層（Aテフラを少量含み、ローム粒子を含む。粘性、しまり共にある。）
- 第2層 黒褐色土層（Aテフラを含まない、粘性、しまりのある層。）
- 第3層 黒褐色土層（2層に類似するが色調が2層よりも明るい。）
- 第4層 黒色土層（黒色土を主体とし、粘性、しまり共にある。）
- 第5層 黒色土層（4層にローム粒子が若干混った層。）
- 第6層 黒色土層（4層よりも暗く、粘性、しまり共にある。）
- 第7層 暗褐色土層（異った住居のフク土で8層より粘性、しまり共に欠けている。）
- 第8層 黒色土層（上からのピットと思われ粘性、しまり共にある。）
- 第9層 黒色土層（8層より暗く、張床の土でローム粒を含む。）

### S K-4 土層説明

- 第1層 黒褐色土層（Aテフラを微量含み、ローム粒子を少量含む。）
  - 第2層 黒色土層（黒色土を基調とし、粘性も各層よりある。）
  - 第1'層 黒褐色土層（浅間Aテフラを含む砂利層。）
  - 第2'層 黒褐色土層（1'層に比べ、テフラを多量に含み、色調がやや明るい。粘性、しまりが1層よりない。）
  - 第3層 黒褐色土層（ロームの崩土が多量に含まれる。）
- 明度 1' > 2' > 1 > 3 > 2





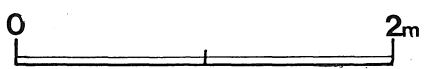
A 92.9

A

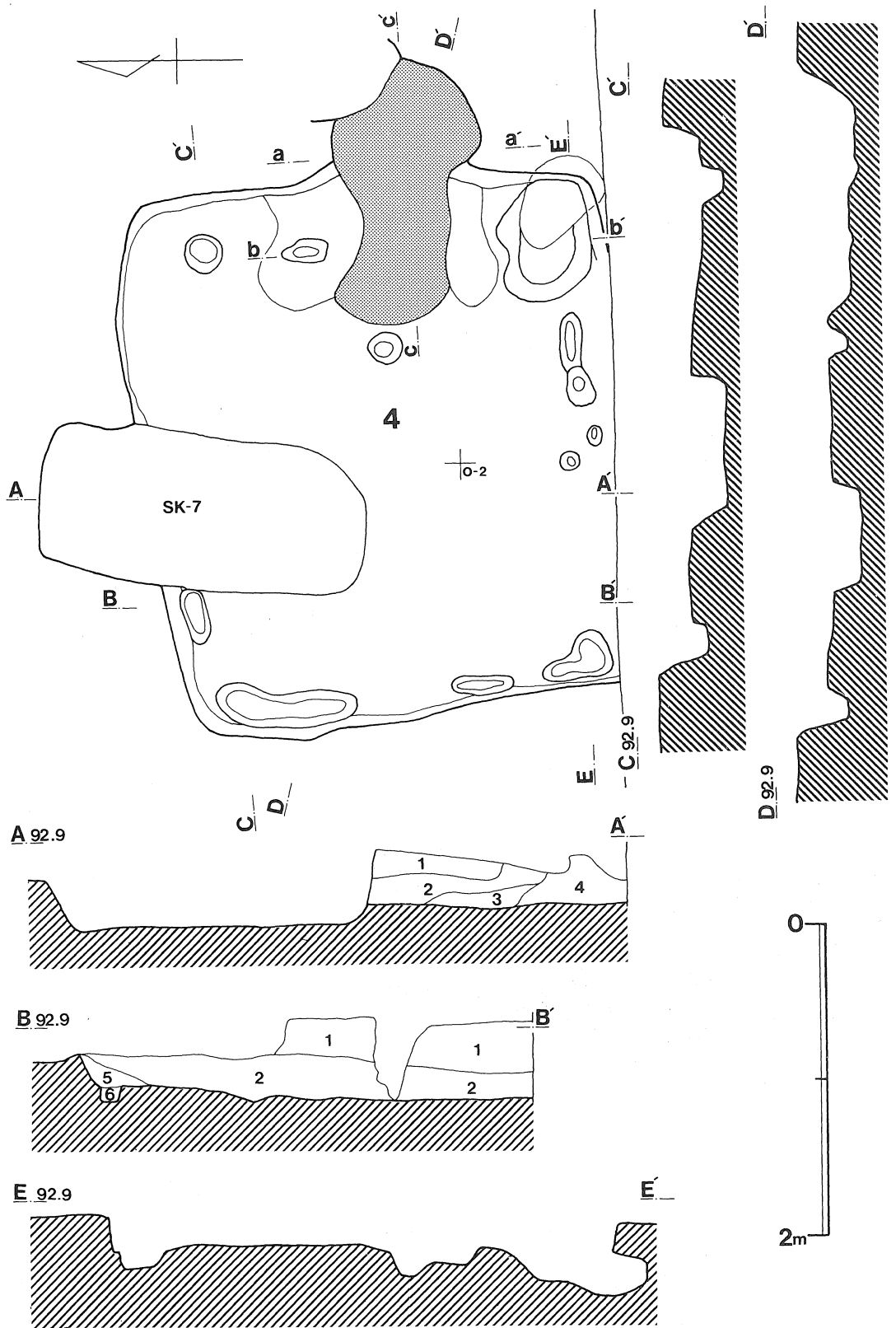


B 92.9

B

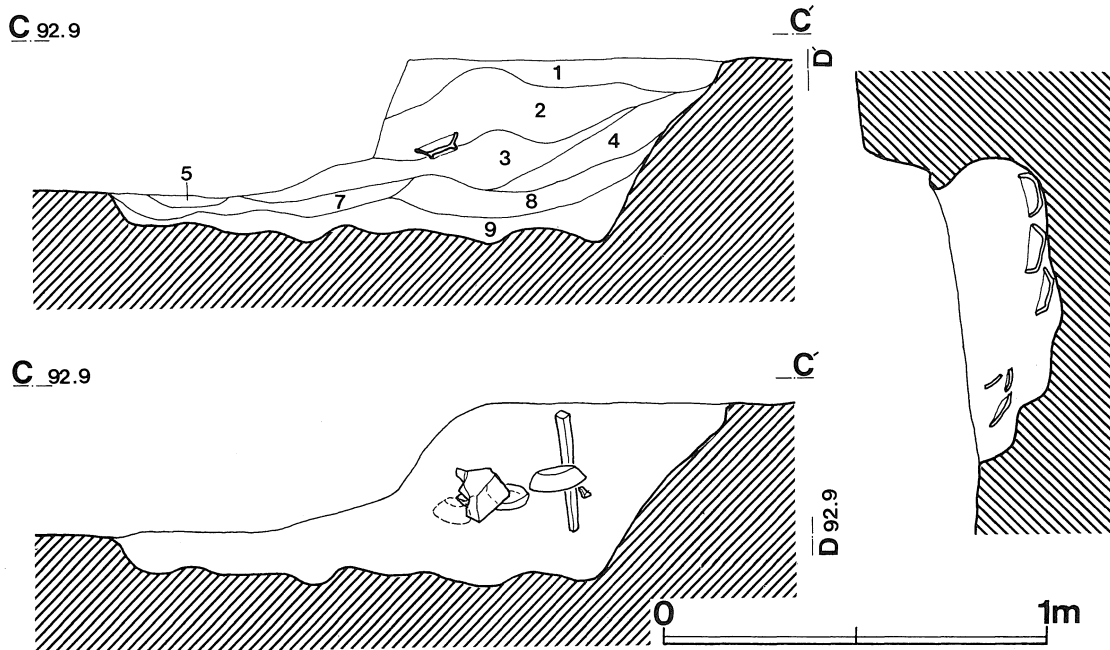


第248图 第3d号住居址



第249图 第4号住居址





第251図 第4号住居址カマド・貯蔵穴断面

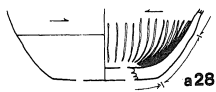
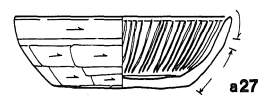
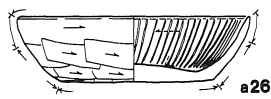
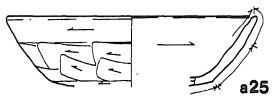
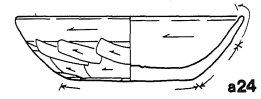
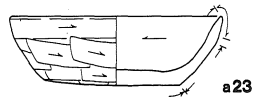
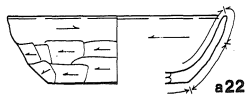
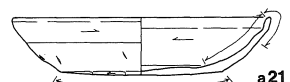
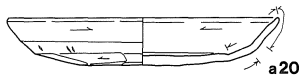
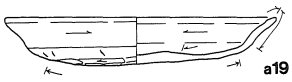
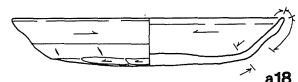
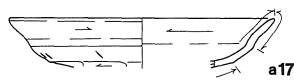
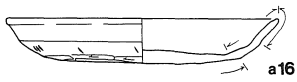
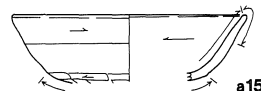
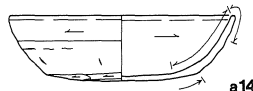
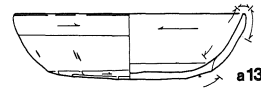
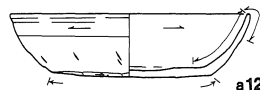
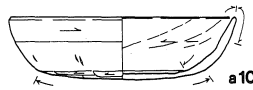
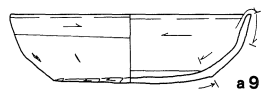
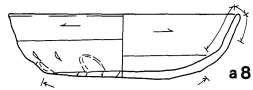
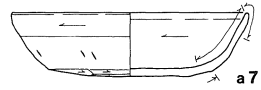
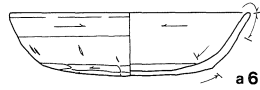
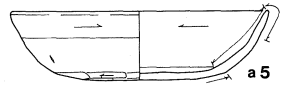
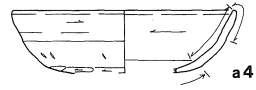
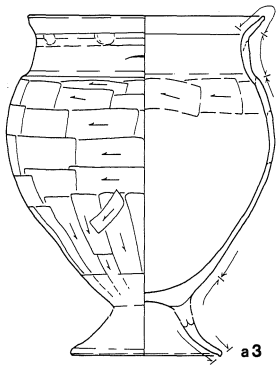
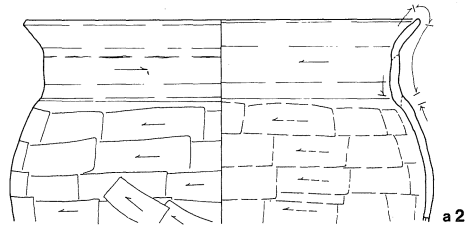
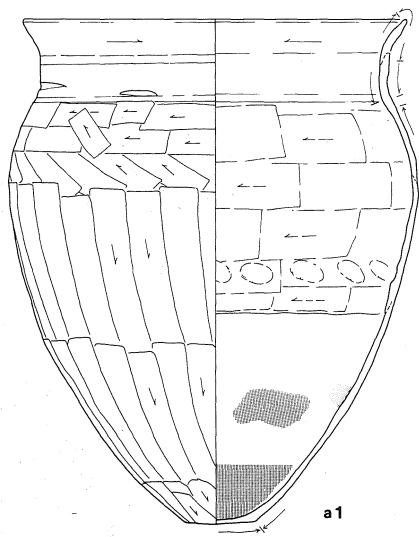
#### 4 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（暗褐色土を基調とし、粘性、しまりともにある。）
- 第2層 暗褐色土層（1層より色調が明るく、ロームを少量含み、粘性はあるが粗である。）
- 第3層 暗褐色土層（少量のロームが混入し、1～4層中最も暗い。）
- 第4層 褐色土層（焼土が混入し、明るい色を呈す。）
- 第5層 黒褐色土層（三角堆積ローム塊が混入した、緻密な層である。）
- 第6層 褐色土層（ロームの崩土。周溝部分。）

#### 4 住カマド土層説明

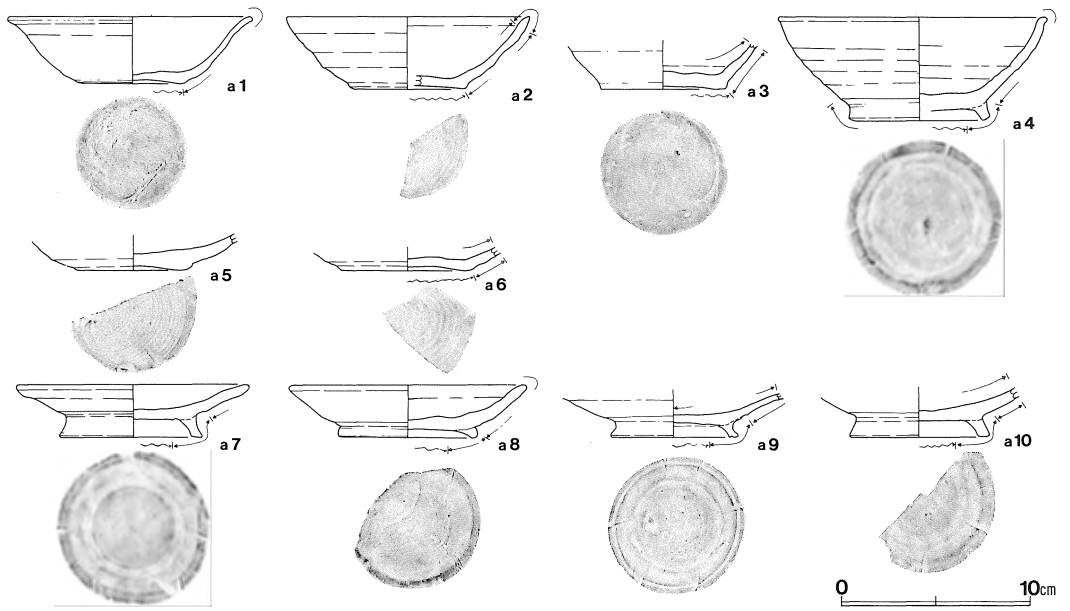
- 第1層 暗茶褐色土層（焼土粒子を含み、粘性は弱い。住居のフク土と思われる。）
- 第2層 暗茶褐色土層（1層より焼土粒子を多く含み、粘性も強く、10層と類似している。）
- 第3層 暗茶褐色土層（焼土粒子を全体に含み、若干の粘土を含む。粘性は強い。）
- 第4層 暗茶褐色土層（粒子をあまり含まず、粘性も弱い。）
- 第5層 赤褐色土層（焼土。硬く焼けている。）
- 第6層 灰黄褐色土層（粘土、ローム、黒色土が混じっており、炭化物焼土粒子を含む。粘性がある。）
- 第7層 暗茶褐色土層（炭化物を多く含み、灰も点在する。焼土粒子も含むが2層より少ない。）
- 第8層 暗茶褐色土層（炭化物を多く含み、ロームブロックと、若干の焼土粒子も含む。）
- 第9層 黄褐色土層（ロームブロックを多量に含み、焼けているブロックもある。炭化物が点在する。）
- 第10層 暗茶褐色土層（遺構のフク土であると思われる、若干の焼土粒、炭化物が見られる。粘性もある。）
- 第11層 暗茶褐色土層（10層と酷似し、多量の炭化物、焼土が見られる。粘性はある。）
- 第12層 暗茶褐色土層（ロームブロックを少量含み、又、炭化物、焼土を多量に含む。粘性は弱い。）
- 第13層 暗茶褐色土層（ロームブロックを多量に含み、粘性もある。）
- 第14層 暗茶褐色土層（ロームを少量含み、粘性は弱い。）

明度 10 > 7 > 3 > 9 > 5

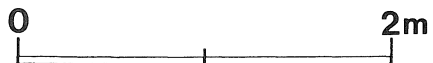
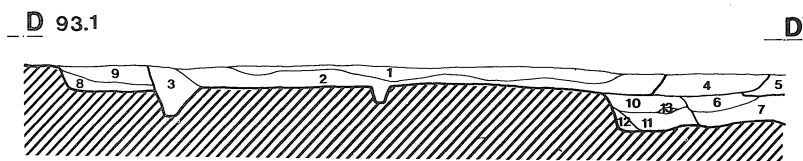
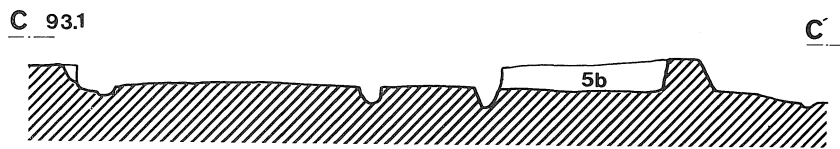
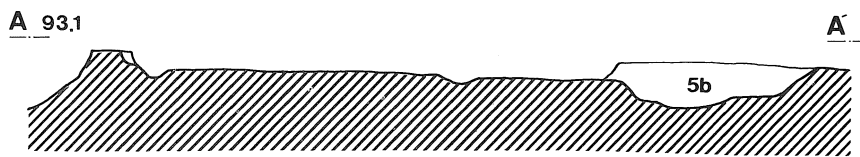
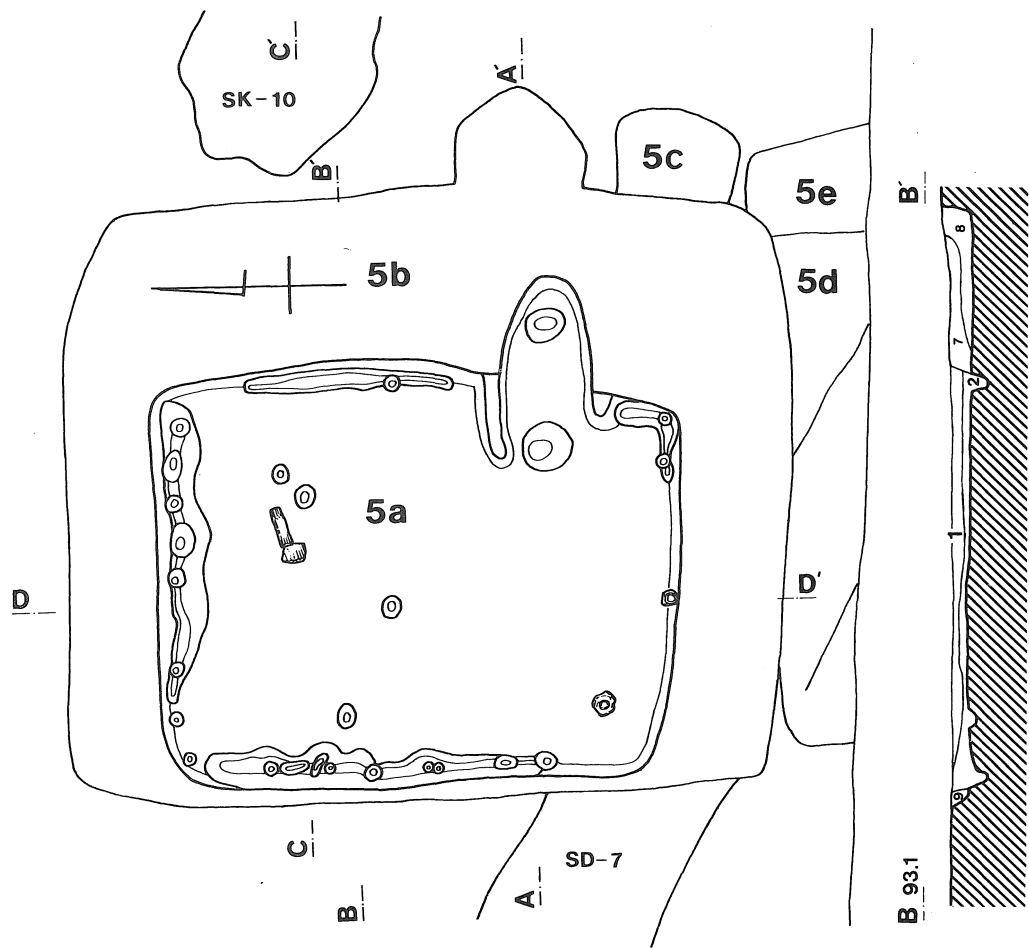


第252图 第4号住居址出土土器

0 10cm

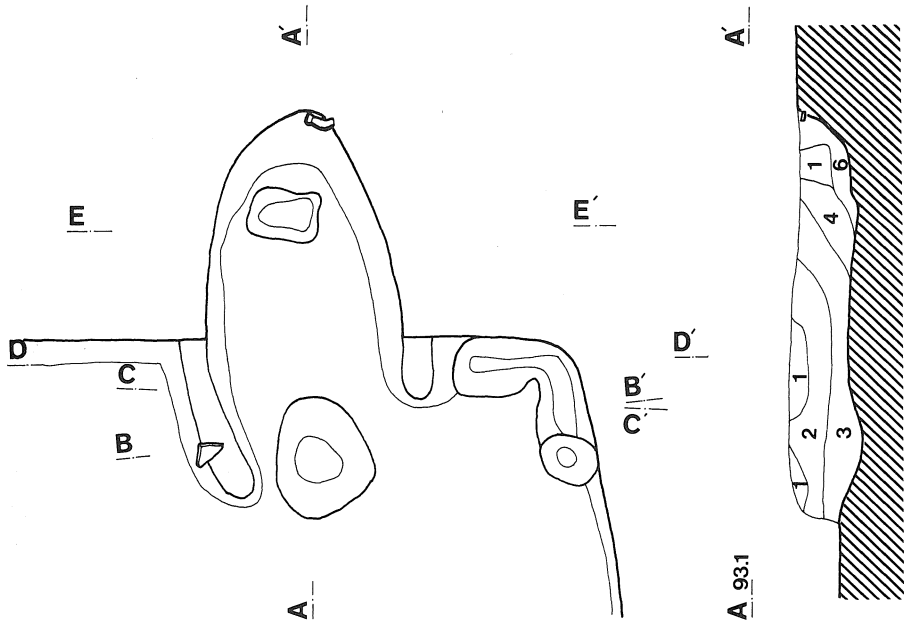


第253图 第4 a号住居址出土土器



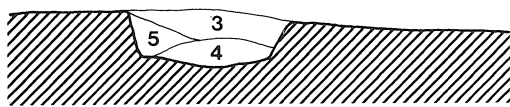
第254图 第5 a号住居址





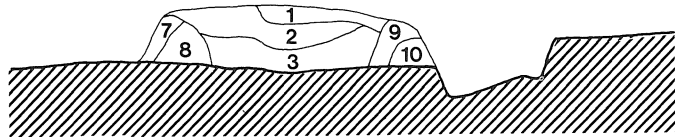
E 93.1

E'



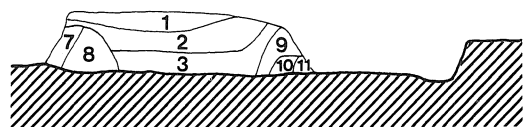
D 93.1

D'



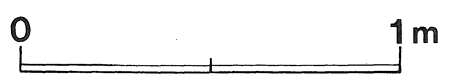
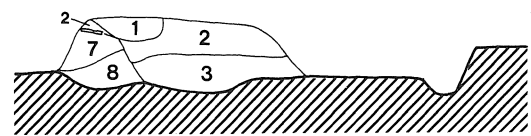
C 93.1

C'

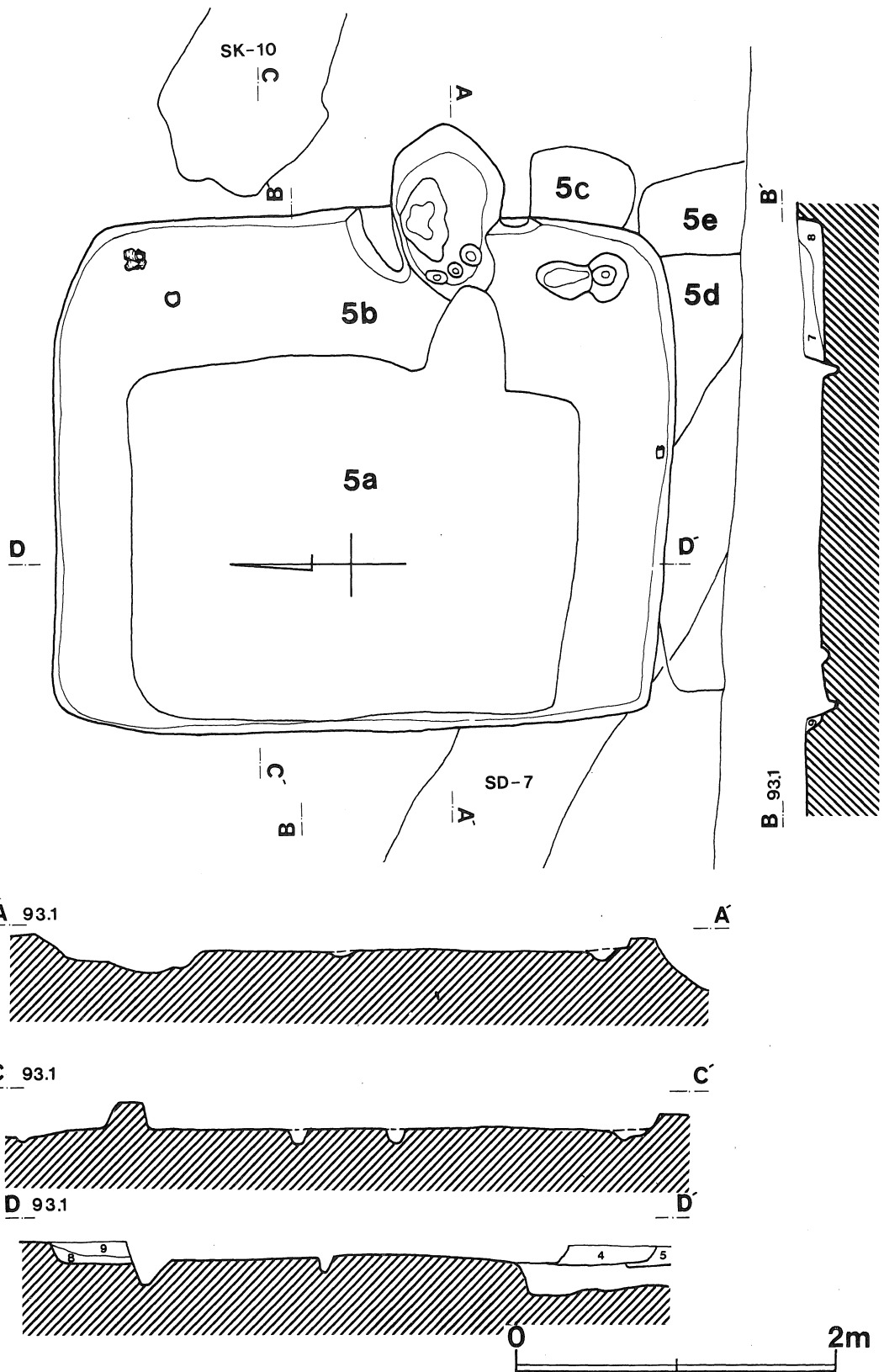


B 93.1

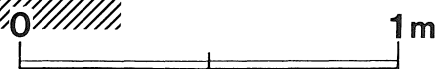
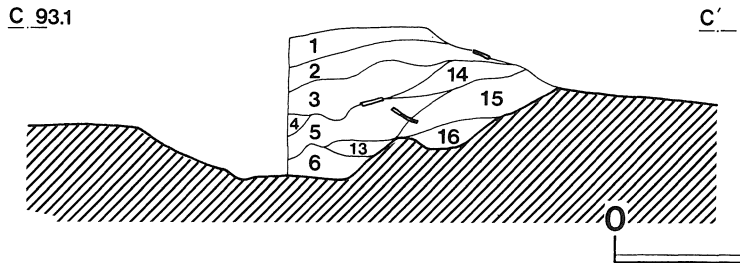
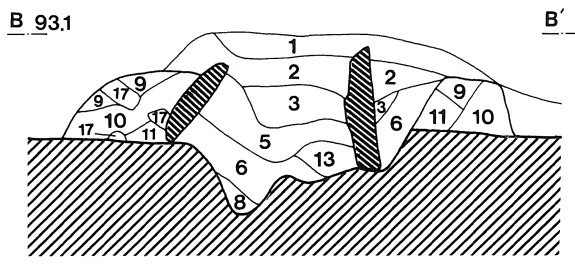
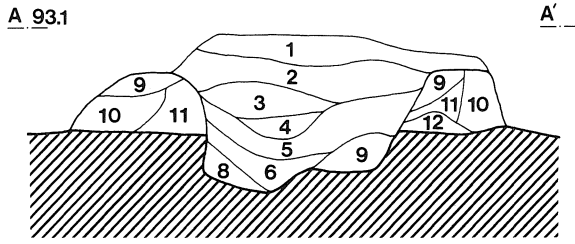
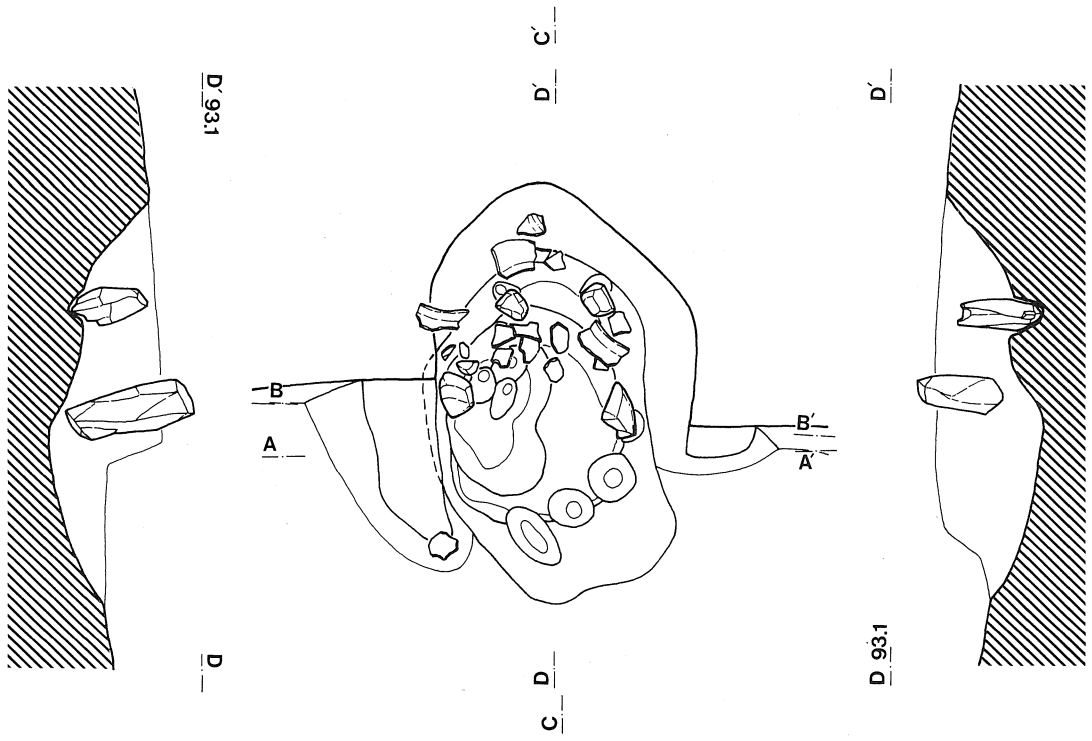
B'



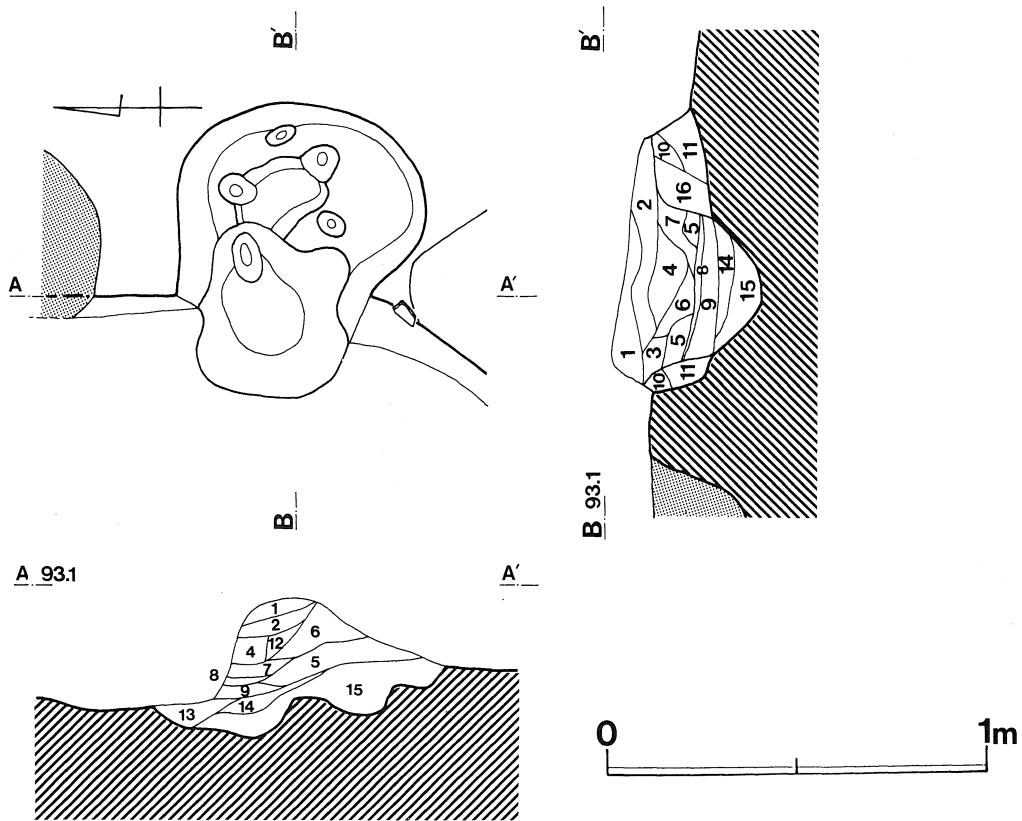
第255図 第5 a号住居址カマド



第256图 第5b号住居址



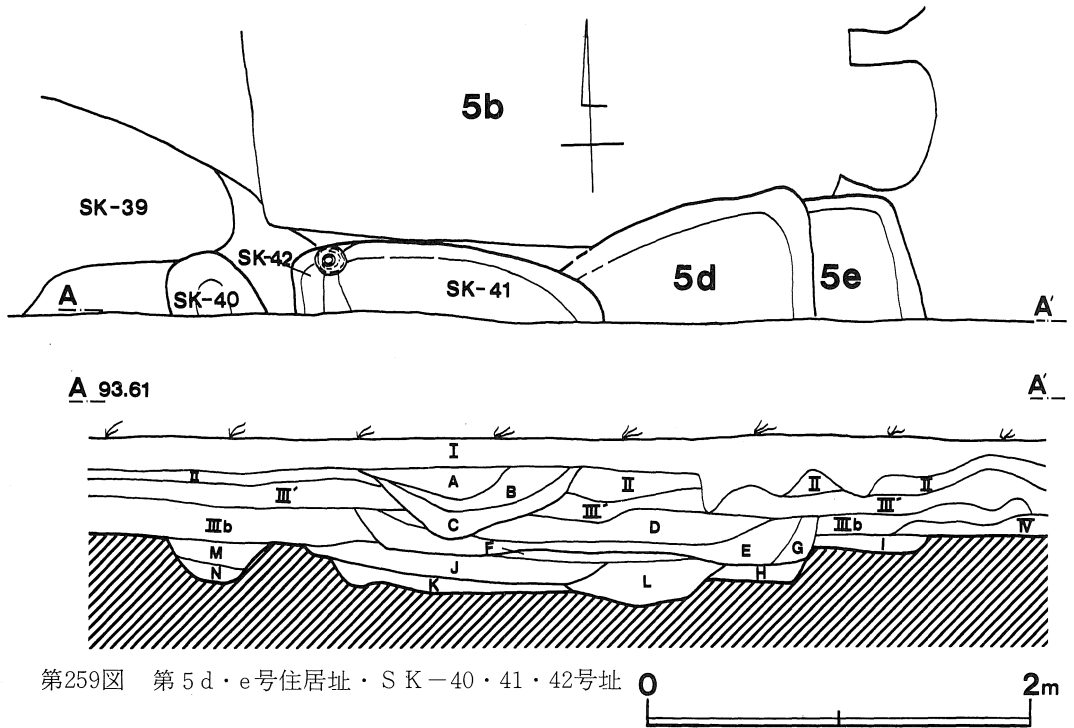
第257図 第5b号住居址カマド



第258図 第5c号住居址カマド

5c住カマド土層説明

- 第1層 暗褐色土層（粘性は低いがしまりがある。焼土塊、焼土粒子をごく少量含む。）
- 第2層 暗褐色土層（粘性は低いが、1層よりもしまりがある。径1～3mmの粘土粒子を少量含む。）
- 第3層 粘土ブロック（粘性が非常に強く、しまりも非常にある。）
- 第4層 暗褐色土層（径1～2mmの粘土粒子ならびに焼土粒子を多く含み、粘性は強く、しまりがない。）
- 第5層 暗赤褐色土層（径3～4cmの焼土塊を多量に含み、径2～3mmの焼土粒子を多量に含む。粘性は強いがしまりがなく、他層に比べ焼土を多量に含み明確に層区分できる。）
- 第6層 暗褐色土層（第4層に類似。焼土粒子を多量に含む。粘性はなく、しまりもない。）
- 第7層 明褐色土層（径3～4mmのローム塊を全体的に均一に含み、径1～2mmの粘土粒子を多量に含む。また全体的に径1～2mmの焼土粒子を少量含む。粘性は強いがしまりはない。）
- 第8層 黒褐色土層（径2～3mm程の炭化物を多量に含む。粘性は強く、しまりがない。）
- 第9層 赤黄褐色土層（径1～2mmの焼土粒子を緻密に含む。また径1～2mmの粘土粒子を多量に含み径3cm大の粘土ブロックの表面が焼けて赤色化していて、粘性はなく、しまりもない。）
- 第10層 暗褐色土層（径1～2mmの粘土粒子を多量に含む。粘性は弱くしまりもない。）
- 第11層 暗褐色土層（10層に類似するがしまりが非常にあり、径1～2mmの白色粒子を全体的に含む。）
- 第12層 明褐色土層（7層に類似するが径2～3mm程の炭化物を少量含み径3～5mmの焼土塊を多量に含む。粘性は弱いがしまりが非常にある。）
- 第13層 赤褐色土層（全体が径1～2mmの焼土で、粘性はなく、しまりもない。）
- 第14層 黒褐色土層（径2mm程の炭化物を多量に含む。粘性は弱く、しまりがない。）
- 第15層 暗灰色土層（全体的に粘性は弱く、しまりもない。炭化物・焼土粒子をごく少量含む。）
- 第16層 明黄褐色土層（ローム粒子、焼土ブロックを多量に含む。粘性は弱く、しまりがある。）



第259図 第5d・e号住居址・SK-40・41・42号址

5d 住土層説明

第H層 暗褐色土層（均質で径1～2mmのローム粒子と焼土粒子を少量含み、粘性はあるが粗である。）

5e 住土層説明

第I層 暗茶褐色土層（均質で1mm未満の白色粒子を極少量含み、粘性は弱く緻密である。）

5f 住土層説明

第D層 明褐色土層（径1～2mmのローム粒子を全体に含み、径5～6mm程の焼土塊をまばらに含む。粘性は弱く、緻密である。）

第E層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子を少量含み、同程度の大きさの焼土粒子を微量含む。又、径3mm程の炭化物もまばらに含み、粘性は強いが粗である。）

第F層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子をまばらに含み、非常に緻密である。）

第G層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子と焼土粒子を少量含み、粘性、しまりともない。）

SK-40土層説明

第M層 暗褐色土層（径1～2mm程のローム粒子を極少量、まばらに含み、粘性は強く粗である。）

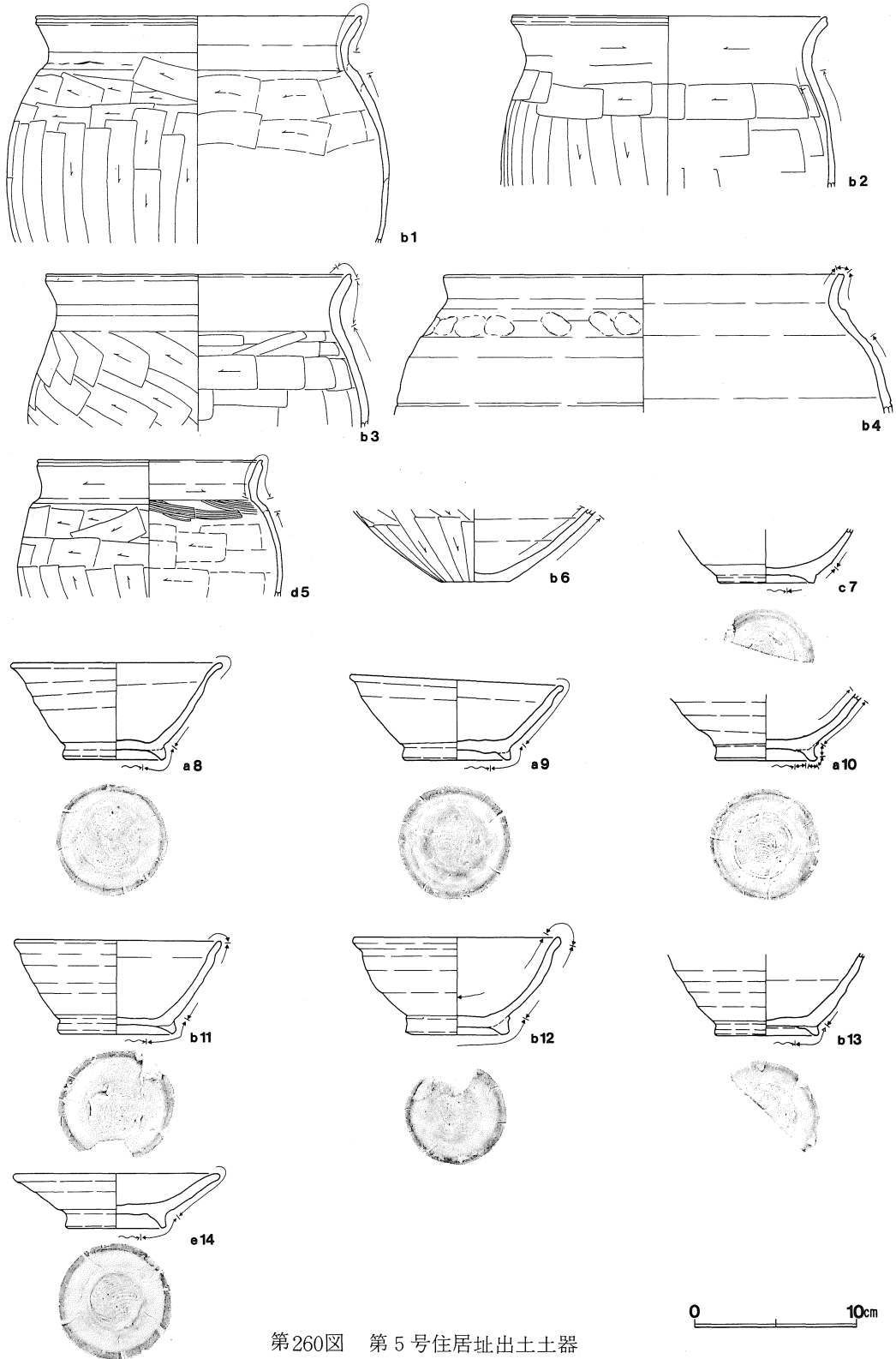
第N層 暗褐色土層（全体的に粒子が荒い。ローム粒子はM層より少ない。）

SK-41土層説明

第K層 明褐色土層（径2mmのローム粒子、径1cm程のロームブロックを含む。粘性は弱く、粗である。）

SK-42土層説明

第J層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子をまばらに含み、径1cm弱のロームブロックを少量含む。粘性は強く、粗で、他の褐色土層に比べてやや暗い。）



第260图 第5号住居址出土土器

## 5 b 住土層説明

- 第4層 暗褐色土層（1～2mmの焼土粒を含み、粘性はなく、しまりもない。）
- 第7層 暗褐色土層（粘性はないが緻密で、9層に比べ、やや暗い。）
- 第8層 暗褐色土層（1～2mmのローム粒子と炭化物を含む。粘性はあるが、しまりがない。）
- 第9層 黒褐色土層（1cm程の炭化物を多量に含む。粘性は弱く、しまりがない。）

## 5 b 住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（径1～2mmの粘土粒子を全体的に均一に含み、径1～2mmの焼土粒子をごく少量含む。粘性は弱いが硬くしまっている。）
- 第2層 暗褐色土層（径5mm程の粘土ブロックを少量含み、径1mm以下のローム粒子を微量含む。粘性は、1層よりも強いが、しまりは1層よりおちる。）
- 第3層 黄白褐色土層（径3～4cm、及び径5cm以上の粘土塊を全体的に含む。又、径2～3mmの焼土粒子を少量含む。粘性は2層よりも強く、しまりもある。）
- 第4層 暗褐色土層（径5mm程の炭化物を多量に含み、径1～2mmの焼土粒子、粘土粒子を少量含む。粘性は低くしまりもない。他層よりもやや暗い。）
- 第5層 暗褐色土層（径2cm以上の焼土塊を多量に含み、径1～2mm、径5mm程の焼土粒子も多量に含む。又、径1～2mmの粘土粒子をごく少量含み、粘性は強くしまりがある。）
- 第6層 暗褐色土層（径1～2mmの粘土粒子、ローム粒子をごく少量含む。焼土粒子はない。粘性は弱くしまりはない。他層よりもやや暗いが、4層よりは明るい。）
- 第7層 暗黄褐色土層（径5mm程のローム粒子を多量に含み、3～4cmのロームブロックを少量含む。粘性は非常に弱く、しまりもない。）
- 第8層 明黄褐色土層（径2～3mmのローム粒子を均一に含み、径1～2mmの焼土粒子を少量含む。）
- 第9層 暗褐色土層（径2～3mm程の粘土粒子をごく少量含み、径1～2mmの焼土粒子を少量含む。粘性は弱いがしまりがある。）
- 第10層 黄茶褐色土層（径5cm程の粘土塊、ロームブロックを含む。径1～2mmの焼土粒子を少量含み径1～2mmの粘土粒子を均一に含む。粘性は強く、しまりがある。）
- 第11層 暗褐色土層（9層と類似するが粘性は弱くしまりがない。9層よりもやや暗い。）
- 第12層 暗茶褐色土層（径1～2mm程の粘土粒子を少量含み、粘性はないが、非常にしまりがある。）
- 第13層 暗褐色土層（径1cm弱の焼土塊を多量に含み、径1～2mmの粘土粒子を多量に含む。粘性は高く、しまりもある。5層よりも全体的に焼土粒子の量が少ない。）
- 第14層 暗褐色土層（径2～3mmの焼土粒子を全体的に均一に含む。粘性はなくしまりもない。）
- 第15層 暗褐色土層（径1～2mmの焼土粒子を少量含み、径5mm大の炭化物を少量含む。粘性は強く、しまりもある。）
- 第16層 灰褐色土層（全体的に粒子が細かく均一で、焼土、炭化物、粘土、ローム等はほとんどなく、粘性は弱く、しまりもない。）
- 第17層 粘土ブロック。

## 5 a 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（1～2mmの炭化物を少量含み、緻密である。）
- 第2層 暗褐色土層（炭化物を多量に含み、粘性は強い。1層より暗い色である。）
- 第3層 黒褐色土層（炭化物を多量に含むが、粘性はない。）

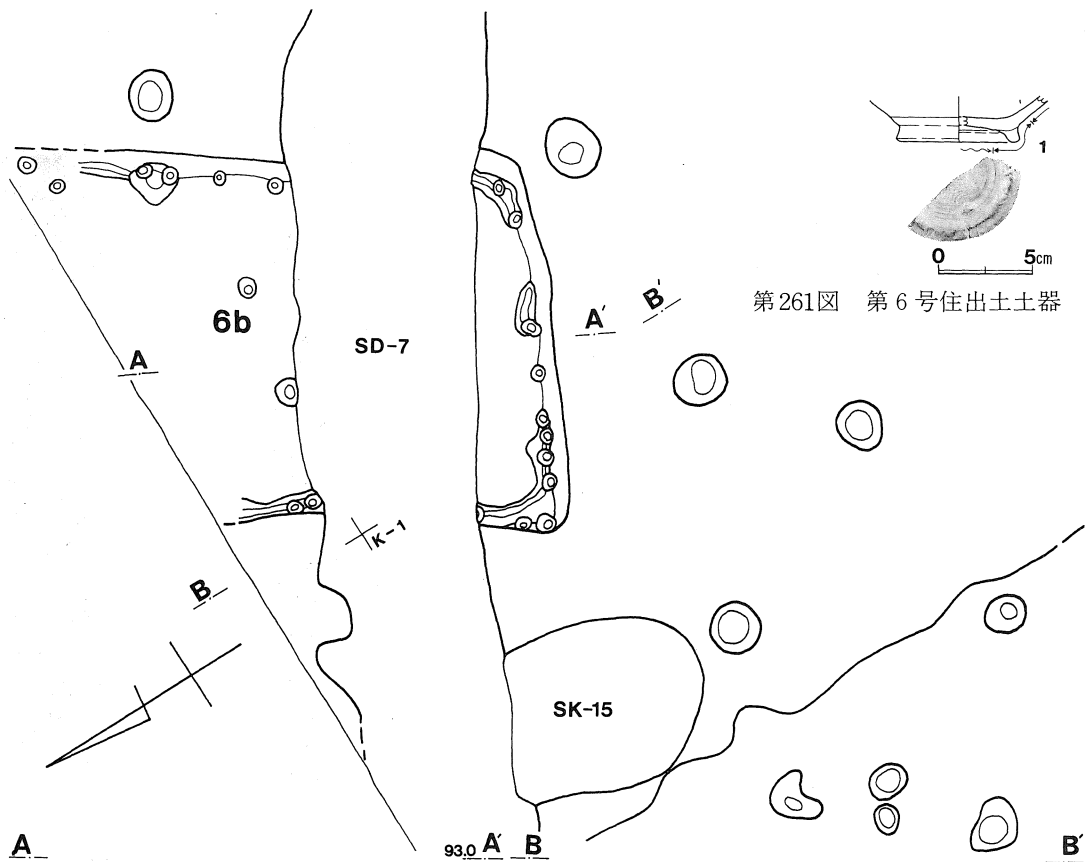
## 5 a 住カマド土層説明

- 第1層 黄白褐色粘土層（径2～3mm程の焼土と炭化物を少量含む。粘性が強く、緻密である。粘土質。）
- 第2層 暗褐色土層（径1～2mmの粘土粒子、及び径5mm程の焼土を少量含み、緻密である。）
- 第3層 暗褐色土層（径2～3mmの粘土粒子を多量に含む。粘性は弱くしまりが無い。）
- 第4層 明褐色土層（径2～3mmの粘土粒子を多量に含み、粘性は弱くしまりが無い。）
- 第5層 黒褐色土層（径3～4mm程の炭化物を多く含み、粘性、しまりともない。）
- 第6層 黒褐色土層（他層より暗い。粘性は弱く、しまりが無い。）
- 第7層 暗褐色土層（径1～2mm程の粘土粒子を少量含み、粘性は弱いが緻密である。）
- 第8層 暗褐色土層（径2～3mmの粘土粒子を多く含み、径2mm程の焼土粒子を少量含む。粘性は弱いが緻密で、7層よりやや暗い。）
- 第9層 暗褐色土層（径1～2mm程のローム粒子を多く含み、粘性は弱いが緻密である。）
- 第10層 黒褐色土層（炭化物を多く含み粘性が強く緻密である。）
- 第11層 ロームブロック。

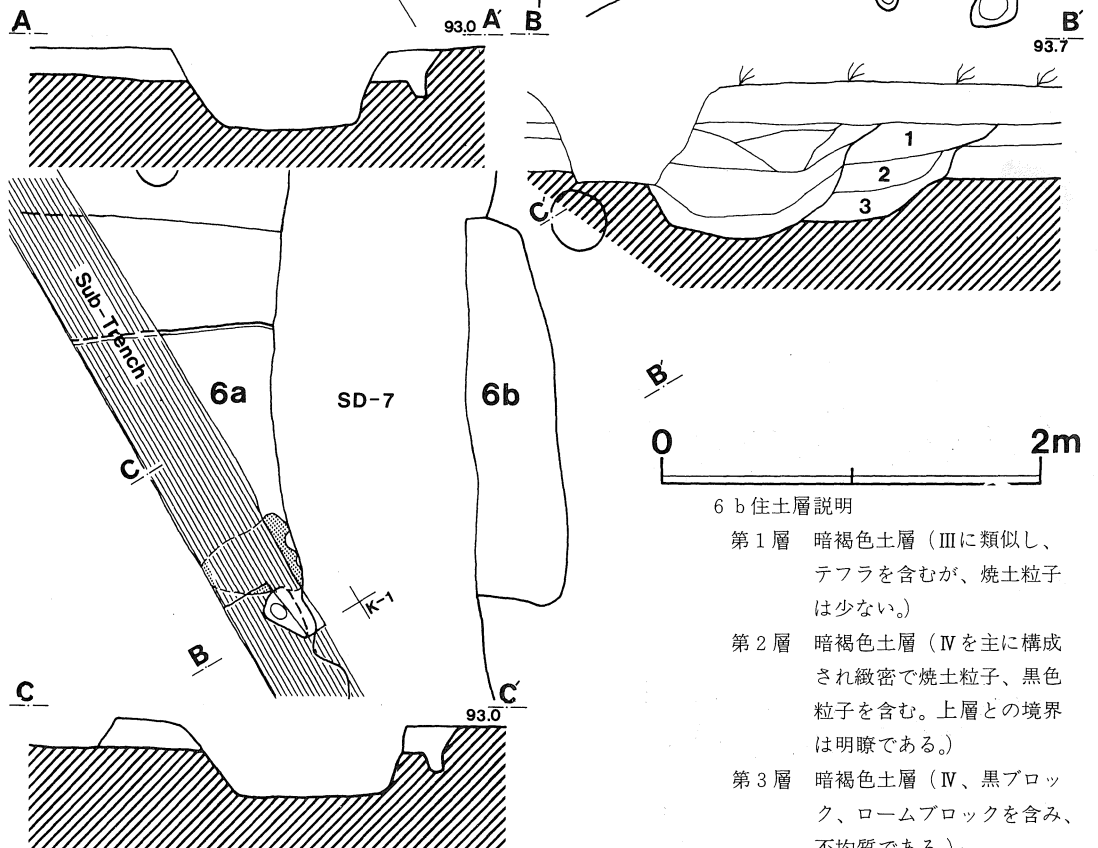


5 a 号住居址カマド





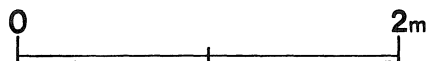
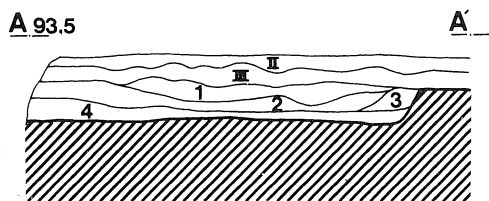
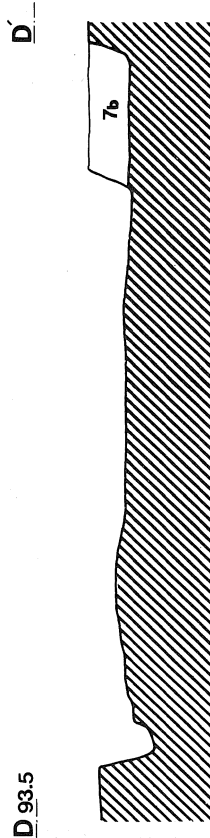
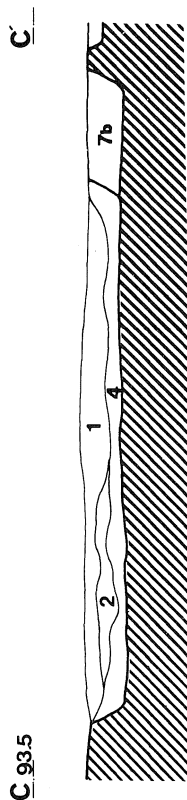
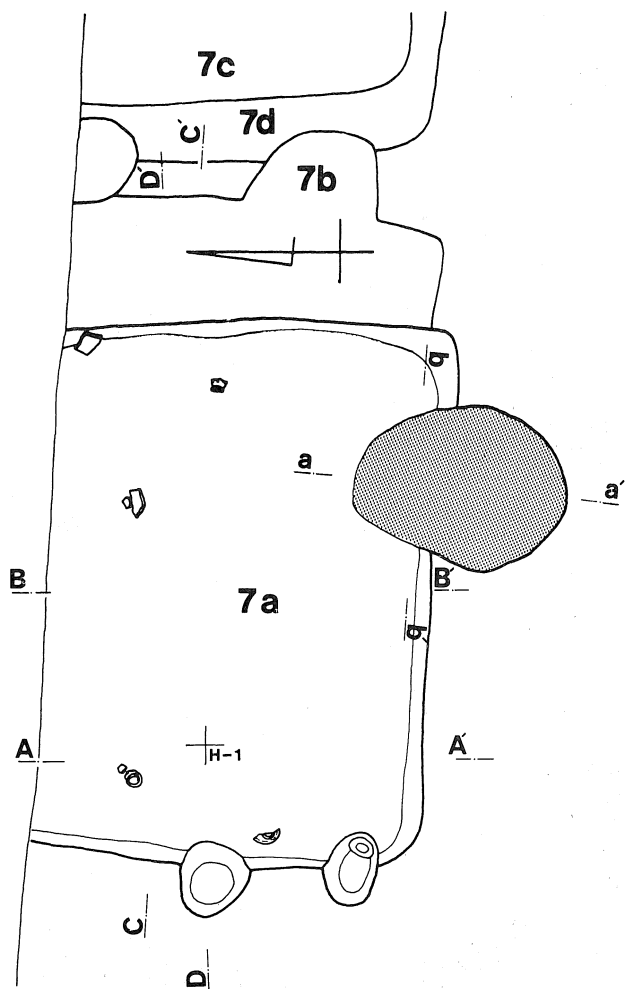
第261図 第6号住出土土器



6 b 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（Ⅲに類似し、テフラを含むが、焼土粒子は少ない。）
- 第2層 暗褐色土層（Ⅳを主に構成され緻密で焼土粒子、黒色粒子を含む。上層との境界は明瞭である。）
- 第3層 暗褐色土層（Ⅳ、黒ブロック、ロームブロックを含み、不均質である。）

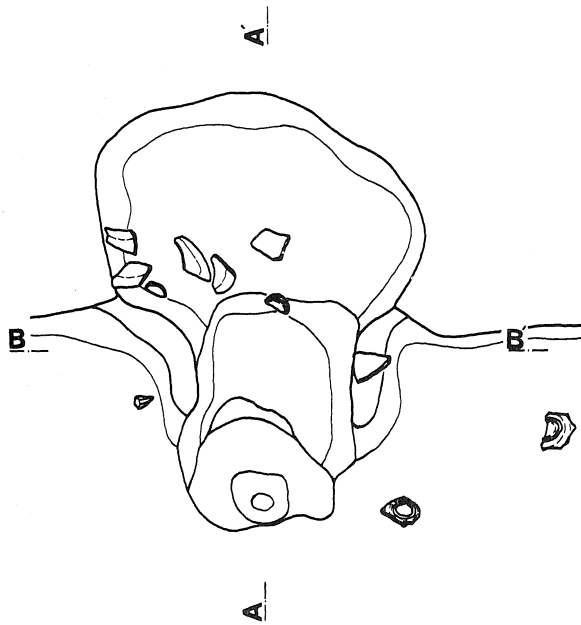
第262図 第6 a b号住居址



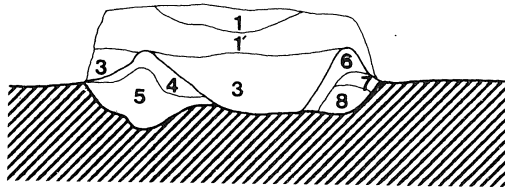
7 a 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（第2層に比べて、赤色粒子を多量に含む。粘性はなくしまりもない。）
- 第2層 黄暗褐色土層（赤色粒子・炭化物を少量含み、ローム粒子を混入。粘性はやや強く、しまりがない。）
- 第3層 暗褐色土層（白色粒子・赤色粒子を少量含む。粘性は弱く、しまりがある。）
- 第4層 暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性は高く、しまりもある。）

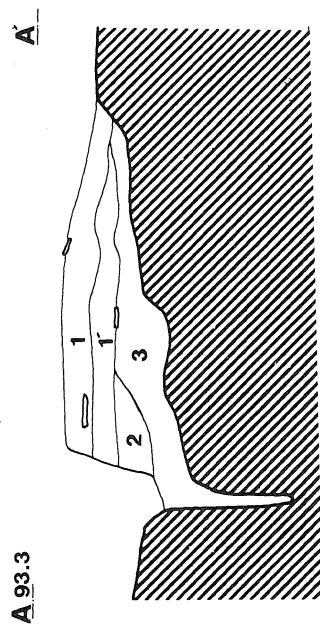
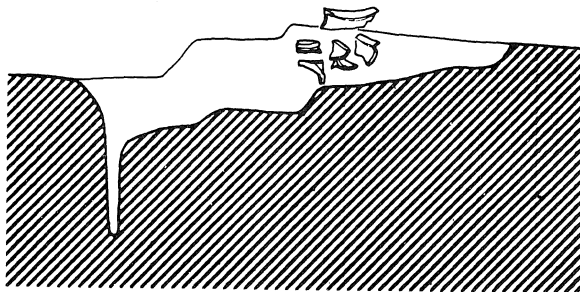
第263図 第7 a号住居址



B 93.3



A 93.3



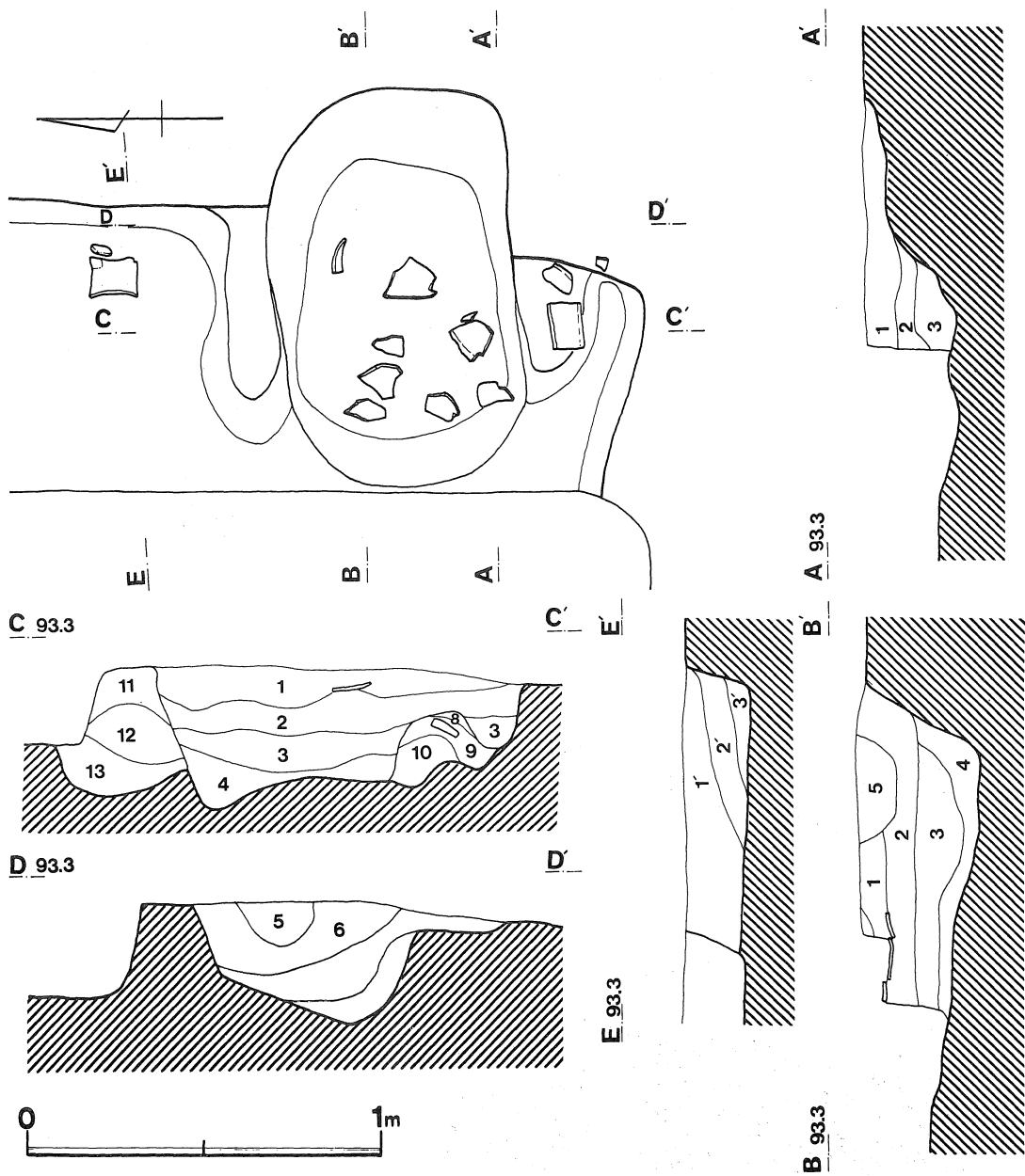
A 93.3

7 a 住カマド土層説明

- 第1層 暗褐色土層（2mm以下の焼土を若干含み、粘性、しまり、共に弱い。）
- 第1'層 暗褐色土層（1層で混入している焼土と、1mm程の炭化物を含む。粘性、しまり共に弱い。）
- 第2層 暗褐色土層（3mm程の焼土を若干含む。炭化物の混入は見られず、粘性はないが、やや緻密である。）
- 第3層 暗褐色土層（1mm程の炭化物を若干含み、焼土は混入していない。粘性はないが、緻密である。）
- 第4層 明茶褐色土層（焼土粒子、ブロック、及びロームブロック粒子が、多量に含まれ、粘性は少ない。）
- 第5層 暗茶褐色土層（焼土粒子、ローム粒子が点在する。）
- 第6層 灰褐色土層（粘性が少なく、堅緻である。粘土粒子が多少含まれている。）
- 第7層 暗茶褐色土層（ローム粒子が少量点在する。）
- 第8層 茶褐色土層（ロームブロックが散見できる。）



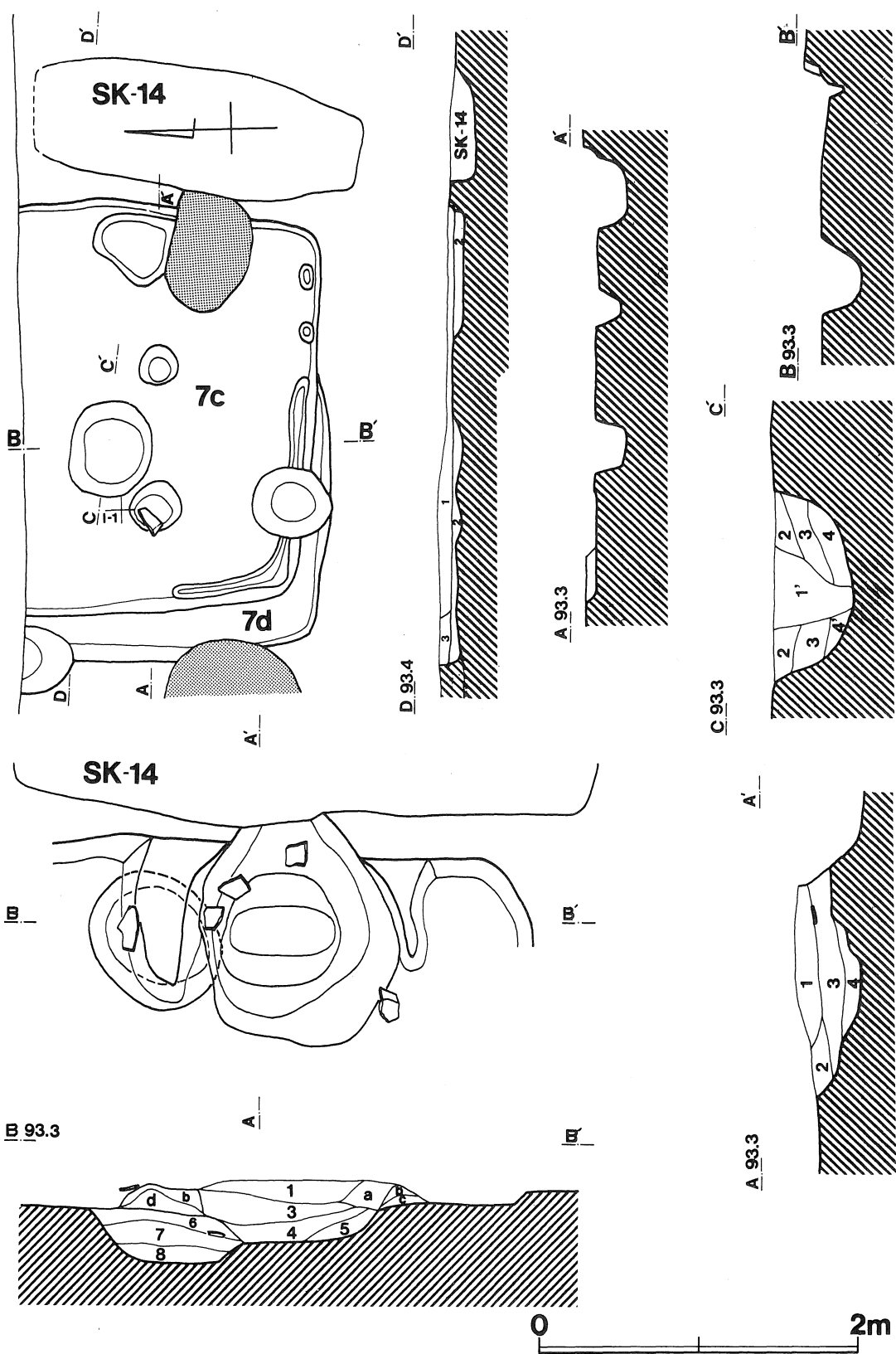
第264図 第7 a号住居址カマド



7 b 住土層説明

- 第1層 明茶褐色土層（ローム粒子を多量に含み、焼土粒子・炭化物を少量含む。粘性は弱い。）
- 第2層 暗茶褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性は弱い。）
- 第3層 黒褐色土層（灰褐色粘土粒子を少量含む。粘性は強い。）

第265図 第7 b号住居址・第7 b号住居址カマド



第266図 第7c・d号住居址・第7c号住居址カマド

## 7 b 住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（1～2mm程の焼土、炭化物粒子を含み、粘性は弱い。）
- 第2層 明茶褐色土層（ローム、焼土粒を含み、粘性は1層より強い。）
- 第3層 明茶褐色土層（粘土粒を多く含み、ロームブロック、焼土粒も含む。粘性はある。）
- 第4層 炭化物層（炭化物ブロック、及び、焼土ブロックが点在している。粘性は弱い。）
- 第8層 黄褐色土層（ロームで構成され堅緻である。粘性は弱い。）
- 第9層 暗茶褐色土層（ロームブロック、焼土粒子を含んでいる。粘性は強く、土器、小片が含まれ、又、粘土粒子、ブロックも多少含まれる。）
- 第10層 明茶褐色土層（ロームブロック、ローム粒子を多量に含み、焼土粒子もまばらに含む。粘性はある。）
- 第11層 明茶褐色土層（ローム粒をまばらに含み、粘土ブロックも若干見られる。粘性は弱い。）
- 第12層 明黄褐色土層（ローム粒、焼土粒子が多量に含まれ、土器小片も含まれる。）
- 第13層 黒褐色土層（粘性のある黒色土に粘土、ローム、焼土粒子が多量に含まれている。）

## 7 c 住土層説明

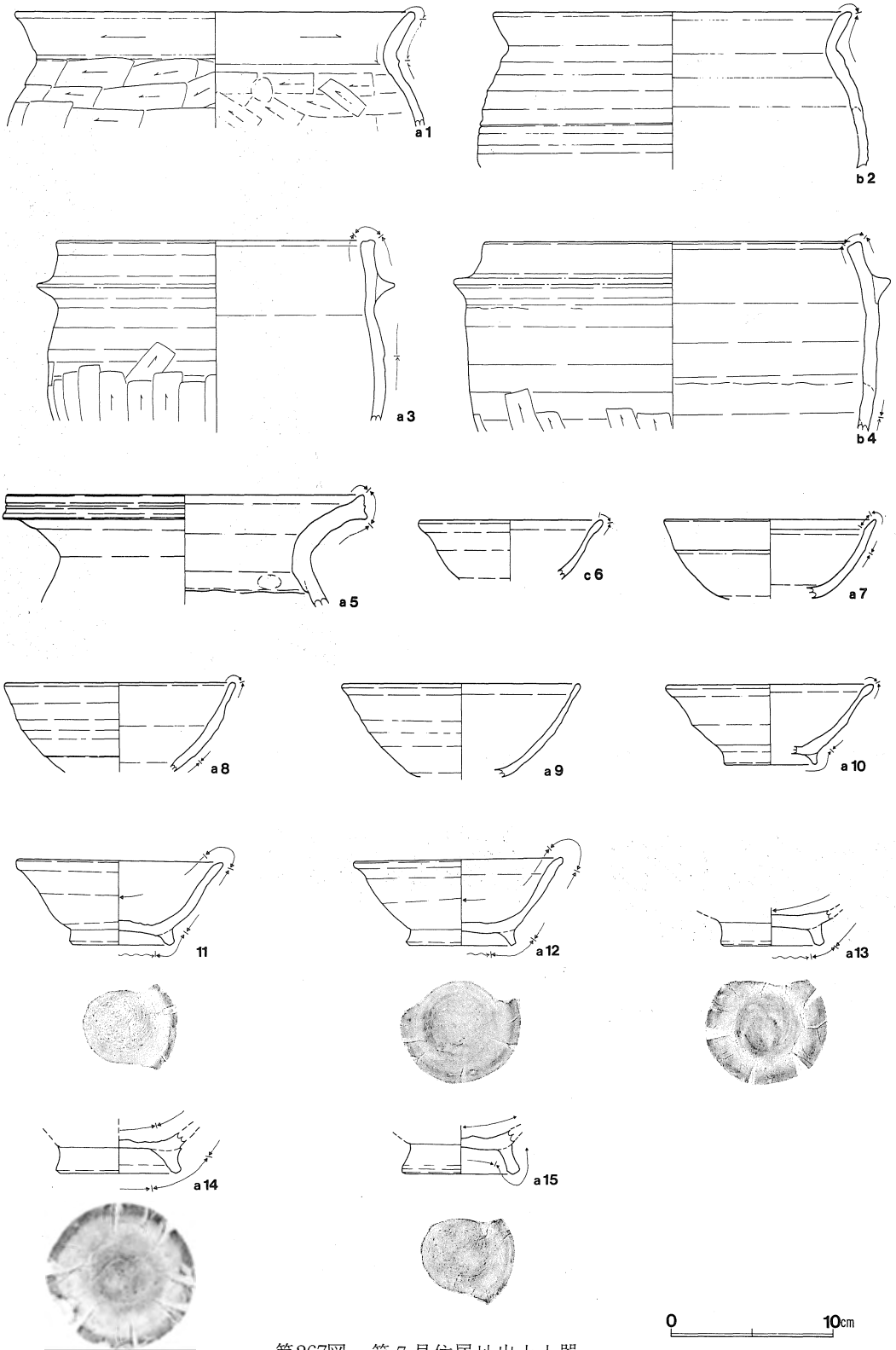
- 第1層 暗褐色土層（貼床のブロックが見られる層。硬質で焼土粒子を含む。）

## 7 c 住カマド土層説明

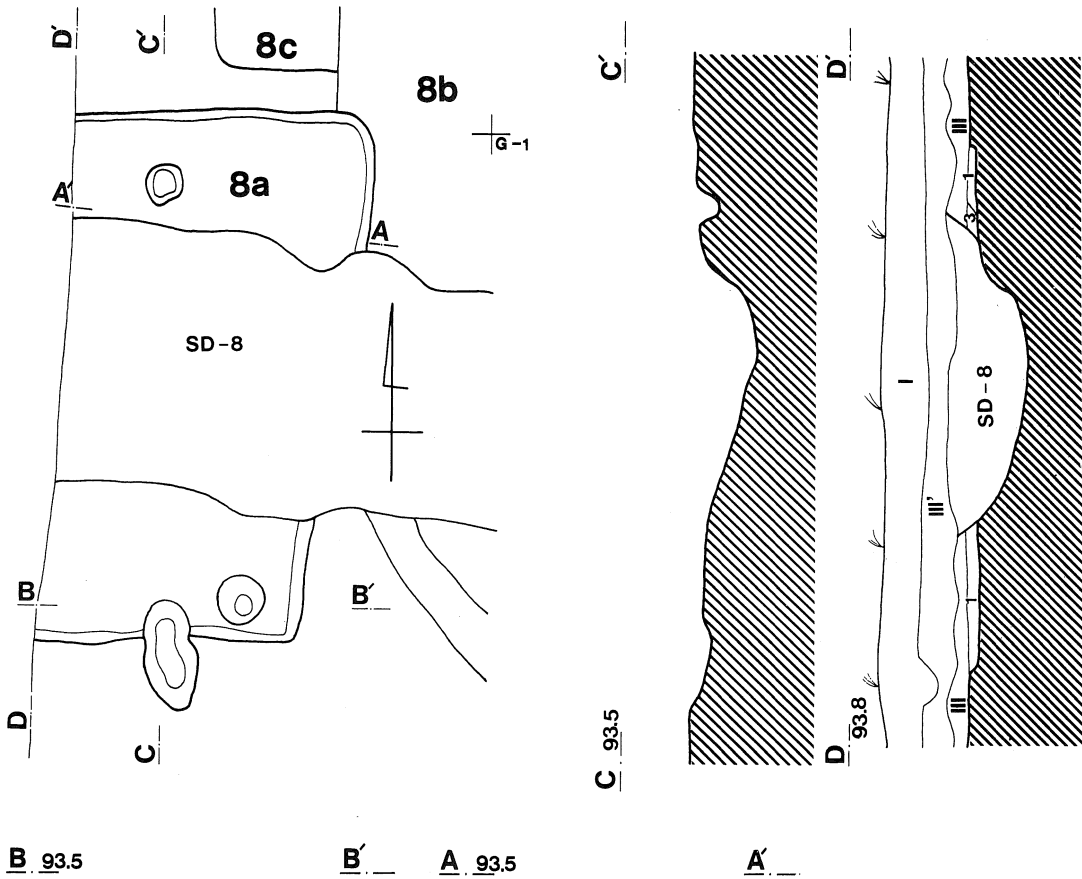
- 第1層 暗茶褐色土層（炭化物、焼土粒子を多く含む。粘性もある。）
  - 第2層 暗茶褐色土層（1層より暗く、粘性に乏しい。粒子をあまり含まず、住居のフク土と思われる。）
  - 第3層 暗茶褐色土層（大型の焼土粒子が見られ、粘性は弱い。炭化物は小型になり、1より暗い。）
  - 第4層 暗茶褐色土層（遺物を含み、炭化物も含む。粘性があり、粘土粒子も含む。）
  - 第5層 暗灰茶褐色土層（粘土と茶褐色土が混った層で、焼土粒子を含み、粘性は普通である。）
  - 第6層 暗茶褐色土層（焼土粒子を多量に含み、炭化物も大型で、遺物も含む。粘性は弱い。）
  - 第7層 暗茶褐色土層（炭化物をまばらに含み、小型の焼土粒も点在する。6層より明るい。）
  - 第8層 暗黄褐色土層（ロームブロックを含み、粘性に乏しい。）
  - 第a層 灰茶褐色土層（粘土を主体とする層。ブリッチのくずれたものと思われる。）
  - 第b層 暗茶褐色土層（粘土粒子が混入し、硬い。上面は焼土が散布し、さらに硬くなる。）
  - 第c層 灰褐色土層（a層より粘土が多く、焼土粒子も細かい。）
  - 第d層 明灰褐色土層（粘土層で硬く均質で、焼土ブロックが混っている。）
- 明度  $4 \geq 3 > 2 > 1 \geq 6 > 7 > b > a > c > d > 8$   
粘性  $1 > 4 > 5 > 2 > 6 > 3 > 7 > 8 > d > c > a > b$

## 7 d 住土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（粘性は普通で、細かい焼土粒子を含み、均質である。住居のフク土に類似する。）
  - 第2層 暗茶褐色土層（粘性がなく、均質である。）
  - 第3層 黒褐色土層（炭化物を多く含むピット2では遺物が認められる。又、細かいローム粒子が点在する。）
  - 第4層 暗茶褐色土層（2層より暗く、粘性がある。粒子はあまり含まない。）
  - 第4'層 暗茶褐色土層（4層にロームブロックが混じった層。）
- 明度  $3 > 2 > 4 > 4' > 1 > 1'$   
粘性  $1 > 4 > 4' > 3 > 2 > 1'$



第267图 第7号住居址出土土器

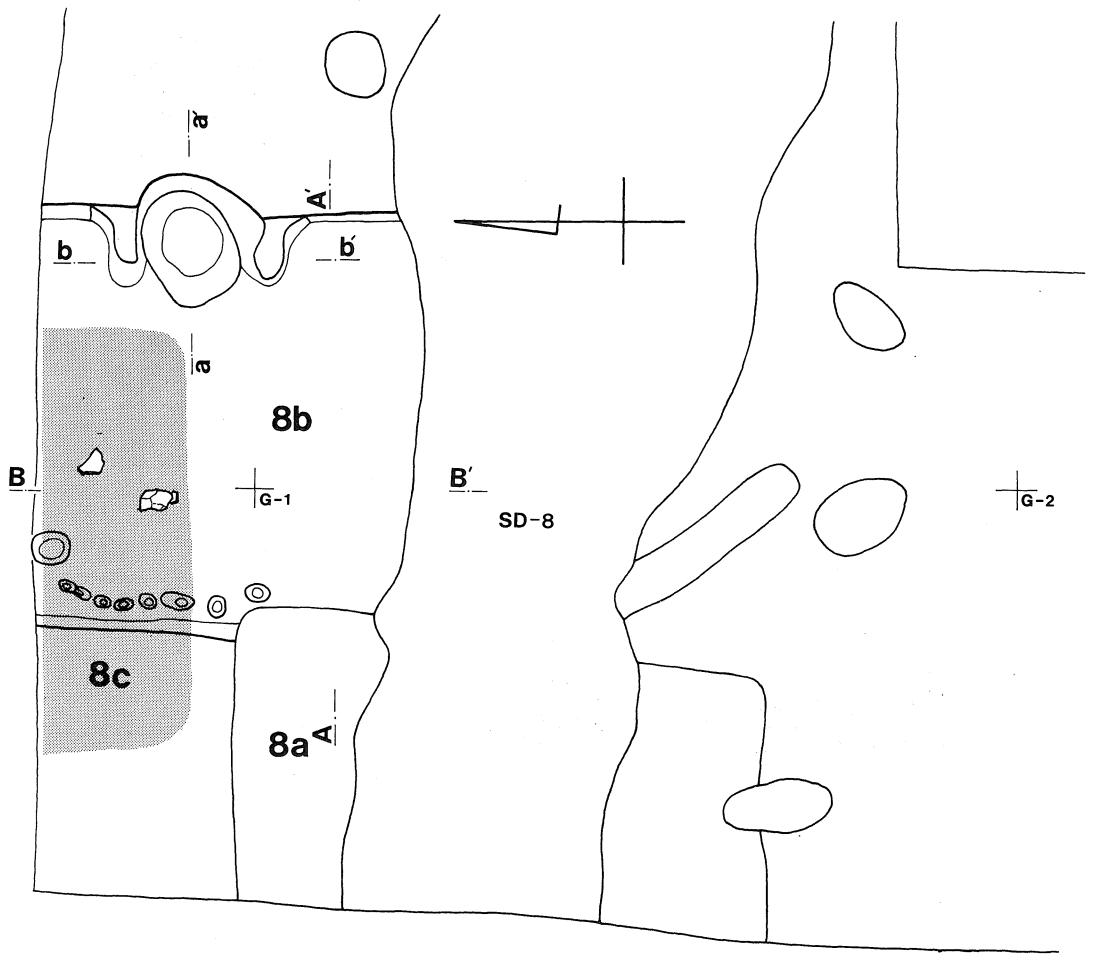


第268図 第8 a号住居址

8 a 住土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（1～2mmの焼土粒子を多量に含む。粘性は弱い。）
- 第2層 明茶褐色土層（ロームブロック、炭化物・焼土粒子を多量に含む。）
- 第3層 暗黄褐色土層（焼土粒子を含む。）

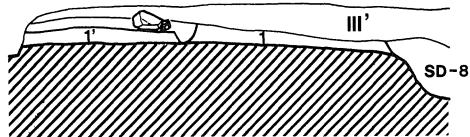




A 93.4 A'



B 93.5 B'

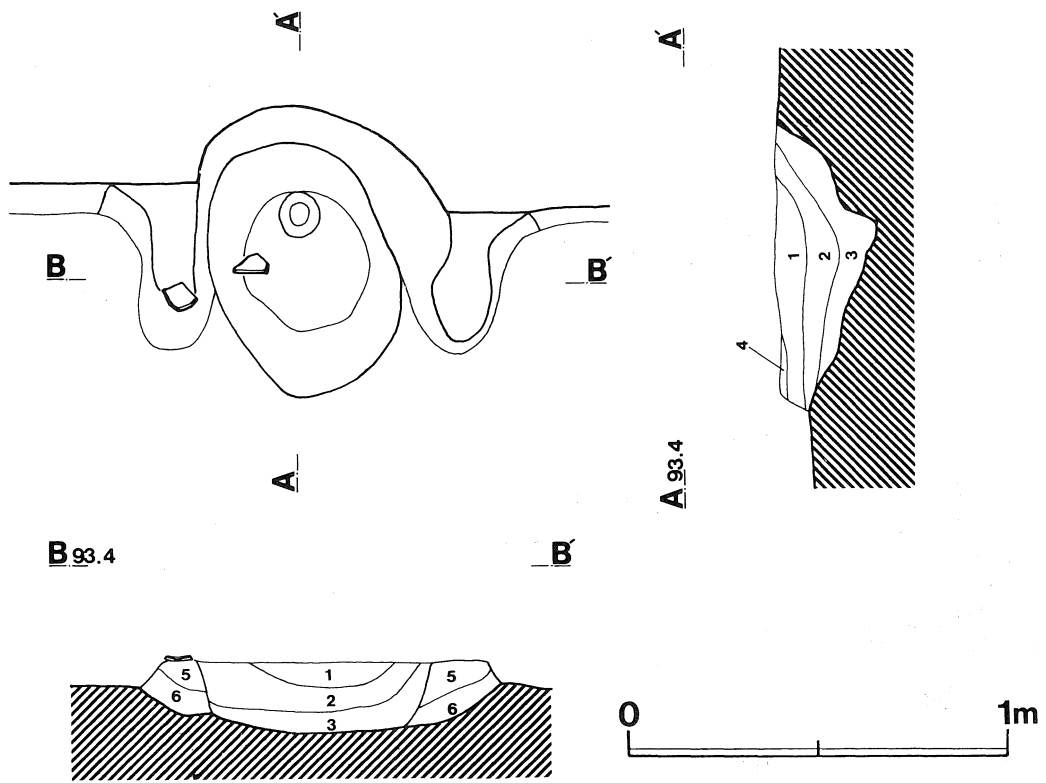


8 b 住土層説明

第269図 第8 b号住居址

第1層 暗茶褐色土層（多量の焼土粒子炭化物粒子を含み、IVブロックが多く上面硬化している。貼床面である。）

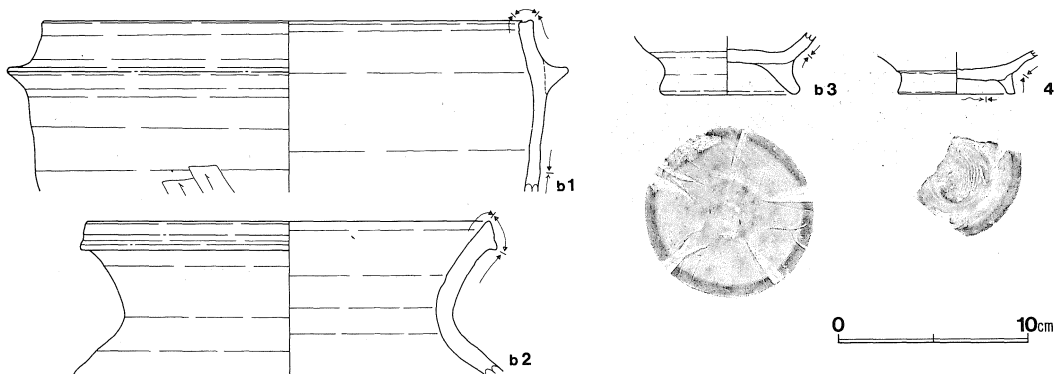
第1'層 暗茶褐色土層（少量の焼土粒子、炭化物粒子を含み、均質緻密で、硬化面はなく、1層より軟かい。）



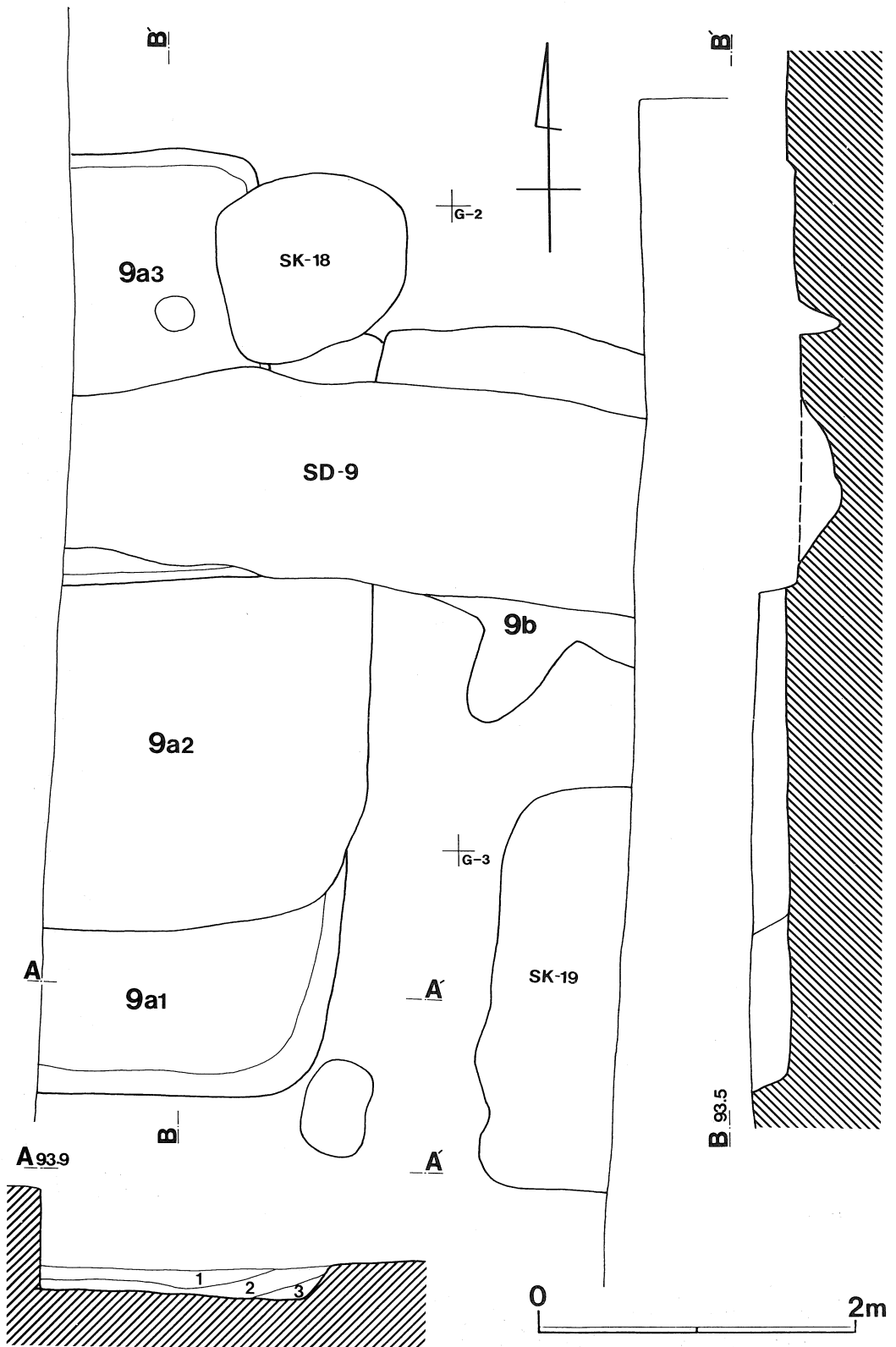
第270図 第8b号住居址カマド

8b住カマド土層説明

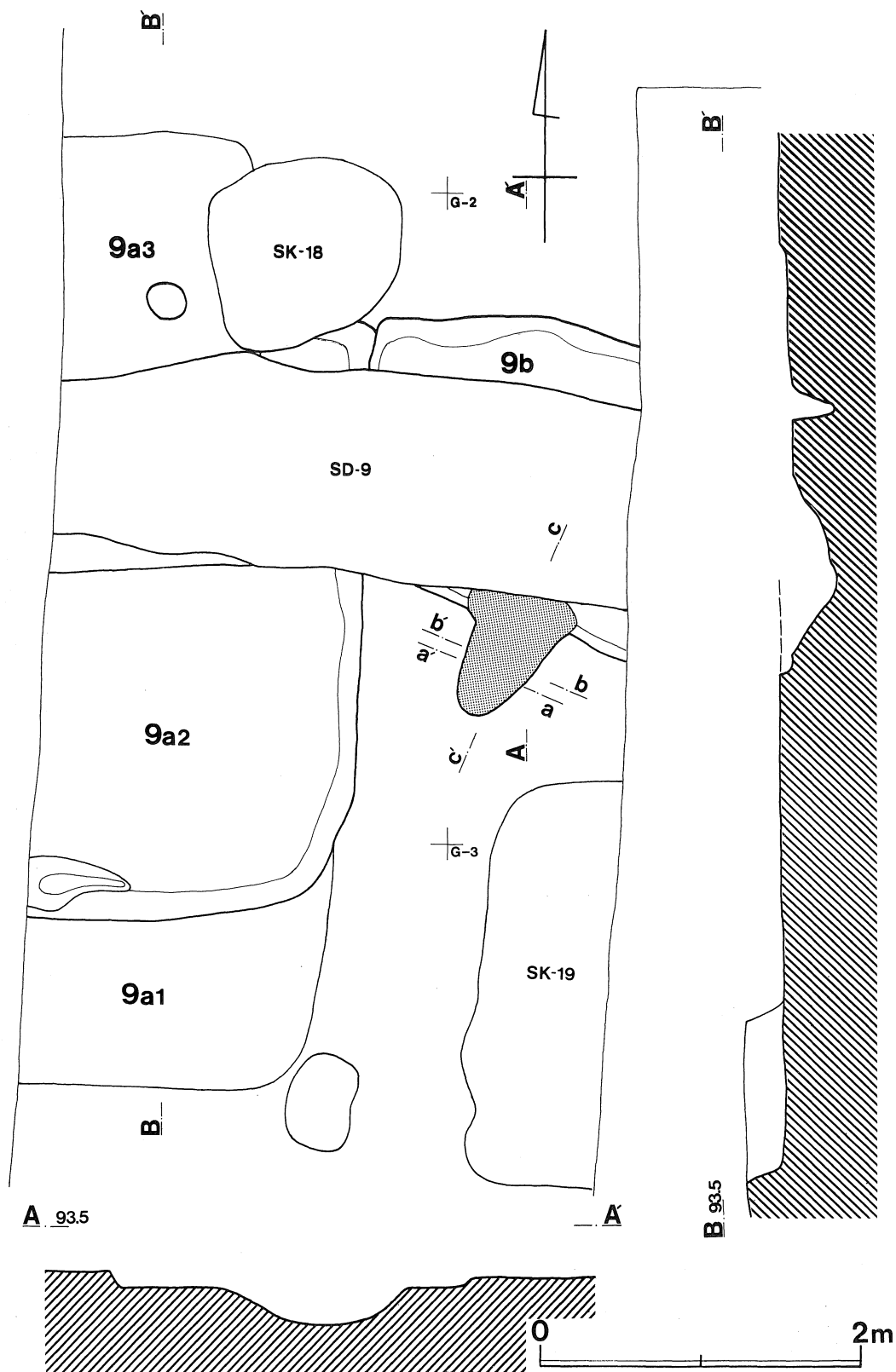
- 第1層 暗褐色土層（焼土粒子をわずかに含み、粘性はなく、しまりもよくない。）
- 第2層 黒褐色土層（ローム粒子、スコリアを若干含み、粘性はないが1層に比べてよくしまっている。）
- 第3層 暗黒褐色土層（ローム粒子を若干含む。2層よりは多く、粘性はないが、しまりはよい。）
- 第4層 褐色土層（スコリア・ローム粒子を多量に含む。炭化物を少量含む。粘性は弱く、しまりがある。）
- 第5層 淡黄黒褐色土層（径1cm程のロームブロックを含み、粘性はないがよくしまっている。）
- 第6層 淡黄黒褐色土層（3～4cm位のロームブロックを多く含む他、5層と基本的に同じである。）



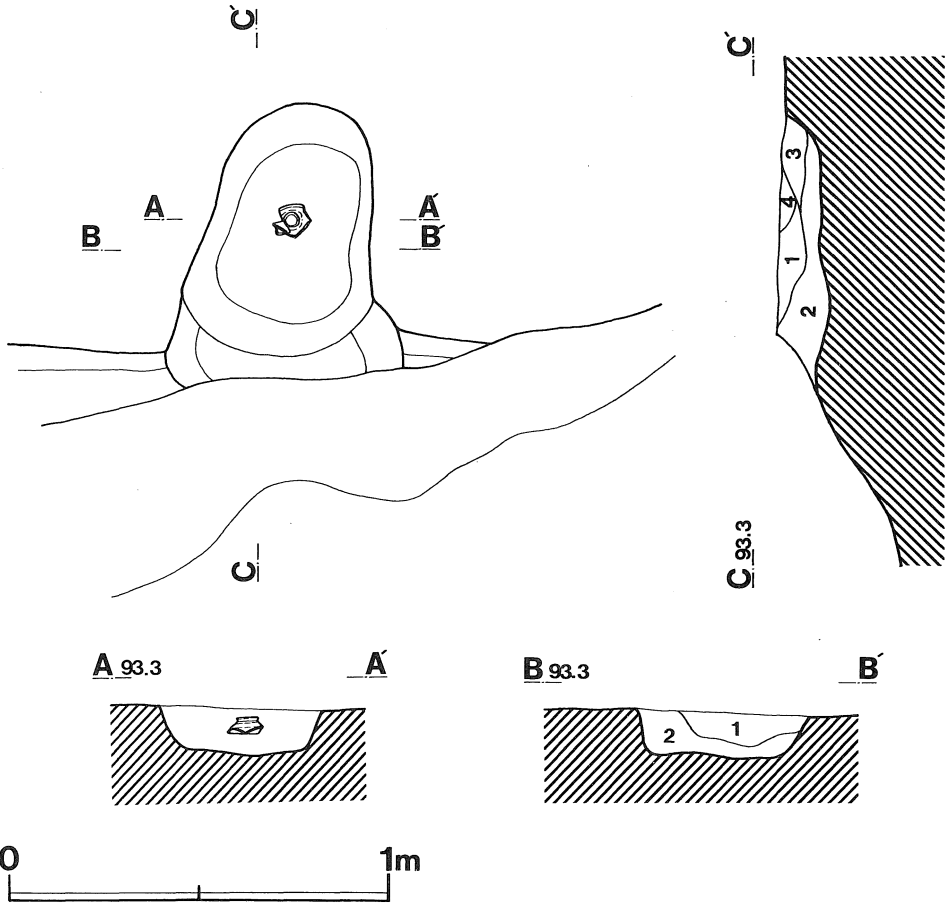
第271図 第8号住居址出土土器



第272图 第9a1、9a3号住居址



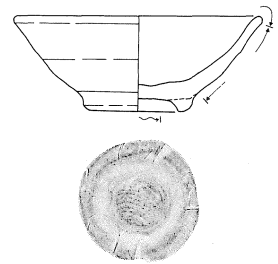
第273图 第9a<sub>2</sub>、9b号住居址



第274図 第9 b号住居址カマド

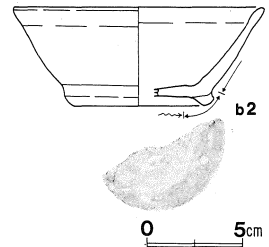
9 a 1 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性があり、しまりがある。）
- 第2層 暗褐色土層（第1層に類似、第1層に比べ、ローム粒子を多量に含む。）
- 第3層 黄暗褐色土層（ローム粒子を多量に含む。粘性は弱く、しまりがある。）

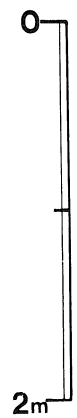
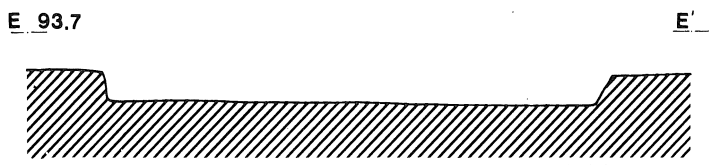
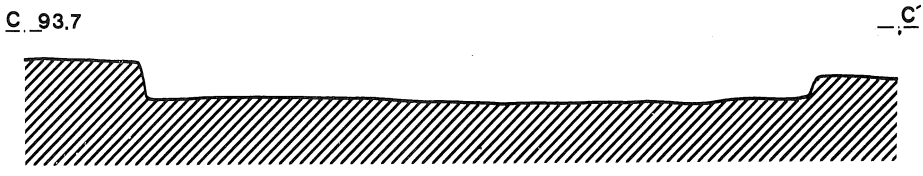
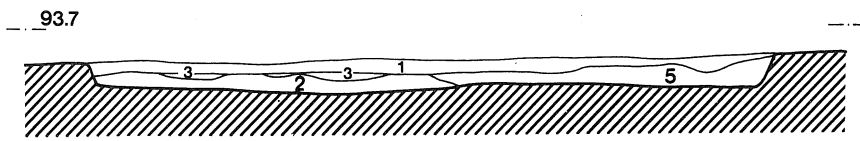
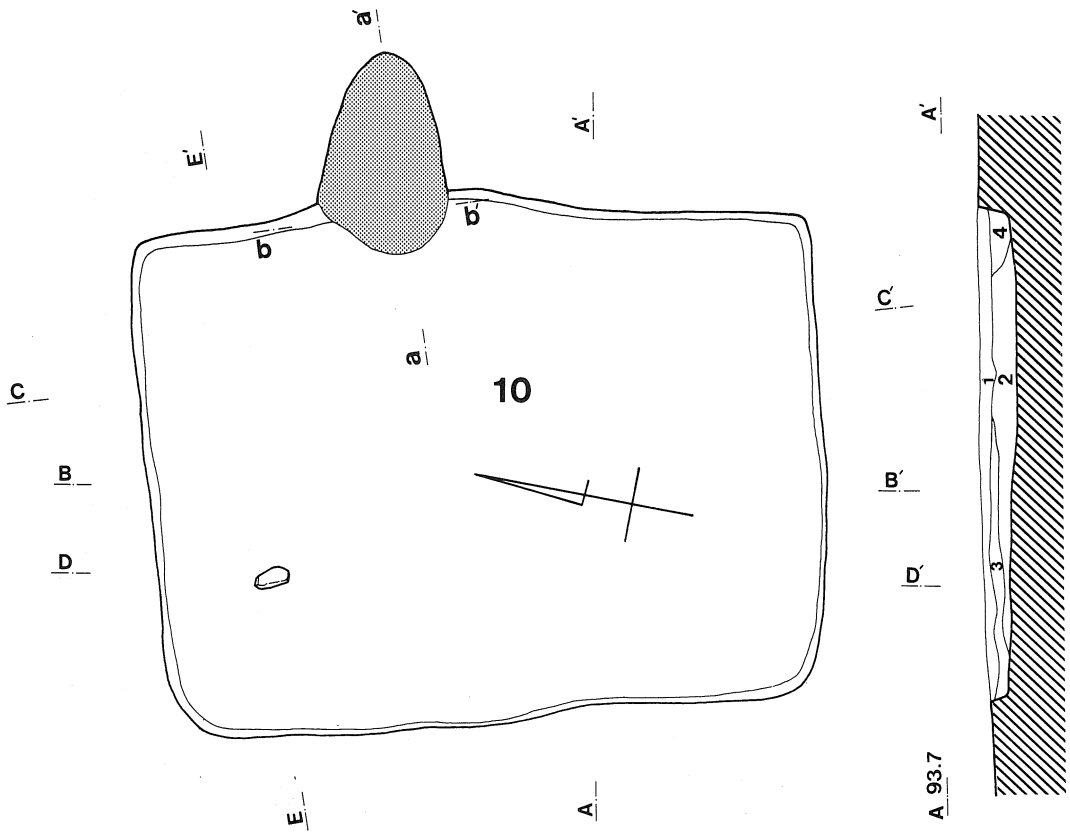


9 b 住カマド土層説明

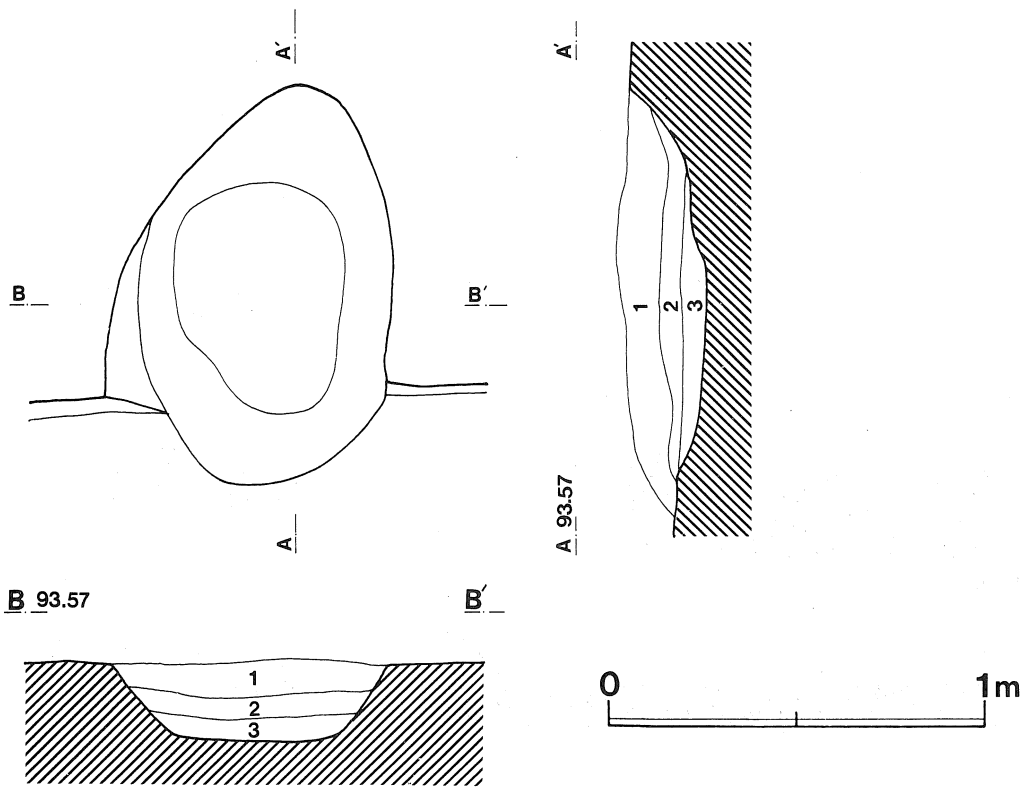
- 第1層 暗褐色土層（Aスコリアを多量に含み、ロームブロックを含む。粘性は弱く、しまりがない。）
- 第2層 黒褐色土層（焼土粒子、スコリア、ローム粒子を多量に含む。粘性は弱く、しまりがない。）
- 第3層 暗褐色土層（焼土粒子、Aスコリアを少量含む。粘性は弱く、しまりがない。）
- 第4層 暗茶褐色土層（Aスコリアを多量に含み、炭化物・焼土は含まない。）



第275図 第9号住居址出土土器



第276图 第10号住居址

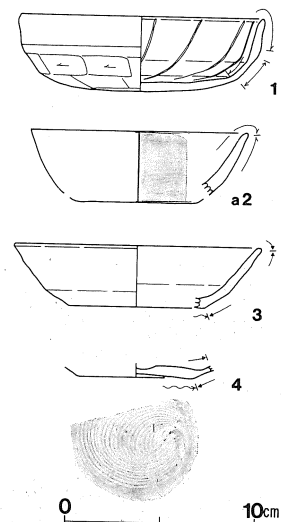


10住土層説明 第277図 第10号住居址カマド

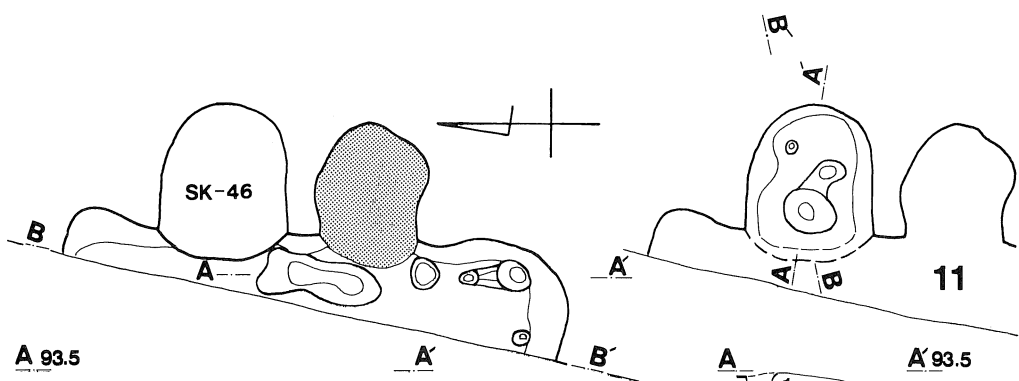
- 第1層 暗褐色土層（少量の焼土粒、テフラ粒、ローム粒が混入している。）
- 第2層 黒色土層（少量の焼土粒、テフラ粒、ローム粒が混入している。）
- 第3層 黒褐色土層（ローム粒が微量混入している。）
- 第4層 暗褐色土層（多量の焼土粒、ローム粒が混入し、テフラ粒も少量混じる。）
- 第5層 黒色土層（多量のローム粒と微量の焼土、テフラ粒が混入している。）

10住カマド土層説明

- 第1層 灰茶褐色土層（粘性のある粘土によって構成され、粘土ブロックが大部分で、径0.3～0.5mmの焼土微粒子が多量に含まれている。）
- 第2層 黒褐色土層（径1～2mmの焼土粒子、ローム粒子をまばらに含み、粘性がある。）
- 第3層 灰褐色土層（焼土粒をまばらに含み、粘性は強い。）



第278図 第10号住居址出土土器



A 93.5

A'

A

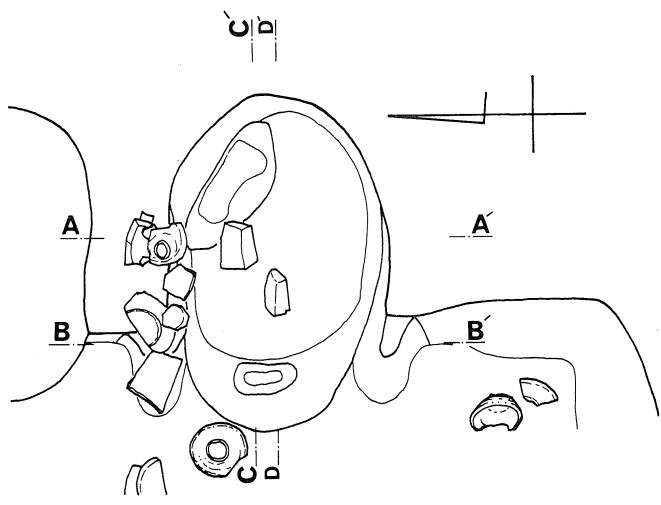
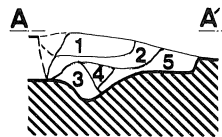
A' 93.5

B 93.5

B'

B

B' 93.5



A 93.5

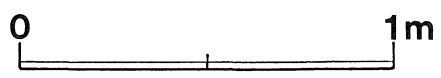
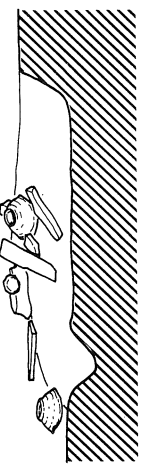
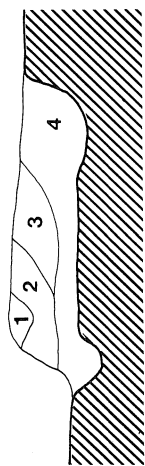
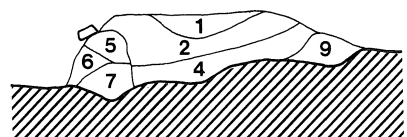
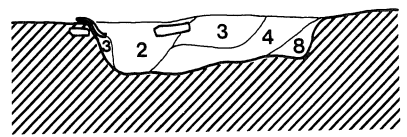
A'

B 93.5

B'

C 93.5

D 93.5



第279图 第11号住居址・SK-46

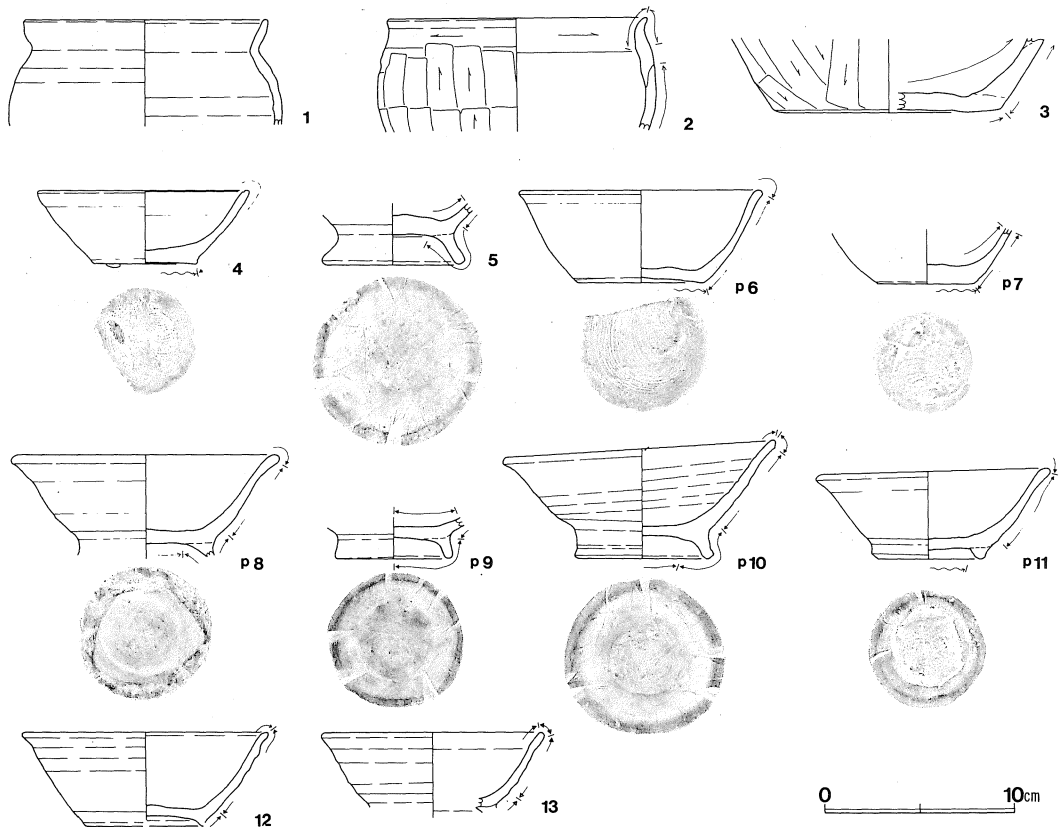


11住カマド土層説明

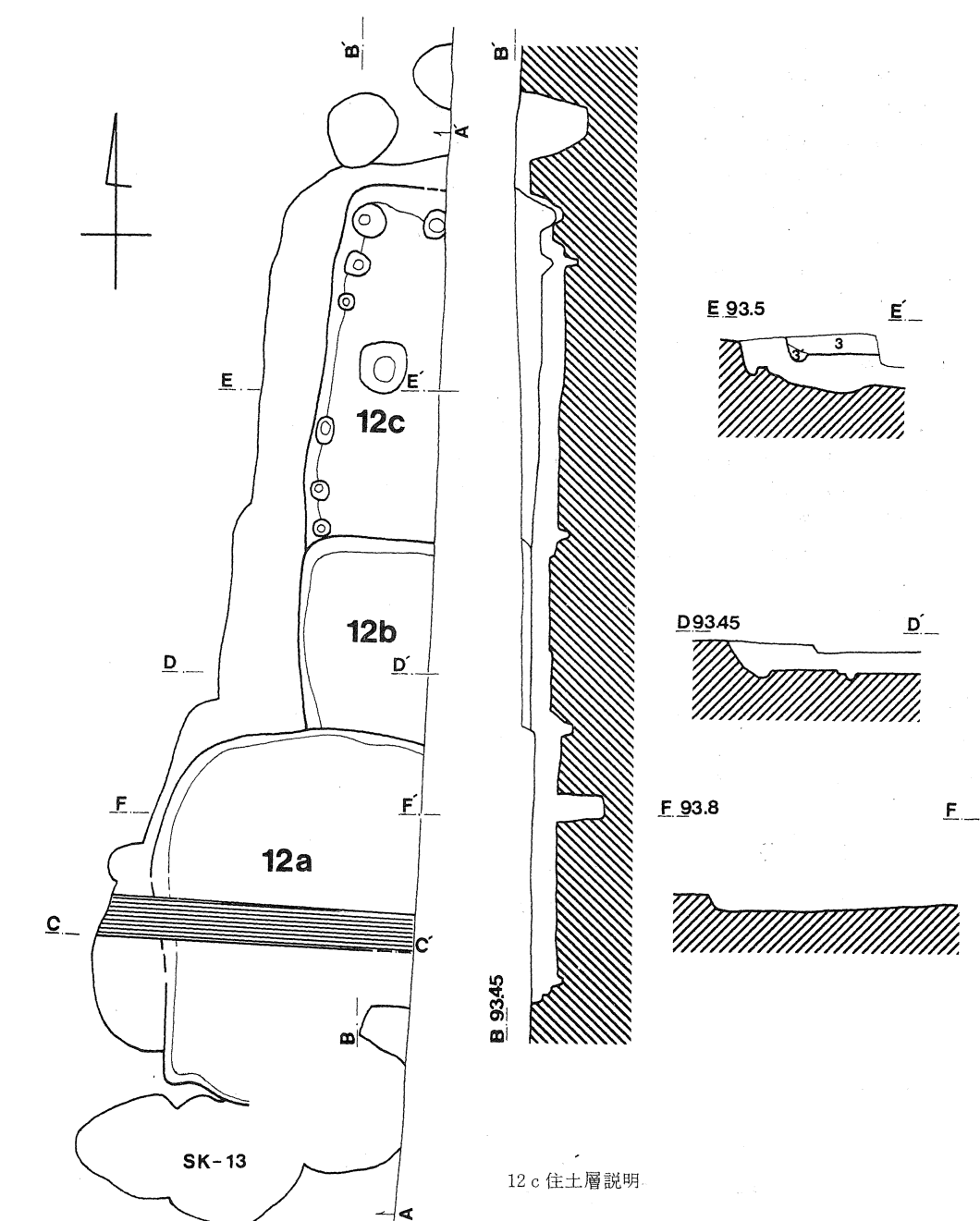
- 第1層 灰褐色土層（粘土を多量に含む粘性は強い。）
- 第2層 暗黒褐色土層（炭化物、焼土を多量に含む。粘性は弱い。）
- 第3層 暗茶褐色土層（焼土粒子を含む。ローム粒子も多少含み、粘性は弱い。）
- 第4層 暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に含む。粘性は弱い。）
- 第5層 灰褐色土層（純粋な粘土層。粘土しか含まないが下へ行くにしたがって赤褐色になる。粘性は強い。）
- 第6層 黄褐色土層（ロームブロックを多量に含み、粘性は弱い。）
- 第7層 赤黒褐色土層（炭化物、焼土を2層より、かなり多く含む。炭化物、焼土はブロック状で遺物の小片も混入している。粘性は強い。）
- 第8層 黄褐色土層（ロームを含み粘性は弱い。）

S K-46土層説明

- 第1層 黄褐色土層（ローム粒子、ブロックを多量に含み、焼土、炭化物粒子もまばらに含む。粘性もある。）
  - 第2層 黒褐色土層（1層に比べローム粒子が小さくまばらになる。）
  - 第3層 黒褐色土層（ローム粒子は殆んど含まず1～2mm程の焼土粒子が点在する。）
  - 第4層 黄褐色土層（ロームの中に黒色土が混入している硬質ロームである。）
  - 第5層 茶褐色土層（4層に比べ粘性がない。）
- 明度 4 > 5 > 1 > 2 > 3  
 粘性 1 > 2 > 3 > 4 > 5



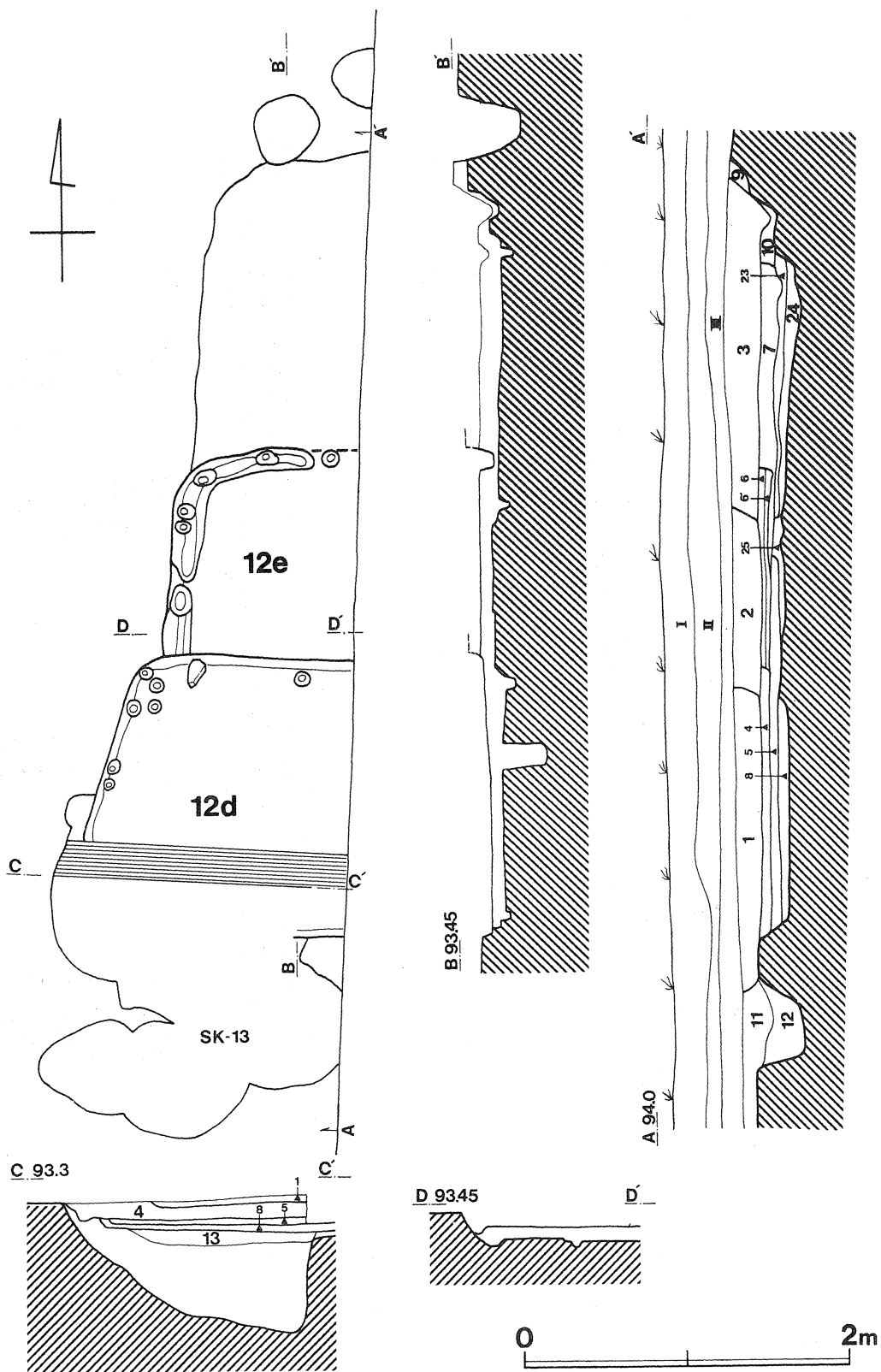
第280図 第11号住居址出土土器



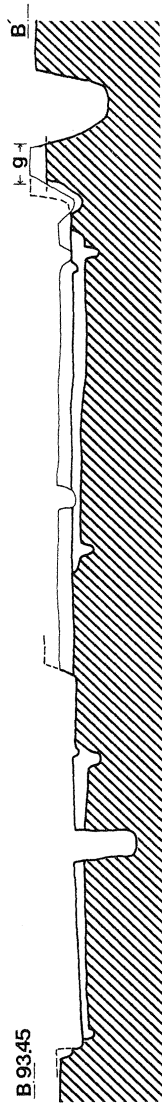
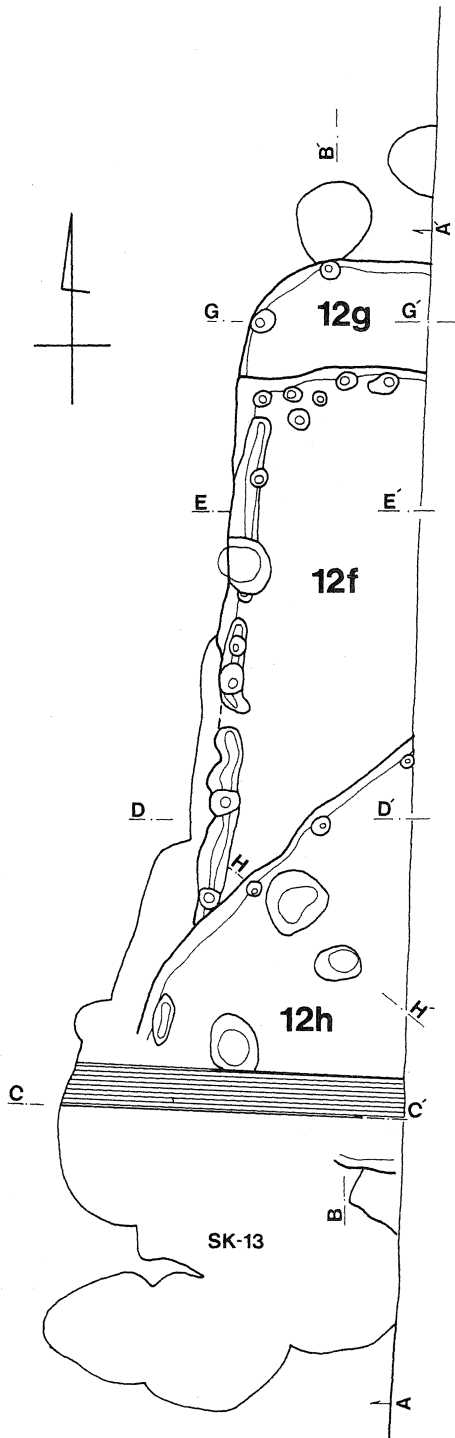
12c 住土層説明

第3層 黒褐色土層（炭化物、ロームブロック、ローム粒、焼土ブロック、焼土粒を含み、しまりは弱く、粒子も荒い。）

第281図 第12a・b・c住居址



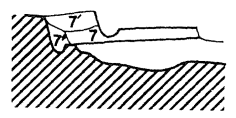
第282图 第12e·12d号住居址



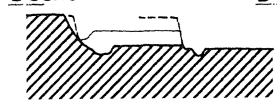
G 93.8 G'



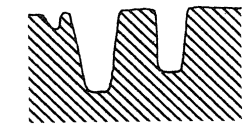
E 93.5 E'



D 93.45 D'



H 93.8 H'

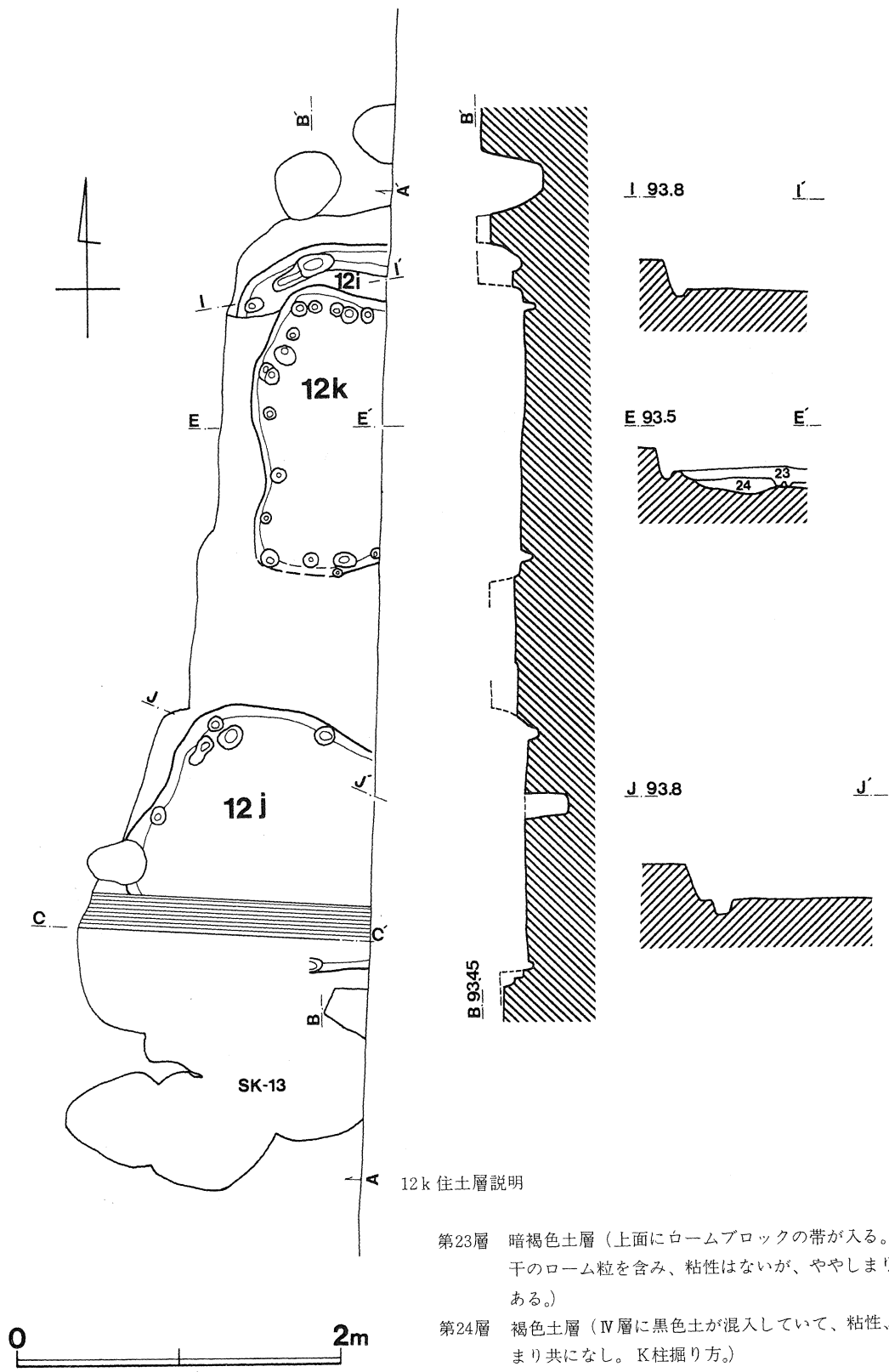


12 f 住土層説明

- 第7層 黒褐色土層（ロームブロックを多く含み、若干の焼土粒子も含む。粒子は細かくしまりはあるが、粘性はあまりない。）
- 第7'層 黒褐色土層（7層に準じるが、ローム粒を多く含む。）
- 第7''層 黒褐色土層（7層に準じるが、ロームブロックは含まない。ローム粒をやや含む。）

0 2m

第283図 第12 f・12 g・12 h号住居址



12k 住土層説明

第23層 暗褐色土層（上面にロームブロックの帯が入る。若干のローム粒を含み、粘性はないが、ややしまりがある。）

第24層 褐色土層（IV層に黒色土が混入していて、粘性、しまり共になし。K柱掘り方。）

第284図 第12 i ・ 12 j ・ 12 k 号住居址

12 a 住土層説明

第1層 黒褐色土層（粒子は荒く、ややしまりがある。ローム粒子、焼土粒子を含む。）

12 b 住土層説明

第2層 黒褐色土層（ローム粒子、焼土粒子を含み、粒子は荒い。ややしまりあり。）

12 d 住土層説明

第4層 暗褐色土層（粒子はふつう。粘性は8層より若干強いが、所々しまりのない所がある。）

12 e 住土層説明

第6層 黒褐色土層（少量のロームブロックを含み、粒子は荒く、粘性も弱い。）

第6'層 黒褐色土層（ロームブロックを7層より若干多く含み、粒子は荒いが、粘性は7層よりややある。）

12 g 住土層説明

第9層 茶褐色土層（微量の黄色粒子を含み、粒子は細かく、粘性、しまりは弱く、全体になめらか。）

12 h 住土層説明

第5層 暗褐色土層（ロームブロックを含む。粘性があり、しまりもある。良好な床面を含む）

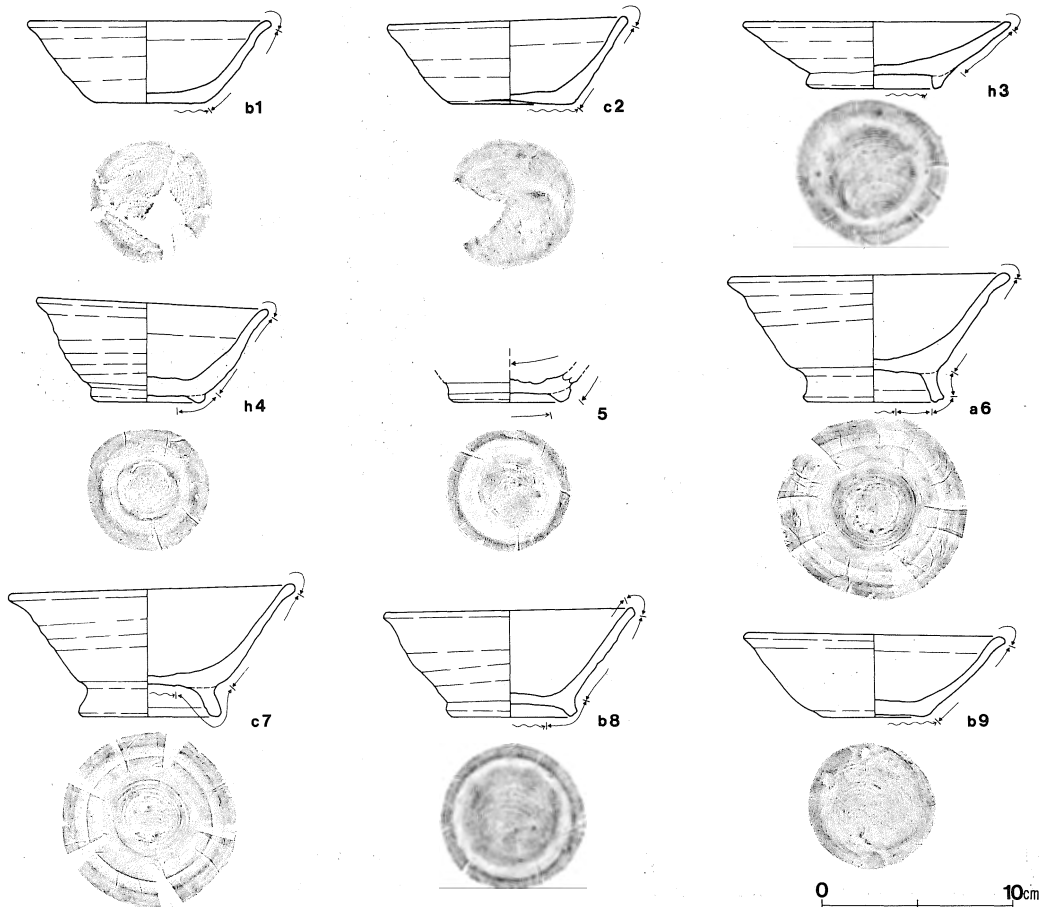
第25層 h 住掘り方（IV層に黒色土の混入したもの。）

12 i 住土層説明

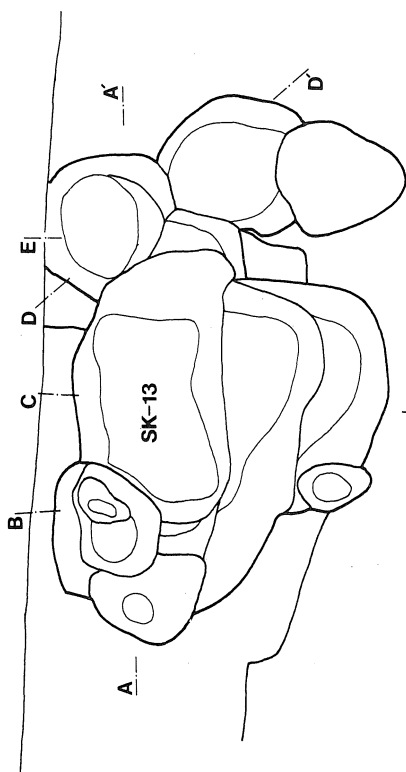
第10層 黒褐色土層（炭化物、ロームブロック、ローム粒を含む。粘性はなく、しまりは7層よりもない。）

12 j 住土層説明

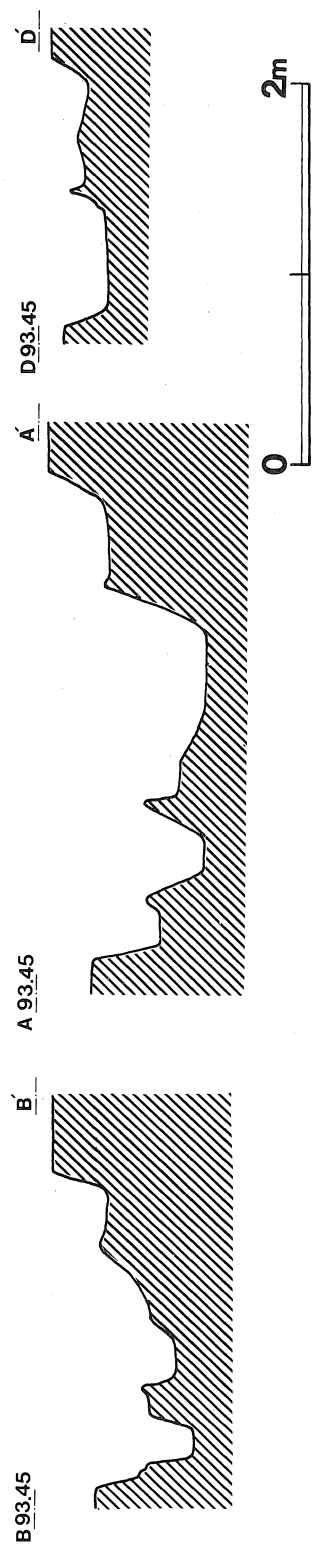
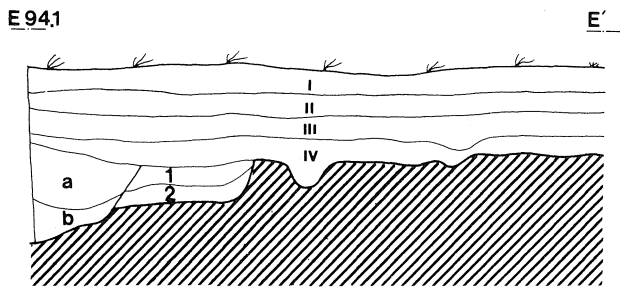
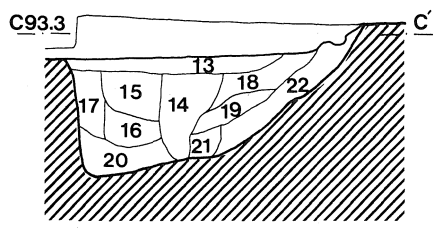
第8層 暗褐色土層（ロームブロックを多く含み、粒子は細かく、粘性は5層よりやや強い。）



第285図 第12号住居址出土土器



E'  
F-12



第286图 SK-13号址群

## S K-13群土層説明

- 第11層 暗茶褐色土層（ローム粒を多く含み粒子は荒い。粘性、しまりに弱い。）
- 第12層 ローム土層（暗褐色ブロックを多量に含む。）
- 第13層 黒褐色土層（7cm四方Ⅳ層のロームブロックを含む。）
- 第14層 黒色土層（他の土を含まない。）
- 第15層 暗褐色土層（全体的に、径2mm程のローム粒を含む。）
- 第16層 暗褐色土層（ローム粒をやや含む。）
- 第17層 暗褐色土層（黒色土ブロックと径7mmのロームブロックを含む。）
- 第18層 黒色土層（所々にブロック状のローム粒を含む。）
- 第19層 黒色土層（ロームブロックを多量に含む。）
- 第20層 （黒色土、暗褐色土、ロームブロックが混在。黒色土に上から暗褐色土、ロームブロックが流入した様を呈す。）
- 第21層 （暗褐色土層にロームブロック、黒色土ブロックを含む。）
- 第22層 （ロームを主体とし暗褐色土が混在する。）

## 14住土層説明

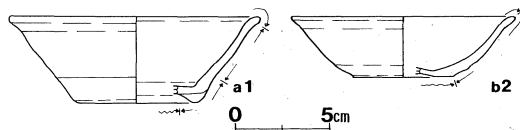
- 第1層 暗茶褐色土層（ソフトⅢを基本とするが、粘性が強い。白色テフラを少量含む。）
- 第2層 暗褐色土層（ソフトⅢを基本とする。硬質、緻密である。白色テフラを少量含む。）
- 第3層 暗褐色土層（ソフトⅢを基本とする。軟質。白色テフラを含む。）
- 第4層 暗茶褐色土層（ソフトⅢを基本とする。硬質、緻密である。白色テフラを含む。）

## 15 a 住土層説明

- 第1層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子と焼土粒子、炭化物を少量含む。粘性は弱く、しまりが無いが、全体的に緻密である。）
- 第2層 暗褐色土層（全体的に粒子が荒く、径2～3mmのローム粒子をまばらに含むが、1層より少ない。粗であるが、粘性はある。）
- 第3層 暗褐色土層（径3mm程のロームブロックをまばらに含み、粘性は弱い、全体的に緻密である。）

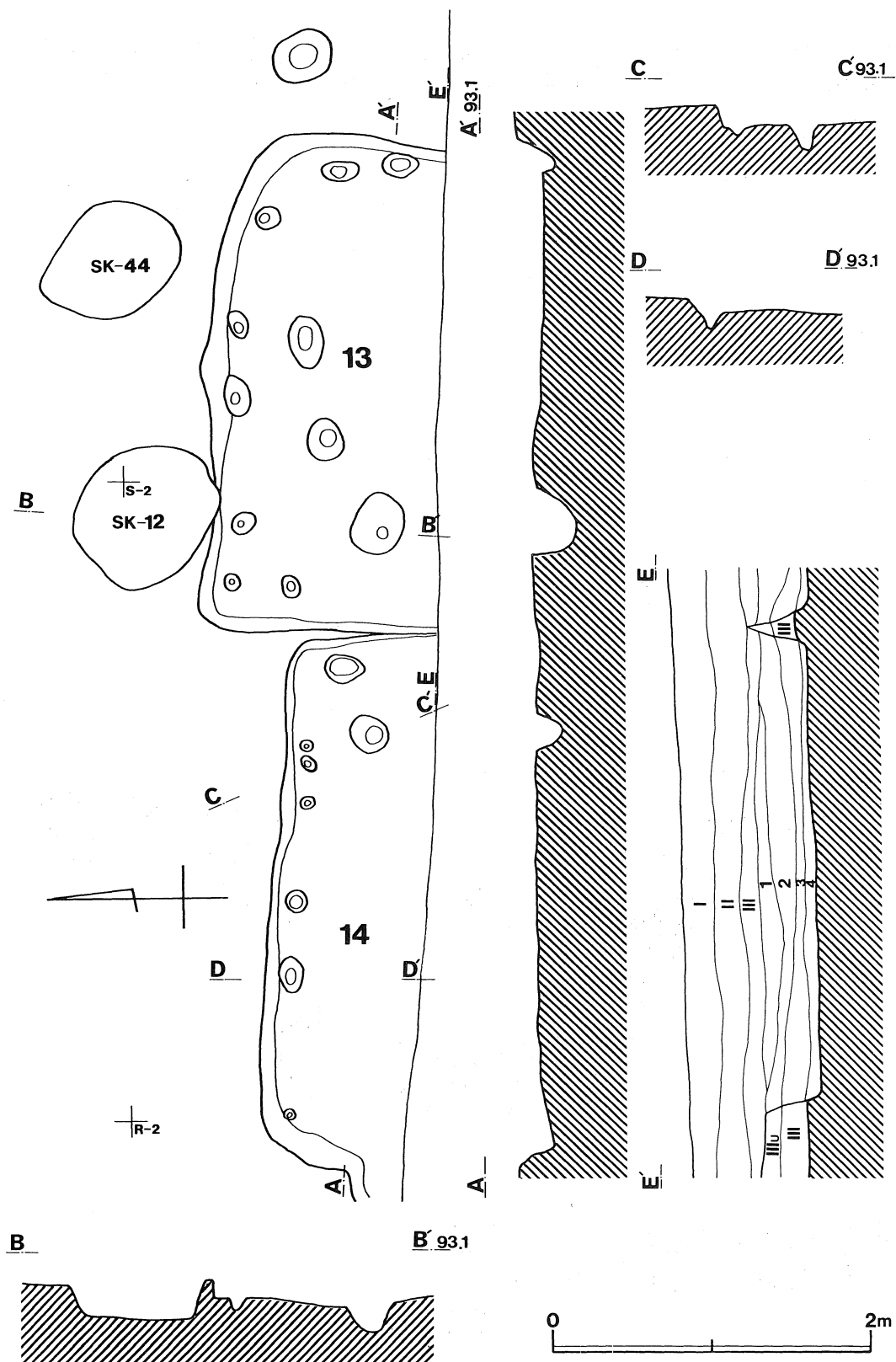
## 15 b 住土層説明

- 第4層 暗褐色土層（ロームブロックを含み、緻密である。）

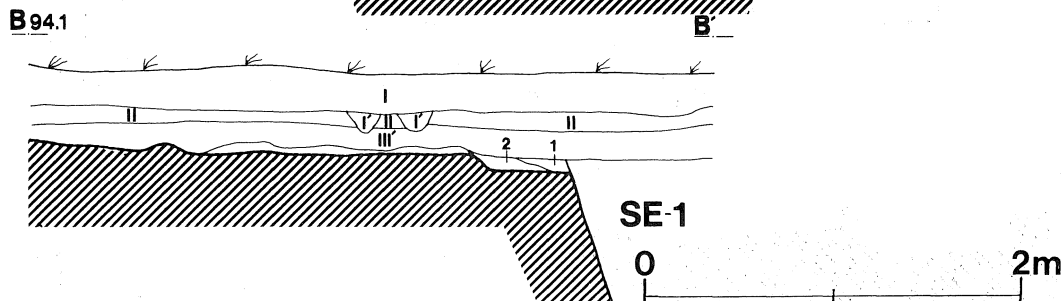
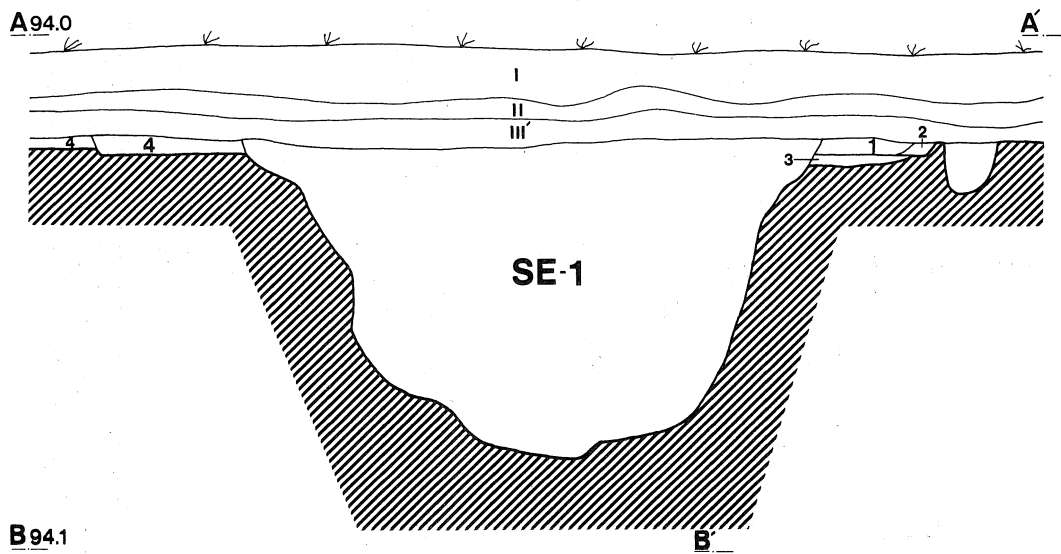
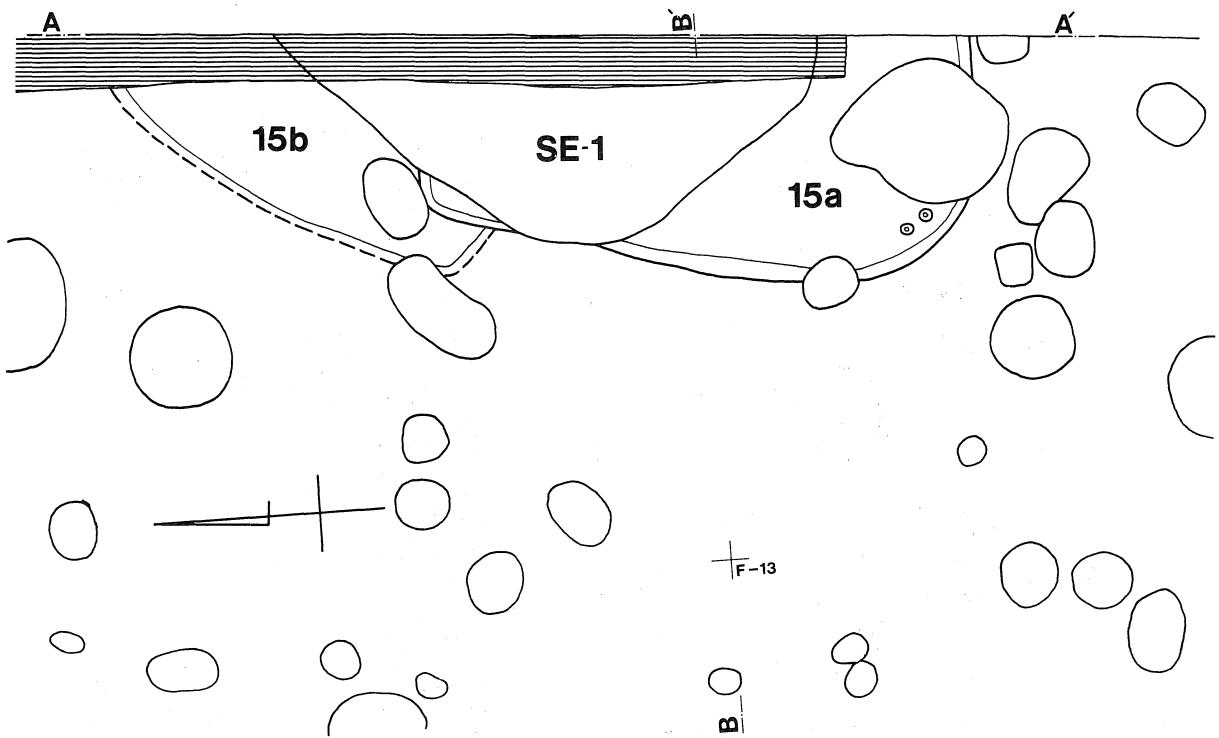


第287図 第15号住居址出土土器

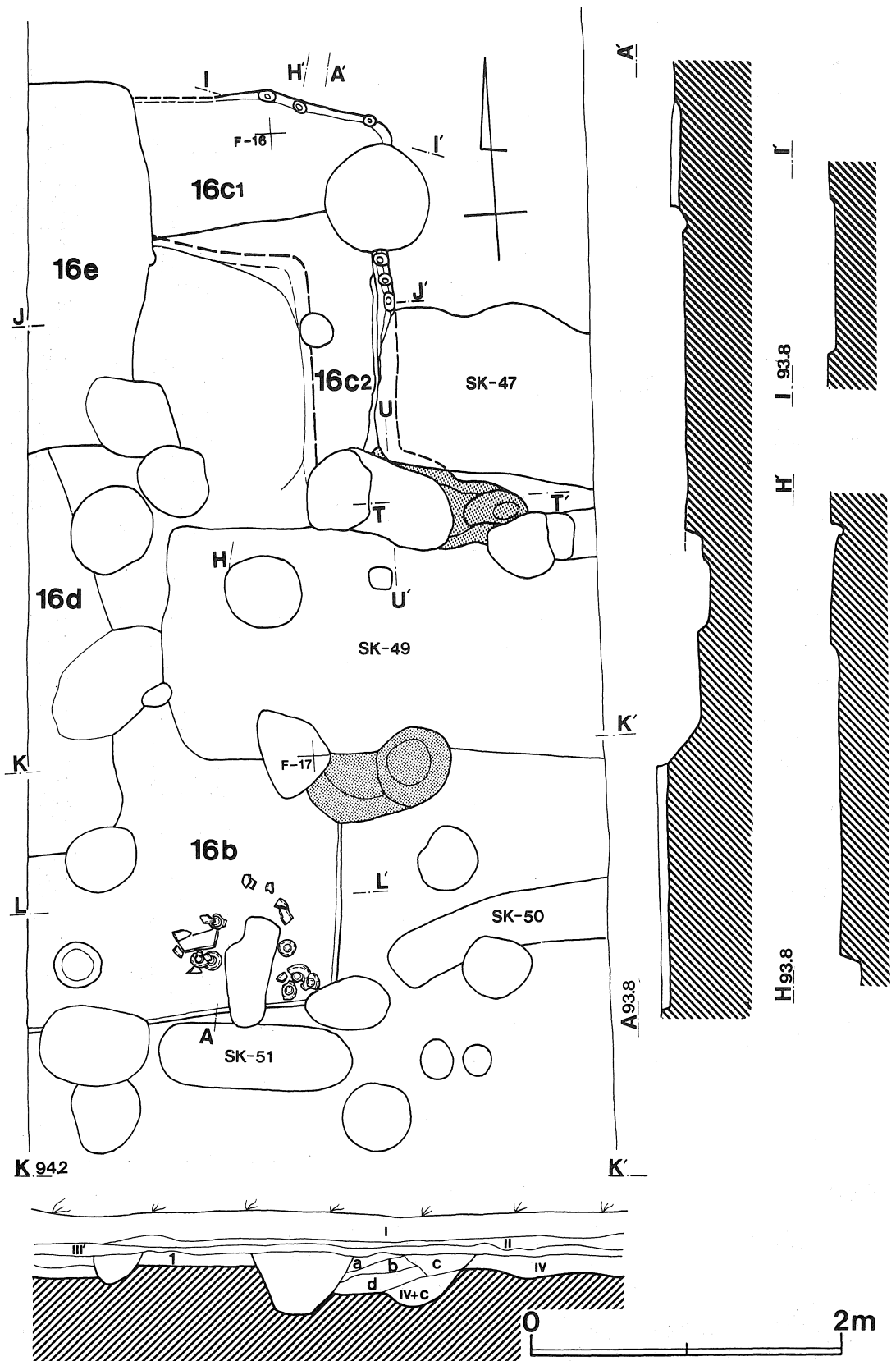




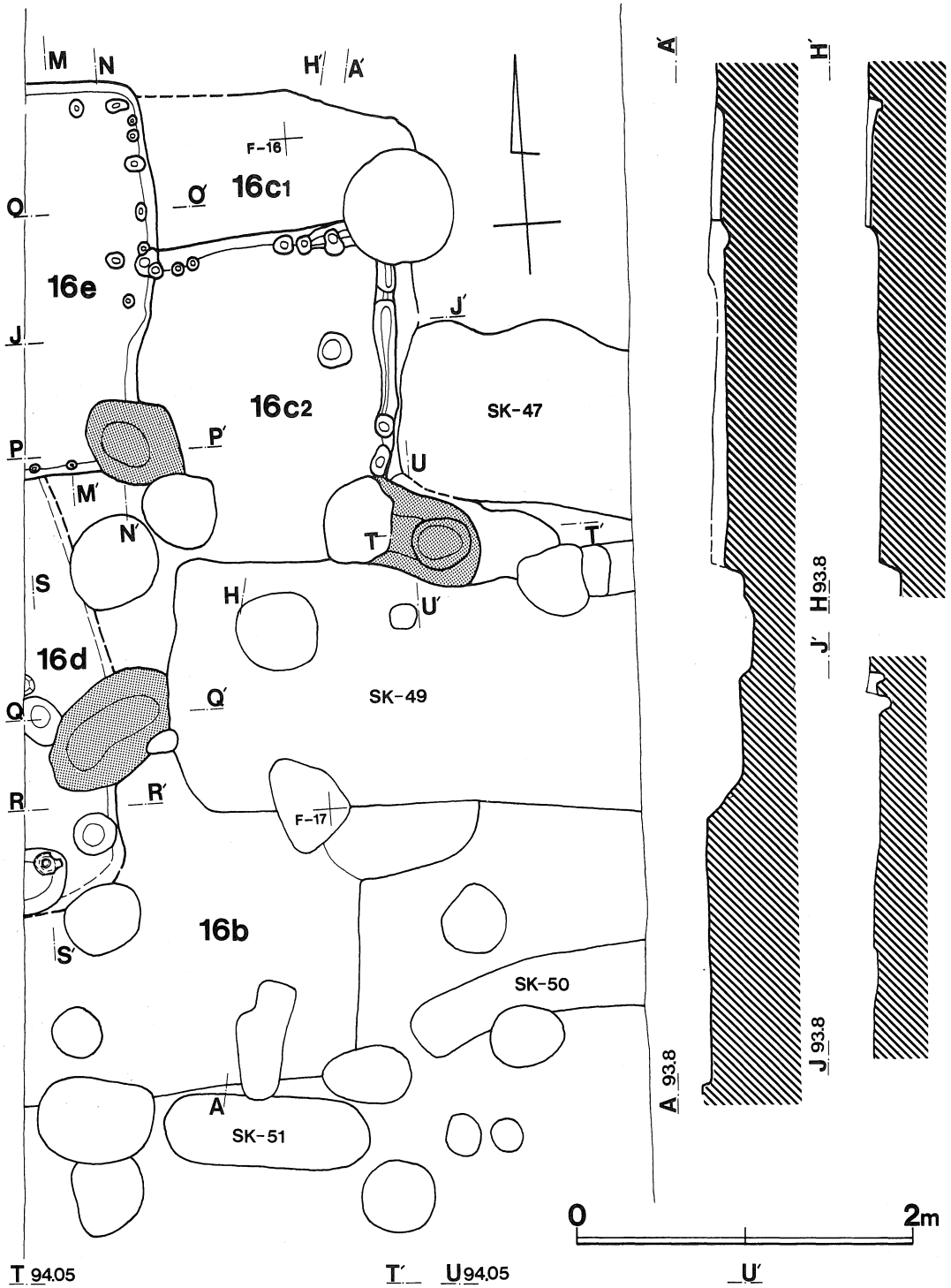
第288图 第13·14号住居址



第289图 第15a·15b号住居址

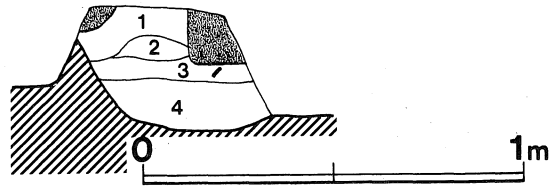
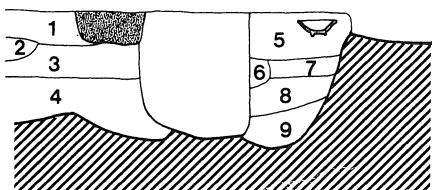


第290图 第16 c<sub>1</sub> · 16 b号住居址 · 第16 b号住居址

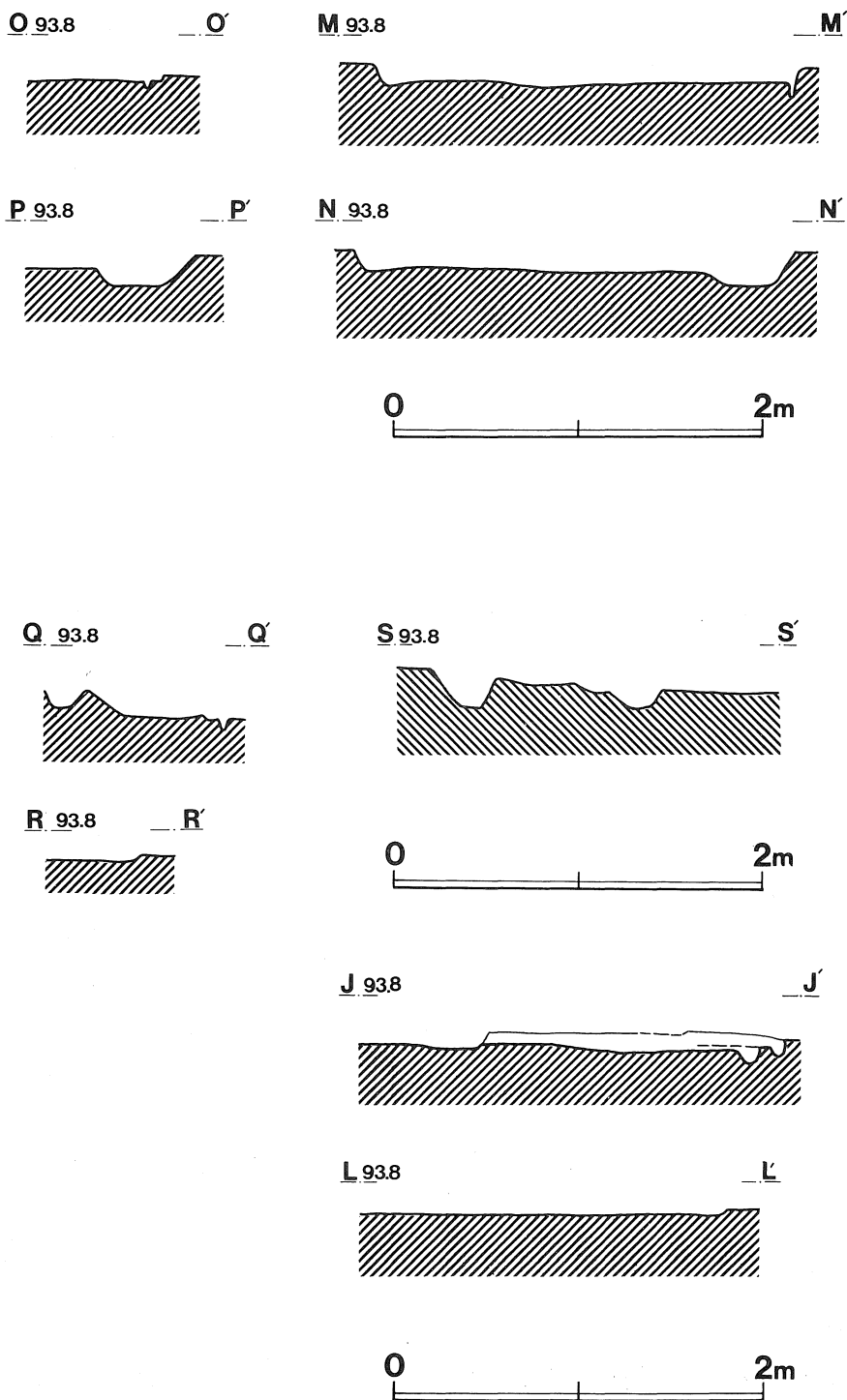


T 94.05

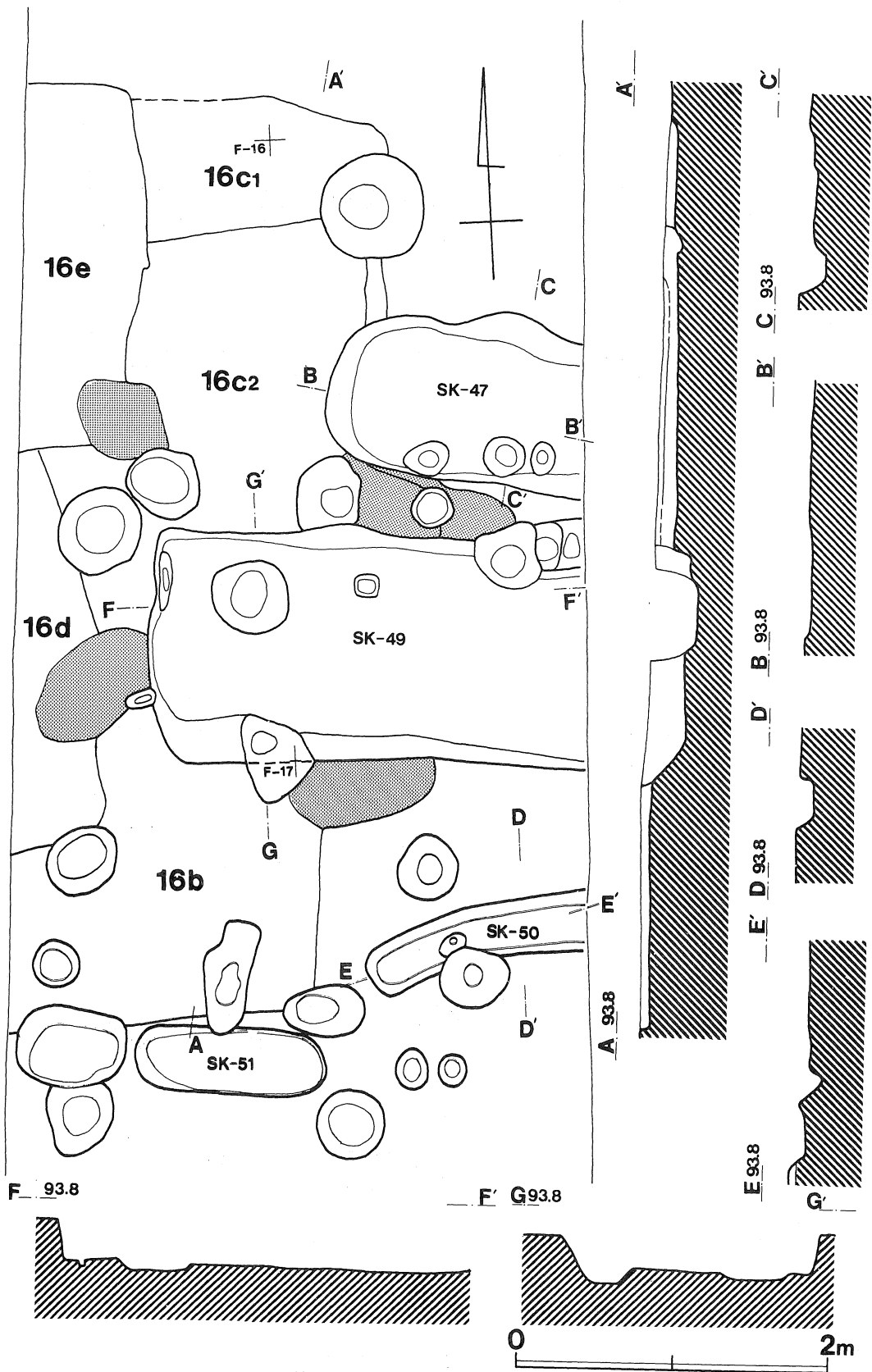
T U94.05



第291図 第16c2・16d・16e号住居址・第16c2号住居址カマド



第292图 第16号住居址断面



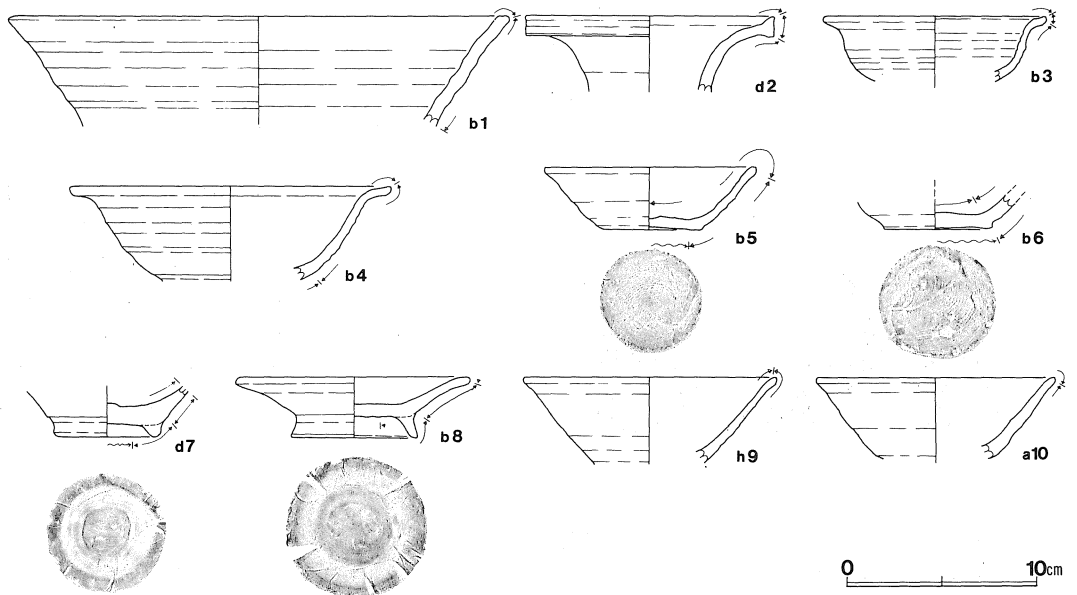
第293图 SK-47·49·50·51

16 c 2 住カマド土層説明

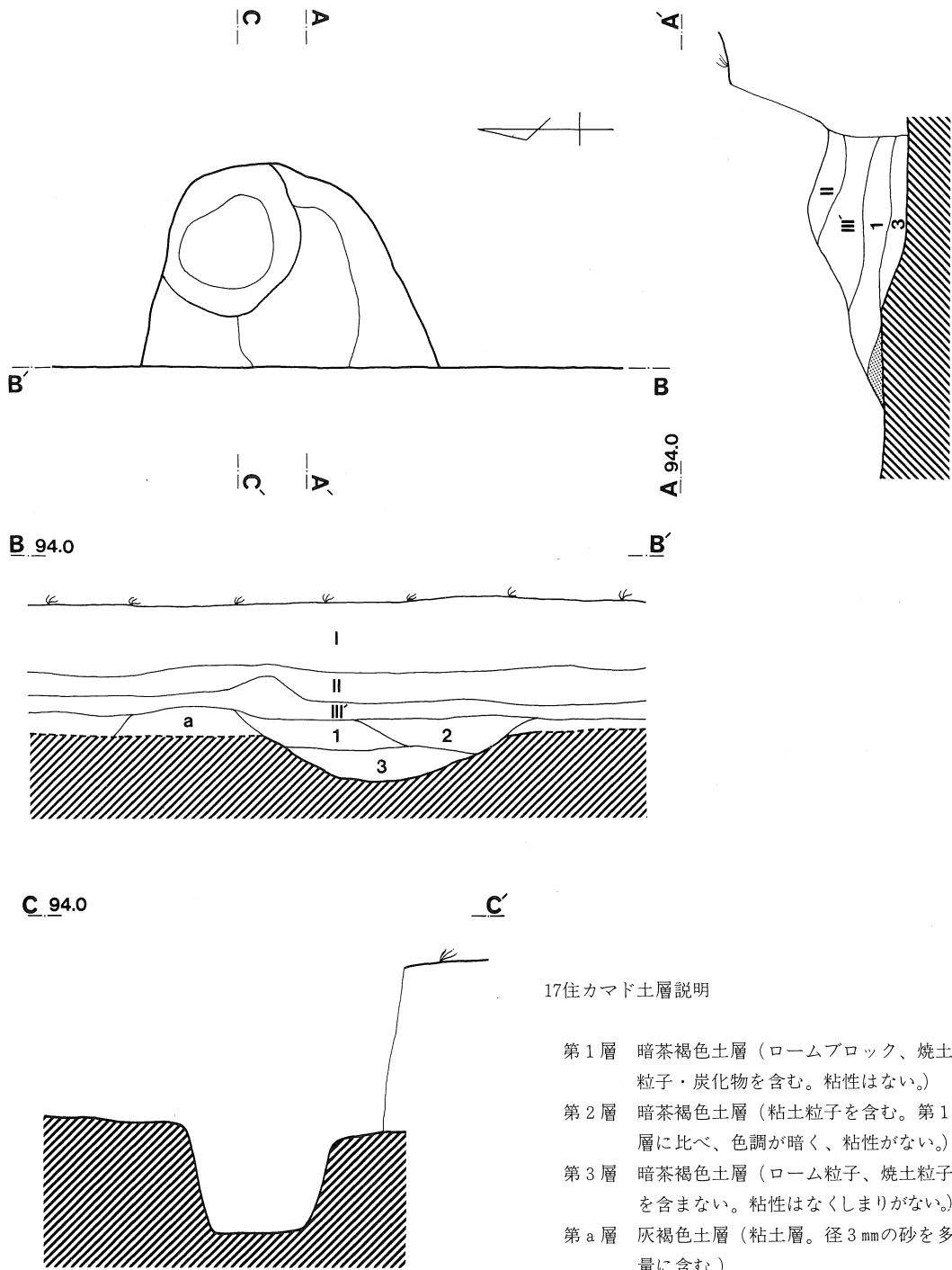
- 第1層 赤褐色土層（2～3mmの焼土粒を多量に、2mmの炭化物粒をまばらに、又、ロームブロックを若干含み、粘性はないが緻密である。）
- 第2層 黄赤褐色土層（2mm程の焼土粒と、1cm程の粘土ブロックを多量に含み、又、炭化物粒子も若干含む。粘性は弱く、緻密である。）
- 第3層 暗赤褐色土層（2mm大の焼土粒を全体に含むが量は2層より少ない。又、ローム粒を多量に含み、炭化物も若干含む。粘性は弱く、緻密である。）
- 第4層 暗黒褐色土層（ローム粒を多量に含み、焼土粒、炭化物粒、ロームブロックを若干含む。粘性は弱く、粗である。）
- 第5層 赤黒褐色土層（焼土粒、炭化物粒を多量に含み、粘性は弱いが緻密である。）
- 第6層 黄褐色土層（焼土ブロックを若干含み、炭化物粒を少量含む。粘性は弱く、粗であり、ローム粒も認められる。）
- 第7層 黄褐色土層（基本的に6層と同じだが、焼土が少ない。）
- 第8層 暗茶褐色土層（ローム粒子を全体的に含む。焼土、炭化物ともに少なく、粘性はなく粗である。）
- 第9層 黄褐色土層（ローム粒を多量に含むが、焼土、炭化物は少ない。粘性は弱く、粗である。）

16 b 住カマド土層説明

- 第Ⅲ層 暗褐色土層（Vを中心としたソフト化した土を基本に、微量の炭化物、焼土粒子を含む。比較的緻密である。）
  - 第1層 暗茶褐色土層（Ⅳソフトをベースに、多量の焼土・炭化物粒子を含み、やや粘質で硬く、緻密である。）
  - 第a層 暗茶褐色土層（粘土質土に少量の焼土粒子、微量の炭化物を含む。カマド天井部の崩壊土。）
  - 第b層 焼土層（多量の粘質土を含み、層全体が粘性に富み、不均質である。）
  - 第c層 黒茶褐色土層（多量の茶褐色粘土に、多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。）
  - 第d層 淡橙褐色土層（粘土が、弱い熱を受けたもの。炭化物は少ない。）
- 明度 a > b > 1 > c      粘性 a > b > c > 1

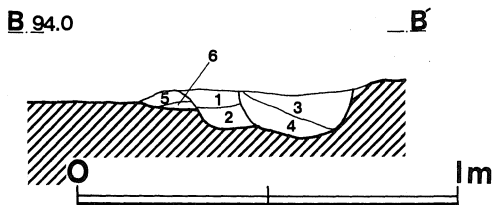
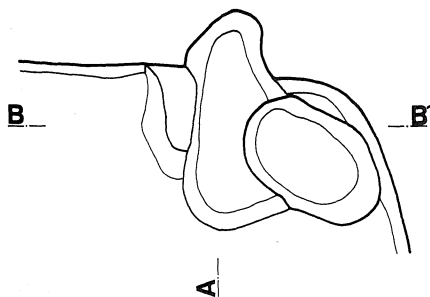
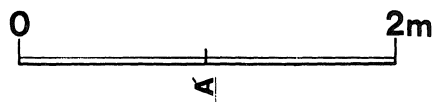
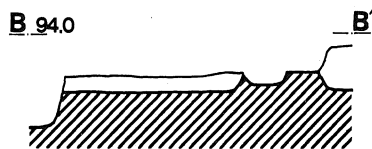
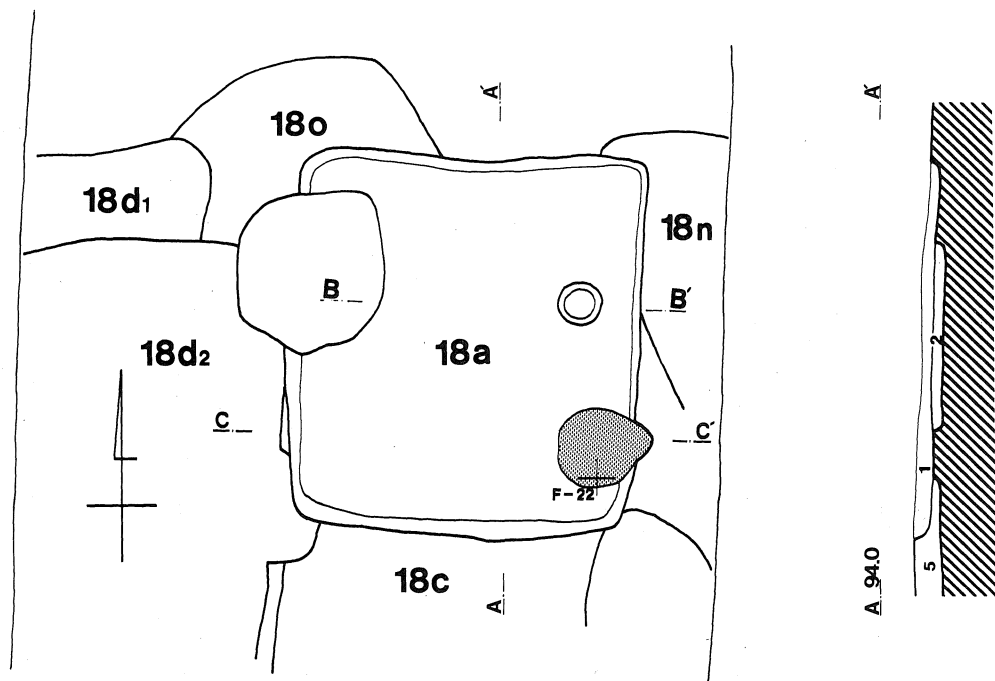


第294図 第16号住居址出土土器



第295図 第17号住居址カマド





18 a 住土層説明

第1層 暗茶褐色土層（多量の遺物と少量の焼土粒子を含み、粘性はなく、暗黒褐色の貼床を持つ。）

18 a 住カマド土層説明

第1層 暗褐色土層（焼土粒子、炭化物を含む。粘性はない。）

第2層 暗茶褐色土層（焼土ブロックを多量に含む。）

第3層 暗茶褐色土層（焼土粒子・炭化物を含む。粘性はなく、しまりもない。）

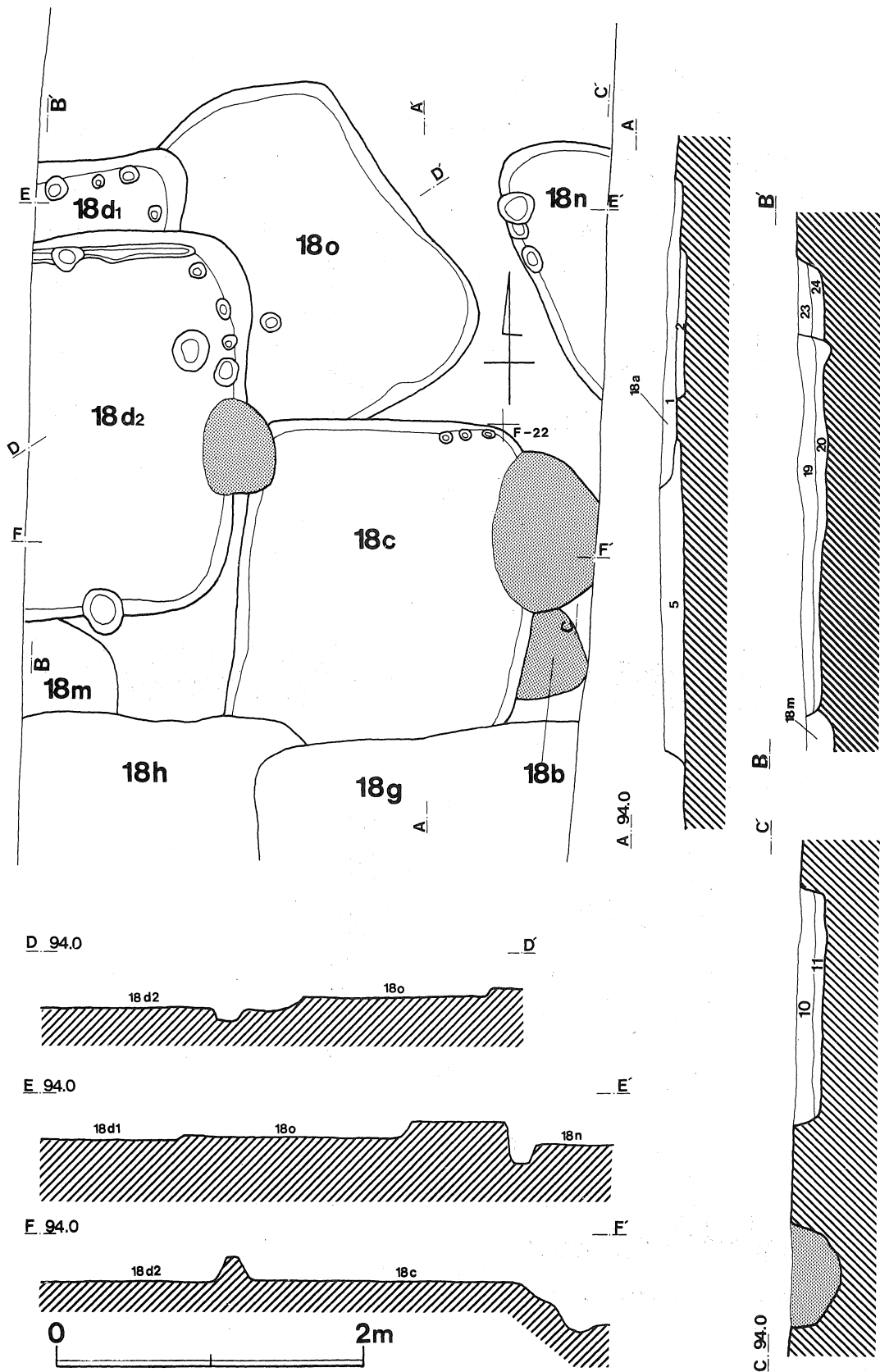
第4層 暗茶褐色土層（黒色硬化ブロックを含む。）

第5層 灰褐色土層（粘土・焼土を含む。しまりがあり均質。）

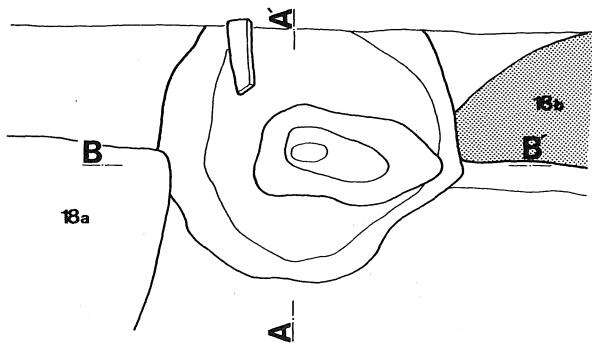
第6層 灰色土層（粘土層。粘性が非常にある。）

明度 3 > 4 > 2 > 1 > 5 > 6

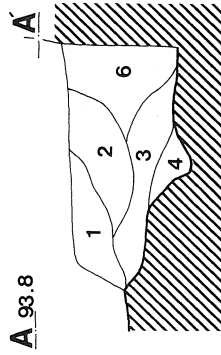
第296図 第18 a 号住居址・カマド



第297图 第18c·18d<sub>1</sub>·18d<sub>2</sub>·18n·18o号住居址



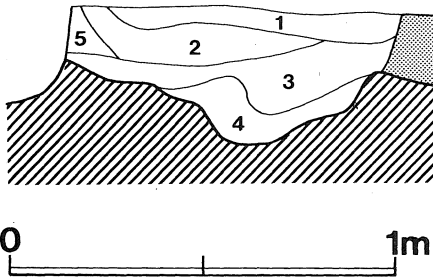
18a



A 93.8

B 93.8

B



0 1m

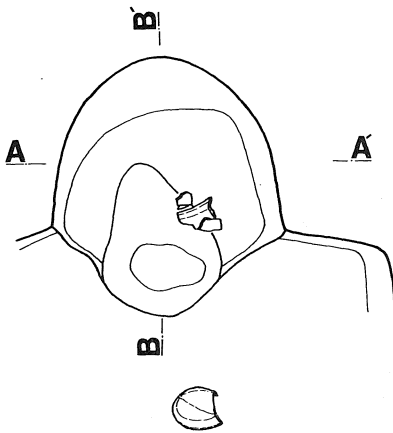
18c 住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（粘性はなく、焼土粒子をまばらに含む。）
- 第2層 灰褐色土層（粘土が大半を占めており、所々に焼土ブロックが点在している。粘性は強く、このカマドの天井部と思われる。）
- 第3層 黒褐色土層（粘性のない黒色土によって大半が占められている。焼土粒子、ローム粒子が点在している。）

第4層 黄褐色土層（ローム塊がほとんどを占め、粘性はないが、硬くしまっている。）

第5層 明茶褐色土層（焼土粒をまばらに含み、粘性は弱い。2層に近づくに従って、粘土の影響を多少受けている。）

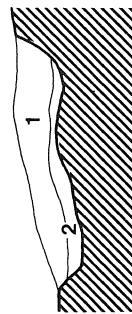
第6層 暗茶褐色土層（3～5cm程の焼土粒を多量に含み、炭化物粒子もまばらに含んでいる。粘性は普通である。）



A 94.0

A

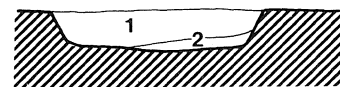
B 94.0



18b 住カマド土層説明

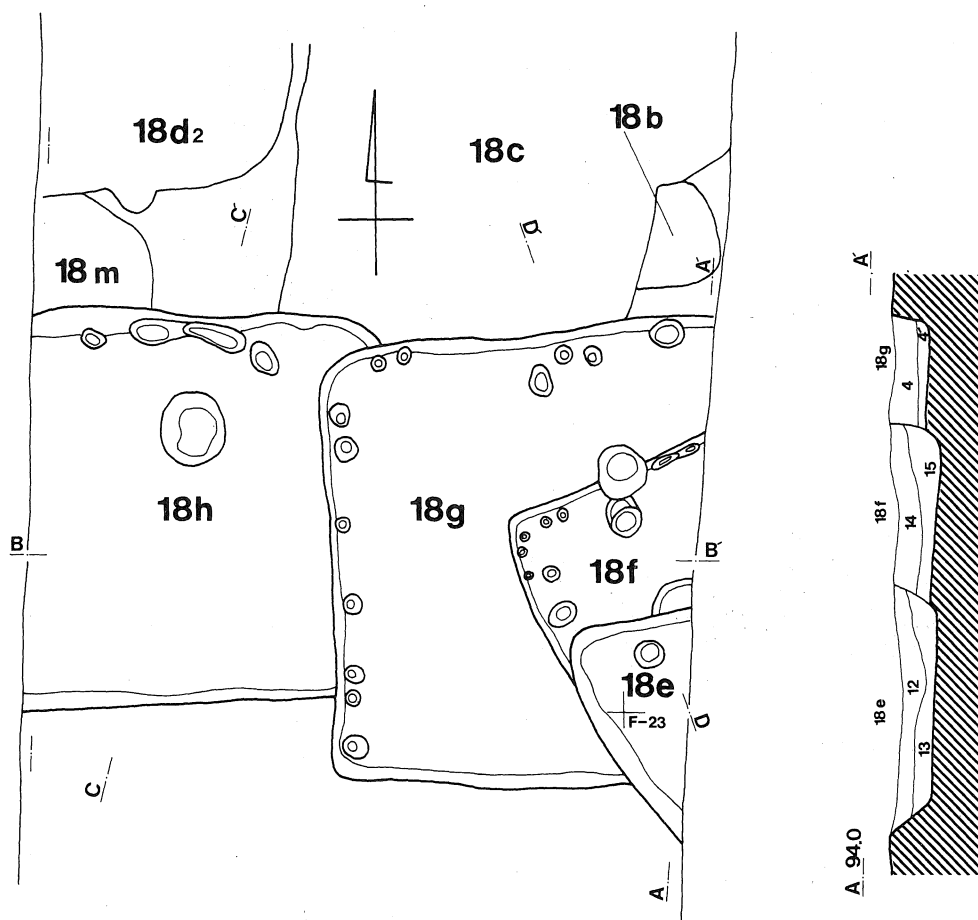
- 第1層 茶褐色土層（黒色粒子をまばらに含み、粘性はない。）
- 第2層 黒褐色土層（焼土、黒色粒子を多く含み、粘性もある。）

明度 1 > 2      粘性 2 > 1

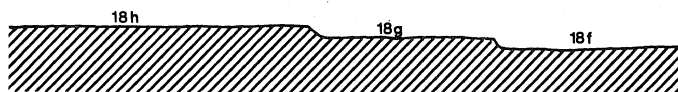


0 1m

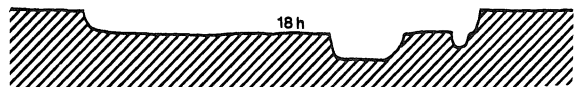
第298図 第18c(上)・18b(下)号住居址カマド



B 94.0



C 94.0



D 94.0



0 2m

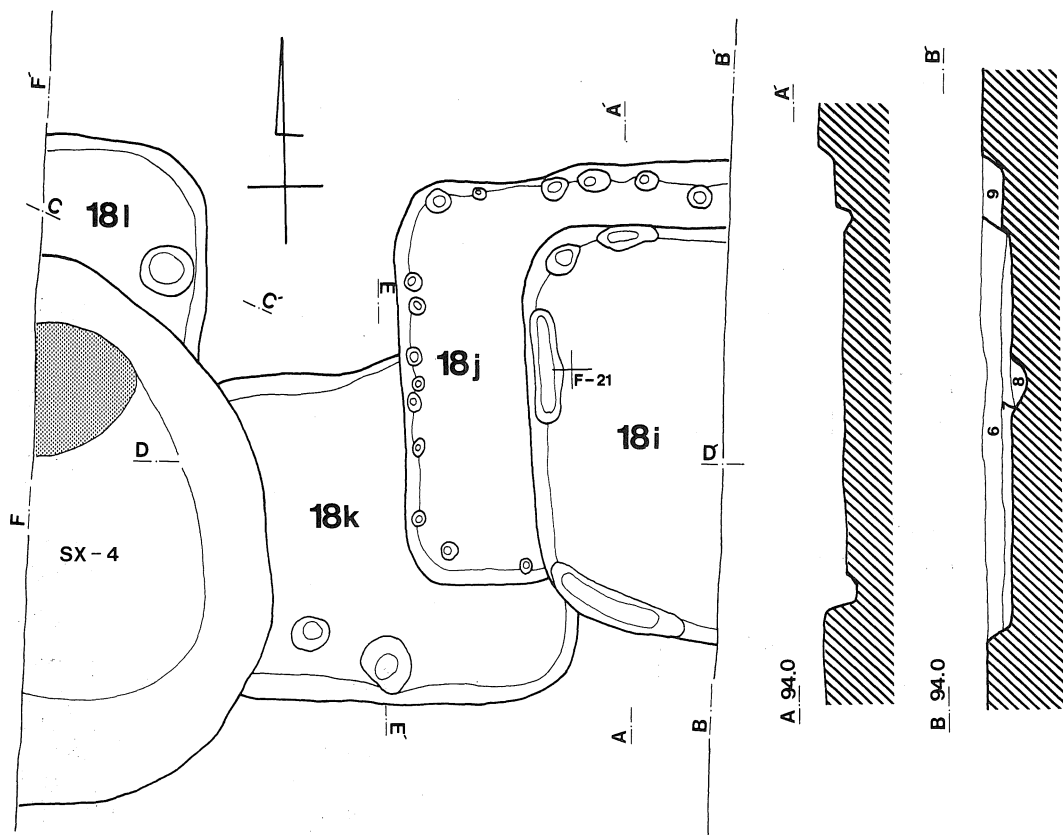
18 e 住土層説明

- 第12層 黒褐色土層（第10層に比べ、色調が暗い。粘性はない。）
- 第13層 暗茶褐色土層（11層と類似。焼土粒子を含む。）

18 f 住土層説明

- 第14層 黒褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性は強い。）
- 第15層 黒褐色土層（小型の地山ブロックを含み、14層より明るい。粘性はない。）

第299図 第18 e・18 f・18 g・18 h 号住居址

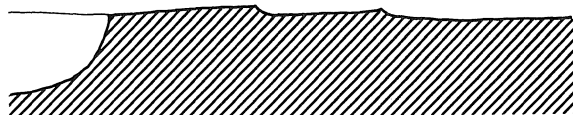


C 94.0

C

D 94.0

D



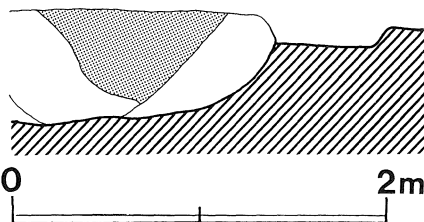
E 94.0

E



F 94.0

F



0

2m

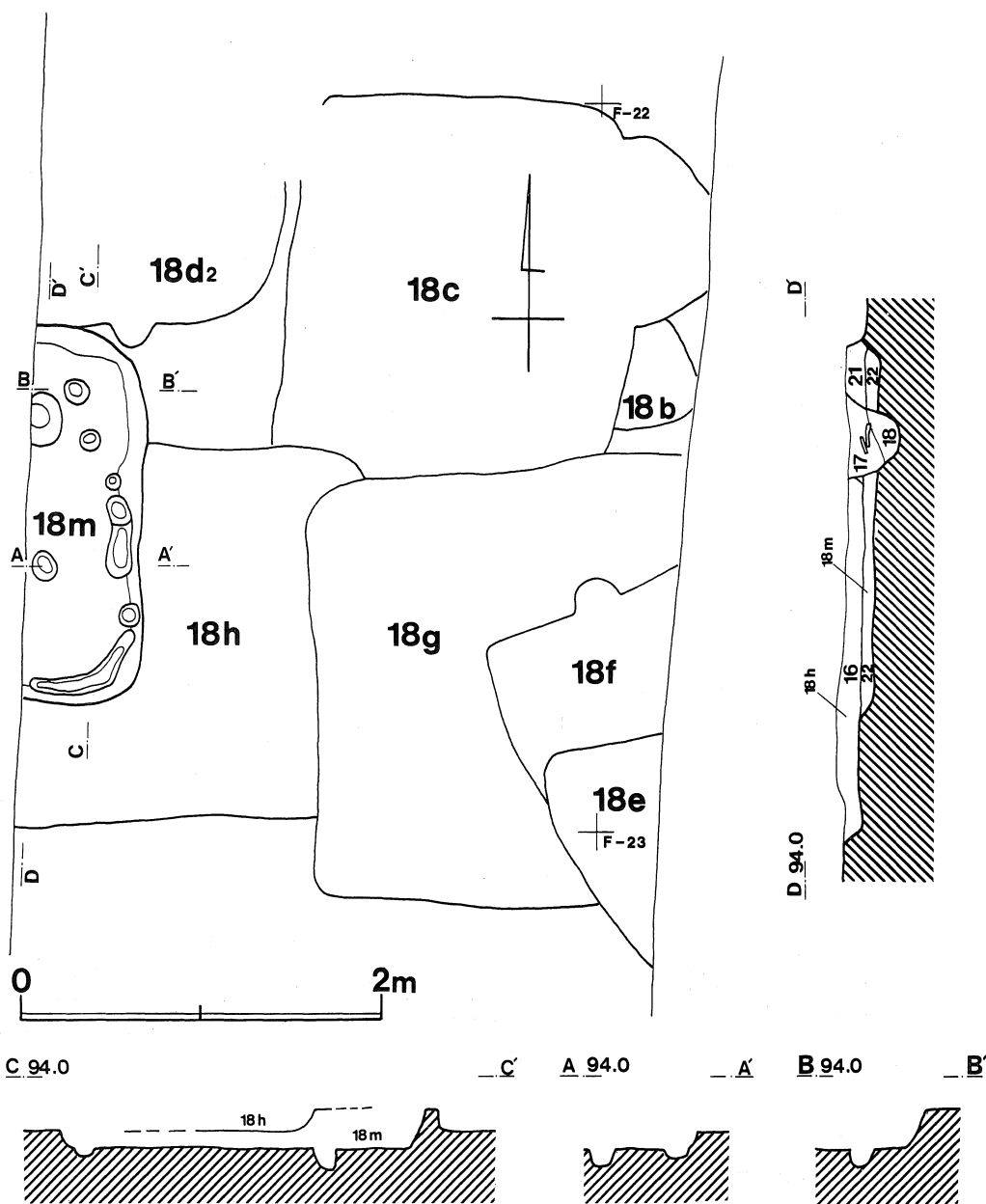
18 i 住土層説明

- 第6層 暗茶褐色土層（径1～2mm程のローム粒を多量に、焼土粒を微量含み、粘性は普通で暗い色を呈す。）
- 第7層 暗茶褐色土層（大型のロームブロックを含み、粘性は6層より弱く、色調は明るい。）
- 第8層 暗黄褐色土層（ロームブロックを主体とし炭化物も含む。粘性はない。）

18 j 住土層説明

- 第9層 暗茶褐色土層（各種粒子を含まず、6、7層よりも暗い。又、粘性は、普通であるが6層よりも弱い。）

第300図 第18 i ・ 18 j ・ 18 k ・ 18 l 号住居址



第301図 第18m号住居址

18 h 住土層説明

第16層 黒褐色土層（12層と類似。粘性しまりともなく、下部に13層類似の層が、点在している。）

18 h 住内ピット土層説明

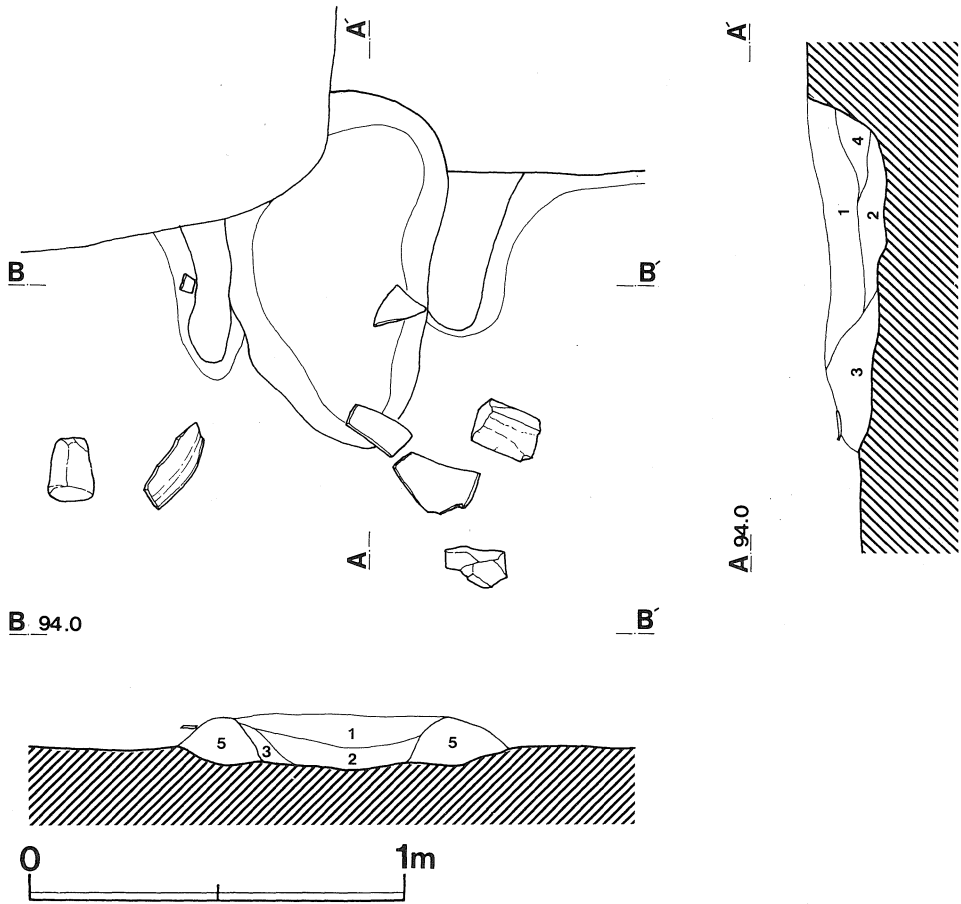
第17層 暗茶褐色土層（焼土粒子、遺物を含む。）

第18層 暗茶褐色土層（ロームブロック、炭化物を含み、粘性はない。）

18 m 住土層説明

第21層 暗茶褐色土層（焼土粒子を含み比較的均質である。粘性は強く19層より暗い。）

第22層 暗茶褐色土層（多量のロームブロックを含み、粘性はなく21層よりも暗い。）



第302図 第18d<sub>2</sub>号住居址カマド

18d<sub>1</sub> 住土層説明

- 第23層 茶褐色土層（大型の焼土粒子が点在し、均質である。粘性は強い。）
- 第24層 茶褐色土層（ロームブロック、焼土粒子を含み、粘性は強く、23層より明るい。）

18d<sub>2</sub> 住土層説明

- 第19層 暗茶褐色土層（多量の焼土粒子と遺物を含み、粘性が強く、比較的明るい。）
- 第20層 暗茶褐色土層（比較的大型の遺物と焼土粒子を含み、粘性はなく、19層よりも暗い。）

18d<sub>2</sub> 住カマド土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（黒褐色に近く、焼土粒子が多く見られる。又、粘土ブロックも含む。）
- 第2層 暗茶褐色土層（1層と色調は類似するが、焼土粒は小型で少なくなる。粘性もやや弱い。）
- 第3層 黒褐色土層（18d 住の覆土に類似するが、粘性はなく、小型の焼土粒子、炭化物を含む。）
- 第4層 黒褐色土層（3層より粘性が強く、粒子をあまり含まず、均質な土層である。）
- 第5層 黄褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はない。）

明度 4 > 3 > 2 ≧ 1

粘性 4 > 1 > 2 > 3

18c 住土層説明

第5層 暗茶褐色土層（2層より大型の炭化物を含み、焼土粒子、ロームブロックも含む。粘性は比較的強い。）

18g 住土層説明

第4層 暗茶褐色土層（ロームブロックを多く含む。）

第4層 黒褐色土層（微量の焼土粒、及びロームブロックを含み、粘性がない。）

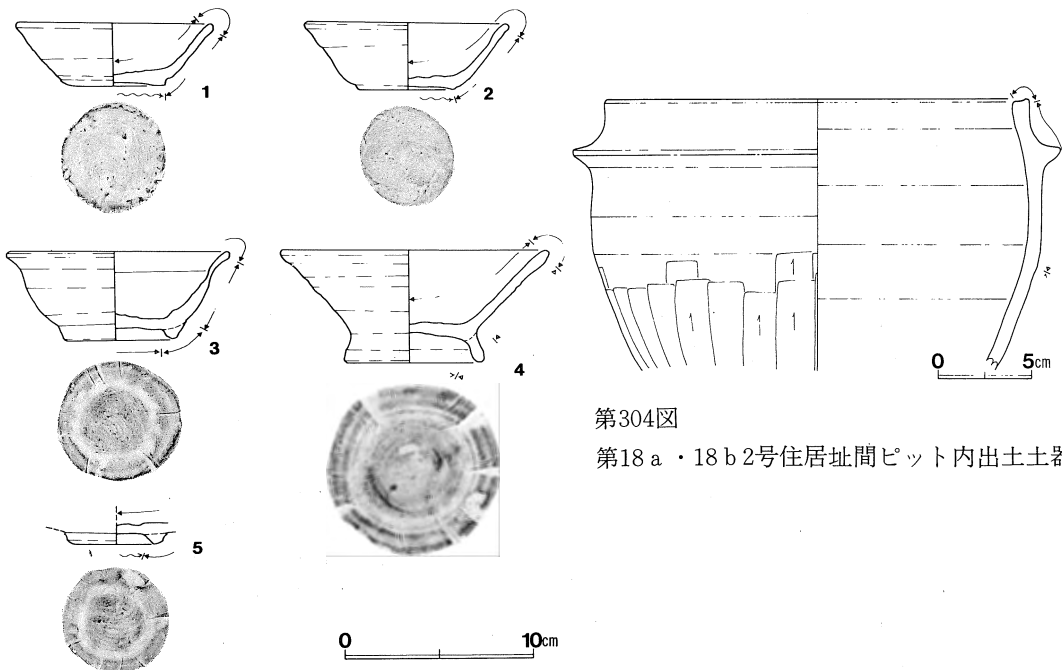
18n 住土層説明

第10層 黒褐色土層（多量の焼土、炭化粒を含み、径1～4mm程のロームブロックが点在する。粘性は比較的強い。）

第11層 暗茶褐色土層（大型のロームブロックを含み、粘性は弱く、暗い色調である。）

18o 住土層説明

第2層 暗茶褐色土層（径6mm程の炭化物、焼土粒子を多く含み、地山を床とする。1層より粘性がない。）

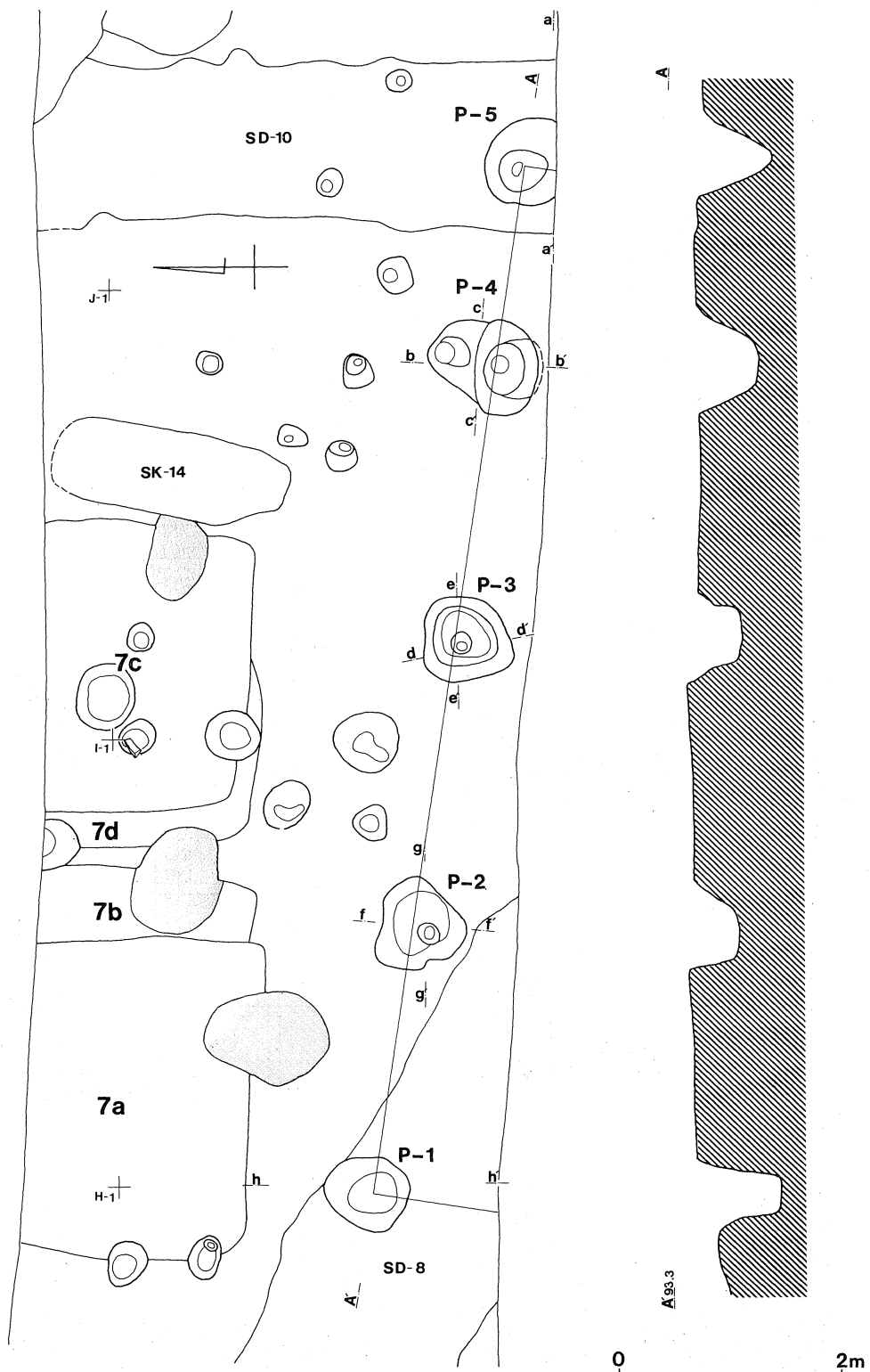


第303図 第18号住居址出土土器

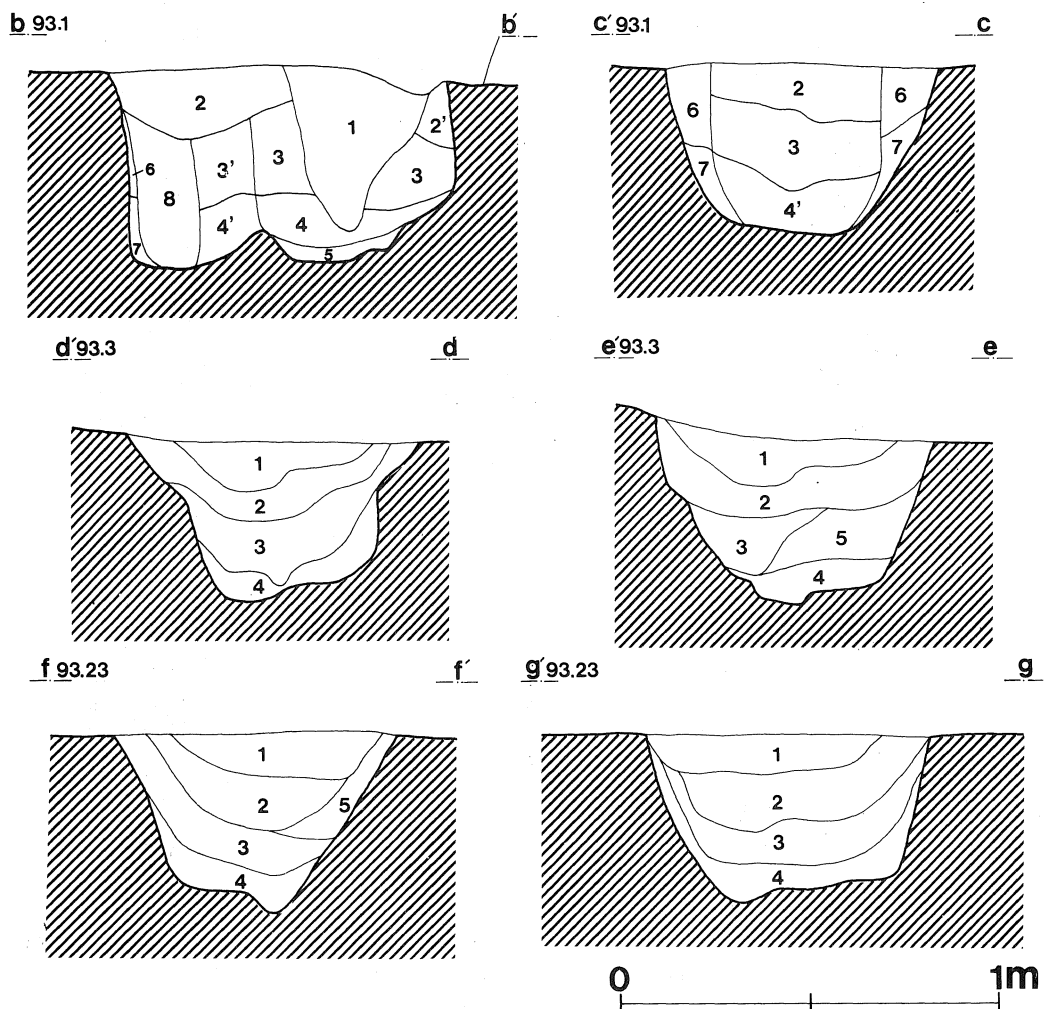
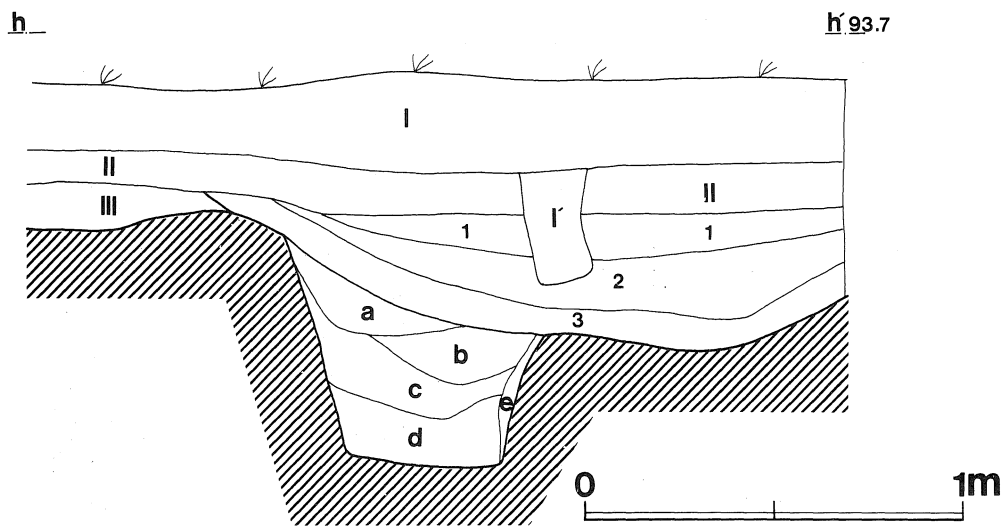
第304図

第18a・18b2号住居址間ピット内出土土器

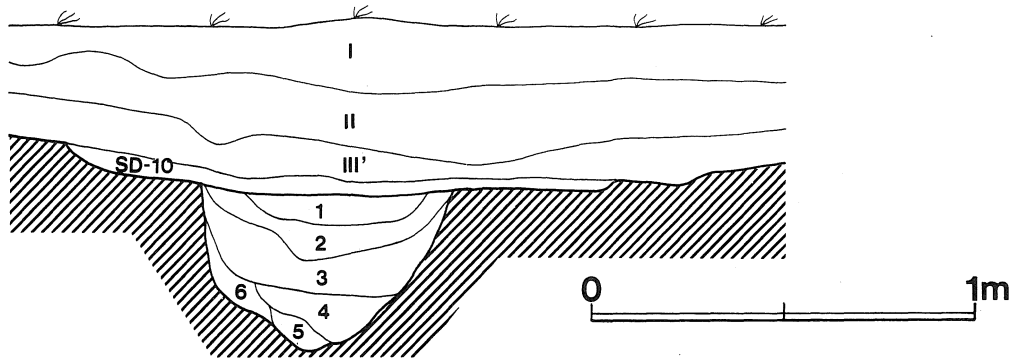




第305图 SB-1 (第1号建物址)



第306图 SB-1 柱穴土层断面(1)



第307図 S B-1 柱穴土層断面(2)

## S B-1 P-1 土層説明

- 第 a 層 暗褐色土層 (多量のローム粒子、ロームブロック、黒色ブロックを含み軟い。)
- 第 b 層 暗褐色土層 (a に比べローム粒子が少なく軟かい。)
- 第 c 層 暗茶褐色土層 (1~2cm のローム粒子を多く含みⅣを多く含む。)
- 第 d 層 暗茶褐色土層 (1~2cm のハードロームブロックを多量に含み硬くしまっている。)
- 第 e 層 褐色土層 (d に類似しているが、その構成はⅣを主体としている。)

## S B-1 P-2 土層説明

- 第 1 層 暗褐色土層 (ローム粒、ブロックを少量含み、粘性が弱くバサバサしている。)
- 第 2 層 暗褐色土層 (1層よりローム粒子を多く含み、若干しまりがある。)
- 第 3 層 暗褐色土層 (1~3cm 位のロームブロックを多量に含み、粘性があり緻密である。)
- 第 4 層 暗褐色土層 (1~4層より、粘性があり緻密で、1mm 弱のローム粒を少量含む。)
- 第 5 層 暗褐色土層 (2層より粘性があり緻密で1cm 弱のロームブロックを少量含む。)

## S B-1 P-3 土層説明

- 第 1 層 暗褐色土層 (ローム粒、ブロック、黒色ブロックを少量含み、粗で、バサバサしている。)
- 第 2 層 暗褐色土層 (1層と基本的に類似するが、ロームブロックが多くなり、黒色ブロックはなくなる。)
- 第 3 層 暗褐色土層 (3cm 程のロームブロックが多量に混入し、1、2層と比べ、極端に粗である。)
- 第 4 層 暗褐色土層 (2層と同様の粘性と密度を持ち、5~10mm 程のローム粒を多く含む。)
- 第 5 層 暗褐色土層 (3層と同様の粘性と密度を持つが、5~15mm 程のローム粒を含む。)

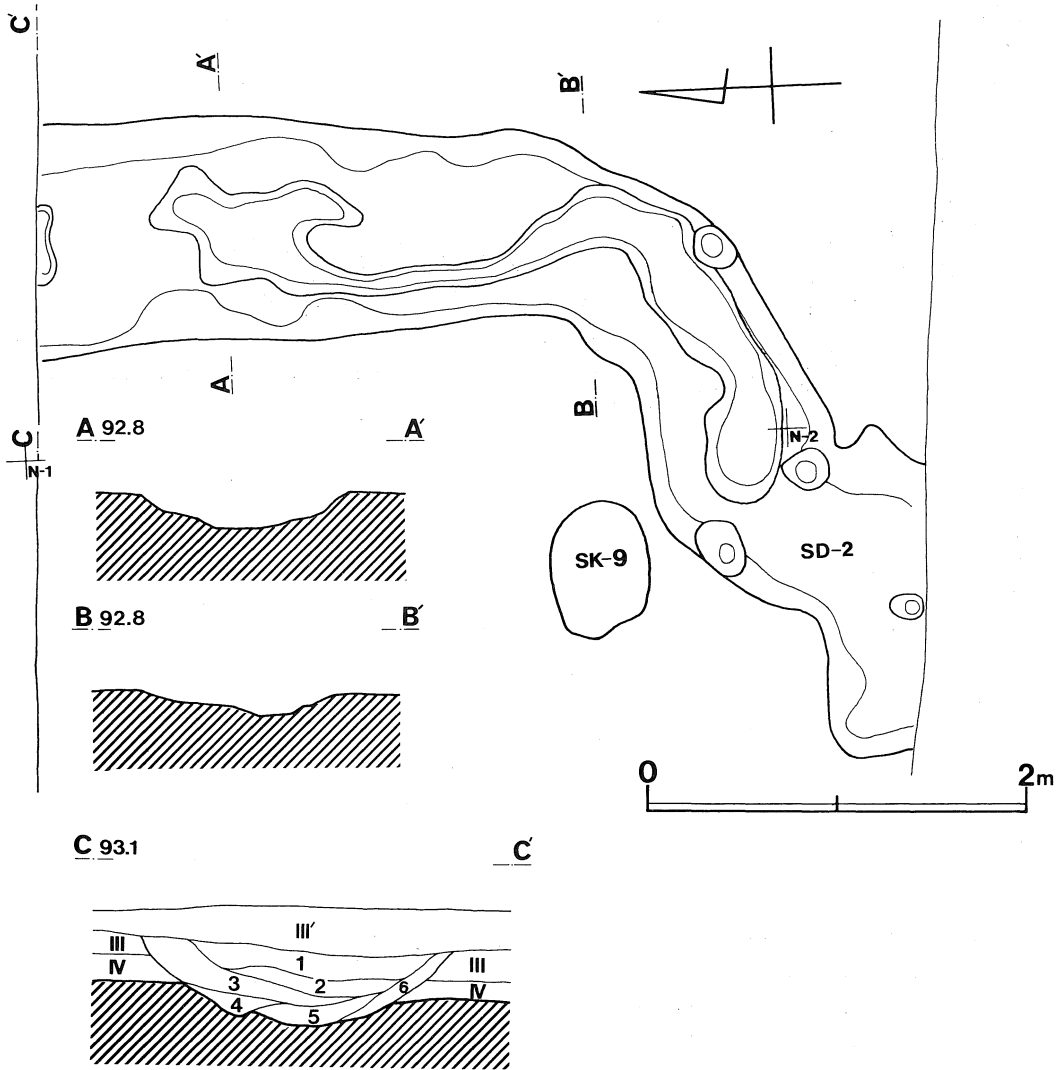
## S B-1 P-4 土層説明

- 第 1 層 暗褐色土層 (軟かく、微量のローム粒子を含む。やや、不均質。「新」の柱痕。)
- 第 2 層 暗褐色土層 (多量のロームブロックを含み、しまっている。不均質。埋土。)
- 第 3 層 黒褐色土層 (少量のロームブロックを含み、2層より軟質、不均質である。)
- 第 4 層 暗茶褐色土層 (ローム粒子を含み軟質である。Ⅳソフトに近い。)
- 第 5 層 暗褐色土層 (多量のロームブロックを4層に含むもの。不均質である。)
- 第 6 層 暗茶褐色土層 (Ⅳソフトに近くしまっている。「旧」柱穴の埋土。)
- 第 7 層 暗橙褐色土層 (Ⅵに近いが、色調は赤く、黒色土を多く含む。)
- 第 8 層 黒褐色土層 (少量のローム粒子を含み、軟かい。2番目の柱痕。)

## S B-1 P-5 土層説明

- 第 1 層 暗茶褐色土層 (Ⅲに少量のⅣソフトを含む。砂質で軟質、不均質である。)
- 第 2 層 黒褐色土層 (Ⅲ・Ⅳのソフト化したものが混じっている。少量の焼土粒とⅣブロックを含む。)
- 第 3 層 暗茶褐色土層 (Ⅲ・Ⅳのソフト化したものが混じっているが、Ⅳが多く、Ⅳブロックも含む。)
- 第 4 層 黒茶褐色土層 (Ⅲ・Ⅳのソフト化したものが混じっているが、Ⅲが多く、均質、緻密である。)
- 第 5 層 黒茶褐色土層 (4層よりⅢがさらに多く均質で堅緻である。)
- 第 6 層 暗茶褐色土層 (ⅢブロックとⅣブロックが混合し、堅緻である。)

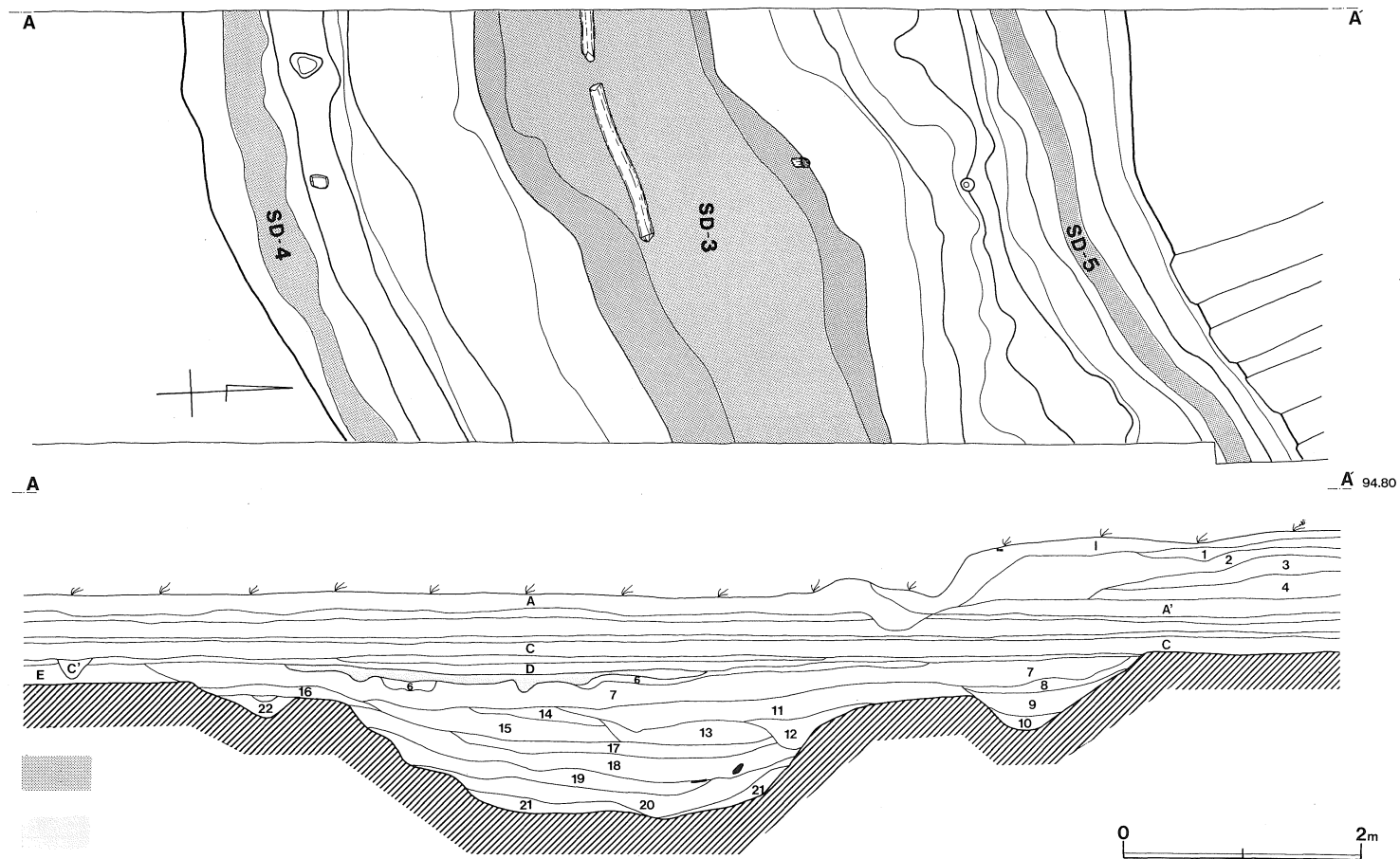
明度 5 &gt; 4 &gt; 1 &gt; 6 &gt; 2



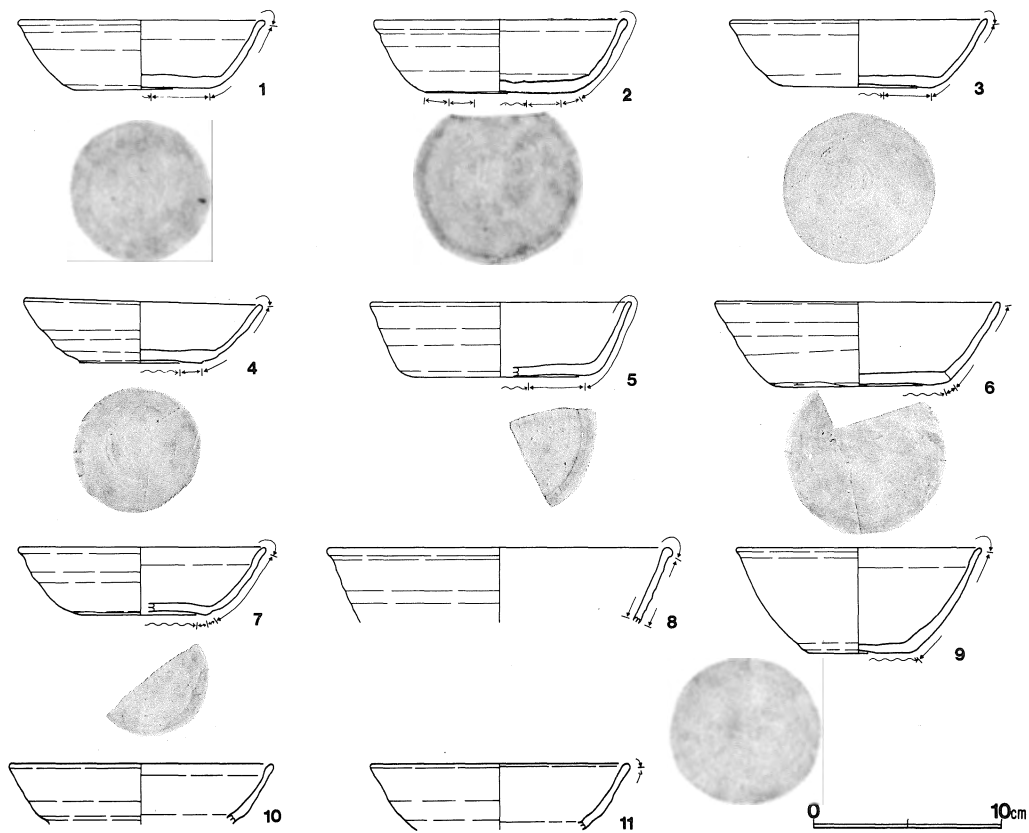
第308図 SD-2

SD-2土層説明

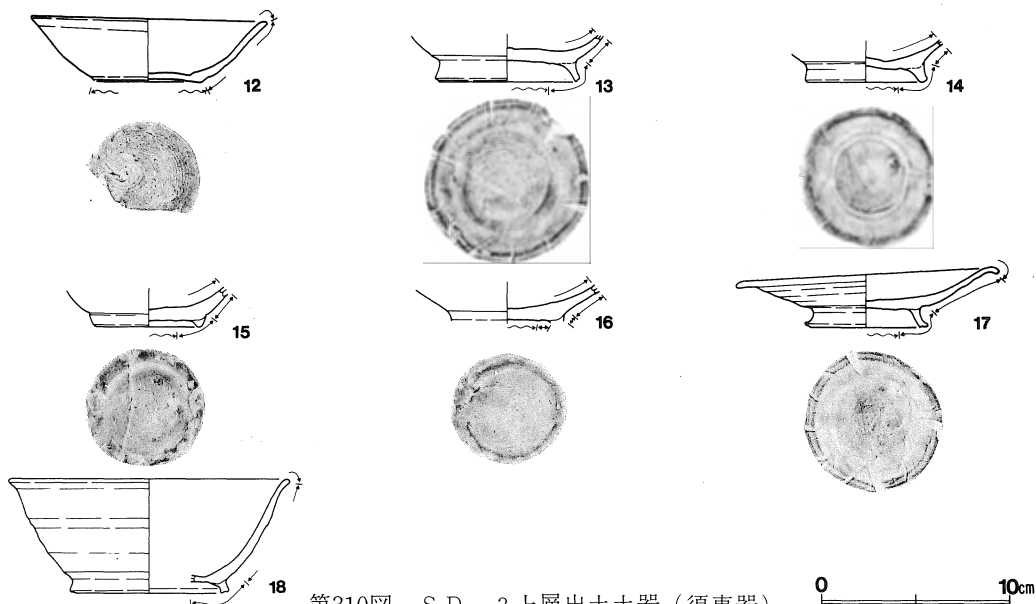
- 第1層 褐色混土軽石層 (A軽石にIIIが混入している。)
  - 第2層 浅間山系A軽石層 (純層である。)
  - 第3層 暗褐色土層 (IIIの中にIVと焼土粒を含むが、A軽石は含まない。)
  - 第4層 暗茶褐色土層 (IIIの中にVブロック、黒色土を含む。)
  - 第5層 暗茶褐色土層 (4層に類似するがIVを多く含む。)
  - 第6層 暗褐色土層 (3層に類似するがVブロックが多い。)
- 明度 2 > 1 > 6 > 3 > 5 > 4



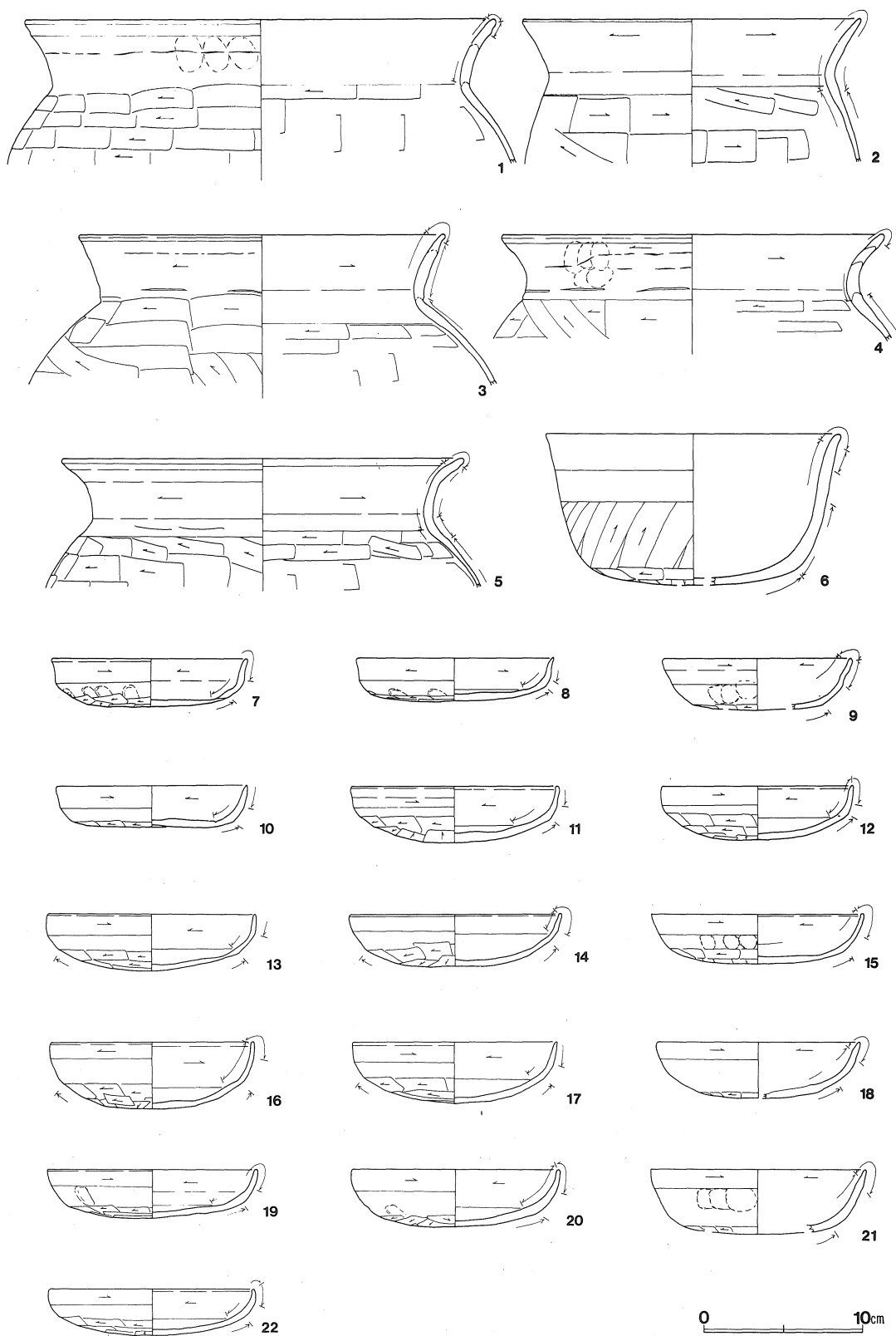
第309图 S D-3 · 4 · 5



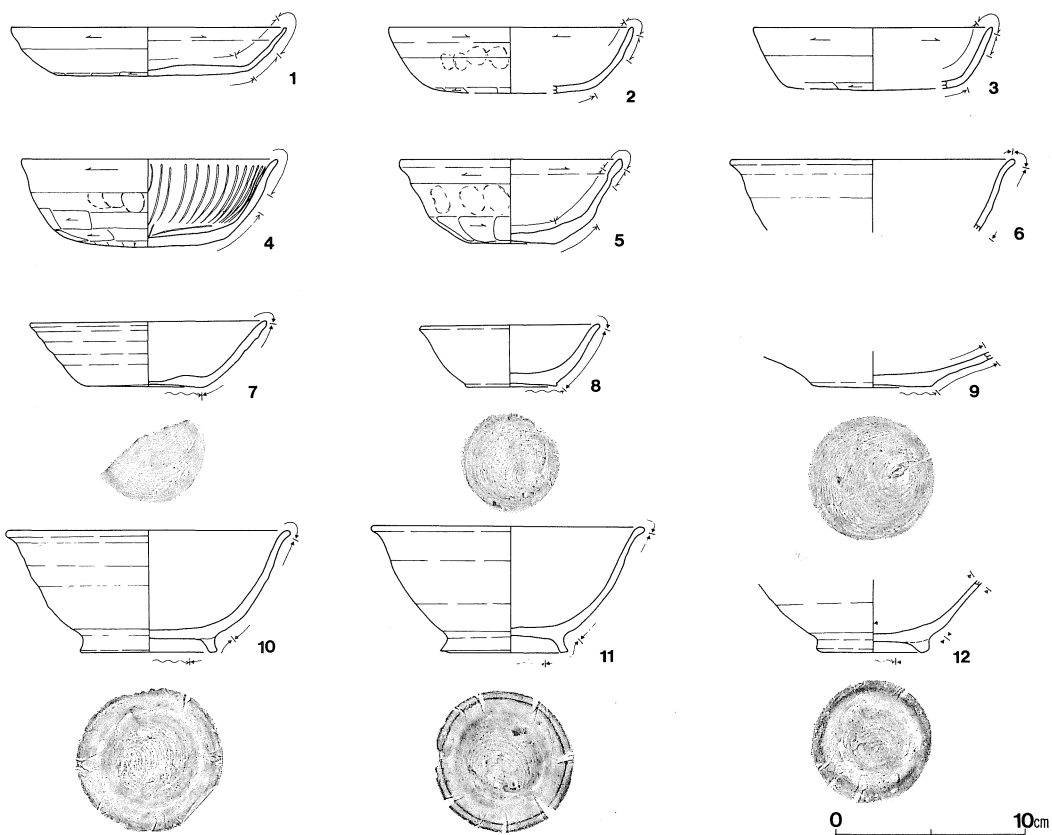
第308图 SD-3下層出土土器（須恵器）



第310图 SD-3上層出土土器（須恵器）



第311図 SD-3 出土土器 (土師器)



第312図 SD-5出土土器

SD-3、4、5土層説明

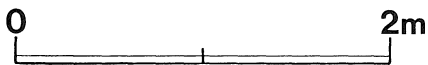
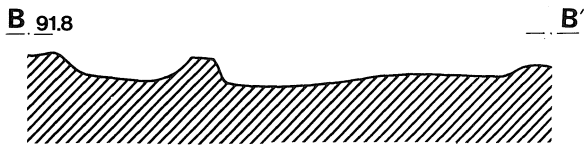
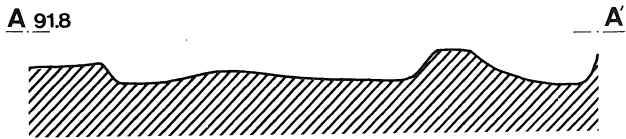
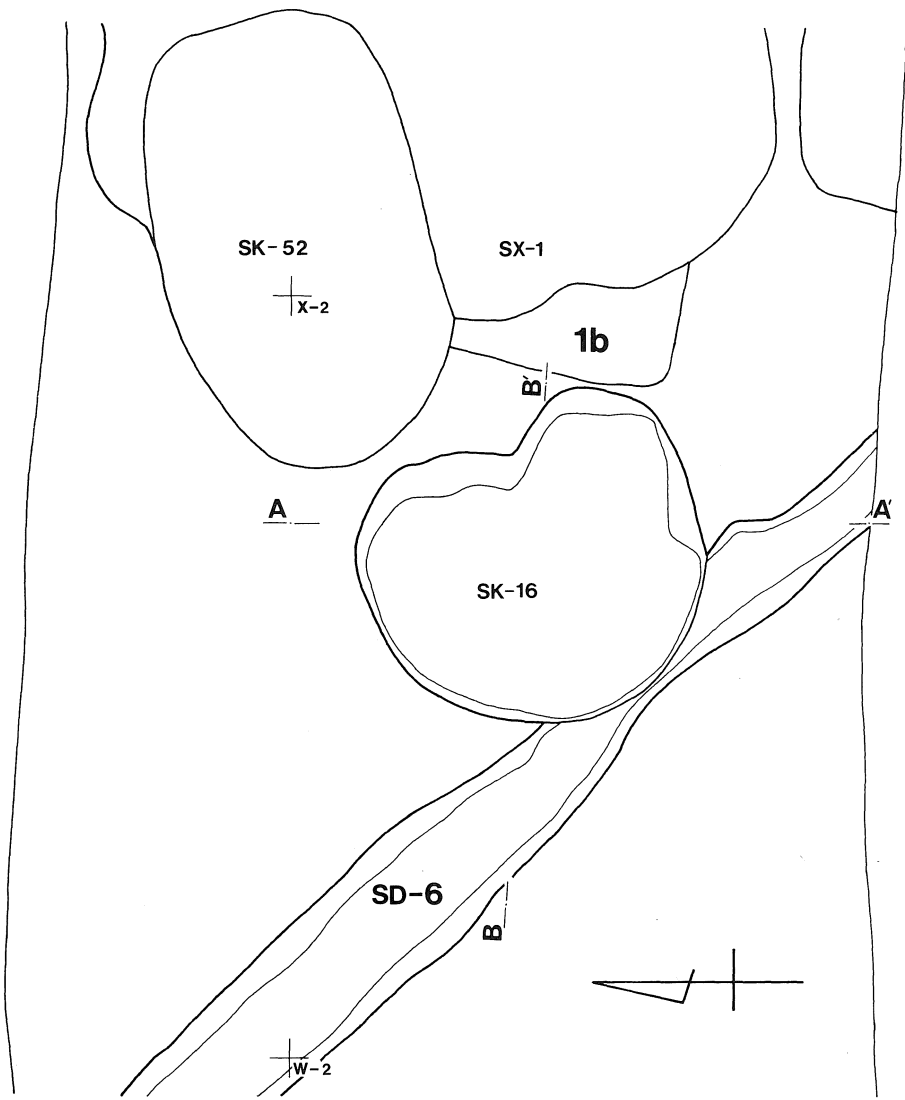
- 第1層 淡青灰色砂礫 (0.5~1cmの礫が多く、砂粒も含むが、片岩質ではない。現代道路層。)
- 第2層 暗褐色土層 (IにIVソフトを含む。現代層。)
- 第3層 暗褐色土層 (IにIIIソフト及びブロックを多く含む。現代層。)
- 第4層 暗褐色土層 (IにVソフト及びブロックを多く含む。現代層。)
- 第5層 暗黄褐色砂礫土層 (赤根川に産する片岩質で鉄分の多い砂礫を含む。現代道路遺構。)
- 第6層 黒褐色泥土層 (B軽石を含まず、均質で粒子が細かく緻密である。混入物は少ない。)
- 第7層 暗茶褐色泥土層 (多量の焼土粒を含み、北側に多い。比較的均質であり、軟かく、11c代の遺物を含む。)
- 第8層 暗灰色泥土層 (少量の焼土粒子を含み、粘性に富み、比較的均質で全体に淡い鉄分が認められる。)
- 第9層 暗灰色砂泥土層 (8層に類似するが不均質で、10~11c代の遺物を含む。)
- 第10層 暗褐色砂泥土層 (9層に類似するが粘性が弱く、遺物も少ない。砂粒と、B軽石に類似するものも多いが、実体は不明である。)
- 第11層 黒茶褐色泥土層 (少量のV、IV、VIIブロックを含み、多量の焼土粒を含む。粘性に富み、緻密である。)
- 第12層 黒褐色泥土層 (多量のVIIブロックを含み、不均質である。又、少量のVIブロックも含み、粘性は強い。)
- 第13層 黒褐色泥土層 (少量の焼土を含む。VIIブロックが混入し、淡い鉄斑が全体に認められ、粘性は強い。)
- 第14層 黒褐色泥土層 (13層に類似するが鉄斑の発達にとぼしく、又、IIIブロックを少量含み、緻密である。)
- 第15層 黒茶褐色泥土層 (11層に類似するが、Eを多く含み、11層に比べ均質で緻密である。鉄斑も認められる。)
- 第16層 黒茶褐色泥土層 (7層に類似するが、よりEを多く含み、他の溝のフク土と比べ、粘性に乏しい。少量の焼土粒子を含み、均質、緻密である。)
- 第17層 黒灰色泥土層 (上面は鉄分の凝集が見られ、鉄斑も顕著である。13、15層のそれぞれの溝底と考えられ、13層下部より、鉄斑が多い。)
- 第18層 黒灰色泥土層 (少量のVIIブロックを含み、均質である。8~9c代の遺物を含み、鉄斑は未発達であ



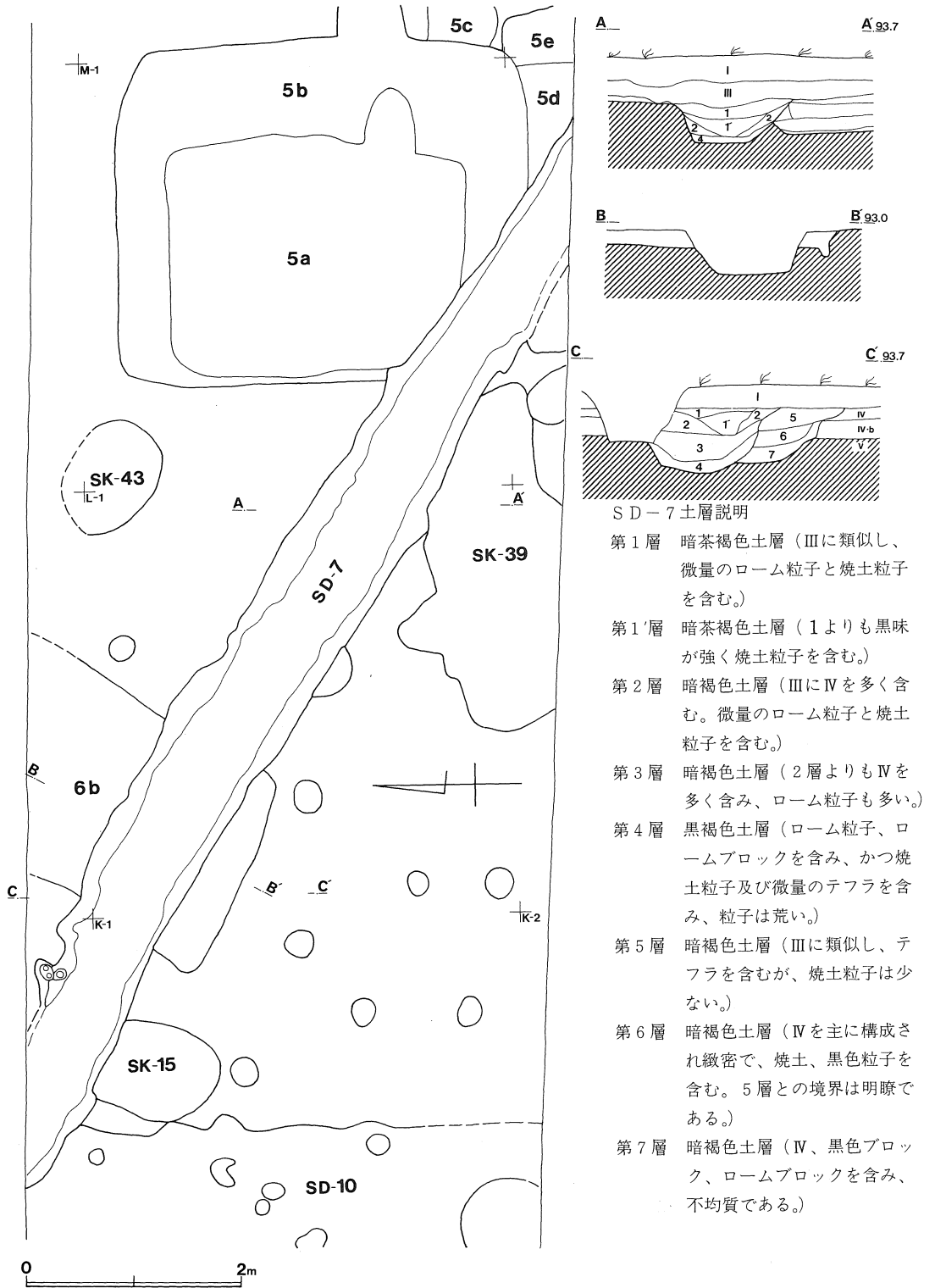
る。自然堆積的なフク土、Eが多く、粘性は強い。)

- 第19層 暗灰褐色泥土層 (均質、緻密で、粒子が細かく、粘性は弱い。植物遺存体を含む。)
- 第20層 黒褐色泥砂層 (21層に比べ粒子が荒く、又、緑色の片岩質風化砂も多い。土器、植物遺存体が多く、8c代の遺物も含む。)
- 第21層 淡緑褐色砂泥層 (テフラ状の砂と片岩質砂に、Ⅶ粒を含む粘に乏しい。)
- 第22層 暗褐色砂泥層 (10に類似するテフラ状の砂を多く含みⅦブロック及びEを含み、不均質である。)
- 第A層 暗褐色泥土層 (A軽石を含み、軟かい。現代水田層-A<sub>2</sub>〔A軽石を含み、鉄分の凝集が認められる。床土。〕)
- 第B層 暗褐色泥土層 (A軽石を含み軟かい。近世水田層。→B<sub>2</sub>(A<sub>2</sub>に類似する。))
- 第C層 暗褐色泥土層 (B層に類似する。C<sub>2</sub>〔B軽石を含み、緻密である。上面に、より顕著に鉄分凝集が認められる。〕)
- 第D層 黒褐色泥土層 (B軽石を多量に含み、鉄分凝集が針線状に認められる。中世水田層。→D<sub>2</sub>〔B軽石を多く含み、しばしば純層を成す。全体的に不均質である〕。)
- 第E層 黒茶褐色泥土層 (Ⅲに近いが、風化していて、焼土、炭化物粒子を多く含む。上部にB軽石が、薄くレンズ状に堆積している所もある。古代水田層。→E<sub>2</sub>〔均質で、粘土質、砂粒を含み、北側は「Ⅴ粘土化」、南側は「Ⅲ粘土化」である。〕)

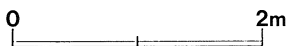
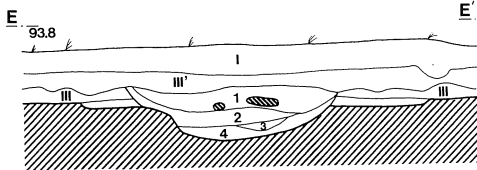
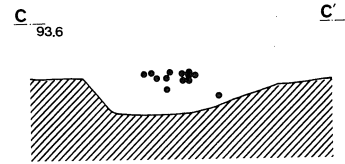
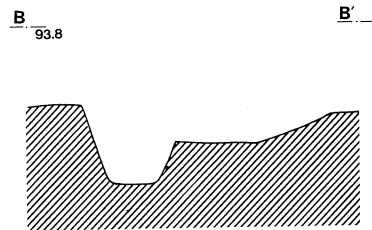
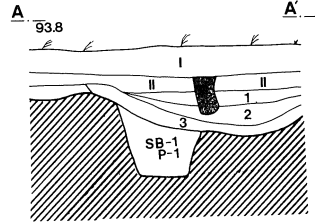
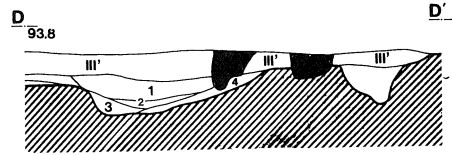
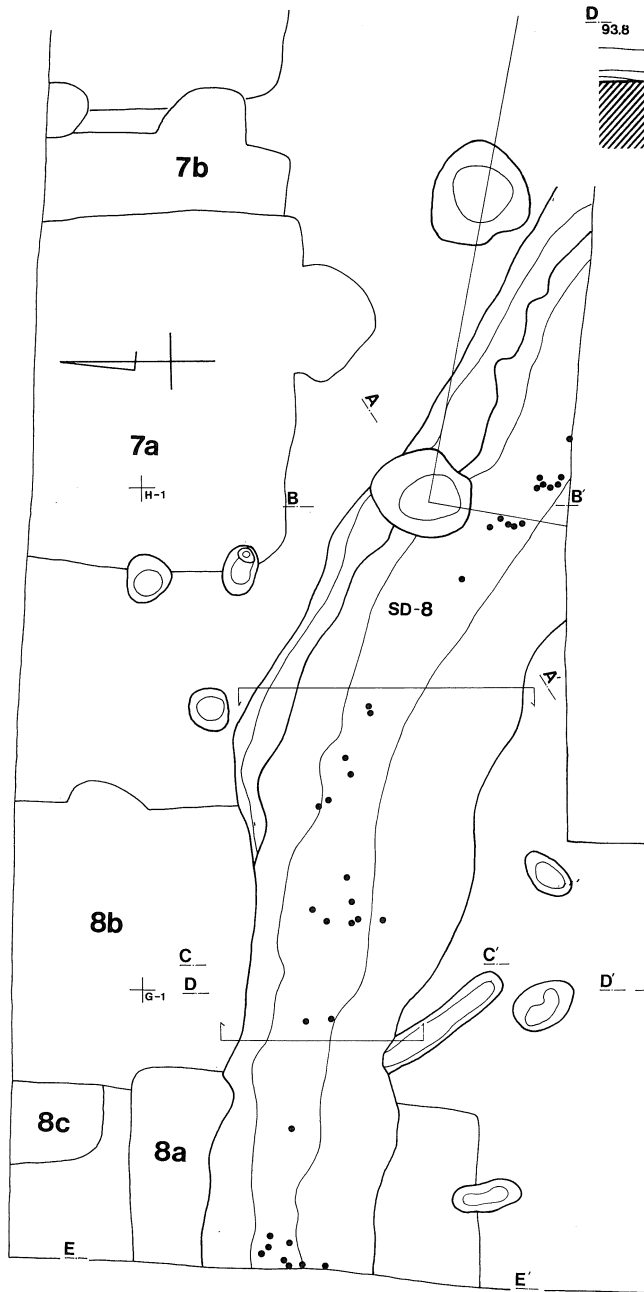




第313図 SD-6、SK-16



第314図 SD-7



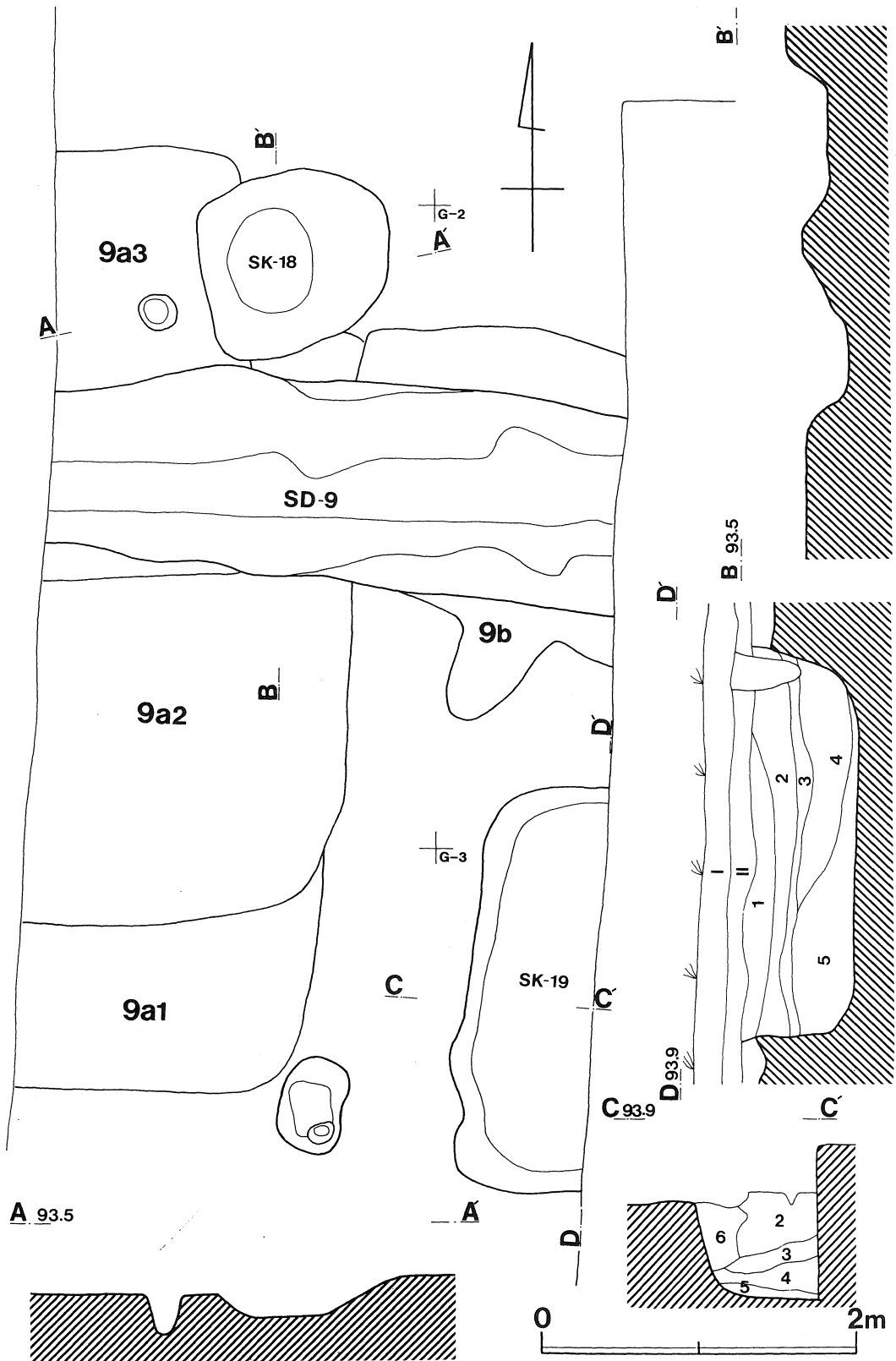
SD-8 土層説明

- 第1層 暗褐色土層（微量のローム粒、木炭粒、灰褐色テフラを含み、礫を多く含む。）
- 第2層 暗褐色土層（少量のローム粒子を含み、やや不均質で軟質である。）
- 第3層 暗褐色土層（多量のローム粒子、ブロックを含み、不均質、軟質である。）
- 第4層 褐色土層（多量のローム粒子を含むがブロックは少なく、比較的軟質である。）

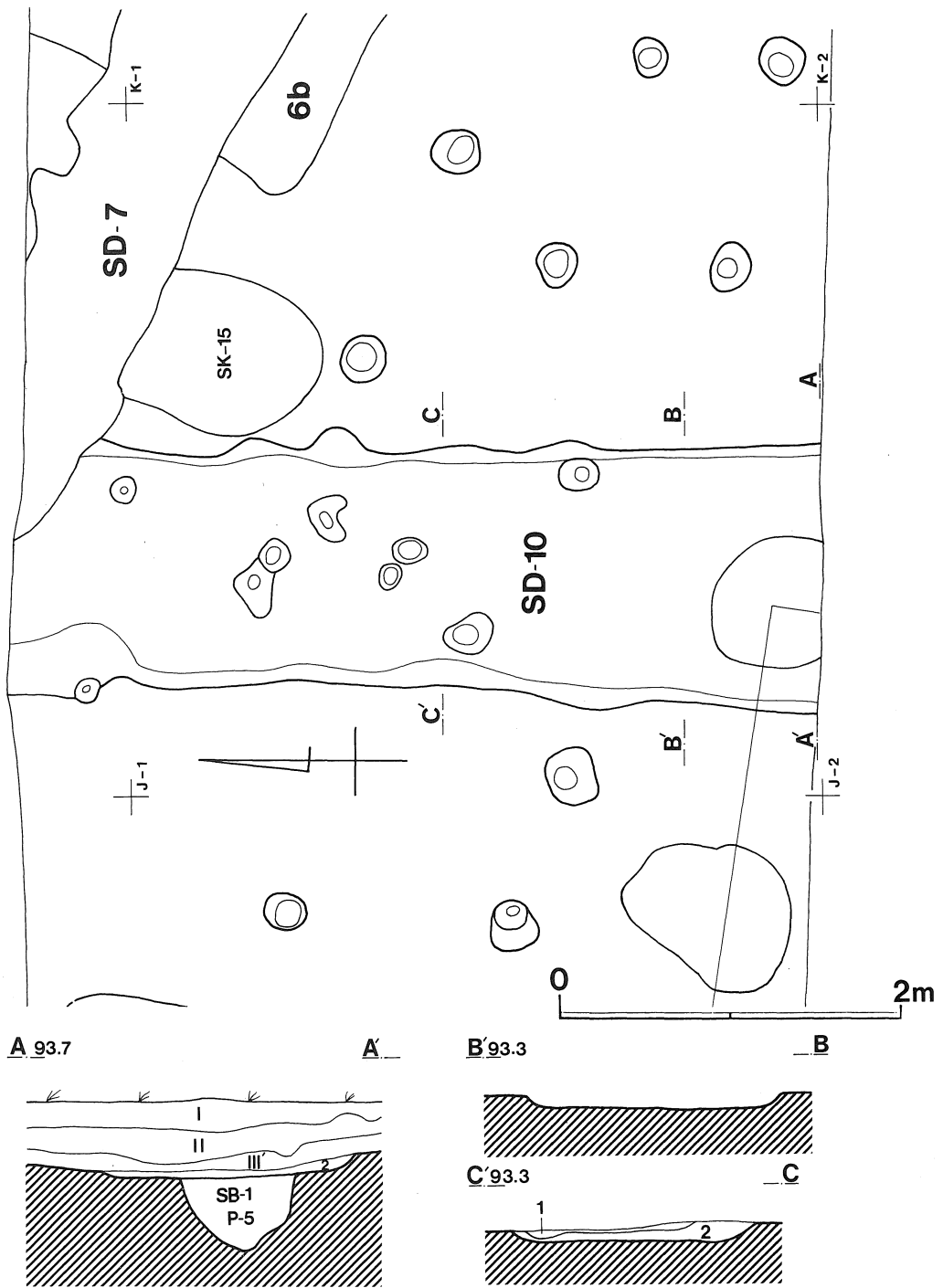
明度 2 > 1 > 3 > 4

ロームの量 4 > 3 > 2 > 1

第315図 SD-8



第316図 S D - 9、S K - 18・19

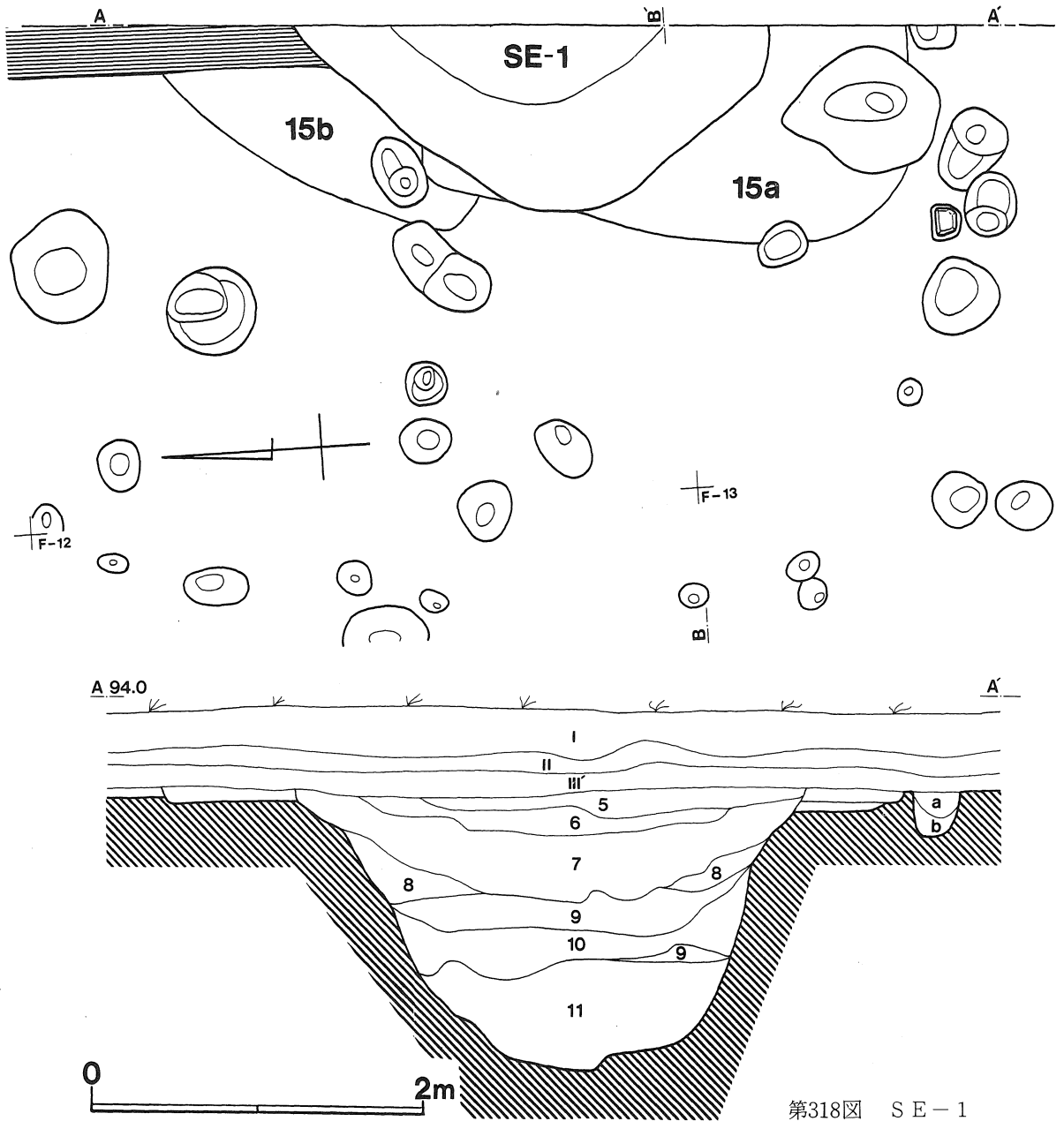


第317図 SD-10

SD-10土層説明

第1層 黒褐色土層(粘性ややあり、締まりは弱く浅間山系A軽石を含む)

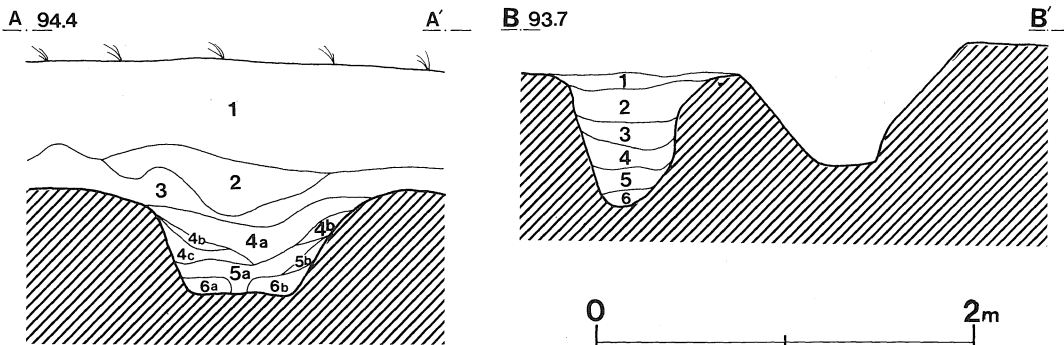
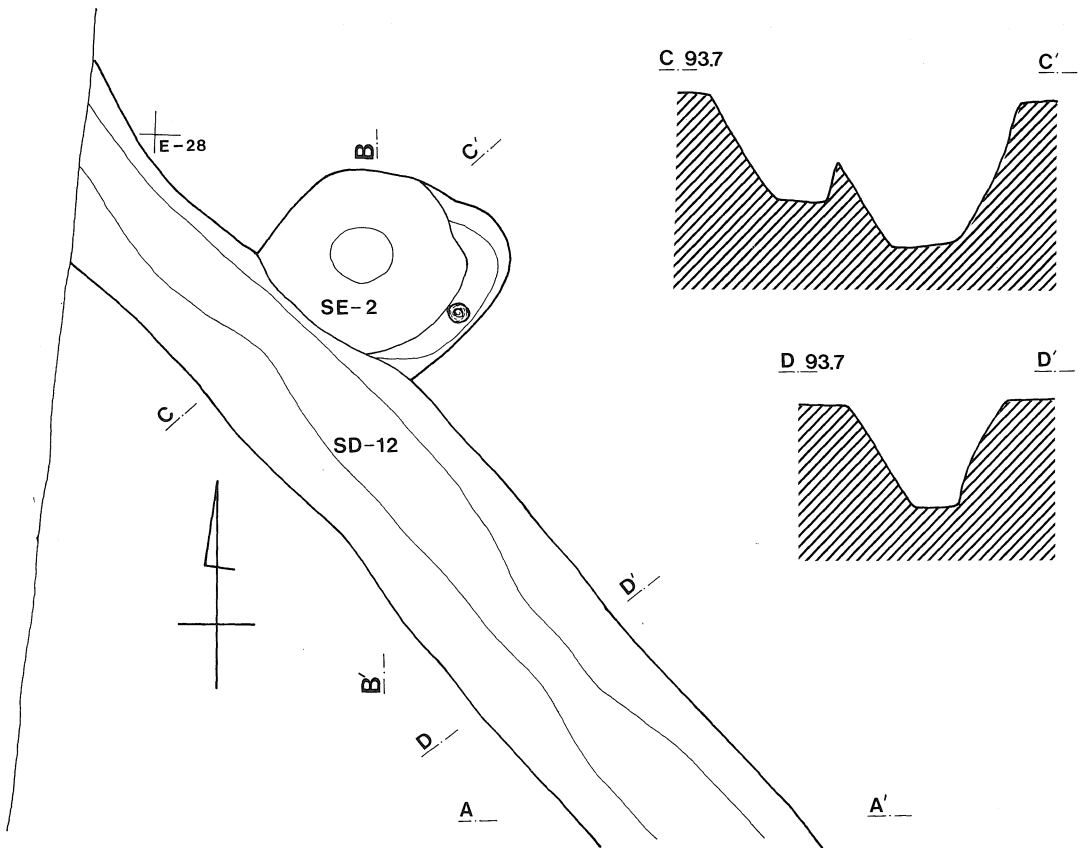
第2層 褐色土層(粘性強く締まりがない。浅間山系A軽石を含みロームを多量に含む。)



第318図 SE-1

SE-1 土層説明

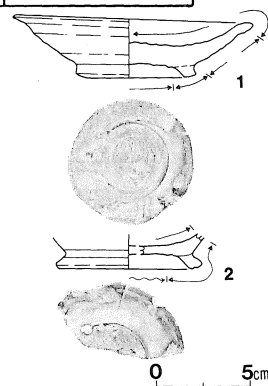
- 第5層 暗褐色土層 (全体的に粒子が荒く、径1~2mmのローム粒子を少量含む。粘性は弱く、粗である。)
- 第6層 黄褐色土層 (径2~3mmのローム粒子を多量に含み、粘性は弱い、緻密である。)
- 第7層 暗茶褐色土層 (砂質の粘土層で多量の粘土塊径3cm程の礫、径2mm程の焼土炭化物も含む。粘性は強い。)
- 第8層 黒褐色土層 (粘土質で、砂も含む。2~4cm程の礫と、径2mm程の焼土、炭化物粒子を含み、所々に基本第IV層のブロックも認められる。粘性は弱い、緻密である。)
- 第9層 灰白色粘土層 (砂、土を少量含み、粘性は強く、緻密である。)
- 第10層 黄褐色土層 (砂質の粘土層で、8層より砂や、ロームを多量に含む。粘性、しまりとも8層より劣る。)
- 第11層 黒褐色土層 (径10cm程の河原石、径3cm程の小石を多量に含み、径3cm程のローム塊や粘土塊も含む。)



第319図 SE-2・SD-12

SE-2土層説明

- 第1層 黒色土層（ローム粒子を微量含み、粒子は粗いがしまりはある。）
- 第2層 暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に含み、ハードロームブロックも少量含む。粒子は細かくしまっている。粘性もある。）
- 第3層 黒茶褐色土層（ローム粒子の量は2層より若干少ない。また粘性もない。）
- 第4層 黒褐色土層（粒子は粗く、しまりはまったくない。）
- 第5層 明黒褐色土層（ローム粒子を微量含み、粒子は粗い。）
- 第6層 茶褐色土層（ローム粒子を多量に含み、粒子は粗い。）



第320図 SE-2号址出土土器

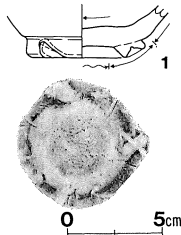


S D-12土層説明

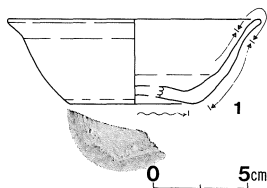
- 第1層 茶褐色土層（耕作土）
- 第2層 暗茶褐色土層（多量の焼土粒とブロックを含み、ローム粒、ブロックも多く見られる。粘性はないがしまりはある。）
- 第3層 暗褐色土層（粘性、しまり共になし。国分期（新）の遺物を出す。）
- 第4 a層 黒褐色土層（水性にとみ、しまり粘性共にない。土器片（国分）と若干の小礫を出土。）
- 第4 b層 黒褐色土層（ローム粒子を若干含み、aよりも水性にとむ。）
- 第4 c層 黒褐色土層（ローム粒子、ロームブロックを含み、a、bよりも水性にとむ。）
- 第5 a層 黒色土層（4層よりもしまりがなく水性にとむ。）
- 第5 b層 黒色土層（ローム小ブロックと粒子を含む。）
- 第6 a層 黒灰色土層（粘性はないがよくしまっている。）
- 第6 b層 黒灰色土層（aよりもローム粒子、ロームブロックを含んでいる。）

S K-19土層説明

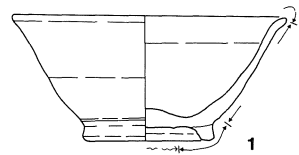
- 第1層 暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
- 第2層 黄黒褐色土層（ロームブロック、ローム粒子を多量に含み、粘性はないがよくしまっている。）
- 第3層 暗黒褐色土層（ロームブロックとローム粒子を含み、粘性はないが緻密でしまっている。）
- 第4層 暗黄褐色土層（2層と同じだが、2層に比べロームブロックが小さい。粘性、しまりは4層に同じ。）
- 第5層 黒褐色土層（組成は、2層、3層によく似ているが、2層に比べロームブロックが細かい。粘性はなく、しまりは弱い。）
- 第6層 褐色土層（ローム粒子をまばらに含み粘性はないが緻密にしまっている。）



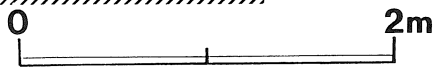
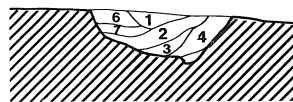
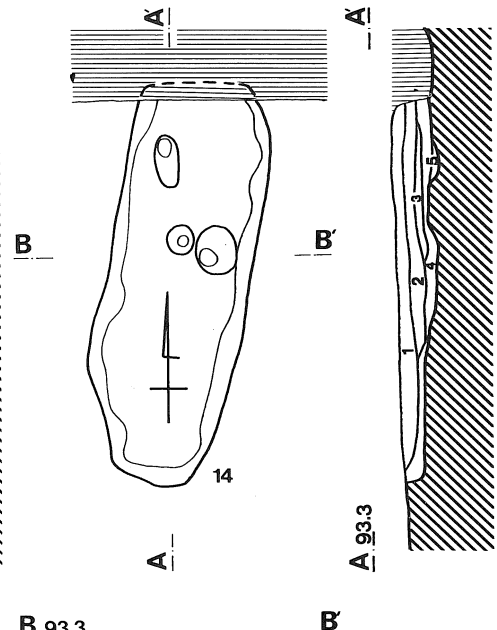
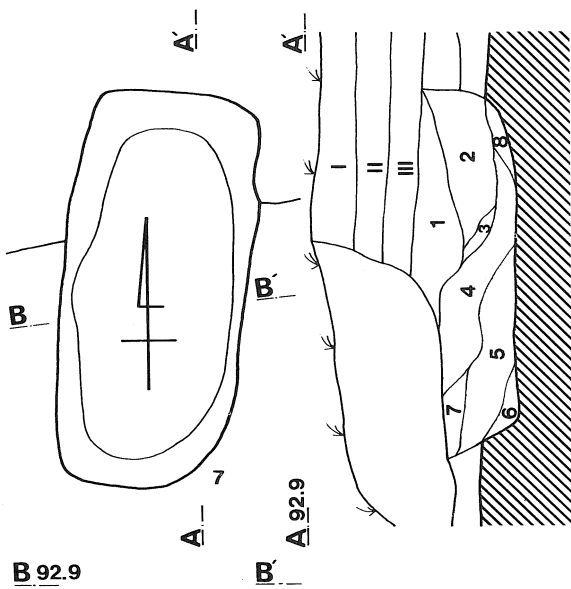
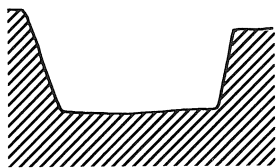
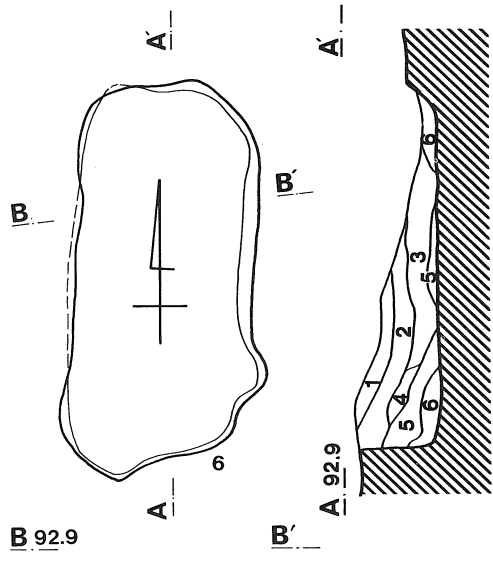
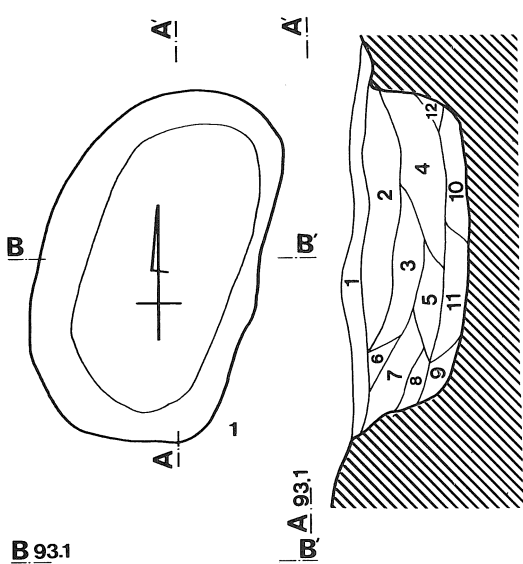
第321図 S D-9号址出土土器



第322図 S K-14号址出土土器



第323図 S D-10号址出土土器



第324図 SK-1・6・7・1<sup>A</sup>

#### S K-1 土層説明

- 第1層 黒褐色土層 (黒色土を基調とする層で赤色スコリアを含む。)
- 第2層 黒褐色土層 (1層に比べスコリアの数が増し、ロームブロックが混入し、炭化物も含む。)
- 第3層 黒褐色土層 (2層に比べロームブロックの量が少なく色調も暗い。)
- 第4層 黒褐色土層 (ローム粒子、ロームブロックを多量に含み、3層に比べ色調も暗い。)
- 第5層 黒褐色土層 (3層に比べロームブロックの数が少なくなり、色調も暗くなる。)
- 第6層 暗褐色土層 (赤色スコリアをほとんど含まない。3層に似た層。)
- 第7層 暗褐色土層 (6層に類似するが色調がわずかに暗い。)
- 第8層 暗褐色土層 (壁の崩壊土を少量含み、7層より明るい。)
- 第9層 黄褐色土層 (ロームブロックで壁の崩壊土と黒色土が少し混っている。)
- 第10層 暗褐色土層 (4層より大粒のロームブロックを含み色調の暗い層。)
- 第11層 明褐色土層 (ロームブロックを含み、10層より明るい。)
- 第12層 黒褐色土層 (ローム粒子が混入していない層。)

#### S K-6 土層説明

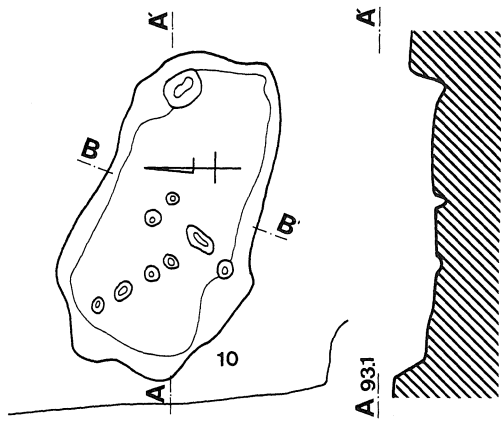
- 第1層 暗褐色土層 (0.5~1mmのローム粒子を多量に含み、均質である。)
  - 第2層 暗褐色土層 (0.2~1cm大のローム粒子を多量に含み、1層より粘質で、微量の焼土粒を含む。)
  - 第3層 暗褐色土層 (1層に類似しているが、ローム粒子が少なく粘質である。)
  - 第4層 暗褐色土層 (2層に類似しているが、0.2cm大の粒子が多い。)
  - 第5層 暗褐色土層 (0.2~0.3cm大のローム粒子を多量に含み、4、3層より明るい。)
  - 第6層 暗褐色土層 (0.2~0.3cm大のローム粒子を5層より多く含み、粘性がある。)
- 明度 1 > 2、3、4 > 5 > 6          ロームの量 6 > 4 > 2 > 1 > 3

#### S K-7 土層説明

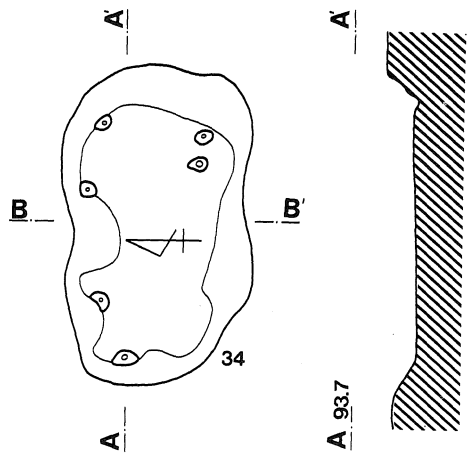
- 第1層 暗褐色土層 (ローム粒子を少量含む。)
  - 第2層 暗褐色土層 (1層に比べ色調が暗く粘性がある。)
  - 第3層 明褐色土層 (ローム粒子を多量に含む。)
  - 第4層 暗褐色土層 (1、2層よりローム粒子が増し、色調は2層より明るく1層より暗い。)
  - 第5層 暗褐色土層 1~2cm大のローム粒子が多量に含まれており、粘性、しまり共にある。)
  - 第6層 黒褐色土層 (ローム土が含まれ、粘性、しまり共にある。)
  - 第7層 暗褐色土層 (ローム粒子を含みしまりがある。)
  - 第8層 褐色土層 土壌の中で一番ローム粒子を含み、色調は明るく粘性もある。)
- 明度 3 > 1 > 2 > 5 > 4 > 8 > 7 > 6

#### S K-14 土層説明

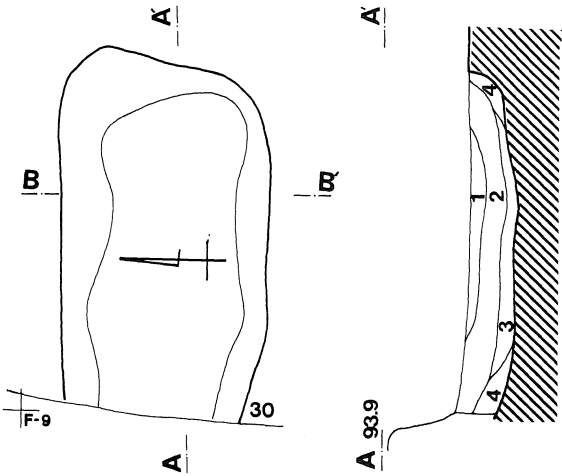
- 第1層 暗褐色土層 (径2~3mmの焼土を少量含み、径5mmの炭化物を多量に含む。しまりはあるが粘性は弱い。)
  - 第2層 暗褐色土層 (径1~2mmの焼土を少量含み、径1~2mmのローム粒子を多量に含む。粘性は弱いがしまりがある。)
  - 第3層 暗褐色土層 (径1~2mmのローム粒子を多量に含み、径1cm程の炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりもない。他層に比べ色がやや暗い。)
  - 第4層 茶褐色土層 (径3~4mmの小石を多量に含む。粘性は弱いがしまりはある。)
  - 第5層 黒褐色土層 (粘性は高いがしまりはない。粒子は均一。)
  - 第6層 暗褐色土層 (径5mm程の焼土を多量に含み、粘性は弱いだが、よくしまっている。1層より明るい。)
  - 第7層 暗褐色土層 (径5mm程の焼土を少量含む。粘性は強くしまりがある。1、2層より暗く3層よりやや明るい。)
- 明度 4 > 2 > 6 > 1 > 7 > 3 > 5



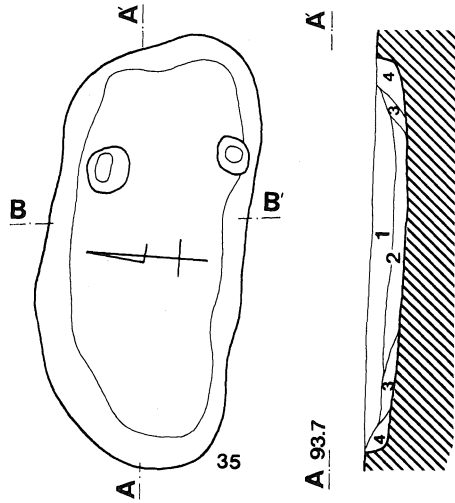
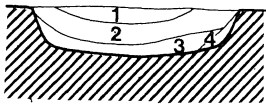
B 93.1 B'



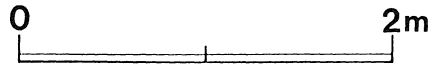
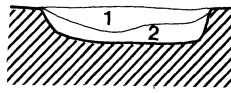
B 93.7 B'



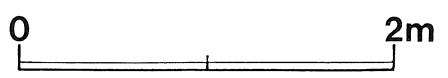
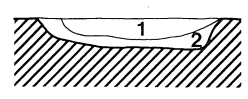
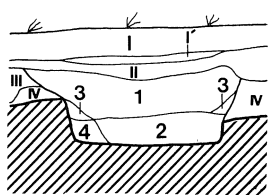
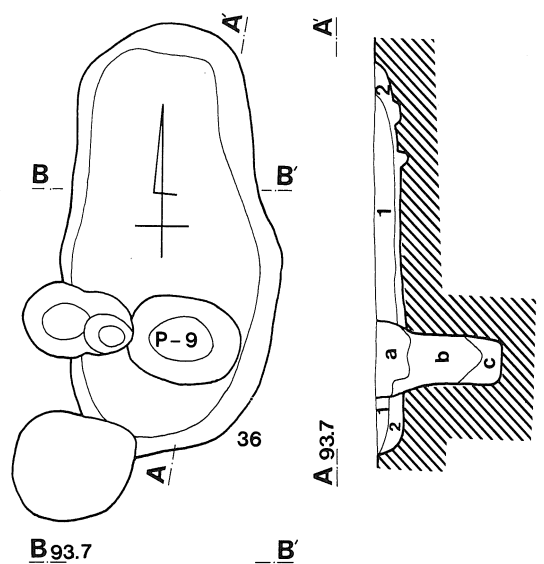
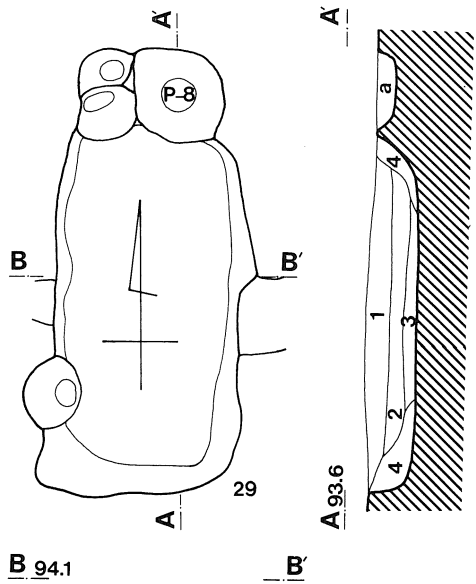
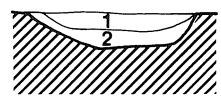
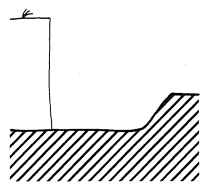
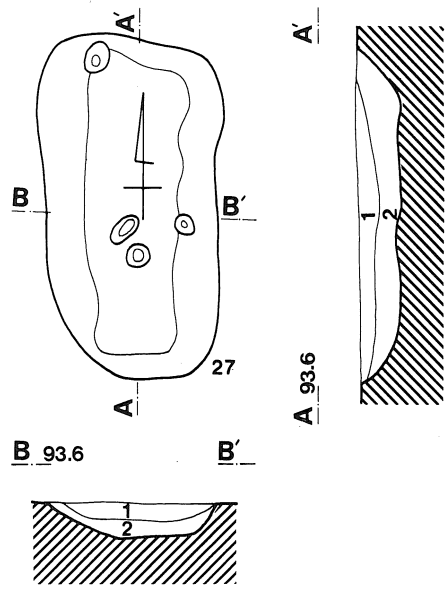
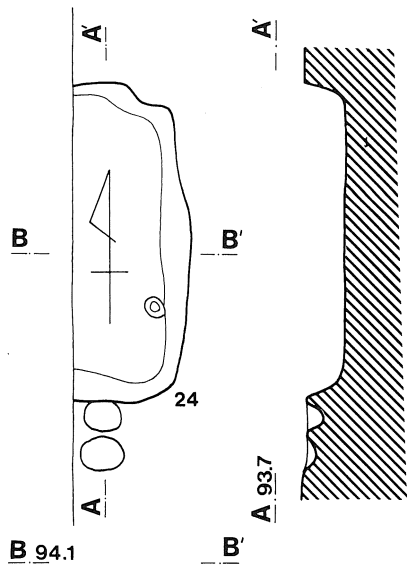
B 93.9 B'



B 93.7 B'



第325图 SK-10·30·34·35



第326图 S K - 24 · 27 · 29 · 36

#### S K-30土層説明

- 第1層 暗褐色土層（白色テフラ、焼土ローム粒子を含み均質。）  
第2層 暗茶褐色土層（多量のローム粒子、焼土粒子を含み、少量の炭化物も含む。均質である。）  
第3層 暗褐色土層（a層に類似するが焼土が少なく、ロームが多い。）  
第4層 褐色土層（IVの中に多量のローム粒子及び微量の焼土粒子を含み、やや不均質である。）  
明度 1 > 3 > 2 > 4          ロームの量 4 > 3 > 2 > 1

#### S K-35土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（微細な軽石及び径1～2mm程のローム粒子を少量均等に含む。焼土粒をほとんど含まず、粘性は弱く、しまりなし。）  
第2層 暗褐色土層（1層よりも軽石を多く含むが、ローム粒はほとんど含まない。粘性は弱くしまりなし。）  
第3層 明褐色土層（1層より軽石が少なく、ローム粒は2～5mm大を含み、粘性はややあるがしまりなし。）  
第4層 明茶褐色土層（径5mm程のローム粒を多く含む、焼土は含まない。粘性は弱く、しまりはない。）  
明度 2 > 1 > 4 > 3

#### S K-27土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層（径1～3%程のローム粒子を均等に含み、径2%の焼土及び、径8%程の炭化物も含む。粘性は弱くしまりはない。）  
第2層 暗褐色土層（径1.5%程のローム粒子を均等に含み、径3%程の炭化物をごく少量含む。粘性は小さく締りはない。）  
明度 1 > 2

#### S K-29土層説明

- 第1層 暗褐色土層（多量のローム粒子浅間山系B軽石類似の粒子、少量の焼土、炭化物粒子を含み均質である。）  
第2層 暗茶褐色土層（1層に類似するが、1cm大のロームブロックを多く含む、粒子はあらい。）  
第3層 暗褐色土層（1層に類似するが1cm大のロームブロックを少量含む、2層よりさらに粒子があらい。）  
第4層 黒褐色土層（1～3cm大のロームブロックを含み、不均質、かつ、軟質である。）  
明度 4 > 3 > 1 > 2          ロームの量 2 > 4 > 3 > 1

#### Pit-8土層説明

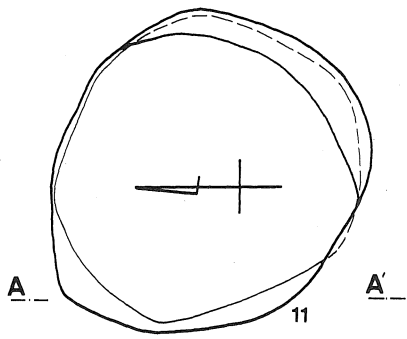
- 第a層 暗褐色土層（均質、軟質で、粒子の混入が少ない。Pitのフク土。）

#### S K-36土層説明

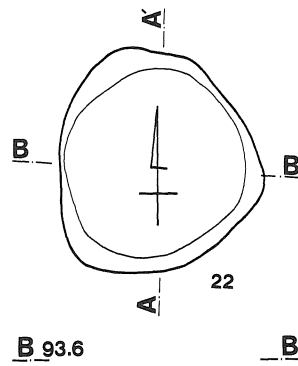
- 第1層 暗褐色土層（焼土、炭化物粒子を含むⅢ類似土、B軽石が混入している。）  
第2層 暗茶褐色土層（焼土、炭化物粒子を微量含む、ローム粒子も含む。B軽石が混入している。）  
明度 2 > 1          ロームの量 2 > 1

#### Pit-9土層説明

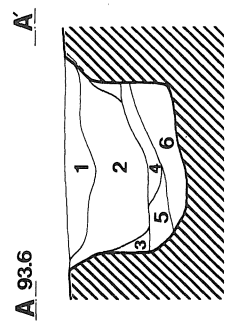
- 第1層 暗褐色土層（Ⅳ類似土にロームブロックを含み、S K-36のa層より軟かく、明るい。）  
第2層 暗茶褐色土層（Ⅳ類似土にローム粒子ブロックを含み、1層より多く不均質である。）  
第3層 黄褐色土層（ハードロームブロック、ロームブロックを主体に構成され、粘質である。）  
明度 3 > 2 > 1          ロームの量 3 > 2 > 1



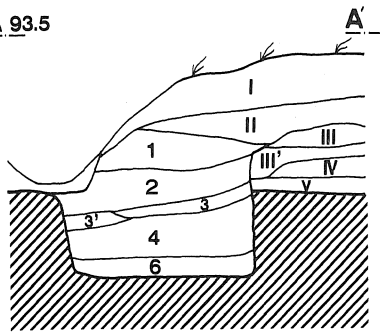
A 93.5



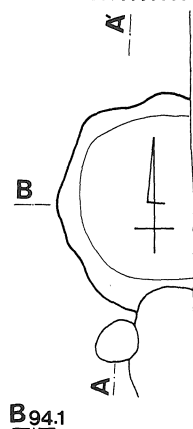
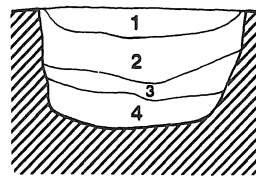
B 93.6



A 93.6



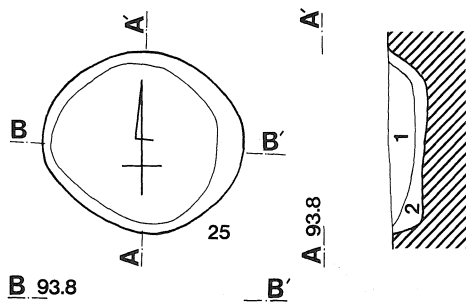
A 93.5



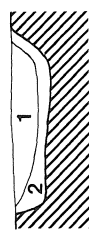
B 94.1



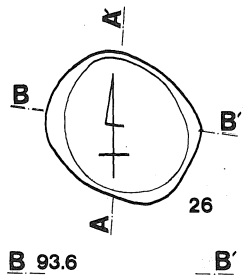
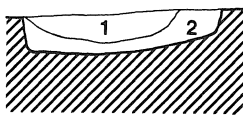
A 93.6



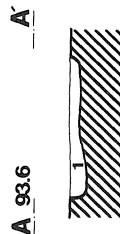
B 93.8



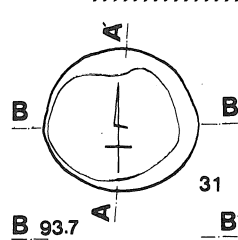
A 93.8



B 93.6



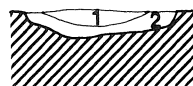
A 93.6



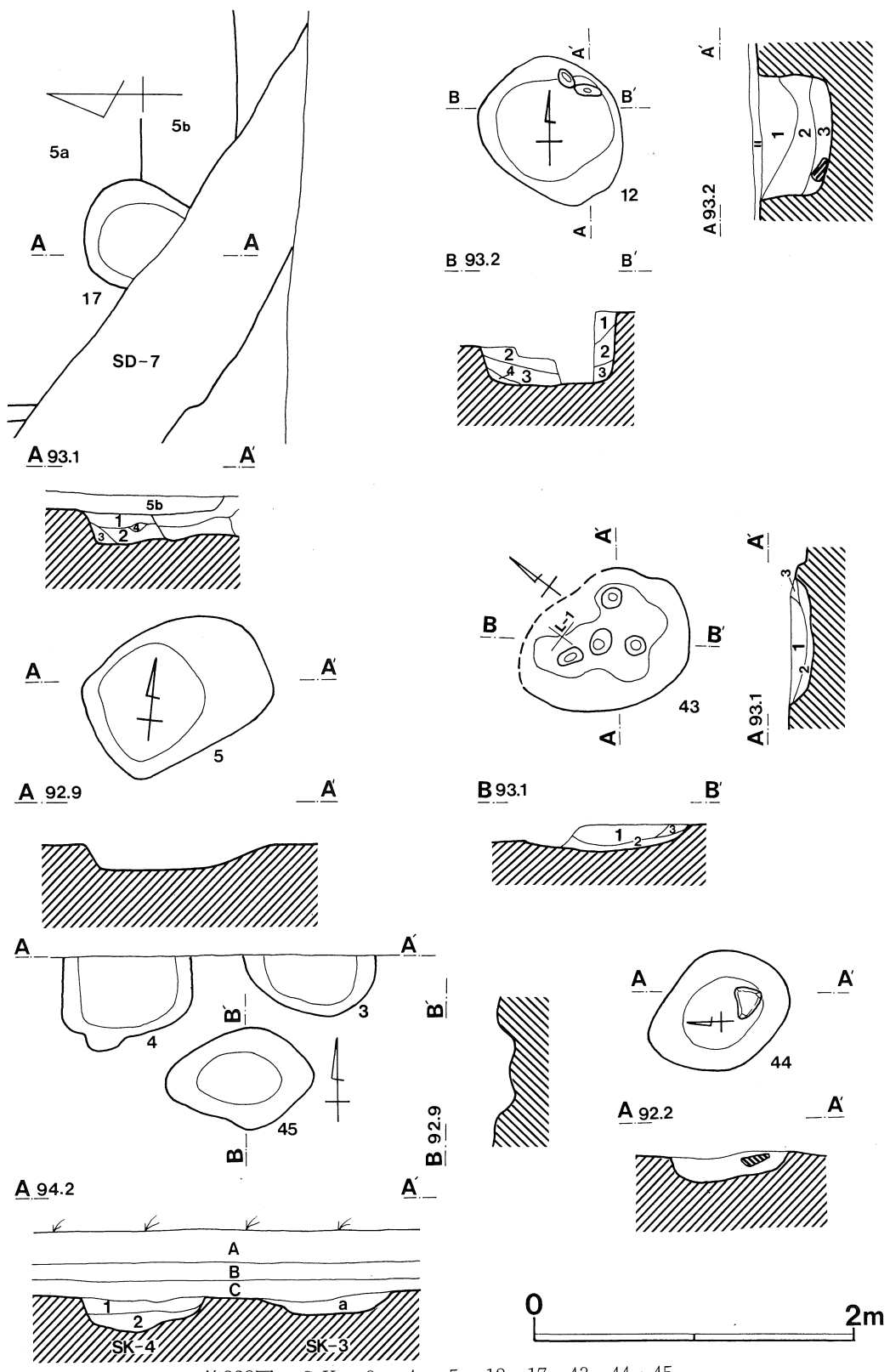
B 93.7



A 93.7

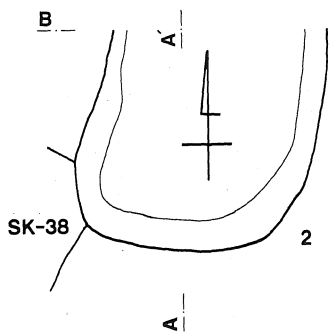


第327图 SK-11·22·25·26·31·32

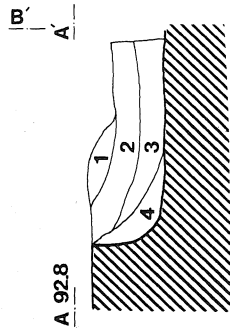


第328图 SK-3 · 4 · 5 · 12 · 17 · 43 · 44 · 45

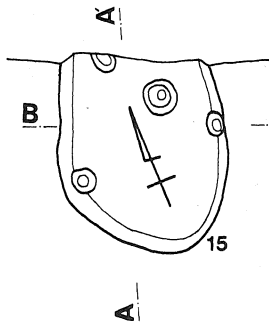




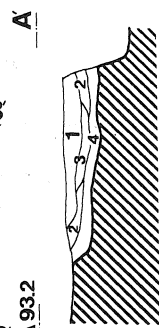
B 92.8



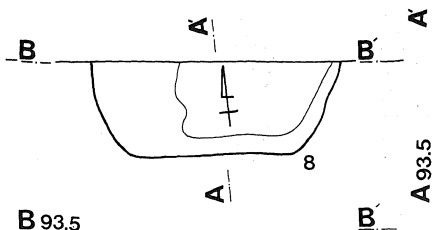
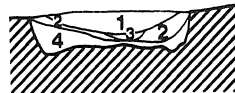
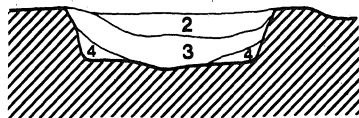
B'



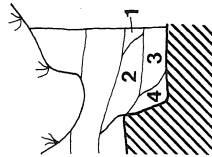
B 93.2



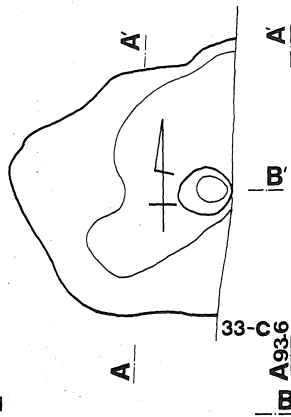
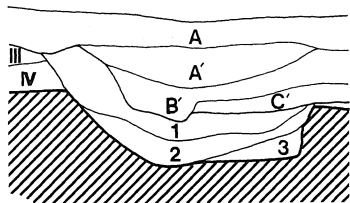
A 93.2



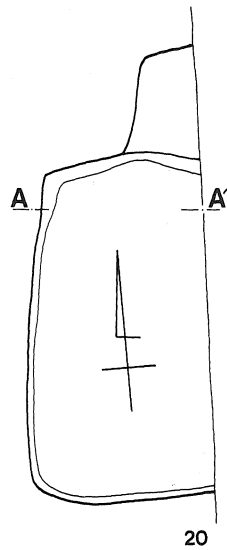
B 93.5



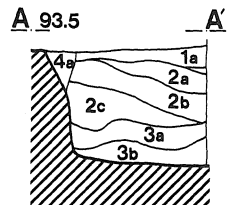
A 93.5



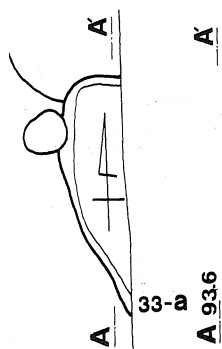
B 94.1



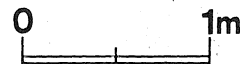
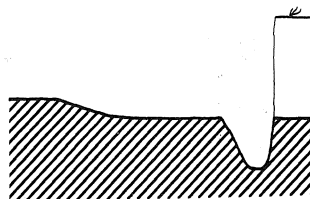
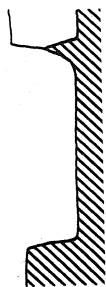
20



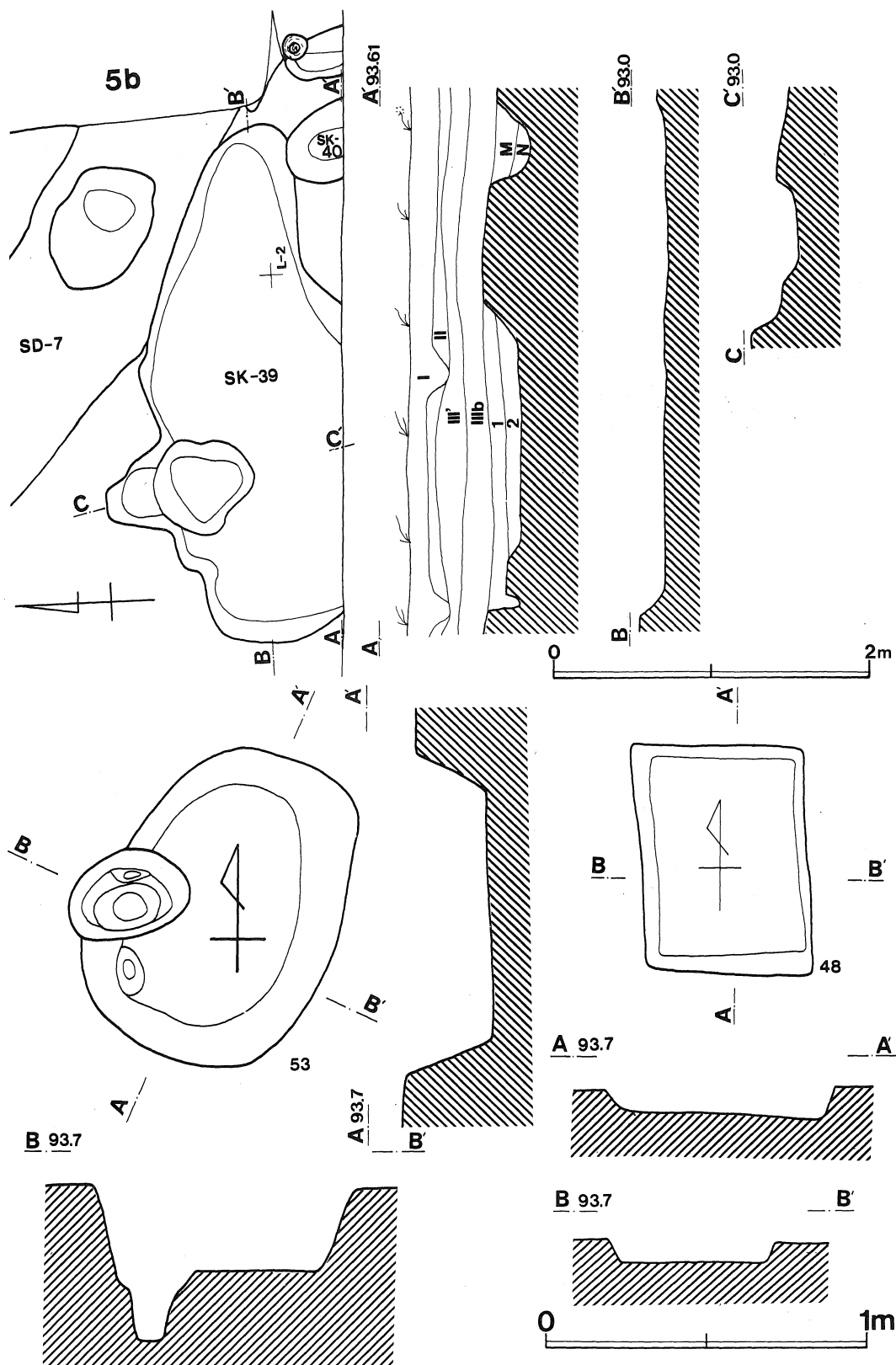
A 93.5



33-B  
A 93.6



第329图 SK-2·8·15·20·33a·33c



第330图 SK-39 · 40 · 48 · 53

#### S K-22土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (Ⅲに類似し、白色テフラ及び焼土粒子、ローム粒子を含む。比較的均質である。)
  - 第2層 暗茶褐色土層 (1~10mm程のロームブロックを含み、aよりも硬質である。)
  - 第3層 茶褐色土層 (少量のロームブロックを含み、軟かく不均質である。)
  - 第4層 黒褐色土層 (1~3cm大のロームブロックを含み、やや粘質である。)
  - 第5層 茶褐色土層 (ロームブロックを含まず、軟かく、粒子はあらい。)
  - 第6層 暗褐色土層 (5~10mm程のロームブロックを多量に含み軟かい。)
- 明度 4 > 5 > 3 > 6 > 2 > 1      ロームの量 6 > 2 >

#### S K-25土層説明

- 第1層 黒褐色土層 (少量の焼土粒、炭化物粒を含む。ローム粒が混入している。)
- 第2層 暗褐色土層 (ローム粒、同ブロックが混入していて、焼土、炭化物粒の混入は少ない。)

#### S K-26土層説明

- 第1層 黒褐色土層 (少量の焼土粒・炭化物粒を含む、ローム粒混入している。)

#### S K-31土層説明

- 第1層 黒褐色土層 (黒色ブロック、Ⅳ、Ⅴブロック、焼土粒子を含む。)
- 第2層 暗褐色土層 (Ⅳを基本とⅤと黒色粒子を含む。)

#### S K-17土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (径1~2mmのローム粒子を少量含み、粘性は強くしまりもある。)
- 第2層 暗褐色土層 (径2~3mmのローム塊を多量に含み、径5mm程の焼土塊を含む。)
- 第3層 黄褐色土層 (径1~2mm程のローム粒子を多量に含み、粘性なく、しまりもない。)
- 第4層 ロームブロック

#### S K-43土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (径1mmのローム粒子を含み、粘性があり、しまりもある。)
- 第2層 暗褐色土層 (径1~2mmのローム粒子を少量含む。)
- 第3層 暗褐色土層 (1層に比べしまりがある。)

#### S K-12土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (Ⅲ+Ⅳにローム粒、焼土、炭化物も含む。)
  - 第2層 暗褐色土層 (1層に類似するがⅣの割合が多く、粘性は強い。)
  - 第3層 褐色土層 (ローム粒、炭化物粒が多く、不均質。)
  - 第4層 褐色土層 (ロームを中心に構成され軟かい。)
- 明度 1 > 2 > 3 > 4      ロームの量 4 > 3 > 2 > 1

#### S K-44土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層 (黒色のシミを持つ層。上面に遺物を含む。ロームブロックを含み粒子、粘性はない。急激な埋没か。)

#### S K-3土層説明

- 第1層 黒色土層 (粘性をもつ黒色土中にⅤブロック、焼土、炭化物粒子を含む。)

#### S K-4土層説明

- 第1層 暗茶褐色土層 (Ⅳに焼土、炭化物粒子を多量に含む。粘性は強い。)
- 第2層 黒茶褐色土層 (S K-3-1に類似するがⅣの割合が多い。)

#### S K-2土層説明

- 第1層 黒褐色土層 (0.2~2mm大のローム粒子を含む。)
  - 第2層 黒褐色土層 (0.2~5mm大のローム粒子を含む。)
  - 第3層 暗褐色土層 (0.2~5mm大のローム粒子を含み、ブロックを多量に含む。)
  - 第4層 黒褐色土層 (0.2~10mm大のローム粒子を含み、しまっている。)
- 明度 4 > 1 > 2 > 3      ロームの量 3 > 2 > 4 > 1

#### S K-15土層説明

- 第1層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子及び炭化物を含む。粘性は強くしまりもある。）
  - 第2層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子及び白色粒子を少量含み粘性は弱いがしまりはある。）
  - 第3層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子及び炭化物を含み、他層に比べ、粘性が非常に強い。）
  - 第4層 暗褐色土層（径1～2mmの白色粒子を多量に含み、粘性はなくしまりもない。）
- 明度 4 > 2 > 1 > 3      ロームの量 3 > 1 > 2 > 4

#### S K-8土層説明

- 第1層 ロームブロック
- 第2層 灰褐色土層（V層ブロックを多量に含む。）
- 第3層 茶褐色土層（ロームを含み、2層より暗い。）
- 第4層 暗褐色土層（IV層が混入し、V層ブロックが混入する。）

#### S K-38土層説明

- 第1層 暗褐色土層（3 a 住上面を覆った土層より暗い色調を呈す均質な土層で、炭化物が少量みられる。）
  - 第2層 黒褐色土層（均質な土層である。若干の焼土粒、炭化物がみられる。小型のローム粒子がみられる。）
  - 第3層 暗褐色土層 大型のロームブロックが混入する。焼土粒子がみられるが少量である。）
  - 第4層 暗茶褐色土層（地山と色調が似ているが、若干粘性に欠ける。種々の粒子が混入しない。）
  - 第5層 暗茶褐色土層（3層と類似するが、粘性なくロームブロックも密ではない。）
  - 第6層 茶褐色土層（均質な土層で粘性も強い。小型のロームブロックを少量含む。）
- 粘性 6 > 4 > 5 > 1 > 2 > 3      明度 2 > 1 > 3 > 4 > 5 > 6

#### S K-39土層説明

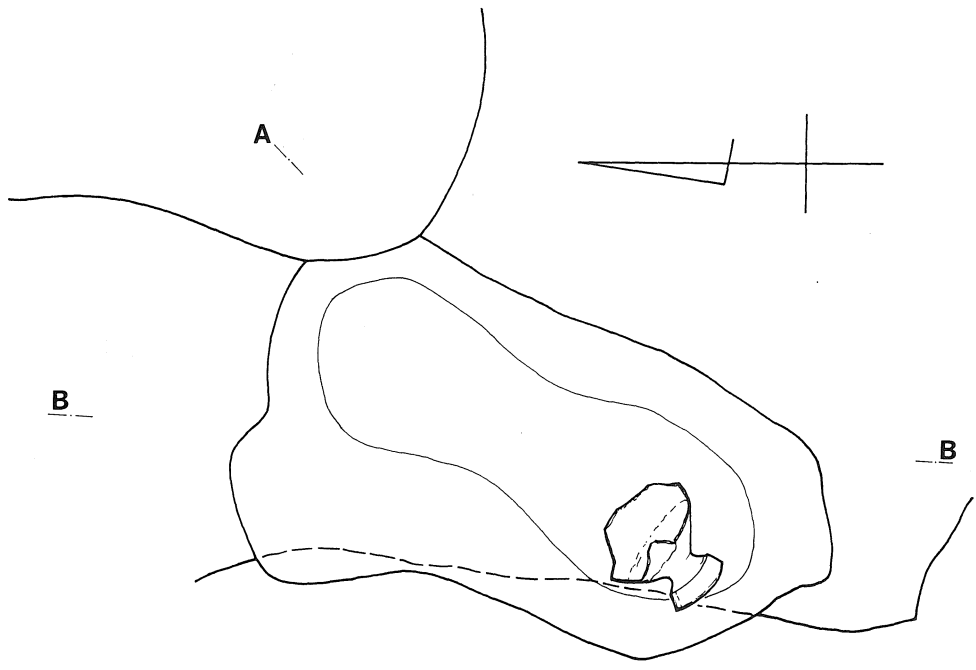
- 第1層 暗茶褐色土層（全体に粒子が荒く、3mm程のローム粒子をまばらに含む。粘性は低いがしまりがある。）
- 第2層 暗褐色土層（全体に粒子が荒く、3mm程のロームブロックをまばらに含む、粘性が高くしまりが無い。）

#### S K-40土層説明

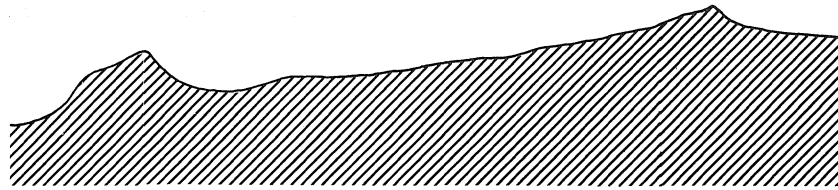
- 第M層 暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子を全体にまばらに含む。粘性は低くしまりもない。）
- 第N層 暗褐色土層（全体に粒子が荒く、3mm程のローム粒子も少量含むがM層より少なく粘性高く締りはない。）



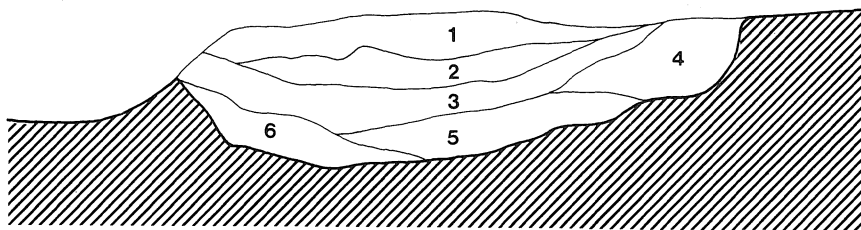
S K-38土器出土状態



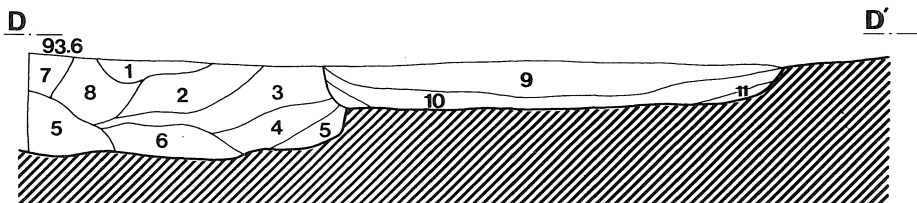
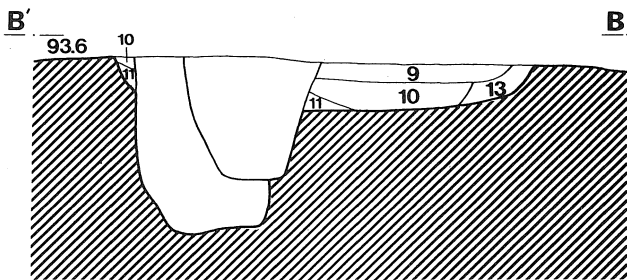
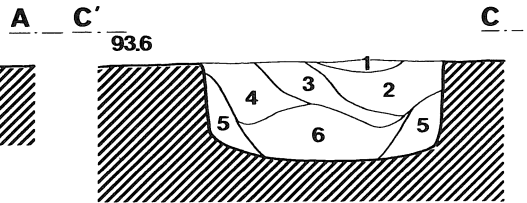
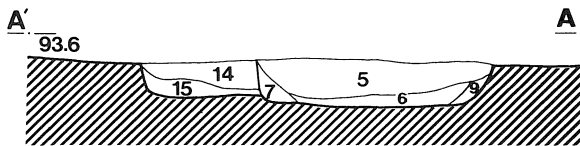
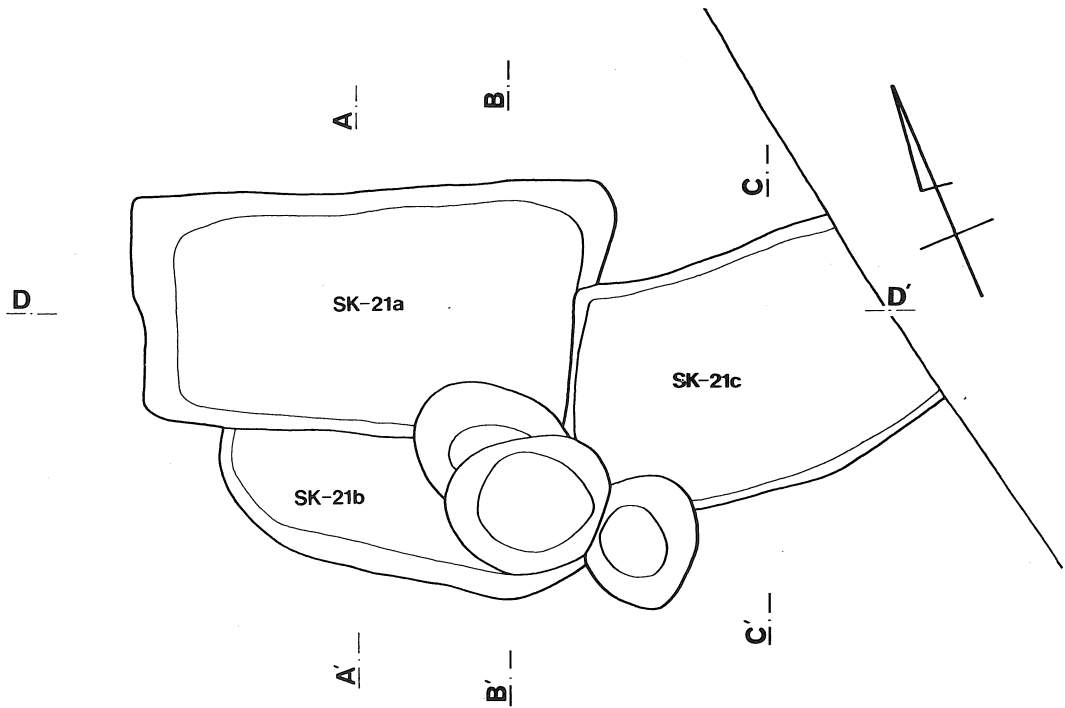
A 93.0



B 93.0



第331图 SK-38



第332图 SK-21a、21b、21c

S K-21 a 土層説明

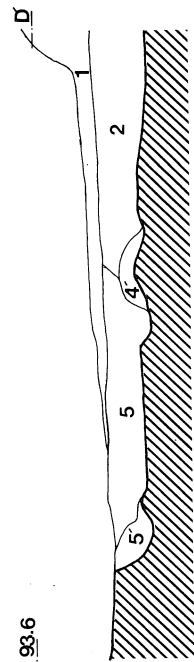
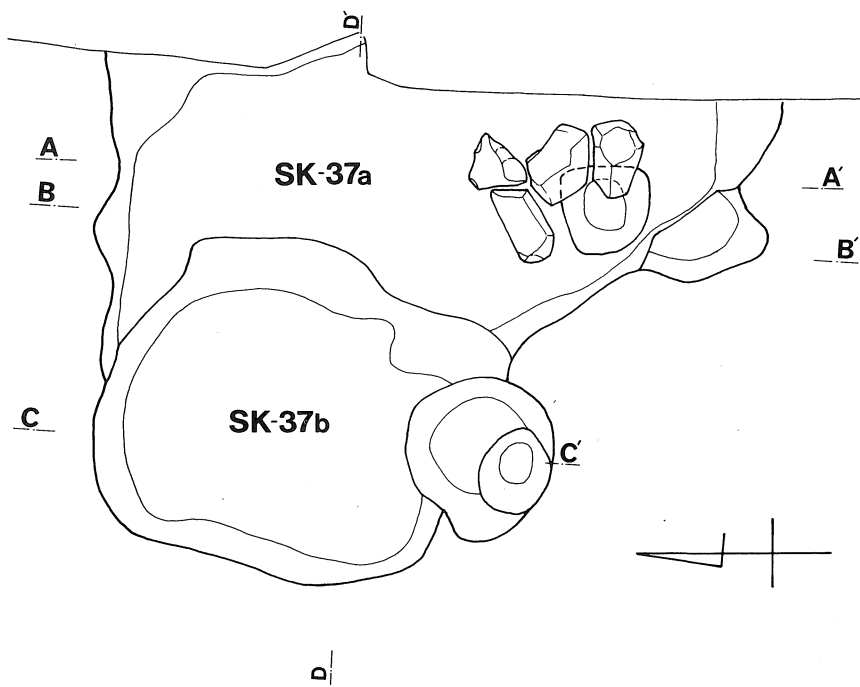
- 第9層 暗茶褐色土層（径1mm程のローム粒子を少量、径1cm程のロームブロックと、焼土粒、炭化物粒を若干含み、粘性はなく緻密である。）
- 第10層 茶褐色土層（ローム粒を含み、焼土、炭化物粒をまばらに含む。粘性はなく、緻密である。）
- 第11層 褐色土層（径2mm程のローム粒を多量に含み、焼土、炭化物は含まない。粘性、しまりともない。）
- 第12層 黒褐色土層（基本的に11層に対応するが、その組成は11層よりローム粒子が極端に少ない。粘性、しまりともない。）
- 第13層 黒褐色土層（11、12層に対応し径2mm程のローム粒をまばらに含み、若干の焼土、炭化物粒も含む。又、径3cm程のロームブロックを少量含み、粘性、しまりともない。）

S K-21 b 土層説明

- 第14層 暗黒褐色土層（多量の焼土、炭化物粒と若干のローム粒を含み、粘性はないが、堅緻である。）
- 第15層 灰褐色土層（多量の焼土、炭化物粒及びロームブロックを含み粘性なく、堅緻である。）

S K-21 c 土層説明

- 第1層 茶褐色土層（ローム粒子を多く含み、粘性はなく、緻密である。）
- 第2層 暗黒褐色土層（若干の焼土粒、炭化物粒を含み、多量のローム粒を含む、粘性、しまり共にない。）
- 第3層 黄褐色土層（ローム粒とロームブロックを多量に含み、微量の焼土粒を含む。粘性しまりない。）
- 第4層 黄褐色土層（3層に類似するが焼土粒が多く、ロームブロックはごく少ない。）
- 第5層 暗茶褐色土層（径2mmのローム粒を多く含み、若干の焼土粒と微量の白色テフラを含む。）
- 第6層 暗茶褐色土層（ローム粒とロームブロックを多量に含み、少量の焼土粒を均質に含み緻密である。）
- 第7層 茶褐色土層（径1mm程のローム粒を若干、白色テフラを微量含み、粘性はなく、緻密である。）
- 第8層 暗褐色土層（多量のローム粒、焼土粒、炭化物粒を含み、少量のロームブロックを含み粘性あり。）

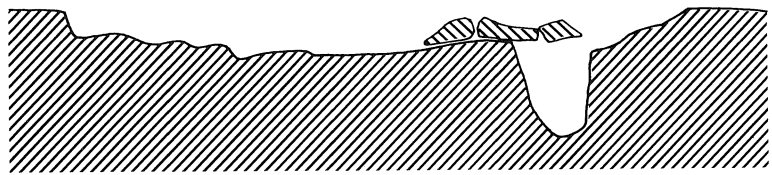


A

A' 93.6

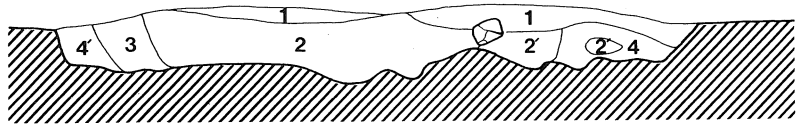
SK-37土層説明

- 第1層 暗褐色土層  
(炭化物を少量含む。)
- 第2層 黒褐色土層  
(保存状態よく、大型の木炭片を多量に含み3~5mm大の骨粉とロームブロックを含む。又、微量の赤色粒子を



B

B' 93.6

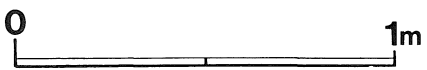
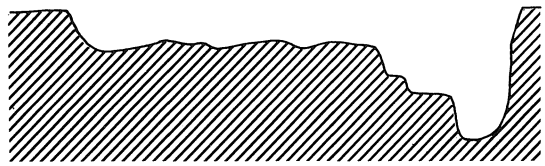


C

C' 93.6

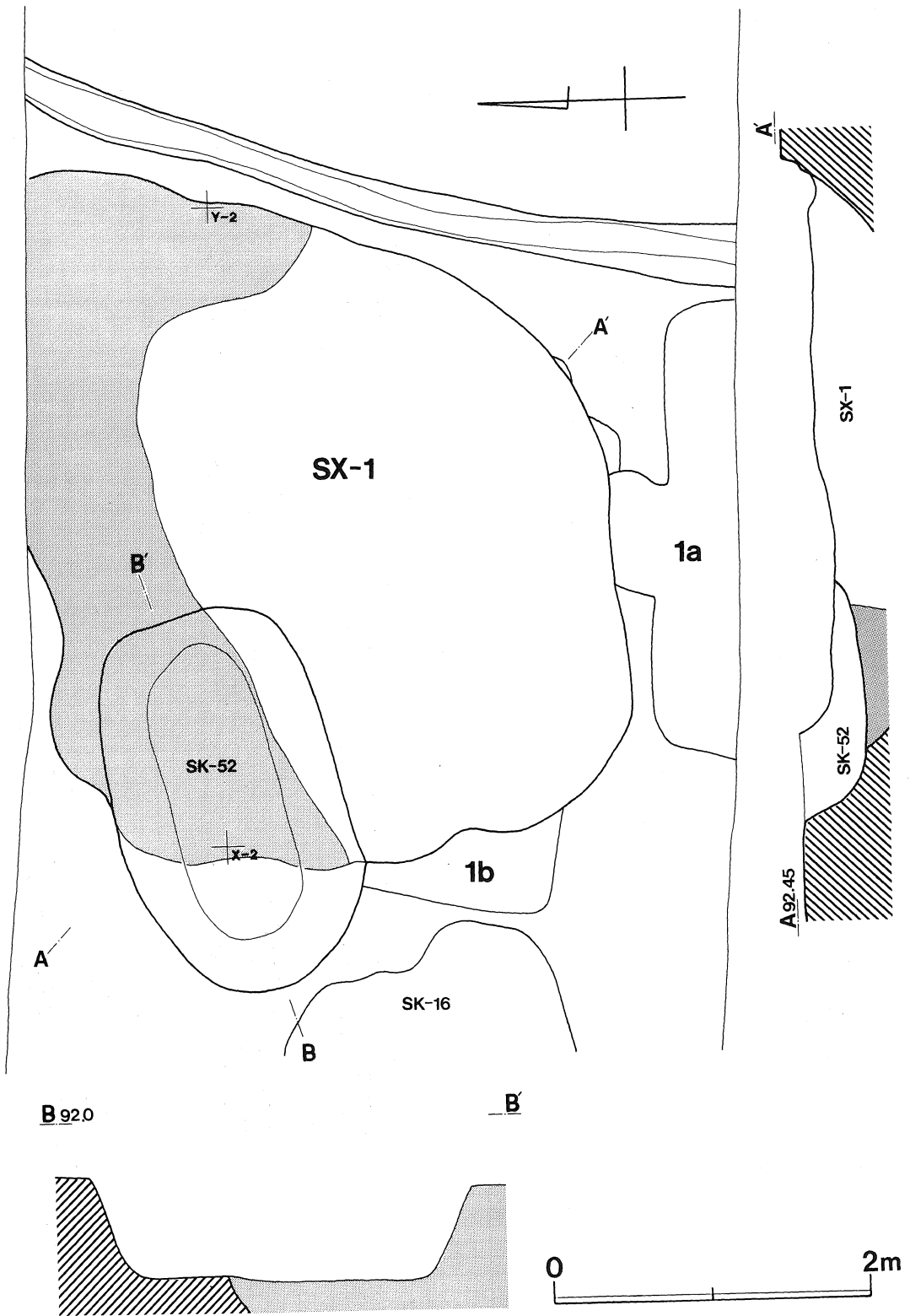
- 含み、粘性は弱く、粗である。)
- 第2'層 黒褐色土層 (8mm程の炭化物粒子を含み、黄色粒子も少量含む。2層よりやや暗い。)
- 第3層 黄褐色土層 (2層にロームブロックが混入したもので、やや粘性がある。)
- 第4層 茶褐色土層 (4mm程の黄色粒子を多量に含み、2'ブロックも含む。粘性弱く粗である。)
- 第4'層 茶褐色土層 (ほとんど粒子を含まない。)
- 第5層 黒褐色土層 (2~4mm程の黄色粒子を多量に含み、やや粘性がある。)
- 第5'層 黄褐色土層 (多量のロームブロックが混入。)

粘性 3>4>5>2>1

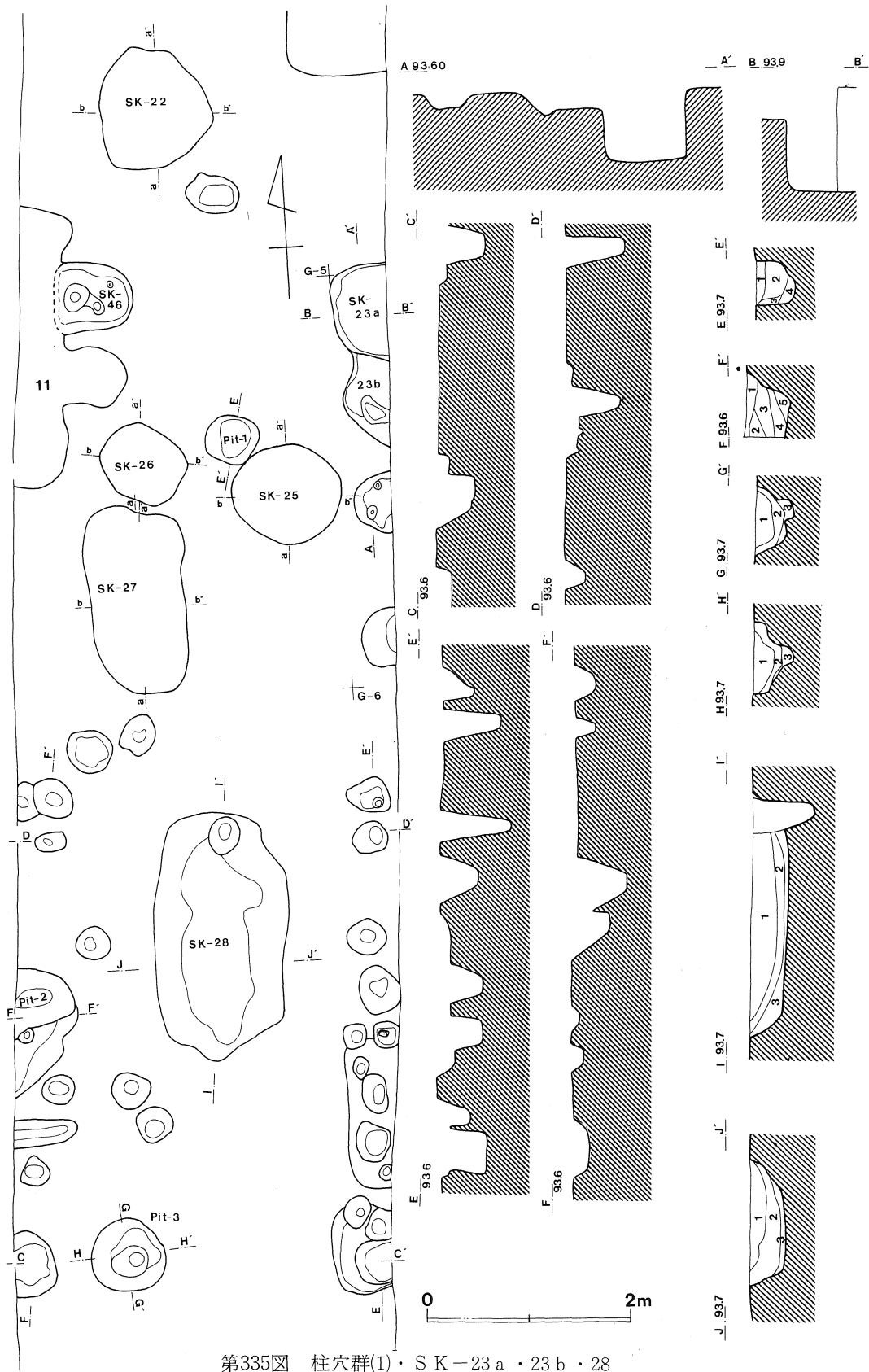


第333図 SK-37 a、37 b





第334図 SK-52・SX-1



第335图 柱穴群(1) · S K - 23 a · 23 b · 28

S K-28土層説明

第1層 暗褐色土層（ローム粒子及び0.5～2 cmのロームブロックを含む。）

第2層 褐色土層（ローム粒子及び0.5～2 cmのロームブロックを含む。）

第3層 暗褐色土層（ロームブロック少なく、比較的硬くしまっている。）

明度 1 > 3 > 2      ロームの量 2 > 1 > 3

Pit-1 土層説明

第1層 暗茶褐色土層（少量のローム粒子を含み粗く均質である。）

第2層 黒褐色土層（Ⅲに類似しローム粒子等を均質に含む。）

第3層 褐色土層（Ⅳに少量の黒色土、ローム粒子を含み硬質緻密である。）

第4層 暗褐色土層（多量のハードロームブロック、黒色ブロックを含み不均質で硬い。）

明度 2 > 4 > 1 > 3      ロームの量 3 > 4 > 1 > 2

Pit-2 土層説明

第1層 暗褐色土層（少量のローム、炭化物、ローム粒子を含み白色テフラを含み軟い。）

第2層 暗褐色土層（少量のローム粒子を含み緻密で粘性がある。）

第3層 暗褐色土層（多量のローム粒子、ブロックを含み不均質であるが硬い。）

第4層 暗茶褐色土層（Ⅲ、Ⅳによって構成され、少量のローム粒子、ブロックを含む。）

第5層 暗茶褐色土層（多量のロームブロックを含み不均質である。）

明度 4 > 1 > 3 > 2 > 5      ロームの量 5 > 3 > 4 > 1 > 2

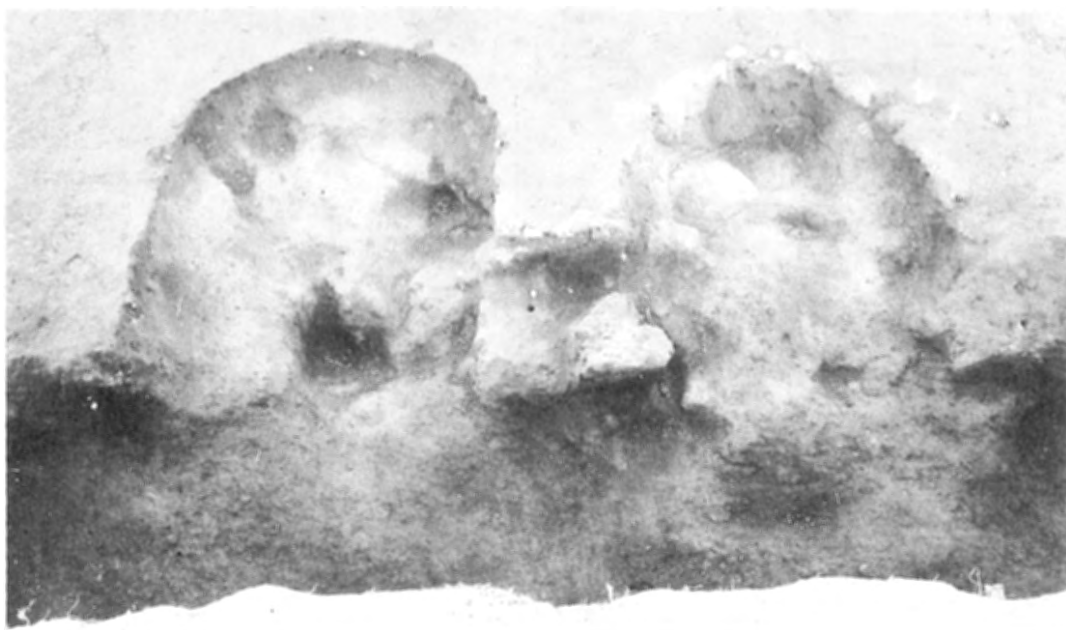
Pit-3 土層説明

第1層 黒褐色土層（少量の炭化物、焼土、ローム粒子を含み軟かい。）

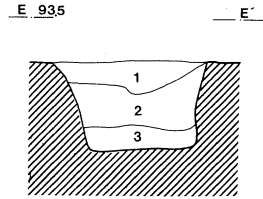
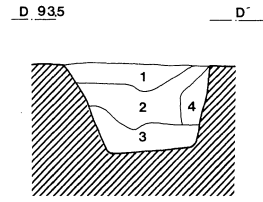
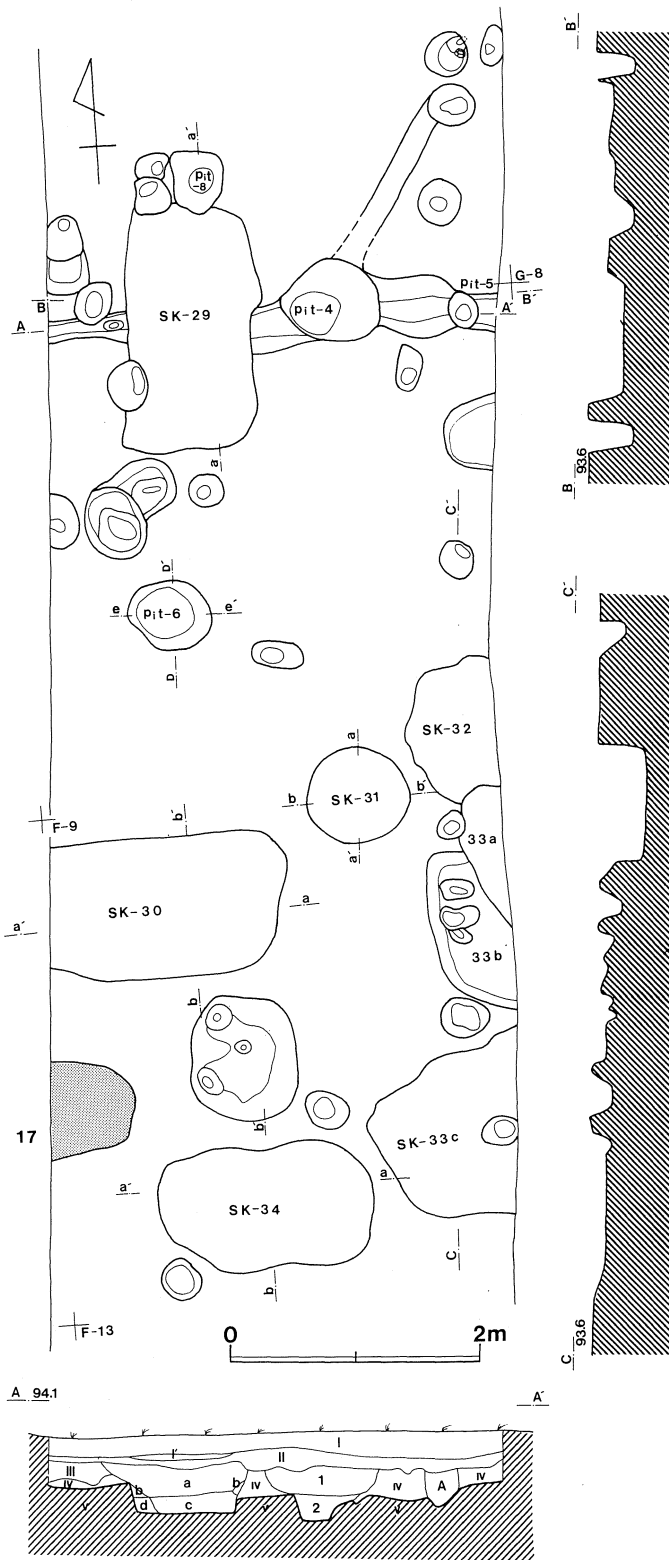
第2層 暗褐色土層（多量のローム粒子、ブロックを含み不均質である。）

第3層 褐色土層（地山褐色土にローム粒子を混入し緻密である。）

ロームの量 2 > 3 > 1



S K-46(左) 第11号住居址カマド(右)



0 50cm

Pit-4 土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (Ⅲに類似するが、Ⅳを多く含み均質。)
- 第2層 暗褐色土層 (1層に比べローム粒子多くやや明るい。)

Pit-5 土層説明

- 第A層 黒褐色土層 (Ⅳを基本に黒色土を混じ浅間山系B軽石を多く含む。)

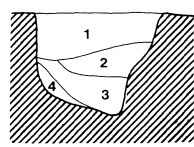
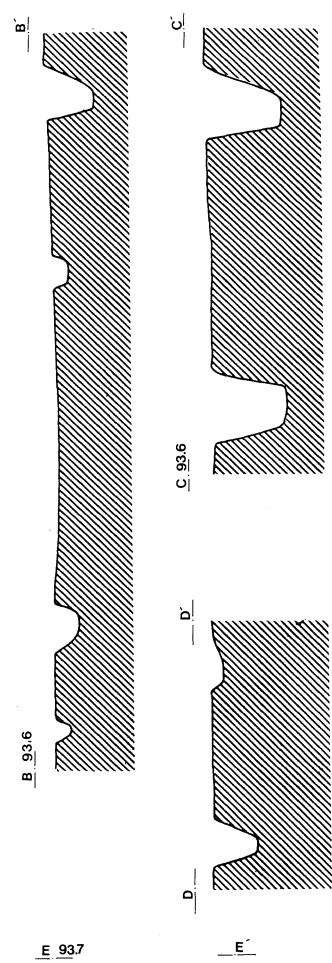
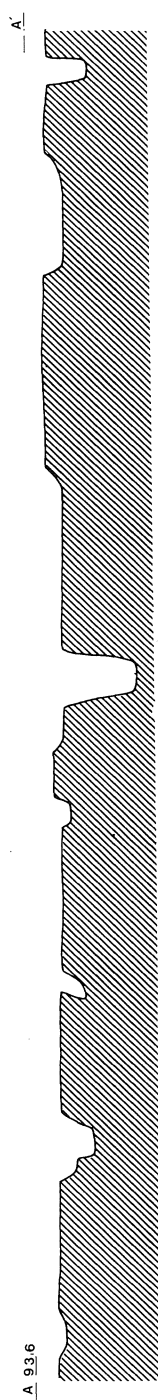
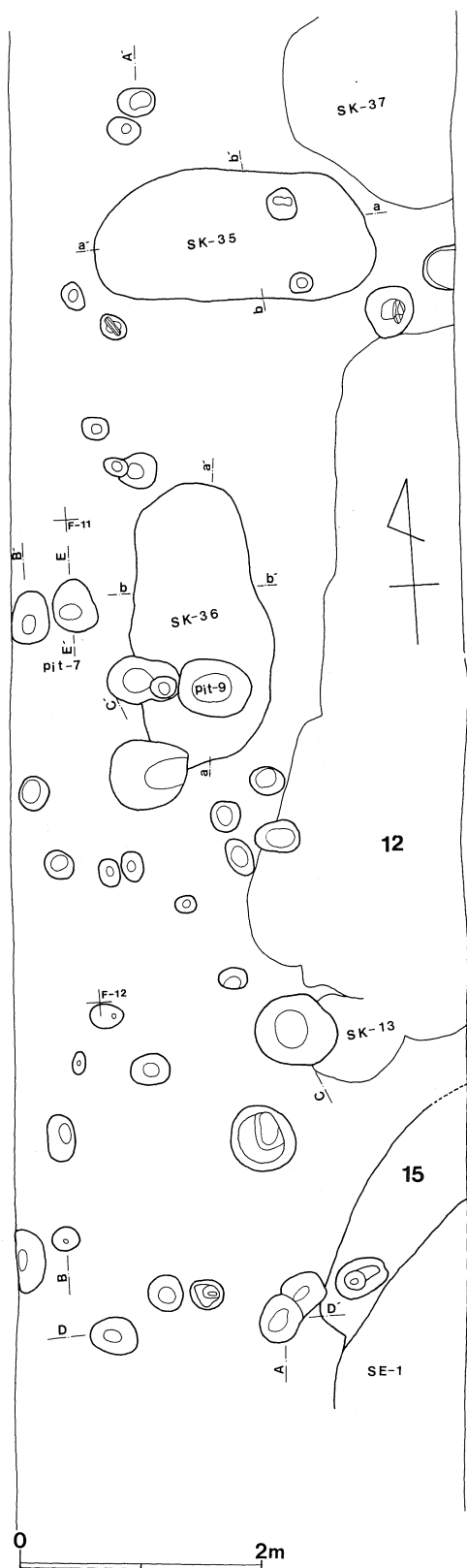
Pit-6 土層説明

- 第1層 暗褐色土層 (ローム粒、ロームブロックを多く含み、微量の焼土、炭化物粒子も含み均質である。)
- 第2層 暗茶褐色土層 (1~10mm大のローム粒を含み、少量の焼土、炭化物粒子を含む。1層に比べ均質緻密である。)
- 第3層 黒褐色土層 (多量のローム粒子、ハードロームブロックを含み、やや不均質で、粘性がある。)
- 第4層 暗褐色土層 (少量のローム粒子を含み均質である。)

明度 3 > 1 > 2 > 4

ロームの量 3 > 2 > 1 > 4

第336図 柱穴群(2)・SK-33b



Pit-7 土層説明

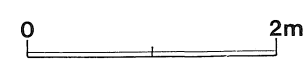
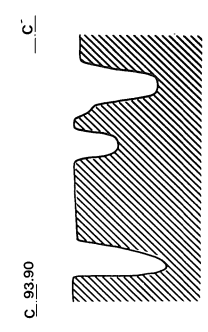
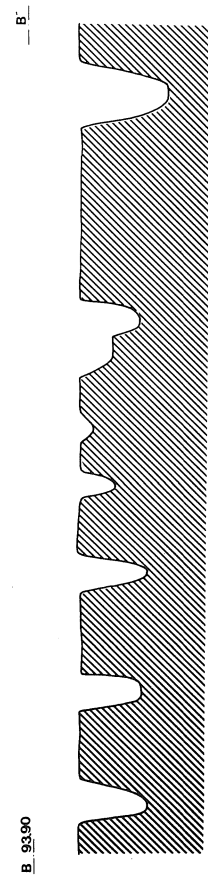
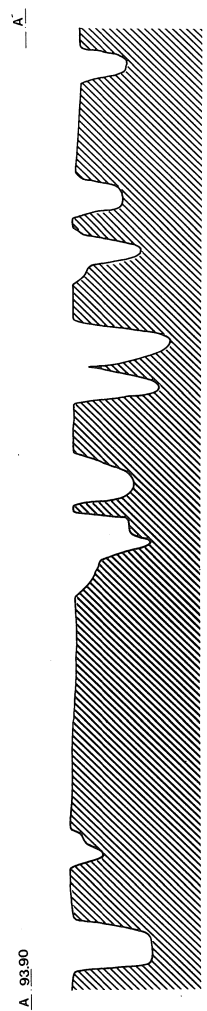
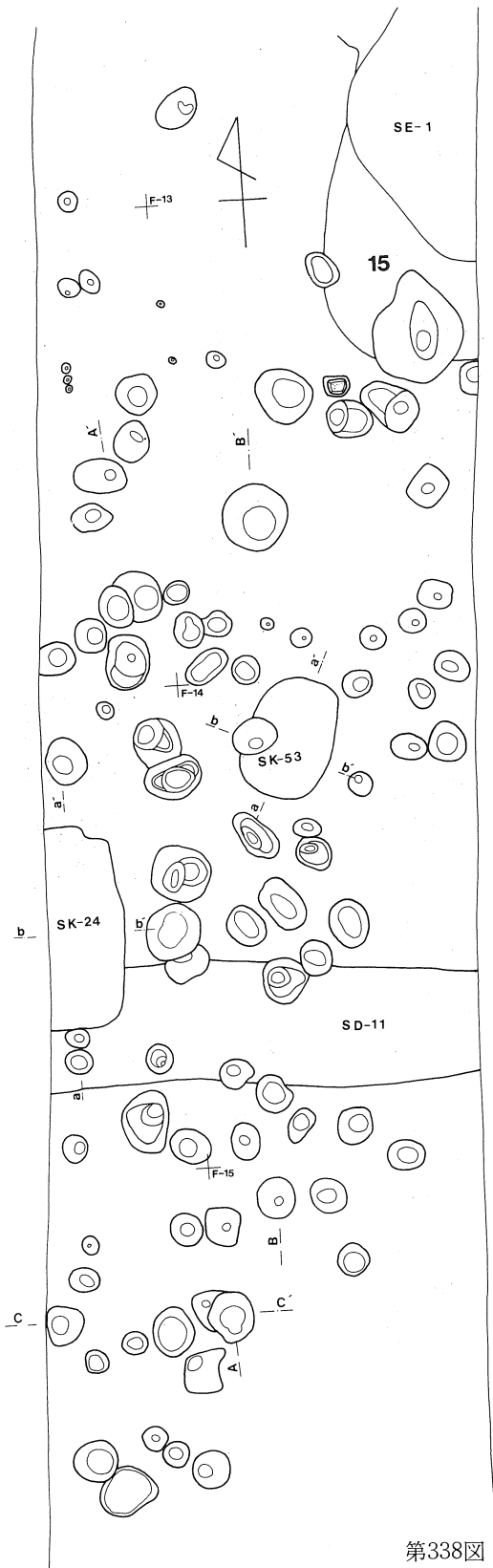
- 第1層 黒褐色土層 (ローム粒子、0.5 ~ 2 cm大のロームブロックを含み、かつ黒色土ブロックを含む。比較的均質である。)
- 第2層 黄褐色土層 (ローム粒子、ロームブロックに黒色土を混じる。粘性が強くやや不均質。)

第3層 暗茶褐色土層 (白色テフラを多量に含む基本土層に少量のローム粒子を含む。)

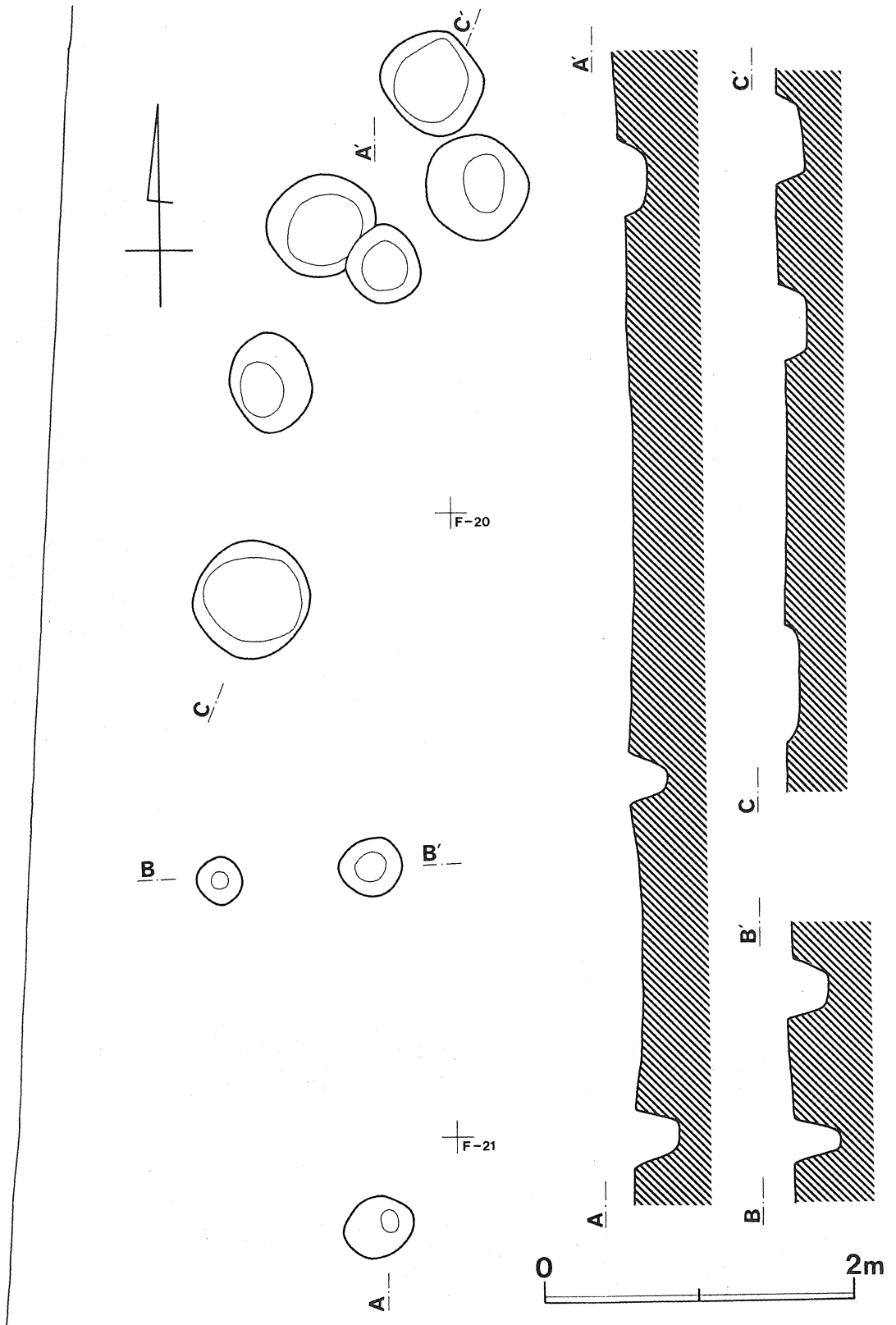
第4層 黄褐色土層 (ロームを主体に少量の黒色土を混入する。粘性が強い。)

明度 3 > 1 > 2 > 4    ロームの量 4 > 2 > 1 > 3

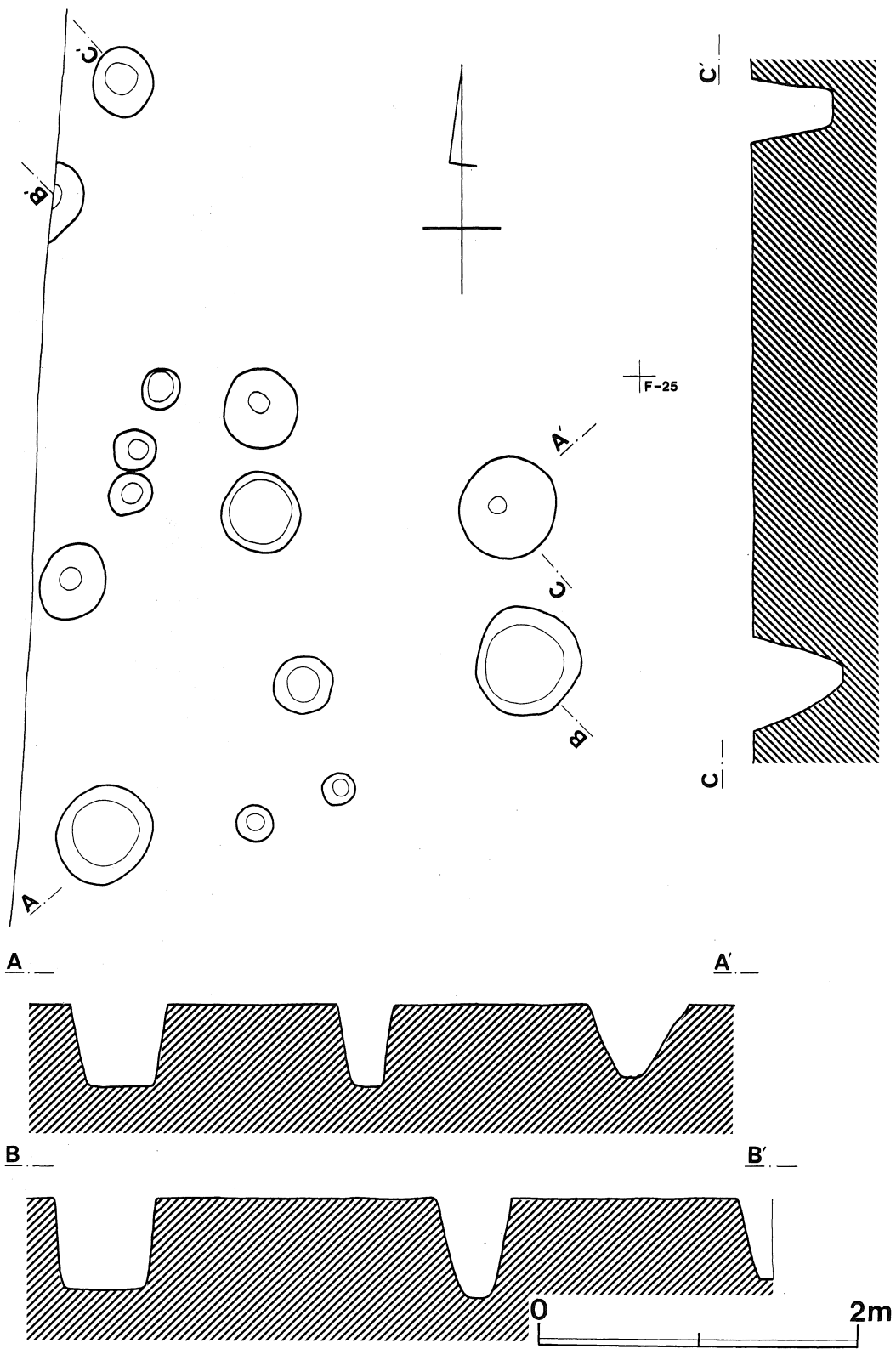
第337図 柱穴群(3)



第338図 柱穴群(4)

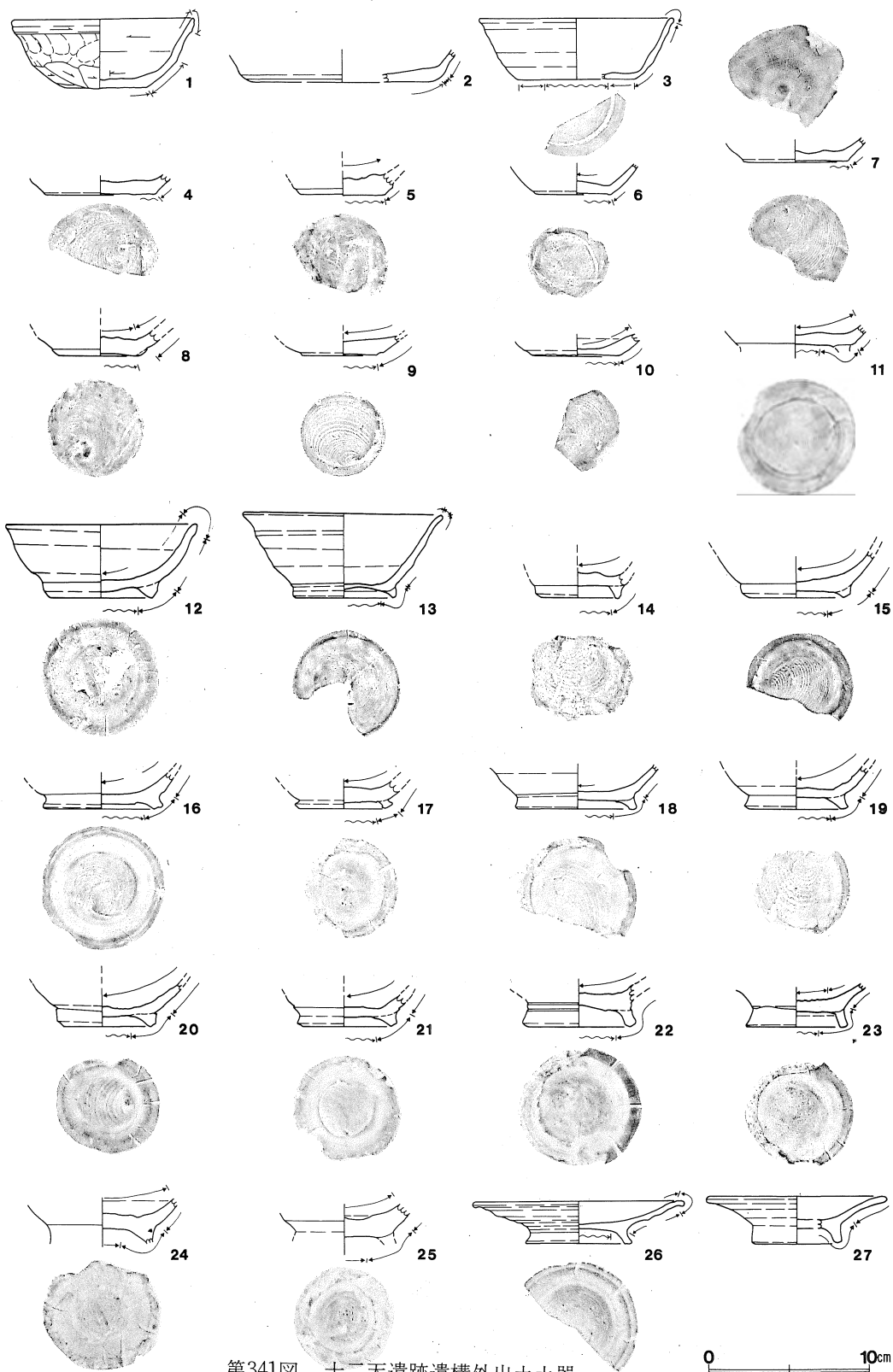


第339图 柱穴群(5)

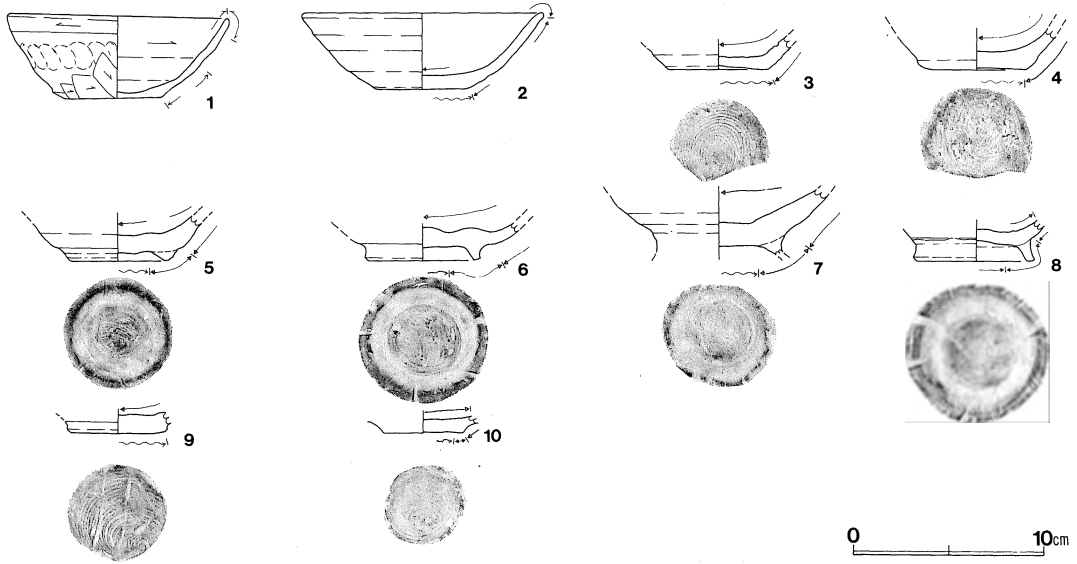


第340图 柱穴群(6)

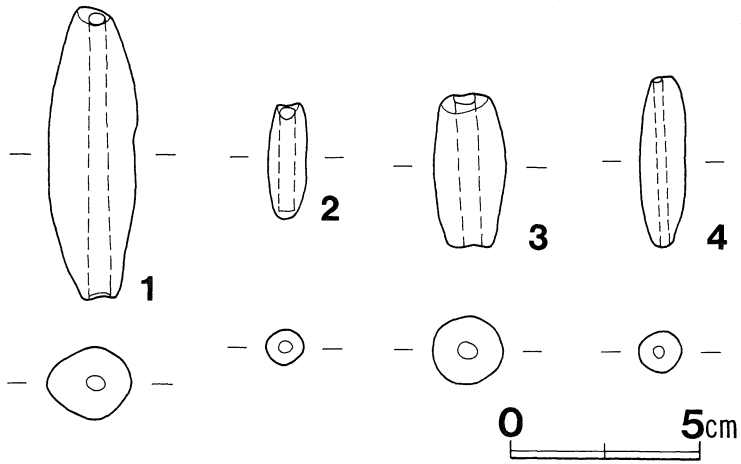




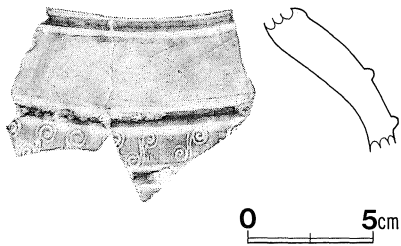
第341图 十二天遺跡遺構外出土土器



第342図 第2号住居址附近出土土器



第343図 十二天遺跡出土の土錘



第344図 十二天遺跡出土の火鉢

# 十二天遺跡出土の施釉陶器

坂野和信

本遺跡の調査によって検出された施釉陶器は、古代から近世の各時代にわたって認められ、緑釉、灰釉陶器、古瀬戸、青磁、染め付等である。このうち灰釉陶器は、遺構との伴出関係が明確にされ、比較的まとまった資料が得られており、椀、皿、壺類がある。椀、皿類には遺存状態の良好なものもみられるが、壺類は小残片の例が多く数量も少ない。また須恵器、土師器と、緑釉、灰釉陶器との出土量の比率は前者の1%にも満たない稀少性である。中世の陶器は、ごく少量で、当遺跡にみられる搬入製品の中で占める割合が低い。近世の陶磁は唐津系のももみられるが、土壇等の伴出関係が明確にされていないので、ここではたち入って述べないことにする。以下1. 遺構出土、2. 包含層出土のものに分けて、順次概要を記すことにする。なお、包含層から出土し細片であるものは土器観察表(第2表)で補足した。

## 1. 遺構出土の灰釉陶器

第1 a号住居址  
(第344図1.2)

1. 椀。口径14.2cm、器高4.5cm、ほぼ完形である。内湾して大きく広がる器体に丈のやや高い高台が付されるものである。口縁端部で小さく外反する。高台は中位外側で小さく突出するが、端部を丸く仕上げている。内底部に重ね焼の痕がみられる。2. 椀。口径14.0cm、器高4.2cm。口縁部上位の外側にゆるい段をつくって口端が外反する厚手の器体である。高台は端部に丸味をもつ断面三角形状である。調整手法は、1の内底部が糸切りのまま未調整、2は高台の接点から口縁部外面を1cm程の幅でヘラケズリされる。それ以外は両者ロクロナデによっているが、成形時のロクロ目が著しく、やや不備である。1は口縁部に灰褐色釉を漬けがけされる。2は無釉である。胎土は両者ともに暗灰色を呈し、微黒粒と1~2mmの砂粒を含み粘質性が劣る。焼成は還元気味である。1、2とも竈内から検出されたものである。

第3 a号住居址

長頸壺。体上部の小破片が検出されている。灰綠色釉が外面に薄くかかっている。胎土は暗灰褐色で細砂粒を含むが良質である。焼成はやや還元気味である。覆土中から検出された。

第5 b号住居址  
(第344図3)

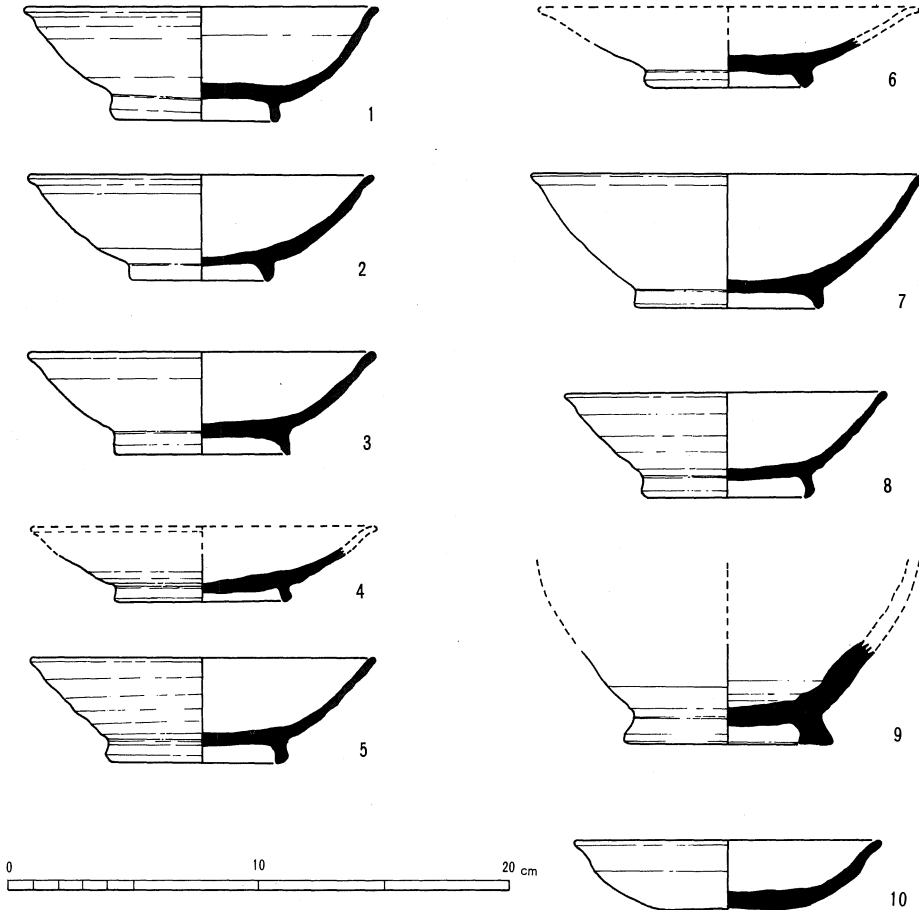
椀。口径14.0cm、器高4.1cm。口縁部は上位でわずかに曲折して小さく段をつくって外反するもので、細身のほぼ直立する高台を貼り付けている。調整手法は、底部外面をヘラケズリ、高台周縁から器体の内外面をロクロナデされる。高台の接合に際し不備な点がみられる。灰綠色釉が器体の内面から口縁部に施

されている。胎土は灰白色を呈し微黒粒、多くの砂粒を含んでおり、良質ではない。焼成は酸化焰によるとみられる。覆土より検出されたものである。

第7 a号住居址  
(第345図4・5)

4. 皿。推定口径14.0cm、器高 3.0cm、口縁上部を欠失する。外方にふんばる梯形状の高台を有するものである。調整手法は、底部外面を糸切りのまま未調整、高台周縁から器体の内外面はロクロナデされる。口縁部はロクロ成形時の不備が目立つ。口縁部の内面に薄く灰緑色釉がみられる。胎土は灰白色を呈し緻密であるが、若干の細砂粒が含まれている。焼成は良好である。竈内P-10から検出されたものである。

5. 椀。口径14.0cm、器高 4.1cm。わずかに内湾して直線的に開く薄いつくりの口縁部と、中央位で外側に突出する太目の高台とからなるものである。調整手法は底部外面をへラケズリ、高台の周縁から器体の内外面をロクロナデされる。ただ、器体はロクロ成形時の不備が目立つ。施釉は口縁部の内外面に淡灰黄色釉を薄く漬けがけされるが、外面は剥落している。胎土は灰白色を呈し



第345図 十二天遺跡遺構出土の施釉陶器

緻密で微黒粒と細砂粒を含む。焼成は良好である。Pit-1 内から検出された。また、図示しなかったが口縁部の小片もみられる。口縁上部に灰緑色釉が薄く漬けがけされている。口縁部の内外面をロクロナデされている。胎土は、灰白色でやや白味が強く良質である。焼成は硬緻である。やはり竈内から検出された。

第7c号住居址

椀。底部の小残片である。調整は底部と高台の境から口縁下位をヘラケズリ、高台の周縁と口縁部内外面をロクロナデされる。施釉は残存部にはみられない。胎土は灰白色で灰色が強く微黒粒を若干含んでいる。焼成は良好である。竈内から検出された。

第16d号住居址

(第344図6)

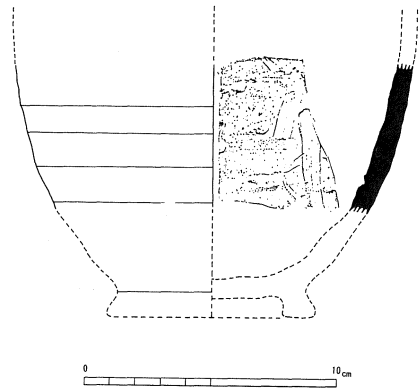
皿。推定口径15.2cm、器高 4.3cm。4と同様口縁上部を欠失する。大きく広がる口縁部に厚肉の高台が貼り付けられたものである。重ね焼の痕がみられる。調整手法は4と同様である。施釉は口縁部内面に灰緑色釉がみられる。胎土は灰褐色を呈し、微黒粒と多くの砂粒を含んでおり粘質性がやや劣る。焼成はやや甘い。竈内から検出されたものである。

SD-3

(第345図)

長頸壺とみられる長さ6cm、幅3~4.5cmの体部片である。胎土は灰白色でわずかに褐色を帯びる。微黒粒、1~2mmの砂粒を若干含むが良質。焼成も良好である。内面にはロクロナデで調整された後、棒状工具による幅0.7~1.7cmの毀損が横位と縦位に観察される。

横位は面取のされていない工具の小口面を上から突き刺すように6箇所、縦位は下から引き上げるように長さ2~3.5cm以上の痕跡が2箇所みられる。壺類の製作は体部を一担円筒状に挽き出してから、胴の張るエゴテ等を使用してつくり出す工程で行なわれる。ただし上記の痕跡はいづれもロクロ回転が静止した状態、つまり体部の製作が終了してから加え



第346図 SD-3 出土の長頸壺

られている。したがって成形時に工具が破損して生じたものではないことになる。

SD-10

(第344図7)

椀。口径16.0cm、器高 5.3cm。大ぶりの器体をもつもので口縁部は内湾して拡がり、口端は小さく丸めて仕上げられている。高台は梯形状である。調整手法は4、5と同様である。施釉は内面の口縁上部に淡黄色釉がみられる。胎土は淡灰褐色を呈し、微黒粒と多くの砂粒を含み粗質である。焼成は良好でない。覆土中より検出されたものである。

SK-1・7

長頸壺。頸部の小破片であるが、2つの土坑から検出された2片が接合された。頸部の内外面に淡緑色灰釉が厚く施され貫入がみられる。胎土は灰白色で良質、微黒粒と砂粒を含む。焼成は良好である。

SK-49

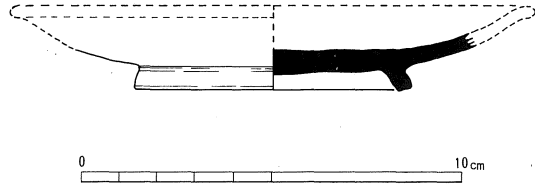
古瀬戸皿。口径12.2cm、器高2.7cm。厚肉で上底風の小さい底部から漸進的に腰部へ移行して、口縁部の上位で外反するものである。口端は丸く仕上げられている。調整は底部外面を糸切りのまま、口縁部から内底部はロクロナデされる。施釉は内面全体と口縁部上位の外面に淡緑色灰釉が厚くみられる。胎土は灰白色で細砂粒を若干含むが良質である。焼成は酸化焰により良好である。

(第344図10)

## 2. 包含層出土の施釉陶器

緑釉陶器

皿。推定口径13.8cm。器高2.2cm。浅い盤状の口縁部に外方へ強くふんばる長方形の高台を貼り付けたものである。口縁上部を欠失している。底部の内外面に三又トチンの目痕が観察される。調整手法は底部外面をへラケズリ、高台周縁部から器体の内外は全面にへラミガキされる。施釉は全面に緑釉がゆきわたり、細貫入も



第347図 十二天遺跡出土の緑釉陶器

認められる。胎土は淡灰褐色を呈し良質である。焼成も良好で硬緻である。当遺跡の西方EF-14地区から検出された。

灰釉陶器

8. 椀。口径12.8cm、器高4.1cm。直線的に外傾する小ぶりの器体に、細身の湾曲する高台を貼り付けたものである。器壁はやや薄くつくられているが、ロクロ成形の不備がみられる。調整手法は7と同様である。施釉は口縁部上位の内外面に淡灰褐色釉が漬けかけされている。胎土は緻密で微黒粒、細砂を含んでいる。焼成も良好である。当遺跡の北方H-2地区から検出された。

(第344図8・9)

9. 壺。底径8.2cm、底部の残欠である。大型で台形状の高台を有する。調整は底部から体部下半の外表面をへラケズリ、高台の周縁と底部内面はロクロナデされるが、体下部の内面はロクロ水挽きのまま未調整である。胎土は灰白色でやや黄味をおび、砂粒を含むが良質である。焼成も良好である。当遺跡の南方I-30地区から検出された。

器種名	調整手法	施 釉	胎 土	焼 成	出土地区	備 考
長頸壺	体部上位ロクロナデ、 下位ヘラケズリ。	濃緑灰色釉。	灰白色、若干微黒粒、 細砂粒含、良質。	良 好	DE-35	肩部の小片
碗	底部外面ヘラケズリ、 高台の周縁と口縁部 内外面をロクロナデ。	淡灰緑釉が内 底部に若干み られる。	灰白色、微黒粒若干、 砂粒を多く含み粗質	良好では ない。	EF-6	底部の小片
長頸壺	肩部の内外面ロクロ ナデ。	緑灰色釉。	灰白色1~2mmの砂 粒を含む。	良 好	EF-18	肩部の小片
碗	内底部から口縁上位 の外面をロクロナデ。 その下位をヘラケズリ。	口縁部に漬け かけ施釉。	灰白色、やや灰色が 強く、微黒粒を含み 緻密である。	硬 緻	F-11	口縁部の小 残片。
皿	高台の周縁部から口 縁部ロクロナデ。	残存部無釉。	灰白色、砂粒を含み 多気孔である。	良 好	F-16	底部の小片
壺	体部の内外面に丁寧 なロクロナデ。	緑灰色釉が厚 く施される。	灰白色、微黒粒と細 砂粒を含み精良。	硬 緻	F-10	肩下位から 体上部の破 片。
碗	底部外面ヘラケズリ、 高台の周縁から口縁 部内外面ロクロナデ。	口縁部内面と 底部の一部に 灰緑色釉。	やや暗い灰白色、微 黒粒、細砂粒を含む。	やや還元 気味。	GH-2	底部の小片
皿	底部外面ヘラケズリ、 高台の周縁と口縁部 内外面にロクロナデ。	口縁部内外面 に灰緑色釉。	灰白色、微黒粒、1~ 2mm砂粒含む。	良 好	G-29	底部の小残 片
段 皿	同 上	灰緑色釉が口 縁部内外面に 若干みられる	灰白色、微黒粒、細 砂粒含む。	良 好	I-29	同 上
碗	口縁部から底部の内 外面ロクロナデ。	残存部無釉	やや褐色を帯びる灰 白色、微黒粒、細砂 粒を含む。	やや甘い	R-3	同 上
長頸壺	口縁部から頸部ク ロナデ。	灰緑色釉が口 縁部から頸部 に施される。	灰白色、微黒粒含み 良質。	良 好	X-3	口縁部から 頸部の小片

第2表 包含層出土灰釉陶器一覧表

## 第12章 金屋遺跡群の提起する問題

### 第1節 ミカド遺跡出土の須恵器をめぐる問題

はじめに

筆者は埼玉県教育委員会の依頼で、埼玉県遺跡地図の基本資料となる遺跡緊急分布調査を行っていた1971年12月に美里村猪俣地内で、比較的古い須恵器の歪んだ小破片を2片採集した。その後、須恵器についての知識が深まるにつれて、極端に歪んだ須恵器が畿内などの先進地域から搬入されたとは考え難いこと、採集地が未野窯址群から4 kmしか離れない丘陵地帯であること、数百m離れた所に窯壁風のもの（鉄滓であったかもしれない）が落ちていた記憶などから、この近辺でもかなり古くから須恵器が生産された可能性があるのではないかと考えるようになった。以来、児玉郡を中心とする北武蔵における須恵器生産の開始時期は、生野山古墳群出土の叩き目のある埴輪や須恵質に焼けた埴輪などを焼いた窯と須恵器窯址が関係あるのでないかということ、当地方の竪穴住居址が他地域に先駆けてカマドを持つのは竈窯伝播の影響によるのではないかということ、土師器に須恵器の影響が認められる時期などから考えて、5世後半に遡る可能性を口頭で何度か述べてきたが、<sup>註1</sup>決定的な資料に欠けていたために文章化する機会を持たなかった。幸にも、今回のミカド遺跡の発掘調査は、これまでの私見を支持する材料を提供してくれた。調査の概要を公表するにあたって、これまでの私見を整理し、関東地方における須恵器生産の開始時期を予察することで、発掘調査の成果の一端を示すことにしたい。

今回の発掘調査で出土したミカド遺跡の土器類は、次に述べる理由から近辺に古式須恵器の窯址が存在することを示唆するものと考えられる。

#### ミカド遺跡の須恵器について

出土した須恵器は、3号住居址の高坏々部（第138図1・図版153—13）のように窯壁が付着したもの、50号住居址の坏（第136図2・図版153—6）のように生焼けで白っぽいもの、14号住居址の碗（第136図17）、19号住居址の甗（第138図3・図版154—7）、38号住居址の坏（第136図6・図版153—8）などのように器面の一部が海綿状化して歪んだもの、1号住居址の坏（第137図13・図版154—1）や11号住居址の甗（第138図2）のように酸化炎焼成のものなど、粗悪なものが多い。ところで、この時期の陶邑古窯址群の須恵器は、陶邑深田遺跡のような場所で選別されたと考えられているから、<sup>註3</sup>粗悪な品が地方に出回ることは少ないであろう。とすれば、粗悪な須恵器が陶邑以外の東海地方で生産された可能性は残るが、やはり、粗悪な品が多く出土したミカド遺跡は、遺跡の性格は別にして、陶邑深田遺跡のように窯址が近くに存在することを考えるのが妥当であろう。

1号住居址の坏（第137図13）は、無蓋高坏の坏部となるものを何かの理由で、脚部をつけないまま焼いたものと想定される。こうした転用品は、一般的



需要を満すものでないから窯業地域から離れた所ではほとんど流通しないものと考えられ、遺跡の近辺に窯址が存在することを示す根拠とされよう。

### 胎土分析の結果

ミカド遺跡出土の土師器と須恵器の胎土をケイ光X線分析法で分析した三辻利一氏は、下表のような結果を得ている。三辻氏の分析は、土師器と須恵器の胎土に共通の粘土が使用されていることを明らかにしている。しかし、鬼高期の土師器は児玉郡内においても若干の地域差が認められる程、狭い範囲内で流通したのが多いと考えられるから、ミカド遺跡出土の土師器で推定産地が未野系やかぶと塚・大橋系とされたものを未野や比企地方で生産されたと推定することはできないだろう。むしろ、このことはミカド遺跡周辺にも、未野系やかぶと塚・大橋系の粘土が存在することを意味するものと考えられる。従って、未野系やかぶと塚・大橋系と推定された須恵器の生産地を児玉郡地方に求めたとしても問題は無いことになる。いずれにしても、ミカド遺跡出土の古式須恵器で、胎土分析をしたものは埼玉県内で生産されたと考えられる。

ミカド遺跡では、鬼高I期の一般の遺跡に比べれば須恵器が多く出土し、そのためか須恵器の蓋環を忠実に土師器で模倣した所謂模倣塚がほとんど存在しない。それに対して、冢の口縁部や甕の口唇部などに須恵器の影響を受けたと認められるものが少なからず存在するのは、一般の遺跡と違った現象である。これらの現象は、須恵器の生産地に近い地域の現象ではないだろうか。

試料番号	出土場所	土器の種類	生産時代	K	Ca	Rb	Sr	推定産地
10071 No. 1	23号住覆土	須恵器	古墳時代	0.47	0.18	0.52	0.24	未野系
10072 No. 2	45号 "	"	"	0.21	0.44	0.19	0.38	かぶと塚・大橋系
10073 No. 3	1号住床	"	"	0.25	0.51	0.20	0.37	"
10074 No. 4	12号 "	"	"	0.43	0.61	0.45	0.59	"
10075 No. 5	42号 "	"	"	0.45	0.14	0.55	0.19	未野系
10076 No. 6	47号 "	土師器	"	0.42	1.09	0.21	0.55	かぶと塚・大橋系
10077 No. 7	47号 "	"	"	0.21	0.78	0.21	0.48	"
10078 No. 8	18号 "	"	"	0.34	1.11	0.20	0.59	"
10079 No. 9	18号 "	"	"	0.19	0.65	0.16	0.49	"
10088 No.10	土器ブロック	土師器	平安時代	0.51	0.78	0.41	0.53	俣埜・新開系
10081 No.11	5号溝	"	"	0.41	0.92	0.34	0.69	かぶと塚・大橋系
10082 No.12	土器ブロック	"	"	0.49	0.78	0.43	0.54	俣埜・新開系
10083 No.13	5号溝	"	"	0.45	0.89	0.29	0.68	かぶと塚・大橋系
10084 No.14	"	須恵器	"	0.45	0.35	0.40	0.26	大橋系
10085 No.15	"	"	"	0.47	0.31	0.40	0.70	俣埜・新開系
10086 No.16	"	"	"	0.58	0.53	0.39	0.39	不明
10087 No.17	"	"	"	0.45	0.48	0.47	0.45	不明

児玉町ミカド遺跡出土土器の産地推定(埼玉県立歴史資料館研究紀要第1号による)

次に、ミカド遺跡の周辺に、児玉郡地方で古式須恵器の生産が行なわれていたことを示す根拠となる遺物を出土する遺跡を求めてみよう。

#### 長沖2号墳の高 環

ミカド遺跡の東南2.5kmの所に存在する長沖古墳群<sup>註5</sup>は、5世紀代から7世紀代にかけて築造されたと考えられている古墳群である。この古墳群中の小円墳である2号墳からは、鬼高I期の土師器の環に伴出して須恵器の無蓋高環が出土している。この高環は焼成が悪くて歪んでいることや、脚部に長方形四方透しの古い要素が認められる一方、坏部が残く、波状文がミカド遺跡1号住居址の環、同33号住居址の無蓋高環などのように粗雑化した新しい要素も認められることなどから、在地で生産されたものと考えられる。

#### 後張遺跡の須恵 器

ミカド遺跡の北東6kmの所に存在する後張遺跡<sup>註6</sup>は、五領期から鬼高I期の拠点集落と考えられる大集落である。この遺跡の鬼高期の竪穴住居址からは、ミカド遺跡に近い量の須恵器が出土している。それらはミカド遺跡のものに比べて精品が多いが、焼成不良のものや窯壁の付着したものなども若干存在するという。おそらく、後張遺跡出土の須恵器の大半も在地のものであろう。

#### 格子引き目のあ る埴輪

ミカド遺跡の東3.5kmの所に存在する生野山将軍塚古墳は、生野山古墳群の形成や主体部などから、5世紀中葉頃に築造されたと推定される径60mの円墳である。この古墳からは、格子引き目のある円筒埴輪片が採集されている。

ミカド遺跡の東北東4.5kmの所に存在する金鑽神社古墳は、朱塗の箱式石棺が存在することなどから、5世紀後半代に築造されたと推定される径6.5m<sup>註7</sup>の円墳である。この古墳からも格子引き目のある円筒埴輪片が採集されている。

このような引き目のある円筒埴輪<sup>註8</sup>は、川西宏幸氏が指摘するように、須恵器生産に従事する者によって製作されたものであろう。とすれば、埴輪は須恵器と違って、埼玉県内の埴輪窯址分布などからみると6km以上離れた所にはほとんど運ばれないと想定されるので、引き目のある円筒埴輪を持つ古墳が2基存在するこの地域には、須恵器の窯址と工人が存在したと考えられる。おそらく、これらの埴輪は、この地域での窯窯による埴輪の生産と須恵器の生産が密接な関係をもって始ったことを示すものであろう。なお、ミカド遺跡の東北8kmの所に存在する笠ヶ谷戸遺跡<sup>註9</sup>からは、平行引き目のある和泉式土器の甕が出土しているが、この引き目の系統は、庄内系か須恵器系か検討を要する。

#### 窯址存在候補地

以上の理由から、児玉郡内に古式須恵器を焼いた窯址が存在することは確実であり、その存在する候補地として、格子引き目のある円筒埴輪を持つ古墳が2基存在する生野山丘陵、ミカド遺跡の西南1kmの所に存在する飯倉瓦窯址周辺、別系統の可能性もあるが猪俣周辺などがあげられる。以下、筆者は児玉郡内に存在が予想される未発見の窯址に対して、児玉古窯址と仮称し、その成立や操業時期について若干の考察を加えてみることにしたい。

ミカド遺跡出土の須恵器は、蓋環・有蓋高環・無蓋高環・埴輪・壺・大形甕

小形甕・樽形甕・大形甕・小形甕などで、集落遺跡からはあまり出土しない器台を除けば、ほとんどの器種に及んでいる。しかも、これらの須恵器のほとんどは在地の製品とみられるものであるから、児玉古窯址で生産された須恵器の器種構成は陶邑古窯址群のそれに近いものであったと考えられる。このことは児玉古窯址の工人が陶邑からやってきた可能性が強いことを示すものであろう。

## 児玉古窯址の時期

児玉古窯址の出現時期を考える上で最も重要な遺物は、格子扣き目のある円筒埴輪である。というのは、格子扣き目は本来須恵器の甕に施されるもので、陶邑古窯址群では最古の須恵器の型式とされるTK73型式・I型式1段階以外にはほとんど認められないというから、児玉古窯址の工人が陶邑からやってきたとすれば、その時期は格子扣き目が盛んに使用された期間内に求められるからである。そして、TK73型式の時期が5世紀中葉と考えられていて、格子扣き目のある埴輪を持つ生野山將軍塚古墳も5世紀中葉と推定されているので、格子扣き目技法の伝播、即ち須恵器工人の移動時期を5世紀中葉頃に想定しても問題がないだろう。一方、金鑽神社古墳が5世紀後半代だとすれば、児玉古窯址では格子扣き技法は若干遅くまで残るものと考えられる。

また、これまでに遺跡から出土している須恵器からみれば、児玉古窯址はTK208型式・I型式3段階の時期には確実に存在したと考えられる。その理由として、陶邑古窯址群ではTK23型式以後ほとんど製作されなかったと考えられる長方形四方透しの高坏が長沖2号墳、同じように考えられる樽形甕がミカド遺跡24号住居址、TK216型式に類似する甕がミカド遺跡32号住居址、TK208型式に類似する甕がミカド遺跡19号住居址と33号土塚から出土しているからである。これらの遺物の時期を直ちに、TK208型式・I型式3段階以前とすることには問題があるが、陶邑から工人が移動したとすれば、その時期はそれらの器形が盛んに製作されていた時期に求められるだろう。一方、ミカド遺跡出土の坏類の多くは、3号住居址のように若干新しく考えられるものもあるが、TK23型式やI型式4～5段階に類似するものである。たぶん、これらがミカド遺跡の須恵器の大半の時期を示すものであろう。

以上の理由により、児玉古窯址の成立時期はTK73型式・I型式1段階からTK208型式・I型式3段階の間と考えられるが、この時期のものがほとんど出土していないのは、竪穴住居址以外の古墳や祭祀の場で主に使用されたからであろう。和泉期に須恵器が存在したことは、行田市武良内遺跡の2号住居址註11の甕のようにTK73型式・I型式1段階のものを忠実に模倣したものや、須恵器の影響が明らかな甕が児玉郡地方で竪穴住居址にカマドが出現する時期から多く出土することによっても明らかである。なお、和泉期の後半には、甕以外にも、埴、壺、埴にも須恵器の影響が多少認められるようである。

児玉古窯址の操業期間は、ミカド遺跡の3号住居址の須恵器からMT15型式

・II型式1段階まで続いたと考えられる。そして、それ以後も青柳古墳群、長沖古墳群、大町古墳群<sup>註13</sup>、生野山古墳群などから出土した焼成の悪い須恵器からみて、児玉郡内の須恵器生産は小規模ながら連続と続いたものであろう。

ミカド遺跡の須恵器の出土量が鬼高I期の遺跡一般に比べて多い理由の一端は既に述べたとおりであるが、遺跡の特殊性も考慮しなければならないだろう。というのは、この遺跡では竪穴住居址からの手捏土器や石製模造品の出土率も高く、17号住居址のように剣形模造品と有孔円板がまとまって出土したり、24号住居址のように竪穴住居址からの出土例が少ない瓠形土製品などが出土しているからである。そして、ミカド遺跡の性格を特徴づけるものは、土壇と円形特殊遺構の存在であろう。土壇は、口縁部が意識的に打ち欠かれ、注口を使用痕のある須恵器の甗、土師器の甗、石製模造品の白玉など祭祀的遺物を出土したものなどがあり、祭祀に関係ある遺構と想定される。円形特殊遺構は類例がなく、今後もその性格を追求しなければならないが、祭祀に関係あると考えられる土壇が近くにあること、竪穴住居址の存在しない空間に位置する傾向、民俗例などからみて、祭祀（神事）を執り行なう仮屋のような遺構の跡ではないかと想定しておこう。なお、円形に廻る溝は神事を執り行なう所と外部とを遮断するために廻らされた壁を支える溝と想定しておきたい。おそらく、ミカド遺跡はこうした仮屋での祭祀が行なわれるような遺跡であるから、須恵器の出土も多いのであろう。そして、こうした祭祀に須恵器が使用されることから、地方窯が成立して行くものと考えられるが、これについては別稿で触れたい。

### 円形特殊遺構

### 東北地方の窯址

ミカド遺跡出土の須恵器から、児玉郡地方における須恵器の生産が日本に須恵器の技術が伝来して間もない頃に開始されたことが明らかになった。同様な見解は、TK 216型式類似の須恵器を焼いた大蓮寺窯址<sup>註14</sup>が宮城県仙台市で発見されたのを契機に、福島県内でも出されており、大蓮寺窯址だけが特殊でないことを示している。なかでも、伊達郡国見町下入ノ内遺跡1号住居址<sup>註15</sup>はTK 73型式の要素やTK 216型式の特徴を示す在地製の可能性がある須恵器が、カマドを持つ住居址から出土しているもので、窯址の成立とカマドの出現とが関係あることを示す例として注目される。おそらく、福島県内の須恵器窯址の成立も中通り地方に多く分布する祭祀遺跡の形成と結びつくものと考えられ、畿内政権の東国経営を背景に持つものであろう。これらのことから、関東地方でも、今までに出土している須恵器を考古学的方法と科学的方法による検討を行なえば、数ヶ所で古式須恵器の窯址の存在が推定されるであろう。私見では、東京国立博物館展示の前橋市付近出土とされる長方形四方透しの長脚化した無蓋高坏などは、群馬県内に太田市菅ノ沢窯址群などで発見されているものよりもはるか古くから、窯址があることを示す資料であると考えている。

近年、埼玉県内でも須恵器<sup>註16</sup>の研究が盛んになり、多くの成果をあげている。

しかし、それらの研究の多くは古式須恵器が陶邑のものであるという前提から、田辺昭三氏の編年大系を適応する作業に終止するものであった。今後は、在地製のものと搬入品を識別し、搬入品によるクロスチェックから、地域における須恵器と土師器の編年が検討されて行かなければならないだろう。

(坂本和俊)

註

- 1) 乾芳宏・亀谷康隆「埼玉県生野山將軍塚採集の埴輪片」『月刊考古学ジャーナル』97号 1974
- 2) 1975年9月27日の土曜考古学研究会で、今泉泰之氏が「鬼高式土器と須恵器」について発表した時に、猪俣採集の須恵器片を提示して私見を述べたのが最初である。その後、1976年11月28日に、第3回埼玉考古学会研究会の「埼玉の須恵器」の発表会で、埴輪生産と須恵器生産の関係について意見を求められて、私見を述べた。また、ミカド遺跡については、1978年10月21日の土曜考古学研究会で、「東国の窯業生産の開始をめぐる」という題で私見を発表している。
- 3) 中村浩ほか『陶邑・深田』大阪府文化財抄報第2輯 大阪府教育委員会 1973
- 4) 三辻利一・高橋一夫「埼玉県内窯跡出土須恵器の胎土分析とミカド遺跡出土土器の産地推定」埼玉県立歴史資料館研究紀要第1号 1979 資料の分析をして頂いた両氏に感謝したい。
- 5) 菅谷浩之ほか『長沖古墳群』児玉町文化財調査報告書 第1集 1980
- 6) 増田逸朗・宮崎朝雄「児玉町後張遺跡の調査」『第10回埼玉県遺跡調査報告会発表要旨』1977
- 7) 1980年12月に町史編さん事業のために墳丘の測量調査が行なわれた折などに採集されている。
- 8) 川西宏幸「淡輪と首長と埴輪生産」『大阪文化誌』第2巻第4号 1977
- 9) 長谷川勇氏の御教示による。遺物は本庄市立歴史民俗資料館で展示のものを写真。
- 10) 田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古クラブ 1966 同「須恵器」『日本美術工芸』390~2 1971 中村浩『陶邑』Ⅰ 大阪府文化財調査報告書第28輯 大阪府教育委員会 1976 同『陶邑』Ⅲ 大阪府文化財調査報告書第30輯 大阪府教育委員会 1978
- 11) 田部井功・金子真土・栗原文蔵『鴻池・武良内・高畑』埼玉県遺跡発掘調査報告書第11集 埼玉県教育委員会 1977 なお、問題の土器は報告書では、胴部中央にめぐる凹線が図示されていないが、さきたま資料館に展示されたのを見ると須恵器を真によく模倣したもので、凹線まで表現したのが注意される。
- 12) 菅谷浩之・増田逸朗・駒宮史朗『青柳古墳群発掘調査報告書』埼玉県遺跡調査会報告第19集 埼玉県遺跡調査会 1973
- 13) 小淵良樹ほか『広木大町古墳群』埼玉県遺跡調査会報告第40集 埼玉県遺跡調査会
- 14) 結城慎一・渡辺泰伸『陸奥国官窯群Ⅱ』古窯跡研究会研究報告第4冊 古窯跡研究会 1975 渡辺泰伸「東北古墳時代須恵器の様相と編年」考古学雑誌第65巻第4号 日本考古学会 1980
- 15) 佐藤博重ほか「下入ノ内遺跡」『伊達西部地区遺跡発掘調査報告』福島県文化財調査報告書第82集 福島県教育委員会 1980
- 16) 埼玉県内の須恵器の研究は、土師器の細分と編年を行なうために進展した。その成果は各種の報告書に示されている。

追記 ミカド遺跡出土の須恵器については、田辺昭三氏、中村浩氏をはじめとして多くの方から御教示を得た。また、須恵器の実測図は守屋幸一氏による。記して、感謝の意を表したい。

## 第2節 金屋圃場整備区域内遺跡の変遷—まとめにかえて—

「金屋遺跡群」は、児玉町第2次農業構造改善事業（金屋圃場整備事業）地内に存在する遺跡の総称である。したがって考古学的な意味での「遺跡群」としての呼称ではない。しかし、これらの遺跡はそれぞれ歴史的な関連を有していると考えられることから、周辺遺跡をも含めて、本来の意味での遺跡群の概念に止揚することが必要となろう。ここでは、各遺跡の変遷をとおして本区域の開発や土地利用のあり方を概観し、遺跡間の歴史的な関連の一端を示し、まとめにかえたい。

### 弥生時代の遺跡

本区域内では、弥生時代の遺構の検出はなく、ミカド遺跡で吉ヶ谷系土器の小破片が出土しているに過ぎない。しかし、本区域に近接する丘陵や武蔵野面相当の台地上には集落の存在が予想されている。このことは、該期には本区域のような立川面相当の台地や低地に集落を営むことが一般的でなく、生産の基盤が主に谷水田にあったためであろうと考えられる。

### 五領期の遺跡

五領期に入ってもこの傾向は続くが、ミカド西遺跡からミカド遺跡にわたる集落や十二天遺跡の土塚等、立川面相当の台地上や低地内の微高地に生活域の拡大が認められる。また、乙中ノ堰遺跡のように赤根川の低地帯にも地点的にはあるが水田が営まれていたことは、周辺地域の地神祇A遺跡、石蒔B遺跡、西浦北遺跡、日の森遺跡、北貝戸遺跡等で該期に機能していたと考えられる溝状遺構が検出されていることと対応するものであろう。おそらく該期には、弥生時代以来の谷水田の経営とともに、S字状口縁甕とともにもたらされた新しい用排水技術が適用され可耕地が拡大したものと考えられよう。

### 和泉期の遺跡

和泉期の集落は、本区域内では発見されていない。しかし、五領期のあり方をひきつぐものと推定され、前畑遺跡、地神祇A遺跡、一丁田遺跡、社具路遺跡等で検出されている溝状遺構もおそらく該期に機能していたものであろう。したがって該期には、五領期に開削された溝が利用されるとともに、更に同様の溝が掘られ、生産の量的な増大がはかられたものと推定される。

### 鬼高期の遺跡

鬼高期に入ると、本区域周辺では長沖古墳群や飯倉古墳群が形成され、遺跡数も増加する。この時期には、赤根川流域の低地内微高地への集落の進出がめだち、本地区内のミカド遺跡をはじめ、後張遺跡、共和小学校校庭遺跡等が形成される。おそらく前時期より低地の開発が進んだ結果であろうが、該期以降鬼高Ⅲ期まで水路状遺構の検出例は認められていない。あるいは、従来の調査地点が集落域に限定されているために検出されにくいのかも知れないが、むしろ前期古墳を造営したような古い共同体の紐帯が弛緩したために、大規模な用排水路掘削に労働力を結集しにくくなったためと考えられよう。また、鬼高Ⅱ期になると再び集落は丘陵部に増加するようになるが、このことは用排水技術との関連よりもむしろ、畑地の開墾と宅地のあり方が関連を有していたためと推定される。

## 奈良平安時代の遺跡

鬼高Ⅲ期頃から真間期にかけては、用排水技術上の大きな画期が認められる。本区域内では、一町田遺跡や十二天遺跡で検出された大溝にその現象が認められ、また周辺地域でも久城前遺跡、諏訪遺跡<sup>(註9)</sup>、後張遺跡<sup>(註8)</sup>等と同様の溝状遺構が検出されている。おそらく、これらの溝状遺構の掘削と、この地域の条里形地割りの施工とは関連を有しているものと考えられよう。しかし、これらの溝状遺構は条里の走行には合致せず、むしろ地形に沿って設けられていることは注意されてよい。該期の溝状遺構には、これらの大溝の他に十二天遺跡SD-4・5のような中規模のものと円良岡遺跡SD=2のような掘り込みを持たず畦畔に挟まれたものがあり、条里や坪に沿って存在するのは主にこれらの溝であると推定している。これらの時期より、集落は更に低地内微高地に拡散し、自然堤防の未発達な地点にまで集落の占地域が拡大されたことは注目されよう。

平安時代後半に入ると、十二天遺跡SD=3のように廃絶される大溝も出現し、公水の意識の変化を窺わせる。また、土師器や須恵器にも変化が認められ、従来の北武蔵型坏や上武型甕の型式学的な連続が崩壊し、軟質で粗悪な須恵器も増加する。このことは灰釉陶器の流入の現象とともに、従来の生産体制に変化があったことを示唆している。

## 中世の遺跡

中世以降になると、各遺跡とも遺構の残存度が低く、また遺物の編年研究も遅れているため不明瞭な部分が多い。しかし、13世紀代には用水目的以外と思われる溝がミカド遺跡で出現し、溝中より馬の歯が検出されていることは、同時期と思われる建物遺構の存在とともに注目される。付近に館跡と伝えられる地点も存在しているところから、館址関係の遺構とも考えられよう。中世の遺構は他に十二天遺跡とミカド遺跡で15世紀代と考えられるものが検出されている他、上一ノ堰遺跡では、16世紀代の鋳物業を営んだと考えられる民家址等が検出されている。

以上、時期をおって金屋圃場整備区域内の遺跡を中心とする当地域の変遷を概観した。しかし、未解決な問題は多く、今後の検討に期待される。

(鈴木徳雄)

註1) 佐藤忠雄(1978)「後榛沢遺跡群の調査」岡部町教育委員会

2) 佐藤忠雄(1979)「大寄B遺跡・西浦北遺跡」岡部町教育委員会

3) 菅谷浩之他(1978)「日の森遺跡発掘調査概報」美里村教育委員会

4) 菅谷浩之・坂本和俊(1977)「北貝戸一県営美里ほ場整備事業地内遺跡」美里村教育委員会

5) 今井宏・曾根原裕明氏の御教示による。

6) 長谷川勇氏の御教示による。

7) 金子章他(1980)「長沖古墳群」児玉町教育委員会

8) 増田逸朗・宮崎朝雄(1977)「児玉町後張遺跡の調査」第10回調査報告会要旨

9) 宮崎朝雄他(1978)「中堀・耕安地・久城前」埼玉県教育委員会

10) 柿沼幹夫他(1979)「下田・諏訪」埼玉県教育委員会

## 付 篇 田良岡遺跡の花粉分析結果

花粉分析の結果は鑑定した花粉、孢子化石の総数を基数とした百分率をもって各試料における花粉・孢子化石の割合を表わし付表—1として後掲した。このたびの分析によって検出された花粉・孢子化石には、以下のものがあげられる。

### A P—1 (針葉樹花粉)

*Abies* (モミ属), *Picea* (トウヒ属), *Pinus* (マツ属), *Larix* (カラマツ属), *Tsuga sieboldii* (ツガ), *T. diversifolia* (コメツガ), *Taxodiaceae* (スギ科), *Cryptomeria* (スギ属), *Sciadopitys* (コウヤマキ属), *Pinus haploxyylon* (五葉型松), *T. C. T.* (*Taxaceae* イチイ科, *Cupressaceae* ヒノキ科, *Taxodiaceae* スギ科).

### A P—2 (広葉樹花粉)

*Juglans* (クルミ属), *Pterocarya* (サワグルミ属), *Salix* (ヤナギ属), *Alnus* (ハンノキ属), *Betula* (カバノキ属), *Carpinus* (クマシデ属), *Corylus* (ハシバミ属), *Castanea* (クリ属), *Castanopsis* (クリカシ属), *Fagus* (ブナ属), *Cyclobalanopsis* (アカガシ亜属), *Lepidobalanus* (コナラ亜属), *Celtis* (エノキ属), *Ulmus* (ニレ属), *Zelkova* (ケヤキ属), *Acer* (カエデ属), *Aesculus* (トチノキ属), *Buxus* (ツゲ属), *Tilia* (シナノキ属), *Elaeagnus* (グミ属), *Ericaceae* (ツツジ科), *Lonicera* (スイカズラ属).

### N A P (草本花粉)

*Persicaria* (サナエタデ属), *Caryophyllaceae* (ナデシコ科), *Chenopodiaceae* (アカザ科), *Thalictrum* (カラマツソウ属), *Crusiferae* (アブラナ科), *Epilobium* (ヤナギラン属), *Myriophyllum* (フサモ属), *Umbelliferae* (セリ科), *Patrinia* (オミナエシ属), *Carduoideae* (キク亜科), *Artemisia* (ヨモギ属), *Cichorioideae* (タンポポ亜科), *Gramineae* (イネ科), *Cyperaceae* (カヤツリグサ科), *Justicia* (キツネノマゴ属), *Sagittaria* (オモダカ属), *Caldesia* (マルバオモダカ属).

### F P (形態分類花粉)

*Triporate pollen* (三孔型花粉), *Monocolpate pollen* (単溝型花粉), *Tricolpate pollen* (三溝型花粉) *Tricolporate pollen* (三溝孔型花粉), *Inaperturate pollen* (無口型花粉).

### F S (羊歯類孢子)

*Lycopodiaceae* (ヒカゲノカズラ科), *Osmundaceae* (ゼンマイ科), *Polypodiaceae* (ウラボシ科), *Sphagnum* (ミズゴケ属), *Monolete spore* (単条型孢子), *Trilete spore* (三条型孢子).



## その他の微化石

Pseudoschizaea (淡水生藻類)。

次に、各試料ごとに花粉・孢子構成の特徴、古植生、古気候、古環境等について述べる。

### 円良岡遺跡 (1)

#### I-2 試料

この試料は草本花粉が合計で 67.2% 検出され、非常に多かった。主な花粉として Gramineae が 48.5% 検出され最も多かった。続いて Carduoideae が 7.5%、Chenopodiaceae が 4.1%、Cyperaceae が 4.1% 検出された。その他 Cruciferae, Justicia 等が若干検出された。

針葉樹花粉は Taxodiaceae が 14.2%、Pinus が 6.3% 検出された。

広葉樹花粉は Lepidobalanus, Zelkova, Alnus 等が若干検出された。

羊歯類孢子は Monolete spore, Trilete spore, Osmundaceae が若干検出された。

従って古植生は、Gramineae を優占とし、Carduioideae, Cyperaceae 等からなる草地が推定される。この草地の周囲には、Taxodiaceae, Pinus などの針葉樹を主体とする森林が存在していたものと推定される。

古気候は温帯湿潤であろう。

#### I-5 試料

この試料は、含有化石が合計で 35 個体と少なかったため、花粉・孢子構成の特長について述べるには困難な試料であった。

#### I-8 試料

この試料は、草本花粉の割合が高く、合計で 54.2% 検出された。

主なものは Gramineae が 26.7%、Artemisia が 15.8% 検出されたのをはじめ、Caryophyllaceae が 2.5%、Cruciferae が 2.5%、Cyperaceae が 2.5% 検出された。

針葉樹花粉は少なく、Pinus, Cryptomeria がそれぞれ 1.7%、その他が検出されたにすぎなかった。

広葉樹花粉は合計で 18.3% 検出され、その主なものとして Lepidobalanus が 7.5%、Zelkova が 3.3%、Corylus が 1.7%、Fagus が 1.7% 検出された。

羊歯類孢子は合計で 17.5% 検出され、主なものとして Monolete spore が 8.3%、Polypodiaceae が 5.0%、Trilete spore が 2.5% 検出された。

従って古植生は、Gramineae, Artemisia を主体とする草地と考えられる。また羊歯類も草本類と共に生育していたであろう。この草地の周囲には、Lepidobalanus をはじめ Zelkova, Corylus などの落葉広葉樹類および Pinus, Cryptomeria などの針葉樹類が若干生育していたものと推定される。

古気候は温帯に相当すると考えられる。

#### I-9 試料

この試料の花粉・孢子構成は I-8 に近似し、古植生、古気候も I-8 のそれとほぼ同じであろう。

I-11試料 この試料も、大まかな花粉・孢子構成はI-8に近似するが、Gramineaeは減少し14.3%検出された。またこの試料では Castanea, Cyclobalanopsis, Celtis, Ulmus, Salix なども若干検出された。

古植生としては、Gramineae, Artemisia, Carduoideae などから成る草地が考えられ、前述の広葉樹類も、Lepidobalanus を主体とする森林に混在して生育していたであろう。

I-12試料 この試料は、含有する花粉・孢子化石が合計で43個体と少なく、古植生、古気候を推定するには困難な試料であった。

## 円良岡遺跡 (2)

I-13試料 この試料は、草本花粉が合計で37.6%検出され多かった。特に多く検出された花粉は Gramineae で25.9%検出された。その他に Cyperaceae, Sagittaria, Artemisia なども良好に検出された。

針葉樹花粉は少なく、Taxodiaceae, Abies などが若干検出された。

広葉樹花粉は合計で26.4%検出され、主なものとして Lepidobalanus が11.2%、Cyclobalanopsis が3.0%、Zelkova が3.0%検出された。

羊歯類孢子は Monolete spore が19.3%検出され多かった。

従って古植生は、Gramineae を主体とし、Cyperaceae, Artemisia, Sagittaria から成る草地が考えられる。

この草地の周囲には、Lepidobalanus を主体とし、Cyclobalanopsis, Zelkova 等から成る広葉樹林も存在していたであろう。

古気候は温帯に相当すると考えられる。

I-15試料 この試料の花粉・孢子構成は、I-13と近似し、古植生、古気候もほぼI-13と同じであろう。

I-17試料 この試料は羊歯類が急増し、全体の81.3%を占めたことが特長である。その総てが Monolete spore であった。

花粉としては Taxodiaceae, T. C. T. などの針葉樹、Cyclobalanopsis, Zelkova, Castanopsis などの広葉樹、Gramineae, Cyperaceae などの草本類が若干検出された。

従って古植生は、羊歯類が極めて多く生育する草地が考えられる。この草地の付近には、前述の樹木も僅かに生育していたであろう。

古気候は温帯に相当すると考えられる。

I-19試料 この試料もI-17試料と同様に、羊歯類孢子が極めて多く検出されることが特長である。

花粉構成もI-17試料に近似し、T. C. T. Taxodiaceae などの針葉樹、Gramineae, Cyperaceae, Sagittaria などの草本類が検出された。

従って古植生、古気候もI-17とほぼ同じであろう。

- I-20試料      この試料もやはり羊歯類孢子が94.2%とその殆どを占めて検出された。従って古植生は、羊歯類だけが優占して生育する特殊な環境が考えられると思われる。
- I-22試料      この試料もやはりI-20に近似し、羊歯類孢子が全体で93.8%検出されたことが特長である。
- I-24試料      この試料は、針葉樹花粉の割合が高く合計で37.4%検出された。その主なものは、Pinusが13.2%検出されたのをはじめ、Piceaが6.8%、Tsuga sieboldiiが6.8%、Abiesが5.5%、Tsuga diversifoliaが5.1%検出された。  
広葉樹花粉としては、Alnusが19.1%検出され多かった。その他にCorylus, Betula, Fagus, Juglans, Ulmusなどが検出された。  
草本花粉は、Gramineaeが8.1%、Carduoideaeが2.5%などが検出された。羊歯類孢子は全体の20.0%であり、その殆どがMonolete sporeで19.6%検出された。  
従って古植生は、PinusをはじめPicea, Tsuga sieboldii, Abies, Tsuga diversifoliaなどの針葉樹、Alnus, Corylus, Betula, Fagus, Juglansなどの広葉樹が共に生育する、針広混交林が考えられる。草本や羊歯類は樹木林の小草として生育していたものであろう。  
古気候は前述の樹木花粉の検出により、亜寒帯から冷温帯であると推定される。
- I-26試料      この試料は羊歯類孢子が再び多産する点がI-24試料と異なるが、花粉構成は近似し、PinusをはじめPicea, Abies, Tsugaなどの針葉樹類が良好に検出された。  
広葉樹花粉もAlnus, Betula, Corylus, Ulmus等が検出された。  
従って古植生は、Pinus, Picea, Abies, Tsugaなどの針葉樹や、Alnus, Betula, Corylus, Ulmusなどの広葉樹が共に生育する針広混交林が考えられる。また林床には羊歯類が優勢して生育していたことが考えられる。  
古気候は前述の樹木の存在により、亜寒帯から冷温帯に相当すると考えられる。
- I-28試料      この試料は、羊歯類孢子が全体で52.9%検出され優占した点がI-26試料に似るが、反面Pinusをはじめ、Picea, Abiesなどの針葉樹類は減少した。また、この試料では、Cyperaceaeが増加した。  
従って古植生は羊歯類が優占し、Cyperaceae, Gramineaeなどから成る草地が考えられる。この草地の付近にはPinus, Picea, Abiesなどの針葉樹類や、Alnus, Corylus, Ulmus, Lepidobalanusなどの広葉樹類が生育していたものと推定される。  
古気候は、以上の樹木の存在により、亜寒帯から冷温帯に相当すると考えら

れる。

I-30試料

この試料は、羊歯類胞子が全体の 36.8% 検出され多く、その殆どが Monolet spore であり、36.0% 検出された。

これに次いで草本花粉の割合が多く、全体で 33.0% 検出された。主なものは Cyperaceae が 22.3%、Gramineae が 8.4% 検出された。

第 3 表 円良岡遺跡の花粉帯

Sample No.	花粉帯	花粉帯の特長	古気候
I-2	A	Gramineae を優占とし、Carduoideae, Chenopodiaceae, Cyperaceae などから成る草地。 周囲には Taxodiaceae, Pinus などの針葉樹が生育。	湿潤 温帯
I-8 ) I-11	B	Gramineae, Artemisia を主体とする草地。 周囲には、Lepidobalanus を主体とし、Ulmus, Corylus などの落葉樹類が生育	温帯
I-13 ) I-15	C	Gramineae を主体とし Cyperaceae, Artemisia, Sagittaria からなる草地。 周囲には Lepidobalanus をはじめ、Taxodiaceae, Cryptomeria が若干生育。	温帯
I-17 ) I-22	D	羊歯類が著しく多く生育する草地。 周囲には、Taxodiaceae, T. C. T. が若干生育。	温帯
I-24 ) I-30	E	Pinus, Picea, Abies, Tsuga 等の針葉樹と、Alnus, Betula, Corylus, Ulmus 等の落葉広葉樹が共に生育する針広混交林が存在。 林床には羊歯類や、Gramineae, Cyperaceae などが下草として生育。	亜寒帯 から 冷温帯

なお、I-5、I-12 については含有化石が少なく不明である。

針葉樹花粉は *Picea* をはじめ、*Abies*, *Pinus*, *Larix* が検出された。

広葉樹花粉は、*Alnus*, *Betula*, *Lepidobalanus*, *Ulmus* が良好に検出された。

従って古植生は、羊歯類をはじめ、*Cyperaceae*, *Gramineae* から成る草地が考えられる。この草地の周囲には、*Picea*, *Abies*, *Pinus*, *Larix* 等の針葉樹類や、*Alnus*, *Betula*, *Lepidobalanus*, *Ulmus* などの広葉樹から成る森林が存在していたと考えられる。

古気候は、これらの樹木の存在により、亜寒帯から冷温帯に相当すると考えられる。

### 円良岡遺跡 (3)

#### I-32試料

この試料は針葉樹花粉が合計で 39.6% 検出された。主な花粉として、*Picea* が 17.8% 検出されたのをはじめ、*Abies* が 7.0%、*Pinus* が 6.5%、*Larix* が 4.8%、*Tsuga diversifolia* が 2.2% 検出された。

広葉樹花粉は全体で 20.4% 検出され、主なものとして *Alnus* が 7.8%、*Betula* が 6.1%、*Lepidobalanus* が 3.5% 検出された。

草本花粉は全体で 23.9% 検出され、*Cyperaceae* が 13.0% 検出されたのをはじめ、*Gramineae* が 7.8%、*Artemisia* が 2.2% 検出された。

羊歯類胞子は *Sphagnum* が 11.3% 検出されたことが特長といえる。その他、*Monoletes* spore が若干検出された。

従って古植生は、*Picea*, *Abies*, *Pinus*, *Larix*, *Tsuga diversifolia* などの針葉樹や、*Alnus*, *Betula*, *Lepidobalanus* などの落葉広葉樹から成る針広混交林が推定される。また、*Gramineae*, *Artemisia* などは、下草として森林内に生育していたものと考えられる。

古気候は、*Picea*, *Abies*, *Larix*, *Betula* などが高率で検出されることにより、亜寒帯に相当すると推定される。また *Sphagnum* が検出されることから、湿地または池沼的環境も考えられる。

以上の花粉・胞子構成の特長から、当遺跡を花粉帯に分けると前ページ (第 3 表) のようにまとめられる。

## 円良岡遺跡の環境について

### I. *Pinus* と *Quercus* (常緑、落葉) の検討

#### 円良岡遺跡 (1)

コナラ属について この遺跡では B 花粉帯 (I-8 ~ I-11) において落葉の *Lepidobalanus* が良好 (7.5% ~ 11.8%) に検出された。従って、これらの試料では *Lepidobalanus* が良好に生育していたものと言えよう。常緑の *Cyclobalanopsis* は I-11、I-12 の 2 試料から若干検出された。従って I-11, 12 は、その他よりも若干温かな気候と言えよう。

マツ属について I-2により6.3% 検出されたが、その他の試料では1.7% 以下の低い割合で検出された。従ってI-2では良好に生育していたと考えられるが、その他の試料では非常に少なかったものと推定される。

#### 円良岡遺跡(2)

コナラ属について この遺跡では、C花粉帯(I-13, I-15)から落葉の *Lepidobalanus* が良好(11.2%~11.9%)に検出された。従ってこれらの試料では *Lepidobalanus* が良く生育していたであろう。常緑の *Cyclobalanopsis* は、C花粉帯と、D花粉帯のI-17試料から若干(2.0%~3.0%) 検出され、*Cyclobalanopsis* が生育していたことを示している。従って、これらの試料は、その他のところよりも若干温和な気候であったと考えられる。

マツ属について C, D花粉帯においては検出されないか、検出されても非常に少なかった。E花粉帯では良好に検出された。特にI-24, I-26には多く検出された。従って *Pinus* は、E花粉帯、とくにI-24とI-26の2試料において良好に生育していたものと考えられる。

#### 円良岡遺跡(3)

コナラ属について この遺跡では、亜寒帯の古気候を示しているため、常緑の *Cyclobalanopsis* は検出されなかった。落葉の *Lepidobalanopsis* は3.5%と少なかった。

マツ属について 6.5% 検出されたことにより、良好に生育していたものと推定される。

### II. スギの植林、森林植生の転換について

円良岡遺跡(1) この遺跡では、A花粉帯(I-2)において、マツ属と共にスギ科の植林が行われたものとみられる。それ以前の森林植生は、*Lepidobalanus* が主体となった広葉樹林が存在していたものと推定される。

円良岡遺跡(2) この遺跡ではスギの植林とみなすに十分なスギ属の花粉は検出されなかった。しかし良好に出現し始めるのは、D花粉帯(I-17~I-22)からである。それ以前では、E花粉帯(I-24~I-30)の特長である *Pinus*, *Picea*, *Abies* などの針葉樹や、*Alnus* を主体として *Betula*, *Corylus*, *Ulmus* から成る落葉広葉樹が主に存在していたものと思われる。

円良岡遺跡(3) この遺跡においてもスギの植林は無かったものとみられ、*Picea*, *Abies*, *Pinus*, *Larix*, *Betula* などの亜寒帯林が存在していたものと思われる。

### III. 湿地性草本の検討について

湿地性草本としては、*Sagittaria* が円良岡遺跡(2)のI-13, I-15, I-19より検出された。また *Myriophyllum* が同遺跡(1)のI-8、*Caldesia* が同遺跡(2)I-13より検出された。

また羊歯類としては寒冷湿地性の *Sphagnum* が同遺跡(3)のI-32より良好に検出された。

更に淡水性藻類の *Pseudoschizaea* が同遺跡(1)のI-5、同遺跡(2)の

I-13より検出された。

従って、これらの試料においては、池沼または湿地の環境が考えられる。

(パリノ・サーベイ株式会社)

#### 第4表 試料表

##### 円良岡遺跡(1)

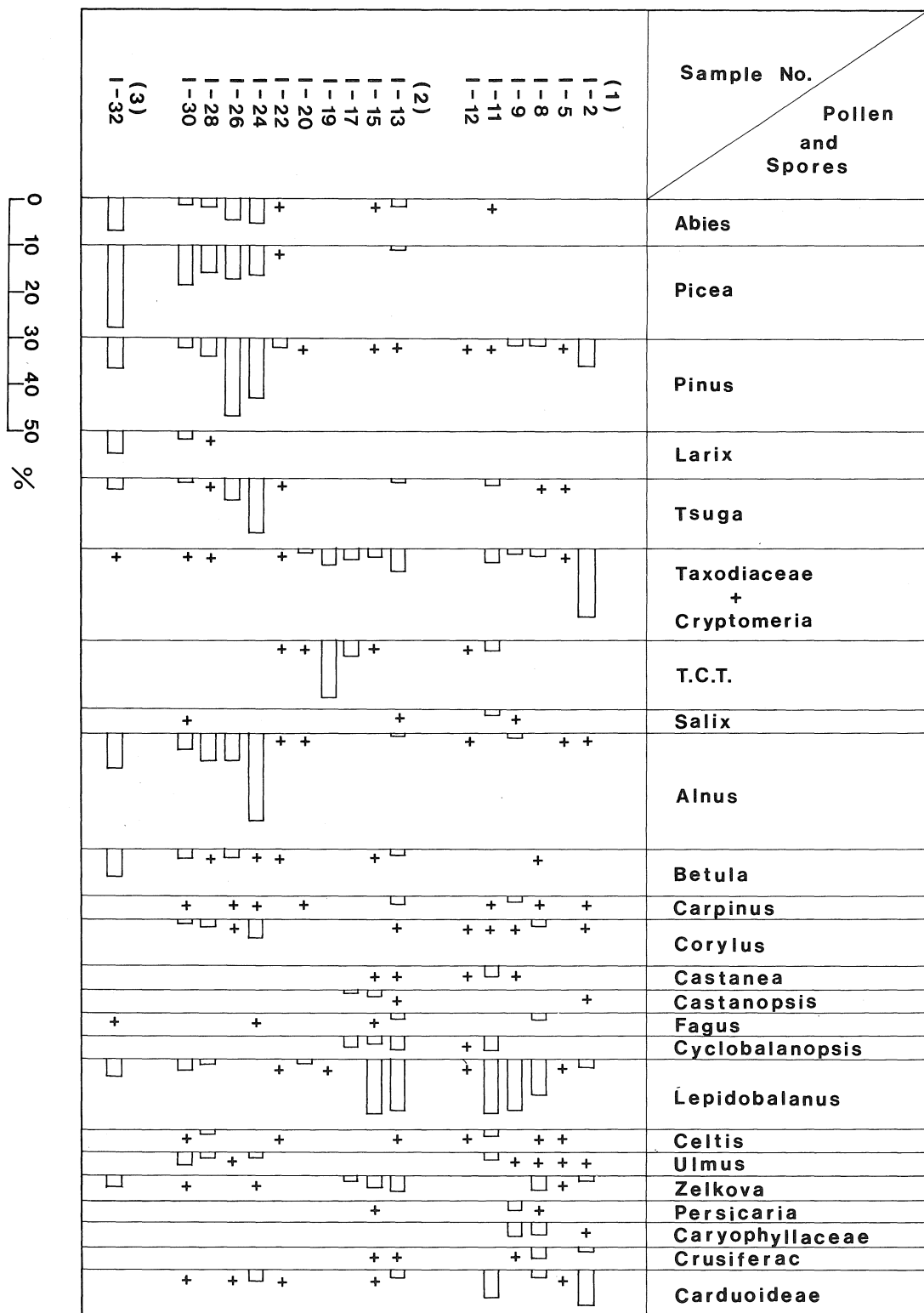
試料番号	土質	花粉・孢子化石 産出状況
I 2	火山灰の入る耕作土	$1.5 \times 10^4$
I 5	細礫混り灰褐色土	——
I 8	黄褐色土	$1.4 \times 10^3$
I 9	〃	$1.1 \times 10^3$
I 11	暗褐灰色粘土 黄褐色斑紋あり	$1.2 \times 10^3$
I 12	〃	——

##### 円良岡遺跡(2)

I 13	暗褐灰色粘土	$1.3 \times 10^4$
I 15	茶褐色粘土	$1.5 \times 10^4$
I 17	黒褐色粘土	$2.3 \times 10^3$
I 19	火山灰混り黒褐色粘土	$2.7 \times 10^4$
I 20	〃	$2.3 \times 10^4$
I 22	火山灰質粘土	$3.5 \times 10^4$
I 24	〃	$7.3 \times 10^4$
I 26	粗粒火山灰混り粘土	$1.4 \times 10^4$
I 28	〃	$2.8 \times 10^5$
I 30	粗粒火山灰質粘土	$1.8 \times 10^4$

##### 円良岡遺跡(3)

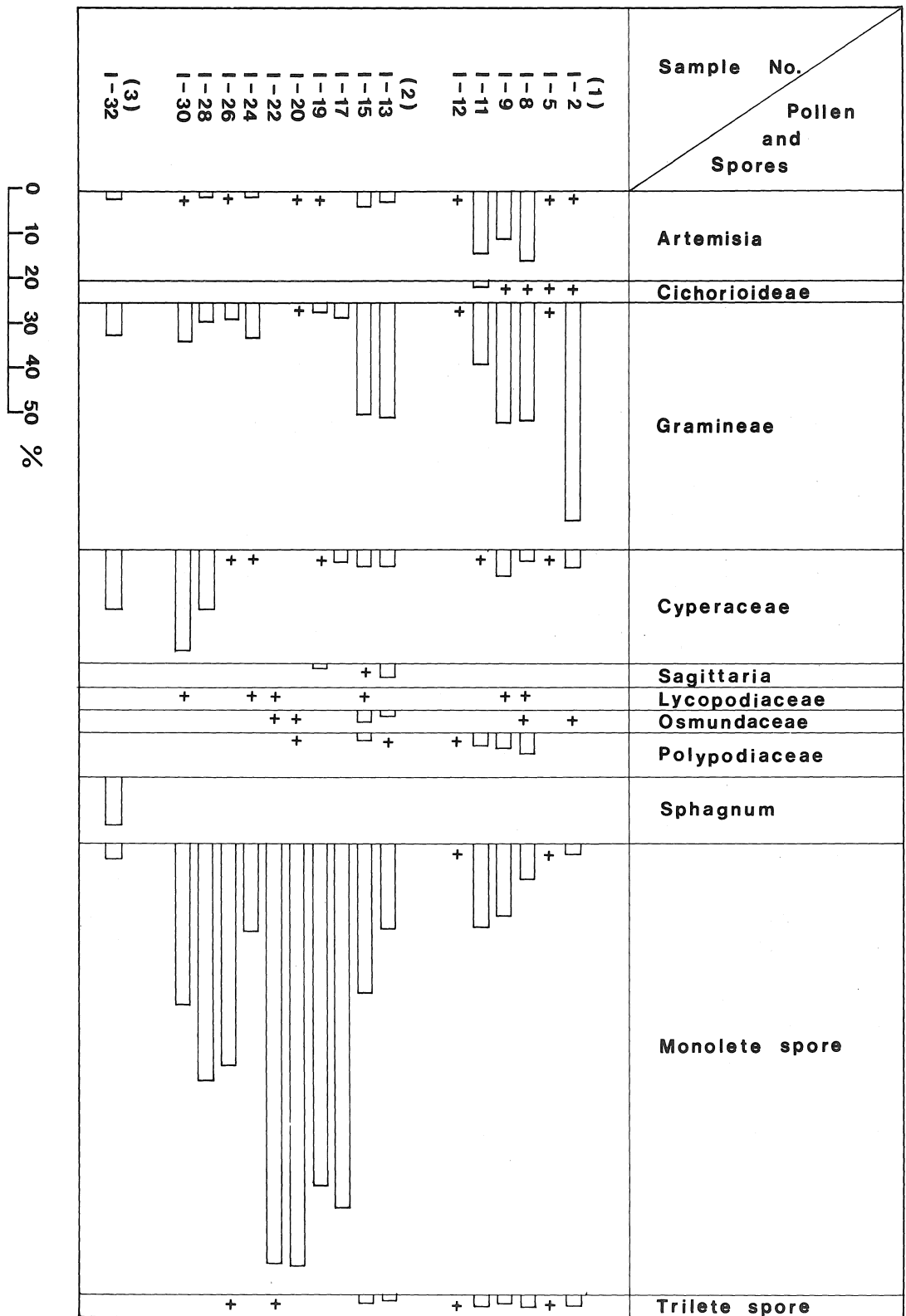
I 32	黒色泥質土	$1.9 \times 10^5$
------	-------	-------------------



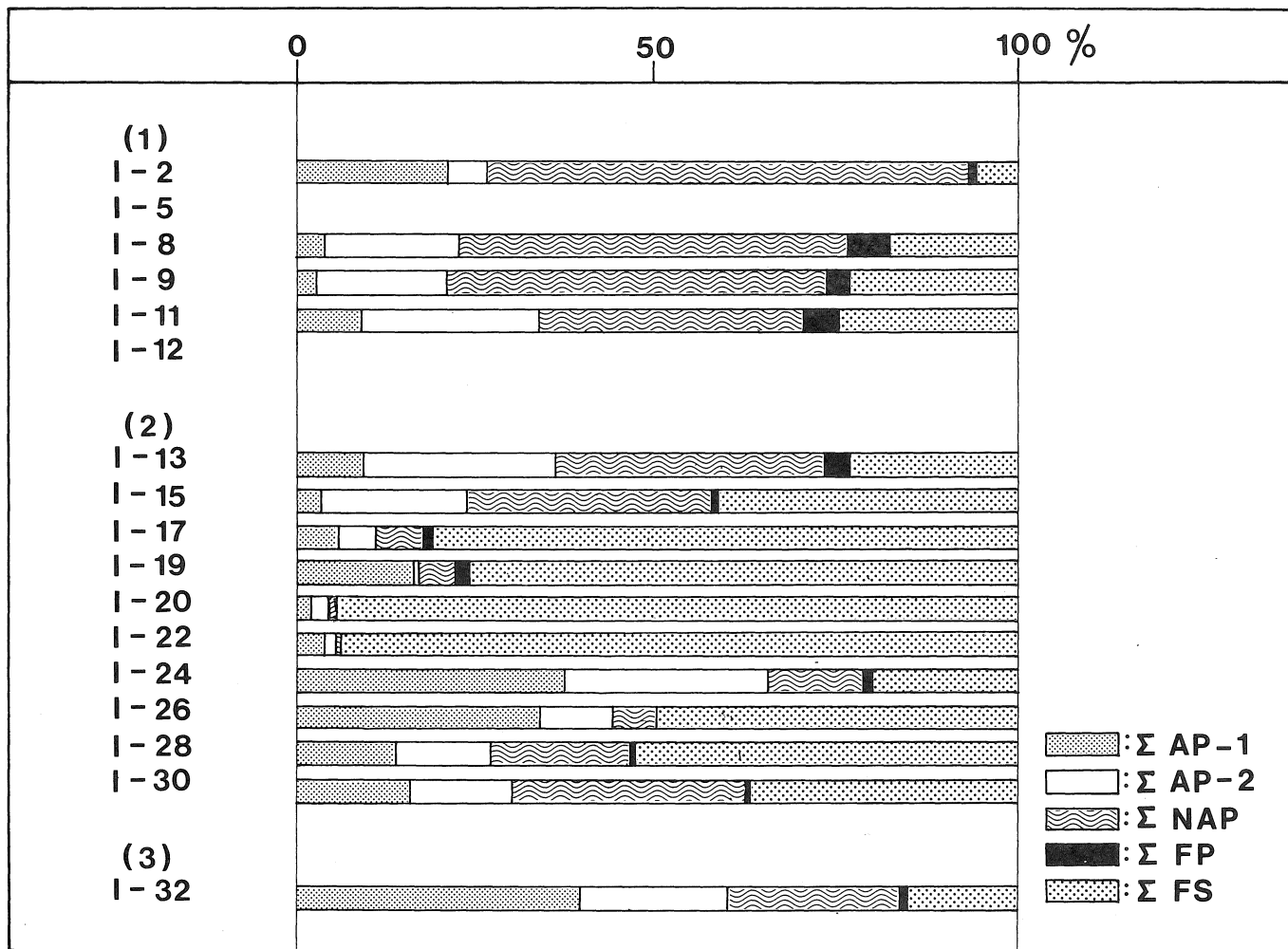
(+ : 1%未満及び食徴化石試料における検出を示す。)

第5表(1) 主要花粉・孢子化石ダイアグラム(1)





第5表(2) 主要花粉・孢子化石ダイアグラム(2)



第5表(3) 主要花粉胞子化石ダイアグラム(3)

Sample No. Pollen and Spores	( 1 )						( 2 )										(3)
	I-2	I-5	I-8	I-9	I-11	I-12	I-13	I-15	I-17	I-19	I-20	I-22	I-24	I-26	I-28	I-30	I-32
Persicaria			0.8	2.2				0.4									
Caryophyllaceae	0.4		2.5	2.9													
Chenopodiaceae	4.1			1.5													
Thalictrum												0.4		0.4	0.8	0.4	
Crusiferae	1.1		2.5	0.7			0.5	0.4									
Epilobium																	0.4
Myriophyllum			0.8														
Umbelliferae								0.4									
Patrinia				0.7													
Carduoideae	7.5	2	1.7		5.9		1.5	0.4				0.3	2.5	0.4		0.8	
Artemisia	0.4	7	15.8	11.0	14.3	4	2.5	3.7		0.6	0.4		1.7	0.4	1.4	0.8	2.2
Cichorioideae	0.7	2	0.8	0.7	1.7												
Cramineae	48.5	7	26.7	27.2	14.3	9	25.9	25.0	3.8	2.5	0.8		8.1	4.0	4.7	8.4	7.8
Cyperaceae	4.1	1	2.5	5.9	0.8		3.6	3.7	2.5	0.6			0.9	0.9	13.0	22.3	13.0
Justicia	0.4																
Sagittaria							3.0	0.4		1.3							
Caldesia							0.5										
Σ NAP (N)	180	19	65	72	44	13	74	84	5	8	3	1	32	13	54	130	55
(%)	67.2		54.2	52.9	37.0		37.6	34.4	6.3	5.1	1.2	0.3	13.6	5.8	19.6	33.0	23.9
Triporate pollen					0.8				1.3								
Monocolpate pollen						1											
Tricolpate pollen			0.8	0.7		1				0.6		0.4				0.3	
Tricolporate pollen	0.7		4.2	2.2	4.2	4	3.6	0.4				0.4		0.4			0.9
Inaperturate pollen		1	0.8							1.3							
Σ EP (N)	2	1	7	4	6	6	7	1	1	3	0	0	2	0	1	1	2
(%)	0.7		5.8	2.9	5.0		3.6	0.4	1.3	1.9	0	0	0.9	0	0.4	0.3	0.9
Lycopodiaceae			0.8	0.7				0.8				0.3	0.4			0.8	
Osmundaceae	0.4		0.8				1.5	2.9			0.4	0.3					
Polypodiaceae			5.0	3.7	3.4	3	0.5	2.0			0.4						
Sphagnum																	11.3
Monolete spore	2.6	4	8.3	16.2	18.5	4	19.3	33.6	81.3	75.9	93.4	92.9	19.6	49.6	52.9	36.0	3.9
Trilete spore	2.6	1	2.5	2.2	2.5	1	1.5	2.0				0.3		0.4			
Σ FS (N)	15	5	21	31	29	8	45	101	65	120	242	303	47	113	146	145	35
(%)	5.6		17.5	22.8	24.4		22.8	41.4	81.3	75.9	94.2	93.8	20.0	50.0	52.9	36.8	15.2
Σ Pollen&Spores(N)	268	35	120	136	119	43	197	244	80	158	257	323	235	226	276	394	230
Pseudoschizaea		1					1										

第 6 表(1)

Sample No. Pollen and Spores	( 1 )						( 2 )										(3)
	I-2	I-5	I-8	I-9	I-11	I-12	I-13	I-15	I-17	I-19	I-20	I-22	I-24	I-26	I-28	I-30	I-32
Abies					0.8		2.0	0.4				0.3	5.5	4.9	2.2	1.8	7.0
Picea							1.0					0.3	6.8	7.5	6.2	8.6	17.8
Pinus	6.3	1	1.7	1.5	0.8	1	0.5	0.8			0.4	2.2	13.2	16.8	4.0	2.0	6.5
Larix															0.7	1.8	4.8
Tsuga sieboldii		1	0.8		1.7		1.0					0.9	6.8	1.8	0.4	0.8	0.4
Tsuga diversifolia													5.1	3.1		0.3	2.2
Taxodiaceae	14.2	1		0.7	3.4		5.1	2.0	2.5	2.5	0.8	0.3			0.4		1.9
Cryptomeria	0.7		1.7	0.7							1.3	0.4					0.3
Sciadopitys												0.4					
T. C. T					2.5	1		0.4	3.8	12.7	0.4	0.3					
Pinus haploxyton																	0.3
Σ AP-1 (N)	57	3	5	4	11	2	19	9	5	26	6	14	88	77	38	62	91
(%)	21.3		4.2	2.9	9.2		9.6	3.7	6.3	16.5	2.3	4.3	37.4	34.1	13.8	15.7	39.6
Juglans								0.4					0.4				
Pterocarya						2									0.4		
Salix				0.7	1.7		0.5										0.3
Alnus	0.7	1		1.5		1	1.0				0.8	0.6	19.1	6.2	6.2	3.6	7.8
Betula			0.8				1.5	0.4				0.3	0.9	2.2	0.7	2.3	6.1
Carpinus	0.4		0.8	1.5	0.8		2.0				0.4		0.9	0.4			0.3
Corylus	0.4		1.7	0.7	0.8	1	0.5						4.3	0.9	1.8	1.0	
Castanea				0.7	2.5	1	0.5	0.4									
Castanopsis	0.4						0.5	1.6	1.3								
Fagus			1.7				1.5	1.8					0.4				0.9
Cyclobalanopsis					3.4	5	3.0	2.0	2.5								
Lepidobalanus	1.9	1	7.5	11.0	11.8	3	11.2	11.9		0.6	1.2	0.3			1.1	2.5	3.5
Celtis		1	0.8		1.7	1	0.5					0.3			1.1	0.8	
Ulmus	0.4	1	0.8	0.7	1.7								1.3	0.4	1.4	2.8	
Zelkova	1.1	3	3.3				3.0	2.5	1.3				0.4			0.3	2.2
Acer			0.8														0.3
Aesculus				0.7													
Buxus				0.7													
Tilia															0.4		
Elaeagnus							0.5										
Eriaceae												0.4					
Lonicera															0.4	0.3	
Σ AP-2 (N)	14	7	22	25	29	14	52	49	4	1	6	5	66	23	37	56	47
(%)	5.2		18.3	18.4	24.4		26.4	20.1	5.0	0.6	2.3	1.5	28.1	10.2	13.4	14.2	20.4
Σ AP (N)	71	10	27	29	40	16	71	58	9	27	12	19	154	100	75	118	138
(%)	26.5		22.5	21.3	33.6		36.0	23.8	11.3	17.1	4.7	5.9	65.5	44.2	27.2	29.9	60.0

NOTE: 単位 % ただし、I-5, 12は検出個体数で示す。(例)

AP-1, AP-2, AP, NAP, FP, FSの%算出方法

第6表(2)

$$AP-1(\%) = \frac{\Sigma AP-1(N)}{\Sigma \text{Pollen \& Spores}(N)} \times 100$$

# 版 図

図版 1



1. ミカド遺跡より西南の丘陵を望む



2. ミカド遺跡全景 南より

図版 2



1. ミカド遺跡西半部 南より



2. ミカド遺跡西半部 南より

図版 3



1. ミカド遺跡中央部 南より



2. ミカド遺跡東半部 南より



図版 4



1. ミカド遺跡東部 南より



2. ミカド遺跡東端部 南より



1. ミカド遺跡西南部 東より



2. ミカド遺跡 中央南半部 北より



1. ミカド遺跡西中央部 東より



2. ミカド遺跡西半部 北より

図版7



1. ミカド遺跡 第1号住居址 遺物出土状態 南より



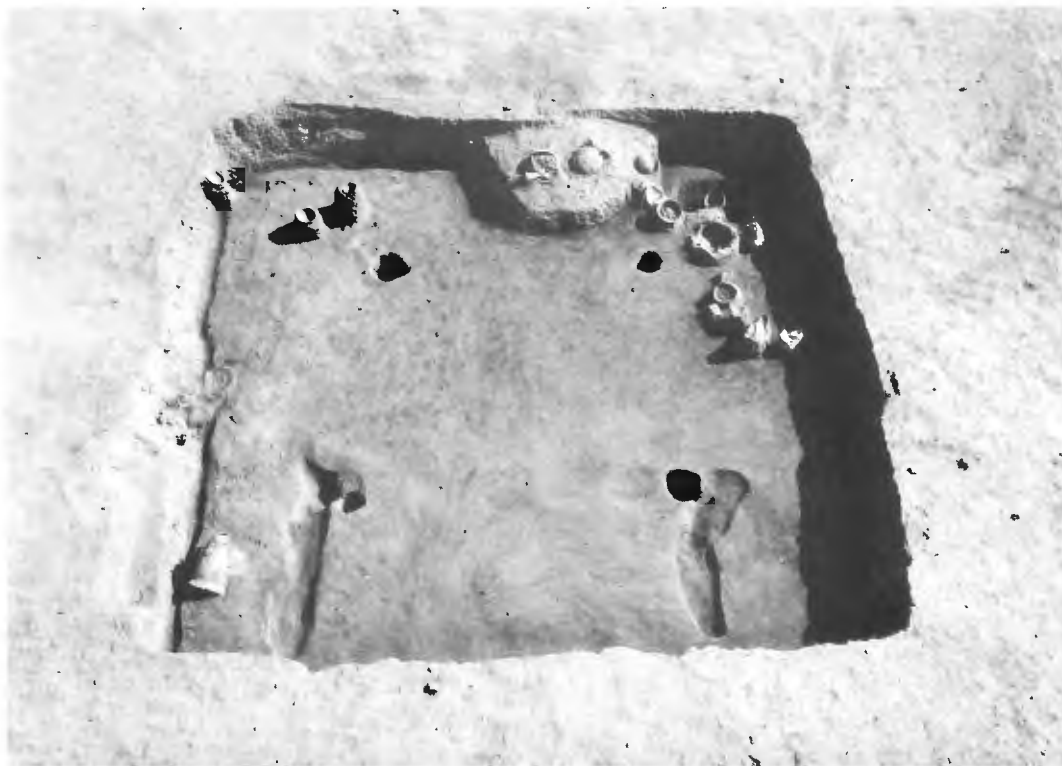
2. ミカド遺跡 第2号住居址 遺物出土状態 西より



1. ミカド遺跡 第2号住居址貯蔵穴出土の甕



2. ミカド遺跡 第3号住居址遺物出土状態 東より



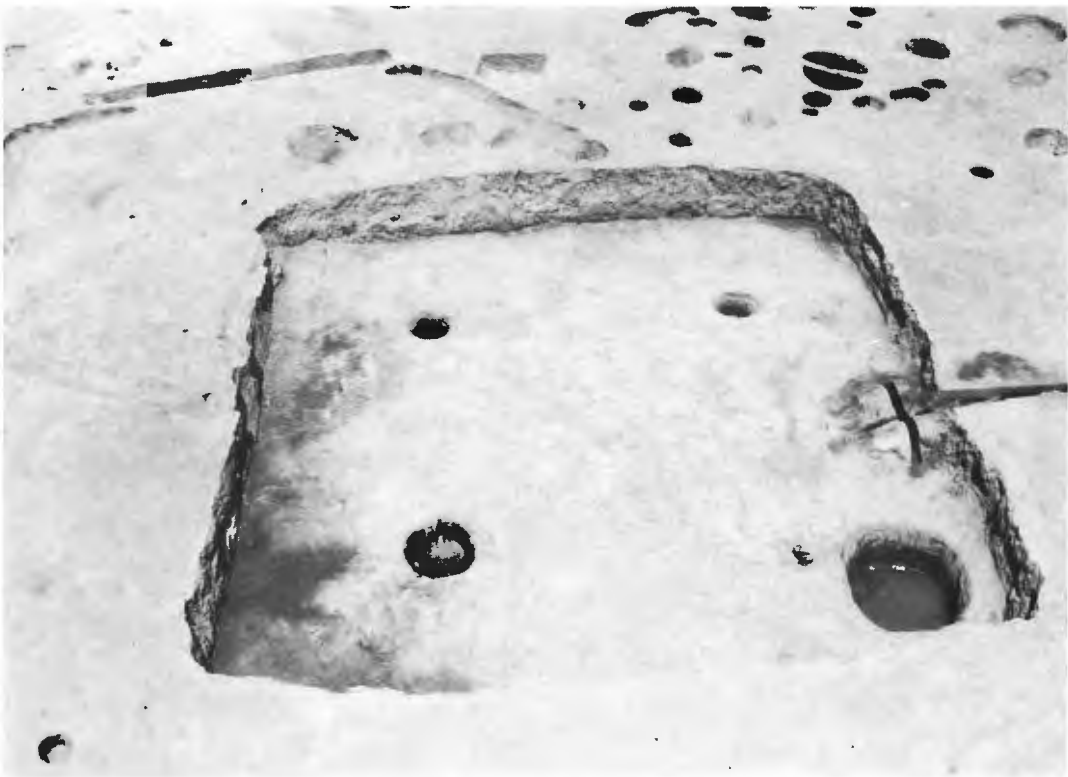
1. ミカド遺跡 第3号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第3号住居址 カマド



1. ミカド遺跡 第4号住居址 遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第4号住居址 南より



1. ミカド遺跡 第5号住居址 遺物出土状態 南より

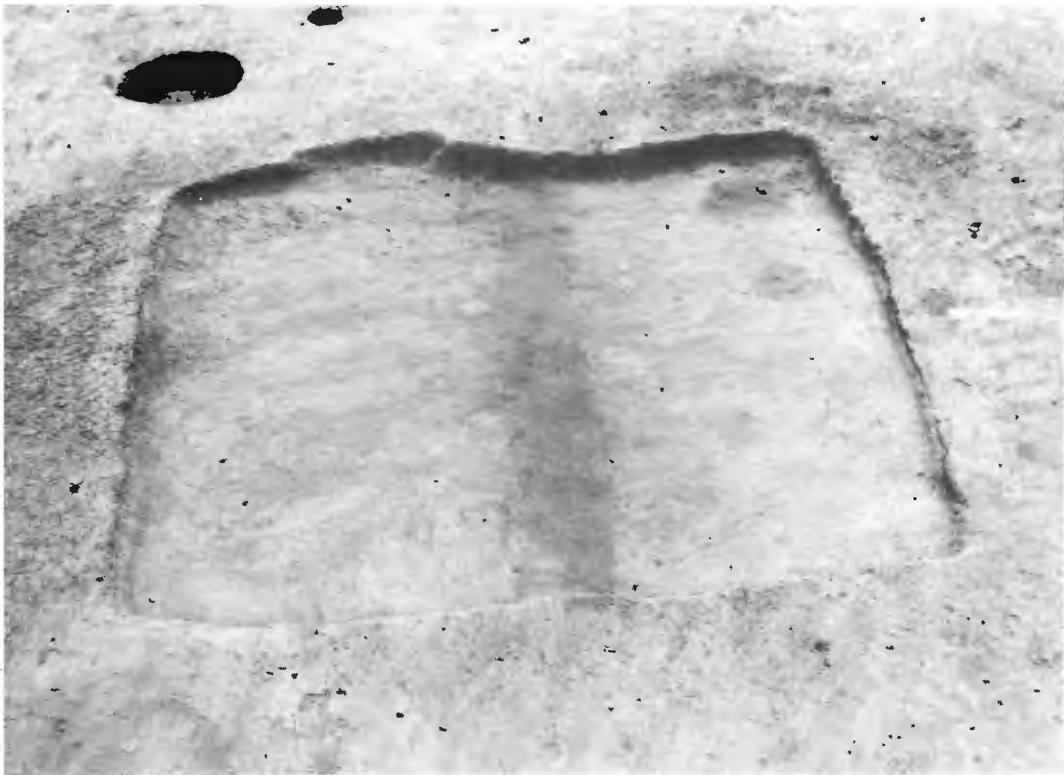


2. ミカド遺跡 第5号住居址 壺 出土状態





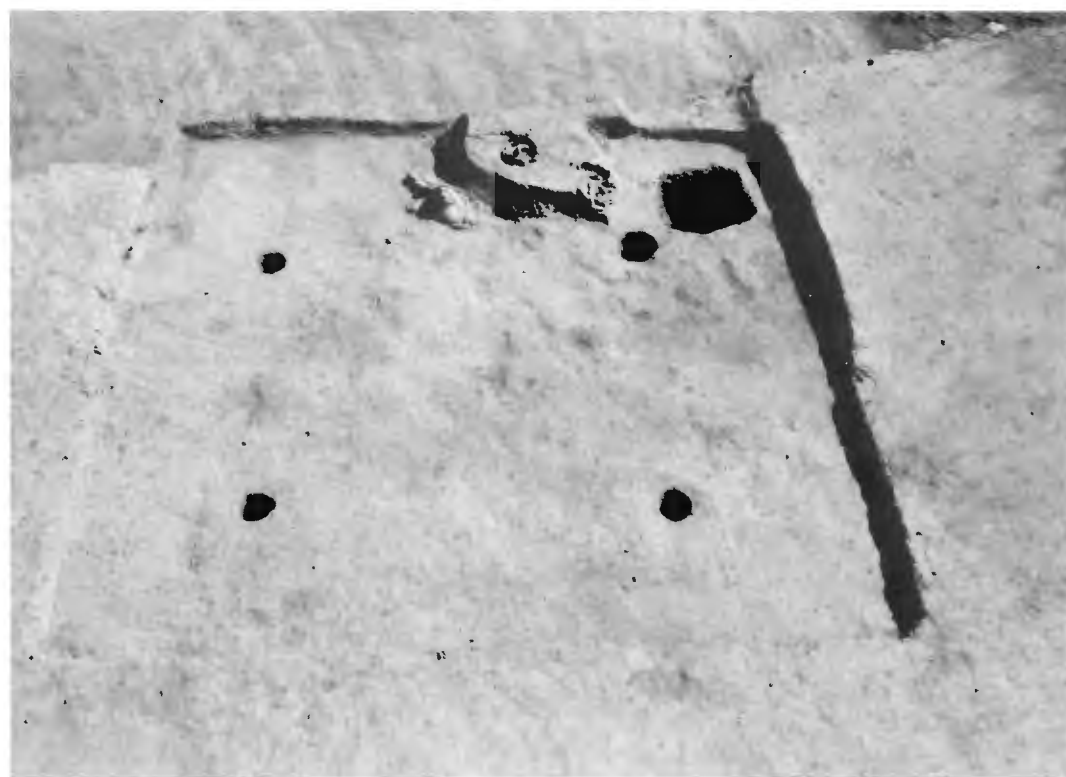
1. ミカド遺跡 第5号住居址 甕・甗出土状態



2. ミカド遺跡 第6号住居址 東より



1. ミカド遺跡 第7号住居址 遺物出土状態 東より



2. ミカド遺跡 第7号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第7号住居址東南コーナー遺物出土状態 西より



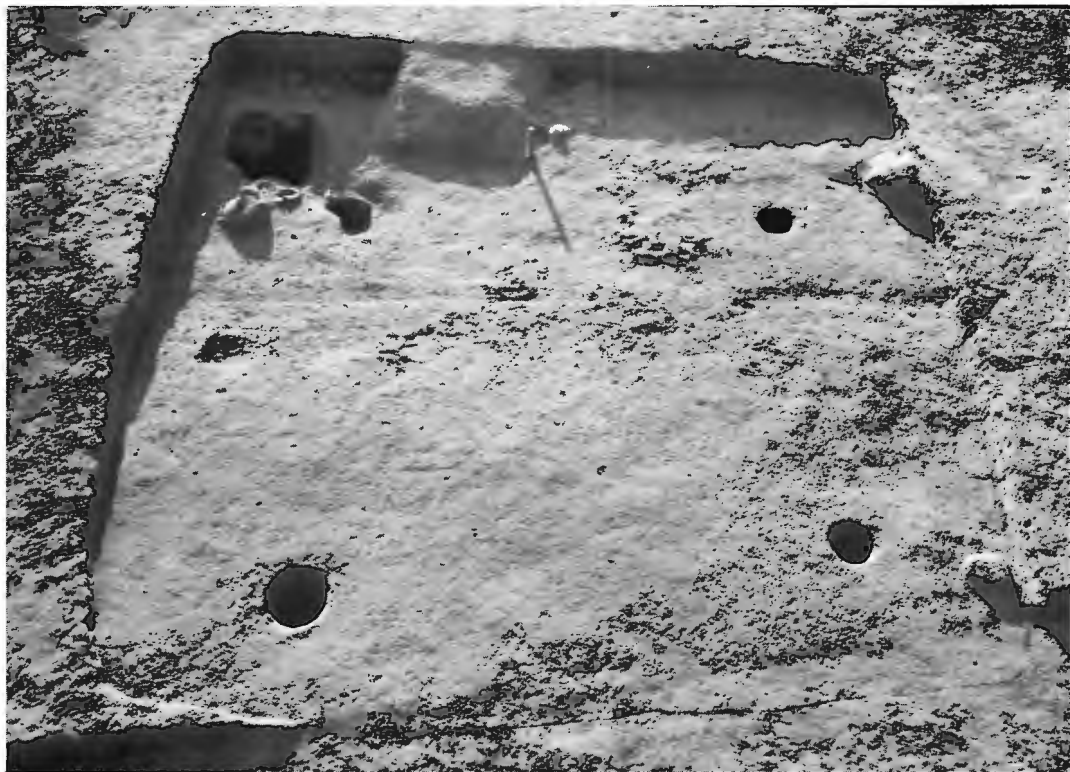
2. ミカド遺跡 第7号住居址 甕出土状態



1. ミカド遺跡 第7号住居址貯蔵穴



2. ミカド遺跡 第8号住居址 東より



1. ミカド遺跡 第9号住居址 東より



2. ミカド遺跡 第9号住居址西南コーナー遺物出土状態 東より

図版17



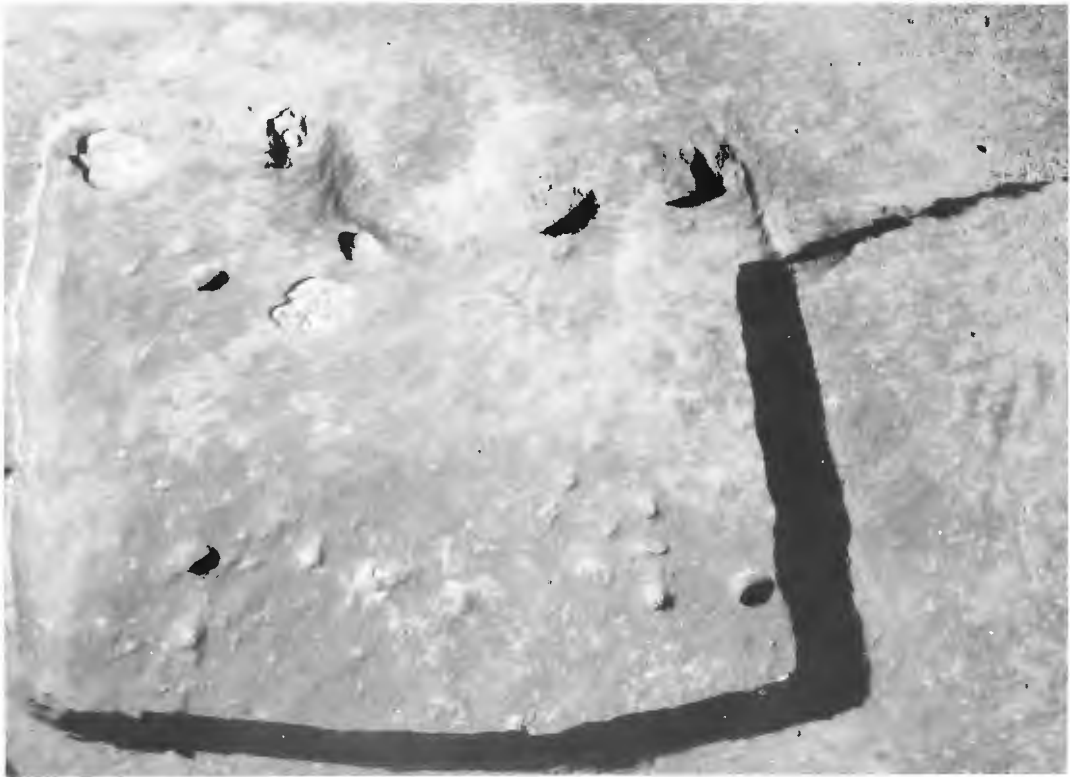
1. ミカド遺跡 第10号住居址 東より



2. ミカド遺跡 第10号住居址西北コーナー遺物出土状態 西南より



1. ミカド遺跡 第10号住居址 坩出土状態



2. ミカド遺跡 第11号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第12号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第12号住居址 カマド





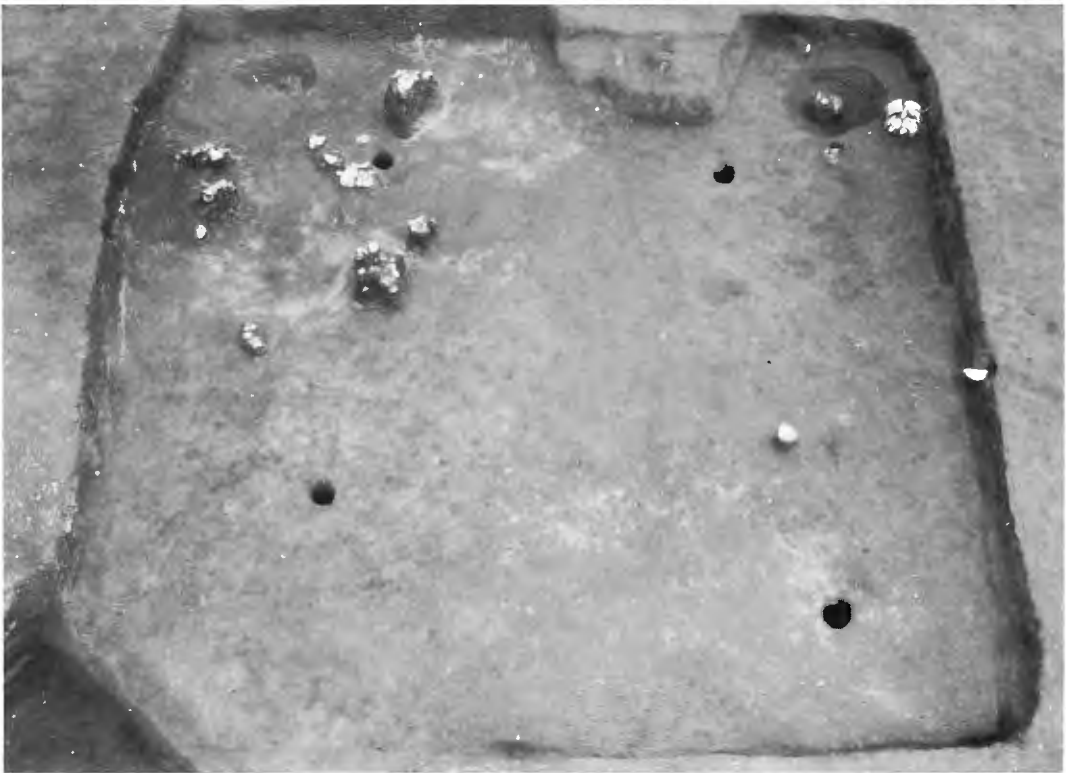
1. ミカド遺跡 第13号住居址 西より



2. 児玉中学校 見学風景



1. ミカド遺跡 第14号住居址遺物出土状態 南より



2. ミカド遺跡第15号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第16号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第16号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第17号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第17号住居址東南コーナー遺物出土状態 西北より



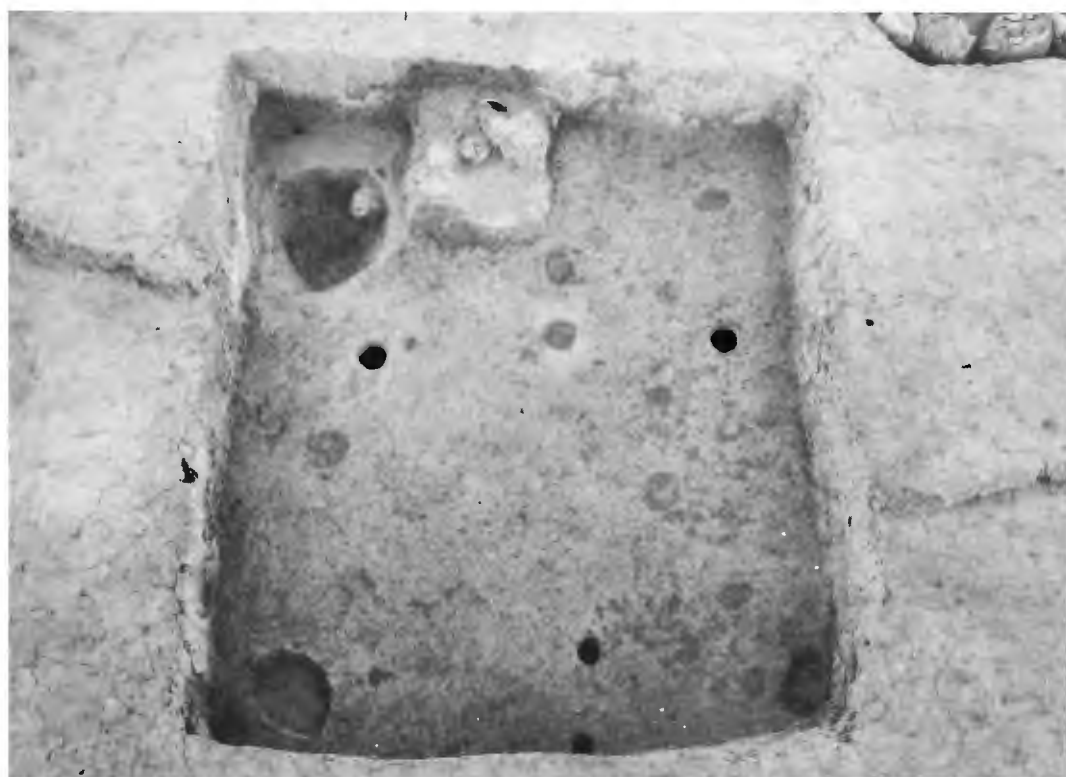
1. ミカド遺跡 第17号住居址東南コーナー遺物出土状態 北より



2. ミカド遺跡 第17号住居址 西壁寄石製模造品出土状態 東より



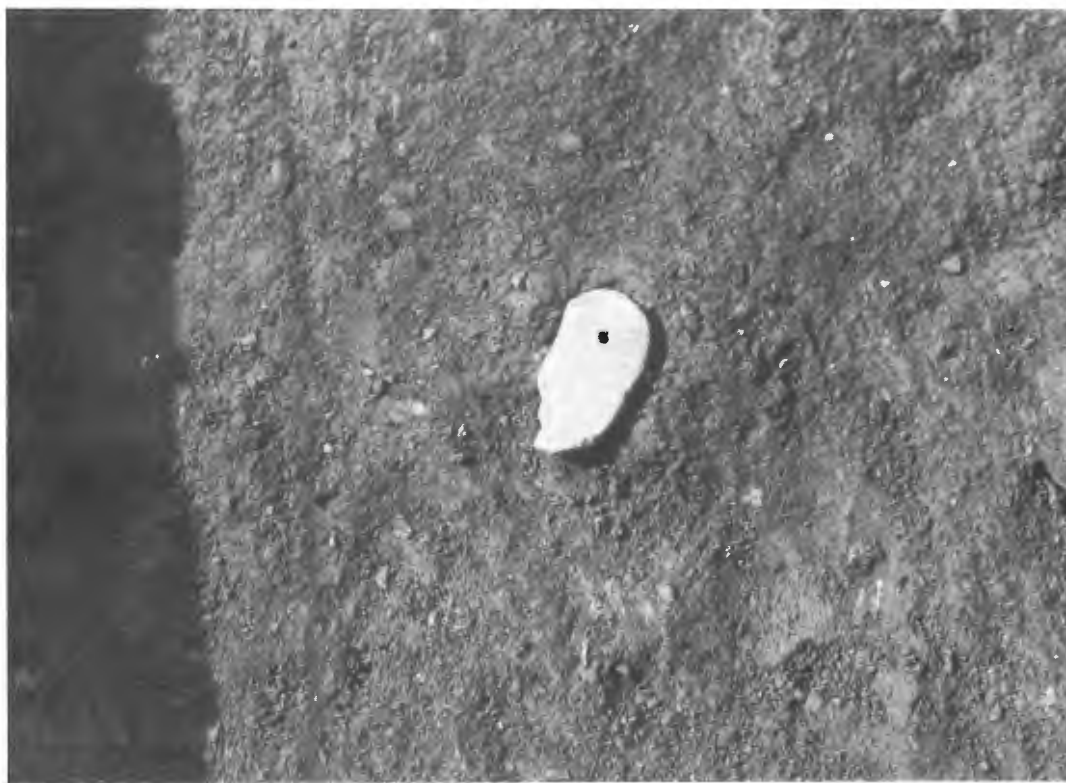
1. ミカド遺跡第18号住居址遺物出土状態 西より



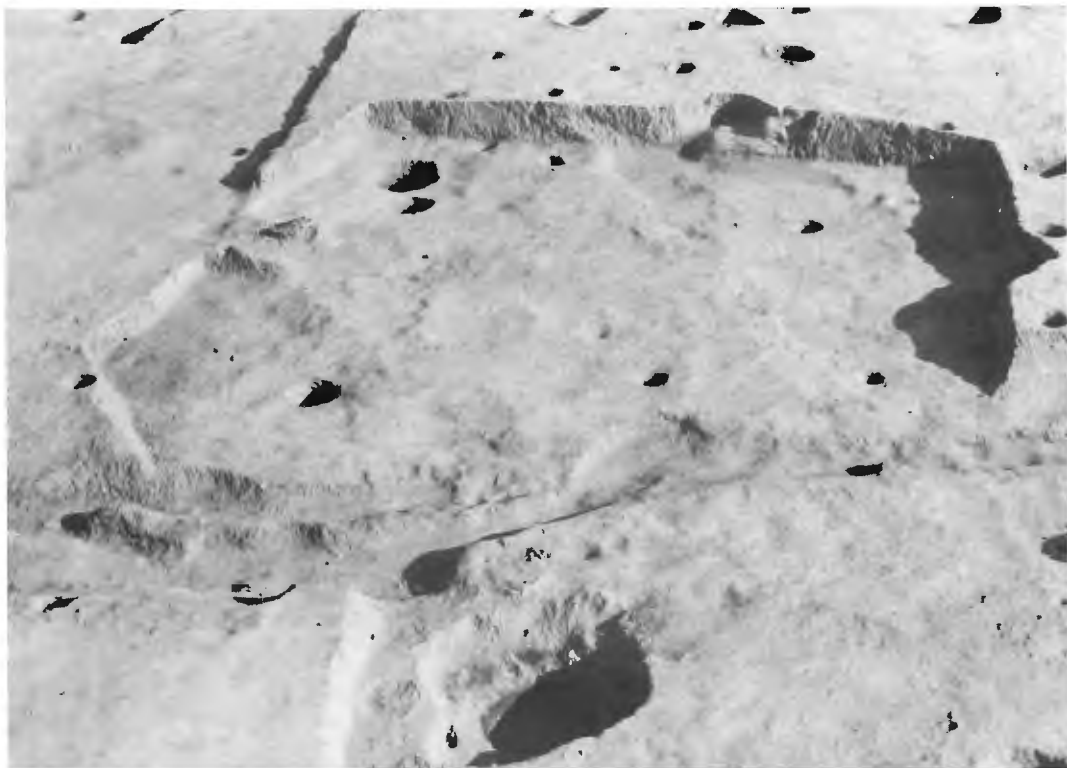
2. ミカド遺跡 第18号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第19号住居址 南より



2. ミカド遺跡 第19号住居址石製勾玉出土状態

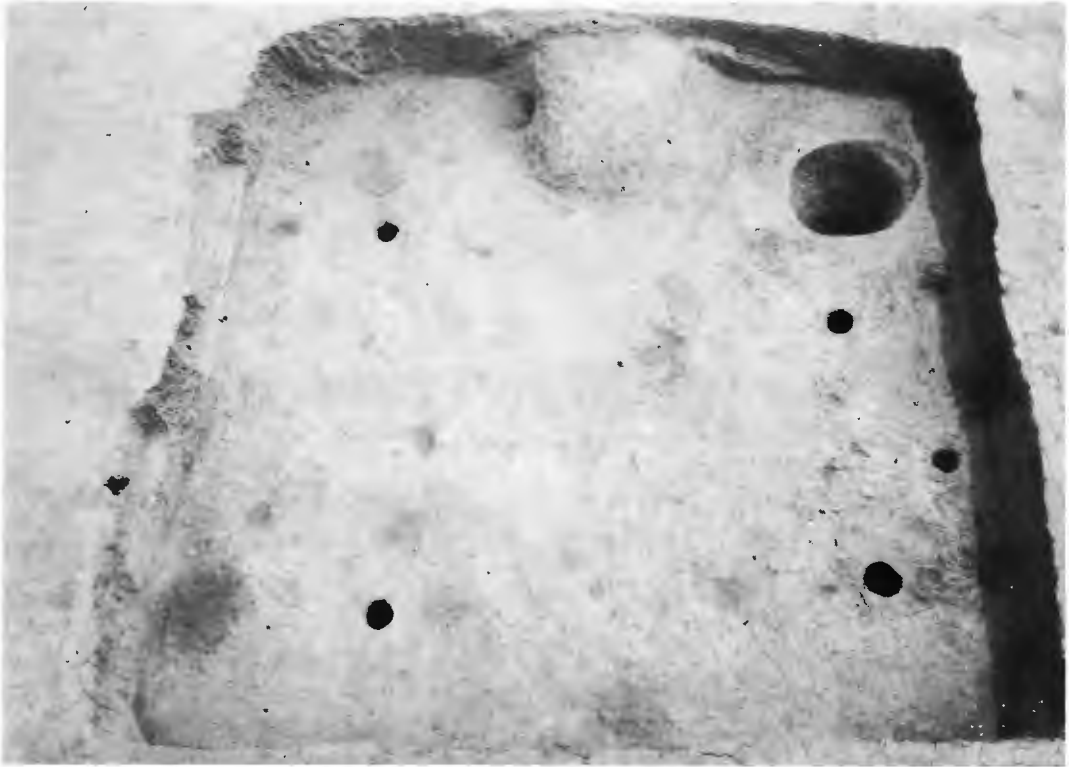


1. ミカド遺跡 第20号住居址 北より



2. ミカド遺跡 第22号住居址遺物出土状態 西より





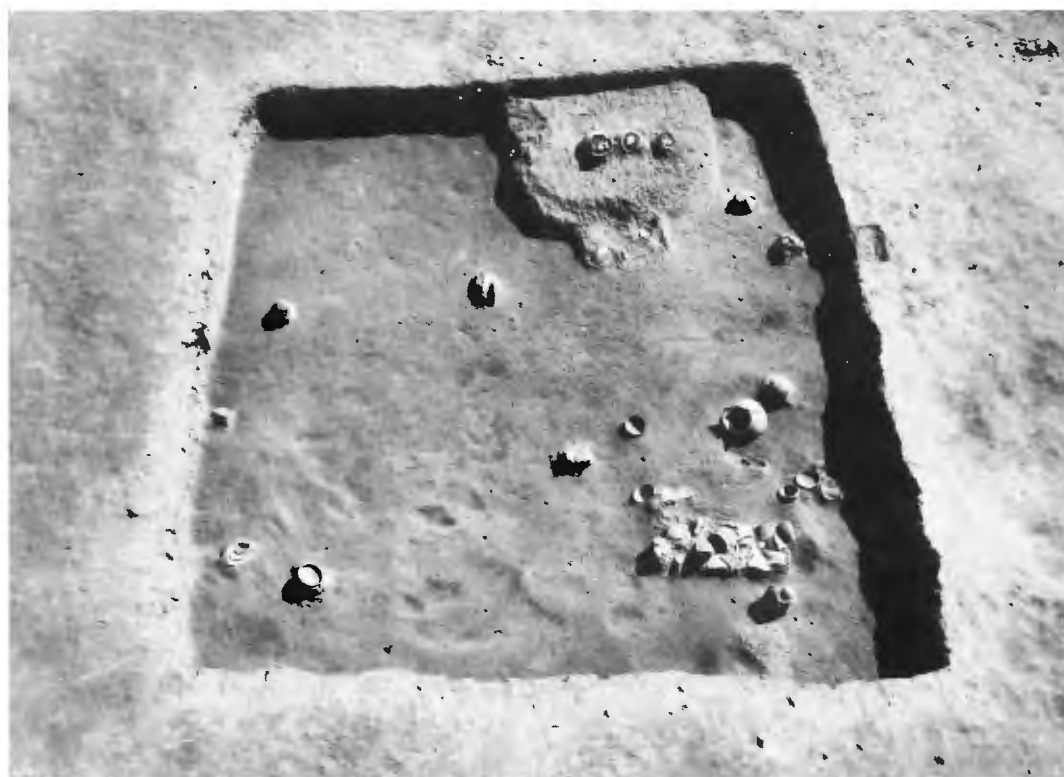
1. ミカド遺跡第22号住居址 西より



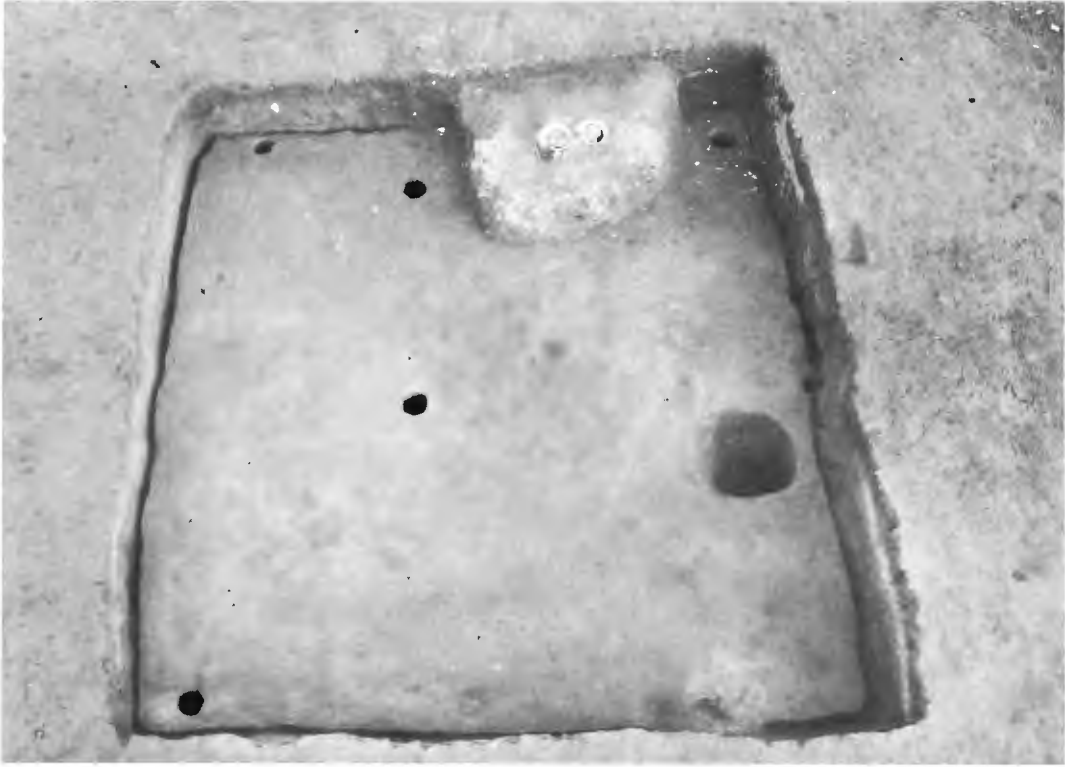
2. ミカド遺跡 第22号住居址 遺物出土状態



1. ミカド遺跡 第23号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第24号住居址遺物出土状態 西より



1. ミカド遺跡 第24号住居址 西より



2. ミカド遺跡 第24号住居址西南コーナー遺物出土状態



1. ミカド遺跡 第24号住居址遺物出土状態



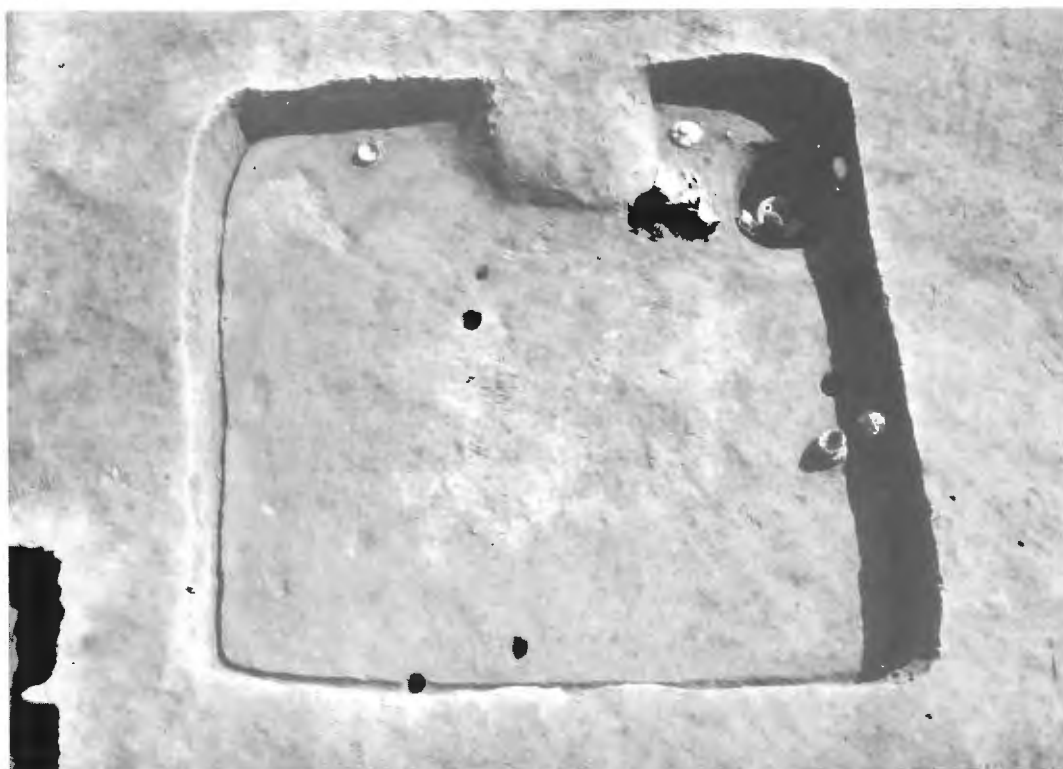
2. ミカド遺跡 第25号住居址遺物出土状態 東より



1. ミカド遺跡 第26号住居址遺物出土状態 南より



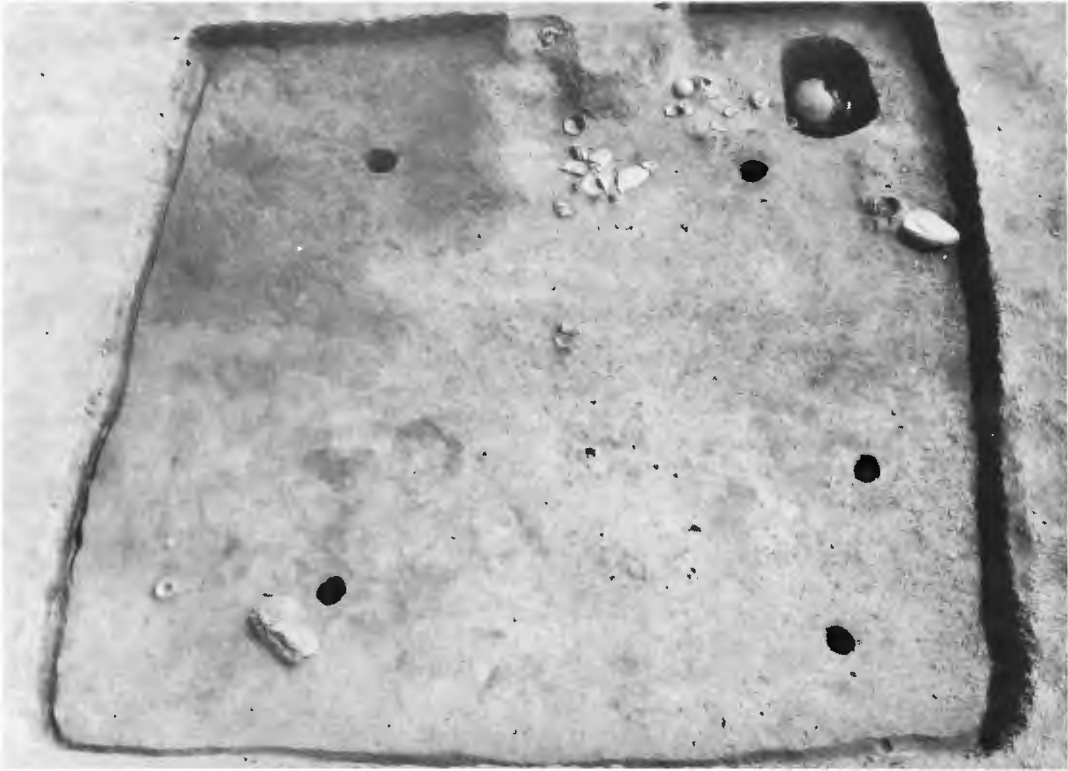
2. ミカド遺跡 第27号住居址東壁周辺遺物出土状態 西より



1. ミカド遺跡 第28号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第29号住居址遺物出土状態 西より



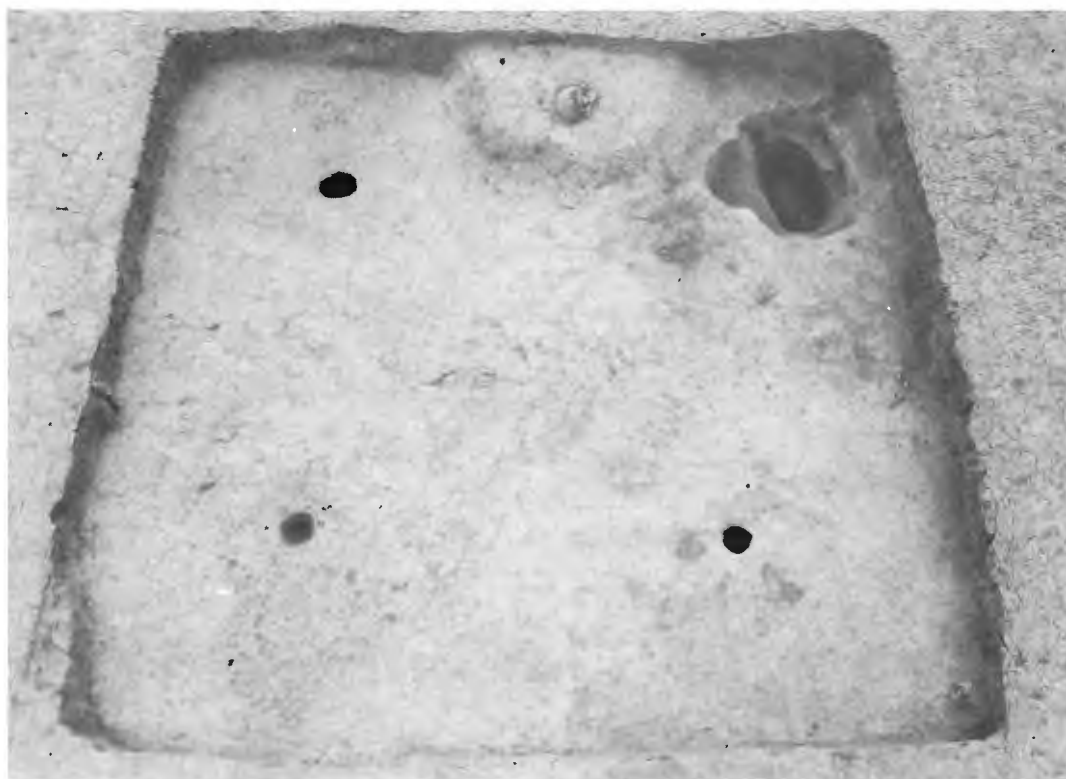
1. ミカド遺跡 第30号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第30号住居址 貯蔵穴



1. ミカド遺跡 第31号住居址遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第31号住居址 西より





1. ミカド遺跡 第31号住居址 東南コーナー遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 第31号住居址 西北コーナー遺物出土状態



1. ミカド遺跡 第32号住居址 西より



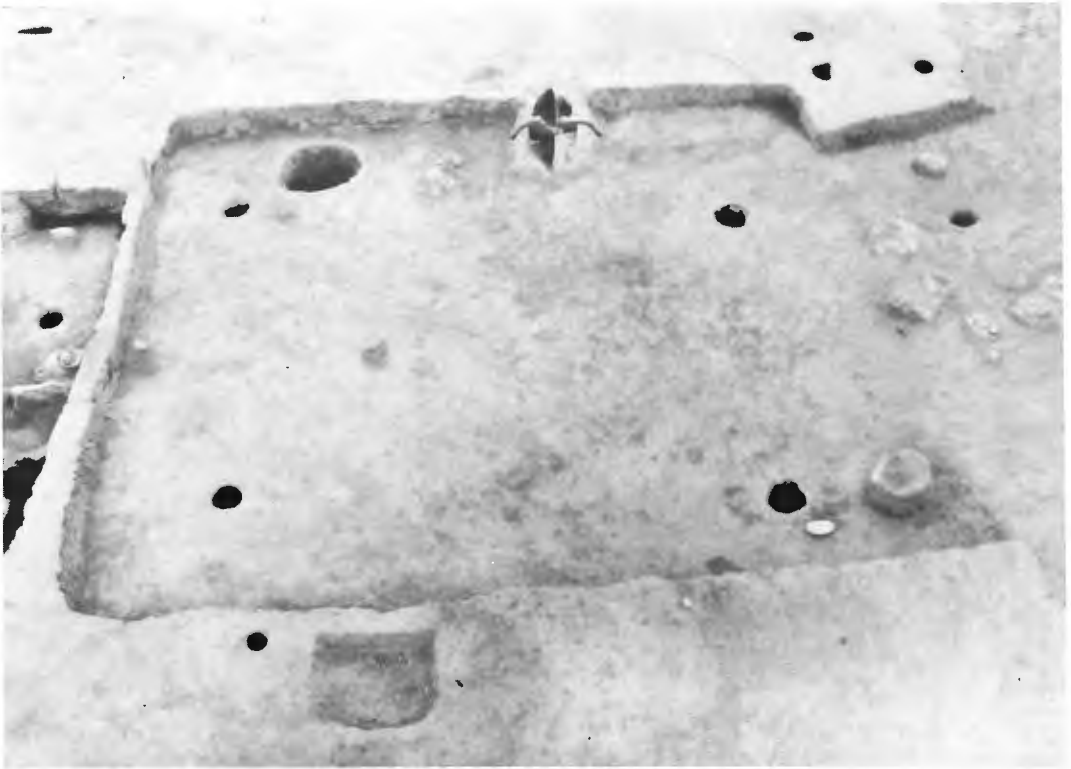
2. ミカド遺跡 第33号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第34号住居址遺物出土状態 西より



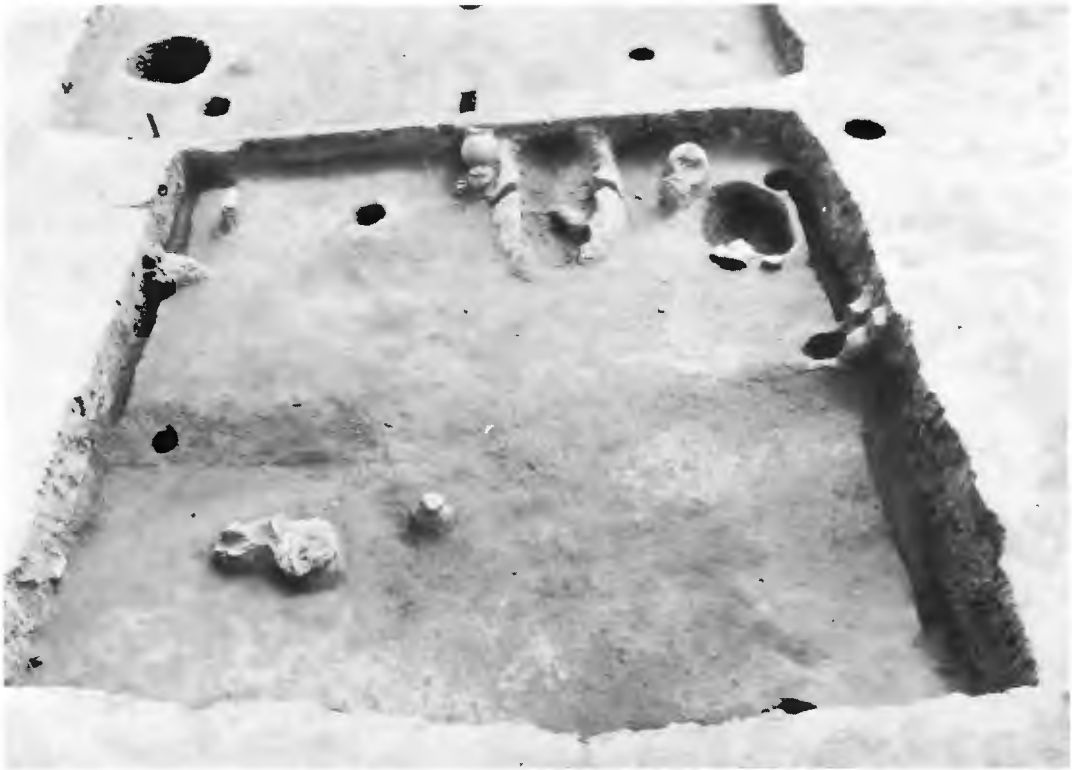
2. ミカド遺跡 第35号住居址遺物出土状態 西より



1. ミカド遺跡 第36号住居址 南より



2. ミカド遺跡 奥から第35、36、37号住居址 西より



1. ミカド遺跡 第37号住居址 遺物出土状態 西より



2. ミカド遺跡 奥から第37、38、39号住居址 南より



1. ミカド遺跡 第38号住居址 南より



2. ミカド遺跡 第39号住居址遺物出土状態 西より



1. ミカド遺跡 第39号住居址遺物出土状態



2. ミカド遺跡 第40号住居址 南より



1. ミカド遺跡 第41号住居址 西より



2. ミカド遺跡 第44号住居址 西より





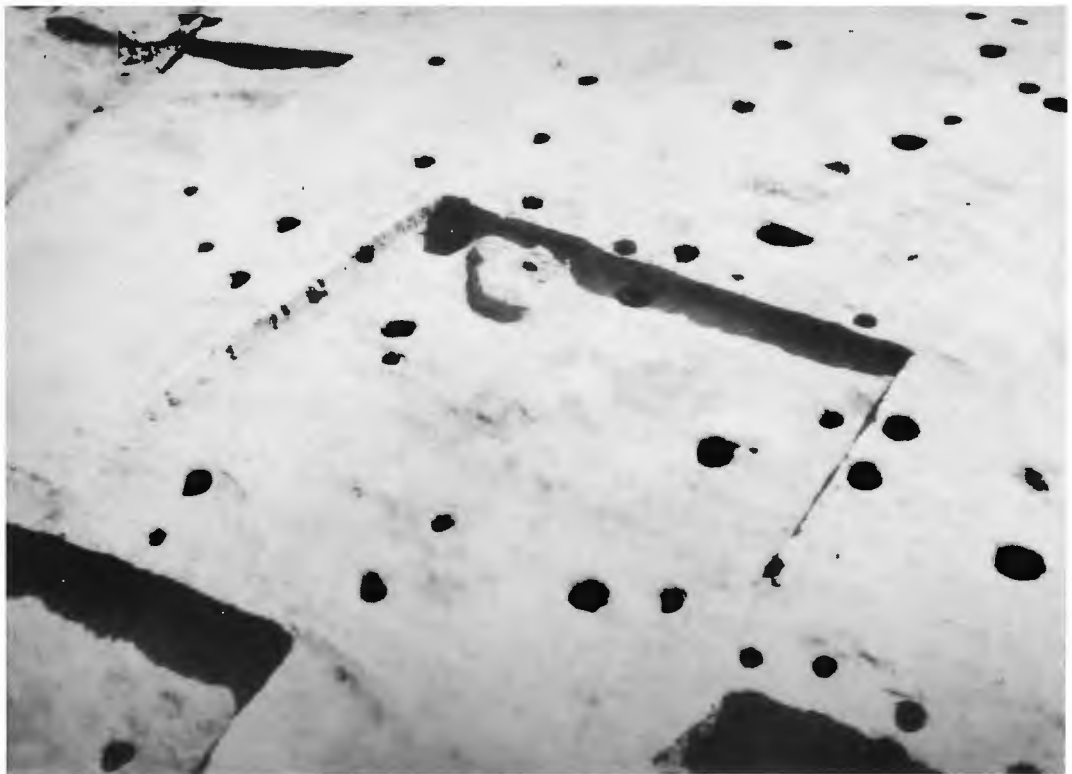
1. ミカド遺跡 第45号住居址遺物出土状態 西より



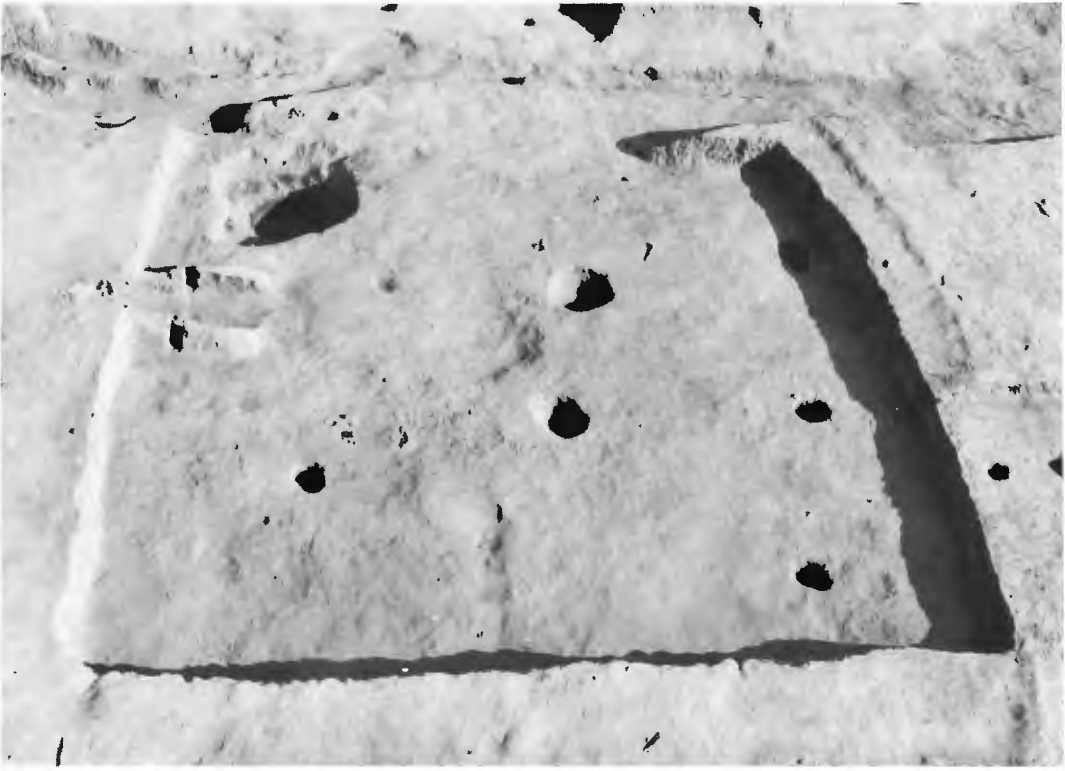
2. ミカド遺跡 第47号住居址 北西より



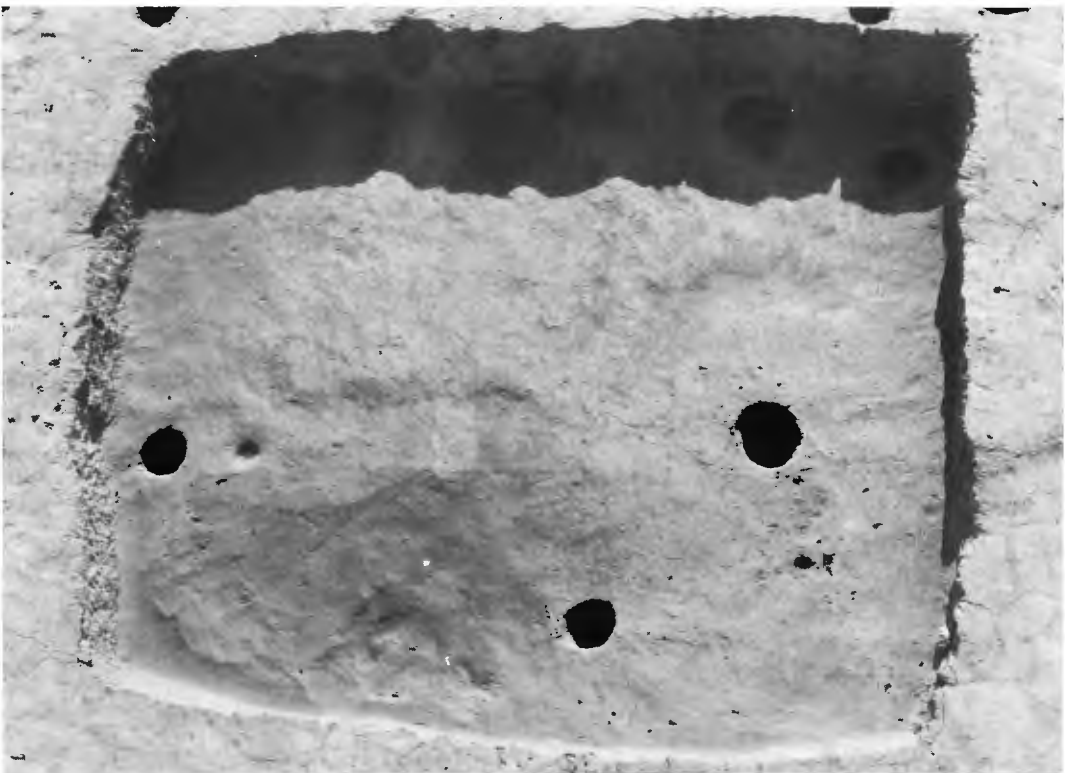
1. ミカド遺跡 第48号住居址 南より



2. ミカド遺跡 第49号住居址 東より



1. ミカド遺跡 第50号住居址 北より



2. ミカド遺跡 第52号住居址 東より

図版47



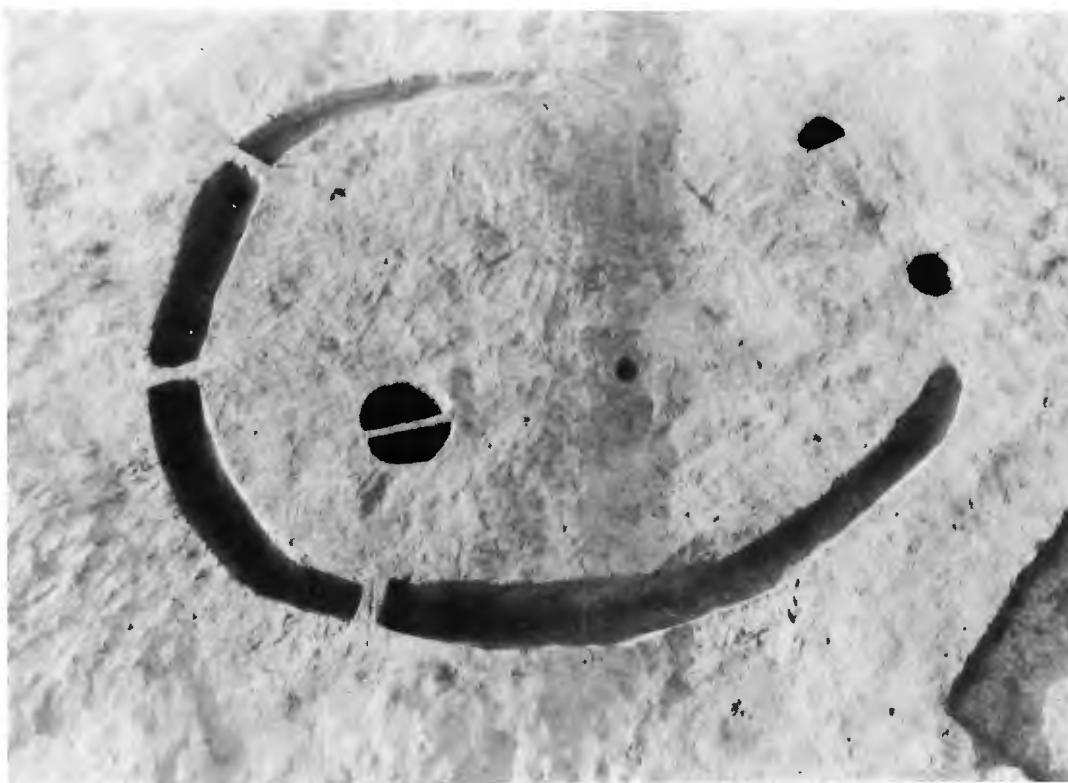
1. ミカド遺跡 手前より第53、54号住居址 北西より



2. ミカド遺跡 第55号住居址 東より



1. ミカド遺跡 第1特殊遺構 南西より



2. ミカド遺跡 第2特殊遺構 南より



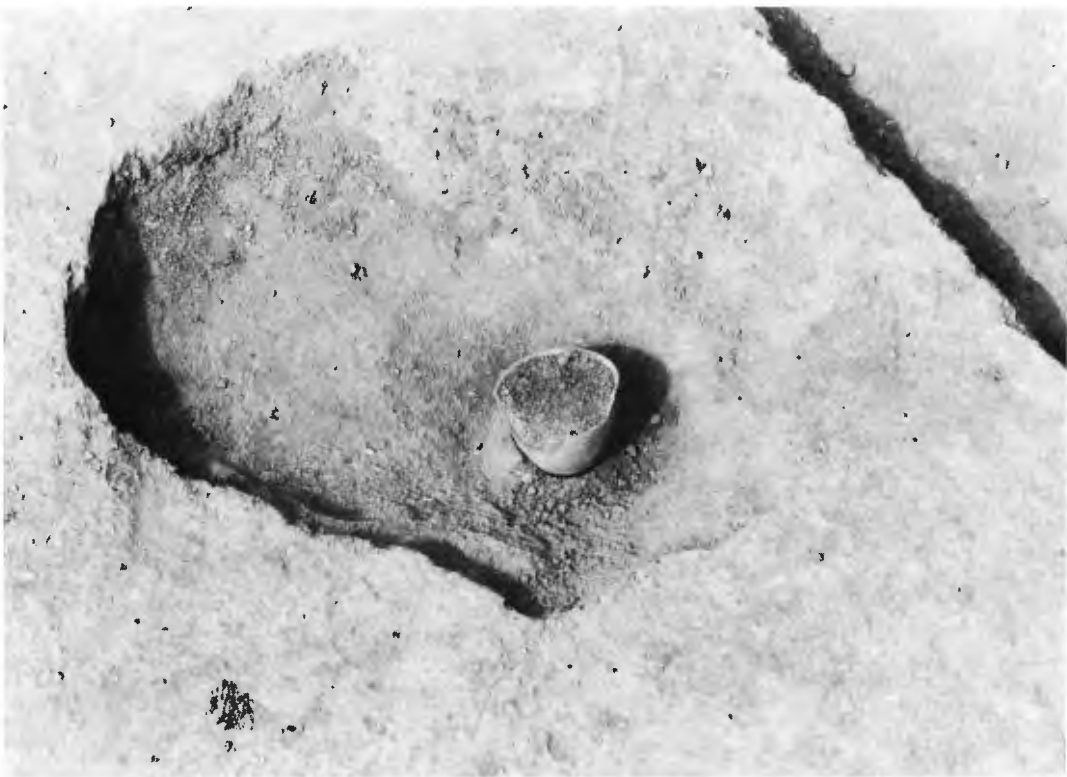
1. ミカド遺跡 第3特殊遺構 東より



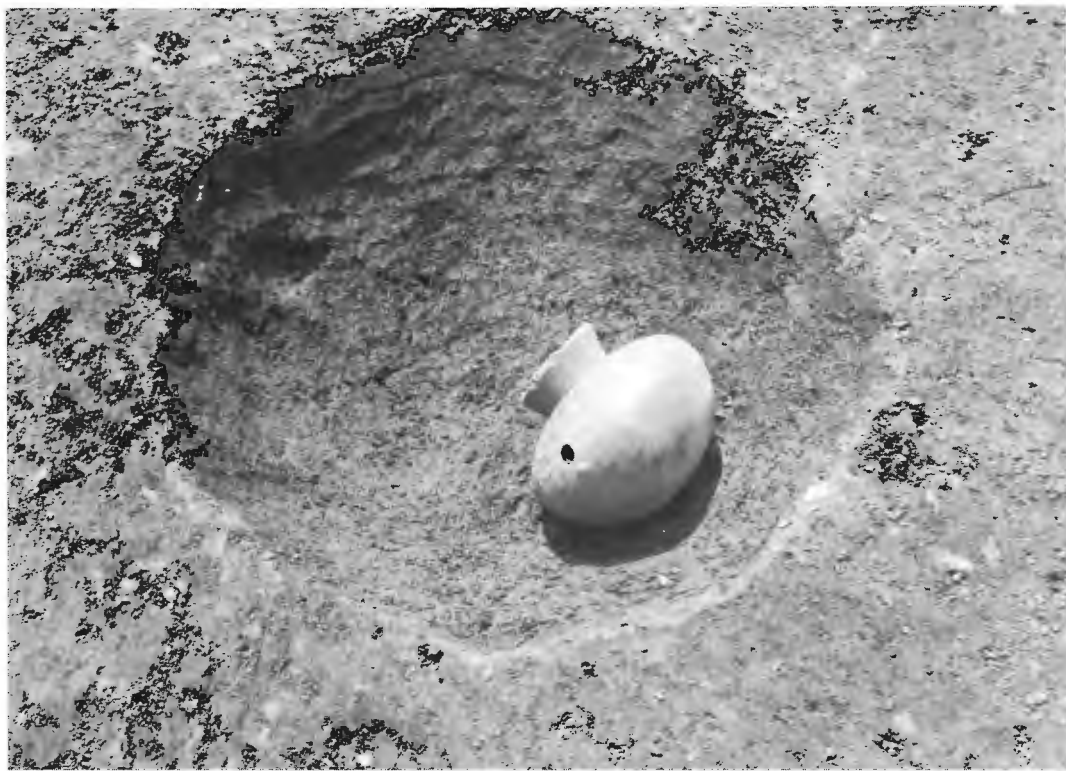
2. ミカド遺跡 第3特殊遺構 南西より



1. ミカド遺跡 第4特殊遺構 南より



2. ミカド遺跡 第38号土壇 甑出土状態 南西より



1. ミカド遺跡 第33号土坑 須恵器罎出土状態

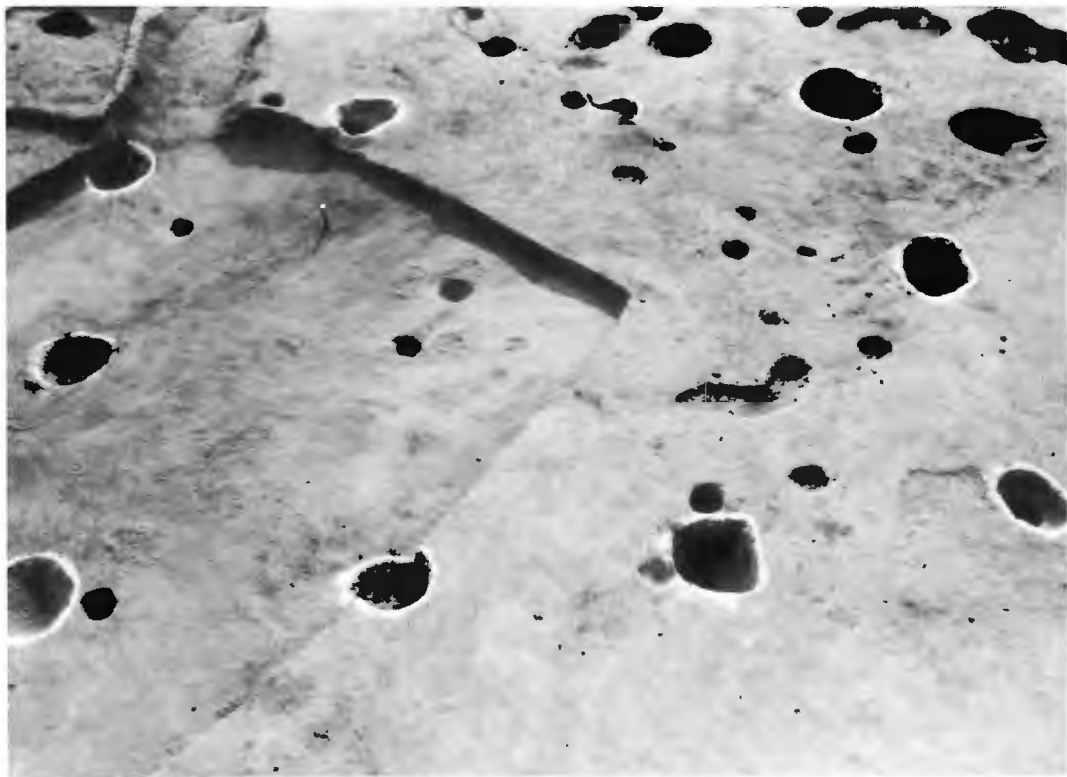


2. ミカド遺跡 第43号土坑 遺物出土状態 西より





1. ミカド遺跡 第9号掘立遺構 北より



2. ミカド遺跡 第10号掘立遺構 東より



1、ミカド遺跡 第5号溝 C・D-8区周辺 東より



2. ミカド遺跡 第2号溝 B、C-45区周辺 西より



1. ミカド遺跡 第1、2号溝 南より



2. ミカド遺跡 第3号溝 西より



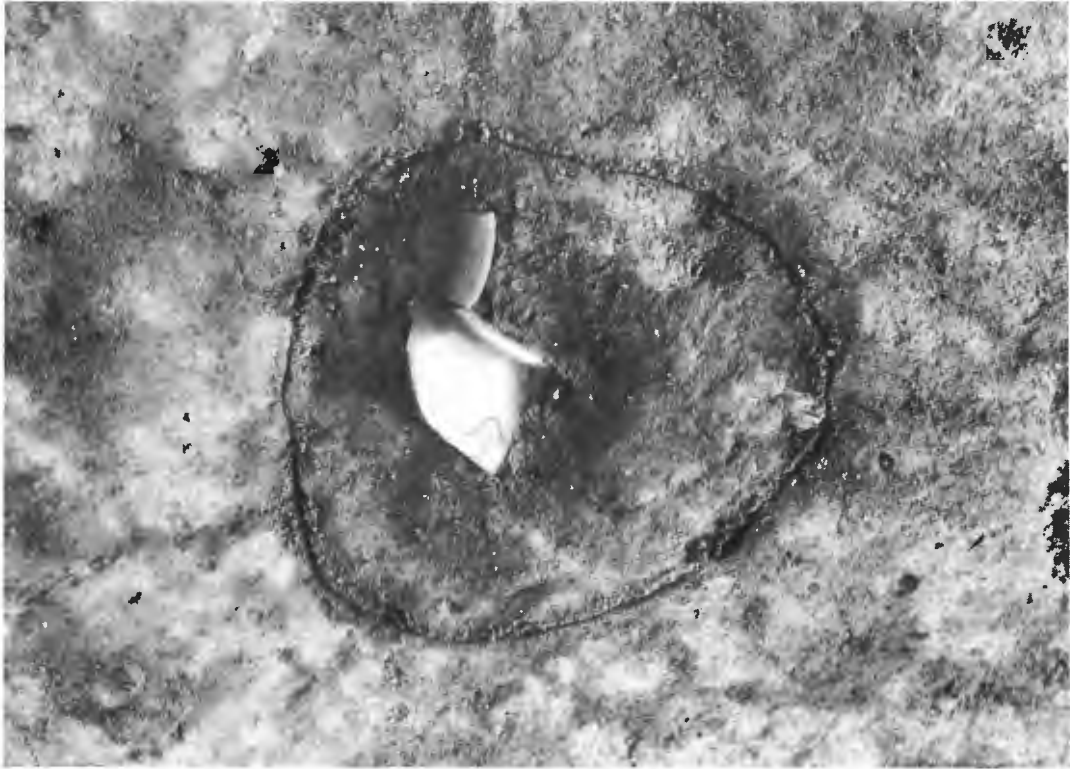
3. ミカド遺跡 第2号溝断面 南より



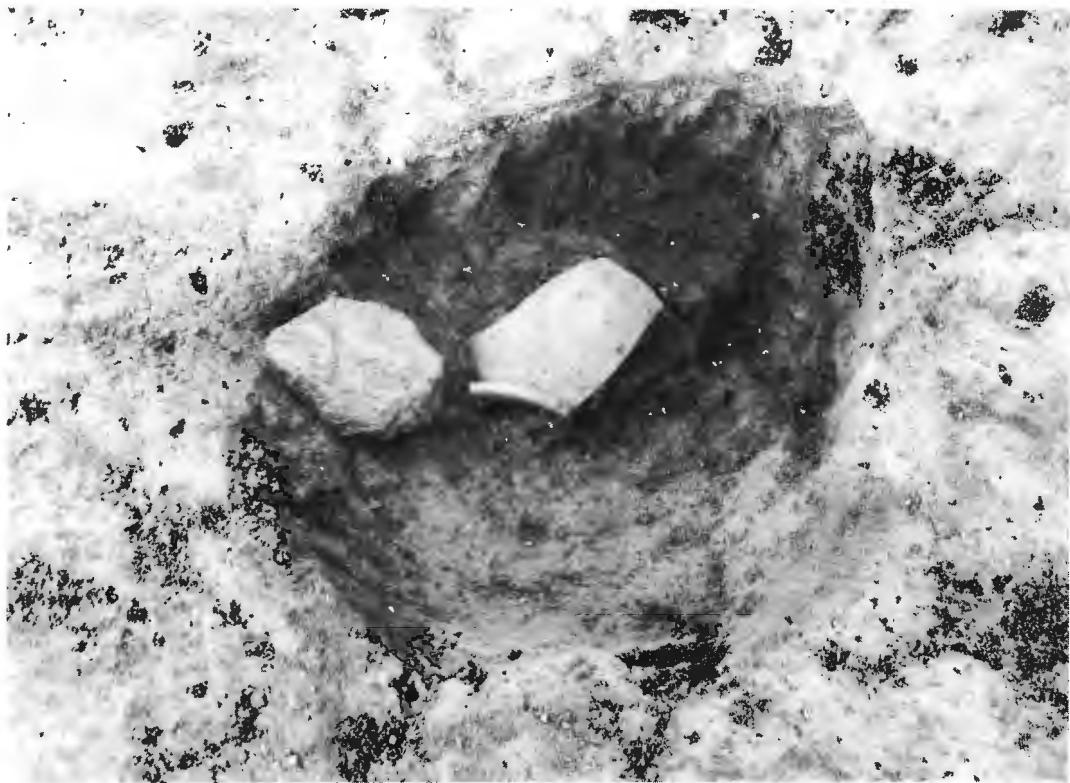
1. ミカド遺跡 A.B.C.D-1.2.3区の遺構 南より



2. ミカド遺跡 D-3区周辺の柱穴



1. ミカド遺跡 SB-3 柱穴上面 中世陶器出土状態



2. ミカド遺跡 SB-3 柱穴下面 中世陶器出土状態

図版57



1. ミカド遺跡 第31号土坑 西より



2. ミカド遺跡 第47号土坑 遺物出土状態 南より



1. ミカド遺跡 第1号集石遺構 西より



2. ミカド遺跡 第1号集石遺構 北より



1. ミカド遺跡 第2号集石遺構 南より



2. ミカド遺跡 第2号集石遺構 北より

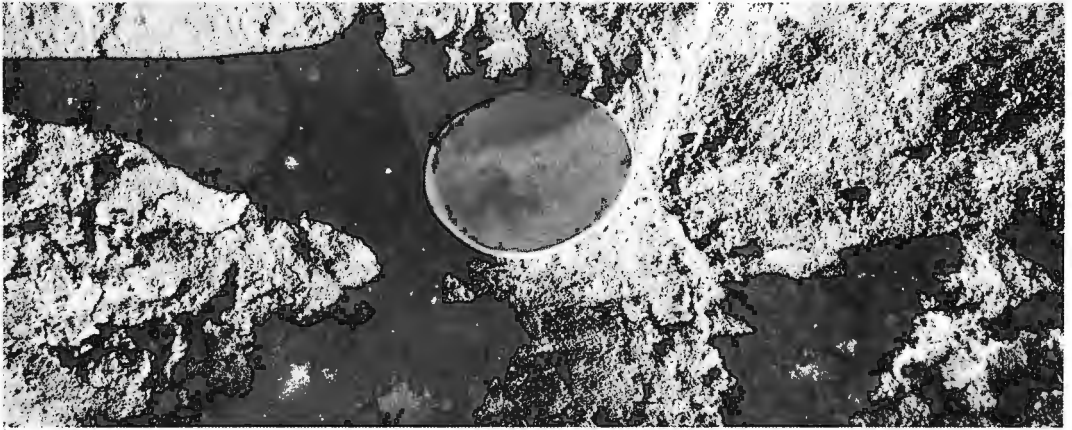




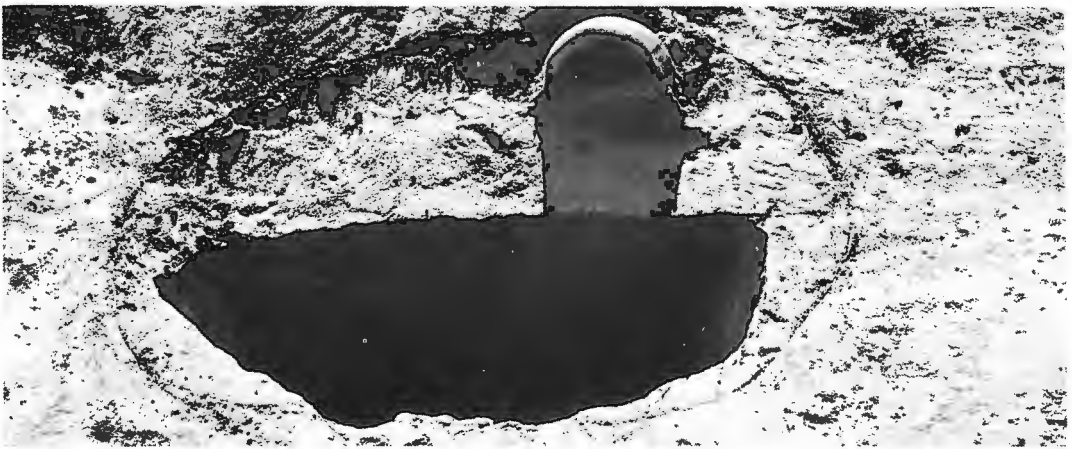
1. ミカド西遺跡 全 景 南より



2. ミカド西遺跡 第1号住居址 北より



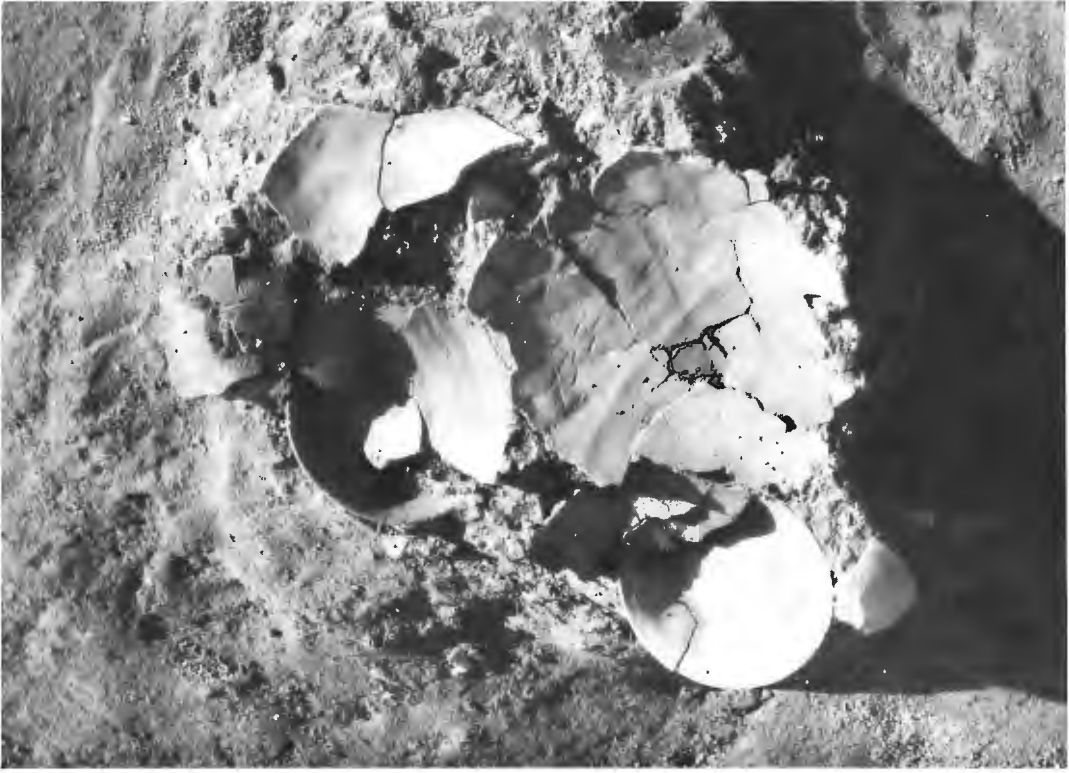
1. ミカド西遺跡 第1号住居址鉢出土状態



2. ミカド西遺跡 第1号住居址甕出土状態



3. ミカド西遺跡 第1号住居址炉址 北より



1. ミカド西遺跡 第2号住居址 土器出土状態



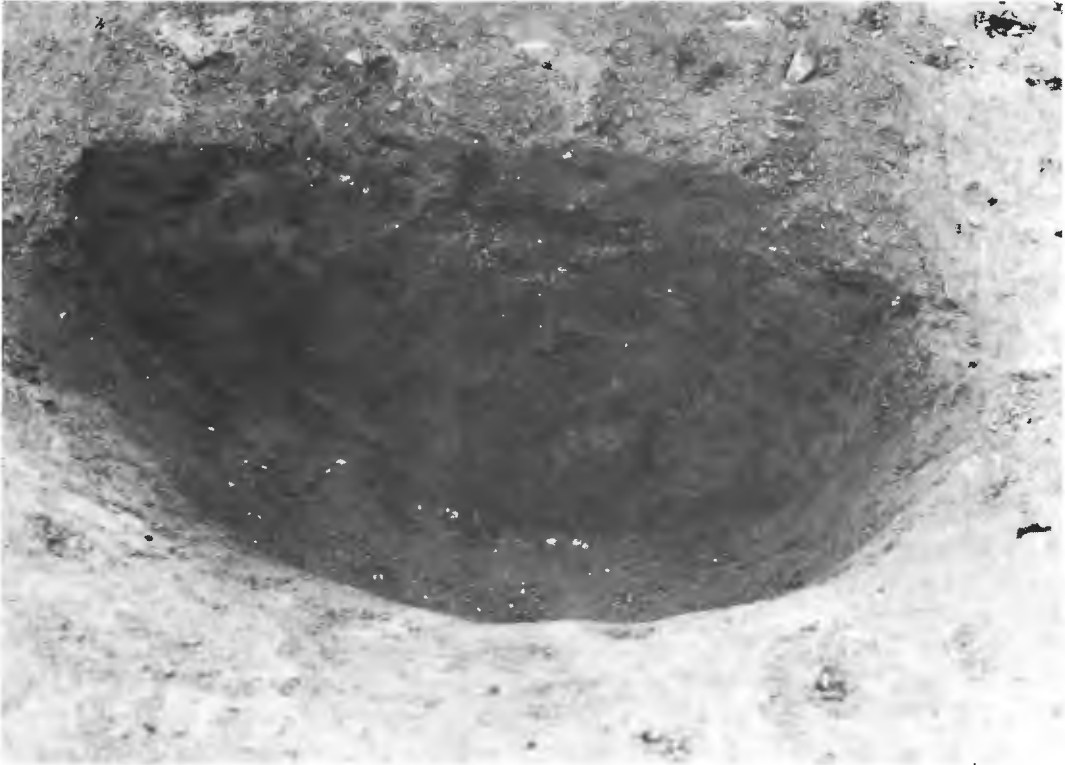
2. ミカド西遺跡 第3号住居址 土器出土状態



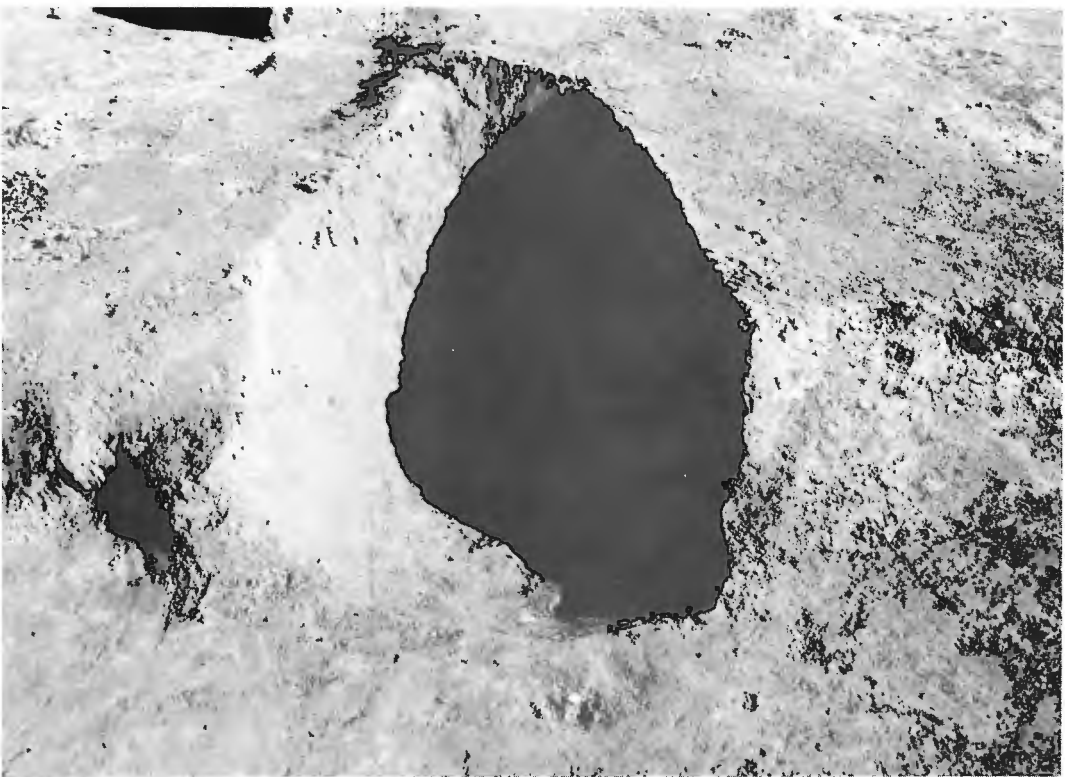
1. ミカド西遺跡 第4号住居址 北西より



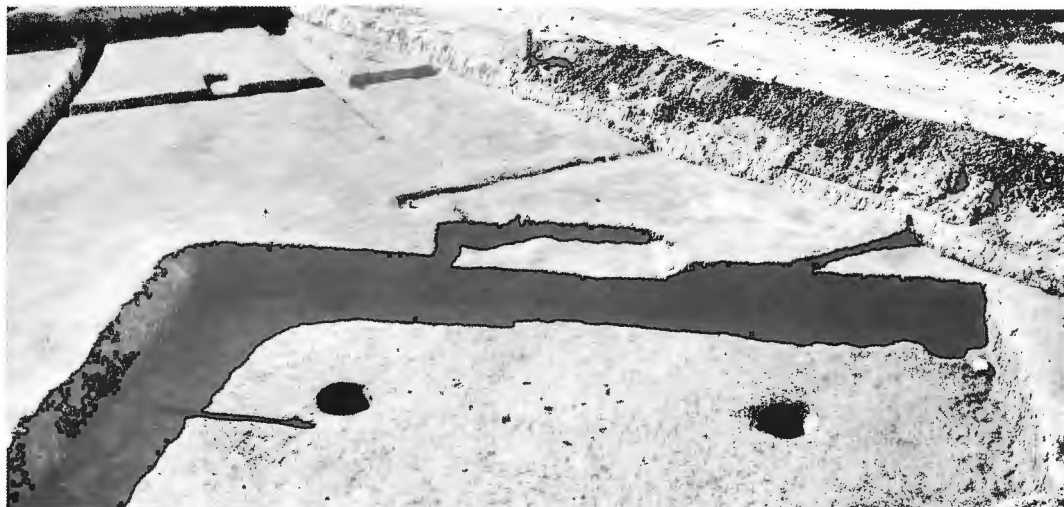
2. ミカド西遺跡 第4号住居址カマド断面



1. ミカド西遺跡 第4号住居址カマド断面



2. ミカド西遺跡 第4号住居址 カマド掘方



1、ミカド西遺跡第6号住居址東南より



2、ミカド西遺跡第6号住居址西北より



3、ミカド西遺跡第6号住居址炉址



1. 向遺跡全景 西より



2. 向遺跡全景 東より

図版67



1. 向遺跡SD-1(右) SE-1(左) 南より



2. 向遺跡SD-2(手前) SD-3 南より





1. 向遺跡SD-4・5・6 西より



2. 向遺跡 SD-4・5・6 交差部 東より



1. 向遺跡 SD-4・5 交差部 南より



2. 向遺跡 SE-1 南より



1. 向遺跡 SK-1 西より



2. 向遺跡 SK-2 西より



1. 円良岡遺跡全景西より



2. 円良岡遺跡全景北より



1、円良岡遺跡 西側調査区全景（西より）



2、円良岡遺跡 東側調査区全景（南より）



1. 円良岡遺跡南側水田址 北より



2. 円良岡遺跡中央水田址 北より



3. 円良岡遺跡北側水田址 北より



1、 円良岡遺跡 蛙畔検出状態 西より



2、 円良岡遺跡 蛙畔検出状態 東より



1. 円良岡遺跡 東側調査区 畦畔検出状態 西より



2. 円良岡遺跡 中央調査区畦畔検出状態 北より



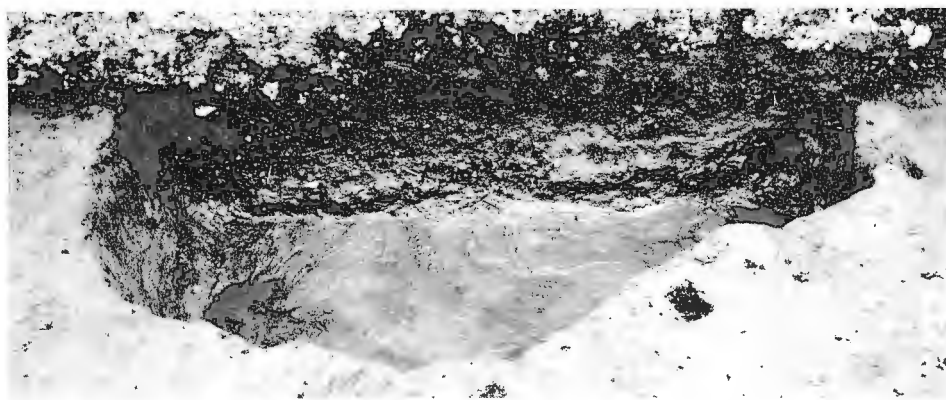


1. 円良岡遺跡 畦畔の痕跡および水田面の状態 北より



2. 円良岡遺跡 SK-1 北より

1. 円良岡遺跡 SK-2  
東より



2. 円良岡遺跡 SK-3 北より



1. 一町田遺跡幹線排水路全景 北より



2. 一町田遺跡調査区全景 西より



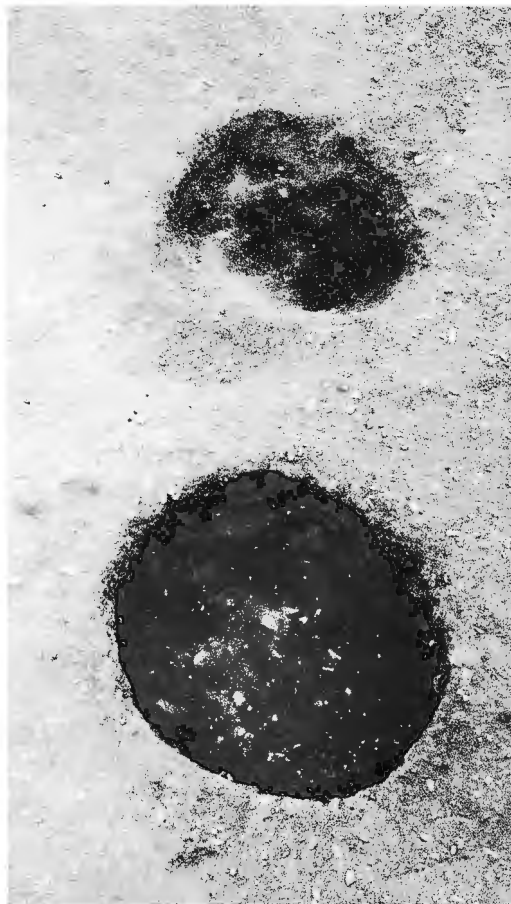
1. 一町田遺跡調査区全景 東より



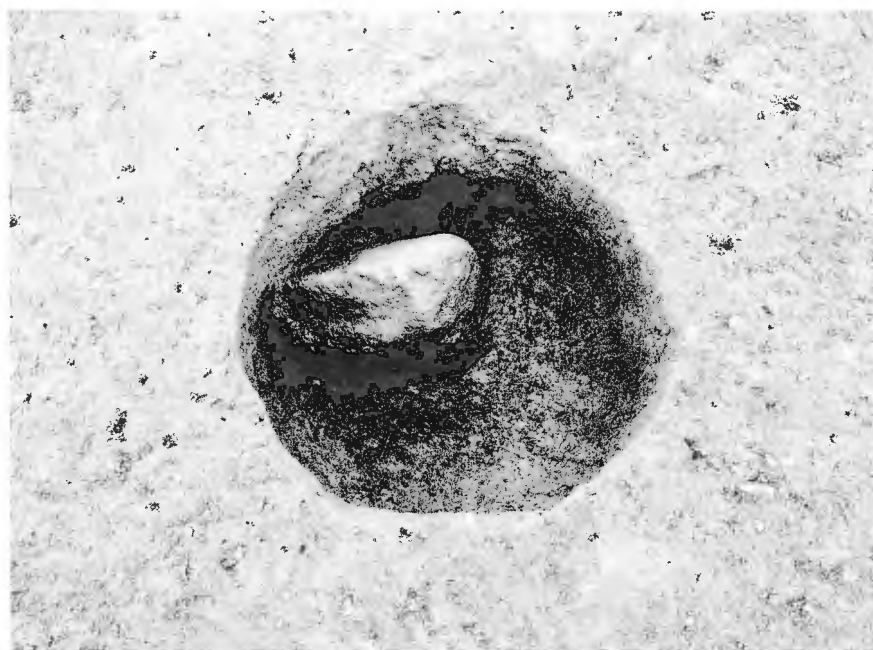
2. 一町田遺跡 柱穴群 東より



1. 一町田遺跡 SK-2 北より



2. 一町田遺跡 SK-5(下)、SK-6(上)西より



1. 一町田遺跡  
SB-3 柱穴



1. 上一ノ堰遺跡 試掘トレンチ全景 北より



2. 上一ノ堰遺跡 調査区全景 北より



1. 上一ノ堰遺跡 建物遺構 柱穴検出状態 東より



1. 上一ノ堰遺跡 SE-1 南より



2. 上一ノ堰遺跡 SB-1 柱穴 西より

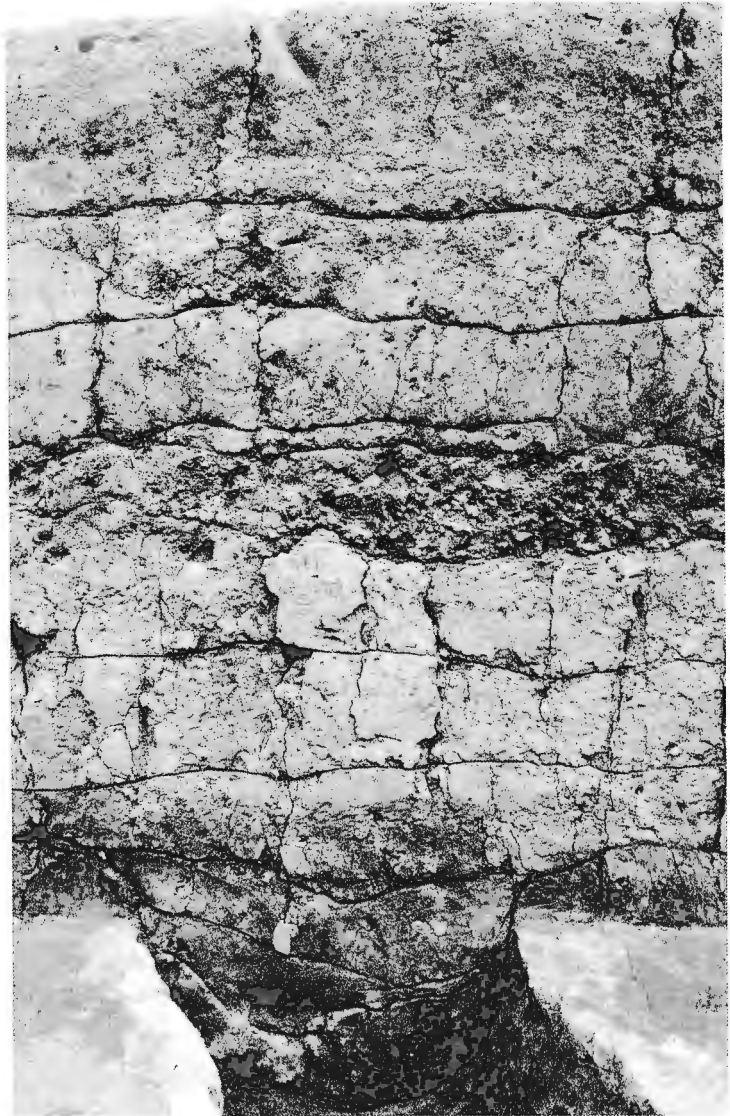




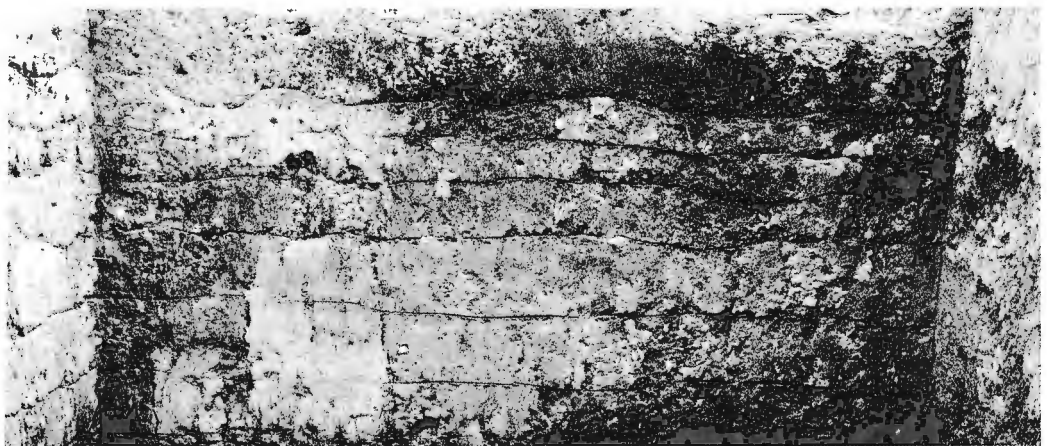
1. 乙中ノ堰遺跡 調査区全景 北より



2. 乙中ノ堰遺跡 調査区 西より



1. 乙中ノ堰遺跡  
SD-1土層 西より



2. 乙中ノ堰遺跡 基本土層 Kトレンチ 西より



1. 上ノ堰SD-1 Kトレンチ 北より



2. 上ノ堰SD-1 Eトレンチ 北より



3. 上ノ堰SD-1 Gトレンチ 北より



4. 上ノ堰SD-1 Cトレンチ 北より



1. 十二天遺跡 遠景 北東より



2. 十二天遺跡遠景 円良岡遺跡を望む 西より



1. 十二天遺跡 南側グリッド区全景 東より



2. 十二天遺跡 南側グリッド区発掘風景 北より



1、十二天遺跡 北側調査区全景 西より



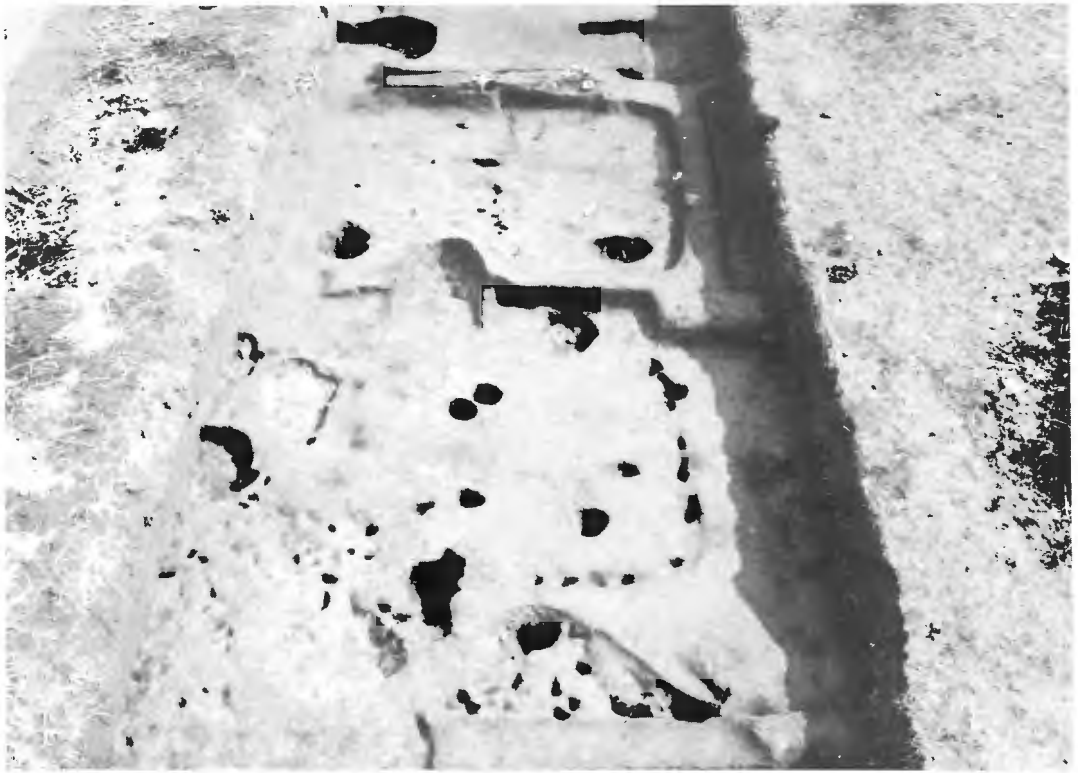
2、十二天遺跡 北側調査区全景 西より



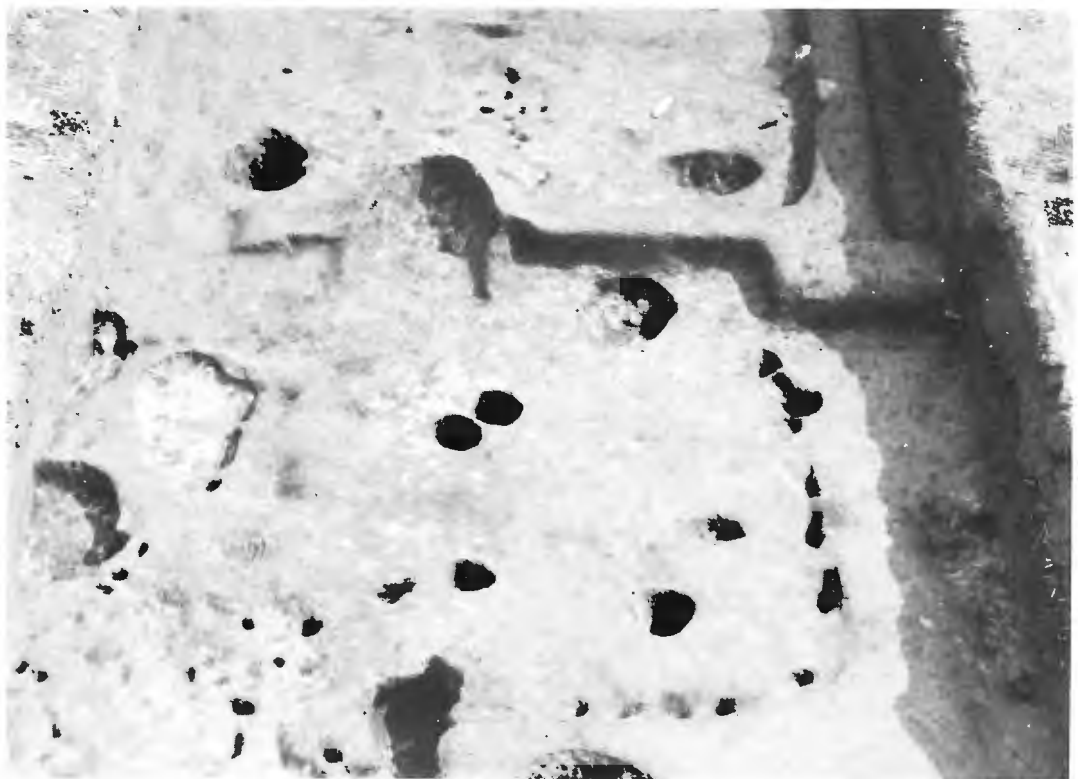
1. 十二天遺跡  
第1a号住居址 西より



2. 十二天遺跡  
第2号住居址群 西より



1. 十二天遺跡 第3a(上)、3b(下)号住居址 西より



2. 十二天遺跡 第3b号住居址 西より





1. 十二天遺跡  
第3号住居址群 西より



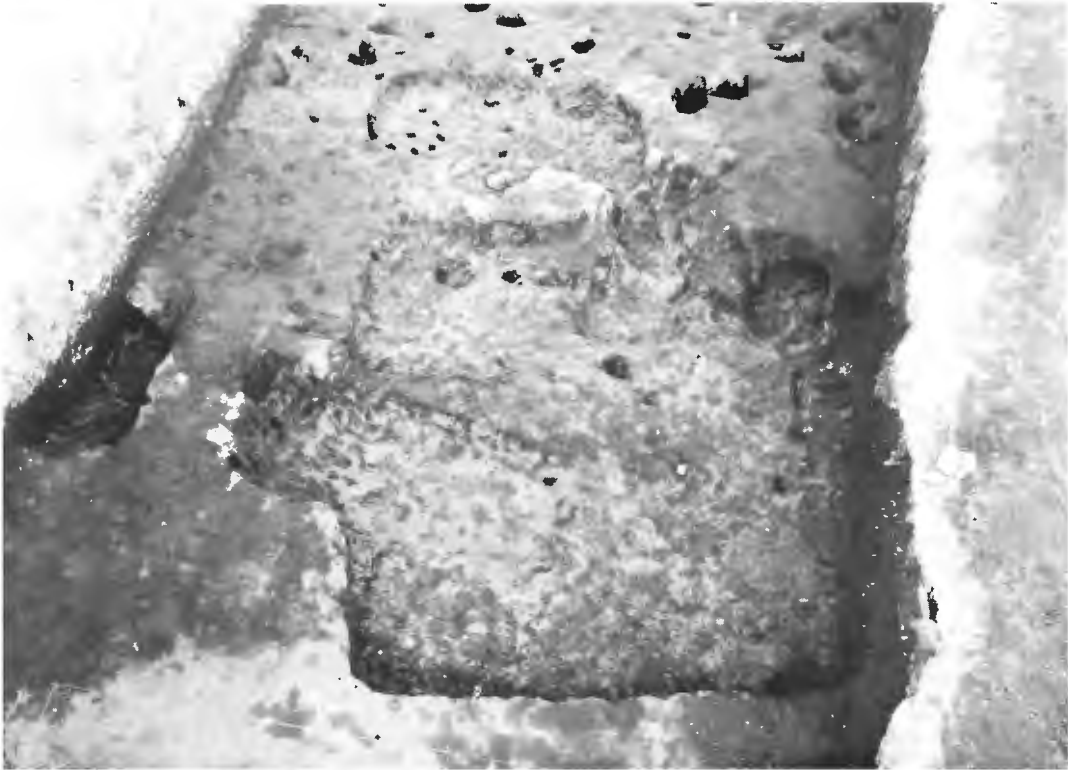
2. 十二天遺跡 第3号住居址群 遺物出土状態 西より



1. 十二天遺跡  
第3a号住居址カマド  
西より



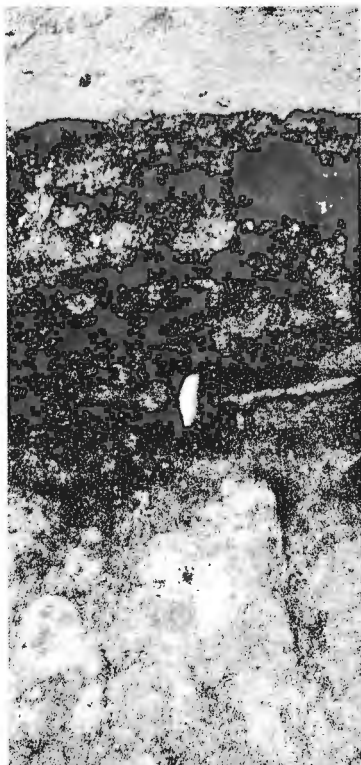
2. 十二天遺跡 第3b号住居址カマド 西より



1. 十二天遺跡 第4号住居址 西より



2. 十二天遺跡 第4号住居址カマド 西より



1. 十二天遺跡第4号住紡垂車  
出土状態



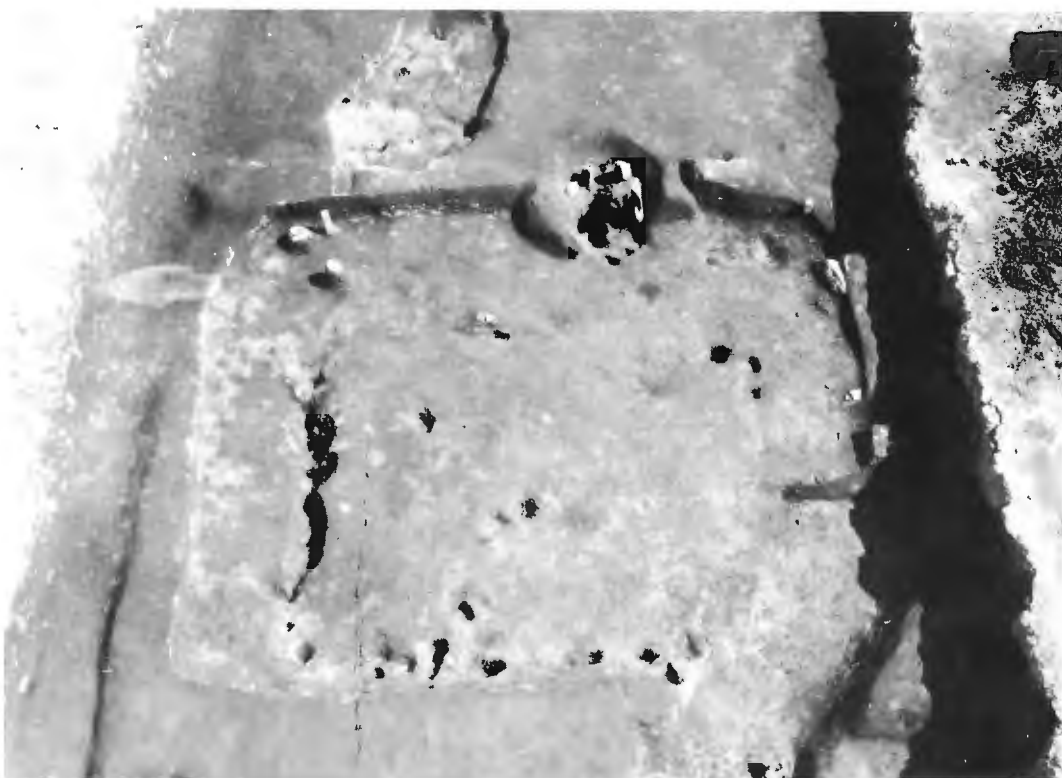
2. 十二天遺跡 第4号住居址貯藏穴上部遺物出土状態  
西より



3. 十二天遺跡 第4号住居址貯藏穴内遺物出土状態 西より (左同住カマド)



1. 十二天遺跡 第5a号住居址 西より



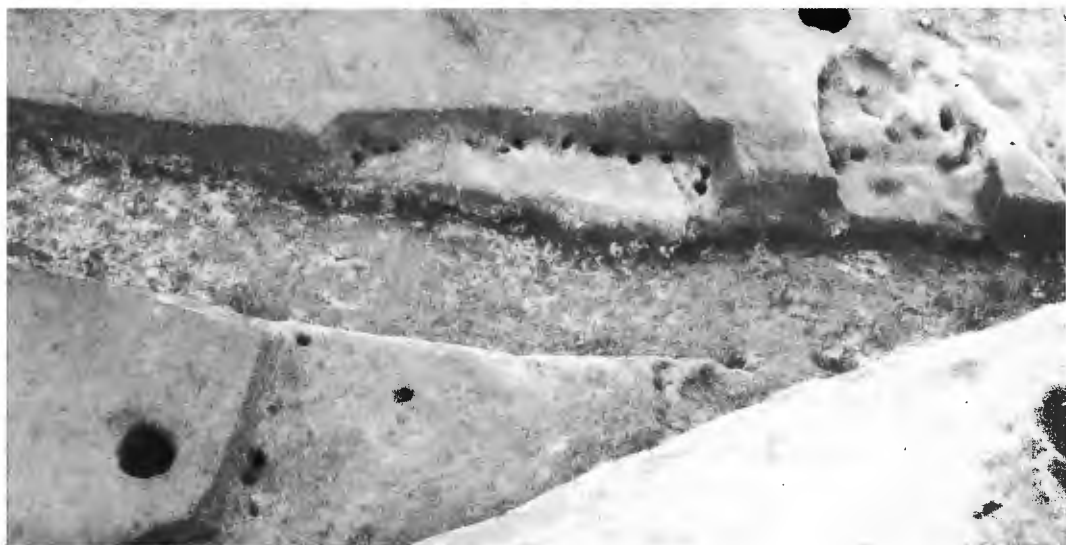
2. 十二天遺跡 第5b号住居址 西より



1. 十二天遺跡 第5b号住居址カマド内 遺物出土状態 西より



2. 十二天遺跡 第5b号住居址カマド 西より



1. 十二天遺跡 第6号住居址 北より



2. 十二天遺跡  
第7号住居址群(中央)  
第8号住居址(下)とSD-8  
(左)



1. 十二天遺跡 第7a(右) 7b(左)号住居址 北より



2. 十二天遺跡 7c, d号住居址 東より





1. 十二天遺跡  
第7号住居址群  
東より



2. 十二天遺跡 第7a号住居址 カマド内 遺物出土状態 北より



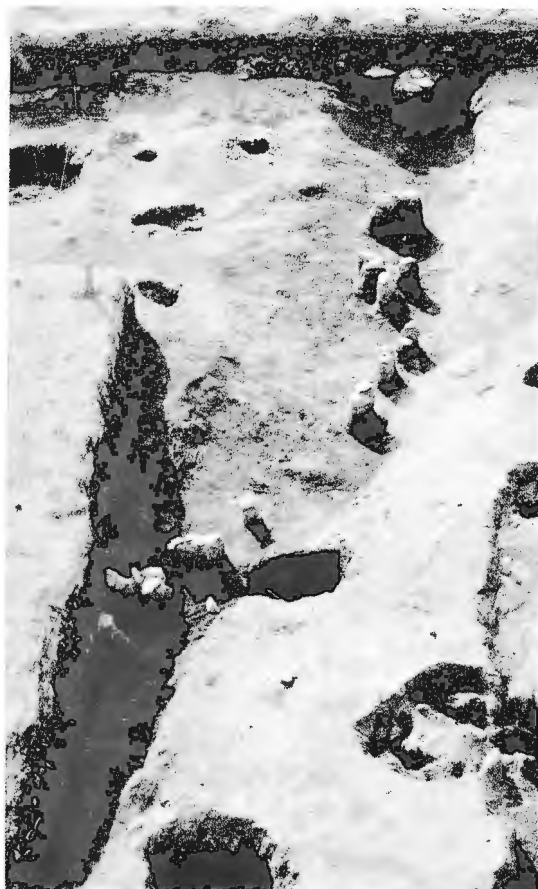
1. 十二天遺跡第11号住居址  
北より



2. 十二天遺跡 第11号住居址カマド 西より



2. 十二天遺跡 SD-1 東より



2. 十二天遺跡 SD-8 東より



3. 十二天遺跡 SD-3(上)、SD-5(下) 遺物出土状態 北より



1、十二天遺跡（下から）SD-13（下）SD-14、15（上）北より



2、十二天遺跡SD-4（上）、3（中）、5（下）北より



1、十二天遺跡 S D 15 西より



2、十二天遺跡 S D 14 東より

図版105



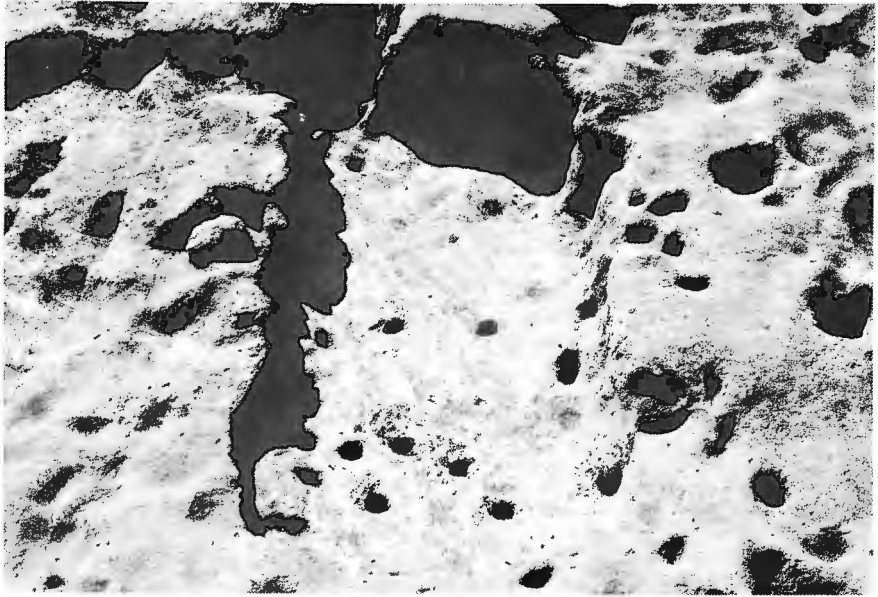
1. 十二天遺跡 SK-1 北より



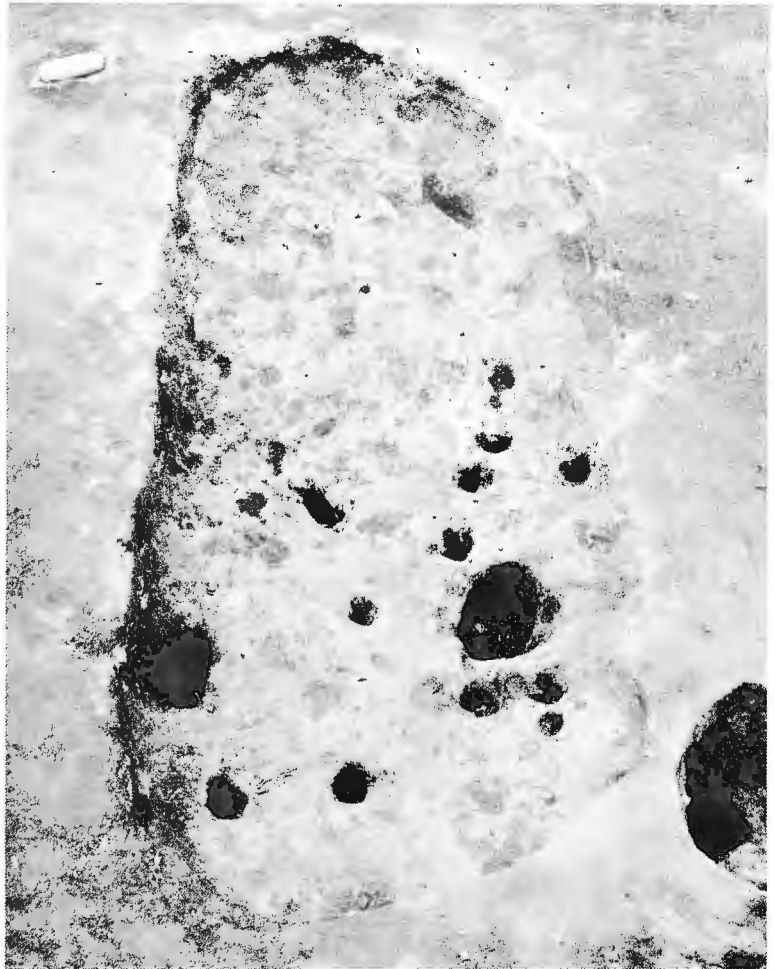
2. 十二天遺跡 SK-52 西より



3. 十二天遺跡 SK-7  
北より



1. 十二天遺跡 SK-6 北より



2. 十二天遺跡 SK-35  
東より



1. 十二天遺跡 SK-2 北より



2. 十二天遺跡 SK-4 東より

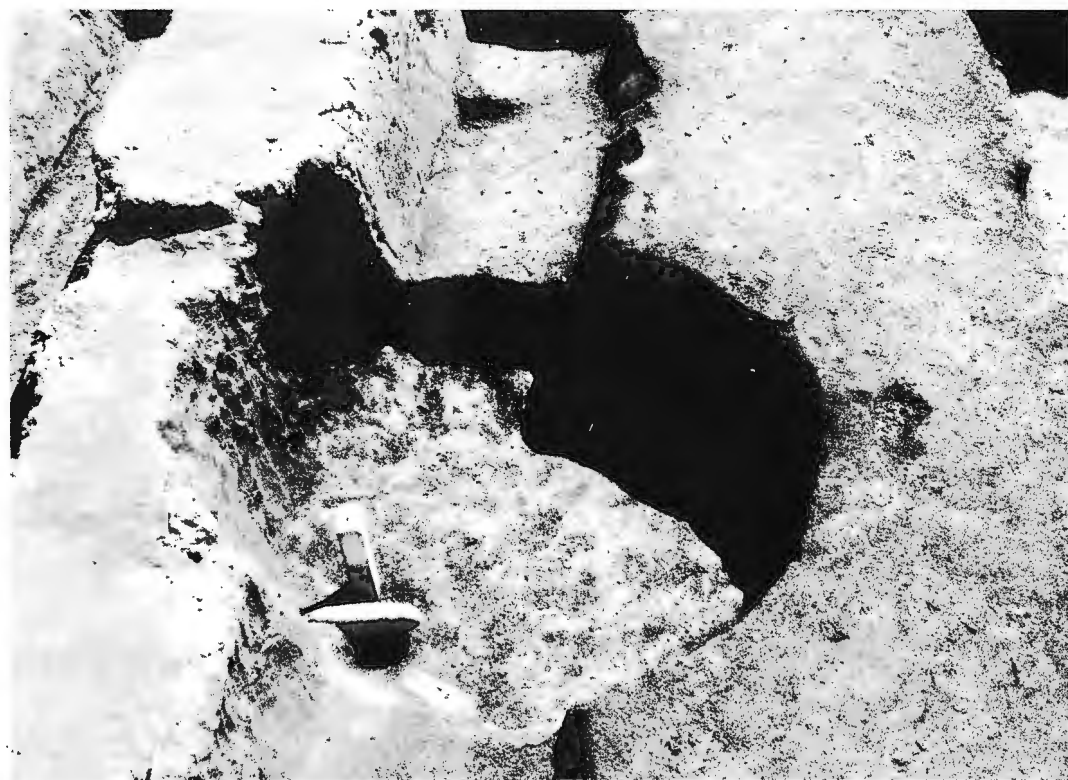


3. 十二天遺跡 SK-10 西より





1. 十二天遺跡 SK-11 北より



2. 十二天遺跡 SK-12 北より



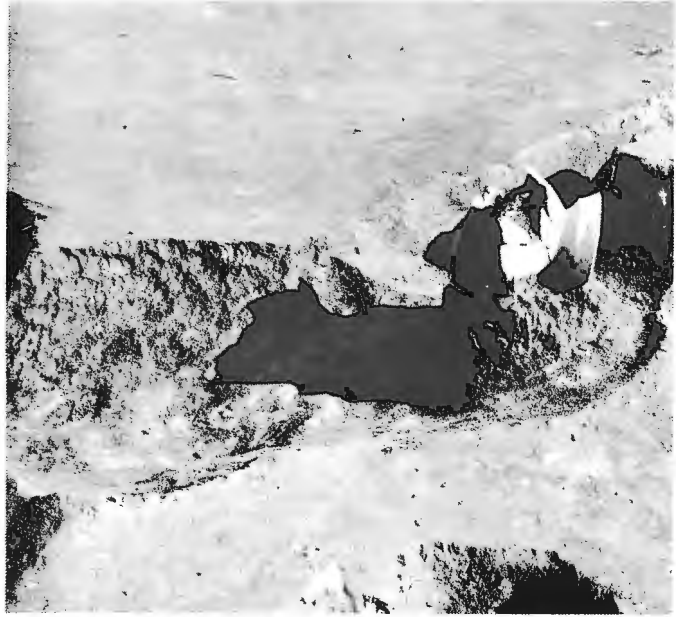
1. 十二天遺跡 SK-9 西より



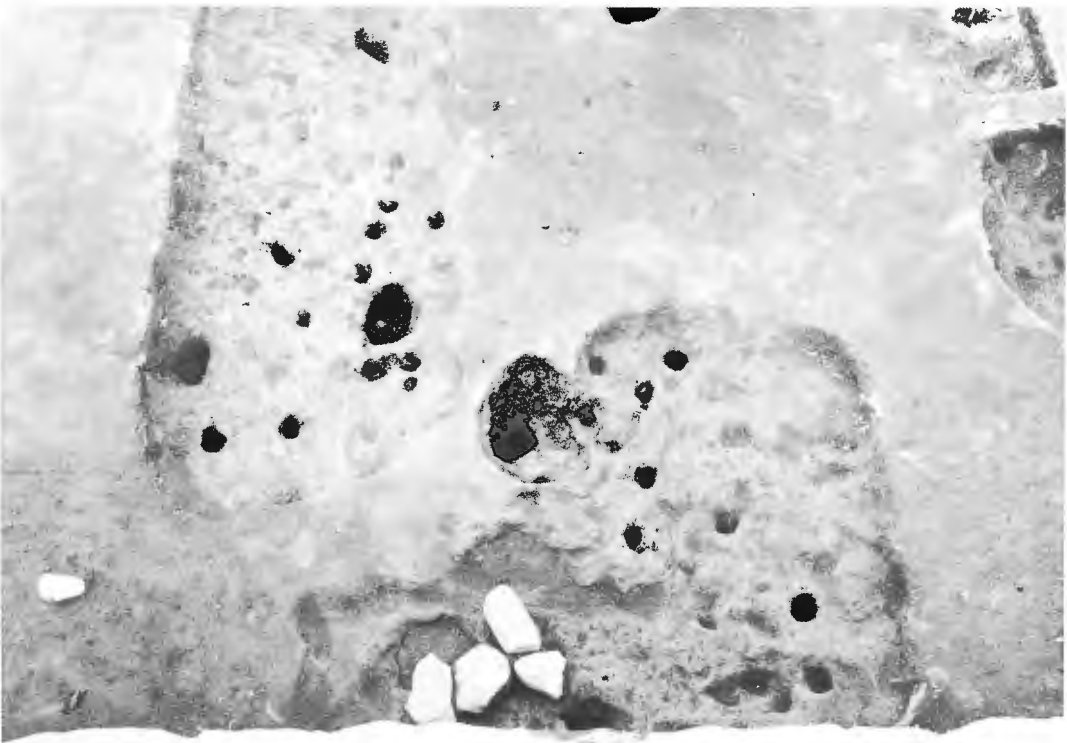
2. 十二天遺跡 SK-52(左)、SK-16(右) 西より



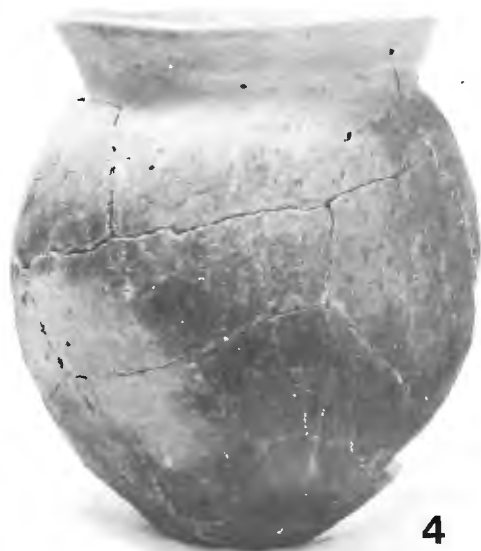
1. 十二天遺跡 SK-38 北より

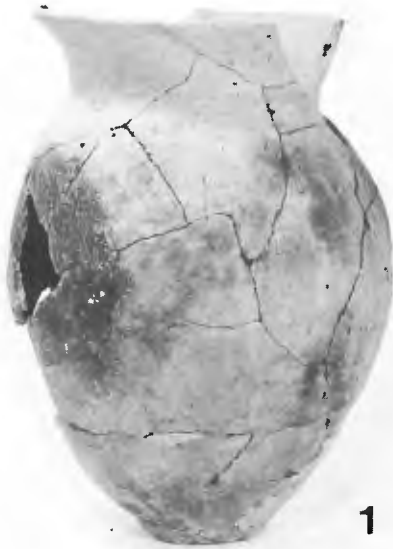


2. 十二天遺跡 SK-38 西より



3. 十二天遺跡 SK-35(左)、SK-37ab 東より



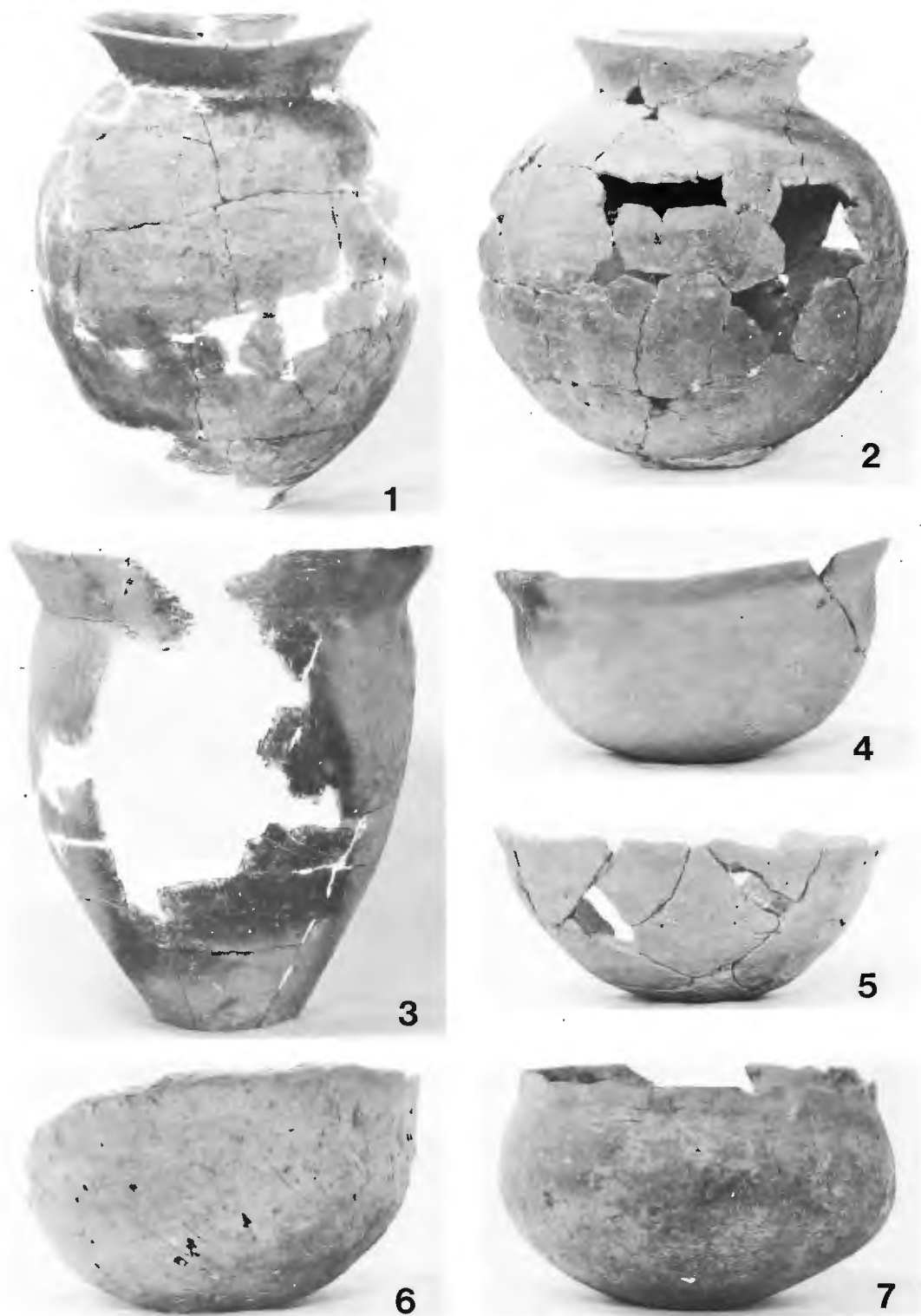








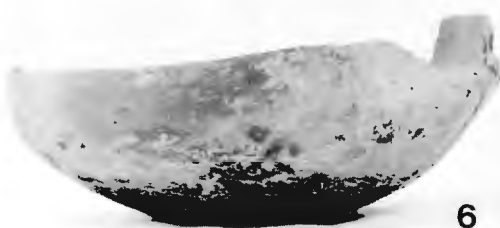


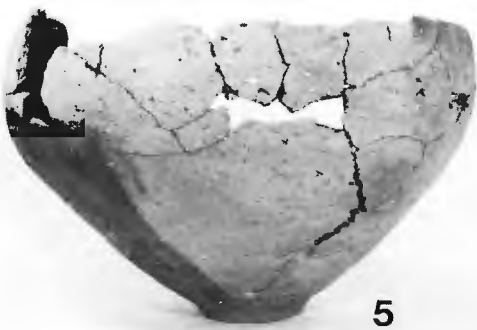
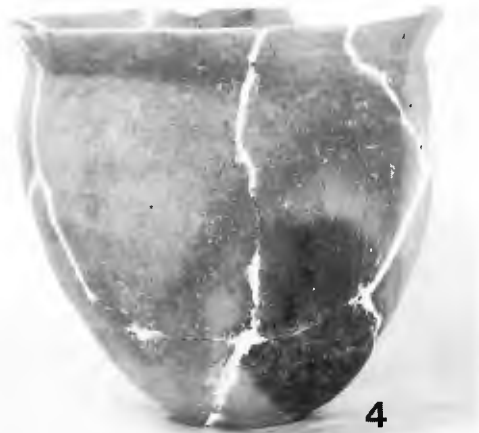
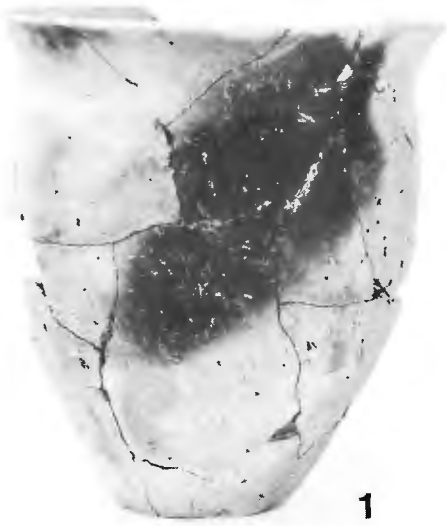




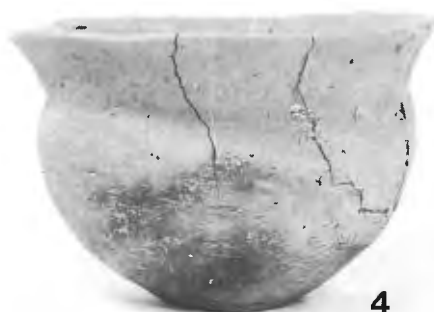


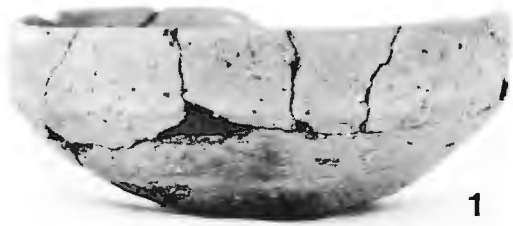
図版119



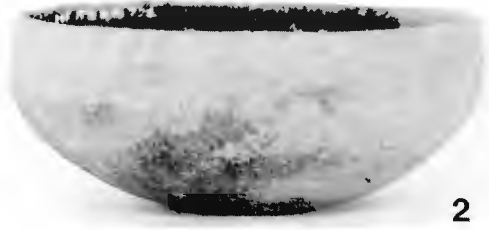


図版121





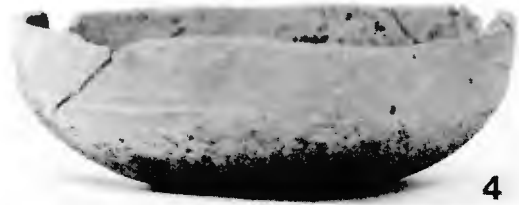
1



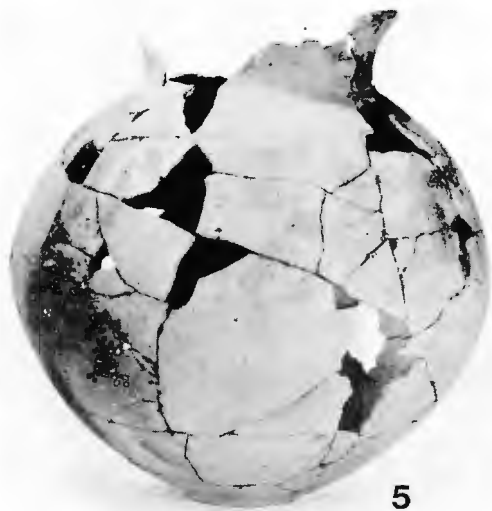
2



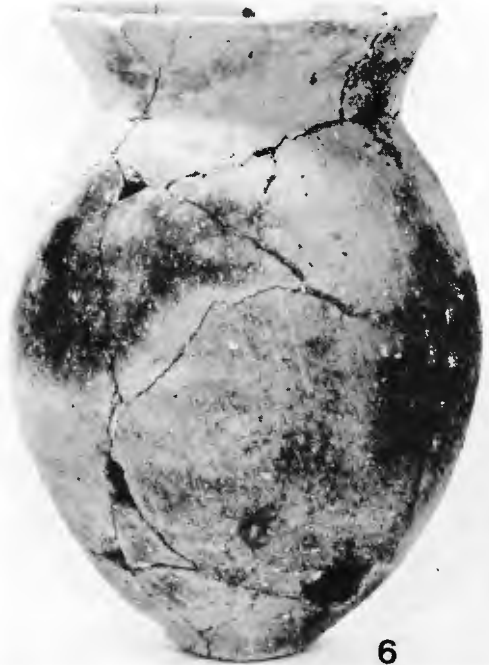
3



4



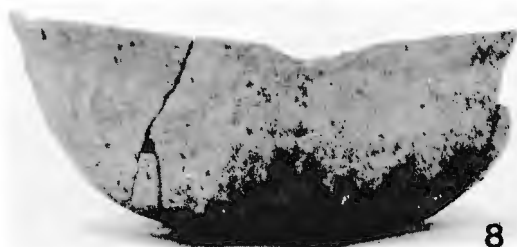
5



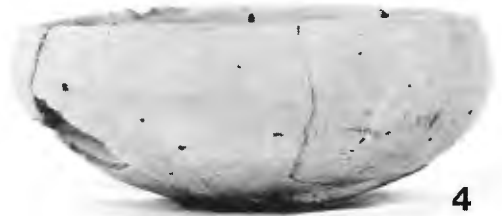
6



7

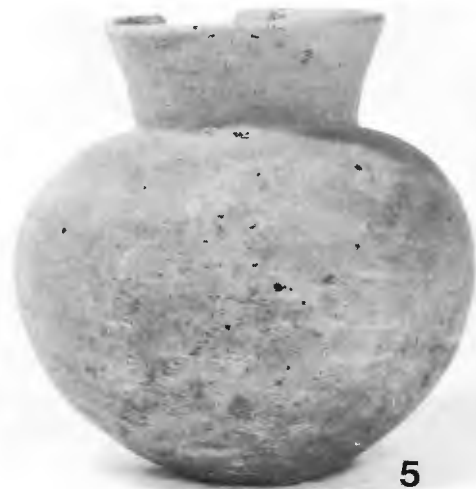
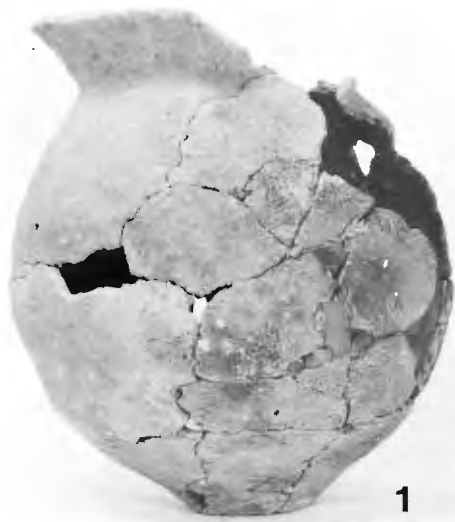


8

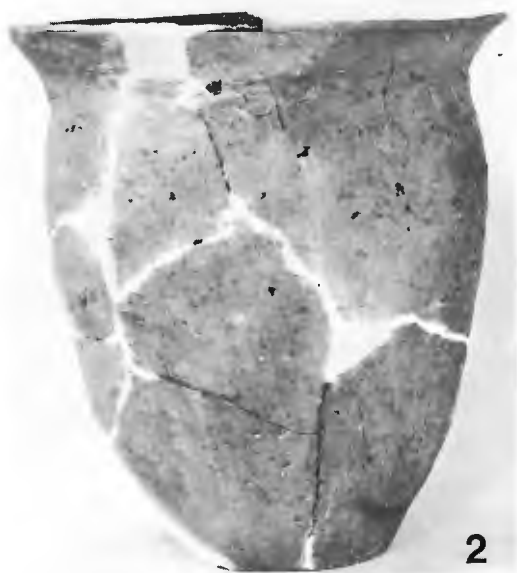




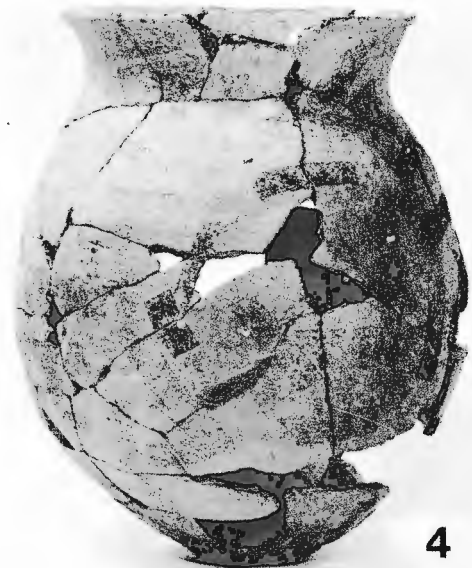
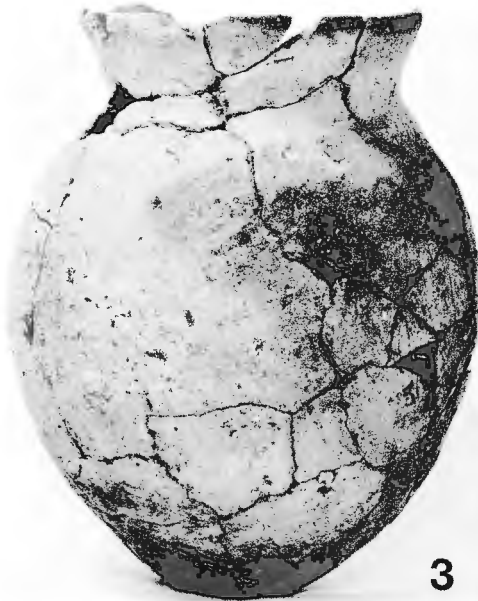
図版124

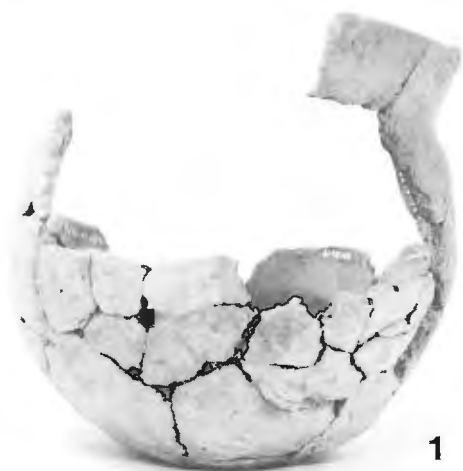


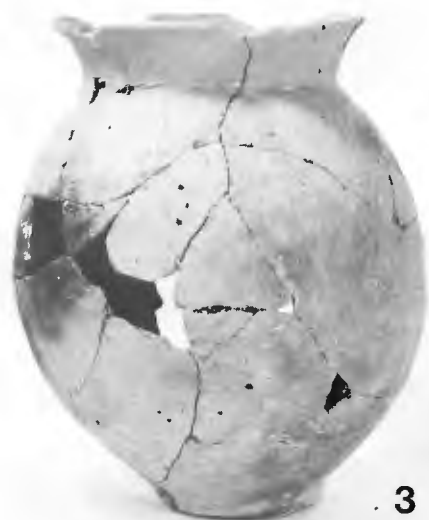












図版131



1



2



3



4



5





図版133



1



2



3



4



5



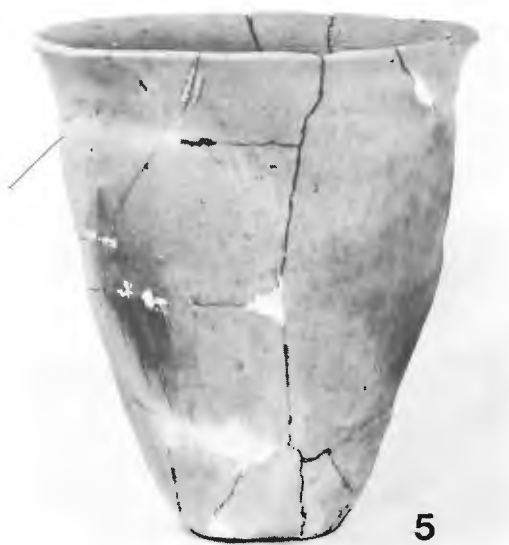
6

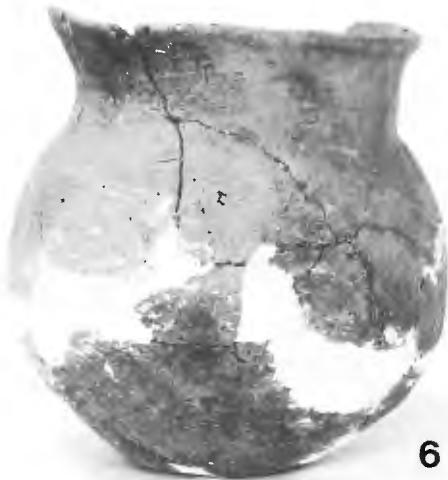
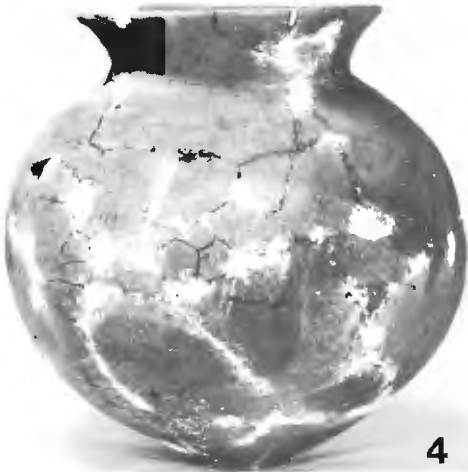


7



8







1



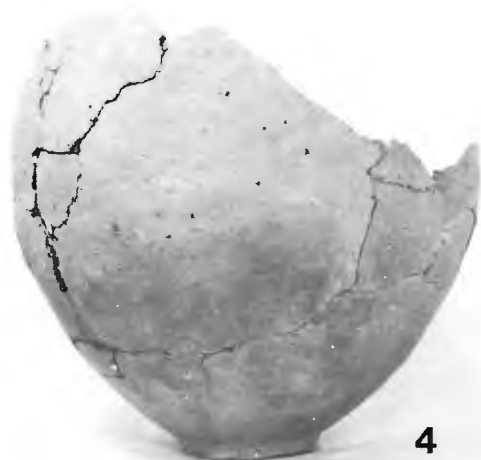
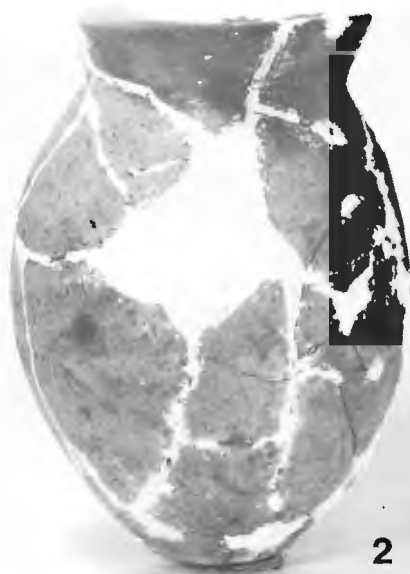
2



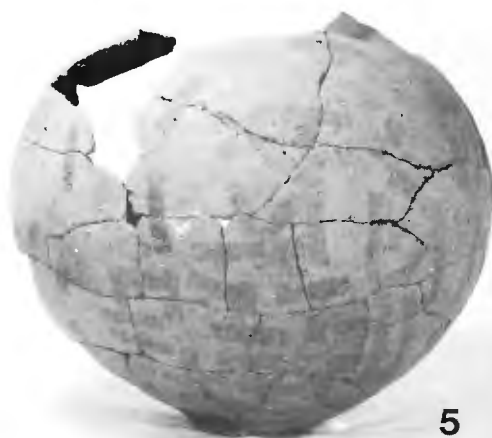
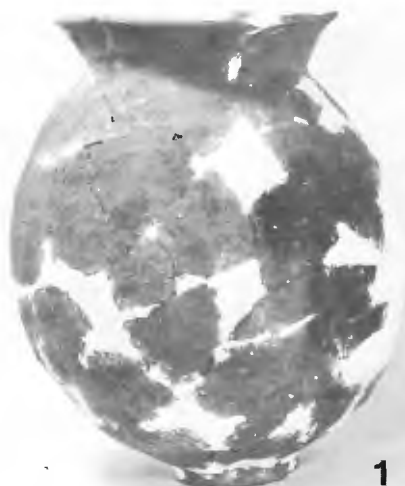
3



4

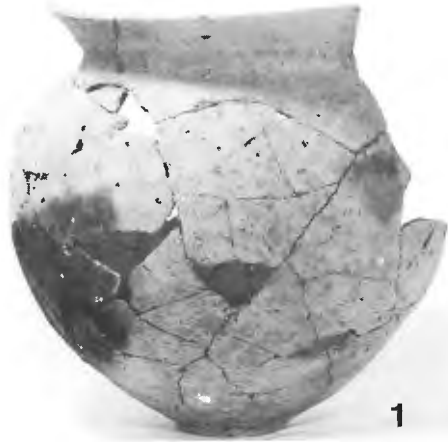


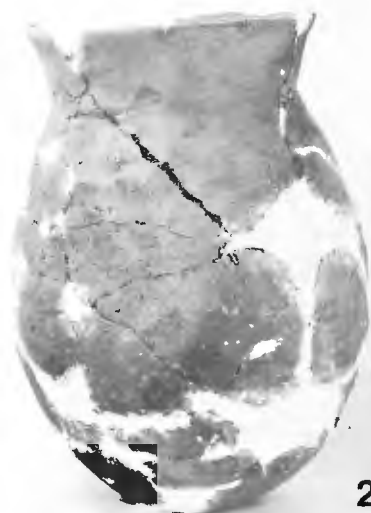




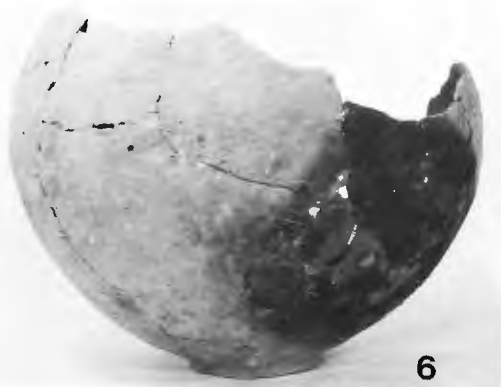


図版140

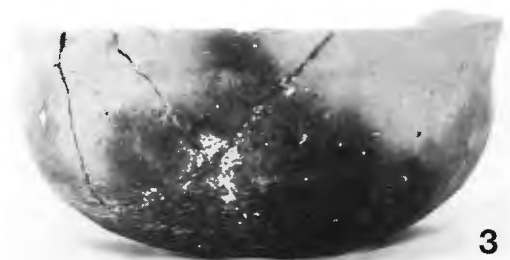


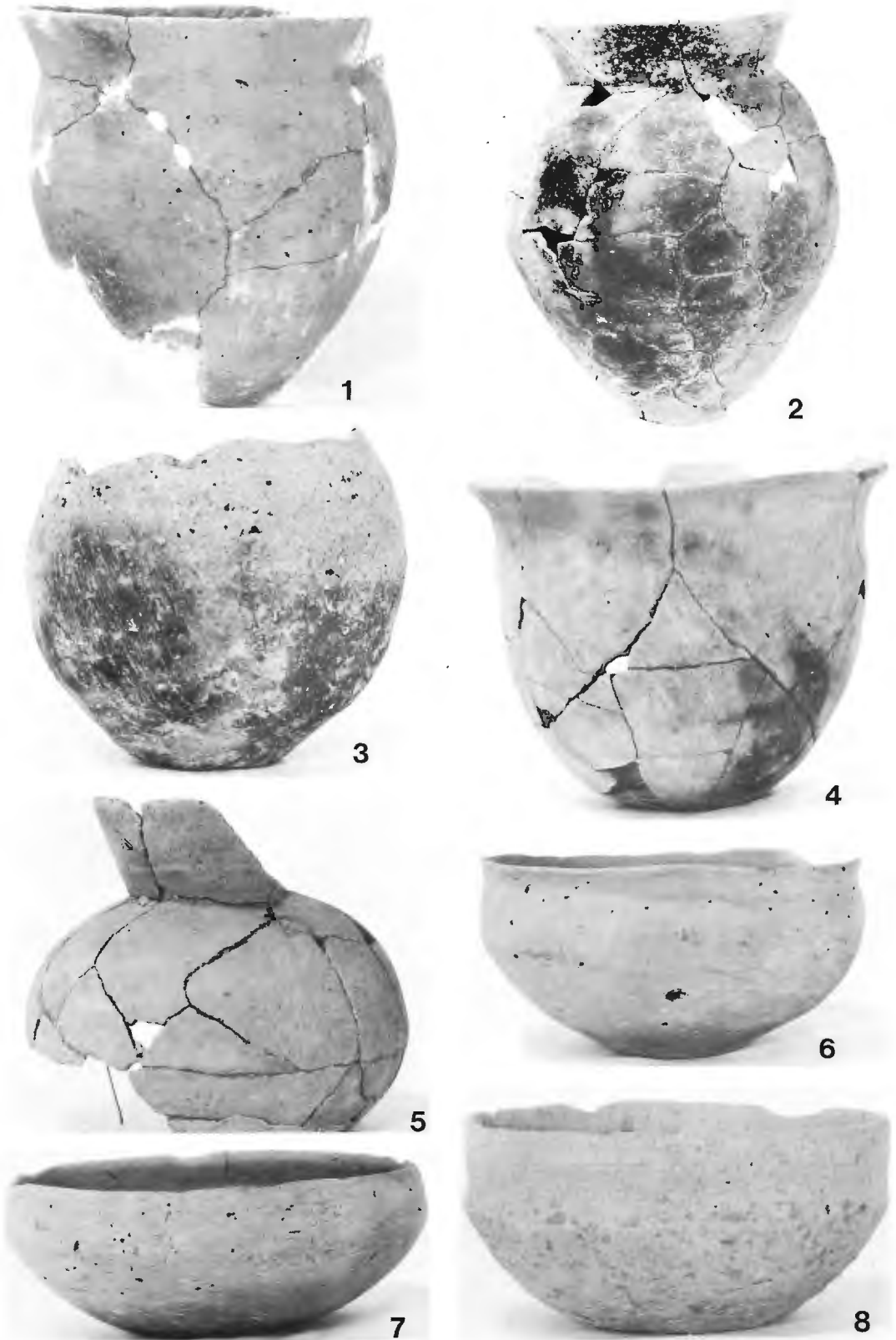


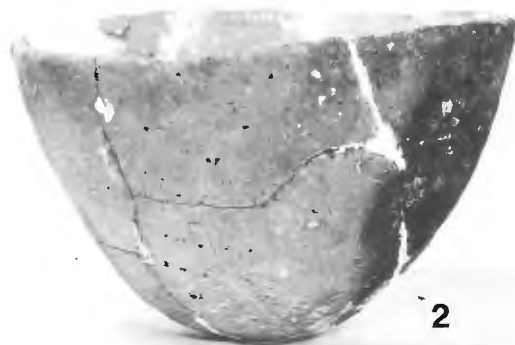
図版142

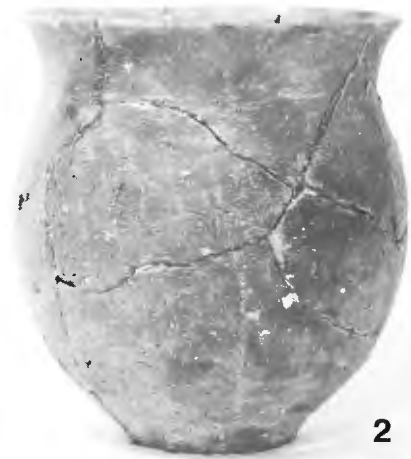














図版150



図版151



1



2



3



4



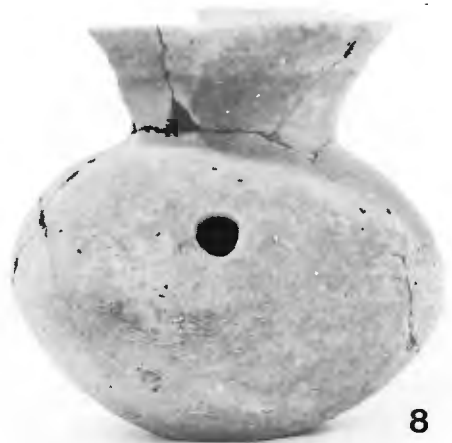
5



6



7

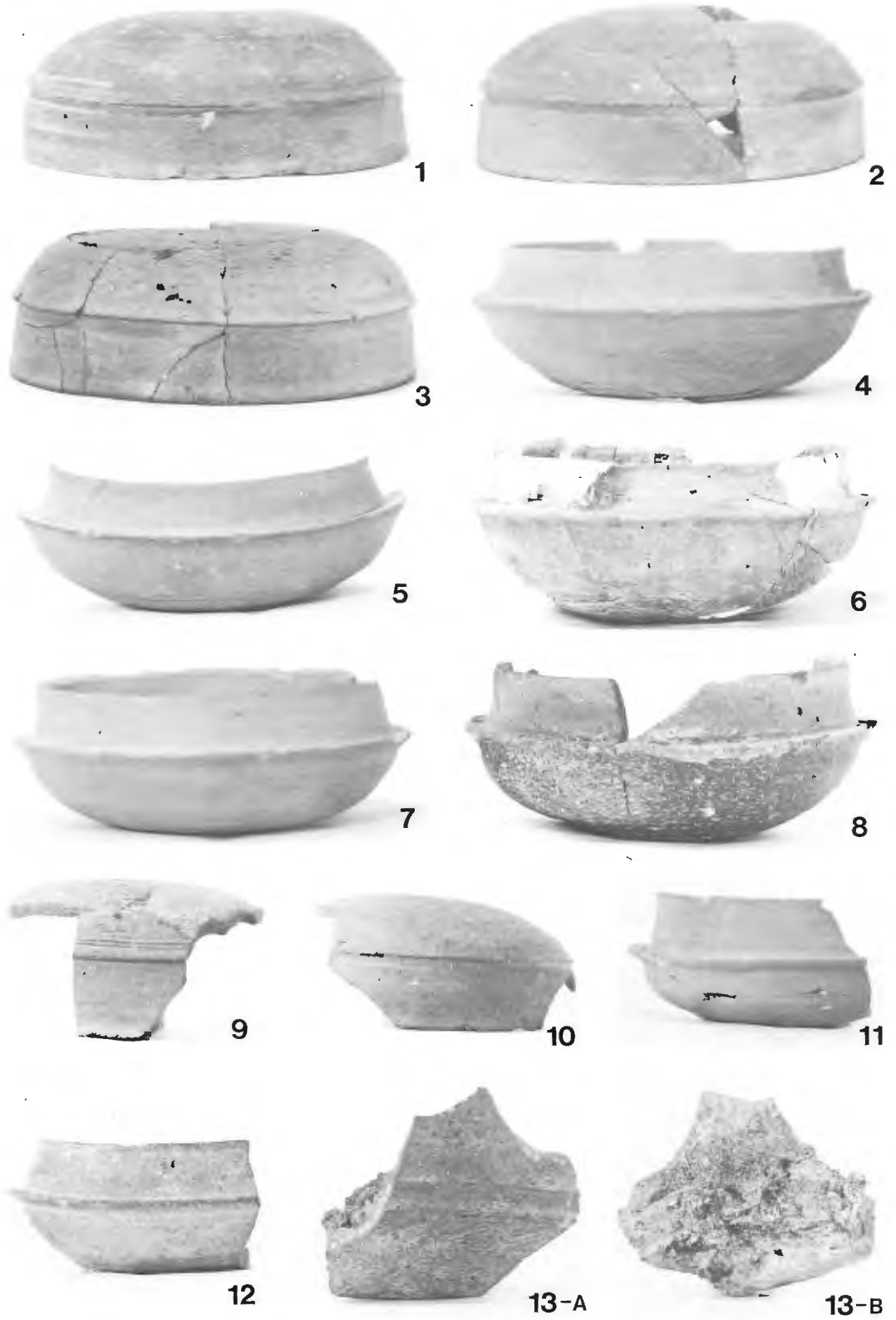


8



9







1



2



3



4



5



6



7



8



9

児玉町文化財調査報告書第2集

# 金 屋 遺 跡 群

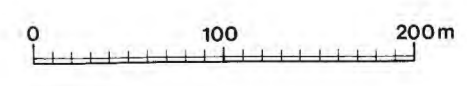
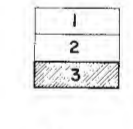
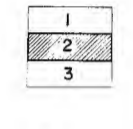
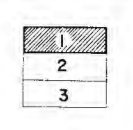
児玉町第2次農業構造改善事業に伴う調査報告書

昭和56年3月20日印刷

昭和56年3月31日発行

**発行者** 児玉町教育委員会  
埼玉県児玉郡児玉町八幡山368

**印刷所** 株式会社 たつみ社印刷所  
埼玉県深谷市東大沼356



Vertical text on the left margin: 調査範囲外は推定された遺跡の位置を示す。調査範囲内は調査された遺跡の位置を示す。